秋田県文化財調査報告書第268集

池　内　遺　跡

―― 国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅷ ――

遺　構　篇

秋田県埋蔵文化財センター

1997・3

秋田県教育委員会

池内遺跡（いけないいせき）

―― 国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財調査報告書Ⅷ ――

遺構篇

1997・3

秋田県教育委員会

序

秋田県には先人たちが豊かな自然のもとで築きあげた歴史があり、埋蔵文化財もその遺産のひとつであります。それは、現代に生きる私たちに託されたものであり、損なう事なく未来へと伝えていくべきものであります。

一方、より快適な生活環境の整備は、今日的な課題であり、このために失われる埋蔵文化財を調査し記録の保存を図ることも大切であります。

昭和55年度から大館市内で進められております国道103号道路改良事業も、交通混雑の緩和を目指したものであります。

この国道103号道路改良事業地域には、縄文時代から中世にかけての遺跡が存在しており、本教育委員会では路線にかかる７遺跡の発掘調査を、昭和62年から平成７年まで実施してまいりました。

平成４年から４箇年にわたって発掘調査を実施致しました池内遺跡では、一つの台地に広がる縄文時代と古代の集落跡のほぼ全容を明らかにすることができました。

特に縄文時代前期に東北地方北半から北海道南半に広がる円筒土器文化圏における集落構造と、食糧、工芸技術、交易、葬制などの社会生活を解明する貴重な資料を提示することができました。

本書は、池内遺跡の発掘調査成果のうち、各種遺構についてまとめたものでありますが、埋蔵文化財に対するご理解と歴史研究のうえでいささかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から本書の刊行に至るまで御指導、御協力いただきました秋田県土木部北秋田土木事務所、大館市教育委員会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成９年３月

秋田県教育委員会

教育長　橋本　顕信

例　　言

1　本書は、国道103号道路改良事業（通称大館南バイパス）に係る大館市池内字上野56外に所在する池内遺跡の発掘調査報告書のうち、遺構の調査成果をまとめた遺構篇である。この遺構篇では、遺構とその出土遺物の実測図と簡単な遺構の説明を主としている。

遺構に関する詳細なデータ類、捨て場関係の実測図類、出土遺物についての分類考察、科学分析データ類、遺構の分類考察等については、遺物篇として平成10年度に刊行予定の報告書にまとめて掲載する予定である。

2　本遺跡の発掘調査は、平成４年度から平成７年度までの４カ年実施した。

3　本書は、国道103号道路改良事業（通称大館南バイパス）に係る埋蔵文化財の発掘調査報告書としては８冊目となる。

4　平成４年度の発掘調査には、秋田県と友好省県となっている中華人民共和国甘粛省からの研修生として、秋田県埋蔵文化財センターで研修中の甘粛省博物館歴史研究部助理館員 王 琦 氏も参加した。

5　遺物の整理作業は、秋田県埋蔵文化財センターと、大館市の大館郷土博物館内の秋田県埋蔵文化財センター大館整理室でおこなった。

6　本報告書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の１「大館」、50,000分の１「大館」「鷹巣」、秋田県北秋田土木事務所作製1,000分の1工事計画図である。

7　本報告書に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖　1989年版』を使用した。

8　本遺跡の発掘調査と整理作業に際して、諸機関、諸氏のご指導とご教示、資料提供を賜った。記して謝意を表したい。（順不同・敬称略）

西谷 忠師（秋田大学鉱山学部）　辻 誠一郎・西本 豊弘（国立歴史民俗博物館）　山田 昌久（東京都立大学）　南木 睦彦（流通科学大学）　鈴木 三男（東北大学大学院）　植田 弥生（パレオ・ラボ）

成田 滋彦・岡田 康博・小笠原 雅行（青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室）　遠藤 正夫・児玉 大成（青森市教育委員会）　鈴木 克彦・木村 鐵次郎・畠山 昇（青森県埋蔵文化財調査センター）　福田 裕二（北海道南茅部町教育委員会）　佐藤 智雄（北海道函館市教育委員会）　長谷部 一弘（北海道函館市立函館博物館）　古屋敷 則雄（青森県東北町教育委員会）　高木 晃（財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター）　宮本長二郎・岡村道雄(文化庁)　西根 稔（西根鉄鋼所）

9　本書に掲載した写真は、遺構の写真を各年度の担当者が撮影した。平成４年度調査において遺構の写真が少ないのは、膨大な遺構数を実測するのに手間取ったことによる写真撮影の省略によるためと、撮影機材の故障に気付かずに撮影を続けたためである。

10　空中写真はＮＲＣ岩手空撮に撮影委託した。出土遺物の写真は、櫻田 隆が撮影した。

11　遺構実測図のトレースは三光航測に、実測した土器のトレースはシン技術コンサルに委託した。

12　石器の実測図の一部には、シン技術コンサルに撮影委託した実測用写真を使用した。

13　本報告書の記述が既公表資料と異なる場合は、本報告書が優先する。

14　本書の草稿執筆は、櫻田　隆、五十嵐一治、長澤和則が行った。

凡　　例

1　本報告書に収載した地形図、遺構実測図に付した方位は、国家座標第Ｘ系による座標北で統一した。

2　グリッド設定は秋田県土木部北秋田土木事務所の打設した道路本線中心杭ＳＴＡ．Ｎｏ．175を原点とした。この原点は、ＭＭ50グリッド杭となったが、その座標値は、Ｘ：28025.5915　Ｙ：－22323.5652である。この原点における座標北と磁北との偏角は、磁北が西に４°30’30”偏している。

3　本書で使用している遺構の略号は、以下のとおりである。

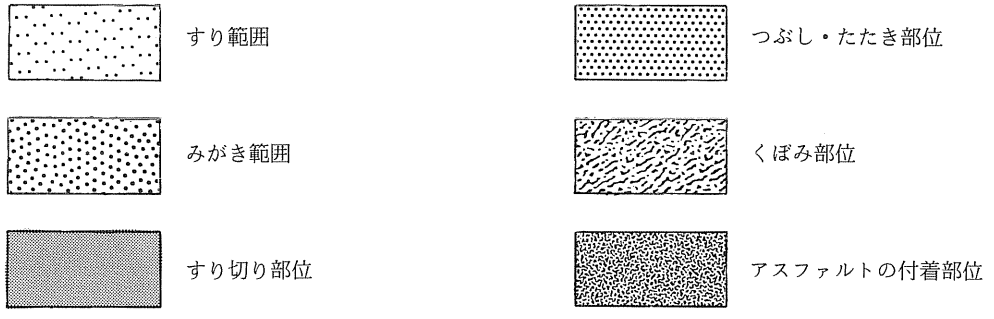
ＳＩ	竪穴住居跡	ＳＫＩ	竪穴状遺構	ＳＫ	土坑
ＳＫＦ	フラスコ状土坑	ＳＫＳ	土壙墓	ＳＫＴ	Ｔ－Ｐｉｔ
ＳＤ	溝状遺構	ＳＢ	掘立柱建物跡	ＳＡ	柵列
Ｐ	柱穴様ピット	ＳＲ	土器埋設遺構	ＳＮ	焼土遺構
ＳＸ	性格不明遺構	ＳＴ	谷		

4　本遺跡の基本土層図と遺跡全体の土層図は、地質や堆積土層との関係で遺物篇として刊行予定の第２分冊で詳述する予定である。

5　遺構実測図の中で、数本の断面等があるが、基準高が同じ場合には１カ所にしか明示していない。

6　遺構実測図の中の土層註記に大湯浮石あるいは大湯浮石層という層名がある。この層は十和田火山の噴出物で、十和田ａ火山灰という広域火山灰名で呼ばれているものと同一である。

7　本書に掲載した石器の実測図に貼付したスクリーントーンは、以下のとおりである。



8　挿図にはそれぞれスケールを添付しているが、以下のように縮小している。

遺構実測図　……　現場で１／20あるいは１／10の縮尺で実測したものを、印刷段階で１／２あるいは１／３に縮小した。

遺物実測図・拓影図　……　原寸で実測した図面を70％縮小してトレースし、印刷段階で１／２あるいは１／３に縮小した。

9　挿図の中で、遺物実測図の個々の遺物に付した数字は、（　）の前の数字がその実測図での番号を、（　）内の数字がその遺構から出土した遺物の固有番号としている。

出土遺物の説明文中では、遺物固有番号で表記している（遺構番号を表す数字は省略）。

目　　次

序
例　　言 …… ii
凡　　例 …… iii
本文目次 …… iv
挿図目次 …… iv
図版目次 …… xv
第１章　はじめに …… 1
　第１節　発掘調査に至るまで …… 1
　第２節　調査要項 …… 2
第２章　遺跡の環境 …… 3
　第１節　遺跡の位置と立地 …… 3
　第２節　歴史的環境 …… 3
第３章　発掘調査の概要 …… 7
　第１節　遺跡の概観 …… 7
　第２節　調査の方法 …… 8
　第３節　調査の経過 …… 11
第４章　調査の記録 …… 23
　第１節　縄文時代の遺構とその出土遺物 …… 23
　第２節　続縄文時代の遺構とその出土遺物 …… 496
　第３節　古代の遺構とその出土遺物 …… 498
　第４節　近・現代の遺構とその出土遺物 …… 593
　第５節　時期不明の遺構と柱穴様ピット …… 598

挿 図 目 次

第 1 図　工事路線と遺跡の位置（６が池内遺跡）
第 2 図　池内遺跡周辺の遺跡（主要な縄文時の代遺跡を抜粋） …… 5
第 3 図　池内遺跡付近工事計画図 …… 9
第 4 図　グリッド配置図 …… 10
第 5 図　年度別調査対象区域 …… 13
第 6 図　SI 25 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 25
第 7 図　SI 30 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 26
第 8 図　SI 87 竪穴住居跡 …… 29

第 9 図　SI 108・SI 114 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 30
第 10 図　SI 127 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 31
第 11 図　SI 132 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 32
第 12 図　SI 136 竪穴住居跡 …… 34
第 13 図　SI 136 竪穴住居跡出土遺物 …… 35
第 14 図　SI 137 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 36
第 15 図　SI 138 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 38
第 16 図　SI 139 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 39
第 17 図　SI 141 竪穴住居跡 …… 41
第 18 図　SI 141 竪穴住居跡土層断面図 …… 42
第 19 図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（1） …… 43
第 20 図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 44
第 21 図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（3） …… 45
第 22 図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（4） …… 46
第 23 図　SI 143・SI 144 竪穴住居跡 …… 48
第 24 図　SI 144 竪穴住居跡出土遺物 …… 49
第 25 図　SI 146 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 50
第 26 図　SI 147・SI 153 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 51
第 27 図　SI 154 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 53
第 28 図　SI 219・SI 232 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 55
第 29 図　SI 234 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 57
第 30 図　SI 307・SI 308 竪穴住居跡 …… 59
第 31 図　SI 309 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 61
第 32 図　SI 312・SI 315 竪穴住居跡 …… 62
第 33 図　SI 341・SI 384 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 63
第 34 図　SI 503 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 65
第 35 図　SI 601 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 67
第 36 図　SI 601・SI 602 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 68
第 37 図　SI 602 竪穴住居跡出土遺物 …… 69
第 38 図　SI 603 竪穴住居跡 …… 71
第 39 図　SI 603 竪穴住居跡出土遺物 …… 72
第 40 図　SI 604 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 73
第 41 図　SI 605 竪穴住居跡 …… 74
第 42 図　SI 605 竪穴住居跡出土遺物（1） …… 75
第 43 図　SI 605 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 76
第 44 図　SI 606 竪穴住居跡 …… 78
第 45 図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（1） …… 79
第 46 図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 80

第47図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（3）…… 81
第48図　SI 607 竪穴住居跡 …… 82
第49図　SI 607 竪穴住居跡出土遺物 …… 83
第50図　SI 608 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 85
第51図　SI 609 竪穴住居跡 …… 86
第52図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（1）…… 87
第53図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（2）…… 88
第54図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（3）…… 89
第55図　SI 611 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 91
第56図　SI 613 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 93
第57図　SI 614 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 94
第58図　SI 615 竪穴住居跡 …… 95
第59図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（1）…… 96
第60図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（2）…… 97
第61図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（3）…… 98
第62図　SI 616 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 99
第63図　SI 617 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 101
第64図　SI 618 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 102
第65図　SI 619 竪穴住居跡 …… 104
第66図　SI 619 竪穴住居跡出土遺物（1）…… 105
第67図　SI 619 竪穴住居跡出土遺物（2）…… 106
第68図　SI 622・SI 627竪穴住居跡とその出土遺物 …… 107
第69図　SI 628 竪穴住居跡とその出土遺物（1）…… 109
第70図　SI 628 竪穴住居跡出土遺物（2）…… 110
第71図　SI 632 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 111
第72図　SI 638 竪穴住居跡 …… 113
第73図　SI 638 竪穴住居跡土層断面図 …… 114
第74図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（1）…… 115
第75図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（2）…… 116
第76図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（3）…… 117
第77図　SI 658 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 119
第78図　SI 660 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 120
第79図　SI 661 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 121
第80図　SI 663 竪穴住居跡 …… 122
第81図　SI 663 竪穴住居跡出土遺物 …… 123
第82図　SI 667 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 125
第83図　SI 669 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 126
第84図　SI 670 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 128

第85図　SI 673・SI 674・SI 679 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 129
第86図　SI 677・SI 680・SI 744 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 131
第87図　SI 690 竪穴住居跡とその出土遺物（1） …… 133
第88図　SI 690 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 134
第89図　SI 719・SI 728 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 136
第90図　SI 729・SI 730 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 138
第91図　SI 731 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 139
第92図　SI 811・SI 946 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 141
第93図　SI 958 竪穴住居跡とその出土遺物（1） …… 143
第94図　SI 958 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 144
第95図　SI 959 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 146
第96図　SI 961・SI 962 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 148
第97図　SI 967・SI 1002 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 150
第98図　SI 970 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 151
第99図　SKS 13 土壙墓とその出土遺物 …… 153
第100図　SKS 19・SKS 71 土壙墓とその出土遺物 …… 155
第101図　SKS 174 土壙墓とその出土遺物 …… 156
第102図　SKS 194 土壙墓とその出土遺物 …… 157
第103図　SKS 208 土壙墓とその出土遺物（1） …… 158
第104図　SKS 208 土壙墓出土遺物（2） …… 159
第105図　SKS 208 土壙墓出土遺物（3） …… 160
第106図　SKS 377・SKS 379 土壙墓とその出土遺物 …… 162
第107図　SKS 386 土壙墓とその出土遺物 …… 163
第108図　SKS 387 土壙墓とその出土遺物 …… 165
第109図　SKS 389・SKS 391 土壙墓 …… 167
第110図　SKS 392 土壙墓とその出土遺物 …… 169
第111図　SKS 394 土壙墓とその出土遺物 …… 170
第112図　SKS 401・SKS 404 土壙墓とその出土遺物 …… 171
第113図　SKS 408 土壙墓とその出土遺物 …… 172
第114図　SKS 409・SKS 412 土壙墓とその出土遺物 …… 174
第115図　SKS 414・SKS 415 土壙墓とその出土遺物 …… 175
第116図　SKS 416・SKS 424 土壙墓とその出土遺物 …… 177
第117図　SKS 427・SKS 429 土壙墓とその出土遺物 …… 179
第118図　SKS 430 土壙墓とその出土遺物 …… 180
第119図　SKS 430・SKS 431 土壙墓とその出土遺物 …… 181
第120図　SKS 431・SKS 432 土壙墓とその出土遺物 …… 183
第121図　SKS 435・SKS 630・SKS 633・SKS 635 土壙墓とその出土遺物 …… 185
第122図　SKS 646・SKS 717・SKS 718 土壙墓とその出土遺物 …… 187

第123図　SKS 809・SKS 817 土壙墓とその出土遺物 …… 189
第124図　SKS 819・SKS 822 土壙墓とその出土遺物 …… 190
第125図　SKS 824・SKS 825・SKS 826 土壙墓とその出土遺物 …… 193
第126図　SKS 827・SKS 994・SKS 1005 土壙墓とその出土遺物 …… 194
第127図　SKF 1 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 196
第128図　SKF 2・SKF 3 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 197
第129図　SKF 4・SKF 5 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 199
第130図　SKF 6 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 201
第131図　SKF 7 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 202
第132図　SKF 7・SKF 9 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 203
第133図　SKF 10・SKF 11 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 205
第134図　SKF 12 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 207
第135図　SKF 12・SKF 15 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 208
第136図　SKF 16 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 209
第137図　SKF 16・SKF 17 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 211
第138図　SKF 18 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 212
第139図　SKF 21・SKF 23・SKF 24 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 213
第140図　SKF 26・SKF 27 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 215
第141図　SKF 28・SKF 29 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 217
第142図　SKF 31 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 219
第143図　SKF 31・SKF 32 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 220
第144図　SKF 33・SKF 34 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 221
第145図　SKF 35・SKF 36 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 223
第146図　SKF 37・SKF 38・SKF 39 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 225
第147図　SKF 43・SKF 44 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 227
第148図　SKF 45・SKF 47 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 228
第149図　SKF 47・SKF 48・SKF 49 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 230
第150図　SKF 51・SKF 52・SKF 53 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 232
第151図　SKF 53・SKF 55 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 233
第152図　SKF 55 フラスコ状土坑出土遺物 …… 235
第153図　SKF 55・SKF 67 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 236
第154図　SKF 67 フラスコ状土坑出土遺物 …… 237
第155図　SKF 69 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 238
第156図　SKF 69・SKF 70・SKF 73 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 240
第157図　SKF 73・SKF 80 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 241
第158図　SKF 81・SKF 82・SKF 88・SKF 89 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 243
第159図　SKF 90・SKF 91 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 245
第160図　SKF 130・SKF 148 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 247

第161図　SKF 149・SKF 257 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 248
第162図　SKF 257 フラスコ状土坑出土遺物 …… 249
第163図　SKF 152・SKF 155 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 251
第164図　SKF 156 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 252
第165図　SKF 157 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 254
第166図　SKF 158 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 255
第167図　SKF 159 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 256
第168図　SKF 160・SKF 161・SKF 162 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 258
第169図　SKF 164・SKF 165・SKF 244 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 260
第170図　SKF 166・SKF 167 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 262
第171図　SKF 168 フラスコ状土坑・SK 178土坑・SKF 170 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 263
第172図　SKF 171 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 265
第173図　SKF 172・SKF 173 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 266
第174図　SKF 173・SKF 175 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 267
第175図　SKF 176・SKF 177・SKF 180 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 269
第176図　SKF 180・SKF 182 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 271
第177図　SKF 185・SKF 186 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 273
第178図　SKF 187・SKF 188 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 275
第179図　SKF 189 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 276
第180図　SKF 200 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 277
第181図　SKF 201 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 279
第182図　SKF 202 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 280
第183図　SKF 211・SKF 212・SKF 213 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 281
第184図　SKF 212・SKF 213・SKF 214 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 283
第185図　SKF 216・SKF 217・SKF 218・SKF 220 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 285
第186図　SKF 221・SKF 223・SKF 224 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 287
第187図　SKF 224・SKF 226 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 289
第188図　SKF 227・SKF 228・SKF 261 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 290
第189図　SKF 229・SKF 230・SKF 231 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 292
第190図　SKF 235・SKF 236 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 294
第191図　SKF 237・SKF 239 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 295
第192図　SKF 240・SKF 242 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 297
第193図　SKF 243 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 299
第194図　SKF 243・SKF 245・SKF 247 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 300
第195図　SKF 249・SKF 251 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 302
第196図　SKF 253 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 303
第197図　SKF 254・SKF 322・SKF 333・SKF 335 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 305
第198図　SKF 259 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 307

第199図　SKF 337・SKF 356・SKF 363・SKF 385 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 309
第200図　SKF 390・SKF 413 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 311
第201図　SKF 417 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 313
第202図　SKF 508・SKF 510・SKF 514・SKF 626 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 315
第203図　SKF 644・SKF 645・SKF 647・SKF 650 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 317
第204図　SKF 655・SKF 656 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 319
第205図　SKF 662 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 321
第206図　SKF 662・SKF 668・SKF 671 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 322
第207図　SKF 671・SKF 676 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 323
第208図　SKF 681・SKF 682・SKF 684 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 325
第209図　SKF 694・SKF 695・SKF 705 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 327
第210図　SKF 706・SKF 708・SKF 711・SKF 732 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 329
第211図　SKF 733 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 331
第212図　SKF 733・SKF 736 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 332
第213図　SKF 738・SKF 804 ～ SKF 808 フラスコ状土坑 …… 335
第214図　SKF 810・SKF 816・SKF 818・SKF 820 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 337
第215図　SKF 820 フラスコ状土坑出土遺物 …… 338
第216図　SKF 821・SKF 823 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 340
第217図　SKF 823 フラスコ状土坑出土遺物 …… 341
第218図　SKF 830・SKF 835・SKF 1014 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 343
第219図　SK 14・SK 56 土坑とその出土遺物 …… 345
第220図　SK 57・SK 58 土坑とその出土遺物 …… 347
第221図　SK 59・SK 66 土坑とその出土遺物 …… 349
第222図　SK 72・SK 74・SK 75・SK 95 土坑とその出土遺物 …… 350
第223図　SK 113・SK 117・SK 118・SK 169・SK 190・SK 191 土坑 …… 353
第224図　SK 192・SK 195・SK 198 土坑とその出土遺物 …… 355
第225図　SK 205・SK 207 土坑とその出土遺物 …… 357
第226図　SK 246・SK 255 土坑とその出土遺物 …… 359
第227図　SK 256・SK 258 土坑とその出土遺物 …… 360
第228図　SK 282・SK 283・SK 285 土坑とその出土遺物 …… 361
第229図　SK 303・SK 305・SK 311・SK 313・SK 316 土坑 …… 363
第230図　SK 317・SK 330・SK 332・SK 336 土坑 …… 366
第231図　SK 344・SK 345・SK 346・SK 349 土坑 …… 369
第232図　SK 350・SK 351・SK 352・SK 354・SK 355・SK 437 土坑 …… 371
第233図　SK 357・SK 358・SK 362・SK 364・SK 365 土坑 …… 373
第234図　SK 366・SK 367・SK 368・SK 369・SK 370・SK 371 土坑 …… 377
第235図　SK 380・SK 382・SK 383・SK 388 土坑とその出土遺物 …… 379
第236図　SK 393・SK 397・SK 398・SK 410・SK 422・SK 425・SK 426 土坑 …… 383

第237図　SK 428・SK 436・SK 509・SK 511・SK 527・SK 531・SK 532 土坑 …… 385
第238図　SK 621・SK 625・SK 629・SK 643 土坑とその出土遺物 …… 389
第239図　SK 649・SK 659・SK 672・SK 678・SK 682 土坑 …… 391
第240図　SK 685・SK 687・SK 688・SK 689・SK 692 土坑とその出土遺物 …… 393
第241図　SK 693・SK 696・SK 697・SK 699 土坑とその出土遺物 …… 395
第242図　SK 700・SK 701・SK 710・SK 715 土坑とその出土遺物 …… 398
第243図　SK 716 土坑とその出土遺物 …… 400
第244図　SK 725・SK 726・SK 734・SK 739・SK 740 土坑とその出土遺物 …… 402
第245図　SK 737 土坑とその出土遺物 …… 403
第246図　SK 747・SK 748・SK 751 土坑とその出土遺物 …… 405
第247図　SK 752・SK 832・SK 834・SK 901 土坑とその出土遺物 …… 407
第248図　SK 902・SK 905・SK 906・SK 907・SK 909 土坑 …… 409
第249図　SK 910・SK 911・SK 912 土坑 …… 411
第250図　SK 913・SK 914・SK 915 土坑とその出土遺物 …… 414
第251図　SK 916・SK 917・SK 918・SK 919 土坑 …… 415
第252図　SK 920・SK 921・SK 923・SK 925・SK 926 土坑 …… 419
第253図　SK 928・SK 930・SK 931・SK 932 土坑 …… 421
第254図　SK 933・SK 934・SK 941・SK 943・SK 945・SK 951 土坑 …… 423
第255図　SK 947・SK 948・SK 949・SK 950 土坑 …… 425
第256図　SK 952・SK 953・SK 956・SK 957 土坑 …… 429
第257図　SK 964・SK 965・SK 968・SK 969 土坑 …… 431
第258図　SK 971・SK 972・SK 973・SK 974 土坑 …… 432
第259図　SK 977・SK 978・SK 979・SK 980 土坑 …… 435
第260図　SK 986・SK 987・SK 991・SK 993 土坑 …… 437
第261図　SK 999・SK 1000・SK 1001・SK 1006・SK 1007 土坑 …… 439
第262図　SK 1009・SK 1010・SK 1012・SK 1013 土坑 …… 441
第263図　SK 348・SK 501・SK 623 土坑 …… 443
第264図　SB 1017 ～ SB 1020 掘立柱建物跡 …… 445
第265図　SB 1021 ～ SB 1024 掘立柱建物跡 …… 447
第266図　SB 1025 ～ SB 1028 掘立柱建物跡 …… 449
第267図　SB 1029 ～ SB 1032 掘立柱建物跡 …… 451
第268図　SB 1033 ～ SB 1035 掘立柱建物跡 …… 452
第269図　SB 1036 ～ SB 1039 掘立柱建物跡 …… 453
第270図　SB 1040 ～ SB 1044 掘立柱建物跡 …… 455
第271図　SB 1045 ～ SB 1048 掘立柱建物跡 …… 457
第272図　SB 1049 ～ SB 1051 掘立柱建物跡 …… 459
第273図　SB 1052 ～ SB 1055 掘立柱建物跡 …… 461
第274図　SB 1056 ～ SB 1060 掘立柱建物跡 …… 462

第275図　SB 1061 ～ SB 1064 掘立柱建物跡 …… 465
第276図　SB 1065 ～ SB 1068 掘立柱建物跡 …… 466
第277図　SB 1069 ～ SB 1072 掘立柱建物跡 …… 467
第278図　SB 1073 ～ SB 1076 掘立柱建物跡 …… 469
第279図　SB 1077 ～ SB 1079 掘立柱建物跡 …… 471
第280図　SKT 109・SKT 140・SKT 304 土坑とその出土遺物 …… 473
第281図　SKT 306・SKT 310・SKT 318 土坑 …… 475
第282図　SKT 320・SKT 321・SKT 324 土坑 …… 477
第283図　SKT 374・SKT 375 土坑とその出土遺物 …… 479
第284図　SKT 376・SKT 500・SKT 502 土坑 …… 481
第285図　SKT 525・SKT 636 土坑とその出土遺物 …… 483
第286図　SKT 691・SKT 721 土坑とその出土遺物 …… 484
第287図　SKT 750・SKT 966・SKT 1016 土坑 …… 486
第288図　SR 103・SR 433・SR 434・SR 637 土器埋設遺構 …… 488
第289図　SR 513 土器埋設遺構 …… 490
第290図　SR 641・SR 749 土器埋設遺構 …… 491
第291図　SR 800・SR 813 土器埋設遺構 …… 493
第292図　SK 506 土坑・SKF 507 フラスコ状土坑とその出土遺物 …… 495
第293図　SK 620 土坑とその出土遺物 …… 497
第294図　SI 42 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 499
第295図　SI 79 竪穴住居跡・かまど …… 500
第296図　SI 100 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 502
第297図　SI 100 竪穴住居跡かまど …… 503
第298図　SI 101 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 504
第299図　SI 101 竪穴住居跡かまど …… 505
第300図　SI 104・SI 111 竪穴住居跡 …… 506
第301図　SI 104 竪穴住居跡かまど …… 507
第302図　SI 104 竪穴住居跡出土遺物（１） …… 508
第303図　SI 104 竪穴住居跡出土遺物（２） …… 509
第304図　SI 111 竪穴住居跡出土遺物 …… 510
第305図　SI 105 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 512
第306図　SI 105 竪穴住居跡かまど …… 513
第307図　SI 106 竪穴住居跡とその出土遺物（１） …… 514
第308図　SI 106 竪穴住居跡出土遺物（２） …… 515
第309図　SI 106 竪穴住居跡かまど・SI 107 竪穴住居跡 …… 516
第310図　SI 120 竪穴住居跡 …… 519
第311図　SI 120 竪穴住居跡かまど …… 520
第312図　SI 120 竪穴住居跡出土遺物 …… 521

第313図　SI 121 竪穴住居跡 …… 522
第314図　SI 121 竪穴住居跡かまど …… 523
第315図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（１）…… 524
第316図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（２）…… 525
第317図　SI 121 竪穴住居跡出土遺物（３）…… 526
第318図　SI 122 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 528
第319図　SI 122 竪穴住居跡かまど …… 529
第320図　SI 123 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 530
第321図　SI 123 竪穴住居跡かまど …… 532
第322図　SI 124 竪穴住居跡・かまど …… 533
第323図　SI 124 竪穴住居跡出土遺物 …… 534
第324図　SI 125 竪穴住居跡 …… 534
第325図　SI 125 竪穴住居跡かまど・竪穴住居跡出土遺物 …… 535
第326図　SI 126 竪穴住居跡 …… 536
第327図　SI 126 竪穴住居跡かまど …… 537
第328図　SI 126 竪穴住居跡出土遺物（１）…… 538
第329図　SI 126 竪穴住居跡出土遺物（２）…… 539
第330図　SI 128 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 541
第331図　SI 128 竪穴住居跡かまど …… 542
第332図　SI 129 竪穴住居跡・かまど（かまどＡ）…… 544
第333図　SI 129 竪穴住居跡出土遺物（１）…… 545
第334図　SI 129 竪穴住居跡出土遺物（２）…… 546
第335図　SI 129 竪穴住居跡かまど（かまどＢ）…… 547
第336図　SI 284 竪穴住居跡・かまど・出土遺物 …… 549
第337図　SI 372 竪穴住居跡 …… 550
第338図　SI 395 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 551
第339図　SI 395 竪穴住居跡かまど …… 552
第340図　SI 423 竪穴住居跡 …… 554
第341図　SI 423 竪穴住居跡出土遺物 …… 555
第342図　SI 423 竪穴住居跡かまど（かまどＡ）…… 556
第343図　SI 423 竪穴住居跡かまど（かまどＢ）…… 557
第344図　SI 610 竪穴住居跡 …… 559
第345図　SI 610 竪穴住居跡出土遺物 …… 560
第346図　SI 610 竪穴住居跡かまど …… 561
第347図　SI 612 竪穴住居跡 …… 562
第348図　SI 612 竪穴住居跡出土遺物 …… 563
第349図　SI 612 竪穴住居跡出土遺物・かまど …… 564
第350図　SI 624 竪穴住居跡 …… 566

第351図　SI 665 竪穴住居跡 …… 567
第352図　SI 665 竪穴住居跡出土遺物 …… 568
第353図　SI 665 竪穴住居跡かまど …… 569
第354図　SI 666 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 571
第355図　SI 666 竪穴住居跡出土遺物・かまど …… 572
第356図　SI 713 竪穴住居跡とその出土遺物 …… 573
第357図　SI 720 竪穴住居跡 …… 575
第358図　SI 720 竪穴住居跡出土遺物・かまど …… 576
第359図　SI 722 竪穴住居跡 …… 577
第360図　SI 722 竪穴住居跡出土遺物（1） …… 578
第361図　SI 722 竪穴住居跡出土遺物（2） …… 579
第362図　SI 722 竪穴住居跡かまど …… 580
第363図　SI 938 竪穴住居跡 …… 582
第364図　SK 63・SK 116 土坑とその出土遺物 …… 583
第365図　SK 328・SK 329・SK 331 土坑 …… 585
第366図　SK 735 土坑とその出土遺物 …… 586
第367図　SN 64・SN 96～SN 99・SN 102・SN 110・S N 119 焼土遺構 …… 589
第368図　SN 648・SN 651・SN 652・SN 653・SN 747 焼土遺構 …… 592
第369図　SKI 300 竪穴状遺構 …… 594
第370図　SKI 300 竪穴状遺構出土遺物 …… 595
第371図　SK 20・SK 22 土坑とその出土遺物 …… 597
第372図　SX 131 性格不明遺構 …… 599
第373図　SX 340・SX 954・SX 955・SX 960 性格不明遺構 …… 600
第374図　柱穴出土遺物（1）（P 121～P 420） …… 604
第375図　柱穴出土遺物（2）（P 421～P 1047） …… 605
第376図　柱穴出土遺物（3）（P 1160～P 1232） …… 606
第377図　柱穴出土遺物（4）（P 1236～P 2117） …… 607
第378図　柱穴出土遺物（5）（P 2155～P 3449） …… 608
第379図　柱穴出土遺物（6）（P 3456～P 3552） …… 609
第380図　柱穴出土遺物（7）（P 3552～P 3933） …… 610
第381図　柱穴出土遺物（8）（P 3963～P 4203） …… 611
第382図　柱穴出土遺物（9）（P 4246～P 5061） …… 612
第383図　柱穴出土遺物（10）（P 5108～P 5233） …… 613
第384図　柱穴出土遺物（11）（P 5234～P 5348） …… 614
第385図　柱穴出土遺物（12）（P 5396～P 9330） …… 615

図　版　目　次

巻首図版　1　（上）SI 141 竪穴住居跡の完掘状況
（左下）SI 141 竪穴住居跡壁面上部の垂木尻据え穴検出状況
（右下）SI 141 竪穴住居跡東側の掘り残し土壇
巻首図版　2　（上）SKS 208 土壙墓の遺物出土状況　（下）SKS 208 土壙墓の出土遺物
巻首図版　3　（上）SKS 386 土壙墓の遺物出土状況　（中）SKS 408 土壙墓の遺物出土状況
（左下）SKS 386 土壙墓の出土遺物　（右下）SKS 408 土壙墓の出土遺物
巻首図版　4　（上）SKF 733 フラスコ状土坑の遺物出土状況
（下）SKF 733 フラスコ状土坑の出土遺物
図　版　1　（上）池内遺跡遠景（西側から撮影。中央の建物後方が遺跡）…… 1
（下）池内遺跡遠景（東南側から撮影）
図　版　2　（上・下とも）平成４年度調査開始時の現況 …… 2
図　版　3　平成５年度調査終了時の遺跡全景 …… 3
図　版　4　（上・下とも）平成４年度調査終了時の空中写真（Ａ区）…… 4
図　版　5　（上）平成６年度調査時の空中写真（Ｂ区・Ｅ区）…… 5
（下）平成６年度調査時のＢ区（竪穴住居跡密集部分）
図　版　6　平成６年度調査時のＢ区竪穴住居跡密集部分の空中写真 …… 6
図　版　7　（上）平成６年度調査時のＢ区完掘状況（南西部分）…… 7
（下）同上の空中写真
図　版　8　（上・下とも）平成６年度調査時のＢ区完掘状況（北側及び北西部分）…… 8
図　版　9　（上）平成５年度調査終了時の空中写真（Ｃ区）…… 9
（下）平成５年度調査時のＣ区（部分）完掘状況
図　版　10　（上・下とも）　平成５年度調査完了状況（Ｃ区•部分）…… 10
図　版　11　平成５年度調査時のＤ区完堀状況の空中写真 …… 11
図　版　12　（上・下とも）平成５年度調査時のＤ区完掘状況（部分）…… 12
図　版　13　（上・下とも）平成７年度調査終了時のＦ区完掘状況（部分）…… 13
図　版　14　（上・下とも）平成７年度のＦ区完掘状況（部分）…… 14
図　版　15　（上）横方向に波状を呈する面が埋没林の地表面…… 15
（下）遺跡の所在する上野台地（仮称）の地質（断面）
図　版　16　（上）SI 25 竪穴住居跡完掘状況 …… 16
（下）竪穴住居跡埋土中土器出土状況
図　版　17　（上）SI 25 竪穴住居跡出土土器 …… 17
SI 30 竪穴住居跡出土土器
（下）SI 30 竪穴住居跡完掘状況（床面にSKF 88 フラスコ状土坑）
図　版　18　（上）SI 30 竪穴住居跡・SKF 88～SKF 91 完掘状況 …… 18
（下）SI 30 竪穴住居跡・SKF 90・91 フラスコ状土坑重複状況

図　版　19　（上）SI 136 竪穴住居跡完掘状況 …… 19
（下）SI 141 竪穴住居跡完掘状況
図　版　20　（上）SI 141 竪穴住居跡東側「土壇」 …… 20
（下）SI 141 竪穴住居跡北西側埋土中の礫出土状況
図　版　21　（上）SI 141 竪穴住居跡西側壁面上縁の「垂木尻」穴 …… 21
（下）同上拡大
図　版　22　（上）SI 141 竪穴住居跡出土土器（集合写真） …… 22
（下）SI 144 竪穴住居跡出土土器（集合写真）
図　版　23　SI 141 竪穴住居跡出土土器（個体別写真） …… 23
図　版　24　SI 144 竪穴住居跡出土土器（個体別写真） …… 24
図　版　25　（上）SI 144 竪穴住居跡出土土器（個体別写真） …… 25
（下）SI 154 竪穴住居跡完掘状況
図　版　26　（上）SI 154 竪穴住居跡床面埋設土器出土状況 …… 26
（下）同上土器
図　版　27　（上）SI 307 竪穴住居跡完掘状況 …… 27
（下）SI 312 竪穴住居跡完掘状況
図　版　28　（上）SI 315 竪穴住居跡完掘状況 …… 28
（下）SI 341 竪穴住居跡完掘状況
図　版　29　（上）SI 503 竪穴住居跡完掘状況 …… 29
（下）SI 601 竪穴住居跡完掘状況
図　版　30　（上）SI 603～SI 605 竪穴住居跡完掘状況 …… 30
（下）SI 603 竪穴住居跡貼床確認状況（断面の白い部分）
図　版　31　（上）SI 604 竪穴住居跡完掘状況 …… 31
（下）SI 605 竪穴住居跡完掘状況
図　版　32　（上）SI 605 竪穴住居跡床面（最新期）埋設土器確認状況 …… 32
（下）同上断面写真
図　版　33　（上）SI 605 竪穴住居跡出土土器 …… 33
（下）SI 606 竪穴住居跡完掘状況
図　版　34　（上）SI 606 竪穴住居跡土器出土状況 …… 34
（下）SI 606 竪穴住居跡出土土器（集合写真）
図　版　35　SI 606 竪穴住居跡出土土器（個体別写真） …… 35
図　版　36　SI 606 竪穴住居跡出土土器（個体別写真） …… 36
図　版　37　（上）SI 607 竪穴住居跡完掘状況 …… 37
（下）SI 607 竪穴住居跡床面掘り込みピット（P24）貼床状況（断面の白い部分）
図　版　38　（上）SI 606・607・609 竪穴住居跡完掘状況 …… 38
（下）SI 609 竪穴住居跡完掘状況
図　版　39　（上）SI 609 竪穴住居跡埋土中土器出土状況 …… 39
（下）SI 609 竪穴住居跡埋土中岩偶出土状況

図　版　40　SI 609 竪穴住居跡出土土器（集合写真）…… 40
図　版　41　SI 609 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 41
図　版　42　SI 609 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 42
図　版　43　（上）SI 611 竪穴住居跡完掘状況 …… 43
（下）SI 613 竪穴住居跡完掘状況
図　版　44　（上）SI 609・613～615・618・627竪穴住居跡完掘状況 …… 44
（下）SI 614 竪穴住居跡床面精査状況
図　版　45　（上）SI 615 竪穴住居跡床面精査状況 …… 45
（下）SI 615 竪穴住居跡炉穴確認状況
図　版　46　（上・下とも）SI 615 竪穴住居跡埋土中の土器出土状況 …… 46
図　版　47　（上）SI 615 竪穴住居跡出土土器（集合写真）…… 47
（下）SI 615 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）
図　版　48　（上）SI 615 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 48
（下）SI 617 竪穴住居跡完掘状況
図　版　49　（上）SI 617 竪穴住居跡床面埋設土器確認状況 …… 49
（下）SI 617 竪穴住居跡床面埋設土器
図　版　50　（上）SI 619 竪穴住居跡完掘状況 …… 50
（下）SI 619 竪穴住居跡埋土中土器出土状況
図　版　51　（上）SI 619 竪穴住居跡土層断面ベルト内の土器出土状況 …… 51
（下）SI 619 竪穴住居跡出土土器（集合写真）
図　版　52　SI 619 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 52
図　版　53　（上）SI 619 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 53
（下）SI 622 竪穴住居跡完掘状況
図　版　54　（上）SI 628 竪穴住居跡埋土堆積状況 …… 54
（下）SI 628 竪穴住居跡完掘状況
図　版　55　（上）SI 628 竪穴住居跡埋土中土器出土状況 …… 55
（下）SI 628 竪穴住居跡出土土器（集合写真）
図　版　56　SI 628 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 56
図　版　57　（上）SI 628 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 57
（下）SI 632 竪穴住居跡完掘状況
図　版　58　（上）SI 638 竪穴住居跡完掘状況 …… 58
（下）SI 638 竪穴住居跡埋土中土器出土状況
図　版　59　（上）SI 638 竪穴住居跡埋土中土器出土状況 …… 59
（下）SI 638 竪穴住居跡出土土器（集合写真）
図　版　60　SI 638 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 60
図　版　61　SI 638 竪穴住居跡出土土器（個体別写真）…… 61
図　版　62　（上）SI 658 竪穴住居跡完掘状況 …… 62
（下）SI 661 竪穴住居跡・SKI 679 竪穴状遺構完掘状況

図　版　63　（上）SI 670 竪穴住居跡完掘状況 …… 63
（下）SI 674 竪穴住居跡・SKF 732・733 フラスコ状土坑完掘状況
図　版　64　（上）SI 946 竪穴住居跡完掘状況 …… 64
（下）SI 958 竪穴住居跡完掘状況
図　版　65　（上）SI 958 竪穴住居跡出土土器 …… 65
（下）SI 959 竪穴住居跡完掘状況
図　版　66　（上）SI 961 竪穴住居跡完掘状況 …… 66
（下）SI 961 竪穴住居跡と風倒木痕の重複状況
図　版　67　（上）SI 970 竪穴住居跡完掘状況 …… 67
（下）SI 962・1002 竪穴住居跡完掘状況
図　版　68　（上）SI 967 竪穴住居跡に貼床して SI 1002 竪穴住居をつくり土器を埋設した状況 …… 68
（下）SI 1002 竪穴住居跡床面埋設土器
図　版　69　（上）SKS 19 土壙墓と SK 20 土坑完掘状況 …… 69
（下）SKS 71 土壙墓出土土器
図　版　70　（上）SKS 208 土壙墓出土土器・石器類集合写真（礫は除く） …… 70
（下）SKS 208 土壙墓出土土器
図　版　71　SKS 208 土壙墓出土石器 …… 71
図　版　72　（上）SKS 208 土壙墓出土石器 …… 72
（下）SKS 208 土壙墓石器等出土状況（部分）
図　版　73　（上）SKS 377 土壙墓精査状況 …… 73
（下）SKS 377 土壙墓出土土器
図　版　74　（上）SKS 379 土壙墓精査状況 …… 74
（下）SKS 379 土壙墓完掘状況
図　版　75　（上）SKS 379 土壙墓埋土堆積状況 …… 75
（下）SKS 386 土壙墓精査状況
図　版　76　（上）SKS 386 土壙墓埋土堆積状況 …… 76
（下）SKS 386 土壙墓出土土器
図　版　77　（上）SKS 387 土壙墓精査状況 …… 77
（下）SKS 387 土壙墓出土石器
図　版　78　（上）SKS 391 土壙墓完掘状況 …… 78
（下）SKS 391 土壙墓埋土堆積状況
図　版　79　（上）SKS 392 土壙墓精査状況 …… 79
（下）SKS 392 土壙墓埋土堆積状況
図　版　80　（上）SKS 394 土壙墓精査状況 …… 80
（下）SKS 394 土壙墓出土土器・石器集合写真
図　版　81　（上）SKS 394 土壙墓出土土器 …… 81
（下）SKS 394 土壙墓出土石器
図　版　82　（上）SKS 408 土壙墓精査状況 …… 82

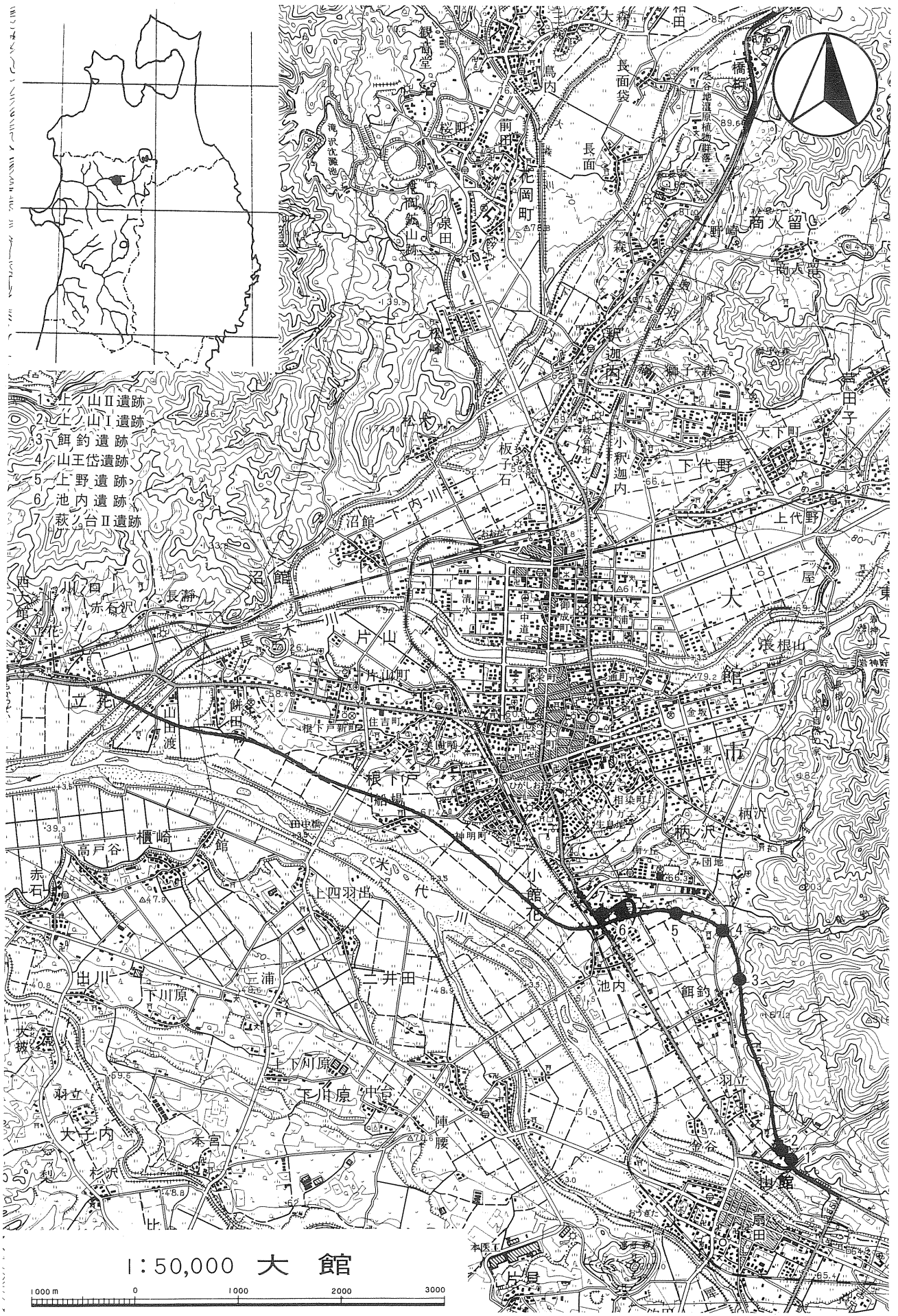
（下）SKS 408 土壙墓石鏃出土状況
図　版　83　（上）SKS 408 土壙墓つまみ付ナイフ出土状況 …… 83
（下）SKS 408 土壙墓出土石器集合写真
図　版　84　（上）SKS 412 土壙墓精査状況 …… 84
（下）SKS 412 土壙墓出土石器集合写真
図　版　85　（上）SKS 414 土壙墓精査状況 …… 85
（下）SKS 414 土壙墓出土土器
図　版　86　（上）SKS 427 土壙墓精査状況 …… 86
（下）SKS 427 土壙墓出土土器
図　版　87　（上）SKS 429 土壙墓精査状況 …… 87
（下）SKS 429 土壙墓出土石斧
図　版　88　（上）SKS 430 土壙墓精査状況 …… 88
（下）SKS 430 土壙墓出土石器集合写真
図　版　89　（上）SKS 431 土壙墓精査状況 …… 89
（下）SKS 431 土壙墓出土土器・石器類
図　版　90　（上）SKS 431 土壙墓出土土器 …… 90
（下）SKS 431 土壙墓出土石器
図　版　91　（上）SKS 630 土壙墓完掘状況 …… 91
（下）SKS 633 土壙墓完掘状況
図　版　92　（上）SKS 635 土壙墓完掘状況 …… 92
（下）SKS 646 土壙墓完掘状況
図　版　93　（上）SKS 717 土壙墓完掘状況 …… 93
（下）SKS 718 土壙墓完掘状況
図　版　94　（上）SKS 817 土壙墓完掘状況 …… 94
（下）SKS 819 土壙墓完掘状況
図　版　95　（上）SKS 819 土壙墓出土土器 …… 95
（下）SKS 822 土壙墓完掘状況
図　版　96　（上）SKS 824 土壙墓完掘状況 …… 96
（下）SKS 824 土壙墓精査状況
図　版　97　（上）SKS 825 土壙墓完掘状況 …… 97
（下）SKS 827 土壙墓完掘状況
図　版　98　（上）SKF 1 フラスコ状土坑完掘状況 …… 98
（下）SKF 2 フラスコ状土坑完掘状況
図　版　99　（上）SKF 3 フラスコ状土坑完掘状況 …… 99
（下）SKF 3 フラスコ状土坑埋土堆積状況
図　版 100　（上）SKF 4 フラスコ状土坑完掘状況 …… 100
（下）SKF 5 フラスコ状土坑出土土器
図　版 101　（上）SKF 6 フラスコ状土坑完掘状況 …… 101

（下）SKF 6 フラスコ状土坑精査状況
図　版 102　（上・下とも）SKF 7 フラスコ状土坑精査状況 …… 102
図　版 103　（上）SKF 7 フラスコ状土坑精査状況 …… 103
（下）SKF 7 フラスコ状土坑埋土堆積状況
図　版 104　（上）SKF 7 フラスコ状土坑出土集合写真 …… 104
（下）SKF 7 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）
図　版 105　（上・下とも）SKF 7 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 105
図　版 106　（上）SKF 10 フラスコ状土坑出土土器 …… 106
（下）SKF 11 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 107　（上）SKF 11 フラスコ状土坑出土土器 …… 107
（下）SKF 12 フラスコ状土坑出土土器集合写真
図　版 108　SKF 12 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 108
図　版 109　（上）SKF 16 フラスコ状土坑精査状況 …… 109
（下）SKF 16 フラスコ状土坑出土土器
図　版 110　（上）SKF 17 フラスコ状土坑精査状況 …… 110
（下）SKF 18 フラスコ状土坑土器出土状況
図　版 111　（上）SKF 18 フラスコ状土坑出土土器 …… 111
（下）SKF 21 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 112　（上）SKF 23・SKF 24 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 24、右：SKF 23） …… 112
（下）SKF 23 フラスコ状土坑出土土器
図　版 113　（上）SKF 26 フラスコ状土坑精査状況 …… 113
（下）SKF 28・SKF 29 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 28、右：SKF 29）
図　版 114　（上）SKF 29 フラスコ状土坑出土土器 …… 114
（下）SKF 31 フラスコ状土坑精査状況
図　版 115　（上）SKF 31 フラスコ状土坑出土土器集合写真 …… 115
（下）SKF 31 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）
図　版 116　（上）SKF 31 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 116
（下）SKF 32 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 117　（上）SKF 32 フラスコ状土坑出土土器集合写真 …… 117
（下）SKF 32 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）
図　版 118　（上）SKF 34 フラスコ状土坑完掘状況 …… 118
（下）SKF 36・SKF 37 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 36、右：SKF 37）
図　版 119　（上）SKF 38 フラスコ状土坑完掘状況 …… 119
（下）SKF 43 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 120　（上）SKF 47 フラスコ状土坑精査状況 …… 120
（下）SKF 47 フラスコ状土坑出土土器
図　版 121　（上）SKF 48・SKF 49 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 49、右：SKF 48） …… 121
（下）SKF 48・SKF 49 フラスコ状土坑埋土堆積状況

図　版 122　（上）SKF 51 フラスコ状土坑精査状況 …… 122
（下）SKF 51 フラスコ状土坑出土土器
図　版 123　（上）SKF 52 フラスコ状土坑完掘状況 …… 123
（下）SKF 53 フラスコ状土坑出土土器
図　版 124　（上）SKF 55 フラスコ状土坑出土土器集合写真 …… 124
（下）SKF 55 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）
図　版 125　（上・下とも）SKF 55 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）…… 125
図　版 126　（上・下とも）SKF 55 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）…… 126
図　版 127　（上）SKF 67 フラスコ状土坑出土土器 …… 127
（下）SKF 69 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 128　（上）SKF 69 フラスコ状土坑精査状況 …… 128
（下）SKF 69 フラスコ状土坑出土土器集合写真
図　版 129　（上・下とも）SKF 69 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）…… 129
図　版 130　（上）SKF 69 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）…… 130
（下）SKF 73 フラスコ状土坑精査状況
図　版 131　（上）SKF 80 フラスコ状土坑完掘状況 …… 131
（下）SKF 80 フラスコ状土坑出土土器
図　版 132　（上）SKF 82 フラスコ状土坑精査状況 …… 132
（下）SKF 89 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 133　（上）SKF 90 フラスコ状土坑完掘状況 …… 133
（下）SKF 90 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）
図　版 134　（上）SKF 90 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真）…… 134
（下）SKF 91 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 135　（上）SKF 156 フラスコ状土坑出土土器 …… 135
（下）SKF 158 フラスコ状土坑出土土器
図　版 136　（上）SKF 159 フラスコ状土坑出土土器 …… 136
（下）SKF 167 フラスコ状土坑出土土器
図　版 137　（上）SKF 170 フラスコ状土坑出土土器 …… 137
（下）SKS 180 フラスコ状土坑精査状況
図　版 138　（上）SKS 182 フラスコ状土坑精査状況 …… 138
（下）SKF 182 フラスコ状土坑出土土器
図　版 139　（上）SKF 187 フラスコ状土坑出土土器 …… 139
（下）SKF 189 フラスコ状土坑出土土器
図　版 140　（上）SKF 216 フラスコ状土坑出土土器 …… 140
（下）SKF 224 フラスコ状土坑出土土器
図　版 141　（上）SKF 237 フラスコ状土坑出土土器 …… 141
（下）SKF 240 フラスコ状土坑出土土器
図　版 142　（上）SKF 243 フラスコ状土坑精査状況 …… 142

（下）SKF 243 フラスコ状土坑出土土器
図　版 143　（上）SKF 253 フラスコ状土坑出土土器 …… 143
（下）SKF 257 フラスコ状土坑出土土器
図　版 144　（上）SKF 335 フラスコ状土坑完掘状況 …… 144
（下）SKF 337 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 145　（上）SKF 508 フラスコ状土坑完掘状況 …… 145
（下）SKF 510 フラスコ状土坑精査状況
図　版 146　（上）SKF 510 フラスコ状土坑底面のＰit中土器出土状況 …… 146
（下）SKF 510 フラスコ状土坑精査状況
図　版 147　（上）SKF 510 フラスコ状土坑出土土器 …… 147
（下）SKF 514 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 148　（上）SKF 626 フラスコ状土坑完掘状況 …… 148
（下）SKF 644・SKF 645 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 645、右：SKF 644）
図　版 149　（上）SKF 647 フラスコ状土坑完掘状況 …… 149
（下）SKF 650 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 150　（上）SKF 655 フラスコ状土坑完掘状況 …… 150
（下）SKF 656 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 151　（上）SKF 662 フラスコ状土坑完掘状況 …… 151
（下）SKF 662 フラスコ状土坑出土土器
図　版 152　（上）SKF 671 フラスコ状土坑完掘状況 …… 152
（下）SKF 676 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 153　（上）SKF 676 フラスコ状土坑出土土器 …… 153
（下）SKF 687 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 154　（上）SKF 182 フラスコ状土坑完掘状況 …… 154
（下）SKF 705 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 155　（上）SKF 706 フラスコ状土坑完掘状況 …… 155
（下）SKF 708 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 156　（上）SKF 711 フラスコ状土坑完掘状況 …… 156
（下）SKF 732・SKF 733 フラスコ状土坑完掘状況（左：SKF 732、右：SKF 733）
図　版 157　（上）SKF 733 フラスコ状土坑精査状況 …… 157
（下）SKF 733 フラスコ状土坑土器出土状況
図　版 158　（上・下とも）SKF 733 フラスコ状土坑出土土器集合写真 …… 158
図　版 159　（上・下とも）SKF 733 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 159
図　版 160　（上・下とも）SKF 733 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 160
図　版 161　（上）SKF 733 フラスコ状土坑出土土器（個体別写真） …… 161
（下）SKF 804 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 162　（上）SKF 807 フラスコ状土坑完掘状況 …… 162
（下）SKF 816 フラスコ状土坑完掘状況

図　版 163　（上）SKF 818 フラスコ状土坑完掘状況 …… 163
（下）SKF 820 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 164　（上）SKF 820 フラスコ状土坑出土土器 …… 164
（下）SKF 821 フラスコ状土坑精査状況
図　版 165　（上）SKF 821 フラスコ状土坑埋土堆積状況 …… 165
（下）SKF 823 フラスコ状土坑完掘状況
図　版 166　（上）SKF 830 フラスコ状土坑完掘状況 …… 166
（下）SKF 830 フラスコ状土坑埋土堆積状況
図　版 167　（上）SKF 835 フラスコ状土坑完掘状況 …… 167
（下）SKF 835 フラスコ状土坑埋土堆積状況
図　版 168　（上）SKF 1014 フラスコ状土坑完掘状況 …… 168
（下）SKF 1014 フラスコ状土坑埋土堆積状況
図　版 169　（上）SK 14 土坑完掘状況 …… 169
（下）SK 72 土坑完掘状況
図　版 170　（上）SK 95 土坑完掘状況 …… 170
（下）SK 313 土坑完掘状況
図　版 171　（上）SK 336 土坑完掘状況 …… 171
（下）SK 365 土坑埋土堆積状況
図　版 172　（上）SK 506 土坑完掘状況 …… 172
（下）SK 509 土坑完掘状況
図　版 173　（上）SK 511 土坑完掘状況 …… 173
（下）SK 527 土坑完掘状況
図　版 174　（上）SK 620 土坑完掘状況 …… 174
（下）SK 621 土坑完掘状況
図　版 175　（上）SK 625 土坑完掘状況 …… 175
（下）SK 629 土坑完掘状況
図　版 176　（上）SK 629 土坑出土土器 …… 176
（下）SK 643 土坑埋土堆積状況
図　版 177　（上）SK 649 土坑完掘状況 …… 177
（下）SK 710 土坑完掘状況
図　版 178　（上）SK 715 土坑完掘状況 …… 178
（下）SK 715・SK 726 土坑完掘状況
図　版 179　（上）SK 716 土坑完掘状況 …… 179
（下）発掘調査風景



第1図　工事路線と遺跡の位置（6が池内遺跡）

第１章　はじめに

第１節　発掘調査に至るまで

秋田県土木部北秋田土木事務所は、国道103号の大館市内における交通混雑の緩和を目指し、昭和55年度から国の補助事業として大館市山館を起点とし、大館市根下戸を終点とする延長7,677ｍの国道改良工事（通称 国道103号大館南バイパス）を計画した。計画では、山館から萩ノ台までは大館市東部に延びる山地から連なる台地上を通り、萩ノ台から北西部では市街地を避けて沖積地を通って根下戸の台地上で国道７号に連結することになっていた。

路線のうち、山館から萩ノ台に至る間は、標高65～90ｍの段丘縁辺部にあたり、県土木部北秋田土木事務所による各種調査と大館市教育委員会への問い合わせの結果、計画路線内に埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることが判明した。このため、県土木部から埋蔵文化財の包蔵確認と今後の対応について、県教育委員会に調査と指導の依頼があった。

県教育委員会では、昭和60年10月に分布調査を実施し、埋蔵文化財包蔵地及び包蔵地と推測される地区は６地域であり、今後範囲確認調査が必要であることと、範囲確認調査の結果により記録保存の必要なものについては、発掘調査を実施すべきことを回答した。

昭和61年度には、上ノ山Ⅰ遺跡、上ノ山Ⅱ遺跡、餌釣遺跡、山王岱遺跡（遺跡推定範囲の一部）の４カ所の範囲確認調査を県埋蔵文化財センターが実施した。

昭和62年度には、上ノ山Ⅰ遺跡、上ノ山Ⅱ遺跡、山王岱遺跡（市道の東側地区：第１次調査）の３カ所の発掘調査を実施した。また、山王岱遺跡では市道の東側地区の発掘調査後に、市道の西側地区の範囲確認調査を実施した。

昭和63年度に、この国道改良工事の事業計画が変更され、路線の終点が大館市根下戸からさらに西側の同市立花まで延伸され、総延長9,950ｍとなり、路線の幅員も拡幅されることとなった。このため、昭和62年度に発掘調査を終了した上ノ山Ⅰ遺跡、上ノ山Ⅱ遺跡、山王岱遺跡でも拡幅された部分を追加調査することになった。

平成元年５月から上ノ山Ⅱ遺跡の第２次発掘調査を、同年７月から山王岱遺跡の第２次調査（市道の南東地区）を実施した。

平成２年度には、餌釣遺跡の発掘調査と、上ノ山Ⅰ遺跡の第２次発掘調査を実施した。また、山王岱遺跡の拡幅部分と上野遺跡の範囲確認調査も実施した。

平成３年度には、山王岱遺跡の第３次調査（市道の北西地区）と上野遺跡の発掘調査を実施した。また、池内遺跡（推定範囲の当初工事部分）と萩ノ台Ⅱ遺跡の範囲確認調査を実施した。

池内遺跡では遺構プランが数多く検出され、かつ埋没し現地形では確認できなかったところにも谷があり、大量の土器が出土することが判明したため、工事対象区域を２カ年で発掘調査することは困難であることから、調査期間の延長について、協議がもたれた。

平成４年度には、池内遺跡の当初工事部分の7,350㎡（Ａ地区）と萩ノ台Ⅱ遺跡の発掘調査を実施した。

平成５年度からも、工事実施計画に従う形で７年度まで発掘調査を実施した。

第2節　調査要項

遺　跡　名　　池内遺跡（いけない いせき）
登録番号　　4－68
遺跡略号　　2ＩＮ
所　在　地　　秋田県大館市池内字上野56～110
調査期間
　平成4年度　　平成4年5月11日～11月13日
　平成5年度　　平成5年4月19日～10月22日
　平成6年度　　平成6年5月16日～11月15日
　平成7年度　　平成7年4月20日～10月13日
調査面積
　総　面　積　　28,260㎡（500㎡の重複があるので、実面積は27,760㎡）
　　平成4年度　　7,500㎡
　　平成5年度　　5,350㎡
　　平成6年度　　8,500㎡
　　平成7年度　　6,910㎡（500㎡は、平成6年度調査区の継続）
調査依頼者　　秋田県土木部
調査主体者　　秋田県教育委員会
調査担当者　　秋田県埋蔵文化財センター

発掘担当者

平成4年度	櫻　田　　隆	（文化財主査）	柴　田 陽一郎	（文化財主任）
	五十嵐　一治	（学 芸 主 事）	小　松　　満	（非常勤職員）
	神　成 栄理子	（非常勤職員）		
平成5年度	櫻　田　　隆	（調査第3科長）	五十嵐　一治	（学 芸 主 事）
	小　畑　　巌	（学 芸 主 事）	長　澤　和則	（非常勤職員）
	神　成 栄理子	（非常勤職員）	松　尾　睦子	（非常勤職員）
平成6年度	櫻　田　　隆	（調査第3科長）	柴　田 陽一郎	（文化財主査）
	小　畑　　巌	（学 芸 主 事）	長　澤　和則	（非常勤職員）
	松　尾　睦子	（非常勤職員）		
平成7年度	櫻　田　　隆	（調査課長補佐 兼 調査第3科長）		
	本　田　嘉之	（学 芸 主 事）	五十嵐　一治	（学 芸 主 事）
	長　澤　和則	（非常勤職員）		

（職氏名は発掘調査時のもの）

整理担当者

平成8年度	櫻　田　　隆	（調査課長補佐 兼 調査第3科長）
	長　澤　和則	（大館市教育委員会嘱託）

総務担当者

平成４年度	皆　川　　清（主査）	佐々木　　真（主任）
平成５年度	佐々木　　真（主査）	佐　藤　広文（主事）
平成６年度	藤　肥　良清（主査）	佐　藤　広文（主任）
	須　田　輝樹（主事）	
平成７年度	藤　肥　良清（主査）	佐　藤　広文（主任）
	須　田　輝樹（主事）	
平成８年度	藤　肥　良清（主査）	佐　藤　幸嗣（主事）
	須　田　輝樹（主事）	

調査協力機関　　秋田県土木部北秋田土木事務所
大館市教育委員会

第２章　遺跡の環境

第１節　遺跡の位置と立地

池内遺跡の位置する大館市は、秋田県北東部、奥羽脊梁山脈の西縁に位置する大館盆地にあり、北緯40度9分から40度26分、東経140度28分から140度44分の地域を占めている。大館盆地には、米代川とその支流群によって形成された段丘面が発達している。この段丘面は、小支谷の水流に開析されて台地群となっている。

大館市街地の中心部となる南半地域は、米代川とその支流長木川に挟まれた西向きの巨大な舌状台地上にあり、その台地南側斜面はいくつもの小さな支谷の水流に開析され、複雑な地形を呈している。

池内遺跡は、大館市の中心部からやや南、ＪＲ花輪線東大館駅の南東1.6㎞にあり、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘上とその斜面に立地する。遺跡付近の段丘は、北側を北東方向の長根山（標高200ｍ）南麓から段丘を南西方向に下刻する柄沢、南側を秋葉山（標高328.5ｍ）南麓から高森山地を南方向に下刻する餌釣沢により大きく開析され、通称「南ケ丘」と呼ばれている。この「南ケ丘」は小さな下刻作用により、さらに北側の萩ノ台と南側の上野と呼ぶ２つの台地に分けられている。

北側の萩ノ台の台地には、萩ノ台遺跡、萩ノ台Ⅱ遺跡が立地し、南側の上野台地には池内遺跡が立地している。南側の上野台地は、西側と南側が米代川沖積地に面している。台地の標高は63～65ｍで、台地と沖積地の比高は14～16ｍである。

第２節　歴史的環境

池内遺跡では、縄文時代前期の集落と古代（奈良・平安時代）の集落を主体とする遺跡である。このほか、縄文時代早期の遺物、中期と後期の遺構と遺物、続縄文（弥生）時代の遺構と遺物も確認されている。

大館盆地には、旧石器時代から近世までの遺跡が数多く知られているが、ここでは、池内遺跡の周辺にあって発掘調査された遺跡を中心に、歴史的な環境を概観する。

なお、遺跡名は、『秋田県大館市遺跡詳細分布報告書』と『秋田県遺跡地図（県北版）』登載の遺跡名とし、文中（　）の数字は『秋田県遺跡地図（県北版）』での遺跡登録番号である。また、（　）のアルファベットは、『秋田県大館市遺跡詳細分布報告書』と『秋田県遺跡地図（県北版）』の刊行後にその所在が確認され、発掘調査された遺跡である。番号登録がなされていないため、本書ではアルファベットを付した。

米代川流域は、縄文時代から北と南の「文化圏」の接触地帯であったと言われている。米代川の上・中流域に位置する大館地方（大館盆地）は、古くは「ひない」と呼ばれ、火内、比内、肥内と記述された地域である。

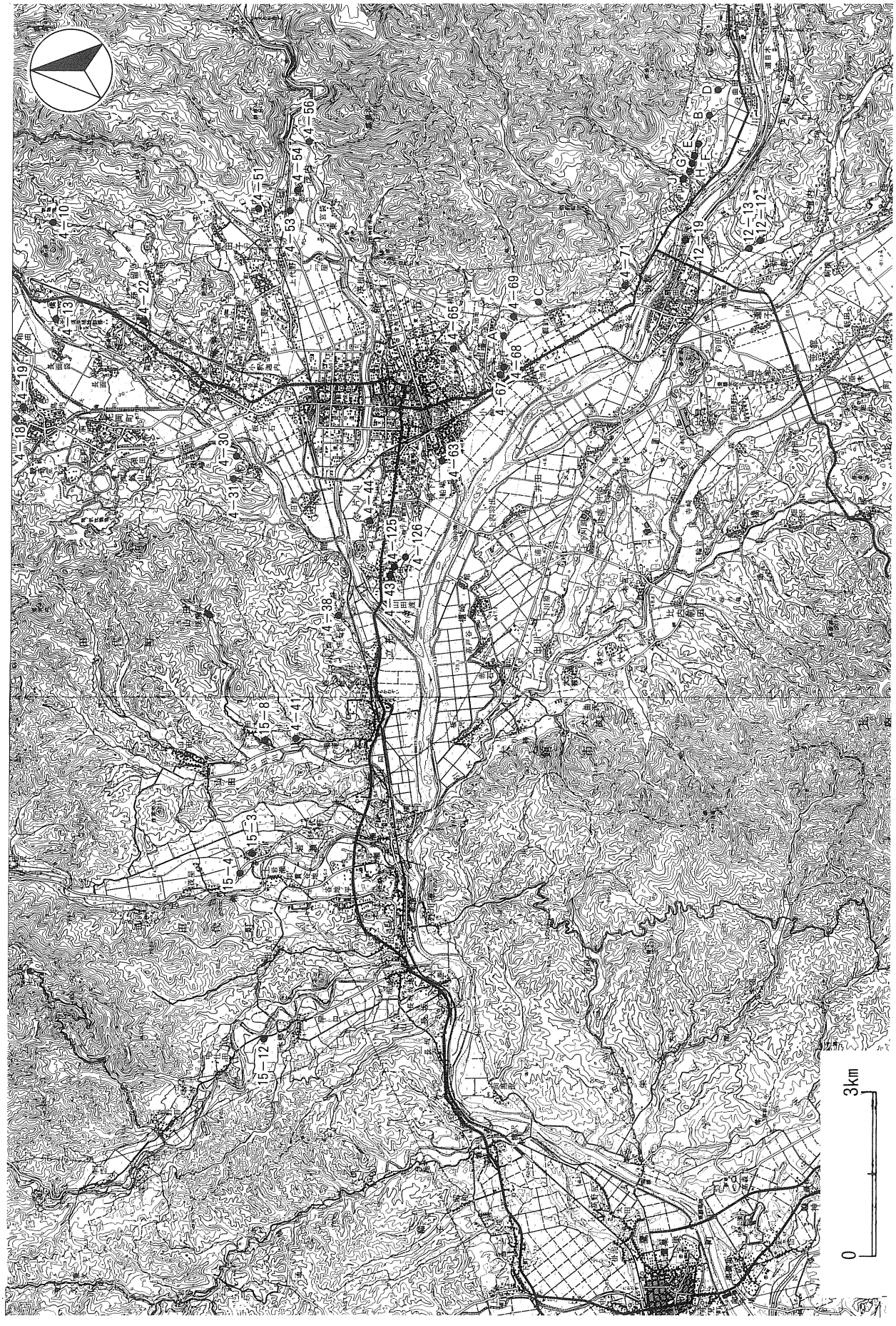
旧石器時代の遺跡としては、大型の石刃が発見された松木高館平（4-31）のみである。旧石器時代の遺跡・遺物が少ない理由の一つとして、池内遺跡の地表下にも約４ｍの厚さで堆積し、トウヒ属の森林を埋没させた十和田火山起源の火砕流をあげる研究者もいる。

縄文時代の主な遺跡としては、釈迦池（4－10）、福館橋桁野（4－13）、根井下（4－18）、十三森（4－19）、狼穴（4－22）、松木（4－31）、長瀞Ⅰ（4－38）、鳴滝（4－41）、餅田屋敷添（4－43）、諏訪台（4－51）、塚ノ下（4－53）、茂内（4－54）、玉林寺跡（4－56）、太平山（4－63）、萩ノ台Ⅱ（4－67）、餌釣館（山王岱）（4－69）、山館上ノ山（4－71）、芋掘沢（4－125）、根下戸道下（4－126）、袖ノ沢（12－12）、横沢（12－13）、本道端（12－19）、赤川（15－3）、下茂屋（15－4）、柏木岱（15－8）、矢石館（15－12）、上野（Ａ）、上聖（Ｂ）、餌釣（Ｃ）、家ノ後（Ｄ）、野沢岱（Ｅ）、冷水山根（Ｆ）、寒沢Ⅱ（Ｇ）、寒沢（Ｈ）、中山（Ｊ）の各遺跡がある。このうち、これまでに発掘調査され、報告書等が刊行された遺跡は、福館橋桁野、鳴滝、餅田屋敷添、諏訪台、塚ノ下、玉林寺跡、萩ノ台Ⅱ、餌釣館（山王岱）、山館上ノ山、芋掘沢、袖ノ沢、横沢、本道端、赤川、下茂屋、柏木岱、矢石館、上野、上聖、餌釣、家ノ後、野沢岱、冷水山根、寒沢Ⅱ、寒沢、中山の26遺跡である。

早期の遺跡としては、横沢、寒沢、寒沢Ⅱ、本道端、山館上ノ山、野沢岱のほか、鳶ケ長根Ⅳ、野沢岱Ⅱ、根下戸道下があげられる。釈迦池、横沢、寒沢、本道端、鳶ケ長根Ⅳ、野沢岱Ⅱ、根下戸道下では貝殻腹縁文・貝殻沈線文系の土器（片）が出土しており、鳶ケ長根Ⅳと寒沢では表裏縄文系の土器片も出土している。寒沢では片口の付いた土器片も出土している。

山館上ノ山、根下戸道下では、細い粘土紐を貼り付けた細隆起線による幾何学的な文様の施文された土器片が出土している。野沢岱ではこの細隆起線を沈線に置換した幾何学的な文様の土器片が出土している。

前期の遺跡としては、福館橋桁野、根井下、十三森、狼穴、松木、餅田屋敷添、塚ノ下、茂内、萩ノ台Ⅱ、山館上ノ山、芋掘沢、本道端、赤川、下茂屋、冷水山根、寒沢Ⅱがあげられる。山館上ノ山では竪穴住居跡16軒と、台地斜面と谷状地形内に「捨て場」が調査され、大量の円筒下層式土器とともに大木式土器片が出土した。また、２点の鋒形石器も出土している。萩ノ台Ⅱ、寒沢Ⅱ、赤川でも台地斜面に「捨て場」があり、大量の遺物が出土しており、萩ノ台Ⅱでも大木式土器片が出土した。芋掘沢では直立させた深鉢土器に偏平な河原石を被せた土器棺が出土している。福館橋桁野と下茂屋では円筒下層ａ式土器の直前形式とされる土器が出土している。下茂屋では内面条痕を有し、上面に指頭圧痕文の施文された隆帯を口頸部に巡らす土器が、円筒下層ａ式土器の包含層の下から出土し、「茂屋下岱式土器群」として把握されているが、この円筒下層ａ式土器の直前形式の土器については異論もある。萩ノ台Ⅱでは谷状地形の中に「捨て場」が確認され、所謂「茂屋下岱式土器群」から中期の円筒上層ｅ式まで堆積していた。狼穴では米代川流域で最大の岩偶が



第２図　池内遺跡周辺の遺跡（主要な縄文時代の遺跡を抜粋）（４－68が池内遺跡）

発見されている。岩偶は、狼穴のほか下茂屋、萩ノ台Ⅱ、山館上ノ山でも出土している。

中期の遺跡としては、釈迦池、福館橋桁野、長瀞Ⅰ、鳴滝、諏訪台、塚ノ下、玉林寺跡、萩ノ台Ⅱ、餌釣

館（山王岱）、餌釣、山館上ノ山、芋掘沢、横沢、本道端、柏木岱、上聖、家ノ後、冷水山根、野沢岱、寒沢Ⅱ、寒沢、中山の各遺跡がある。福館橋桁野と玉林寺跡では竪穴住居跡が各１軒、餌釣館（山王岱）で竪穴住居跡が12軒、本道端では複式炉の付設された竪穴住居跡23軒と土坑６基が調査され、円筒上層式土器とともに大木式土器片が出土した。冷水山根では台地の斜面に竪穴住居跡２軒、フラスコ状土坑１基、土坑５基を調査した。餌釣では竪穴住居跡１軒と焼土遺構１基、鳴滝では竪穴住居跡２軒とフラスコ状土坑２基、柏木岱では竪穴住居跡６軒、横沢では竪穴住居跡１軒、フラスコ状土坑25基、野沢岱では竪穴住居跡５軒、フラスコ状土坑１基と円筒上層ｃ～ｅ式土器、中の平Ⅰ式土器、大木８ａ・８ｂ式土器等を、また寒沢Ⅱと萩ノ台　では台地の斜面に「捨て場」があり、円筒上層ａ～ｅ式土器が出土した。中山では周堤の残る竪穴住居跡が調査された。

後期の遺跡としては、釈迦池、長瀞Ⅰ、鳴滝、塚ノ下、諏訪台、萩ノ台Ⅱ、餌釣館（山王岱）、餌釣、山館上ノ山、上聖、家ノ後、寒沢Ⅱ、寒沢、中山のほか、萩峠などの遺跡がある。塚ノ下では目に天然アスファルトを埋め込んだ土偶などが出土している。諏訪台では竪穴住居跡２軒とフラスコ状土坑３基などを検出した。萩ノ台Ⅱでは台地の斜面に「捨て場」が検出され、十腰内Ⅰ式・Ⅱ式土器とともに翡翠の大珠３点が出土した。餌釣館（山王岱）と餌釣では竪穴住居跡が各１軒、山館上ノ山では竪穴住居跡とフラスコ状土坑などを、家ノ後では竪穴住居跡４軒と土坑のほか、台地の斜面下方に粘土採掘坑などを検出した。寒沢では竪穴住居跡７軒、土坑９基、フラスコ状土坑２基、配石遺構２基を検出し、萩峠では竪穴住居跡10軒と土坑20基を検出した。

晩期の遺跡としては、十三森、長瀞Ⅰ、鳴滝、諏訪台、太平山、山館上ノ山、本道端、矢石館、家ノ後、野沢岱の各遺跡がある。山館上ノ山と餌釣館（山王岱）では竪穴住居跡とフラスコ状土坑などを、また家ノ後では土坑と土壙墓などを検出した。矢石館では組石棺墓５基が調査されている。

続縄文（弥生）時代の遺跡としては、釈迦池、諏訪台、鳴滝、柏木岱、片山館のほか、粕田（4－8）の各遺跡がある。諏訪台では竪穴住居跡６軒が調査され、柏木岱では頭骨のみ埋納された土壙墓が１基調査されている。釈迦池、鳴滝では土器片が出土したにとどまるが、粕田では深鉢形土器が、片山館では後北式土器片が出土した。

古代（奈良・平安時代）の遺跡としては、諏訪台、塚ノ下、扇田道下、餌釣館（山王岱）、山館上ノ山、袖ノ沢、横沢、上野、餌釣のほか粕田、大館野（4－5）の各遺跡があげられるが、この時代の遺跡の特徴として、十和田火山起源の降下火山灰との関係があげられる。その火山灰の産状は、遺構の中に凹レンズ状に堆積、霜降り状に混入、火山灰のみ堆積などが確認されており、火山灰との時間的関係を示唆している。

上野では谷に火山灰が堆積した後で竪穴住居跡が構築され、その竪穴住居跡のかまど周辺から土師器とともに擦文土器が出土している。扇田道下では竪穴住居跡群と掘立柱建物跡群が検出されている。大館野では側溝のある道路、竪穴住居跡群とともに製鉄炉３基も検出されている。横沢は細長い独立台地を空堀で２つに区画しており、その一区画から竪穴住居跡群が検出されている。

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

池内遺跡は、西流する米代川の右岸に形成された河岸段丘上にある。この河岸段丘は小さな下刻作用による開析谷でいくつかに分けられており、最も南側にある台地は上野と呼ばれている。

遺跡が、この台地上とその周囲の斜面に立地することは第２章第１節で述べたとおりである。

池内遺跡は、この道路改良事業に伴い詳細な分布調査と遺跡範囲確認調査が行われるまでは、付近の子供達が北側の萩ノ台と呼ばれている台地との間の谷で土器を掘っていたことや、県立大館桂高等学校社会部による古代の竪穴住居跡の発掘調査などからこの上野台地上に形成された縄文時代前期の遺物散布地と古代の集落跡であると推測されていた。

県立大館桂高等学校社会部による古代の竪穴住居跡の発掘調査での成果は、米代川沖積地より14～16ｍ高い台地上の竪穴住居跡内に淘別作用を受けていたかについては確認されていないが、十和田火山起源の降下火山灰が厚く堆積していた事実の発見である。この発見までは、十和田火山起源の降下火山灰は秋田県側では十和田火山周辺にのみ堆積し、それよりも遠い米代川の中流地域には二次的な火砕流としてその存在が確認されていただけであった。県立大館桂高等学校社会部による池内遺跡での降下火山灰の発見は、同時に所謂「砂底土器」を覆っていたことから、当該時期の遺跡の広域的な編年作業で利用できる２つの指標を提供したことになる。この火山灰は、秋田県側では大湯浮石層と呼ばれているが、広域火山灰名は十和田ａ火山灰である。

池内遺跡の立地する台地は、最大150ｍ、最小40ｍ、平均120ｍの幅をもち、北東から南西に200ｍの長さで張り出す台形となっている。

台地の上面は、北東側から南西側に1.2～1.5ｍ傾斜しているが、肉眼ではほぼ平坦な広がりと感じる。台地の斜面は３面（北西、南西、南東）とも急傾斜している。台地の南東側斜面には開析谷が３カ所（西寄り、中央、東寄り）で形成され、谷頭が西寄りでは又状、中央では三又状に分岐しているものの、谷本体は東側に屈曲する。台地の南西側は、米代川の沖積地に面しており、崩落した急崖となっている。

台地の北西側は萩ノ台の台地との間が上幅26～40ｍの谷により隔てられ、谷頭が又状を呈している。台地南東側斜面中央の谷頭と台地北西側の谷頭の間が37ｍまで近接している箇所があり、ここがこの台地の基部となっている。また、南西側の台地上縁から70ｍ東よりの箇所でも、台地南東側斜面の西寄りの谷の谷頭と、台地北西側の谷を約70ｍ遡行した箇所にくびれのように形成された小さな谷があり、この谷の谷頭との間が37ｍまで近接していることから、ここでも台地が狭くなっている。米代川の沖積地との比高は南西側で14～16ｍ、南東側で10ｍである。

以上のことから、池内遺跡の立地する台地は、くびれ部分をもちながら、平均120ｍの幅で、北東から南西にゆるやかに傾斜しながら200ｍの長さで張り出す台形を呈する。南東側斜面には３カ所の大きな谷があり、複雑な地形を呈しているが、米代川の沖積地に面する南西側は崩落による急崖となっている。台地上面と沖積地との比高は10～16ｍと概括できよう。

現況は、畑、杉林、雑木林、農道となっていた。畑は大部分が放置されススキが生えていたが、黒土の不法採取跡もあり、須恵器の大型破片が散在していた。

この台地一帯は市街地に近いため狩猟禁止区域となっているが、調査中にキジ、カモシカ、キツネ、タヌキ、ウサギ、ヘビなどを観察できた。また、植物では北西側の谷にサワグルミ、南東側の斜面と谷にニワトコ、クリ、ヤマグワ、モミジイチゴ、ハリギリなどが自生していた。

第2節　調査の方法

池内遺跡の調査では、前年度に実施された詳細分布調査・範囲確認調査の結果、台地上部平坦面では遺構プランが密集しているのを確認していた。谷内にも黒土を2ｍほど掘り下げると火山灰が0.2ｍほどの厚さで堆積し、さらに黒土を1ｍほど掘り下げると縄文時代前期の円筒下層式土器が大量に包含されている層に達することを確認していた。竪穴住居跡や貯蔵穴、土坑などで構成される平坦面と、土器、石器を含む生活残滓等を斜面や谷に捨てた「捨て場」がセットとなっている縄文時代前期の集落跡と、古代の集落跡であるとともに、自然の谷地形に人工的な造作をして「濠」となし、中世の館跡を造っていたのではないかとの疑問があった。この疑問は範囲確認調査で設定したトレンチで斜面の中半に横走する「溝状の掘り込み」が検出されたことによる。

このため、縄文時代前期の集落跡、古代の集落跡、中世の館跡を想定して発掘調査を進めることになった。

池内遺跡の調査区設定は、北秋田土木事務所が道路の中心線として打設している杭から、調査区内の道路本線の中心杭（No.175）を原点として選び、この点の座標北を求めて南北の基準線を設定し、４ｍ×４ｍの方眼（グリッド）を作るように杭を打設した。グリッドの呼称は、2桁のアラビア数字と2文字のアルファベットを組み合わせて行い、原点をＭＭ50として、南北方向は原点から北がＭＮ、ＭＯ、……ＭＴ、ＮＡ、ＮＢ、……ＯＫとし、南がＭＬ、ＭＫ……ＭＣ、東西方向は原点から東が降順（49、48、47……）、西が昇順（51、52、53……）と付し、グリッドの南東隅の杭でグリッド名を呼称した。

調査区が工事実施計画に基づいているため、各年度の調査範囲をひとくちで説明するのは困難である。

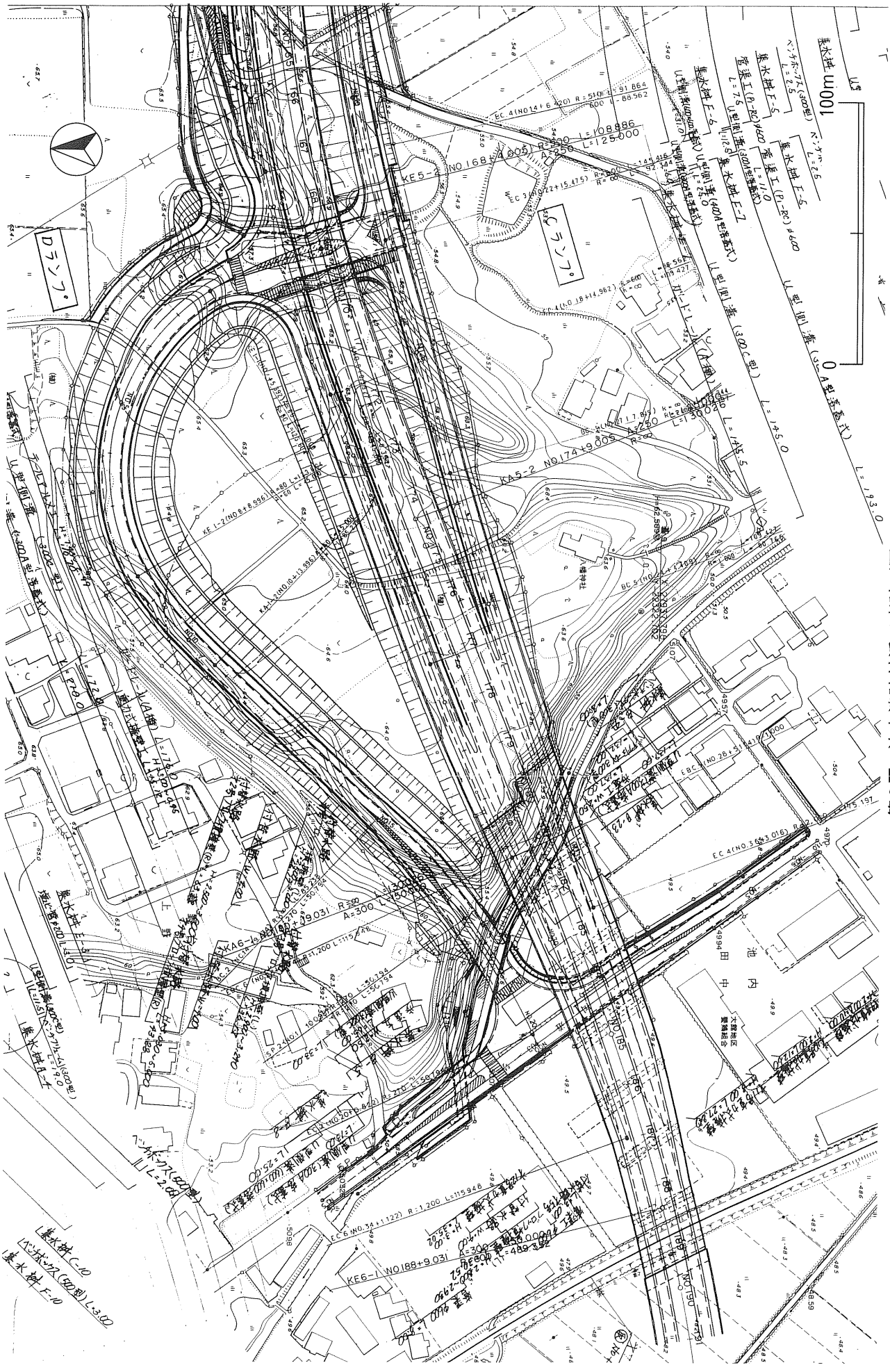
発掘調査の方法は、概ね秋田県埋蔵文化財センターで実施している「発掘調査規準」に基づいているが、遺構番号は、各調査年度の調査区毎に3桁の番号を割り当てて、遺構プラン発見順に付した。精査の結果、遺構でないと判断された場合はその番号を欠番扱いとした。遺構プランは埋土堆積状態観察・実測用ベルトを設定して掘り下げ、土層断面の分層時に野帳に堆積状態をスケッチして土色、土性等を記入することにした（整理時にパソコンに入力）。

柱穴様ピットについては、他の遺構とは別にピット番号を各調査年度毎に付し、ピットでないと判断された場合はその番号を欠番扱いとした。また、柱穴様ピットはプラン確認面での土色と土性等を柱穴番号簿に記載し、半分掘り下げあるいは全掘した。

出土した遺物は、全点遺物番号を付して平面図に記載しレベルを計測することとした。斜面と谷内に形成された「捨て場」の包含層も全点遺物番号を付して平面図に記載しレベル計測、出土層位も記入することとしたが、数個体分の土器が密集して出土した時、あるいはまとまりのみられない場合は各グリッドの層位毎に一括して取り上げた。

実測図は、縮尺を1／20を原則としたが、カマド・土器埋設遺構など微細な遺構図面は1／10で記録した。

遺跡全体の地形図と調査区全体にわたる図面（等高線入り遺構配置図）は縮尺1／100の空中写真測量で作成した（業者委託）。



第３図　池内遺跡付近工事計画図

第４図　グリッド配置図

第３節　調査の経過

池内遺跡の発掘調査は、平成４年度から平成７年度までの４カ年にわたって実施された。各年度毎の調査経過を略述する。

《平成４年度》

平成４年５月11日から開始した。台地の北側縁辺、Ｊ字形にカーブする幅35ｍ、長さ260ｍ、面積7,500㎡のＡ区と仮称した地区は、南西側が原野・雑木林地区、中央部が畑地区、北東側が杉林地区となっていたところである。

畑部分約1,440㎡は耕作土が不法に採取されたため地山が20㎝も削平・露出しており、すぐ遺構検出（プラン確認）作業を実施した。前年度の詳細分布・範囲確認調査のトレンチでも多数のプランを確認していたが、わずか一週間の作業で土坑60、柱穴様ピット多数を検出し、予想をはるかに超える遺構数であった。

５月18日から池内遺跡の北側の谷を挟んで所在する萩ノ台Ⅱ遺跡の発掘調査実施のため、櫻田が７月10日まで現場を離れた。

５月19日から土坑の掘り下げ（半裁）を開始した。円形プランの土坑のほとんどがフラスコ状を呈することが判明した。フラスコ状土坑からは円筒下層式土器のほか、大木式土器も出土した。

５月21日に秋田大学鉱山学部の西谷助教授らが電気・磁力・地震探査による遺跡調査法の試験と熱残留磁気測定法による年代測定についての打ち合わせのため来跡〔電気・磁力・地震探査による遺跡調査法の試験は５月29日から10月12日まで南西側の原野・雑木林地区（Ａ・Ｂ区）で断続的に試験を実施し、熱残留磁気測定法の試料採取は10月14日と11月16日に実施した〕。

５月25日から非常勤職員の小松が合流。粗掘り作業を続けていた北東側の杉林地区では、部分的に黒土中に浮石（軽石）質の火山灰が堆積しているのを確認し、その直上まで掘り下げた。この火山灰は古代に降下した大湯浮石層であるが、単一での堆積ではなく、黒土中に霜降り状に混入した状態であった。この北東側山林地区は、戦後の杉植林の際に重機で削平したらしく、その痕跡が至る所に見られた。中央部では、プラン確認、精査とともに台地の上部平坦面の掘り下げに続いて斜面の掘り下げも同時進行させた。中央部の畑の北縁にあるゴミ捨て場で、須恵器の大型破片が大量に見つかった。畑の耕作中に掘り上げ、１カ所にまとめて捨てられたものである。

７月６日から野沢岱遺跡の発掘調査実施のため、柴田が９月25日まで現場を離れた。

７月13日に櫻田が現場復帰し、17日からは南西側の原野・雑木林地区の粗掘りを東側（畑寄り）から開始した。北東側の杉林地区では南側から遺構プランの確認作業と斜面の掘り下げを開始した。22日には南西側の原野・雑木林地区の粗掘りが終了とともに、遺構プランの確認作業を行い、円形土坑プラン23と柱穴プラン多数を検出した。北東側の杉林地区でも方形の竪穴住居跡プラン４と円形土坑プラン１を確認した。

７月23日から北東側の杉林地区で確認した竪穴住居跡プラン２軒の掘り下げを開始した。

７月25日までに南西側の原野・雑木林地区で確認した遺構プランは、竪穴住居跡プラン32（うち方形プラン９）、円形土坑プラン72、性格不明プラン２の計106遺構と柱穴様ピット多数である。南西側の先端部には埋没した谷があった。その後の精査で、この円形土坑プランもほとんどがフラスコ状土坑となった。

７月29日に中央部の畑地区が精査を完了し、ラジコンヘリによる空中写真撮影を実施した。

この地区では縄文時代の竪穴住居跡、フラスコ状土坑、土坑、土壙墓、古代の竪穴住居跡、現代の土坑のほか、時期未確定の柱穴を検出した。竪穴住居跡は上部を削平されていたため、痕跡がわずかに残っている

のみであった。フラスコ状土坑は重複が多かった。また、底面中央部に柱穴様ピットを確認したものも多い。

８月４日から南西側の原野・雑木林地区でプラン確認していた古代の竪穴住居跡10軒（ＳＩ 120～ＳＩ 129）の掘り下げを開始した。焼失した住居跡が４軒（ＳＩ 121、ＳＩ 125、ＳＩ 126、ＳＩ 129）あり、このうちＳＩ 121とＳＩ 126の埋土の上半には火山灰が堆積していた。この10軒の竪穴住居跡に付設されていたかまどの形態には所謂東北型と関東型の２種類があった。

掘り下げを黒土中に霜降り状に混入した状態で残る火山灰の表面までで止めていた北東側の杉林地区では、地山面まで掘り下げて遺構プランを確認する作業を続け、新たに縄文時代の竪穴住居跡、Ｔ－pit、焼土遺構、古代の竪穴住居跡などを検出し、精査を開始した。

ＳＩ 129竪穴住居跡の床面上に堆積する炭化材に混じって、モモの核１個と少量の炭化籾が出土した。

８月26日に小林 達雄國学院大学教授は現場視察後「縄文時代前期のころは、竪穴住居の中に火を持ち込んでいない（炉を作らない）のかも知れない。屋外の焼土に注意する必要がある」との感想を述べられた。

９月８日からラジコンヘリによる空中写真測量のための撮影を10日まで実施した。

連日、雨が降るようになったので、現場作業ができない日にはプレハブで遺物洗いをするには、大量の水を必要とするので、プレハブの軒下に雨水を溜めるプールをコンパネで枠を作りビニールシートを貼って設置した。

９月22日から中国甘粛省博物館から長期研修のため派遣されいてた王 琦氏が発掘研修のため来跡し、25日まで土壙墓１基（ＳＫＳ 194）の精査に従事した。ＳＫＳ 194からは磨製石斧１点が出土した。

９月29日から30日までラジコンヘリによる空中写真測量のための撮影を実施した。

９月30日から南西側の原野・雑木林地区の台地斜面の掘り下げに着手した。斜面の傾斜角が大きいため、土器などの「捨て場」は形成されていないだろうと予想していたが、斜面の下方で遺物の出土が多いので「捨て場」が形成されていたと考え、調査方法と工程を再検討した。隅丸長方形プランを呈する土坑から石鏃56点、磨製石斧２点、打製土掘具１点、石匙１点、深鉢土器１点などが出土し、土壙墓（ＳＫＳ 208）であることがわかった。大量の石鏃が出土したことについて、複数の考古学研究者などからいろいろな見解を戴いたが、いずれもここに埋葬された死者が生前持っていたものとしての解釈であった。これに対して、狩猟を生業としていた「阿仁マタギ」のひとり、西根 稔氏からは、「近年まで、マタギの里では仲間の槍の名手が亡くなると、マタギ仲間がその名手にあやかりたいとして、自分の使っていた槍か、新しく造った槍を一緒に葬った。（石鏃の）数が多いのは、その死者が弓の名手だったので、仲間たちがその名手にあやかりたいという気持ちで入れたのではないか」というご意見を戴いた。マタギは、筒形の柄と刃が一体となっているフクロナガサという山刀（ナタ）で、熊と戦い、自身を守る武器として筒形のフクロ柄に７尺ほどの木の柄を差し込んで長槍とするという。死者に供えるのは、穂先となるフクロナガサという山刀だったということから、池内遺跡では弓の名手に矢柄のついていない石鏃だけを仲間たちが供えたという解釈であろう。

10月に入ってから南西側の原野・雑木林地区の精査が進み、縄文時代の大型住居跡であるＳＩ 141では壁面上部に斜めに掘り込まれた柱穴列と、床面の一部を掘り残した土壇を検出した。この柱穴列については、朝日新聞社を通じて文化庁の宮本長二郎主任文化財調査官から垂木尻を据えた穴と考えて良く、縄文時代前期のものとしては国内最初の例であるとのご教示を得た。

10月16日に南西側の原野・雑木林地区の北側斜面（ＮＤ66～ＭＱ75間）に、２本の土層観察用ベルトを設定し、斜面「捨て場」の調査を開始した。この間の台地縁辺には同心円状の亀裂が入り、斜面の中央よりやや上半には段差があることから、自然崩壊による亀裂と段差と認識していた。しかし、調査の結果、斜面の下

第５図　年度別調査対象区域

方に円筒下層式土器の捨て場が形成され、その上部に遺構を掘った時の排土が堆積して段差を形成したもので、亀裂と段差の直接的な関連は認められなかった。この捨て場では、排土の層を挟んで遺物包含層を２枚確認した。

10月23日に藤原 哲県議会議員と文化課長らが来跡した。非常勤職員の小松が退職。

11月11日に北東側の杉林地区の精査が、11月13日に南西側の原野・雑木林地区の精査が終了した。その後、図面チェックと遺物の洗浄をプレハブで行い、11月20日に撤退した。

平成４年度の調査では、縄文時代の竪穴住居跡21軒、土壙墓６基、フラスコ状土坑121基、土坑27基、Ｔ－pit10基、土器埋設遺構１基、古代の竪穴住居跡19軒、土坑２基、焼土遺構８基、時期不明性格不明遺構１基、現代土坑２基の計218基と柱穴様ピット2,524カ所、捨て場２カ所を検出し、調査した。出土した遺物はコンテナ18で1,170箱である。膨大な遺構数、遺物量にもかかわらず、担当者が一時的にせよ他遺跡の発掘調査を担当するため、池内遺跡を離れなければならないなど、調査体制の面でも課題を残した。

《平成５年度》

平成５年４月19日から発掘調査を再開した。この再開に先立ち、４月12日から16日までＢ・Ｅ・Ｆ区にあたる区域を小畑・五十嵐・長澤が範囲確認調査し、竪穴住居跡や土坑などが集中していることを確認した。

発掘調査の担当者は、櫻田、小畑、五十嵐の３人に非常勤職員の長澤、松尾、神成の３人を加えた６人体制となっているが、五十嵐と長澤は４月19日から８月31日まで冷水山根遺跡と寒沢Ⅱ遺跡の発掘調査に従事することになっており、また、小畑と長澤は９月１日から10月22日まで中山遺跡の発掘調査に従事することが決まっていた。非常勤職員の松尾は４月19日から５月31日まで森吉町白坂遺跡の第２次調査と、７月26日から10月15日までの秋田市大松沢Ⅱ遺跡の発掘調査に従事し、神成も５月10日から７月30日まで鹿角市天戸森遺跡の発掘調査に従事することになっており、前年度以上に出入りの激しい体制となっている。

当初はＢ区とした台地南西側を調査する予定であったが、秋田県北秋田土木事務所の手違いにより、南西崖下に未買収のまま使用中の簡易水道の貯水槽があり、発掘調査で水脈を分断する可能性があることから、急遽水道に影響の少ない東側の区域に変更されたため、発掘対象面積は5,350㎡と少ないが、畑、原野・雑木林となっていた２区域（Ｃ・Ｄ区）となった。

Ｄ区には、昨年度の排土が大量に盛られており、調査区外に搬出しなければならないため、調査はＣ区の南側から進めることにし、粗掘りを開始した。原野・雑木林になる前は耕作されていたらしく、地表面に畝状の起伏がみられた。地山までの深さが20㎝と浅く、しかも黒褐色土中に地山ブロックが多いので撹乱されていると判断して地山まで掘り下げることにした。遺物も石匙、石錘、石器剥片、近世陶磁器破片など少量の出土である。

Ｃ区を地形と調査範囲から３つのブロックに分割することにし、南側をＣ－３区、中央部をＣ－１区、東側をＣ－２区と呼称することにした。また、Ｄ区の排土の搬出作業については文化課も交えて話し合いした結果、５月17日から６月２日まで北秋田土木事務所と工事施工業者が実施することになった。

５月12日からＣ－３区に南西側から入っている谷にトレンチを設定して掘り下げることにした。谷頭の部分であるためか遺物は出土せず、捨て場は形成されていないと判断した。

５月14日からＣ区の中央部に南側から入っている谷にトレンチを設定して掘り下げることにした。この谷の本体は１筋であるが、谷頭が３つに分岐している。トレンチで谷内に捨て場が形成されているかどうかの確認作業をしたが、遺物の出土は皆無であるため、この谷にも捨て場は形成されていないと判断した。

Ｃ－３区とＣ－１区の粗掘り作業が順調に進み、５月18日から地山面での遺構プラン確認作業を行い、Ｃ－

１区で大型の隅丸長方形プラン１、円形土坑プラン３、Ｔ－pitプラン３を検出した。

５月21日からＣ－２区の粗掘り作業を開始した。ほぼ東西に走る溝状の掘り込みを検出したが、これは北側に広がる畑がかつて水田として使われていたころ、台地下からの水を揚げるための導水パイプを埋めるための溝であることが後日判明した。

Ｃ－３区の台地東側縁辺部で円形プランを幾つか検出したが、風倒木痕もあるようで、土坑かどうかの判断はできなかった。また、溝状のプランも検出した。土師器破片、寛永通寶なども出土したが、撹乱された土の中からの出土である。

今年度の遺構番号は、柱穴様ピット以外の遺構は300番から、柱穴様ピットはＰ2,600番から使用することにした。

５月28日からＣ－３区の遺構プラン確認作業を本格的に行い、Ｃ－１区では大型の隅丸長方形プラン（ＳＫＩ 300）の精査（掘り下げ）を開始した。

５月31日にＣ－１区の遺構プラン確認作業で竪穴住居跡プラン２（ＳＩ 307、ＳＩ 308)、円形土坑プラン数基を検出し、掘り下げを開始した。午後３時過ぎにそれまでの晴天が一転し、雷を伴う雹が降り始め、にわかに豪雨となり、辺りは暗闇に包まれた。１時間ほどしてまた晴天となったが、地面は水浸しでプランが全く見えない状態であったため、作業を中止した。

６月１日からＴ－pitプランの掘り下げを開始した。非常勤職員の松尾が調査に参加。

６月８日にＣ－３区の斜面中半で長方形プランの落ち込みを検出した。壁際に深鉢が倒立状態で出土した(土壙墓ＳＫＳ 377と命名)。Ｃ－１区のＳＫＩ 300の掘り下げがほぼ完了した。壁際に排水用の溝が一巡し、東壁の中央やや南寄りからオープンカットの溝で谷に流れ出るようになっていた。底面から粗悪なレンガや針金などが出土しており現代のものと考えていたが、昭和30年代に比内町の鮮魚販売店が冷蔵用の「室（むろ)」として使用したものと判明した。

６月11日からＣ－２区の粗掘り作業と斜面の草刈り作業を開始した。

６月18日にＣ－２区の遺構プラン確認作業を開始した。また、池内遺跡の整理作業を地元の大館市内で行うため､大館市教育委員会と協議した｡(統合のため廃校となった県立大館東高等学校の旧校舎を平成５年７月１日から平成10年10月31日まで借用し、秋田県埋蔵文化財センター大館整理室として池内遺跡の整理作業をすることとなった。)

確認できた遺構プランは番号を付して、順次掘り下げ･精査をおこなった。

６月29日に比内町立扇田小学校６年生62名が、郷土学習の一環として遺跡を見学し、前年度の調査区内に造った「竪穴住居跡」･「土坑」で発掘体験学習をおこなった。

７月５日からＤ区の粗掘り作業を開始した。この地区は耕作土（黒土）の不法採取が行われた場所であり、遺構の保存状態は大変悪いだろうと考えていた。７日にはＤ区2,130㎡の粗掘り作業がほぼ終了し、プラン確認作業を行ったところ、古代の竪穴住居跡プラン２、小判形（あるいは隅丸長方形）プランの土坑３、円形プランの土坑、柱穴様ピットなどとともに、埋没谷の谷頭らしいプランを南東側に確認した。

７月23日にＣ－１区とＣ－２区の精査が完了し、最終写真撮影をおこなった。Ｃ－１区では縄文時代の竪穴住居跡３軒、土坑４基、Ｔ－pit３基、現代の竪穴状土坑（室）１基、柱穴様ピット多数などを、またＣ－２区では竪穴住居跡３軒、フラスコ状土坑４基、土坑15基、Ｔ－pit４基、現代の溝３条、柱穴様ピット多数などを精査した。

Ｃ－３区の南側斜面の中半に円形の土坑プラン３を検出し、掘り下げ・精査を開始した。

７月28日から29日にかけて大館地方に大雨が降り（24時間で141㎜）、大雨・洪水・雷の各注意報が発令され、Ｄ区は完全に水没し、Ｃ区も遺構がすべて水溜めの状態であった。また、斜面には無数の亀裂が入り危険なため、現場作業は８月２日までできなかった。その間、プレハブの屋根からの水を軒下のプールに集め、遺物洗浄をおこなった。８月２日から非常勤職員の神成が鹿角市天戸森遺跡から合流する。

８月６日にＣ－３区の縄文時代の竪穴住居跡１軒、土壙墓１基、フラスコ状土坑４基、土坑12基、現代の溝２条、柱穴様ピット多数などの精査が完了した。

８月12日に大館保健所から「発掘作業員として働いていた男性から、結核菌が検出されたので、本人は隔離したが、一緒に働いていた作業員に感染の恐れがあるので、結核予防法に基づき全員のＸ線写真撮影を行う」との連絡が入った。13日から17日まで盆休みとし、８月18日から現場作業を再開した。

８月19日からＤ区の柱穴様ピットの精査を集中的におこない、Ｐ 3488、Ｐ 3517、Ｐ 3567、Ｐ 3630の４本から柱痕跡を確認した。

８月24日に現場にレントゲン車が来てＸ線間接撮影をおこなった。この日から26日までは猛烈な暑さのため、作業中に具合の悪くなる職員・作業員が続出したため、半数ずつプレハブ内での遺物洗浄に切り替えた。フレイク・チップが埋土中に多量に混入している土坑２基（ＳＫ 383、ＳＫ 398）と、小型深鉢形土器１個体が出土した土壙墓などの精査が続いた。ＳＫ 383土坑は、緑泥片岩を原材料とした石器製作場的性格をもつ土坑かと推測された。Ｄ区の西側に検出した小判形（隅丸長方形）プランを呈する土坑のほとんどは土壙墓と推測した。

８月30日から谷状プラン（ＳＴ 396）と古代の竪穴住居跡（ＳＩ 395）の掘り下げ・精査を開始した。ＳＴ 396では土器が多量に出土し始め、遺物番号を付して平面図記入、レベル計測の後で収納した。また、ＳＩ 395の床下に土壙墓２基（ＳＫＳ 424、ＳＫＳ 435）を確認した。また、ＳＩ 395の南西側壁面に竪穴住居構築時の掘削痕が残っているのを確認した。８月30日に小畑が中山遺跡の発掘調査を担当するため、池内遺跡を去り、９月６日から柴田が合流し、交替するように櫻田と神成が峰浜村湯ノ沢岱遺跡の範囲確認調査のため、14日まで現場を離れた。

９月７日にはフラスコ状土坑、Ｔ－pit、土壙墓、土坑、古代の竪穴住居跡などの掘り下げ、実測、埋土堆積状況の写真撮影などをおこなった。ＳＩ 423竪穴住居跡は、大湯浮石層が厚く堆積しており、かまどの煙道部が２本存在したが、後日かまどの作り替えと判明した。

この後、降雨日が多くなり、精査が遅滞気味であった。

９月22日に北海道余市町教育委員会の宮 宏明氏、27日には工藤 雅樹福島大学助教授が来跡し、土壙墓の副葬例などについてご教示をいただいた。土壙墓の精査が進むにつれ、定形的な石器、土器、礫が副葬品として残っていても、副葬した遺物の種類と数に差異があり、なかには全く出土しない土壙墓もあった。

10月８日の午後に集合した報道８社に対し、現地説明会の事前記者発表をおこなった。

10月16日（土曜日）の午後１時から120名の市民、学生、生徒の参加を得て現地説明会をおこなった。

10月20日に縄文時代の竪穴住居跡１軒、フラスコ状土坑６基、Ｔ－pit３基、土壙墓20基、土坑８基、古代の竪穴住居跡３軒のほか、柱穴様ピット多数を精査してＤ区の調査を完了した。

10月22日にセンターと大館整理室に遺物を搬送し、平成５年度の発掘調査を終了した。

平成５年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡７軒、フラスコ状土坑10基、Ｔ－pit10基、土壙墓23基、土坑40基、土器埋設遺構２基、古代の竪穴住居跡３軒、土坑３基のほか、柱穴様ピット2,710カ所、捨て場１カ所、現代の竪穴状遺構１基、溝５条を検出し、調査した。出土した遺物はコンテナ18で276箱であ

る。大館整理室には小畑が常駐することになり、非常勤職員の長澤、神成とともに整理作業員を指導して整理作業をおこなった。

《平成６年度》

平成６年５月９日に大館市立中央公民館で発掘作業員雇用説明会と面接を行って作業員を確保し、５月16日から発掘調査を再開した。

発掘調査の担当者は、櫻田、柴田、小畑の３人に非常勤職員の長澤、松尾の２人を加えた５人体制となっていたが、櫻田と長澤は５月16日から６月24日まで寒沢遺跡の発掘調査を担当のため開始当初は不在となり、調査を開始してからも、柴田と長澤は７月11日から８月８日まで山本郡琴丘町に所在する中の沢遺跡の発掘調査に従事することが決まり、池内遺跡の発掘調査体制は３年連続で不安定なものとなった。

発掘調査対象区は、農道を挟んで隣接しているが、遺跡の南西側にあたるＢ区と南側のＥ区で対象面積は8,500　である。Ｅ区は北側に延びる谷と北東側に延びる谷の２本あり、いずれも幅があり深い。北側に延びる谷は、前年度にＤ区南東側に検出したＳＴ 398谷と結合し、北東側に延びる谷はＣ－３区南西側に検出した谷頭部分と結合する位置にあった。

発掘調査は北東側に延びる谷（ＳＴ 529と呼称）に谷頭－谷尻方向（略東－西方向）に幅１ｍ、長さ60ｍのトレンチを設定し、それと交差するように地形に合わせて３本のトレンチを設定した。谷頭－谷尻方向に設定したトレンチでは、現地表面から１ｍ掘り下げた段階で水が湧き始めた。また、北側に延びる谷（ＳＴ 504と呼称）にも谷頭－谷尻方向（略南－北方向）に幅１ｍ、長さ66ｍのトレンチを設定し、掘り下げを開始した。

平成４年度の発掘調査で、通行止めの措置が取れないため掘り残していた農道部分の調査も同時進行で進め、円形土坑プラン１、Ｔ－pitプラン２を検出した。掘り下げ•精査を開始した。

５月23日に、各トレンチとも1.5～２ｍの深さがあり、壁面崩壊の恐れがあるので幅を２ｍに拡げて掘り下げを継続した。ＳＴ 529谷のトレンチの谷尻（南）部分に水中ポンプを設置して排水作業をおこなった。

５月25日にＳＴ 504谷のトレンチ北側地域で縄文時代の遺物包含層を確認した。

５月27日にＥ区北側平坦面の粗掘りを開始した。センター所長が来跡し、トレンチを幅２ｍに拡幅して深さ４ｍまで掘り下げていたのを見つけ、『シラス地盤の谷内という軟弱さに加え、中間に大湯浮石層が厚く堆積して不安定な黒土層に矢板も打たずにトレンチを設定して作業員を働かせたことは、「秋田県埋蔵文化財センター発掘調査安全基準」と「労働安全衛生法」に違反かつ大変な危険行為である』として、作業の中止と安全な作業方法への変更を厳しく指示した。センター所長から連絡を受けた櫻田が、寒沢遺跡から現場に急行し、「安全基準」を無視したトレンチの危険性を説明し、高さ２ｍ以内の土層観察用ベルトを残してオープンカット方式で掘り下げる作業方法への変更を指示した。

５月30日から作業方法を変更し、土層観察用ベルトを残してオープンカット方式で掘り下げる作業を開始した。Ｅ区北側平坦面で竪穴住居跡プランを確認した。

６月２日から各トレンチの土層断面図作成作業を開始した。

６月６日に北側平坦面のプラン確認作業でＳＴ 529谷の北側西寄りに現地形では見えない埋没谷（ＳＴ 505谷と呼称）が、また北側東寄りでも埋没谷（ＳＴ 528谷と呼称）があることを確認した。ＳＴ 504谷の谷尻西側の斜面で縄文時代の遺物を多量に確認したので、この部分は「捨て場」であったと推定した。

６月８日からＳＴ 504谷の出土遺物の実測•収納作業を開始した。遺物の収納は、グリッドと層位で一括するが、完形品については図面にドットで記録することにした。１日でコンテナ30箱分を収納した。

６月13日からＳＴ 505谷の掘り下げを開始した。ＳＴ 504谷では粗掘りが進むにつれて、西側の斜面に小さな開析谷が３カ所あることがわかり、その部分に遺物が集中していることがわかった。

６月17日に保健事業団の都合で遅れていた発掘調査作業員の採用時健康診断を実施した。ＳＴ 505谷は、掘り下げが進むにつれて遺物が集中しているのが確認され、捨て場が形成されていたと判断した。

６月22日にＥ区南東側の馬の背状の細長い平坦面の粗掘りとプラン確認作業をおこない、円形土坑プラン10を検出した。すぐに掘り下げ•精査を開始し、28日までに土坑７基、フラスコ状土坑３基、ＳＴ 529谷側斜面上部でＴ－pit１基を掘り下げた。フラスコ状土坑１基（ＳＫＦ 507）の底面から縄文時代後期の壷形土器が１個体出土した。

6月27日に寒沢遺跡の調査を終えた櫻田と長澤が合流した。ＳＴ 504谷のＭＰ50•51グリッド付近の粘質土中から自然木の根元が倒立状態で出土した。（この自然木は、翌年の調査で地山のシラス層の中に埋没した森林内の倒木と確認された。）

７月11日に洗浄した出土遺物の一部（コンテナ200箱）をセンターに搬送した。柴田と長澤が琴丘町中の沢遺跡発掘調査に従事するため池内遺跡を離れる。

ＳＴ 504谷の遺物包含層では土器•石器のほか、炭化物を多量に含む土の中から微小な石器剥片（フレイクチップ）が混在していた。また、遺物包含層は無遺物層の砂層を挟んで２層存在することがわかった。

７月20日にＭＭ49•50グリッドで検出した杭状の木材群（ＳＸ 533、ＳＸ534）の精査を開始した。水場遺構かと推測された。

７月25日から春の範囲確認調査で竪穴住居跡を多く検出したＢ区の粗掘り作業を開始した。遺物が集中出土する箇所をいくつか確認した。

８月１日にＳＴ 504谷とＳＴ 505谷の精査•遺物収納と平行してＢ区の粗掘り作業とプラン確認作業をおこない、Ｂ区の東側のＳＴ 504谷と平行する平坦面で円形あるいは楕円形の竪穴住居跡プラン７、土坑プラン６を検出した。竪穴住居跡プランはいずれも大型であった。

８月５日にＳＴ 505谷の捨て場であるＭＭ43グリッドで大型の深鉢形土器を正位で１個体確認した。集中出土する土器を取り除いた後で下位に検出した土器埋設遺構（ＳＲ 513と呼称）である。土器内部の土から残留脂肪酸分析用試料を上、中、下の３カ所から採取した。

８月９日からＢ区の縄文時代の竪穴住居跡３軒（ＳＩ 601、ＳＩ 602、ＳＩ 604）の掘り下げ•精査に着手した。ＳＩ 601の床面近くの埋土中に同石質の微小な石器剥片（フレイクチップ）が多量に混在していた。竪穴住居跡内の遺物は、土器、石器、自然石を問わず、全点平面実測とレベル計測し１点毎に収納することにした。

８月12日にＥ区の精査が完了した。13日から22日まで現場作業を休みとした。

８月23日から作業を再開し、竪穴住居跡11軒（ＳＩ 605～ＳＩ 615）の掘り下げ•精査に着手した。ＳＩ 610とＳＩ 612は古代の竪穴住居跡である。縄文時代の竪穴住居跡は重複、複数回の拡張が見られるが、焼土•灰の堆積あるいは熱変化のある明確な「炉」は確認できない。ＳＩ 602の床面に同心円で弧状の溝が掘りこまれているのを確認したが用途と性格は不明である。ＳＩ 610竪穴住居跡は、埋土が全量大湯浮石層である。廃棄直後に火山灰の降下があり、埋まったあるいは、埋められた状況である。

８月30日に２間×２間の総柱の掘立柱建物跡を確認したが、南側に鎮座している八幡神社の旧社跡と確認され、その北側から灯明具などを廃棄した長方形のゴミ穴も検出した。Ｂ区の南西側地域の粗掘り作業も進捗しており、柱穴様ピットを含む遺構プランが不鮮明ながらも検出し始めた。

９月１日にＳＩ 609の埋土中から下半を欠損する岩偶が1点出土した。この地域のプラン確認作業が進み、竪穴住居跡プラン６、土坑プラン20を新たに検出した。

９月５日からＢ区南側中央にＪ字形にくぼんでいる谷（ＳＴ 639）の粗掘りを開始した。Ｅ区の空中写真測量による地形図作成のため、ラジコンヘリによる写真撮影を実施した。

９月７日に精査中のＳＫＦ 626フラスコ状土坑の底面に放射状の細い溝を確認した。

９月８日に隅丸長方形プランの土坑３基を精査し、ＳＫＳ 633以外は副葬した遺物はないが、形態から土壙墓（ＳＫＳ 630、ＳＫＳ 635）と判断した。

南西側地域のプラン確認作業と精査も進み、西寄りに現地形では見えない埋没谷（ＳＴ 642谷と呼称）と、北西側に４年度のＡ区でその存在が明らかになっていた埋没谷（ＳＴ 156谷）の左岸部分と谷頭を検出した。ＳＴ 642谷が埋没してから古代の竪穴住居跡（ＳＩ 665、ＳＩ 666）が作られ、ＳＴ 156谷でも縄文時代の竪穴住居跡（ＳＩ 690、ＳＩ 728、ＳＩ 730、ＳＩ 731）が谷の埋没後に作られていたのを確認した。縄文時代のＳＩ 663竪穴住居跡の床面は、中央部が長方形に１段低くなっていた。

９月20日に大館市立上川沿小学校5・６年の児童29名が郷土学習のため現場見学した。

精査が進み、Ｂ区の北側で検出した隅丸長方形プランの土坑８基を精査の結果、土壙墓（ＳＫＳ 717、ＳＫＳ 718、ＳＫＳ 817、ＳＫＳ 819、ＳＫＳ 822、ＳＫＳ 824、ＳＫＳ 825、ＳＫＳ 826）と判断した。この区域の土壙墓は、Ａ・Ｄ区と一連のものと判断した。また一方、ＳＫＳ635の北側にもＳＫＳ 808を検出したが、この南側の４基の土壙墓は、北側の群とは別群と判断した。

ＳＴ 639谷の北側に検出したＳＩ 658竪穴住居跡は、現代のゴミ焼き穴で撹乱されていたため谷との新旧関係を明確にできなかった。

古代のＳＩ 722竪穴住居跡の埋土は上面に黒色土が１層薄く堆積しているだけで、以下は全量大湯浮石層である。床面に焼土、炭化材が多く見られることから、所謂焼失家屋であろう。廃棄直後に火山灰の降下があり、埋まったのかあるいは、埋められたのか不明である。

ＳＫＦ 733フラスコ状土坑では、円筒下層式の深鉢形土器と大木式の深鉢形土器が共伴出土し、ＳＫＦ 818フラスコ状土坑では、埋土中位から石鏃がまとまって出土した。また、ＳＫＦ 823フラスコ状土坑では、埋土中から黒色化したクルミの核が出土した。

11月２日に担当者同士の連絡不足から、監督不在のまま作業員が掘り進めてしまい、ＳＴ 639谷のＭＩ62・ＭＨ62グリッドのⅣ・Ⅴ層からニワトコなど多量の植物種子とクルミの核、クリなどの堅果類、獣骨が出土したことがわかり、このグリッドからの排土を全量回収した（コンテナで160箱）。ＳＴ 639谷では両側の斜面が地滑りを起こしており、南側（谷下方）でせき止められたためその上方では湧水による静水域が出現し、動・植物遺存体が良好な状態で保存されたと考えた。

ＳＴ 639谷では、多量のクルミの核、樹皮（桜）、二枚貝、自然木などの出土が続いていた。

11月８日にセンター所長が来跡し、ＳＴ 639谷の動・植物遺存体堆積層の取り扱い、調査方法と終了期限について再検討するよう指導があり、今年度はこれ以上掘り下げず、来年度専門家の指導を得て精査することにし、文化課を通じて原因者にこの部分の工事延期・来年度調査を了解してもらった。

11月14日には曇り空から時々雪が舞う寒さの中で精査の終了した遺構図面の点検を進めた。

11月15日にＢ区の空中写真測量による地形図作成のため、ラジコンヘリによる写真撮影を実施した後、撤収作業をおこない、今年度の発掘調査を終了した。

平成６年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡43軒、フラスコ状土坑40基、Ｔ－pit７基、土壙墓14

基、土坑66基、土器埋設遺構６基、古代の竪穴住居跡９軒、土坑１基のほか、柱穴様ピット2,725カ所、捨て場４カ所を検出し、調査した。出土した遺物はコンテナ18で1,820箱である。

《平成７年度》

平成７年４月20日に櫻田・本田・非常勤職員の長澤の３人が担当となり、Ｂ２区とＦ区あわせて6,910㎡を調査することになり、Ｆ区の北側区域の粗掘りから開始した。この区域は平成５年度に表土を剥いでおり、約10㎝の深さで大湯浮石の混合層の部分堆積を検出した。

櫻田は調査全体の指示をしたあと、粗掘りを本田・長澤にまかせ、年度末定期人事異動により小畑が県立高校定時制教諭に異動したため、大館整理室で過去３年分の整理作業の進捗状況の確認と、トレース用図面の再チェック、石器選別作業、土器の接合・復元指導、土器・石器の実測指導と実測図面のチェック、拓本用土器片の選別・採拓指導などをおこなった。

５月中旬から植物遺存体に詳しい五十嵐学芸主事（鷹巣町伊勢堂岱遺跡担当）や青森県教育庁文化課の伊藤由美子主事（三内丸山遺跡植物遺存体担当）に電話でアドバイスを受けながら、大館整理室で昨年度回収したＳＴ 639谷の土を、水でかけながらメッシュの異なる篩（フルイ）を数個重ねての篩選別の後、フローテーション選別法による浮遊遺物の回収を繰り返した。この作業中に、彫刻されたクルミ、漆を塗った木片、禾本科植物を編んだような植物遺存体、クルミ、クリ、トチノキ、桜皮、木片、多量の種子、獣骨、魚骨、貝などを発見した。これら選別した遺物は、応急的に水を入れた大型密閉容器に保管した。

５月19日にＦ区全域の粗掘りを終了し、北側区域の遺構プラン確認作業を開始した。24日から農道の砕石剥ぎ取りを開始した。遺構プランを検出し始めたが、５月中旬から６月初めまで降雨が連続し、作業が遅延した。６月１日から大湯浮石混合層の堆積部分にトレンチを入れ精査した。

６月６日から昨年掘り残したＢ区ＳＴ 639谷の越冬による崩落土の除去（コンテナに採取）を開始した。

６月８日に国立歴史民俗博物館の辻 誠一郎助教授、センター所長、高橋・五十嵐の両学芸主事が来跡し、辻助教授からＳＴ 639谷の調査方法と植物遺存体の取り扱い方について細かな指導を受けた。また、池内遺跡から伊勢堂岱遺跡の担当に異動していた、植物遺存体の調査経験の豊富な五十嵐学芸主事に担当させるべきとの意見が辻助教授からあり、１カ月間という期限付ながら本田と五十嵐の担当交換がおこなわれた。

６月９日に調査のために谷の軟弱な堆積層や動・植物遺存体を破壊しないための足場を組んだ。また、上部には降雨による調査の中断防止と遺物の流出・移動を防止するために、パイプを組んで園芸ハウス用の透明ビニールシートの屋根（開閉自在）をかけた。

遺跡のある台地の掘削面を観察していた辻助教授が、シラス中に包含されている自然木群が、火砕流で埋没したトウヒ属の森林で、その当時の起伏に富んだ地表面がそのまま残っていることに注目し、さらに南九州を噴出源とする広域火山灰らしい粉状火山灰が薄く堆積しているのを発見した。

６月13日に縄文時代の木製品が専門の東京都立大学の山田 昌久助教授、植物種子が専門の流通科学大学の南木 睦彦助教授、樹種同定が専門の大阪市立大学の植田 弥生女史が来跡してＳＴ 639谷を見学した後、大館整理室に移動して、昨年度回収したＳＴ 639谷の土から採集した各種植物遺存体の分類、同定方法等について細かな指導を受けた（15日まで）。

６月19日から五十嵐がＳＴ 639谷の動・植物遺存体が多く出土したＭＨ61・62、ＭＩ61・62グリッドの調査を再開した。進入通路、排土運搬路、土層観察用ベルト設定、先進トレンチの設定、レベル原点移動をおこない、４ｍ方眼となっているグリッドを16分割して遺物を収納することにし、遺物には個々に番号を付して実測後収納した。最上位に堆積する撹乱されたドロドロの土を除去し、水を張ったバケツに遺物を採集して

ザルで水切りして土器、石器・石製品・石器剥片、動・植物遺存体に大別した。

6月21日に湧水の集合桝を設定し排水ポンプを稼働させることにした。MH61・62、MI61・62グリッドでの土層をⅠ：泥土、Ⅱ：シラス・砂・黒褐色土の「ゴマシオ」層（円筒下層a・b式土器包含層）、Ⅲ：クルミ・木材包含層、Ⅳ：シラス漸移層とした。（動・植物遺存体の包含層が、円筒下層a・b式土器包含層の下位に検出されることは、昨年度の調査でも確認済みであった。）

6月23日にセンター所長と國学院大学小林 達雄教授が来跡した。

6月26日午後に急な大雨が降り、谷の周りの平坦面から雨水が滝のように降り注ぎ、谷が一時水没する騒ぎになった。急遽、平坦面の縁辺に排水路を掘り、谷に雨水が入らないように処置した。

6月28日にMH62グリッド6区のⅢ層でニワトコの集中堆積、MI61と62グリッドのⅢ層に入れたNo.2トレンチで自然木と加工材を検出した。

6月29日午後から報道11社に「池内遺跡で縄文時代前期の動・植物遺存体の包含層を発見し、日本最古級の高台付漆塗り大型皿形木製品、加工材、樹皮、クルミ、クリ、トチノキ、植物種子、獣骨、魚骨、貝などが出土した。集落を構成する竪穴住居跡・貯蔵穴・土壙墓・捨て場をワンセットで発見し、池内遺跡は集落構造ばかりでなく生活全般を解明できる遺跡である」ことを発表した。

7月1日から7月21日まで、出土品を大館整理室に展示したところ、530名の市民が訪れた。

7月6日に北秋田土木事務所長が来跡した。ニワトコの純層（厚さ2㎝）数カ所、ドーナツ状の木製品（直径10㎝）1点、切断された木材、自然木、加工材、樹皮、クルミ、クリ、植物種子、獣骨、魚骨、貝などの出土が続く。

7月6日に伐採され、横倒しになっていた大木の下から破断面が新しい漆塗り木製品の破片が出土した。高台付漆塗り大型皿形木製品の一部と考えられた。

この後14日まで降雨が続き、湧水量が多すぎて水没する日が続く。

7月14日に大館整理室で洗浄中のニワトコ集中土壌から琥珀の玉を1個発見した。県内で縄文時代の琥珀の玉の出土は初めてであった。谷の調査を湧水のため中止し、全員でF区の南側調査区で粗掘り作業をおこない、竪穴住居跡プラン3、土坑プラン5を検出した。

7月20日に国立歴史民俗博物館の辻 誠一郎助教授が大阪市立大学生4名と東北大学生4名を同行し、台地を形成しているシラス火砕流に埋没する森林の調査と、ST 639谷のⅡ層から2点（サンプル①・②）、ニワトコ層から1点（サンプル③）、Ⅲ層から2点（サンプル④・⑤）、Ⅳ層から3点（サンプル⑥・⑦・⑧）の花粉分析試料の採取をおこなった。

7月21日未明に事務所荒らしに遭い、冷蔵庫に入れていたメロンと缶コーヒーを盗まれた。ST 639谷の調査を五十嵐から櫻田が引き継ぐ。F区南側調査区で遺構プランの検出が続いた。

7月24日に本田が復帰した。F区北側区域の精査終了に伴いラジコンヘリによる空中写真測量用の撮影をおこなった。F区南側区域の遺構の掘り下げとST 528谷の精査を開始した。

8月1日にST 639谷のMH62-10区のⅢ層からシカの左側下顎骨が出土した。この後、獣歯、昆虫、魚骨などの出土が続く。

8月10日からF区のST 396谷の掘り下げ精査を開始した。この谷は平成5年度に谷頭区域をST 396谷として調査したが、平成6年度にST 504谷として中央から谷尻区域を調査しており、今年度は5・6年度調査区域に挟まれた区域の調査であった。円筒下層c・d式土器の出土が多い。

8月24日に、洗浄中のST 639谷の堅果類のなかに、クルミの核（所謂殻）の表面を研磨したあと彫刻を

施している「彫刻クルミ」が出土していたことがわかった。

８月下旬に池内遺跡の整理作業をしている大館整理室の建物が、大館市の博物館展示室として11月から改修されることになり、センター本所へ撤退することについて大館市教育委員会と協議がもたれた。「建物３階にも公文書館構想があるが、とりあえず３階への移動」を提示した大館市教育委員会と「公文書館構想が具体化すればまた移動を余儀なくされる」センター側の話し合いは平行線をたどったが、「引っ越し」の準備を進めるよう指示があった。

８月29日からＳＴ 639谷の基本ベルトの「土層転写」作業を開始した。

８月30日からＳＴ 639谷の基本ベルトの部分的な撤去作業を開始したが、ベルト内にも遺物が多いため、実測•収納しながらの作業となった。Ｆ区のＳＴ 396谷では、遺物が谷の両側から捨てられたような状況で大量に出土した。

９月13日にＳＴ 639谷の南側半分（谷尻側）を１ｍメッシュで区画し、平面的な掘り下げを開始した。形のわかる遺物には個々に番号を付して実測•収納するが、その他については一括番号を付し、範囲を記録後収納した。谷の北西側斜面に立ち木の根がタコ足状に数本残っていた。Ｆ区のＳＴ 396谷の南北ベルトの実測と写真撮影が終了し、ベルトの撤去を開始したが、遺物が多く実測•収納しながらの作業となった。

９月26日に文化課主席課長補佐、熊谷学芸主事が大館市教育委員会と大館整理室撤退について再協議した結果、大館整理室は３階に移動縮小させて存続し、センター本所と２カ所に分散して整理作業を進めることになった。Ｆ区平坦面の精査がほぼ終了し、写真撮影の準備（清掃）をおこなう。

10月に入ってから降雨が続き、遺物の洗浄をおこなう日が多くなった。

10月５日から現場撤収の準備作業開始。

10月６日にＦ区のＳＴ 396谷のベルト撤去が作業し、写真撮影のための清掃作業を開始した。

10月11日にＦ区南区域の平坦面とＳＴ 396谷、ＳＴ 528谷、Ｂ２区のＳＴ 639谷の精査終了に伴いラジコンヘリによる空中写真測量用の撮影をおこなった。

10月12日と13日の両日にＦ区南区域の平坦面とＳＴ 396谷、ＳＴ 528谷、Ｂ２区のＳＴ 639谷の地上からの写真を撮影し、撤収作業開始。

10月13日に４年間にわたる発掘調査を完了した。

平成７年度の発掘調査では、縄文時代の竪穴住居跡８軒、Ｔ－pit２基、土壙墓２基、土坑64基、古代の竪穴住居跡１軒のほか、柱穴様ピット1,940カ所、捨て場２カ所、現代の（柱列）１条、溝状遺構２条、薪棚跡３カ所、性格不明遺構３基などを検出し、調査した。出土した遺物はコンテナ18で1,638箱である。

４カ年に亘る池内遺跡の発掘調査で、縄文時代の遺構は竪穴住居跡79軒、土壙墓45基、フラスコ状土坑171基、土坑179基、Ｔ－pit22基、土器埋設遺構９基、掘立柱建物跡63棟、捨て場５カ所である。続縄文時代の遺構は土坑１基である。古代の遺構は竪穴住居跡32軒、土坑６基、焼土遺構13基である。現代の遺構は、竪穴状遺構１基、土坑２基、柱列（棚列１棟）４条、溝状遺構６条、神社跡１棟、薪棚跡３カ所である。時期不明の遺構は、性格不明遺構５基である。総遺構数は642、捨て場５カ所である。柱穴様ピットは9,466カ所である。出土した遺物はコンテナ18で4,904箱である。

第４章　調査の記録

第１節　縄文時代の遺構とその出土遺物

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡79軒、土壙墓45基、フラスコ状土坑171基、土坑177基、掘立柱建物跡63棟、Ｔ－ｐｉｔ22基、土器埋設遺構９基、捨て場５カ所の、計566遺構と捨て場５カ所であった。

竪穴住居跡79軒のうち、長軸が10ｍ内外の所謂大型住居と呼ばれる規模の竪穴住居は、上野台地の南西寄りの縁辺に分布し、特にＳＴ639谷とＳＴ396・504谷に挟まれた舌状台地区域に集中していた。直径４ｍ内外の竪穴住居は上野台地の縁辺部を巡るように分布していた。掘立柱建物跡は上野台地の南西寄りに集中していたが、建物の桁方向に北東－南西方向と北西－南東方向の２種類があった。

この方向性の違いは、土壙墓にも見られた。土壙墓は掘立柱建物跡群の北西側に平行するように集中する群と、大型住居区域に北西－南東方向に並ぶ群、ＳＴ396・504谷の谷頭の両側縁辺に分布する群に分かれていたが、土壙墓の長軸方向は、巨視的には北東－南西方向と北西－南東方向の２種類があった。

土器埋設遺構９基のうち、谷の捨て場に埋設された２基は、明らかに土器棺として使用されたものである。

フラスコ状土坑は、上野台地の縁辺部に分布するが、北西寄りの縁辺部近くに特に集中していた。

このことから、北側の萩の台台地と谷を挟んで北東から南西に張り出す上野台地では、萩の台寄りの縁辺部にフラスコ状土坑群、その南東側に土壙墓群、さらに掘立柱建物跡群が３列の帯状に分布していると観察できた。

谷と斜面に形成された捨て場からは、動・植物遺存体、土器、石器、石製品、建物構造材などが大量に出土したが、これについては２冊目の遺物篇にまとめる予定である。また、出土遺物の分類が未完のため、遺構の構築時期は概括的なものに止まっている。

竪穴住居跡

池内遺跡における縄文時代の竪穴住居跡の総数は、79軒である。この中には複数のプランを持ち建て替えられたもの、および同一プラン内において複数の生活面を有するものを19軒（42軒分に相当）含んでいるため、実際には延べ121軒相当の竪穴住居跡を検出したことになる。竪穴住居跡を時期毎に分類すると、縄文時代前期中葉（13軒）・前期後葉（11軒）・前期としたもの（27軒）・中期としたもの（１軒）・時期が不明なもの（26軒）となる。

炉については、地床炉（３軒）・土器埋設炉（３軒）・石囲炉（２軒）・地床炉＋土器埋設炉（２軒）・集礫を伴なう炉（１軒）を確認した。鍋底状の炉と思われるものも17軒確認したが、大部分の竪穴住居跡からは明確な炉を確認できなかった。

竪穴住居跡に付帯する施設としては、土壇（１軒）・床面中央部を長方形に掘り窪めた形態のもの（３軒）・壁溝に並行する波板状のピット群を有するもの（３軒）・床面に土坑を伴なうもの（２軒）・入口様の掘り窪みを有するもの（２軒）を確認した。前２者は従来ベッド状遺構と呼ばれているものである。

また竪穴住居跡の規模も、長径が10ｍを超える３軒を含め、長径が５ｍを超えるものが23軒あり、所謂大型住居跡を多数検出した。これらの大型住居跡の大半は調査区の南部に偏って分布し、建て替え（多くは拡

張）を繰り返しており、他の遺構との配置からも特殊性が窺える。

ＳＩ　25　竪穴住居跡（第6図、図版16・図版17）

《位　　置》　ＮＧ64･65、ＮＨ64･65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫ95土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　長径3.55ｍ×短径2.63ｍ、深さ60㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　20層に分層したが、19層はＳＫ95土坑埋土への貼床である。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで60㎝で、部分的に内傾するがほぼ直立する。

《床　　面》　ほぼ平坦であるが、ＳＫ95土坑と重複する部分は貼床されている。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　長軸線上に６カ所検出されている。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多く、縄文時代前期の土器が出土した（１～５）。石皿（７）のほか、加工痕のある剥片（６）も出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　30　竪穴住居跡（第7図、図版17・図版18）

《位　　置》　ＮＩ63･64、ＮＪ63･64グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ88～91フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は、断面の観察および状況により本竪穴住居跡が最も古い。

《規　　模》　長径4.35ｍ×短径3.63ｍ、深さ75㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　24層に分層した。自然堆積と思われる。ＳＫ88土坑と重複する状況が断面図に現れている。

《　壁　》　最も深いところで75㎝で、ほぼ直立する。重複のため、西北辺は削平されている。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、浅い鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

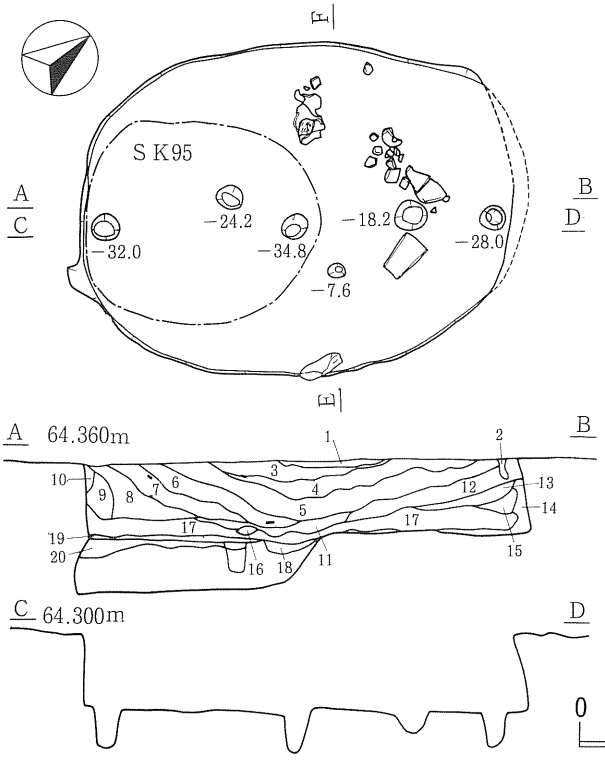
《柱　　穴》　床面に11カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ３が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡るが、南東辺では内側にも部分的にもう１条巡る。外側のプランが新しい時期のものである。

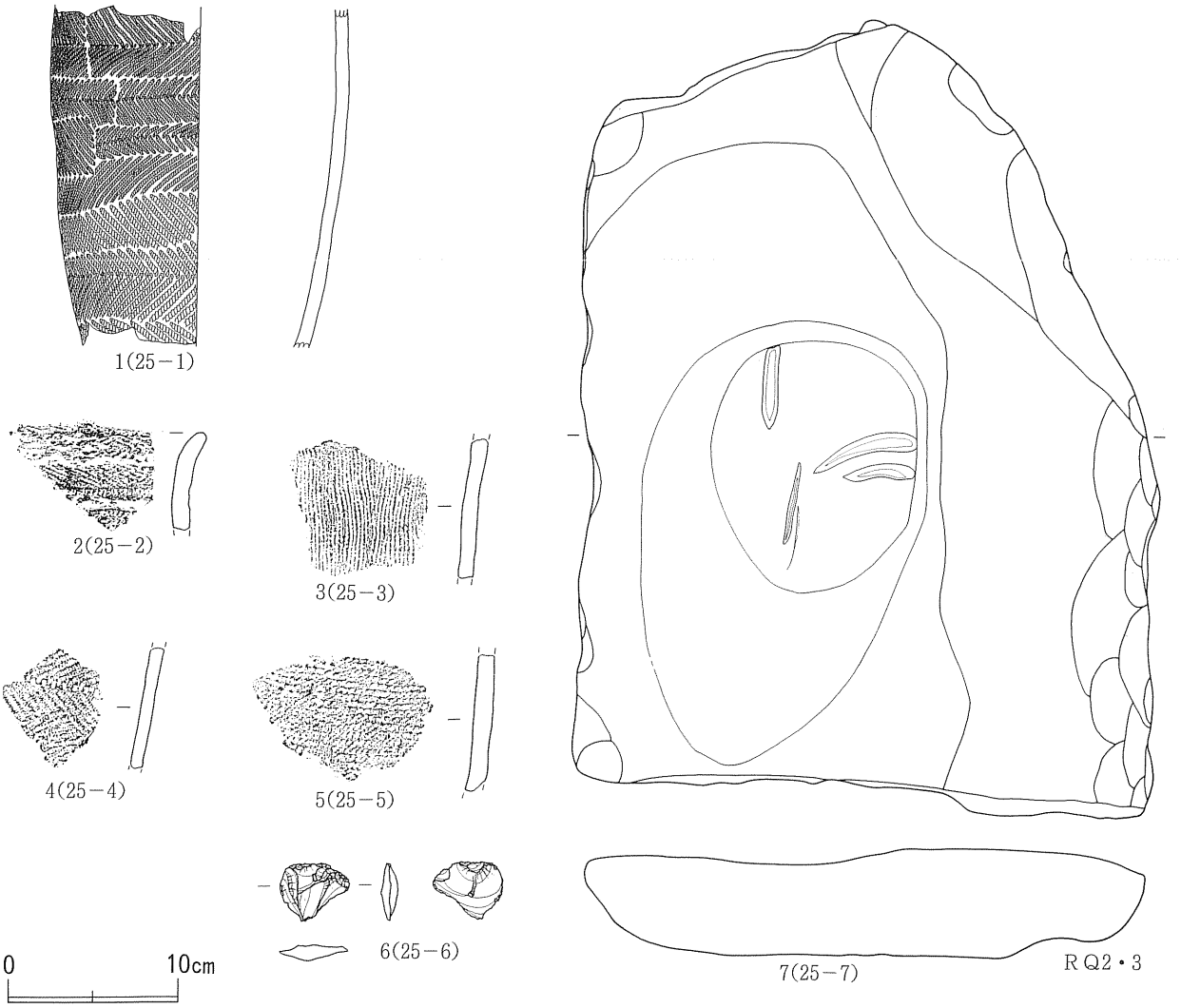
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉（１）・後葉（２～７）の土器、加工痕のある剥片（18～23）が出土した。

《改　　築》　壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。壁溝の平面形から略円形のプランを有したひとまわり小さい竪穴住居を拡張して構築したと考えられる。

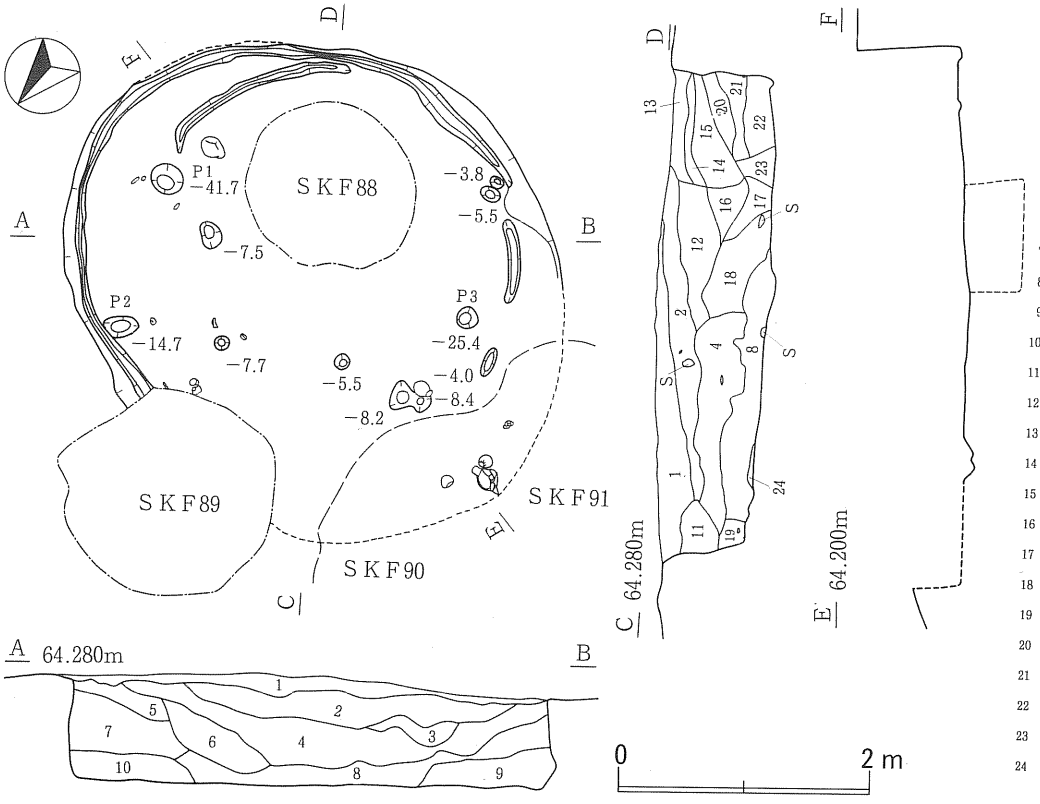
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。



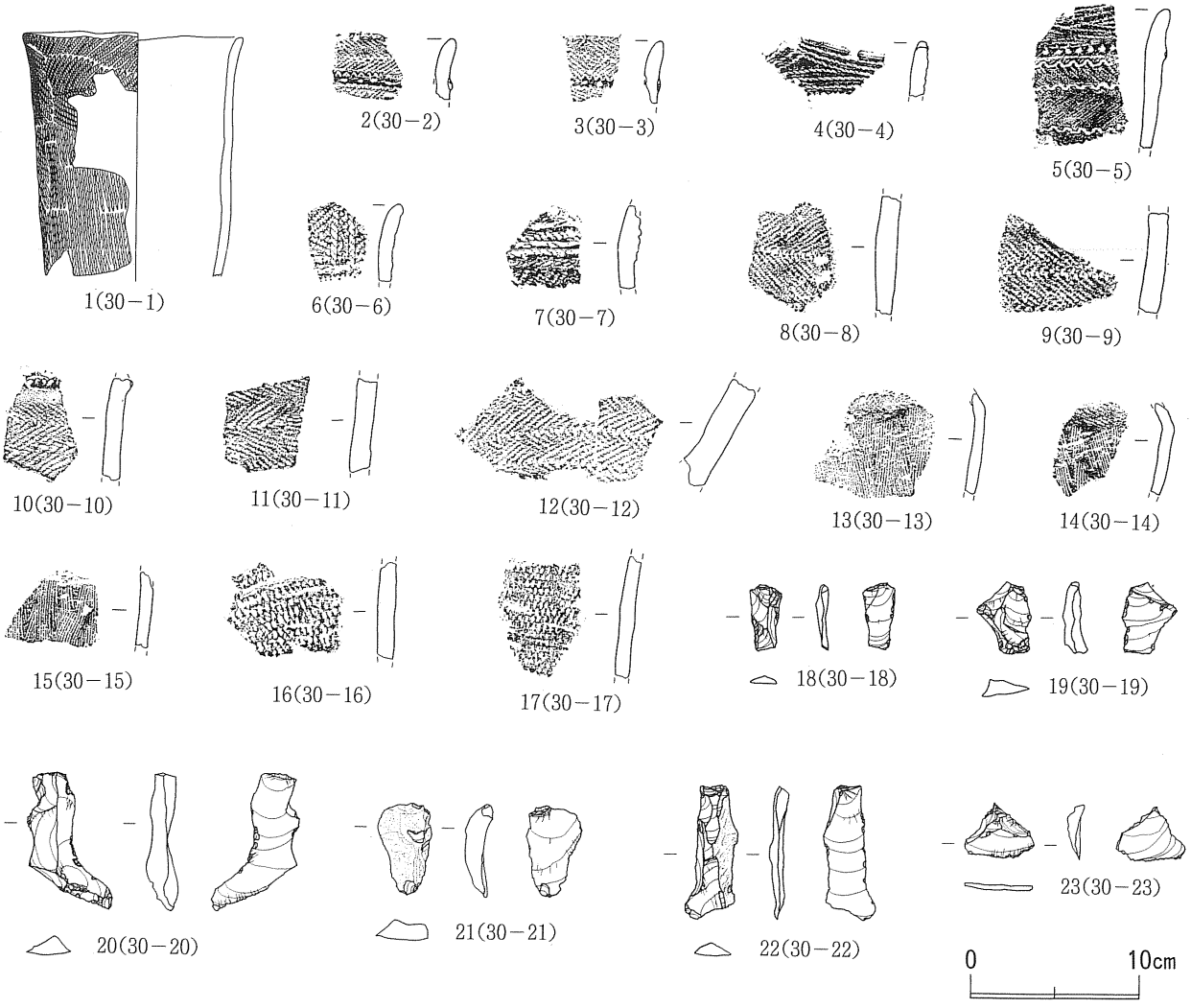
【ＳＩ　25】
1　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。しまり強い。
2　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
3　明黄褐色土(10ＹＲ6／6)　地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。しまり強い。
4　暗褐色土(10ＹＲ3／4)　地山(中粒)・炭(大粒)多量混入。しまり強い。
5　黄褐色土(2.5Ｙ5／6)　地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。しまり強い。
6　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山（中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
7　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5／4)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)少量混入、しまり、弾性有り。
8　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山(大粒)中量・炭(中粒)少量混入。しまり有り。
9　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(中粒)やや多量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
10　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3)　地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
11　黒褐色土(10ＹＲ2／3)　地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。しまり有り。
12　暗オリーブ褐色土(2.5Ｙ3／3)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。
13　黄褐色土(10ＹＲ5／6)　地山(中粒)やや多量・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
14　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(小粒)・炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
15　褐色土(10ＹＲ4／4)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
16　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(小粒)少量、地山(大粒)混入。しまり有り。
17　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　地山(中粒)多量、炭(中粒)中量混入。地山塊(小)混入。しまり有り。
18　黒色土(10ＹＲ1.7／1)　地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
19　貼床。薄層ラミナ。しまり強い。
20　にぶい黄橙色土(10ＹＲ7／4)　白色粘土質シラス。しまり強い。



第６図　SI 25 竪穴住居跡とその出土遺物



【ＳＩ　30】
1　黒褐色土(10ＹＲ3／2)　地山(小粒)少量混入。しまり有り。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Ｙ3／3)　地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
3　明黄褐色土(2.5Ｙ7／6)　地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
4　黒色土(2.5Ｙ2／1)　地山(中粒)・炭(中粒)　中量混入。ややしまり有り。
5　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。しまり有り。
6　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(大粒)多量、炭(中粒)少量、地山塊(中)混入。しまり、弾性有り。
7　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／6)　地山(中粒)多量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
8　暗褐色土(10ＹＲ3／3))　地山(大粒)多量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
9　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(大粒)多量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
10　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3)　地山(大粒)多量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
11　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
12　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(中粒)ごく少量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
13　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
14　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(大粒)多量、炭(小粒)少量混入。しまり強い。
15　黒色土(7.5ＹＲ2／1)　地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
16　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり、弾性有り。
17　黒褐色土(10ＹＲ3／2)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
18　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　地山(大粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
19　オリーブ褐色土(2.5ＹＲ4／3)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややボソボソしている。
20　黒褐色土(2.5Ｙ3／2)　地山(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
21　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。
22　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　地山(中粒)多量、地山塊(中)混入。
23　黒色土(10ＹＲ2／1)　地山(中粒)やや多量、炭(小粒)少量、地山(大粒)混入。しまり有り。
24　黒褐色土(10ＹＲ3／2)　地山（小粒）中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。



第７図　SI 30 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　87　竪穴住居跡（第8図）

《位　　置》　ＮＬ56～59、ＮＭ56～58、ＮＮ56・57グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫ56～59土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡がＳＫ59土坑より新しい。ＳＫ56～58土坑付近は畑耕作で大きく削平されており、新旧関係は不明である。

《規　　模》　確認長で長径10.75ｍ×短径5.6ｍ、深さ20㎝。

《平 面 形》　畑耕作により削平を受けてはいるが長楕円形であると思われる。

《埋　　土》　17層に分層したが、９～14・16層はＳＫ59土坑の埋土である。削平を受けているため詳細は不明であるが、自然堆積と思われる。

《　壁　》　削平を受けているため、一部の壁溝しか残存しない。詳細は不明である。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。中央部を長方形に掘り窪めた形態の床面である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　主柱穴は床面長軸に沿って２列の柱穴が計19カ所検出されている（Ｐ１～Ｐ19）。また長軸線上にも７カ所の柱穴があり、棟持柱の跡と考えられる（Ｐ20～Ｐ26）。

《壁　　溝》　大きく削平を受けているため、一部を北東辺で検出したのみである。詳細は不明である。

《遺　　物》　遺物は出土しなかった。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した遺物はないが、ＳＫ59土坑から縄文時代前期後葉の土器が出土したため、該期以降の時期と思われる。

ＳＩ　108　竪穴住居跡（第9図）

《位　　置》　ＯＣ47･48、ＯＢ47･48グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径3.42ｍ×短径2.24ｍ、深さ18㎝。

《平 面 形》　斜面への崩落のため全容は不明であるが、楕円形だと思われる。

《埋　　土》　崩落および攪乱により表土が流れ込んでいた。

《　壁　》　最も深いところで18㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　長軸線上に３カ所検出されている。

《壁　　溝》　なし

《遺　　物》　埋土中から磨製石斧（１）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　114　竪穴住居跡（第9図）

《位　　置》　ＯＢ47、ＯＣ47グリッドに位置する。

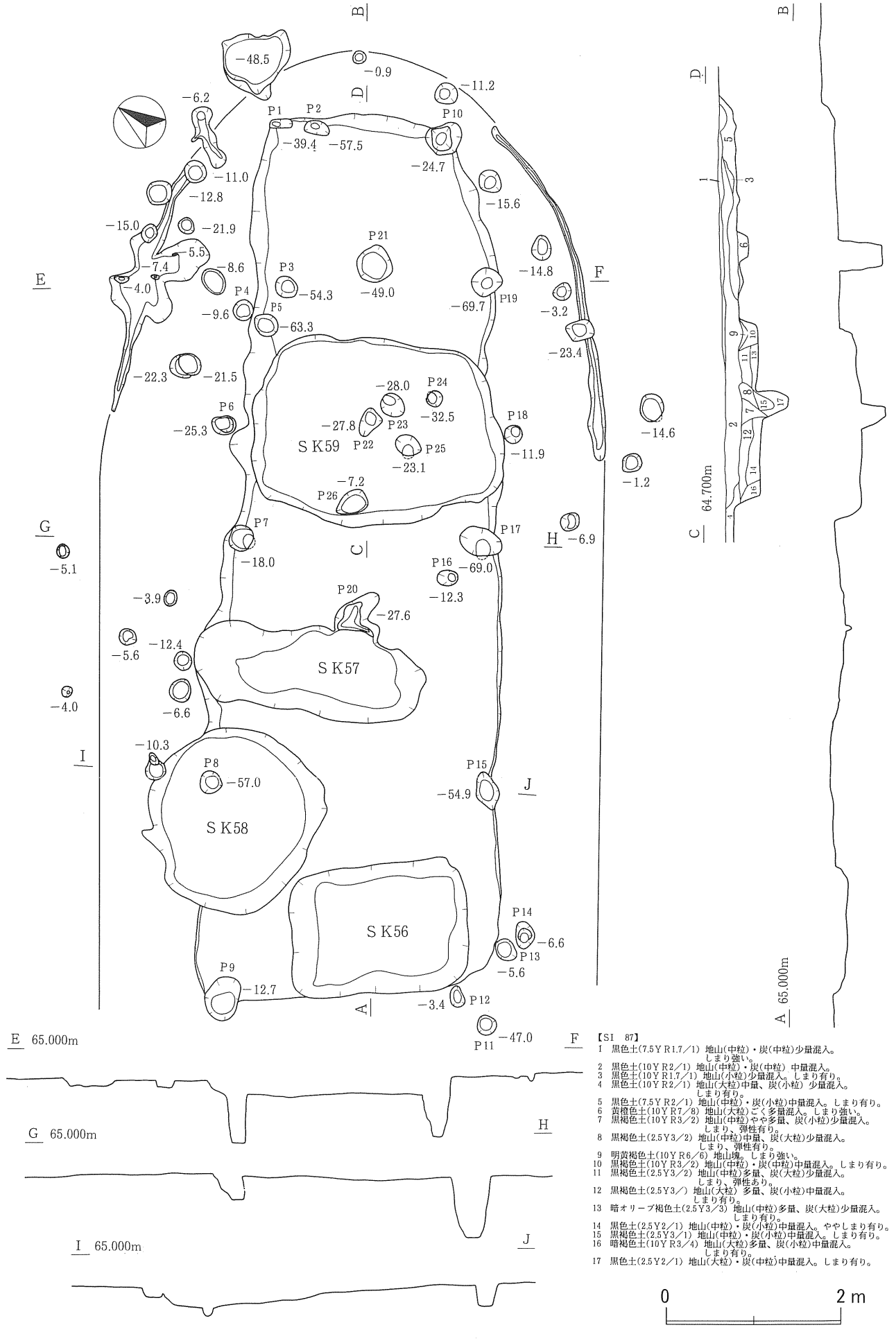
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径2.34ｍ×短径1.94ｍ、深さ６㎝。
《平 面 形》　確認できるプランは略円形である。
《埋　　土》　削平により埋土はほとんど残存していなかった。
《　壁　》　削平のため壁の立ち上がりはほとんど確認できなかった。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　なし。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　127　竪穴住居跡（第10図）

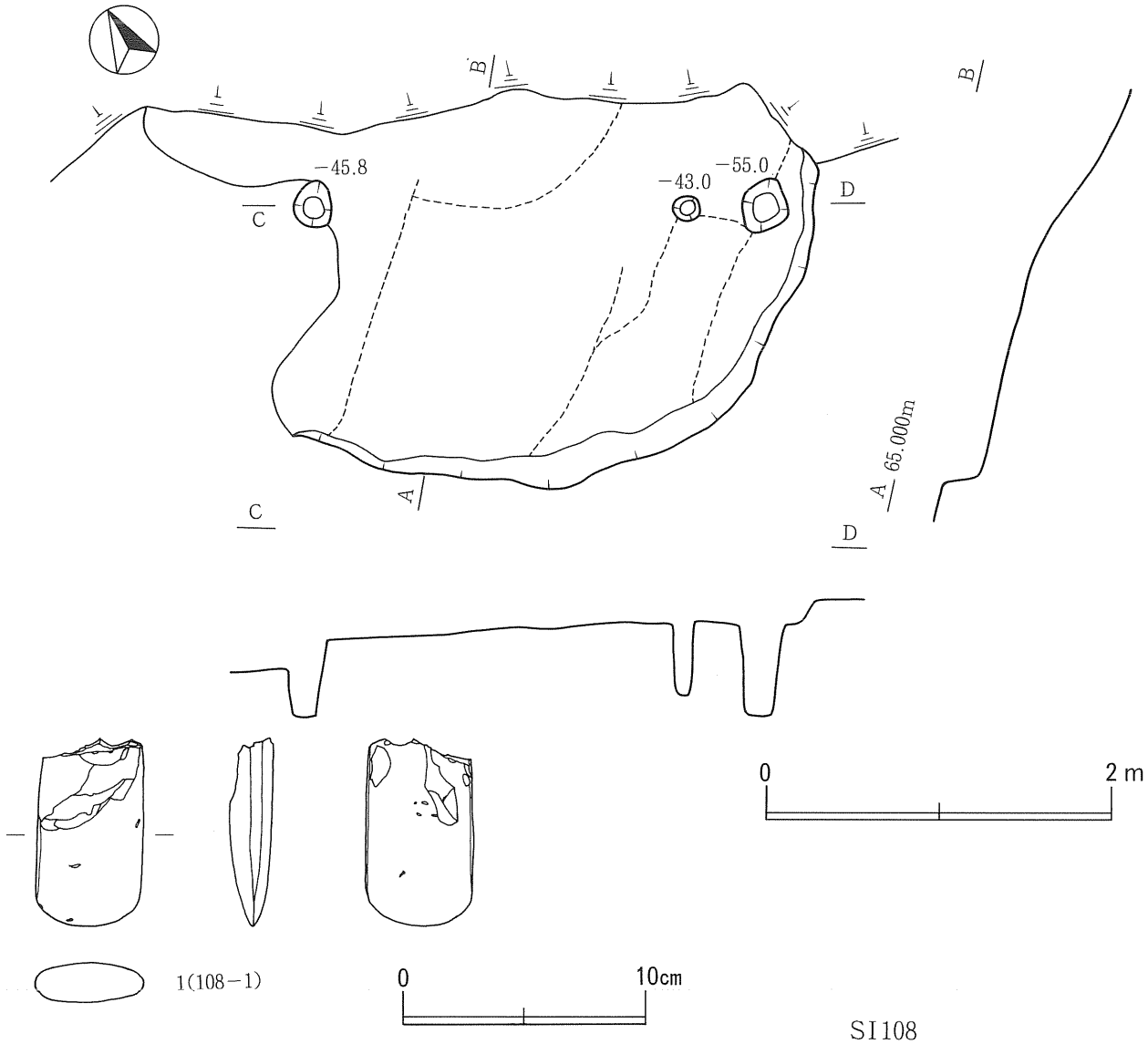
《位　　置》　ＭＭ74･75、ＭＮ74･75グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ234竪穴住居跡、ＳＫＦ242フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡がＳＩ234竪穴住居跡よりも古い。
《規　　模》　長径4.50ｍ×短径4.09ｍ、深さ30㎝。
《平 面 形》　隅丸方形である。
《埋　　土》　27層に分層したが、１・３～７・９～22・24～27層はＳＩ234竪穴住居跡の埋土である。大部分は重複により削平され、自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　最も深いところで10㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。大部分は重複により削平されている。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面および周縁に多数検出した。Ｐ１～Ｐ５が主柱穴と思われる。
《壁　　溝》　一部が東辺に残存する。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期の土器が出土した（１～８）。石器は削器（12）・半円状偏平打製石器（13）・凹石（14）・石皿（15）の他、加工痕のある剥片（９～11）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　132　竪穴住居跡（第11図）

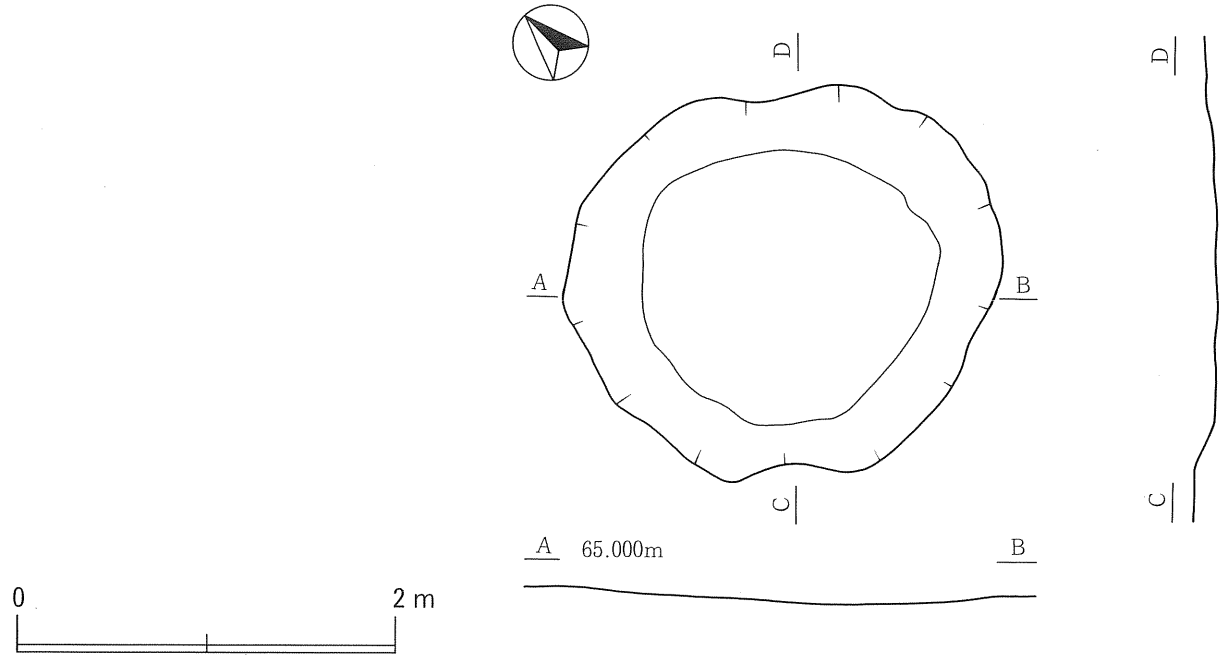
《位　　置》　ＭＱ73グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径2.43ｍ×短径2.20ｍ、深さ40㎝。



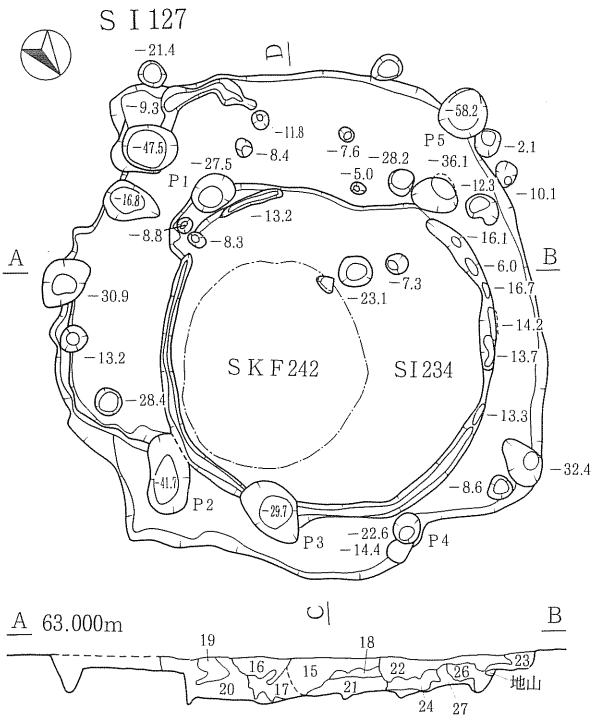
第８図　SI 87 竪穴住居跡

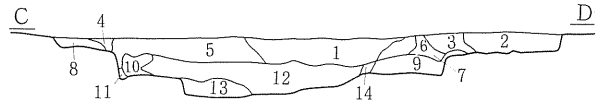


SI114



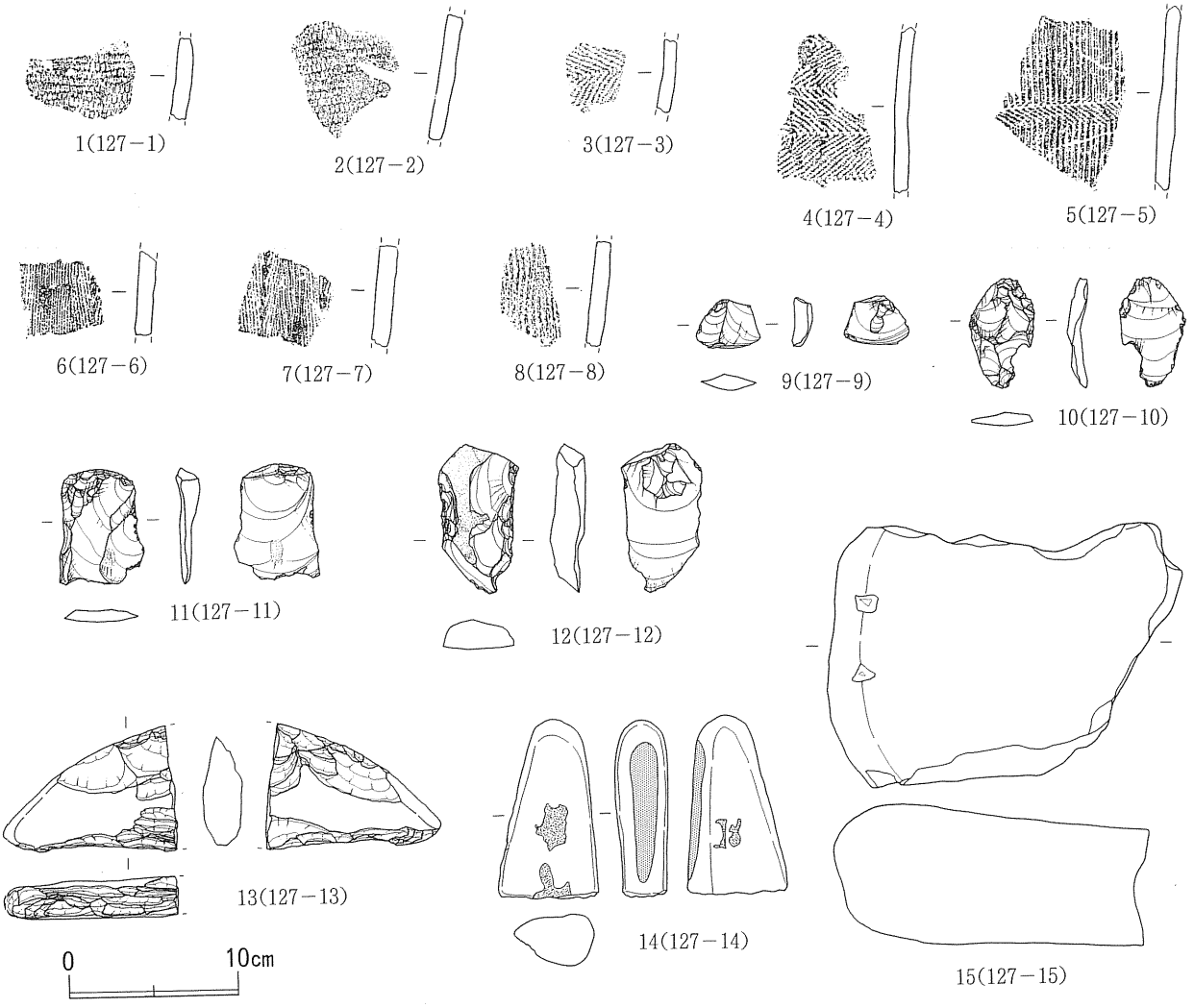
第9図　SI 108・SI 114 竪穴住居跡とその出土遺物





【ＳＩ　127】
1　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
2　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山(小粒)少量混入。しまり有り。
3　黄褐色土(10ＹＲ5／6) 地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
4　黒色土(10ＹＲ1.7／1) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
5　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり、粘性有り。
6　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(小粒)・炭(小粒)中量混入。しまり有り。
7　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
8　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
9　明黄褐色土(10ＹＲ6／6) 地山(大粒)中量混入。しまり悪い。
10　黄褐色土(10ＹＲ5／8) 地山(大粒)中量混入。しまり強い。
11　暗褐色土(10ＹＲ3／4) 地山(小粒)ごく少量混入。
12　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)やや多量混入。しまり有り。
13　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4) 地山(中粒)やや多量、炭(大粒)少量混入。しまり有り。
14　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)やや多量混入。しまり有り。
15　1に同じ。
16　黒色土(7.5ＹＲ1.7／1) 地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
17　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山(小粒)・炭(小粒) 少量混入。ややしまり有り。
18　暗オリーブ褐色土(2.5Ｙ3／3) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
19　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)中量混入。ややしまり有り。
20　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
21　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
22　黒色土(10ＹＲ2／1) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
23　黒褐色土(10ＹＲ3／2) 地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
24　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
25　地山
26　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山(小粒)中量混入。ややしまり有り。
27　黄褐色土(10ＹＲ5／6) 地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。

0　2m



第10図　SI 127 竪穴住居跡とその出土遺物

《平 面 形》　円形である。

《埋　　土》　８層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで40cmで、僅かに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

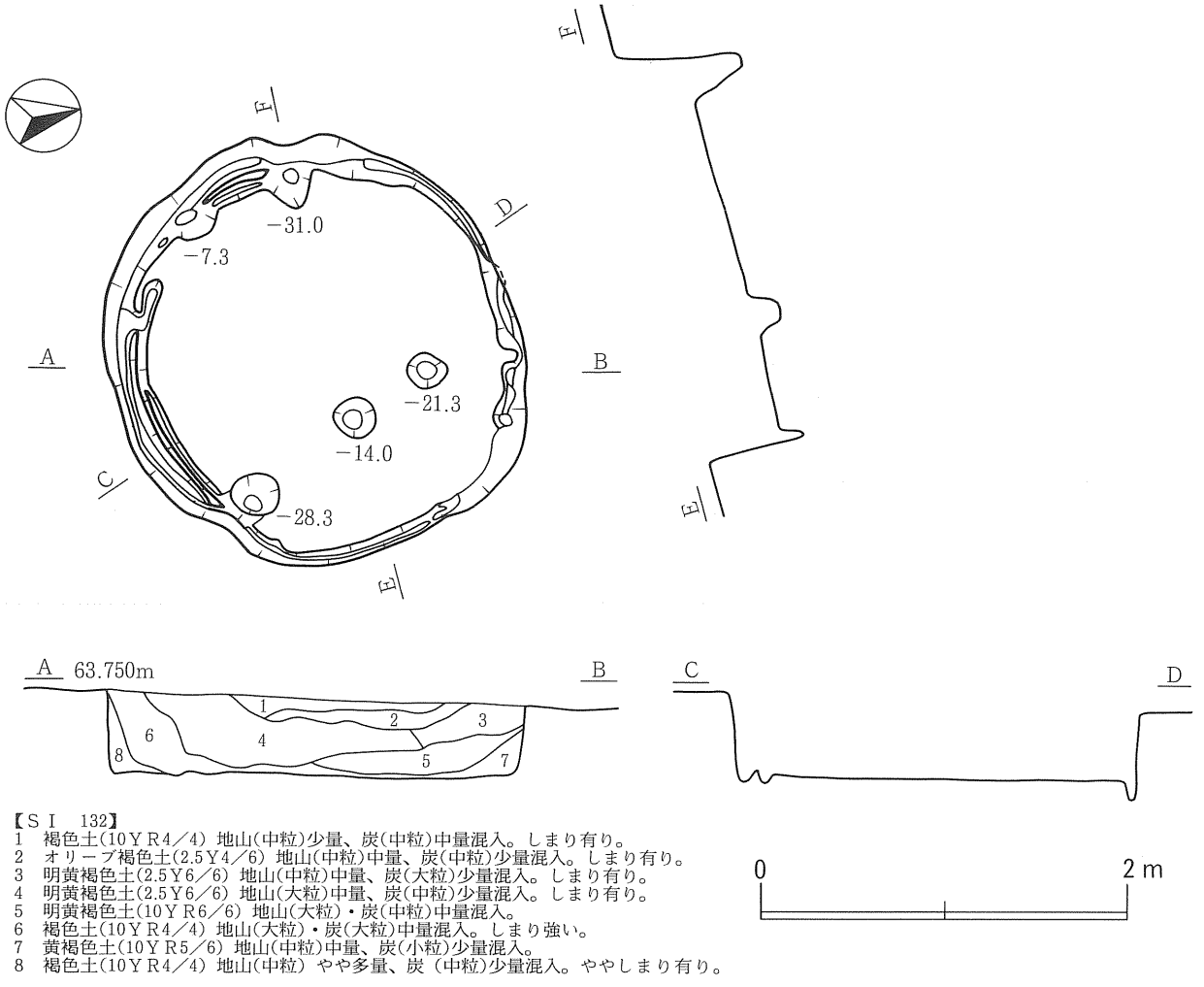
《柱　　穴》　床面に５カ所検出した。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

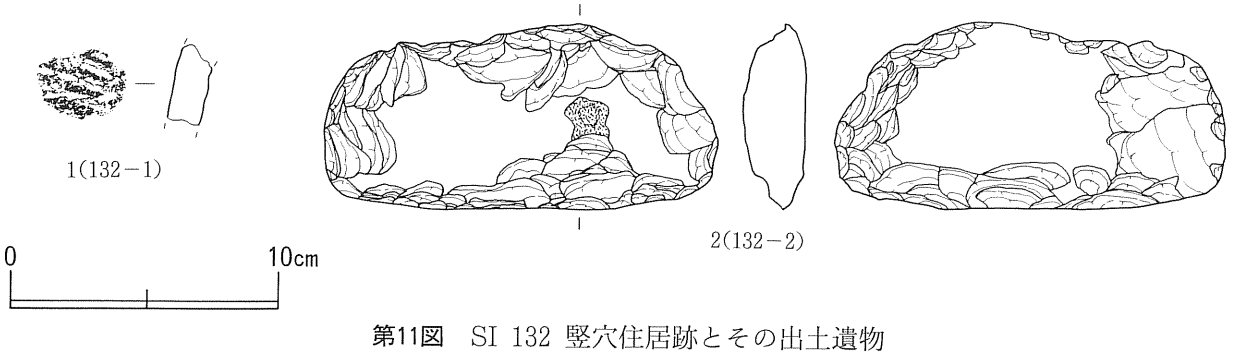
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期の土器（１）、半円状偏平打製石器（２）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。



【ＳＩ　132】
1　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒)少量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
2　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／6) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
3　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6) 地山(中粒)中量、炭(大粒)少量混入。しまり有り。
4　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6) 地山(大粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
5　明黄褐色土(10ＹＲ6／6) 地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。
6　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。しまり強い。
7　黄褐色土(10ＹＲ5／6) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
8　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山(中粒) やや多量、炭（中粒)少量混入。ややしまり有り。



第11図　SI 132 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　136　竪穴住居跡（第12図・第13図、図版19）

《位　　置》　ＭＫ76･77、ＭＬ76･77グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ128・137竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。

《規　　模》　確認長で長径6.05ｍ×短径5.45ｍ、深さ40㎝。

《平 面 形》　重複しているが、壁溝の平面形から楕円形であると思われる。

《埋　　土》　15層に分層した。削平を受けているため、自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで40㎝であるが、削平を受けているため詳細は不明である。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。中央を掘り窪めた形態の床面である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　主柱穴は床面長軸に沿って２列、計７カ所検出されている（Ｐ１～Ｐ７）。また長軸線上にも４カ所の柱穴があり、棟持柱の跡と考えられる（Ｐ８～Ｐ11)。壁面（壁溝）に沿って斜めに掘られた柱穴があり（Ｐ12～Ｐ21)、竪穴住居の垂木尻を据えた穴と考えられる。

《壁　　溝》　１条巡るが、重複により一部は削平されている。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉（１～5・7)・縄文時代中期前葉（６)、石匙（11)・削器（12・13・15)・掻器（14)・擦り石（17)・半円状偏平磨製石器（16)・半円状偏平打製石器（18～20）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＩ　137　竪穴住居跡（第14図）

《位　　置》　ＭＬ77･78、ＭＭ77グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ136竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　長径2.95ｍ×短径2.48ｍ、深さ105㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　８層に分層した。人為的堆積と思われる部分（８層)、および自然堆積と思われる部分（１～７層）がある。生活面が２度構築されていると考えられる。

《　壁　》　最も深いところで105㎝で、ほぼ垂直に立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。８層上面は新期における床面として使用したと考えられる。

《　炉　》　床面に明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。８層上面においては焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

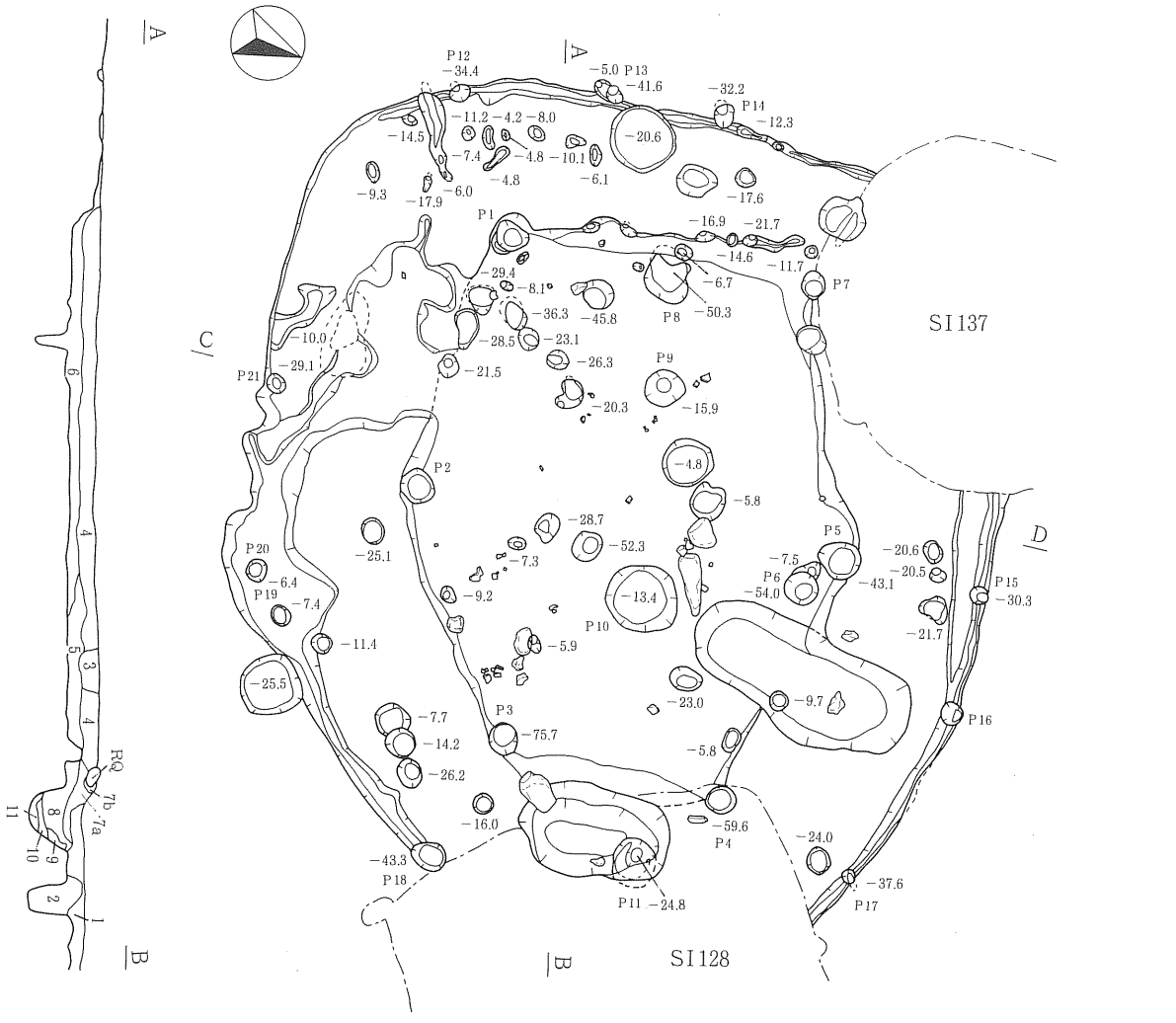
《柱　　穴》　床面に２カ所検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１)・前期後葉の土器（２・３)、半円状偏平打製石器（９・11・13)・石錘（12)・加工痕のある剥片（７・８・10）が出土した。

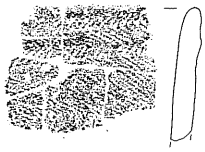
《改　　築》　床面および８層上面の新旧２時期の生活面が想定される。

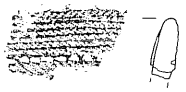
《構築時期》　出土した土器から２時期（縄文時代前期中葉および後葉）に属すると思われる。



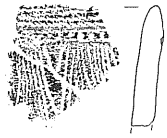
【SI 136】
1　黒褐色土(2.5Y3／2) 地山塊(小)中量混入。しまり有り。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4／6) 地山(小粒)・炭(中粒)中量混入。
　　しまり有り。
3　暗オリーブ褐色土(2.5Y3／3) 地山塊(中)中量混入。ややしまり有り。
4　黒褐色土(2.5Y3／2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
5　オリーブ褐色土(2.5Y4／3) 地山(中粒)やや多量混入。しまり有り。
6　オリーブ褐色土(2.5Y4／4) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。
　　しまり、粘性有り。
7　オリーブ褐色土(2.5Y4／3) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。
　　しまり有り。
7b　黒褐色土(2.5Y3／2) 地山(小粒)ごく少量混入。ボソボソしている。
8　黄褐色土(2.5Y5／4) 地山(大粒)ごく多量混入。しまり強い。
9　明黄褐色土(2.5Y6／6) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
10　オリーブ褐色土(2.5Y4／4) 地山（小粒） ごく少量混入。しまり有り。
11　明黄褐色土(2.5Y6／6) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
12　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5／4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
　　しまり有り。
13　明黄褐色土(2.5Y6／6) 地山(中粒)多量混入。しまり有り。
14　オリーブ褐色土(2.5Y4／3) 地山(小粒)中量混入。しまり有り。

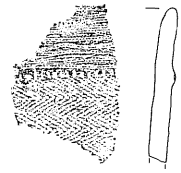
第12図　SI 136 竪穴住居跡

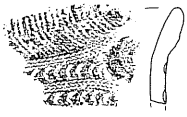

1(136－1)

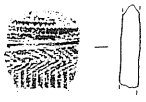

2(136－2)

3(136－3)

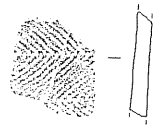

4(136－4)

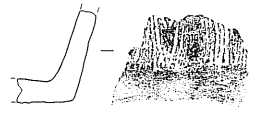

5(136－5)

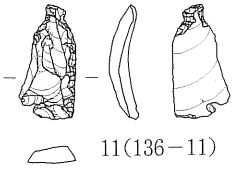

6(136－6)

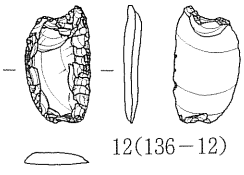

7(136－7)

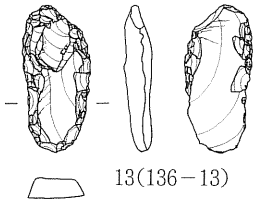
8(136－8)

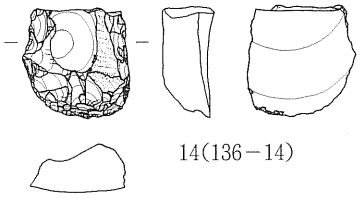

9(136－9)

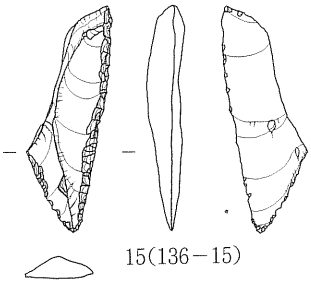

10(136－10)

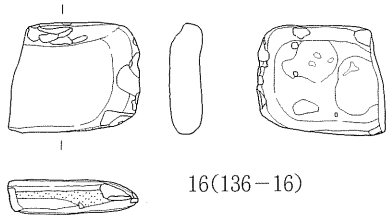

11(136－11)

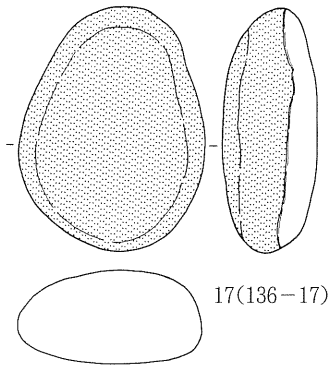

12(136－12)

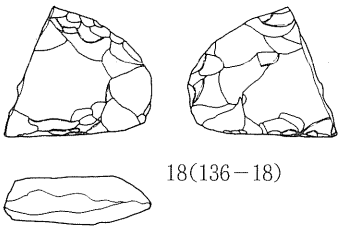

13(136－13)

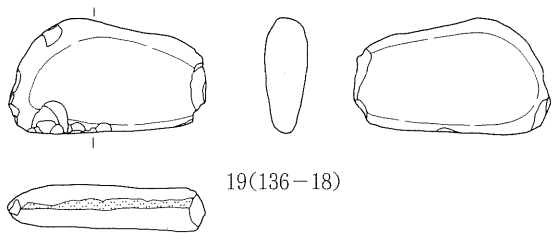

14(136－14)

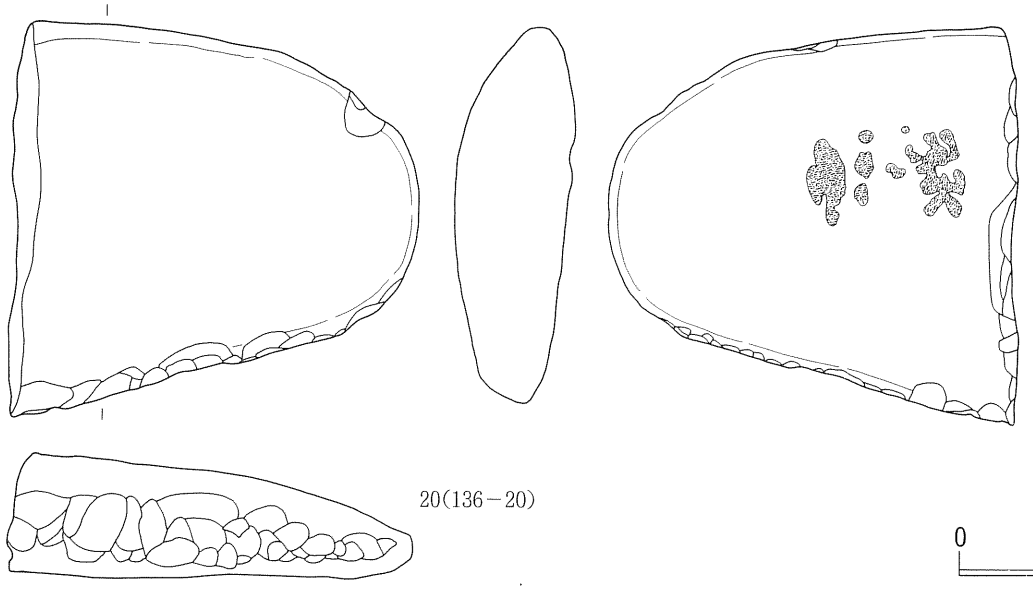

15(136－15)


16(136－16)


17(136－17)

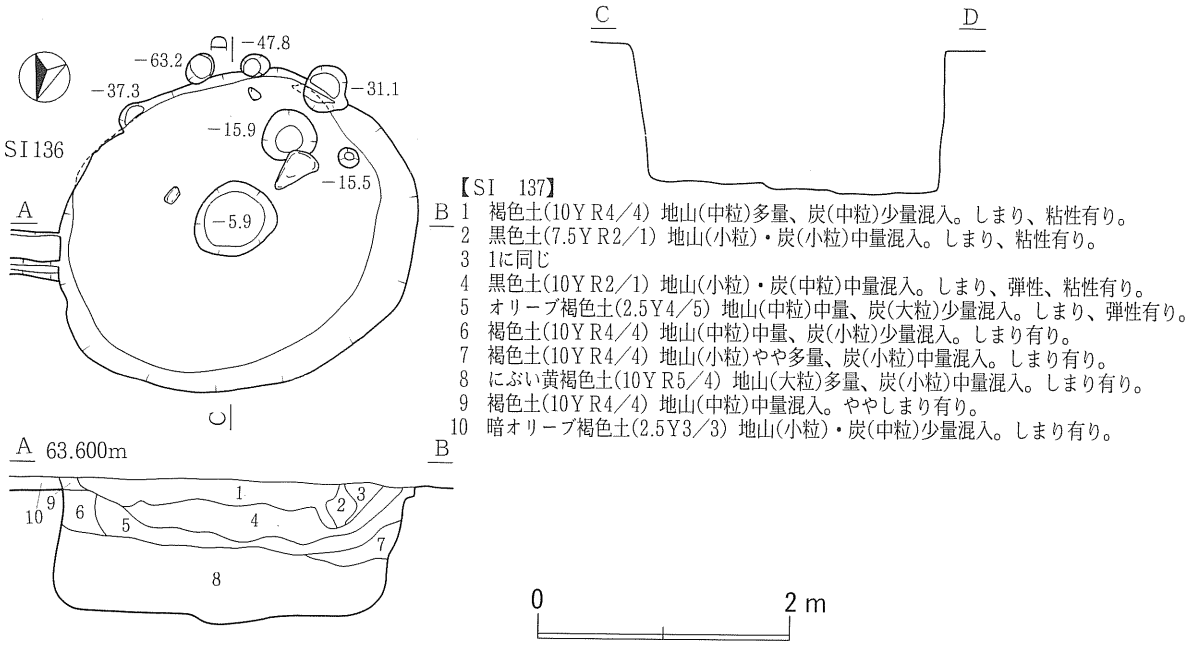

18(136－18)


19(136－18)

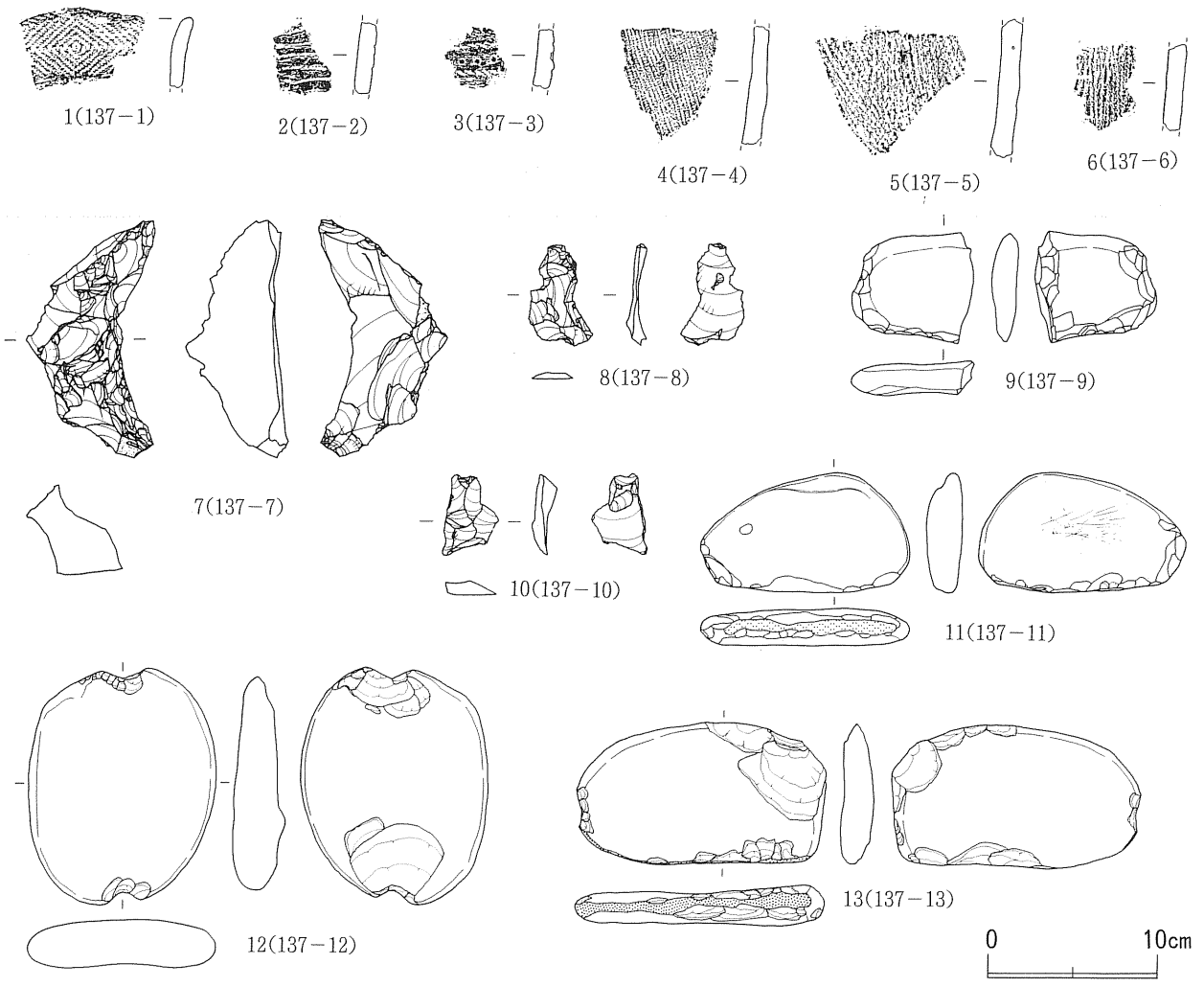

20(136－20)

0　10cm

第13図　SI 136 竪穴住居跡出土遺物



【SI 137】
1 褐色土(10YR4／4) 地山(中粒)多量、炭(中粒)少量混入。しまり、粘性有り。
2 黒色土(7.5YR2／1) 地山(小粒)・炭(小粒)中量混入。しまり、粘性有り。
3 1に同じ
4 黒色土(10YR2／1) 地山(小粒)・炭(中粒)中量混入。しまり、弾性、粘性有り。
5 オリーブ褐色土(2.5Y4／5) 地山(中粒)中量、炭(大粒)少量混入。しまり、弾性有り。
6 褐色土(10YR4／4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
7 褐色土(10YR4／4) 地山(小粒)やや多量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
8 にぶい黄褐色土(10YR5／4) 地山(大粒)多量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
9 褐色土(10YR4／4) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
10 暗オリーブ褐色土(2.5Y3／3) 地山(小粒)・炭(中粒)少量混入。しまり有り。



第14図　SI 137 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　138　竪穴住居跡（第15図）

《位　　置》　ＭＭ78グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径3.21ｍ×短径2.12ｍ、深さ23㎝。

《平 面 形》　斜面への崩落のため全容は不明であるが、楕円形だと思われる。

《埋　　土》　５層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで23㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。西辺は斜面へ崩落している。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に３カ所検出した。Ｐ１・Ｐ２が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器が出土した（１）。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　139　竪穴住居跡（第16図）

《位　　置》　ＭＭ77グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.26ｍ×短径1.96ｍ、深さ92㎝。

《平 面 形》　略円形である。

《埋　　土》　18層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで92㎝で、ほぼ直立する。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に１カ所、周縁に４カ所検出したが、対向するＰ２～Ｐ５主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。石匙（１・２）・加工痕のある剥片（３）・石皿（４）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

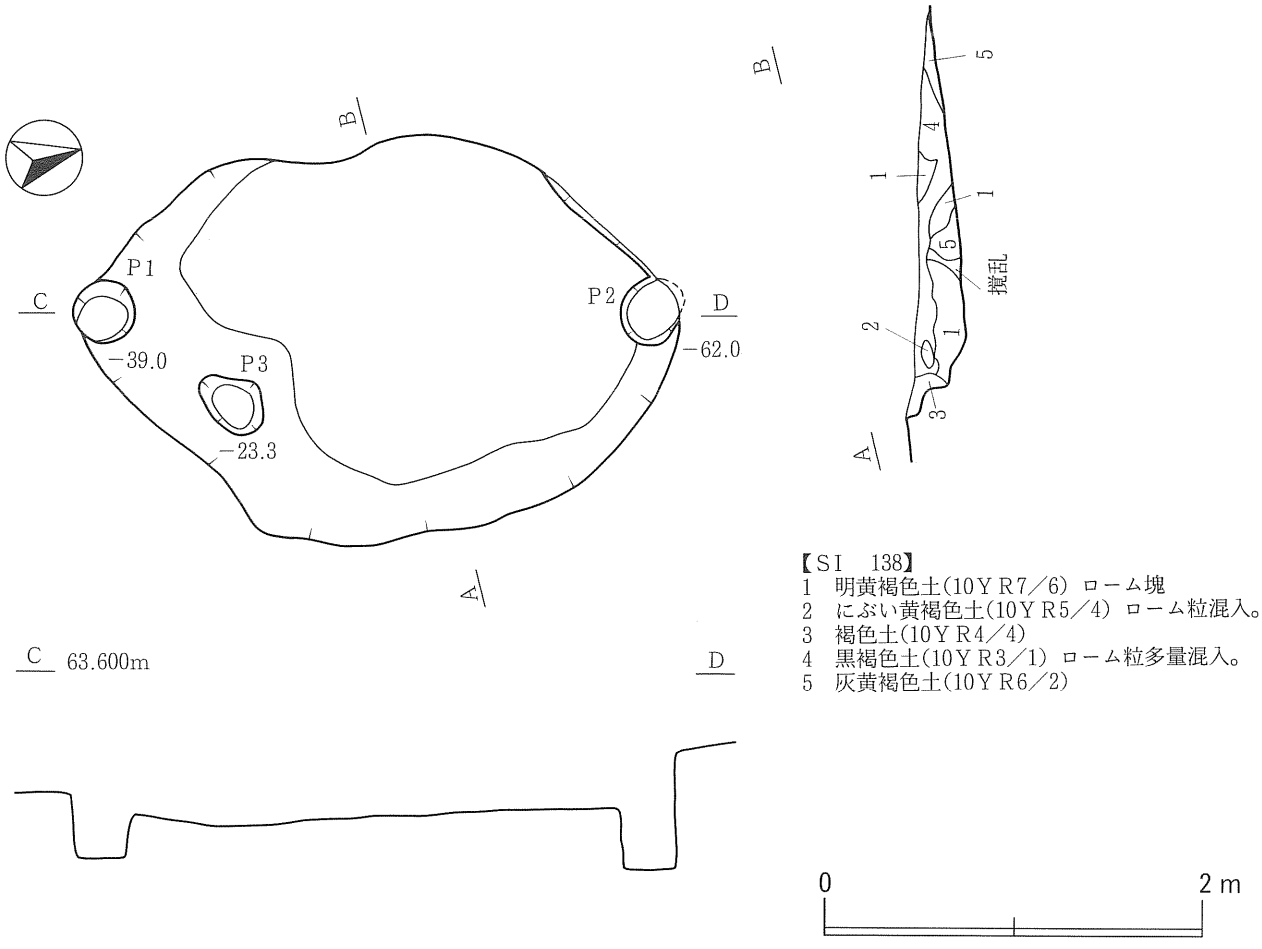
ＳＩ　141　竪穴住居跡（第17図～第22図、巻首図版１、図版19～図版22）

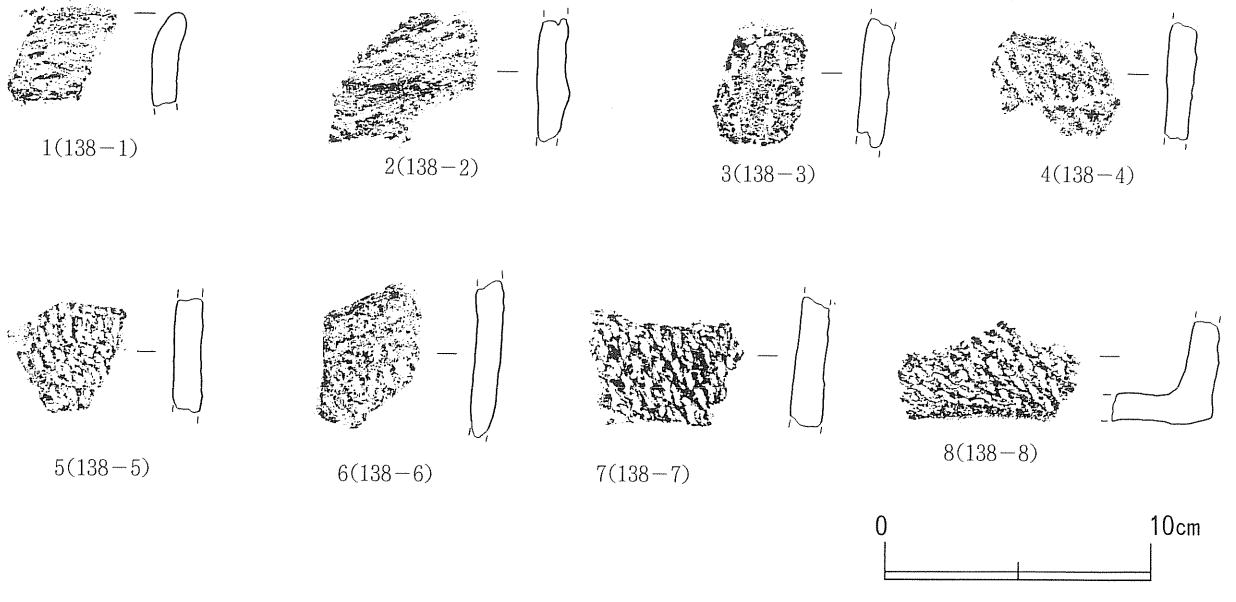
《位　　置》　ＭＭ76、ＭＮ75･76･77、ＭＯ74グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

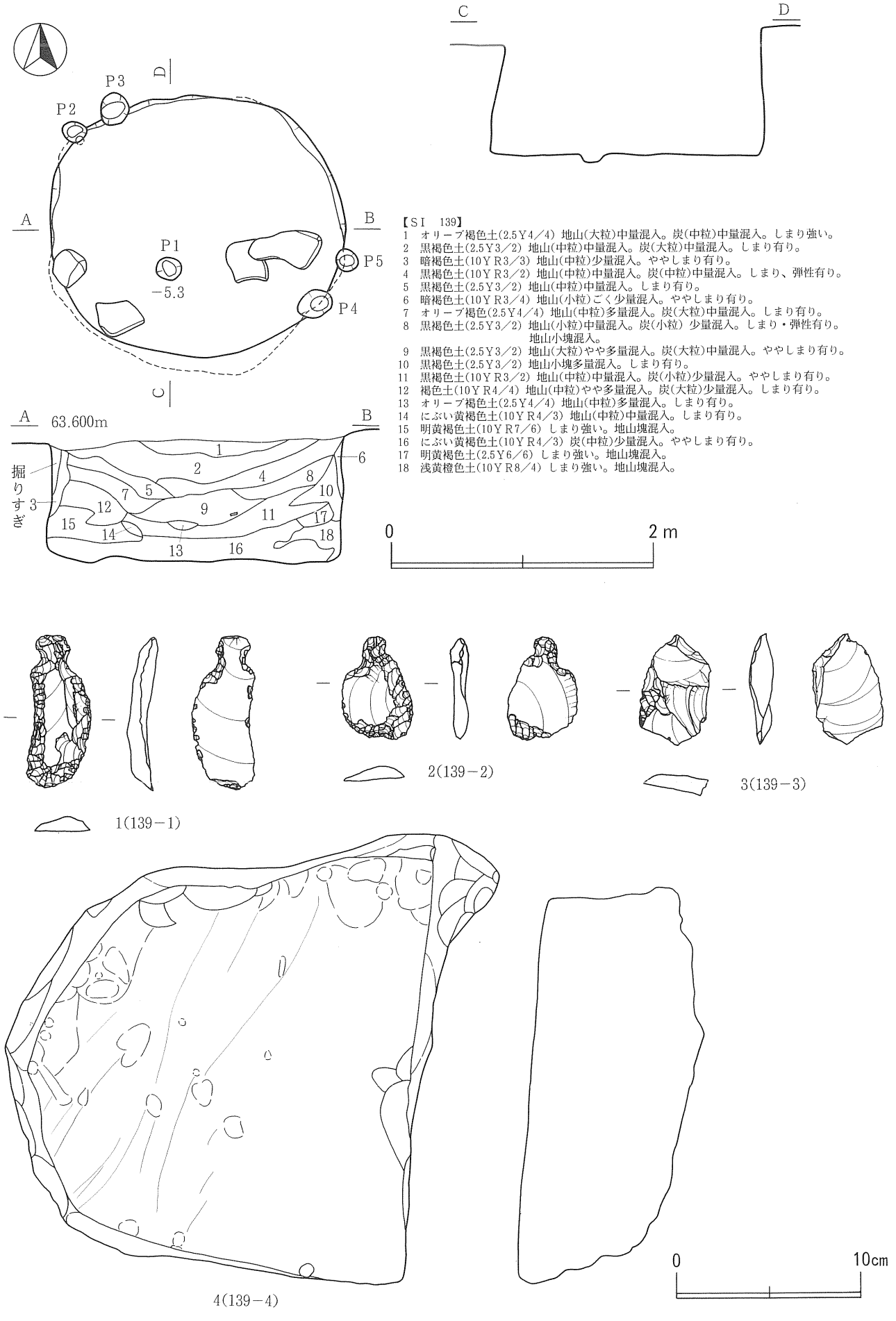
《重　　複》　ＳＫ255・256・258土坑、ＳＫＦ218・223・259フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しい。

《規　　模》　長径13.08ｍ×短径8.05ｍ、深さ55㎝。





第15図　SI 138 竪穴住居跡とその出土遺物



【SI　139】
1　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　地山(大粒)中量混入。炭(中粒)中量混入。しまり強い。
2　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山(中粒)中量混入。炭(大粒)中量混入。しまり有り。
3　暗褐色土(10YR3／3)　地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
4　黒褐色土(10YR3／2)　地山(中粒)中量混入。炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
5　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。
6　暗褐色土(10YR3／4)　地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
7　オリーブ褐色(2.5Y4／4)　地山(中粒)多量混入。炭(大粒)中量混入。しまり有り。
8　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山(小粒)中量混入。炭(小粒)　少量混入。しまり・弾性有り。
　　地山小塊混入。
9　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山(大粒)やや多量混入。炭(大粒)中量混入。ややしまり有り。
10　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山小塊多量混入。しまり有り。
11　黒褐色土(10YR3／2)　地山(中粒)中量混入。炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
12　褐色土(10YR4／4)　地山(中粒)やや多量混入。炭(大粒)少量混入。しまり有り。
13　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　地山(中粒)多量混入。しまり有り。
14　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。
15　明黄褐色土(10YR7／6)　しまり強い。地山塊混入。
16　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
17　明黄褐色土(2.5Y6／6)　しまり強い。地山塊混入。
18　浅黄橙色土(10YR8／4)　しまり強い。地山塊混入。

第16図　SI 139 竪穴住居跡とその出土遺物

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《埋　　土》　22層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで55㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。長軸の一端（北東辺）に土壇状の施設を伴なう。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、中央に集礫を伴なう鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　主柱穴は床面長軸に沿って２列、計６カ所検出されている（Ｐ１～Ｐ６）。また長軸線上にも２カ所の柱穴があり、棟持柱の跡と考えられる（Ｐ７・Ｐ８）。南側の周縁に沿って斜めに掘られた柱穴があり（Ｐ９～Ｐ22)、竪穴住居の垂木尻を据えた穴と考えられる。

《壁　　溝》　壁面に沿って１条巡る。北東辺の土壇状の部分においても迂回せずに壁面に沿って土壇の上に構築されている。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。土器は縄文時代前期中葉の土器（５～８）・前期後葉の土器（１～４・９～24)・中期～後期の土器（42～47）が出土した。また石器は石匙（48・49)・削器（51・56・57・59)・掻器（50・52)・篦状石器（58・60)・加工痕のある剥片（29～31)、および半円状偏平打製石器（61・64)・擦り石（62・63・65・77)・凹石（66～69)・敲石（70・71)・石錘（72・76)・砥石（78)・石皿（79）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器は時期に幅を持つが、主柱穴（Ｐ５）内より縄文時代前期後葉の土器が倒立して出土したことから、該期に属することが想定される。

ＳＩ　143　竪穴住居跡（第23図）

《位　　置》　ＭＮ73、ＭＯ72･73グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ123・124竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。

《規　　模》　長径3.27ｍ×短径2.90ｍ、深さ20㎝。

《平 面 形》　略円形である。

《埋　　土》　11層に分層した。８層はＳＩ123への貼床である。一部に削平および攪乱を受けているため、自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで20㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があり、南東方向に下がっている。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に８カ所検出した。

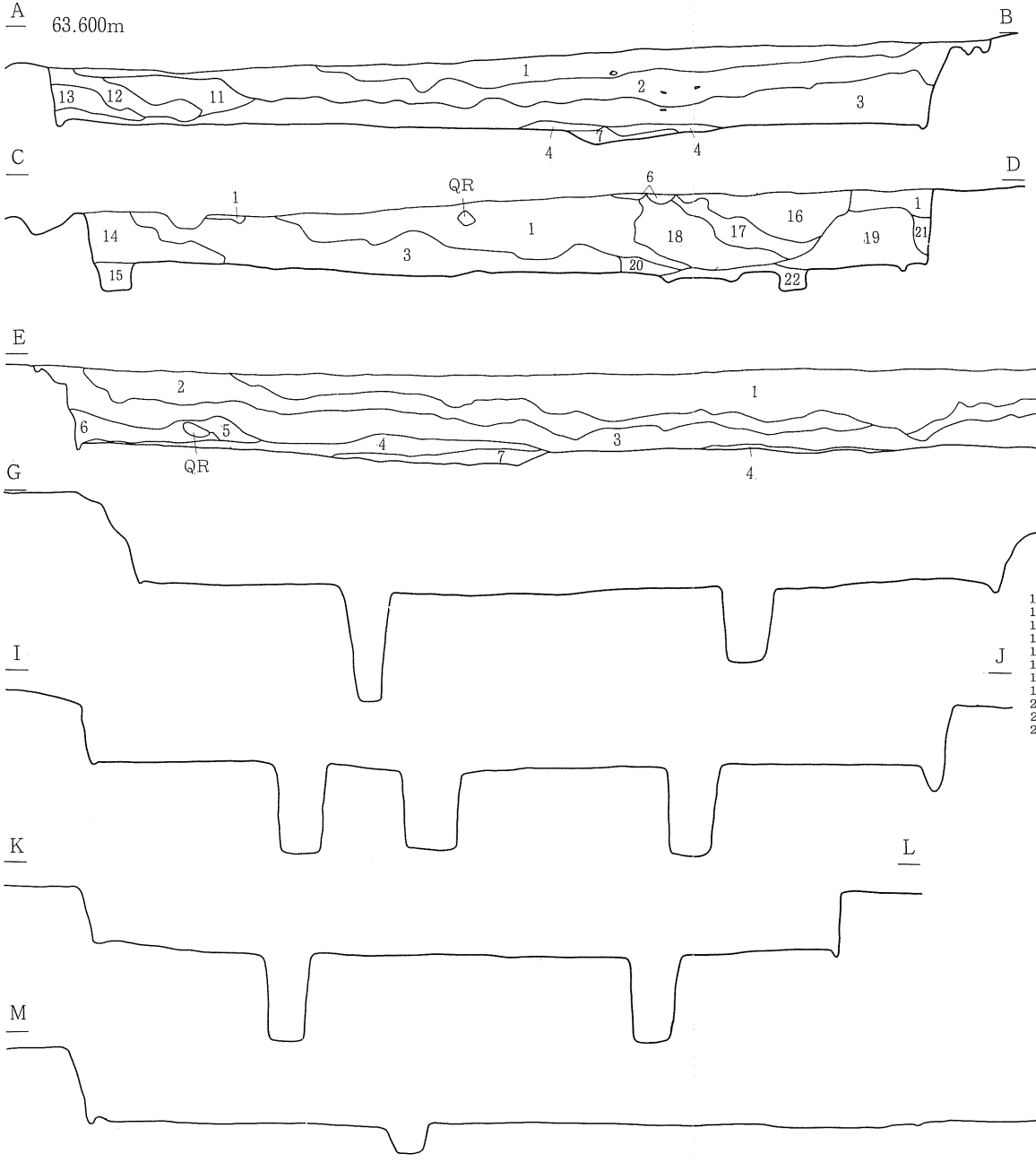
《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　遺物は出土しなかった。

《改　　築》　なし。

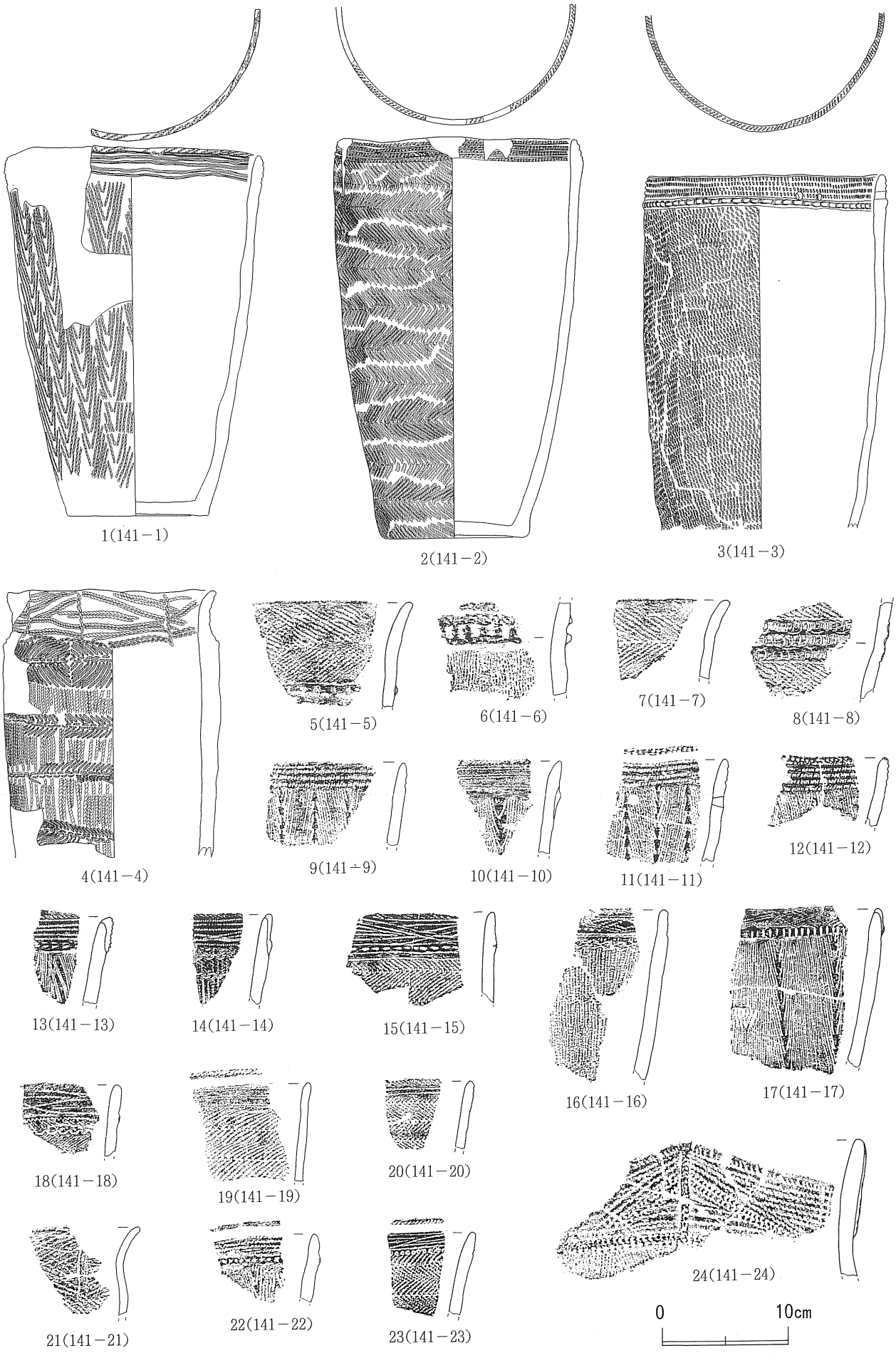
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

第17図　SI 141 竪穴住居跡

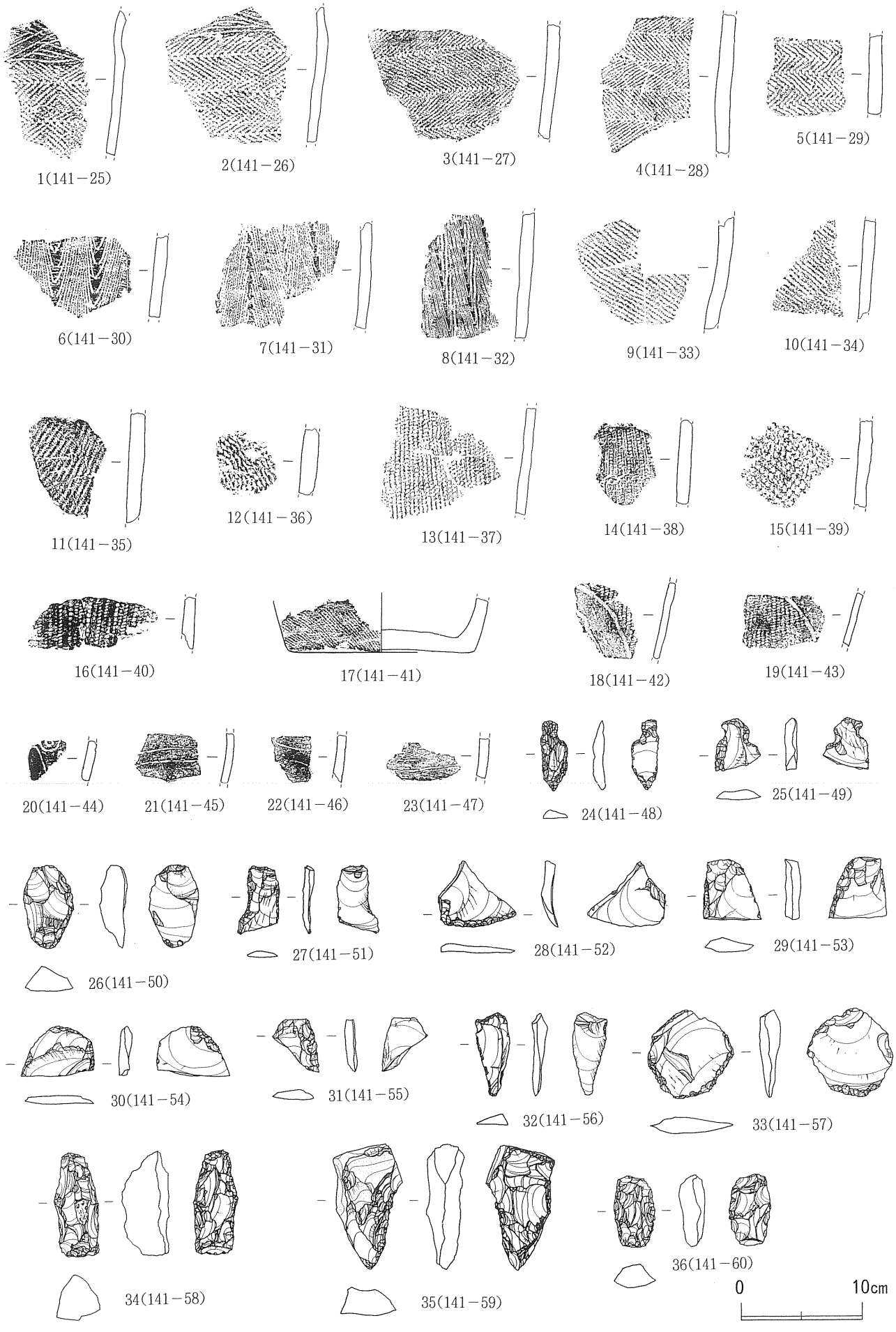


【ＳＩ　141】
1　黒色土(7.5Ｙ1.7／1)　地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
2　暗オリーブ褐色土(2.5Ｙ3／3)　地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
3　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
4　明黄褐色土(2.5Ｙ7／6)　シラス。しまり有り。
5　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。しまり有り。
6　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
7　浅黄色土(2.5Ｙ7／4)シラス。しまり強い。
8　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。しまり有り。
9　にぶい黄色土(2.5Ｙ6／4)　地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。しまり有り。
10　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／3)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
11　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(大粒)少量、炭(大粒)中量混入。しまり有り。
12　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／6)　地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
13　オリーブ褐色土(4.5Ｙ4／6)　地山塊(小)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
14　黄褐色土(2.5Ｙ5／3)　地山塊(中)・炭(大粒)中量混入。しまり有り。
15　7に同じ
16　黒色土(2.5Ｙ2／1)　地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
17　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
18　黄褐色土(2.5Ｙ5／4)　地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
19　明黄褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
20　黒褐色土(2.5Ｙ6／6)　地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
21　オリーブ褐色土(2.5Ｙ4／4)　地山(小粒)少量、炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
22　4に同じ

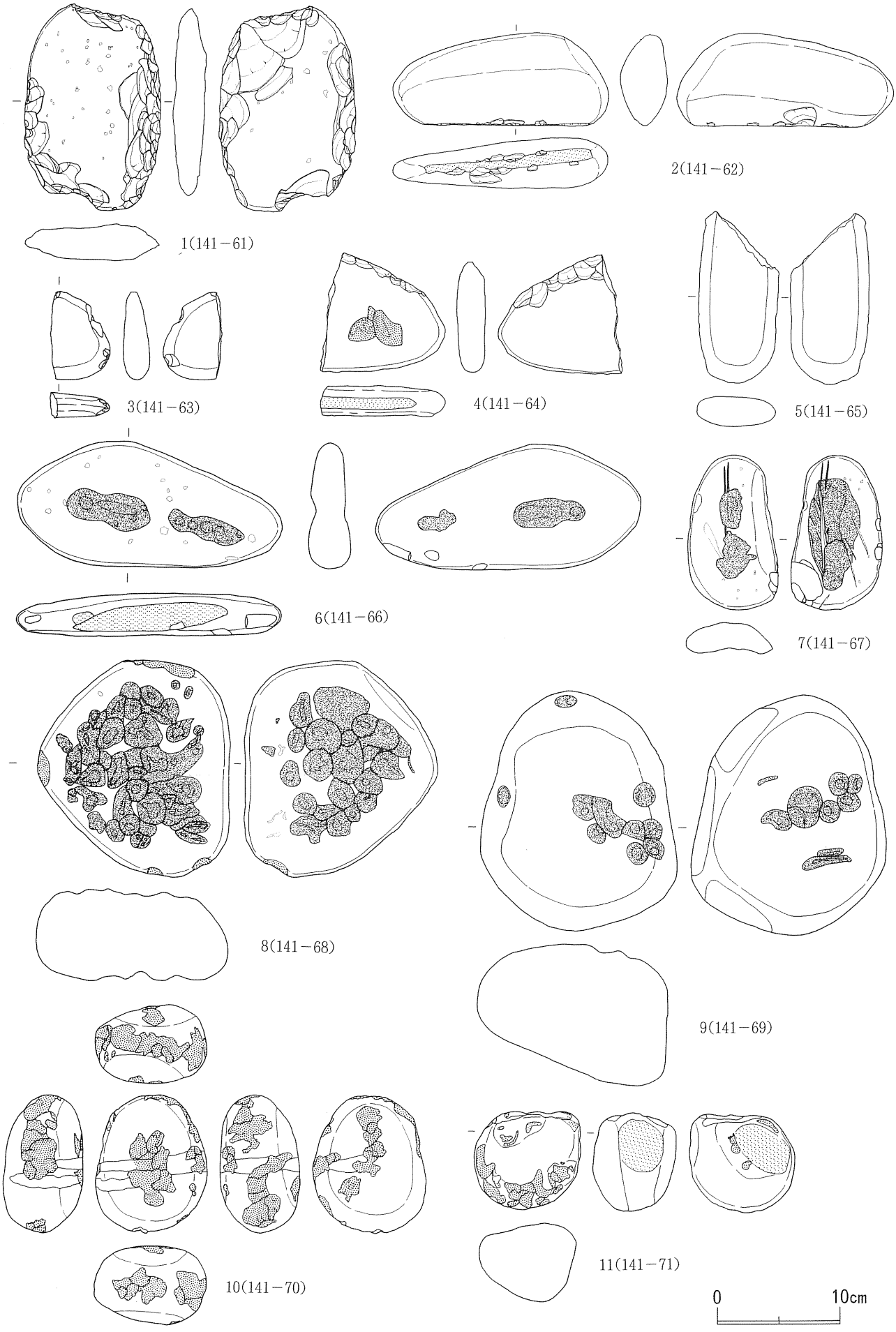
第18図　SI 141 竪穴住居跡土層断面図



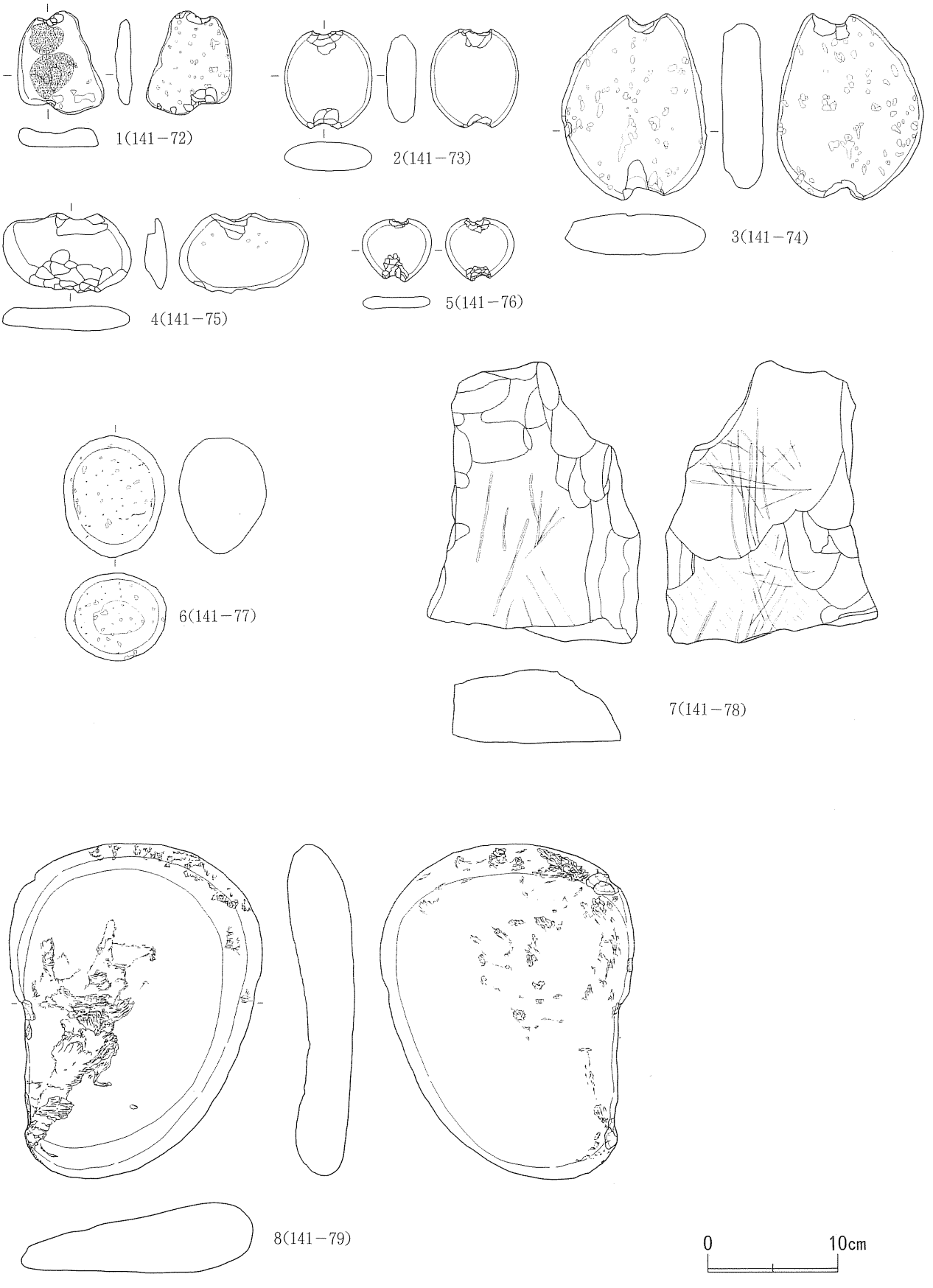
第19図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（１）



第20図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（２）



第21図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（３）



第22図　SI 141 竪穴住居跡出土遺物（４）

ＳＩ　144　竪穴住居跡（第23図・第24図、図版22～図版25）

《位　　置》　ＭＲ72･73、ＭＳ72･73グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.58ｍ×短径2.53ｍ、深さ36㎝。

《平 面 形》　円形である。

《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで36㎝で、ほぼ直立する。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　周縁に２カ所検出した。北辺の一部は斜面に崩落しているため、本来は対向する２組の主柱穴があったと思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉（３・４）・前期後葉（１・２・５）の土器、および石匙（14・15）・加工痕のある剥片（16）・半円状偏平打製石器（17・19）・擦り石（18）・敲石（20）・凹石（21）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　146　竪穴住居跡（第25図）

《位　　置》　ＭＳ69･70、ＭＴ69･70グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.64ｍ×短径2.40ｍ、深さ36㎝。

《平 面 形》　円形である。

《埋　　土》　３層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで36㎝で、ほぼ直立する。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

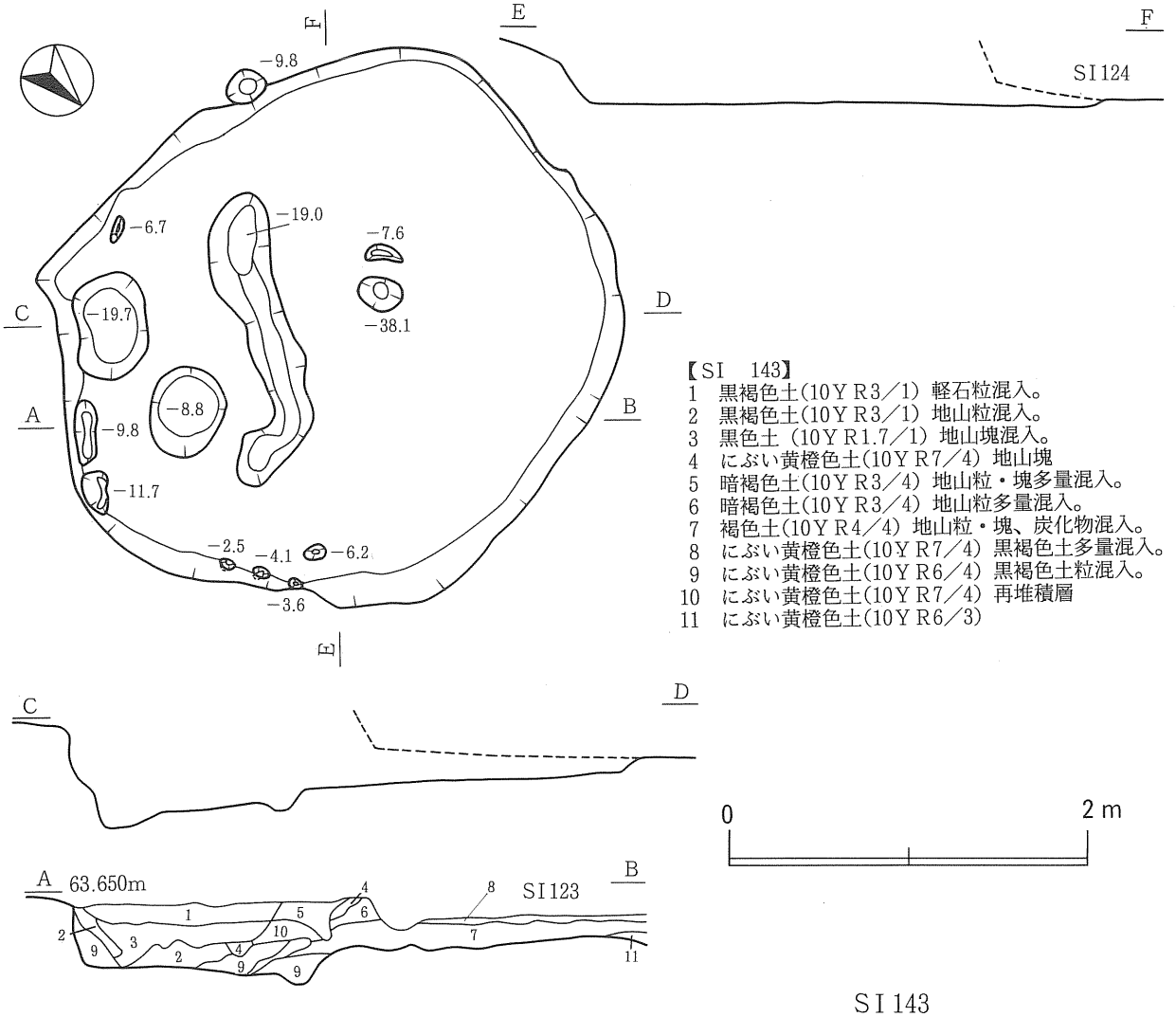
《柱　　穴》　壁際に４カ所、および周縁部に１カ所検出した。主柱穴は壁際の対向する２組である（Ｐ１～Ｐ４）。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文前期中葉の土器が出土した。

《改　　築》　なし。

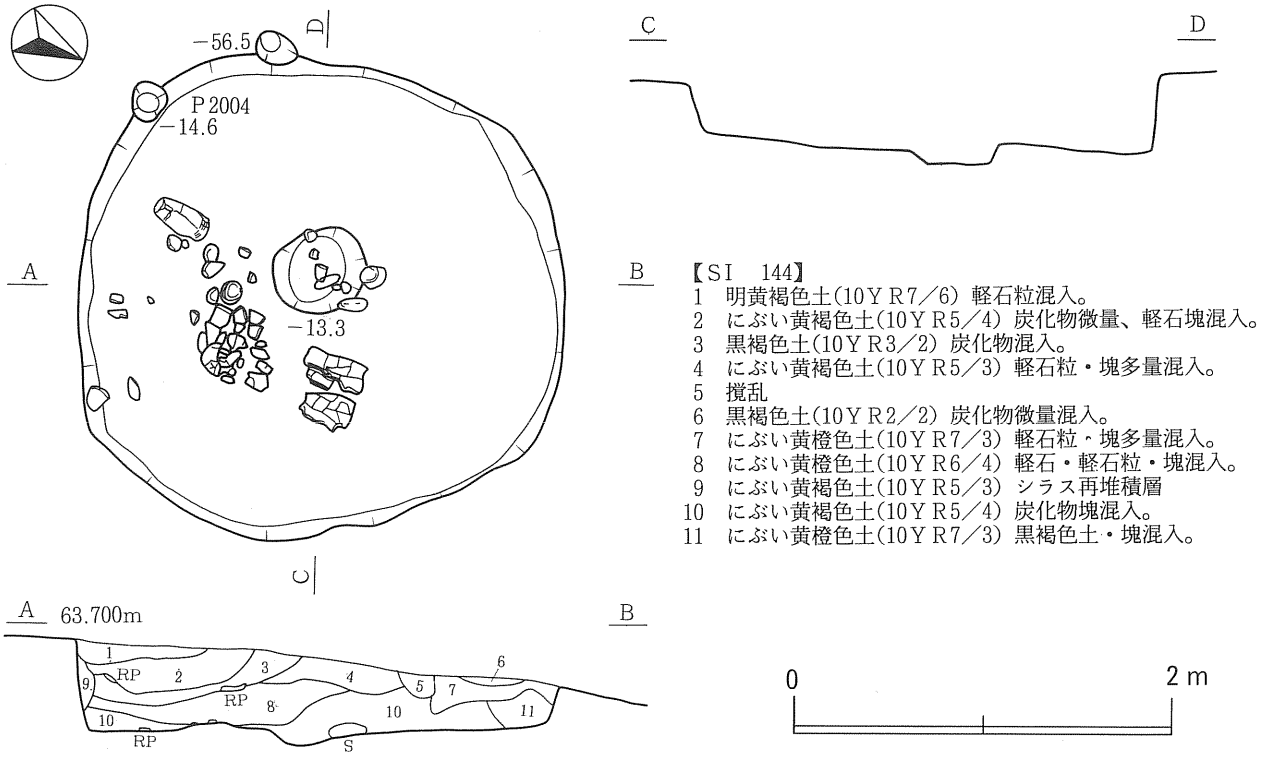
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。



【SI　143】
1　黒褐色土(10Ｙ R3／1) 軽石粒混入。
2　黒褐色土(10Ｙ R3／1) 地山粒混入。
3　黒色土 (10Ｙ R1.7／1) 地山塊混入。
4　にぶい黄橙色土(10Ｙ R7／4) 地山塊
5　暗褐色土(10Ｙ R3／4) 地山粒・塊多量混入。
6　暗褐色土(10Ｙ R3／4) 地山粒多量混入。
7　褐色土(10Ｙ R4／4) 地山粒・塊、炭化物混入。
8　にぶい黄橙色土(10Ｙ R7／4) 黒褐色土多量混入。
9　にぶい黄橙色土(10Ｙ R6／4) 黒褐色土粒混入。
10　にぶい黄橙色土(10Ｙ R7／4) 再堆積層
11　にぶい黄橙色土(10Ｙ R6／3)

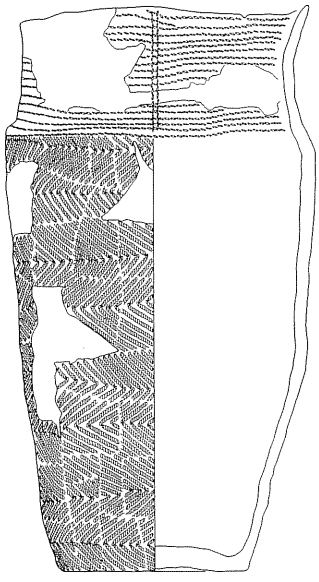
SI 143

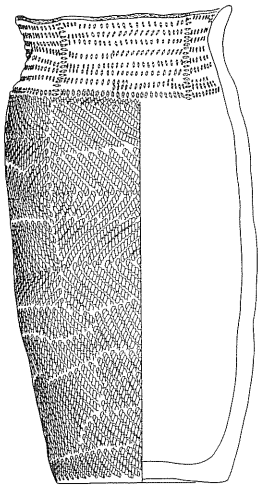
SI 144



【SI　144】
1　明黄褐色土(10Ｙ R7／6) 軽石粒混入。
2　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5／4) 炭化物微量、軽石塊混入。
3　黒褐色土(10Ｙ R3／2) 炭化物混入。
4　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5／3) 軽石粒・塊多量混入。
5　撹乱
6　黒褐色土(10Ｙ R2／2) 炭化物微量混入。
7　にぶい黄橙色土(10Ｙ R7／3) 軽石粒・塊多量混入。
8　にぶい黄橙色土(10Ｙ R6／4) 軽石・軽石粒・塊混入。
9　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5／3) シラス再堆積層
10　にぶい黄褐色土(10Ｙ R5／4) 炭化物塊混入。
11　にぶい黄橙色土(10Ｙ R7／3) 黒褐色土・塊混入。

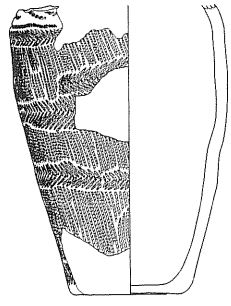
第23図　SI 143・SI 144 竪穴住居跡

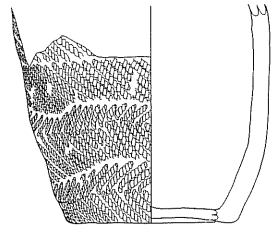

1(144－1)

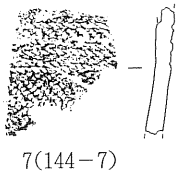

2(144－2)

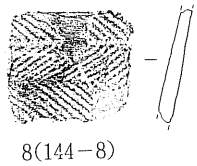
3(144－3)

4(144－4)

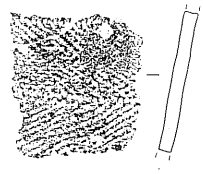

5(144－5)


6(144－6)

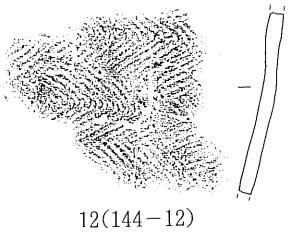

7(144－7)

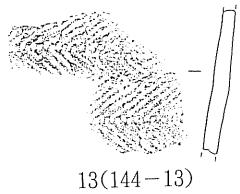

8(144－8)

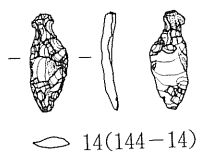
9(144－9)

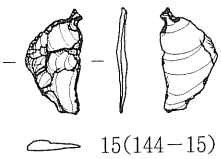

10(144－10)

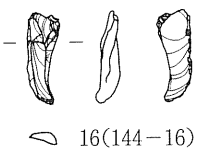
11(144－11)

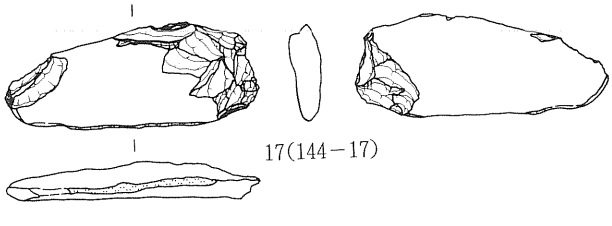

12(144－12)

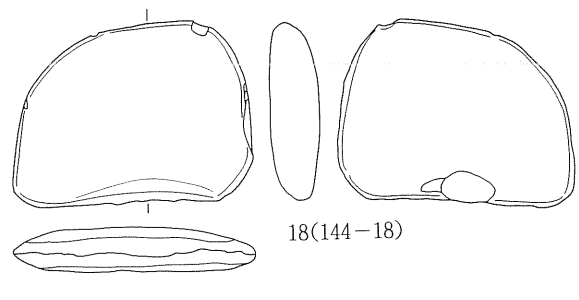

13(144－13)

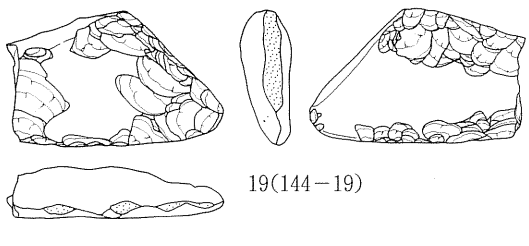

14(144－14)

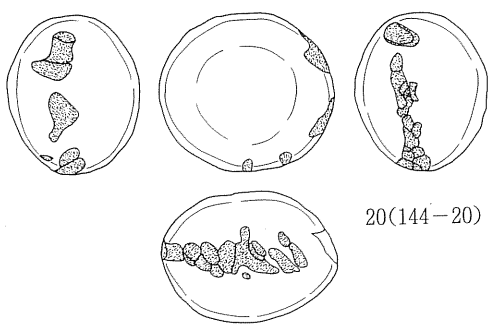

15(144－15)

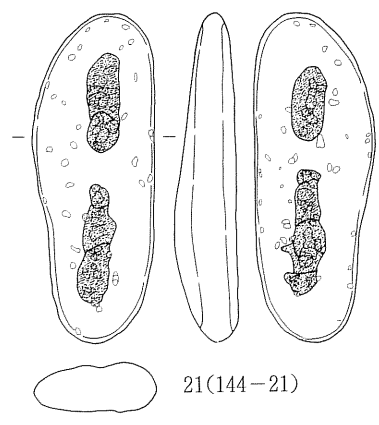

16(144－16)


17(144－17)


18(144－18)

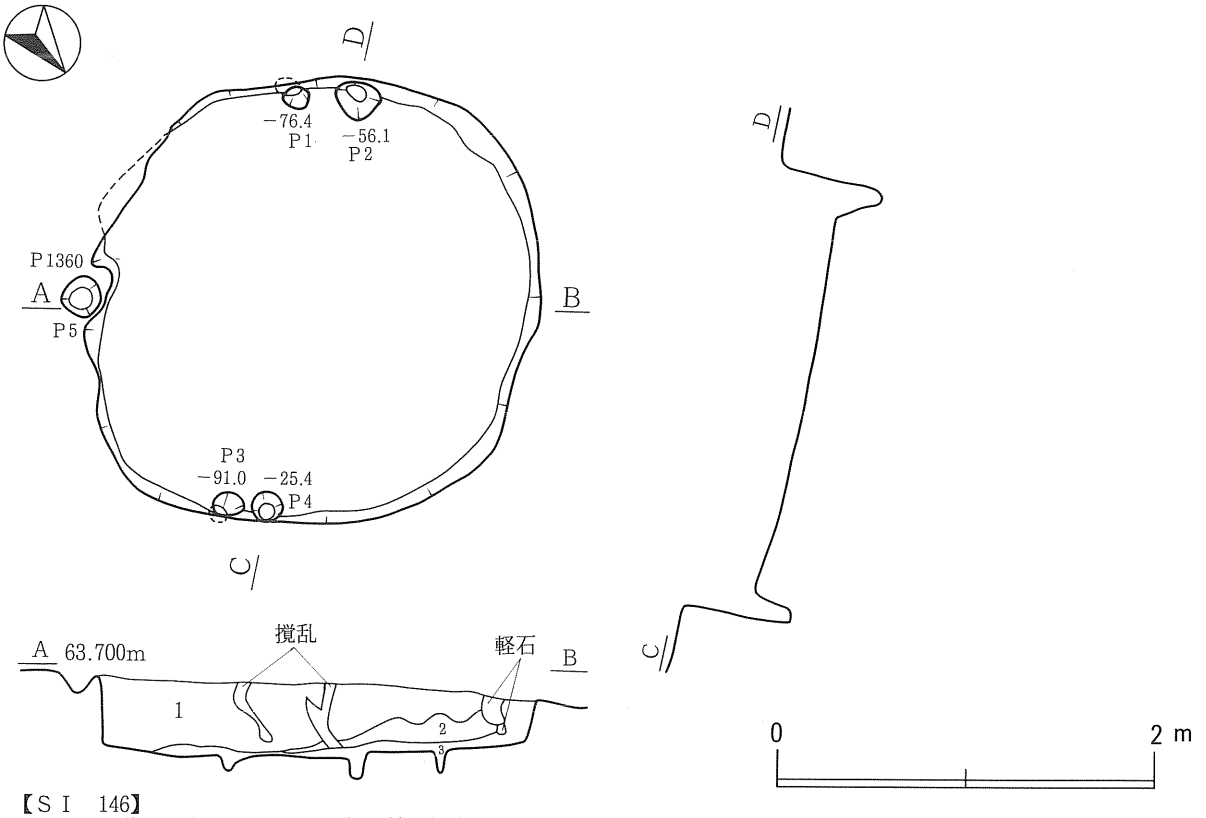

19(144－19)


20(144－20)

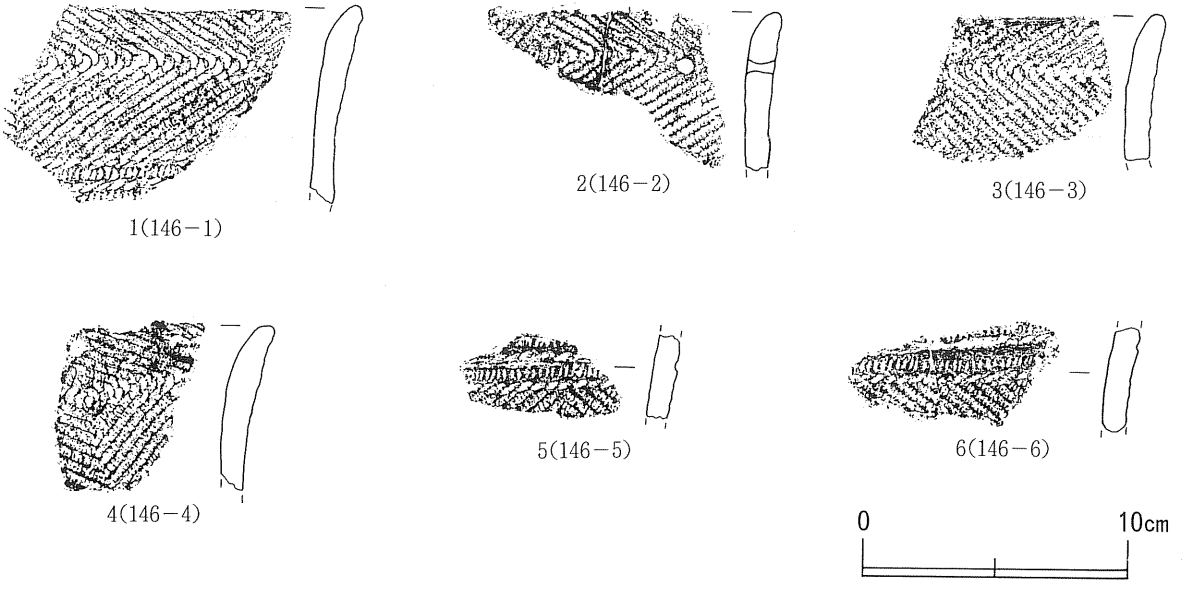

21(144－21)

0　10cm

第24図　SI 144 竪穴住居跡出土遺物



【ＳＩ　146】
1　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5／4)　軽石粒・塊多量混入。
2　にぶい黄褐色土(10ＹＲ4／3)　軽石粒・塊混入。
3　褐色土(10ＹＲ4／6)



第25図　SI 146 竪穴住居跡とその出土遺物

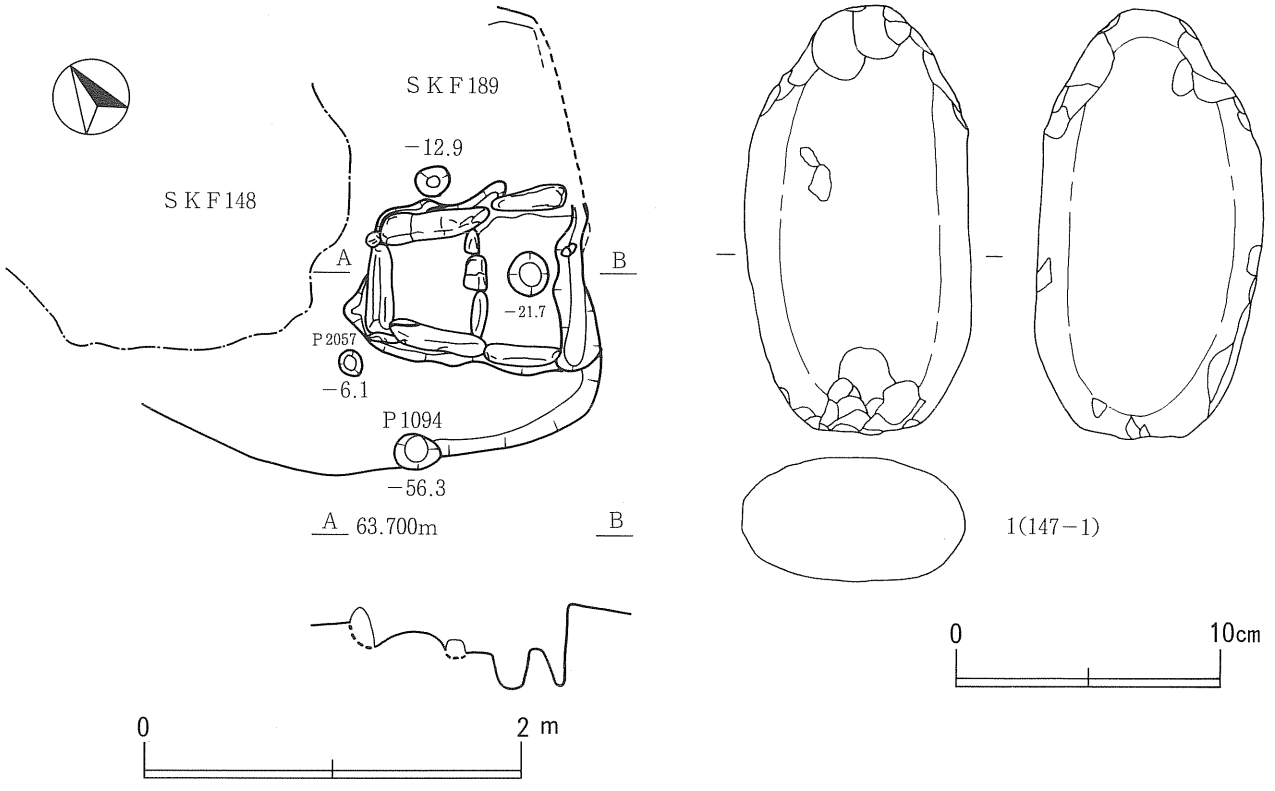
ＳＩ　147　竪穴住居跡（第26図）

《位　　置》　ＭＴ68•69グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

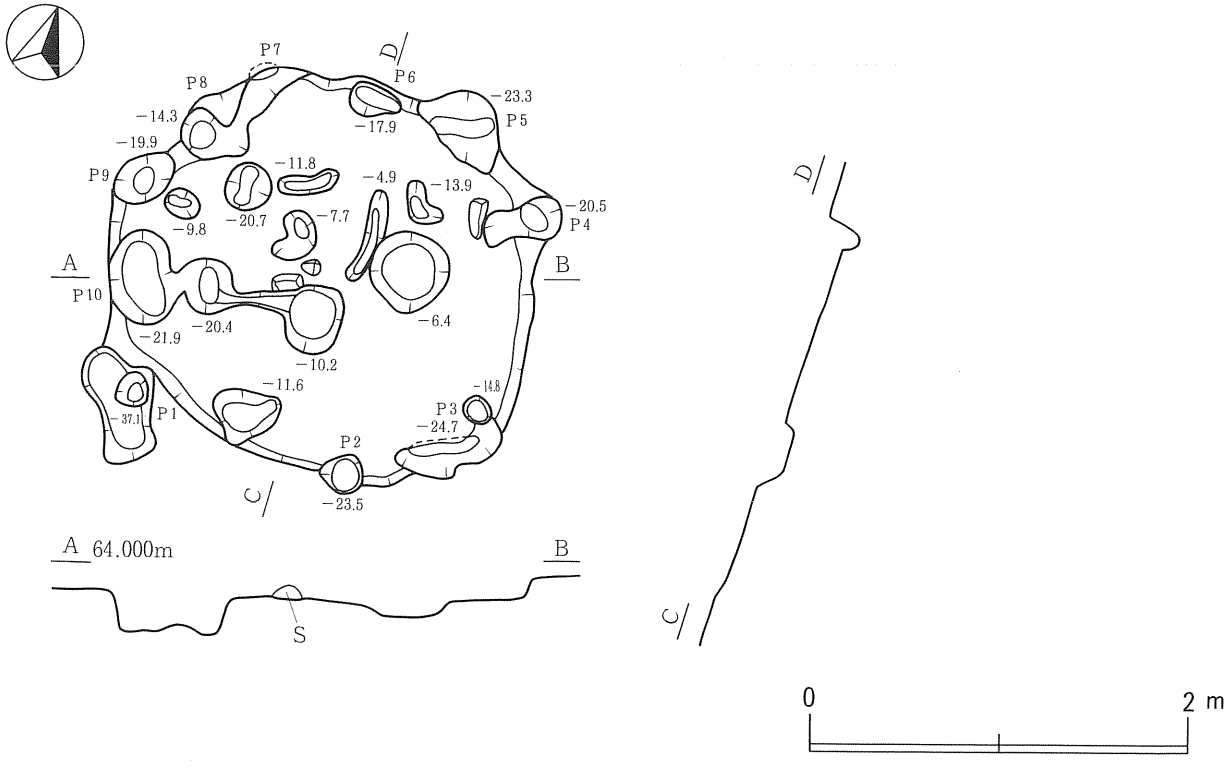
《重　　複》　ＳＫＦ148・189フラスコ状土坑と重複している。埋土状況より新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しいと思われる。

《規　　模》　確認長で長径2.45ｍ×短径1.65ｍ、深さ25㎝。



ＳＩ147

ＳＩ153

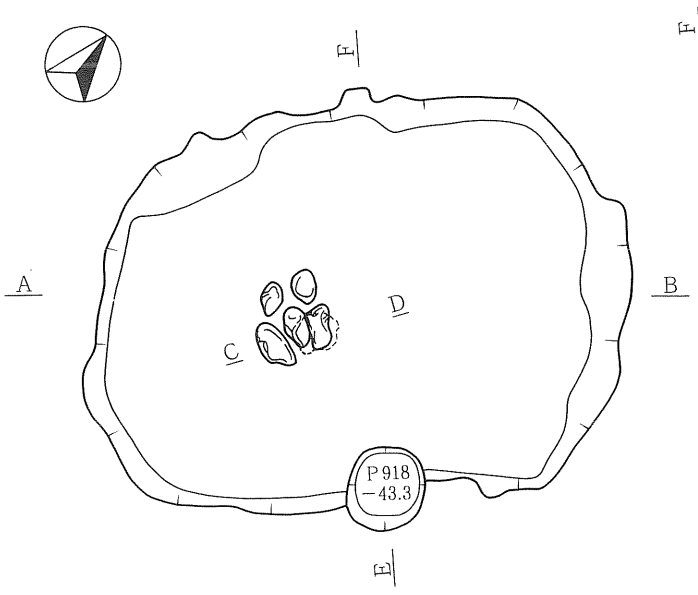


第26図　ＳＩ 147・ＳＩ 153 竪穴住居跡とその出土遺物

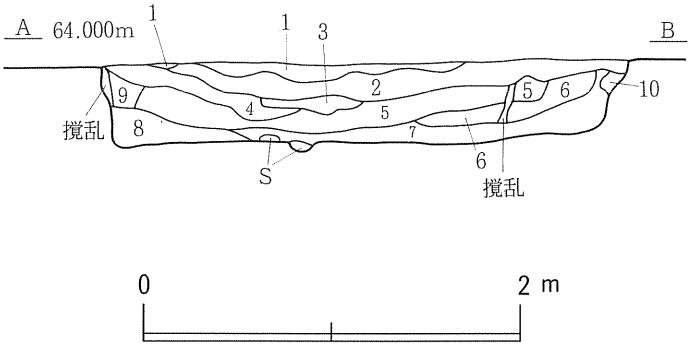
《平 面 形》　削平・斜面への崩落、および重複のため詳細は不明である。
《埋　　土》　畑耕作に伴なう削平により、埋土はほとんど確認できなかった。。
《　壁　》　緩やかに外傾しながら立ち上がる。重複のため、削平されている。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床部分もみられる。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、複式構造を持つ石囲炉を有する。
《柱　　穴》　床面に４カ所検出した。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　埋土中から敲石（１）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できるような遺物は出土していないが、炉の形態から縄文時代中期に属すると思われる。

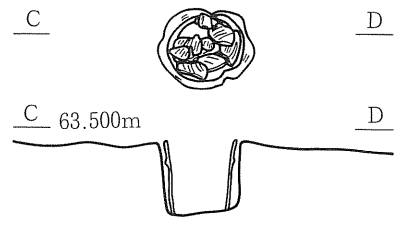
ＳＩ　153　竪穴住居跡（第26図）
《位　　置》　ＭＴ66グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径2.65ｍ×短径2.40ｍ、深さ９㎝。
《平 面 形》　略円形である。
《埋　　土》　攪乱により埋土はほとんど確認できなかった。
《　壁　》　最も深いところで９㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　木根の攪乱により著しく凹凸している。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に柱穴様のピットがあるが、攪乱のためはっきりしない。壁際に巡るＰ１～Ｐ10は垂木尻など、架構材に関わる穴と思われる。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかった。

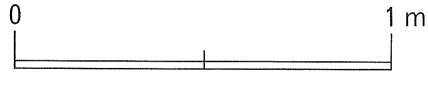
ＳＩ　154　竪穴住居跡（第27図、図版25・図版26）
《位　　置》　ＭＴ65、ＮＡ65グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径2.79ｍ×短径2.10ｍ、深さ42㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで42㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

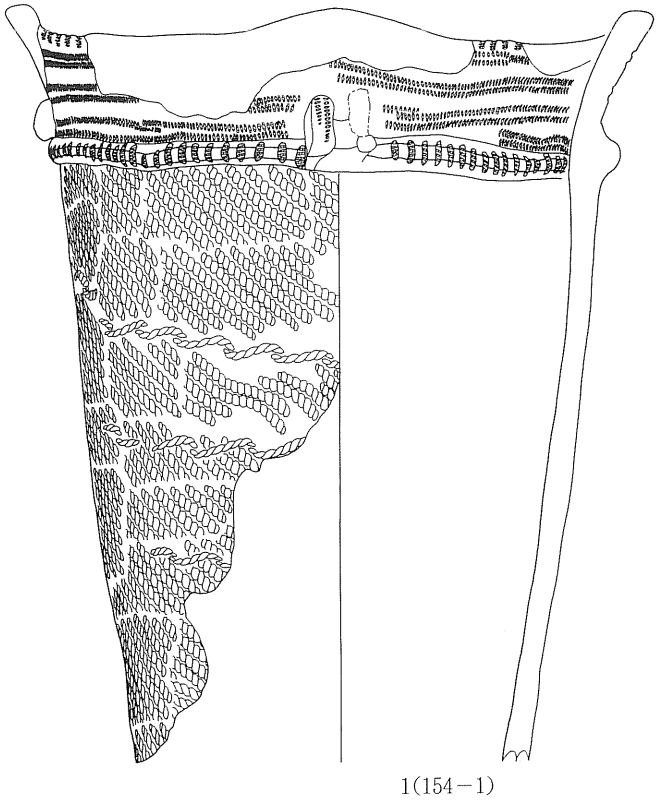


【SI　154】
1　暗褐色土(10Ｙ R3／3)　軽石塊少量混入。
2　黒褐色土(10Ｙ R3／2)　軽石粒混入。
3　黒褐色土(10Ｙ R2／3)　軽石粒・塊混入。
4　暗褐色土(10Ｙ R3／4)　軽石粒・塊混入。
5　黒褐色土(10Ｙ R2／2)　軽石粒・塊混入。
6　褐色土(10Ｙ R4／6)　軽石粒・塊多量混入。
7　暗褐色土(10Ｙ R3／3)　軽石粒混入。
8　黒褐色(土10Ｙ R2／3)　軽石粒・塊混入。
9　黒褐色土(10Ｙ R3／1)
10　掘りすぎ

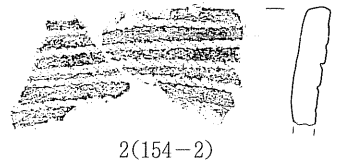




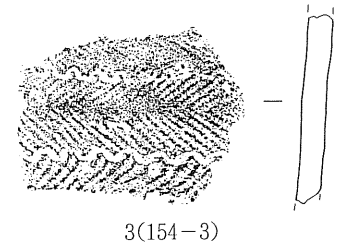




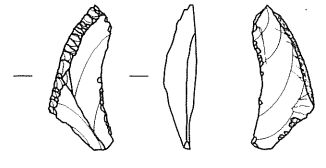
1(154−1)



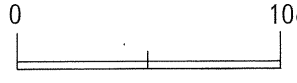
2(154−2)



3(154−3)



4(154−4)



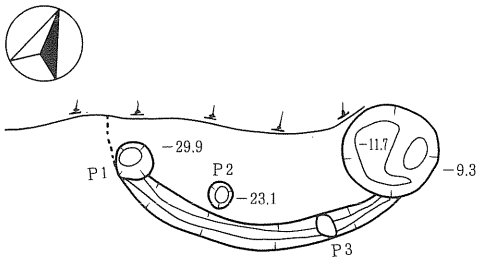
第27図　SI 154 竪穴住居跡とその出土遺物

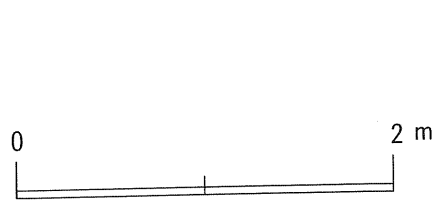
《　炉　》　中央南西側に集礫があり、その下部より埋設土器（１）が検出した。
《柱　穴》　なし。
《壁　溝》　なし。
《遺　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉～中期初頭の土器（１・２）、削器（４）を出土した。
《改　築》　なし。
《構築時期》　埋設土器から縄文時代前期後葉～中期初頭と思われる。

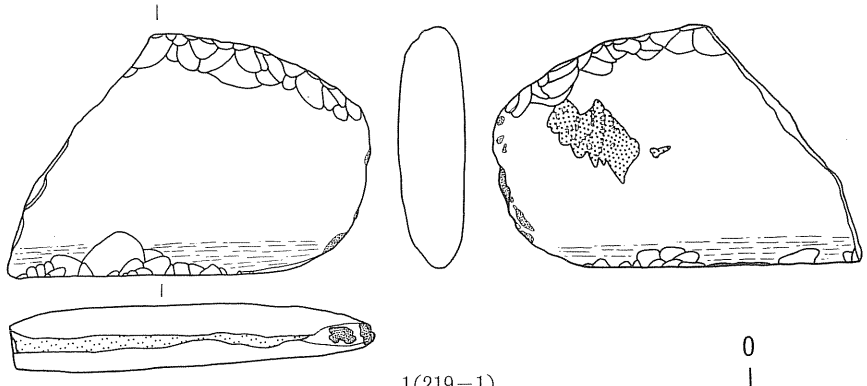
ＳＩ　219　竪穴住居跡（第28図）
《位　置》　ＭＰ76･77グリッドに位置する。
《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　確認長で長径1.80ｍ×短径0.56ｍ。
《平面形》　大半は斜面に崩落しており、不明である。
《埋　土》　斜面への崩落により、壁溝以外に埋土は確認できなかった。
《　壁　》　壁溝のみの確認で、詳細は不明である。
《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　穴》　壁溝に沿って３カ所検出した。
《壁　溝》　崩落を免れた一部のみが検出した。
《遺　物》　埋土中から半円状偏平打製石器（１）が出土した。
《改　築》　残存する部分が少なく、不明である。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　232　竪穴住居跡（第28図）
《位　置》　ＭＰ74グリッドに位置する。
《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　複》　ＳＫ131土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。
《規　模》　確認長で長径2.44ｍ×短径1.61ｍ、深さ53㎝。
《平面形》　重複しているが、楕円形であると思われる。。
《埋　土》　６層に分層したが、１～３層はＳＫ131土坑の埋土である。人為的堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで53㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。
《柱　穴》　長軸線上に相対して検出した２カ所（Ｐ１・Ｐ２）が主柱穴と思われる。
《壁　溝》　なし。
《遺　物》　埋土中から凹石（２）が出土した。
《改　築》　なし。

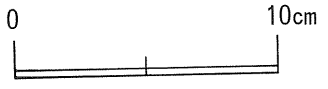
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。





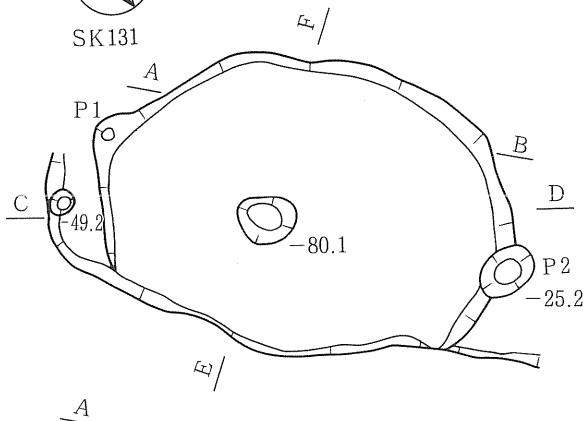


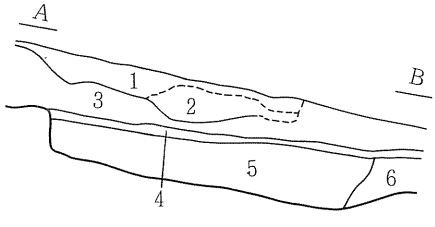
1(219−1)

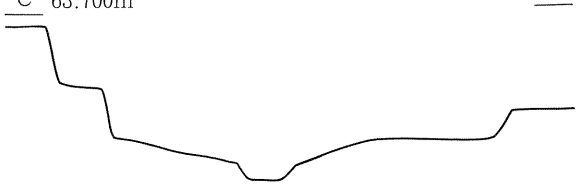


SI 219

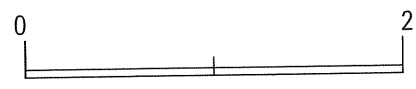
SI 232



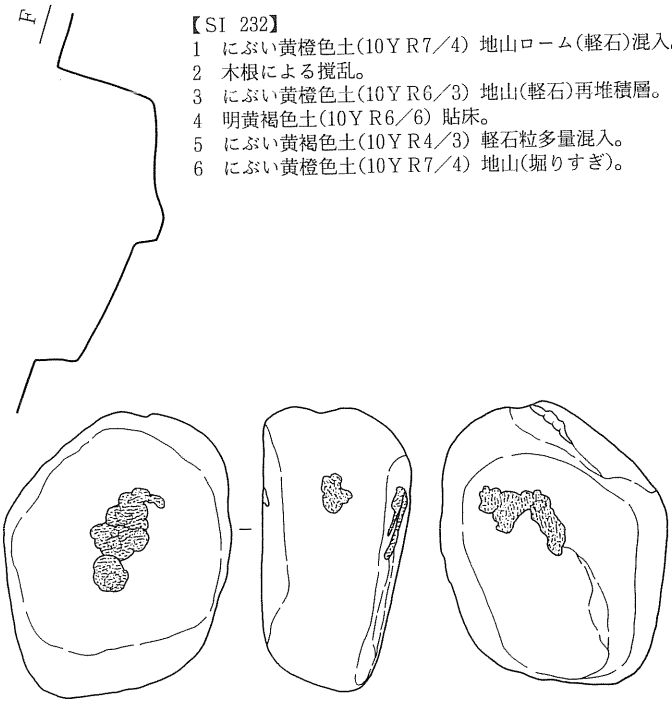




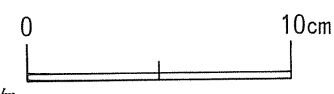
SI 232



【SI 232】
1　にぶい黄橙色土(10Y R7／4) 地山ローム(軽石)混入。
2　木根による撹乱。
3　にぶい黄橙色土(10Y R6／3) 地山(軽石)再堆積層。
4　明黄褐色土(10Y R6／6) 貼床。
5　にぶい黄褐色土(10Y R4／3) 軽石粒多量混入。
6　にぶい黄橙色土(10Y R7／4) 地山(堀りすぎ)。



2(232−1)



第28図　SI 219・SI 232 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　234　竪穴住居跡（第29図）

《位　　置》　ＭＭ74•75グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ127竪穴住居跡・ＳＫＦ242フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しい。

《規　　模》　長径3.09ｍ×短径2.81ｍ、深さ24㎝。

《平 面 形》　略円形である。

《埋　　土》　13層に分層した。人為的堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで24㎝であるが、外傾しながら立ち上がる。壁面は部分的に不明瞭である。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。ＳＫＦ242土坑へは貼床を施している。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に柱穴を検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　一部途切れるが、１条巡る。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期の土器（１～６）、および加工痕のある剥片（７）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　307　竪穴住居跡（第30図、図版27）

《位　　置》　ＮＮ30グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径2.71ｍ×短径1.66ｍ、深さ42㎝。

《平 面 形》　斜面へ崩落しているが、楕円形と思われる。

《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　斜面に対し一部崩落しているが、最も深いところで42㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に１カ所検出した。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　遺物は出土しなかった。

《改　　築》　なし。

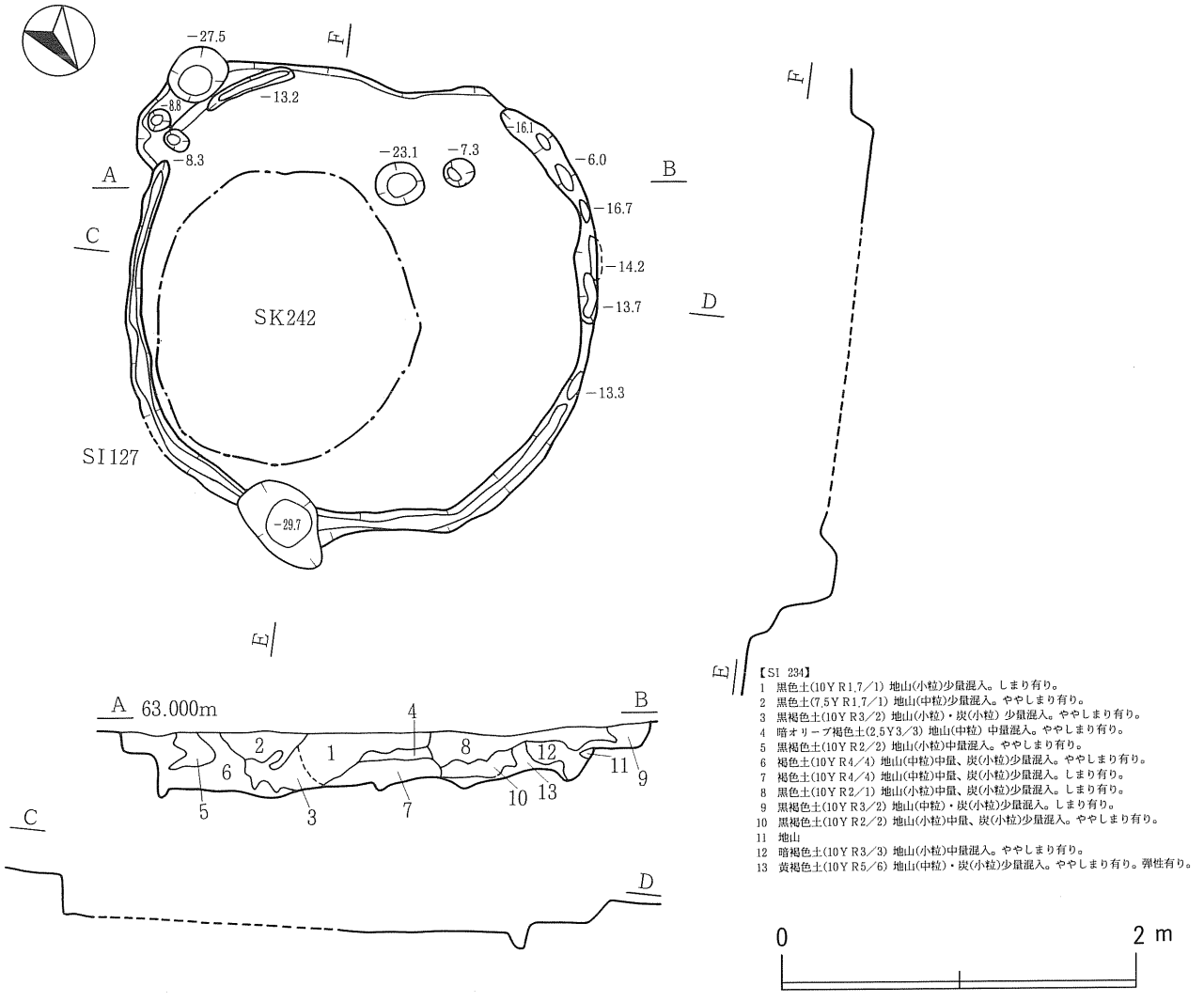
《構築時期》　時期を特定できるような遺物は出土しなかったので不明。

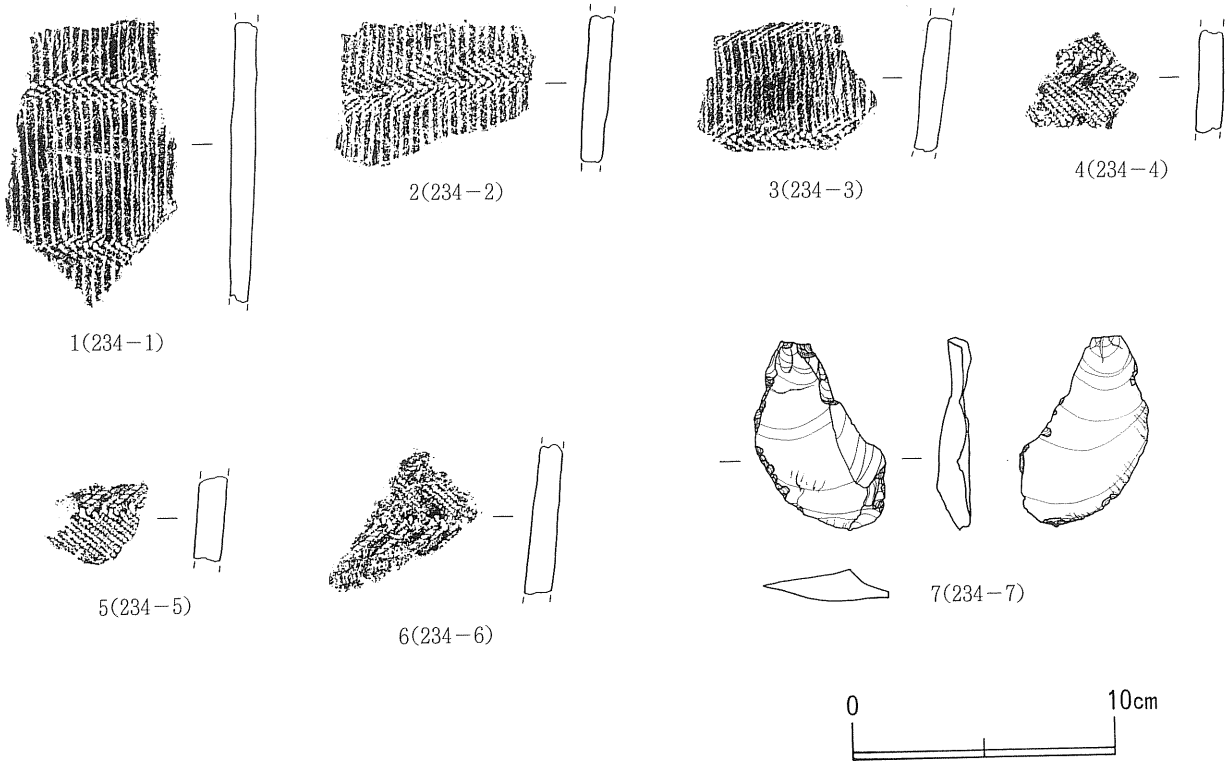
ＳＩ　308　竪穴住居跡（第30図）

《位　　置》　ＮＮ30•31、ＮＯ30•31グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。



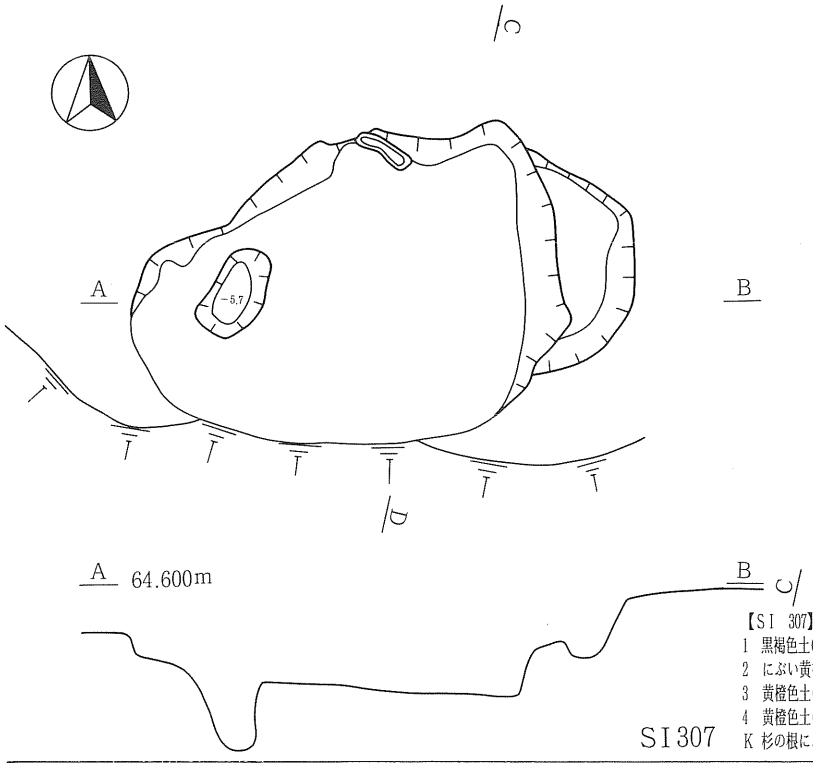


第29図　SI 234 竪穴住居跡とその出土遺物

《規　　模》　確認長で長径4.43ｍ×短径3.20ｍ、深さ19㎝。
《平 面 形》　斜面に崩落しているが、楕円形と思われる。
《埋　　土》　13層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　斜面に一部が崩落しているが、最も深いところで19㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に２カ所検出した。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　309　竪穴住居跡（第31図）
《位　　置》　ＮＱ23、ＮＰ23･24、ＮＳ23･24グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　確認長で長径2.65ｍ×短径2.64ｍ、深さ53㎝。
《平 面 形》　斜面に対し崩落しているため、詳細は不明である。
《埋　　土》　５層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　斜面に一部崩落しているが、最も深いところで53㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　なし。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　埋土から半円状偏平打製石器（１）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定することは困難であるが、出土した石器から縄文時代前期だと思われる。

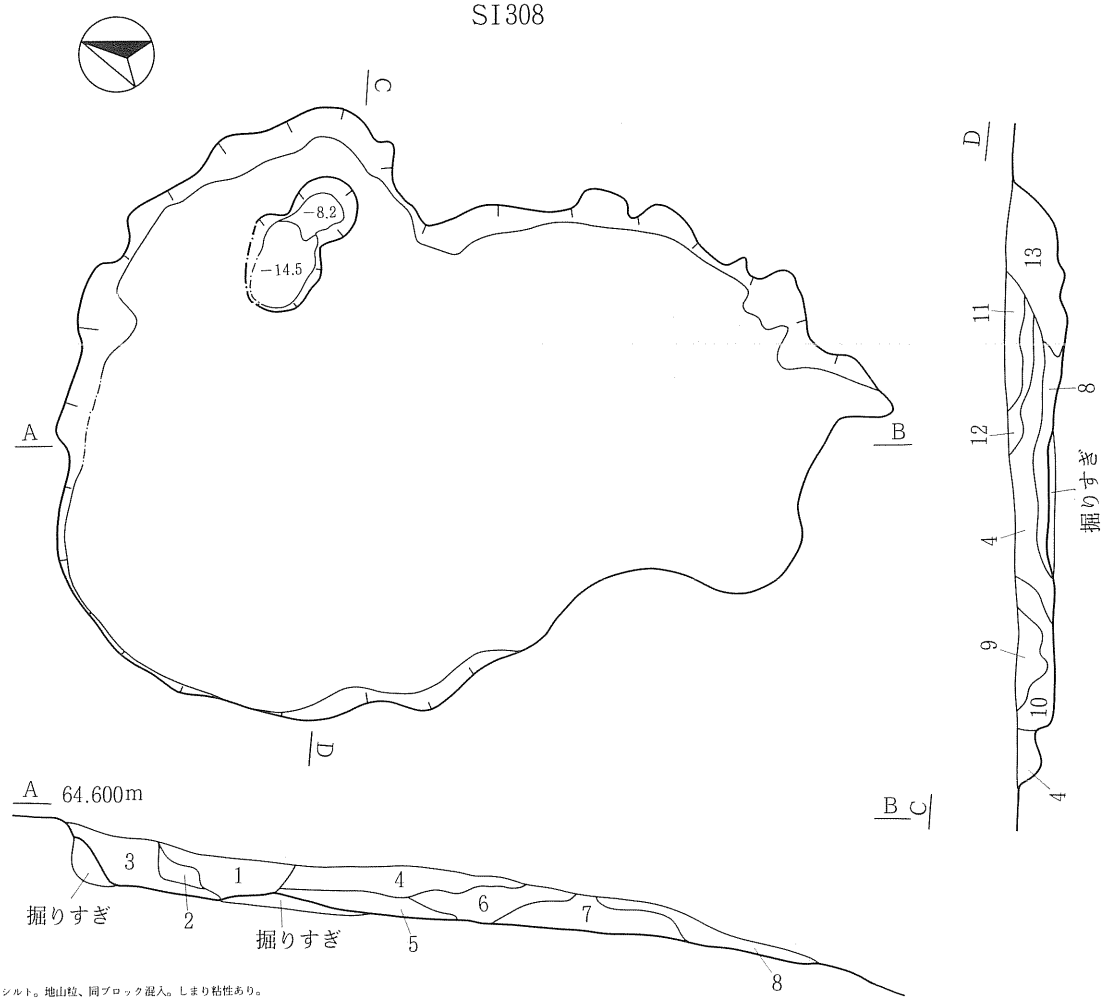
ＳＩ　312　竪穴住居跡（第32図、図版27）
《位　　置》　ＮＰ22･23グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径2.99ｍ×短径2.55ｍ、深さ24㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　一部木根による攪乱を受けているが、最も深いところで24㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。



【SI 307】
1 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山粒混入。しまり良い。
2 にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト～粘土。地山粒多量混入。しまり良い。
3 黄橙色土(10YR7/8) 粘土。地山粒、同ブロック混入。しまり良い。
4 黄橙色土(10YR9/8) 粘土。地山粒、同ブロック混入。しまり非常に良い。
K 杉の根による撹乱層。

SI307

SI308



【SI 308】
1 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒、同ブロック混入。しまり粘性あり。
2 灰黄褐色土(10YR4/2) シルト。地山ブロック多く混入。しまりやや悪い。
3 明黄褐色土(10YR6/6) 粘土。地山粒、同ブロック多く混入。硬質粘性あまりなし。
4 にぶい黄褐色土(10YR5/4) シルト～粘性。地山粒、同ブロック多量に混入。しまりあり。
5 浅黄橙色土(10YR8/4) 粘土～シルト。地山粒よりなる。しまりあり。
6 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山粒、同小ブロック混入。しまりあり。
7 明黄褐色土(10YR6/6) 粘土。地山粒よりなる。しまりやや悪い。
8 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山粒混入。しまりあり。
9 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒をほとんど含まない。硬質。粘性あり。
10 にぶい黄褐色土(10YR6/4) ～明黄褐色土(10YR6/6) シルト～粘土。地山粒、粘質土混入。しまり良い。
11 にぶい黄褐色土(10YR6/4) シルト～粘土。地山粒、同ブロック多い。
12 にぶい黄褐色土(10YR7/4) シルト～粘土。地山粒多い。
13 黒色土(10YR2/1) シルト　地山大ブロック混入。

0　2 m

第30図　SI 307・SI 308 竪穴住居跡

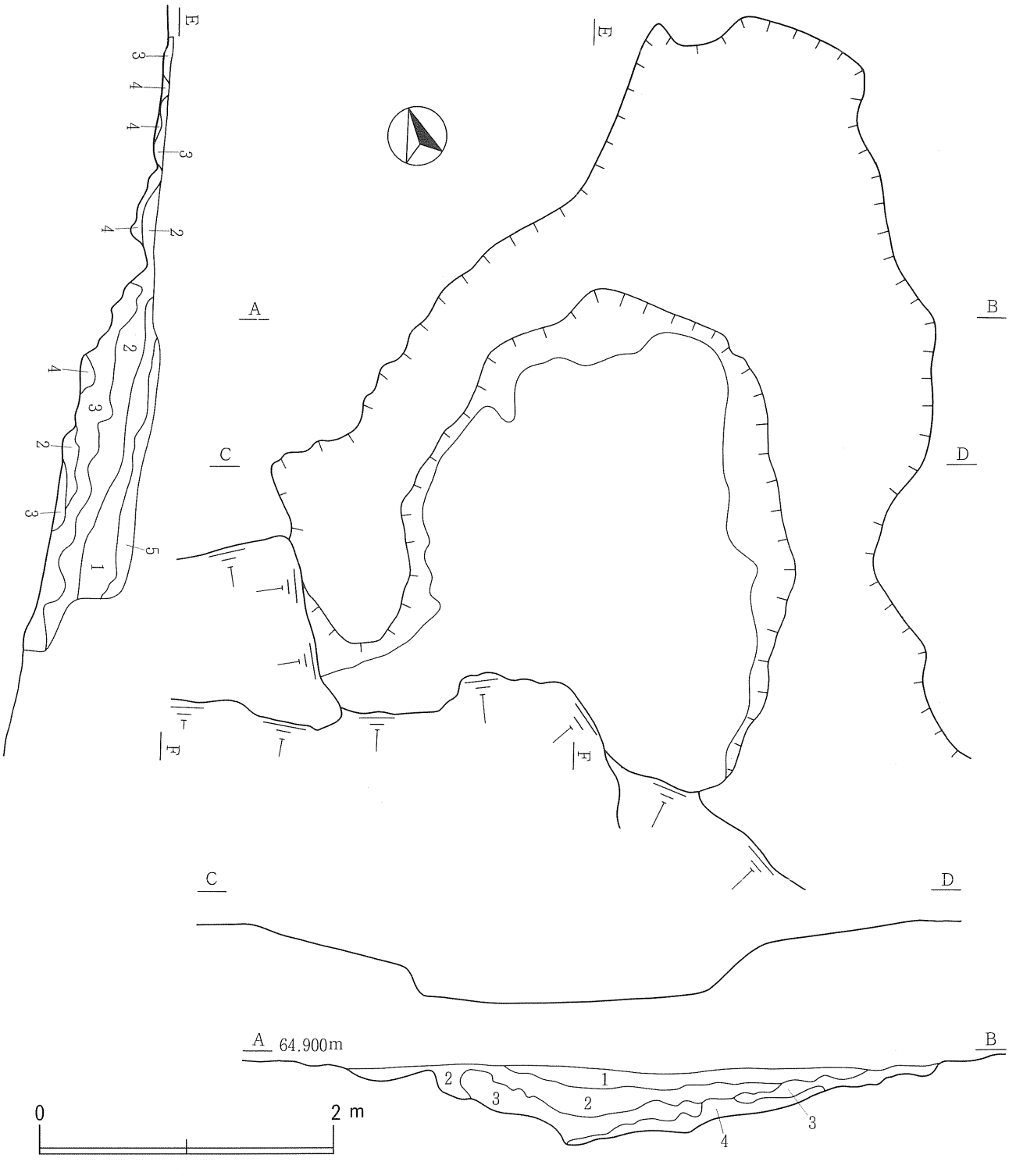
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　穴》　なし。
《壁　溝》　なし。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《改　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　315　竪穴住居跡（第32図、図版28）

《位　置》　ＮＮ2･3、ＮＯ2･3グリッドに位置する。
《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　長径4.91ｍ×短径3.02ｍ、深さ24㎝。
《平面形》　楕円形である。
《埋　土》　７層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで24㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　穴》　床面に３カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　溝》　なし。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《改　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

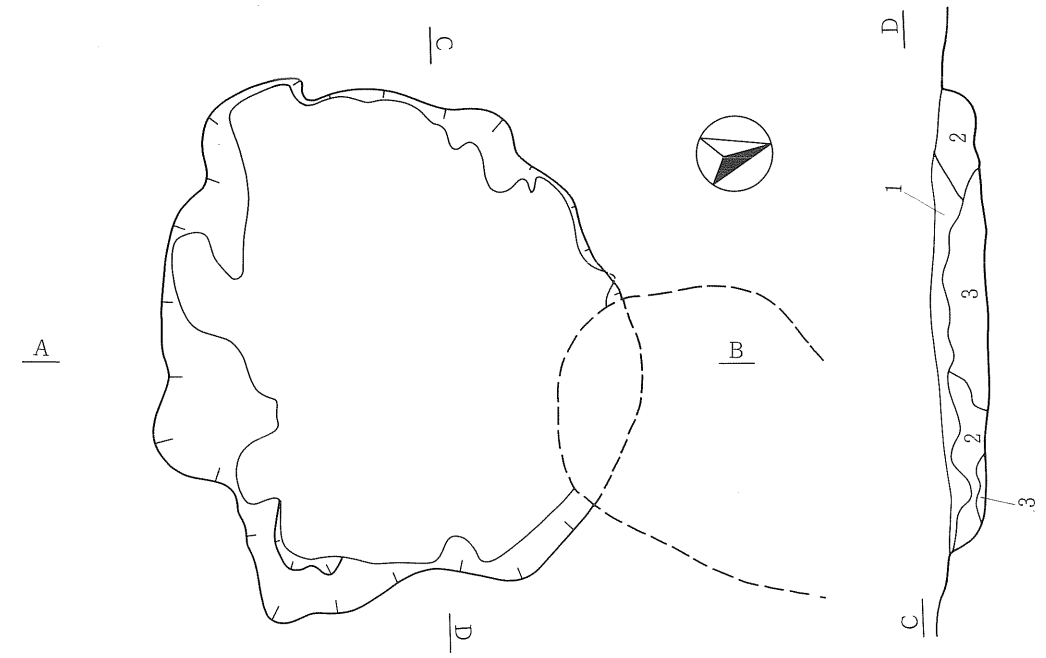
ＳＩ　341　竪穴住居跡（第33図、図版28）

《位　置》　ＮＨ32グリッドに位置する。
《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　複》　なし。
《規　模》　長径2.47ｍ×短径2.25ｍ、深さ26㎝。
《平面形》　円形である。
《埋　土》　２層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで26㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　穴》　床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　溝》　壁に沿って１条巡る。
《遺　物》　遺物は出土しなかった。
《改　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

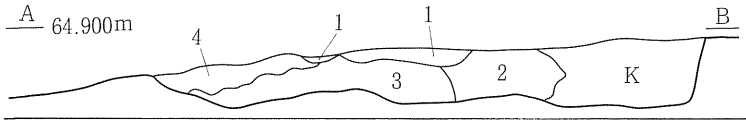


【SI 309】
1　黒色土(7.5YR2/1) シルト～粘質性なし。しまりない。
2　黒色土(7.5YR2/1) シルト～粘質性なし。しまりない。地山小ブロック混入。水分を多く含む。
3　暗褐色土(10YR3/4) シルト～粘質性なし。地山の漸移層。しまりなし。
4　黄褐色土(10YR5/6) シルト～粘質性なし。地山の漸移層。水分が多い。しまり有り。
5　黒色土(7.5YR1/2) シルト～粘質性なし。地山粒が多く含まれる。しまりやや有り。

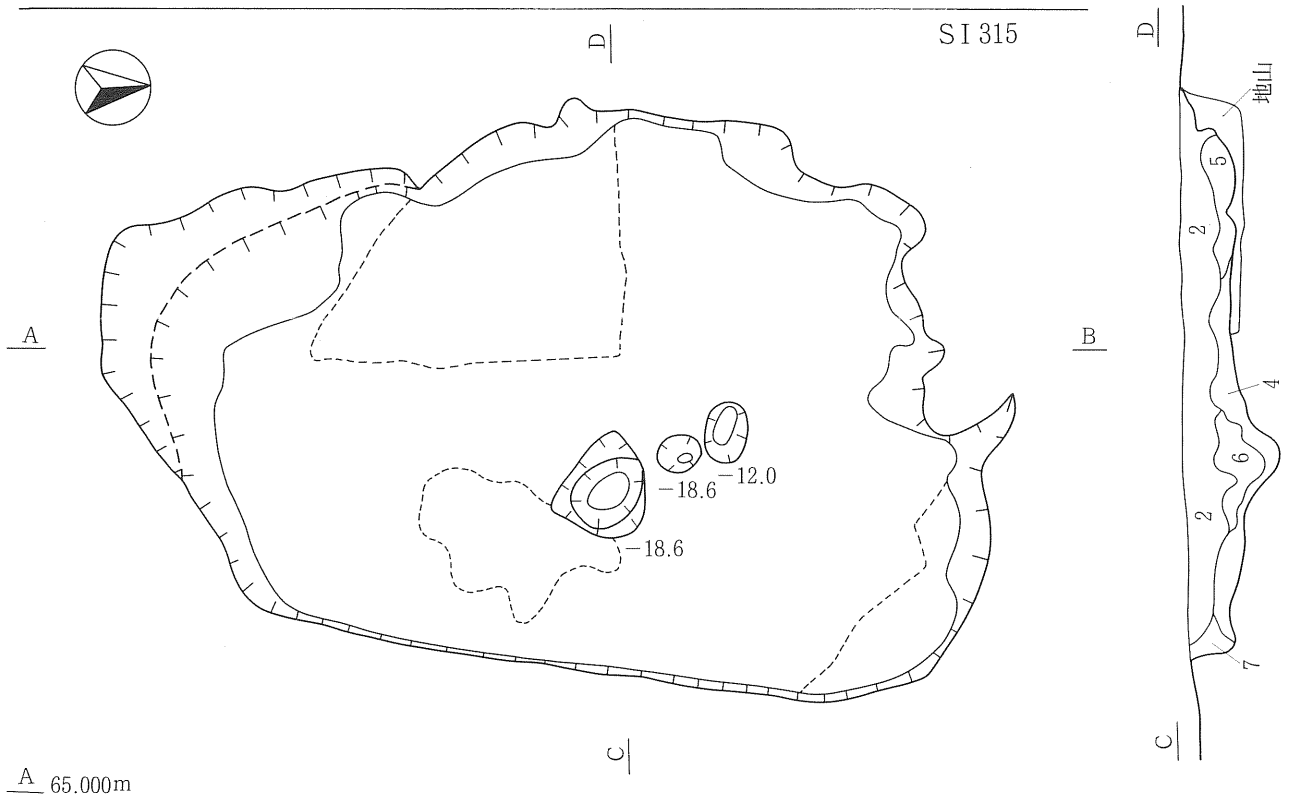
第31図　SI 309 竪穴住居跡とその出土遺物

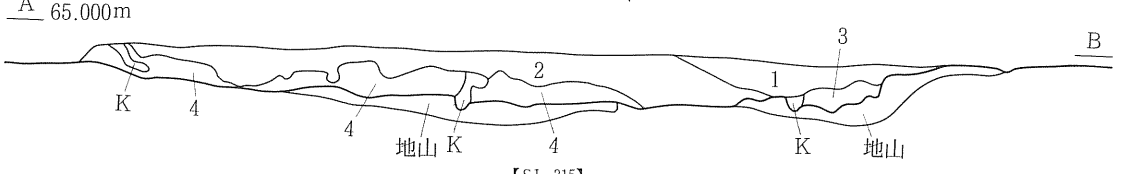


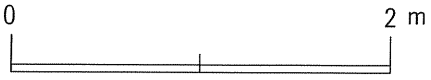
【SI 312】
1　黄褐色土(10YR5／6) シルト。地山粒を多く含む。しまりなし。
2　黒褐色土(10YS2／3) シルト。地山粒、地山ブロックを多く含む。しまりあまりなし。粘性なし。
3　黄褐色土(10YR5／8) シルト。地山粒、黄褐色土粒を少量含む。しまりあり。
4　黄褐色土(10YR5／8) シルト。黒色粒、地山粒を多く含む。しまりややあり。粘性なし。
K　撹乱



SI 312
SI 315

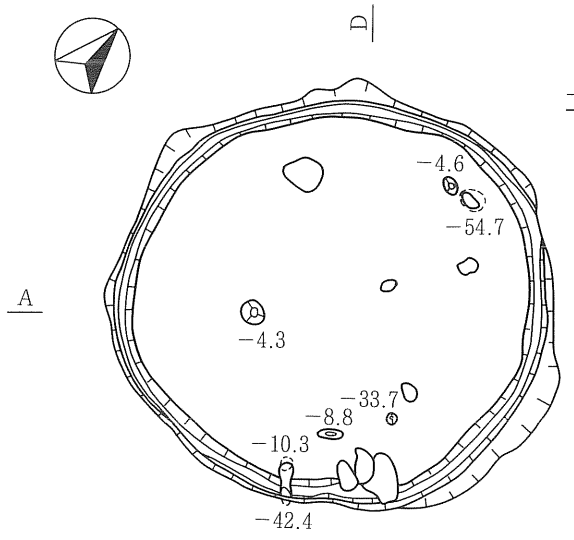


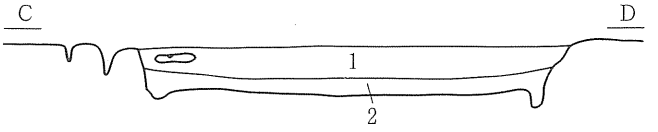




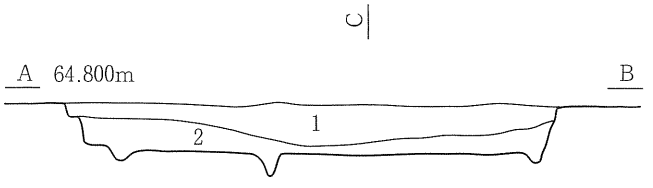
【SI 315】
1　黒色土(10YR2／1) シルト　地山粒、同ブロック少量混入。しまり、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR2／2) シルト　地山粒、同ブロックやや多い。しまりあり。
3　にぶい黄褐色土(10YR5／4) シルト　地山細粒多い。しまりやや悪い。
4　明黄褐色土(10YR7／6) 粘土　部分的に脆いところあり。鉄分の沈殿、付着層。地山であるか不明。
5　黒褐色土(10YR3／1)ﾌﾞ シルト～粘土　地山粒多い。地山ブロック少量混入。しまりやや悪い。
6　黒褐色土(10YR2／2) シルト　2層より地山粒、地山ブロック多い。しまりあり。粘性なし。
7　にぶい黄褐色土(10YR6／4) ～明黄褐色土 (10YR6／6) 粘土～シルト。地山細粒多い。しまりあり。粘性なし。
K　撹乱

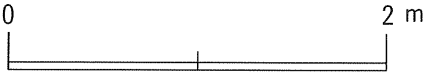
第32図　SI 312・SI 315 竪穴住居跡

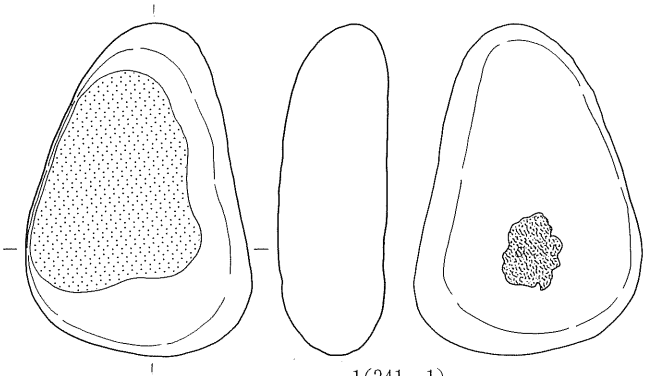


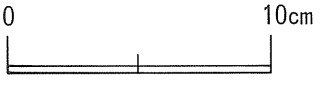


【SI　341】
1　黒褐色土(10Y R2／2)　地山粒極少量のみ含む。
2　黒褐色土(10Y R2／3)　地山粒少量(下位ほどやや多く)含む。
1．2層の層境はっきりしない。

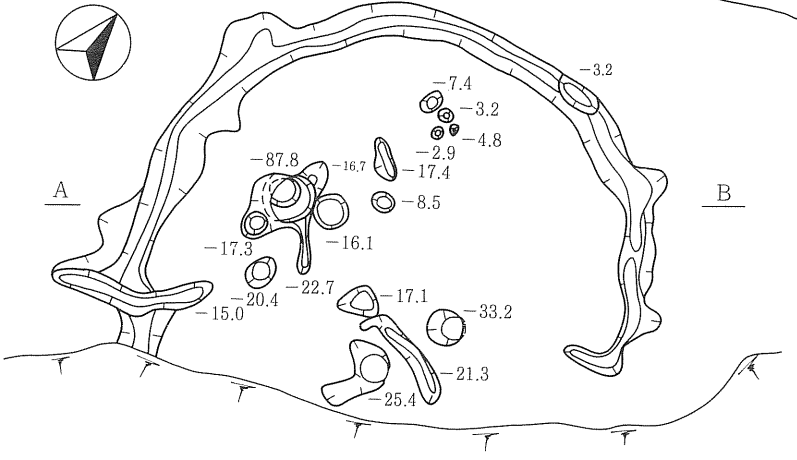


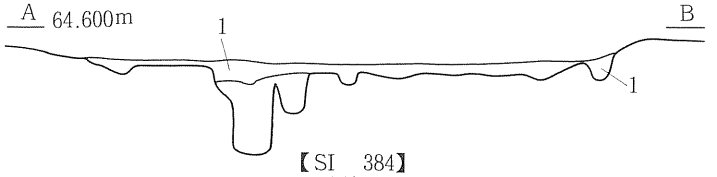




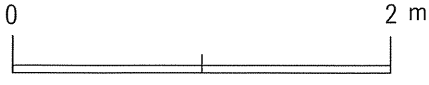


SI341
SI384





【SI　384】
1　黒褐色土(10Y R2／2)　地山粒・塊少量混入



第33図　SI 341・SI 384 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　384　竪穴住居跡（第33図）

《位　　置》　ＮＢ53、ＮＣ53グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径3.25ｍ×短径2.21ｍ、深さ15㎝。

《平 面 形》　斜面に一部崩落しているため全容は不明である。

《埋　　土》　斜面への崩落および削平により、埋土はほとんど残存していなかった。

《　壁　》　最も深いところで15㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に14カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

《遺　　物》　埋土中から擦り石（１）が出土した。

《改　　築》　不明である。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　503　竪穴住居跡（第34図、図版29）

《位　　置》　ＭＲ43･44、ＭＳ43･44グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径3.30ｍ×短径2.68ｍ、深さ21㎝。

《平 面 形》　楕円形と思われる。

《埋　　土》　斜面に一部崩落しているため､埋土はほとんど残存していない。

《　壁　》　最も深いところで21㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　床面に検出した柱穴のうち、長軸線上にかかるＰ１・Ｐ２が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　南東辺に残存している。

《遺　　物》　埋土中から欠損した石槍（１）･敲石（２）が出土した。

《改　　築》　不明である。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　601　竪穴住居跡（第35図・第36図、図版29）

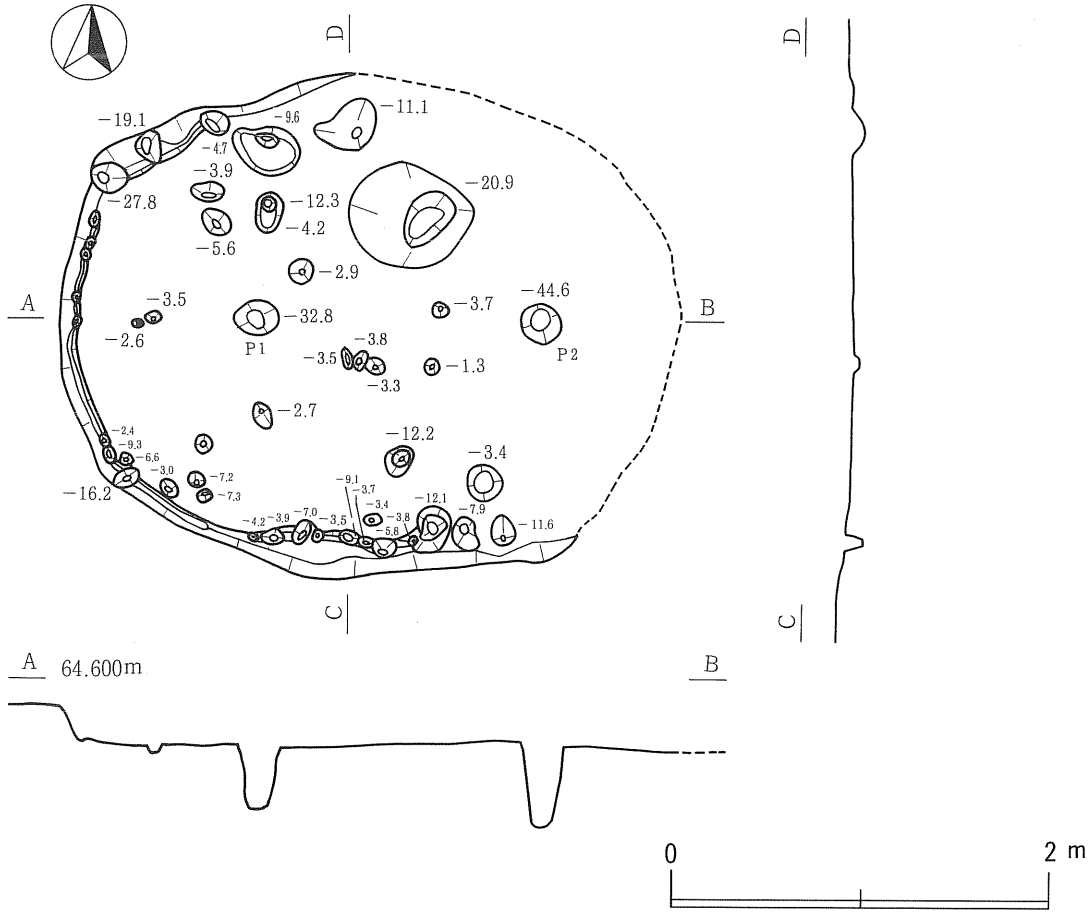
《位　　置》　ＭＤ49･50･51、ＭＥ49･50･51グリッドに位置する。

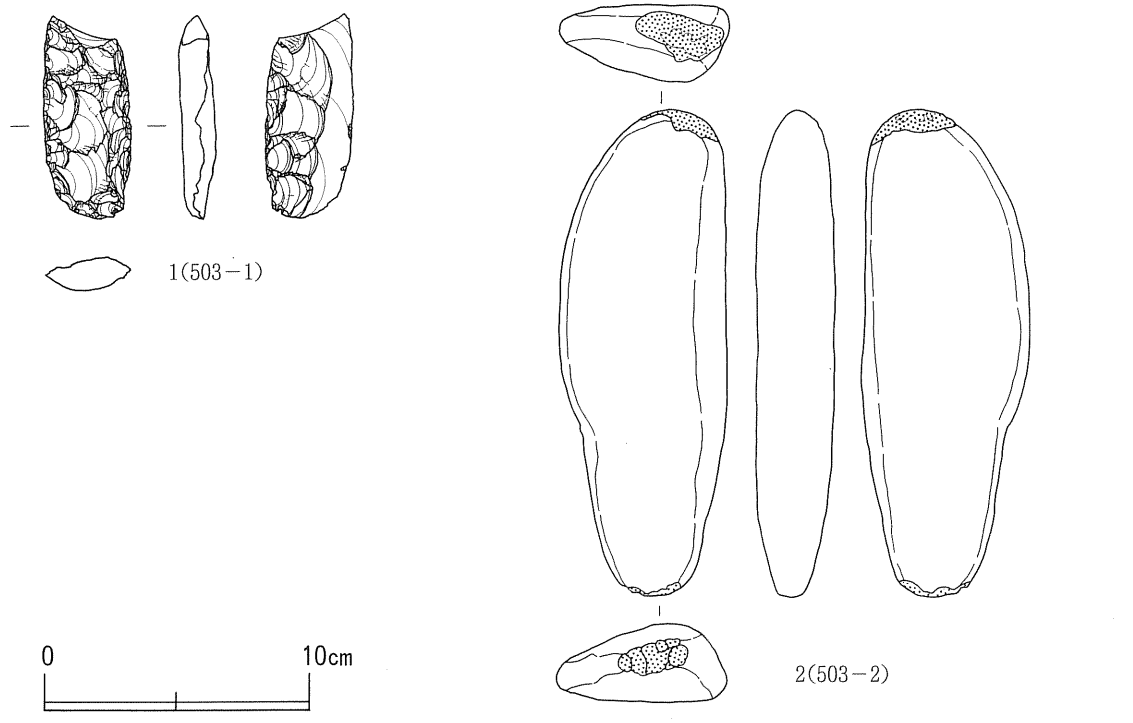
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ602竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。

《規　　模》　確認長で長径6.20ｍ×短径3.40ｍ、深さ20㎝。

《平 面 形》　重複および一部が調査区外に延びているが、楕円形と思われる。





第34図　SI 503 竪穴住居跡とその出土遺物

《埋　　土》　５層に分層したが、３～４層はＳＩ602竪穴住居跡の埋土である。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで20㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　床面に24カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ３が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　壁に沿った１条、および東・西辺に部分的に１条検出した。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期の土器（１～６）、削器（９・11）・加工痕のある剥片（７・８・10）・凹石（12～15）・石皿（16）が出土した。

《改　　築》　部分的ではあるが、壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　602　竪穴住居跡（第36図・第37図）

《位　　置》　ＭＤ50・51・52グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ601・753竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　確認長で長径9.25ｍ×短径2.25ｍ、深さ53㎝。

《平 面 形》　大部分が調査区外に延びるため不明である。

《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで53㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床部分もみられる。北西側には壁溝に並行して波板状のピット群が設けられている。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に柱穴は検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　３条検出した。内側になるほど滅失の度合いが大きく、内側のプランから順次拡張したと思われる。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～３）、石鏃（６）・棒状石製品（７）・半円状偏平打製石器（８）・凹石（９～11）が出土した。

《改　　築》　壁溝が３条巡っていることから２回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　603　竪穴住居跡（第38図・第39図、図版30）

《位　　置》　ＭＤ52・53・54、ＭＥ52・53・54グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

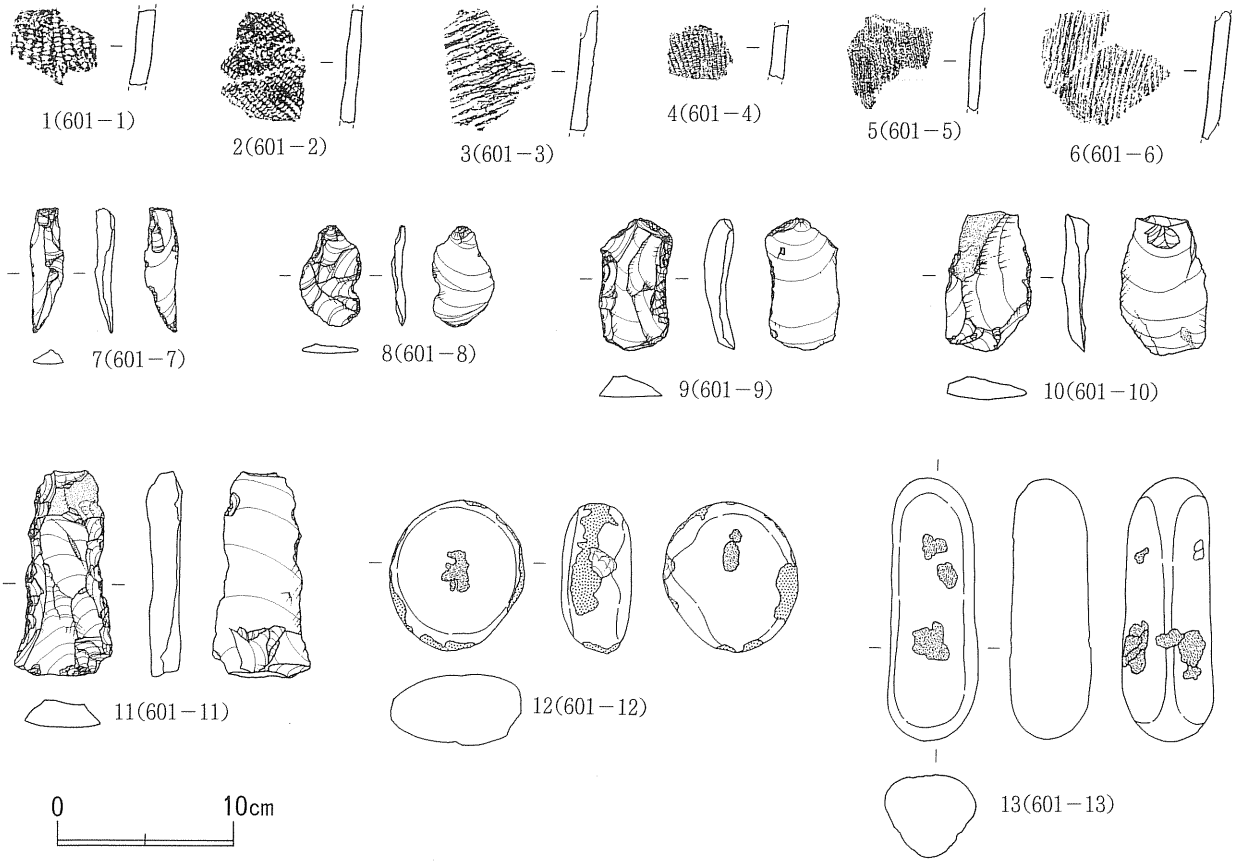
《重　　複》　ＳＩ605・753竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しい。

《規　　模》　最も新しい時期で長径8.23ｍ×短径6.40ｍ、深さ35㎝。

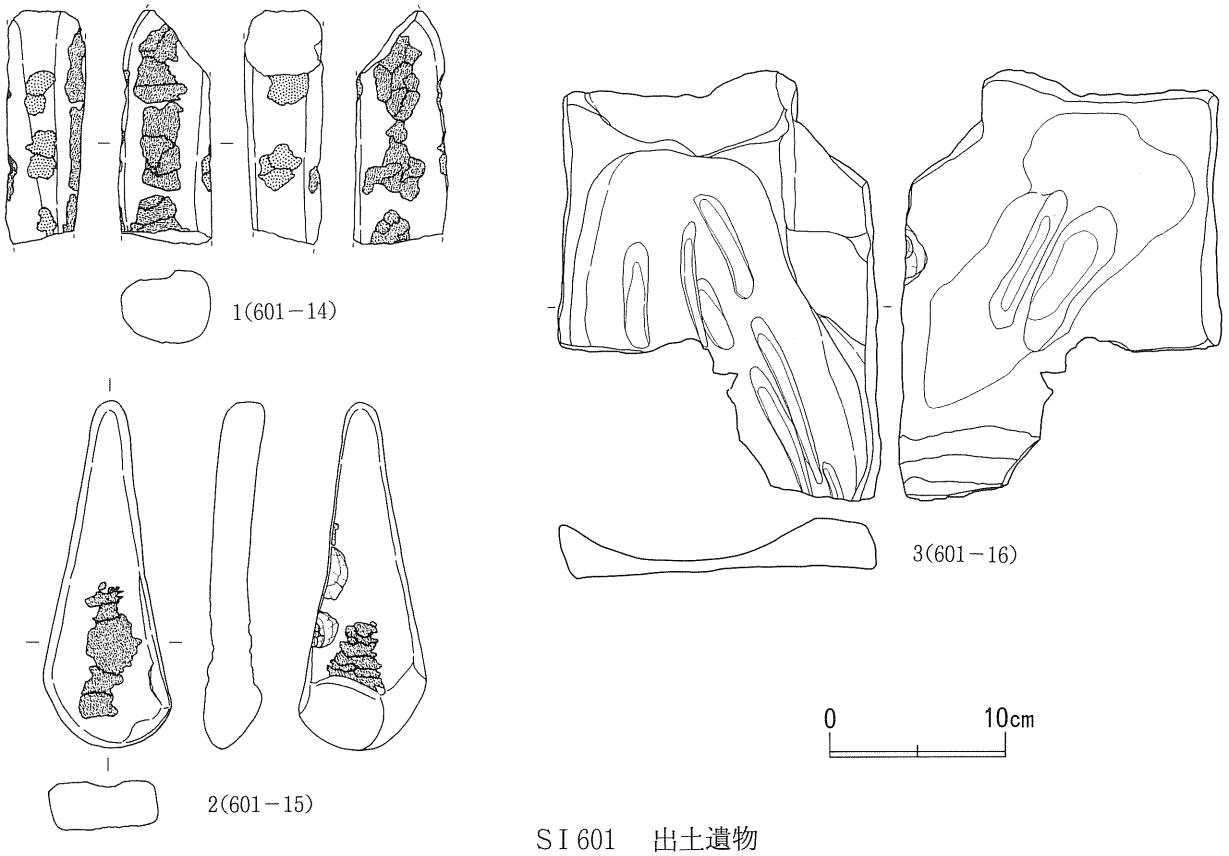
《平 面 形》　重複しているが壁溝の平面形から楕円形である。

《埋　　土》　６層に分層した。自然堆積と思われる。

【SI 601】
I　黒褐色土(10Y R 2／2) シルト。地山粒少量混入。しまり有り。粘性若干有り。
II　黒褐色土(10Y R 2／3) シルト。地山粒・炭少量混入。しまり有り。粘性若干有り。
1　黒褐色土(10Y R 3／2) シルト。地山粒・地山塊・炭・焼土粒混入。しまり、粘性共有り。
2　黒褐色土(10Y R 2／3) シルト。地山粒・地山塊・炭・焼土粒混入。しまり強く、粘性若干有り。
3　黒色土(10Y R 2／1) シルト。地山粒・炭少量混入。しまり強く、粘性あまりなし。
4　黒色土(10Y R 2／1) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭・焼土粒混入。しまりやや弱く、粘性若干有り。
5　黒褐色土(10Y R 3／2) シルト。地山粒・地山塊多量、炭・焼土粒少量混入。しまり強く、粘性有り。
K　撹乱

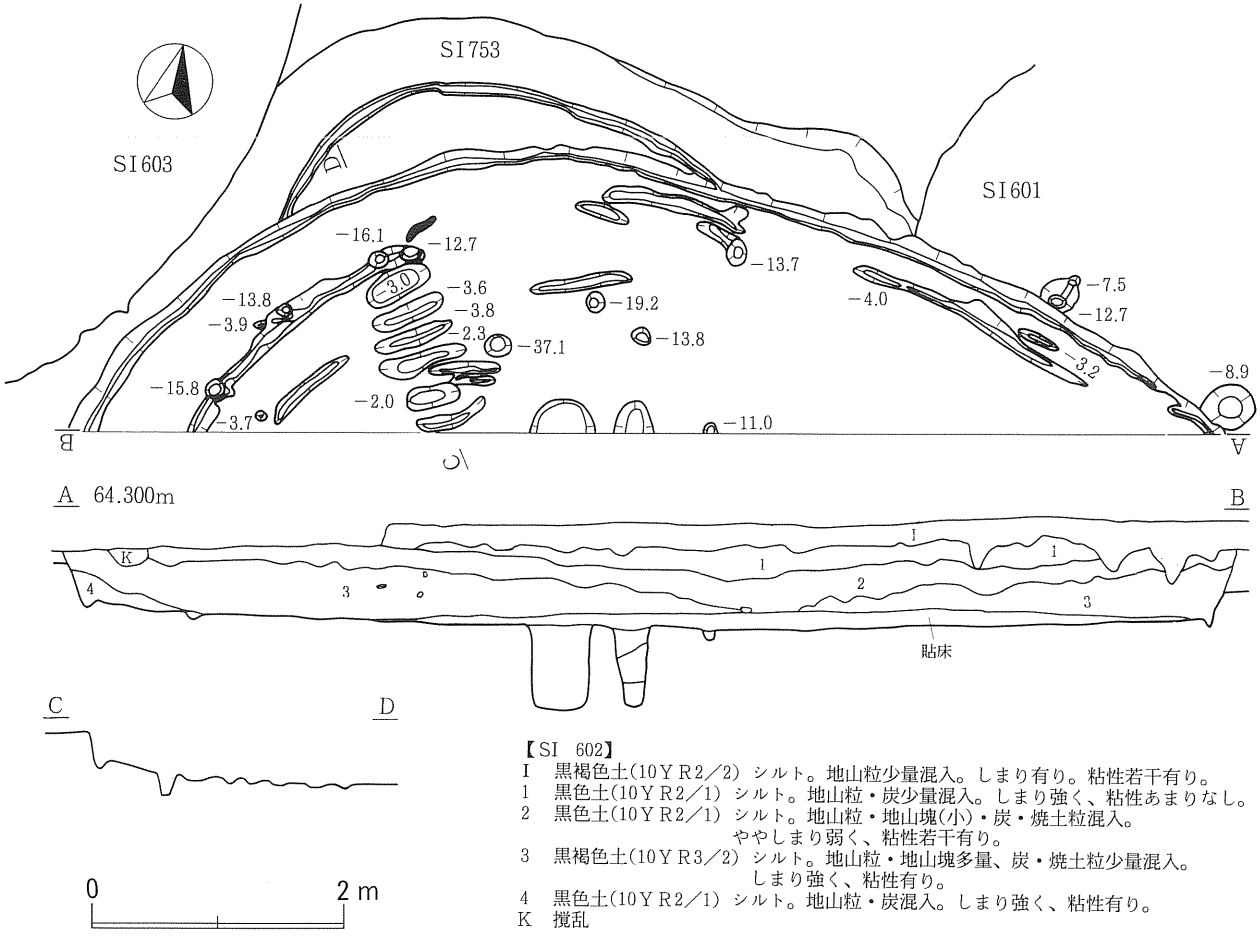


第35図　SI 601 竪穴住居跡とその出土遺物



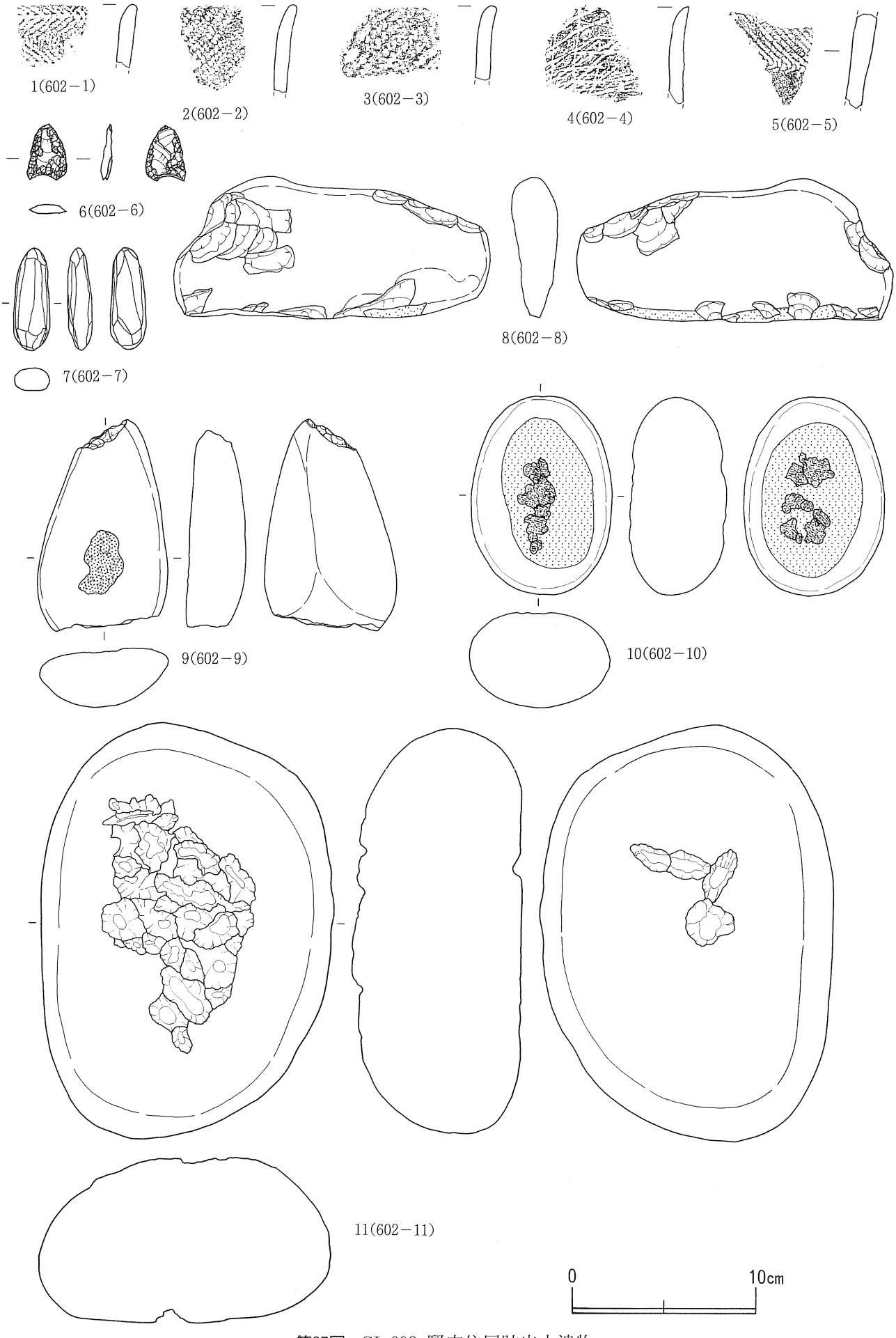
SI601　出土遺物

SI602



【SI 602】
I　黒褐色土(10YR2／2) シルト。地山粒少量混入。しまり有り。粘性若干有り。
1　黒色土(10YR2／1) シルト。地山粒・炭少量混入。しまり強く、粘性あまりなし。
2　黒色土(10YR2／1) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭・焼土粒混入。
　　ややしまり弱く、粘性若干有り。
3　黒褐色土(10YR3／2) シルト。地山粒・地山塊多量、炭・焼土粒少量混入。
　　しまり強く、粘性有り。
4　黒色土(10YR2／1) シルト。地山粒・炭混入。しまり強く、粘性有り。
K　撹乱

第36図　SI 601・SI 602 竪穴住居跡とその出土遺物



第37図　SI 602 竪穴住居跡出土遺物

《　壁　》　最も深いところで35㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１～Ｐ４が最終段階の主柱穴と思われる。

《壁　溝》　部分的に重なりながら５条確認した。一番外側のプランが最も新しい。

《遺　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１・３～７）・前期後葉の土器（２）、石鏃（14・15）・石槍（16）・石匙（17・18）・削器（19～24）・石錘（25・25）・磨製石斧（27）・凹石（29～31）・敲石（23）が出土した。

《改　築》　壁溝が５条巡っていることから４回の改築が想定される。西壁を共用したまま、順次東方に拡張している。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　604　竪穴住居跡（第40図、図版31）

《位　置》　ＭＥ51･52、ＭＦ51･52グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　ＳＩ753竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。

《規　模》　最も新しい時期で長径3.56ｍ×短径3.56ｍ、深さ29㎝。

《平面形》　最も新しい時期は略円形である。

《埋　土》　３層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。２・３層はそれぞれ古い時期の埋土である。

《　壁　》　最も深いところで29㎝で、ほぼ直立する。

《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　穴》　床面に８カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ３が最も新しい時期の主柱穴と思われる。

《壁　溝》　３条検出した。

《遺　物》　埋土中からの出土が多い。縄文前期中葉の土器（１・２）、石槍（５～７）・掻器（８）・半円状偏平打製石器（９）を出土した。

《改　築》　壁溝が３条巡っていることから２回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　605　竪穴住居跡（第41図～第43図、図版31～図版33）

《位　置》　ＭＥ52･53、ＭＦ52･53･54、ＭＧ52･53･54グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

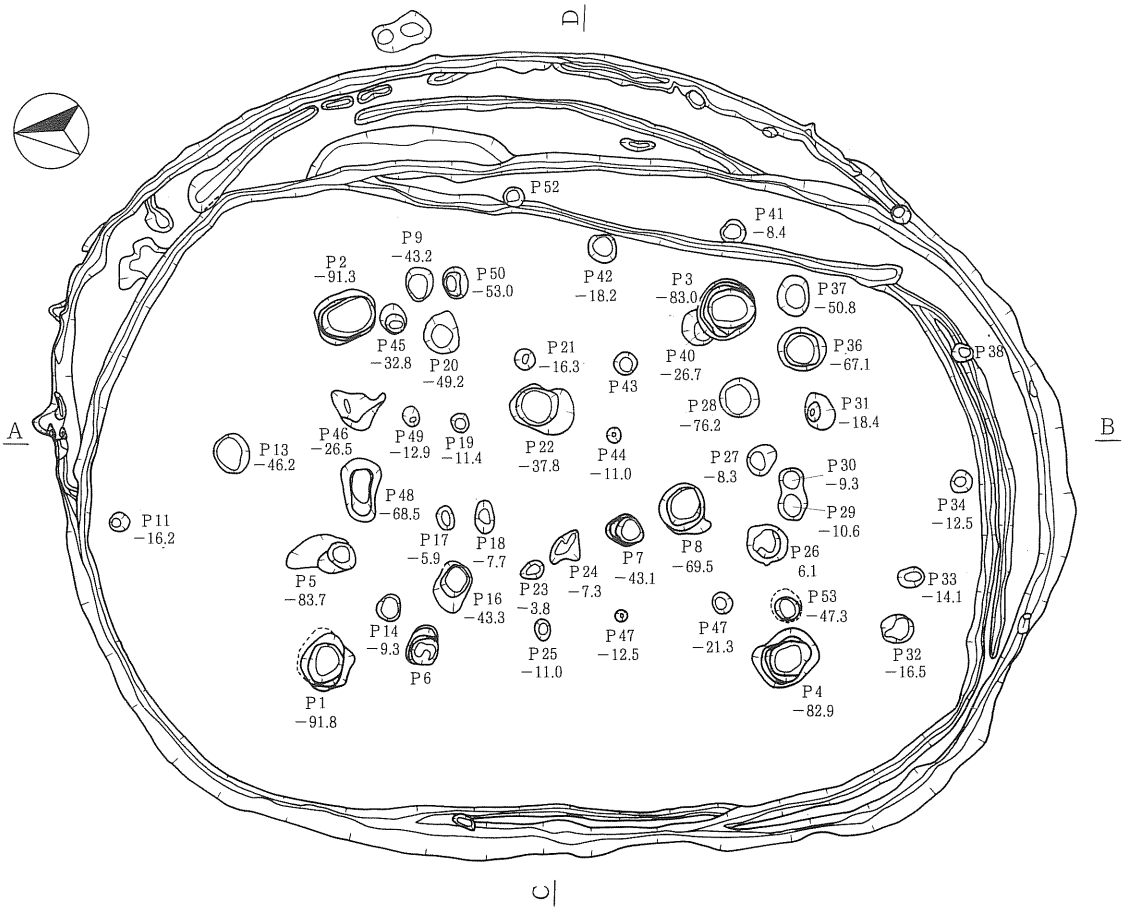
《重　複》　ＳＩ603竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。

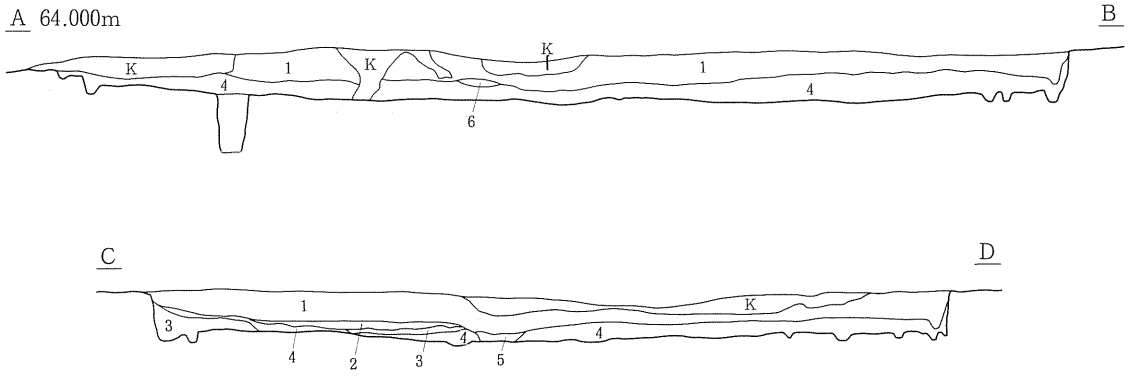
《規　模》　最も新しいプランで長径5.85ｍ×短径4.50ｍ、深さ25㎝。

《平面形》　重複しているが壁溝の平面形から楕円形である。

《埋　土》　11層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明である。

《　壁　》　最も深いところで25㎝で、外傾しながら立ち上がる。重複のため、一部は削平されている。



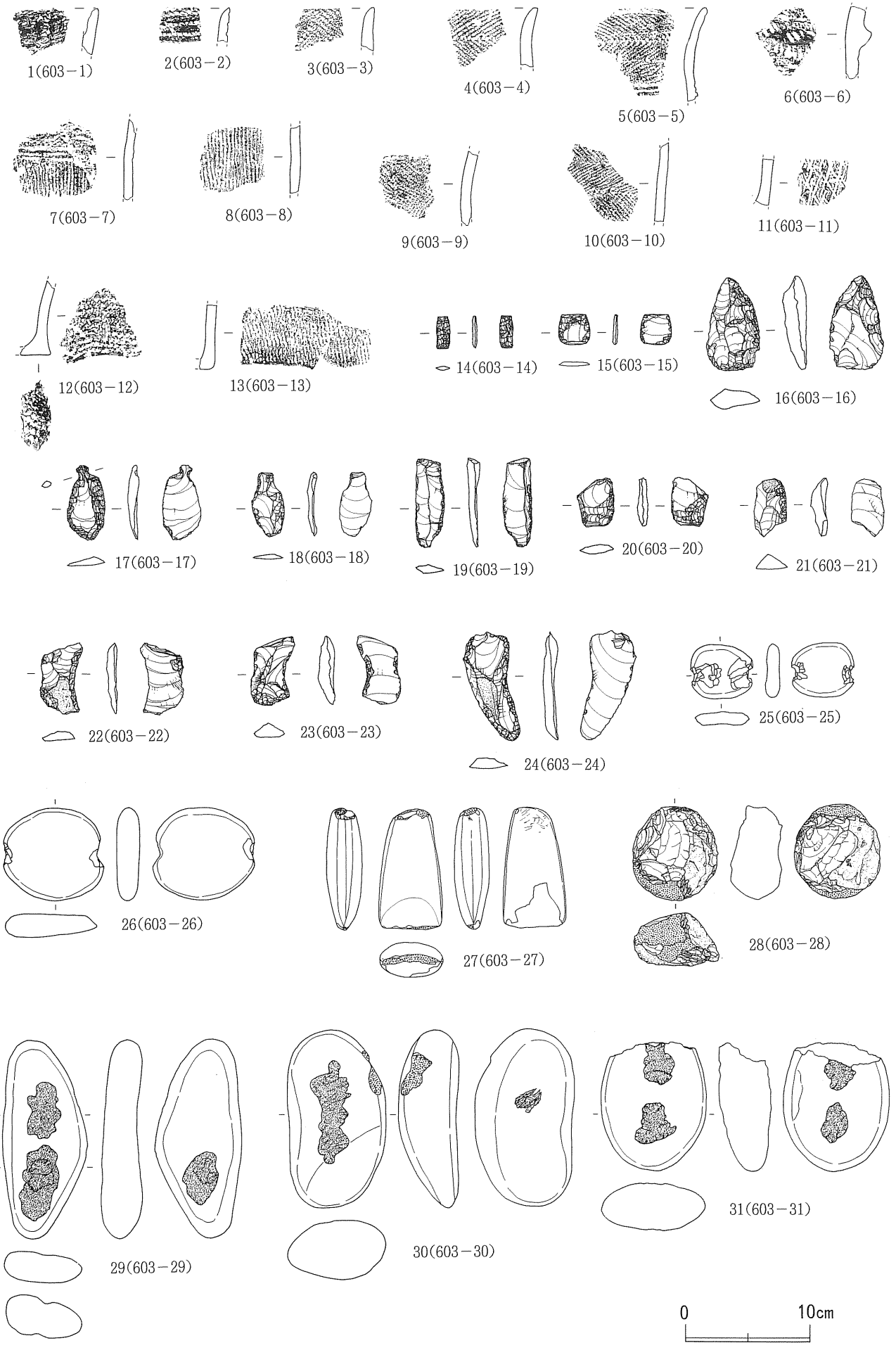


P1～P9は貼床上面で検出。

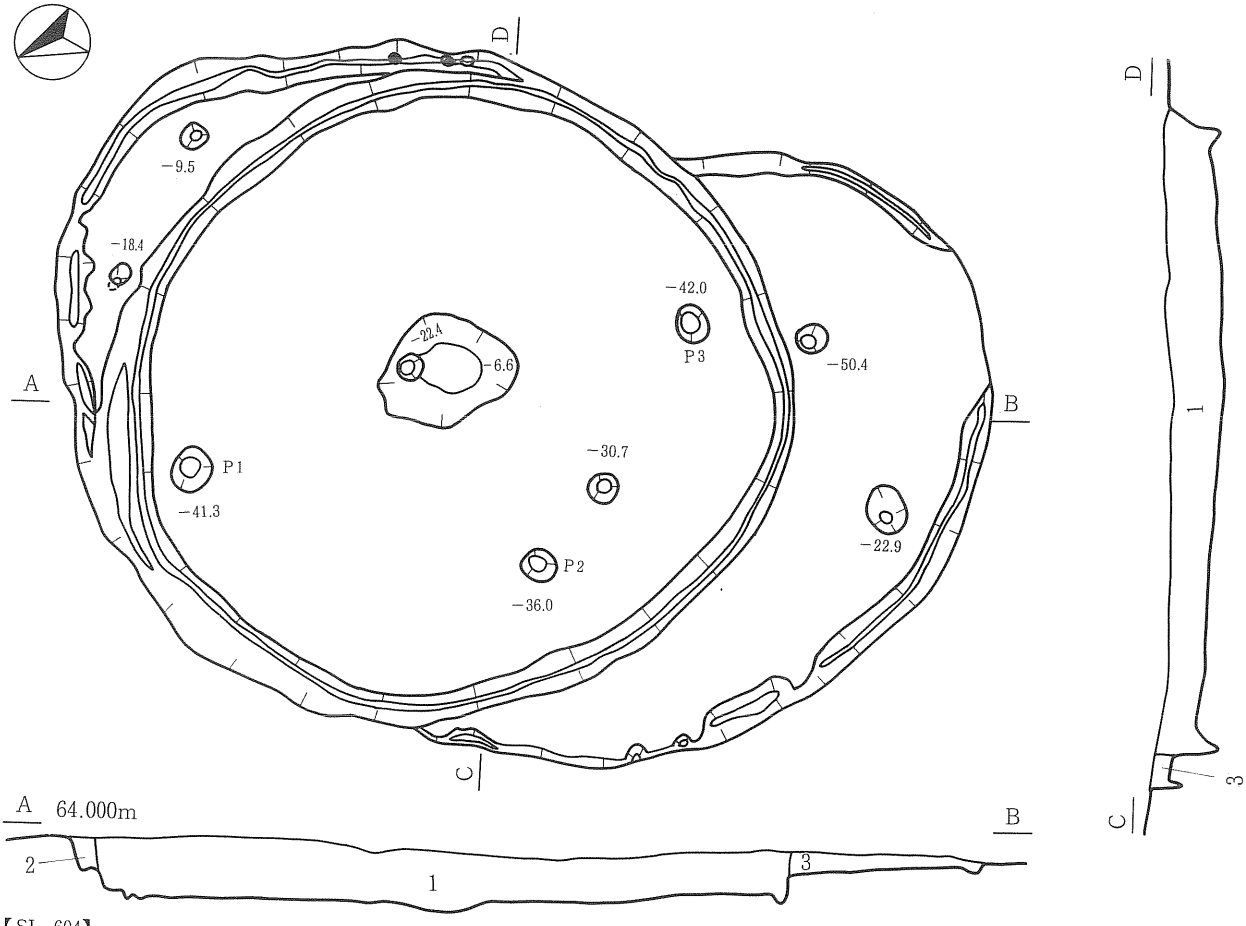
0　2 m

【SI　603】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／2) シルト。地山粒・地山塊(少)多量、　炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性有り。
2　黒色土(810ＹＲ2／1) シルト。地山粒・地山塊(小) やや多く、炭・焼土粒少量混入。硬質。粘性有り。
　　(上面に炭の薄い層が認められる)
3　黄橙色土(10ＹＲ8／6) 粘土。地山塊多量混入。硬質。粘性有り。
4　黒褐色土(10ＹＲ2／2) シルト。地山塊多く、炭・焼土粒少量混入。硬質。粘性有り。
5　黒色土(10ＹＲ1.7／1) シルト。地山粒･地山塊(小)・炭混入。しまり、粘性共有り。
6　黒色土(10ＹＲ1.7／1～2／1) シルト。地山粒混入。硬質。粘性有り。
K　撹乱

第38図　SI 603 竪穴住居跡

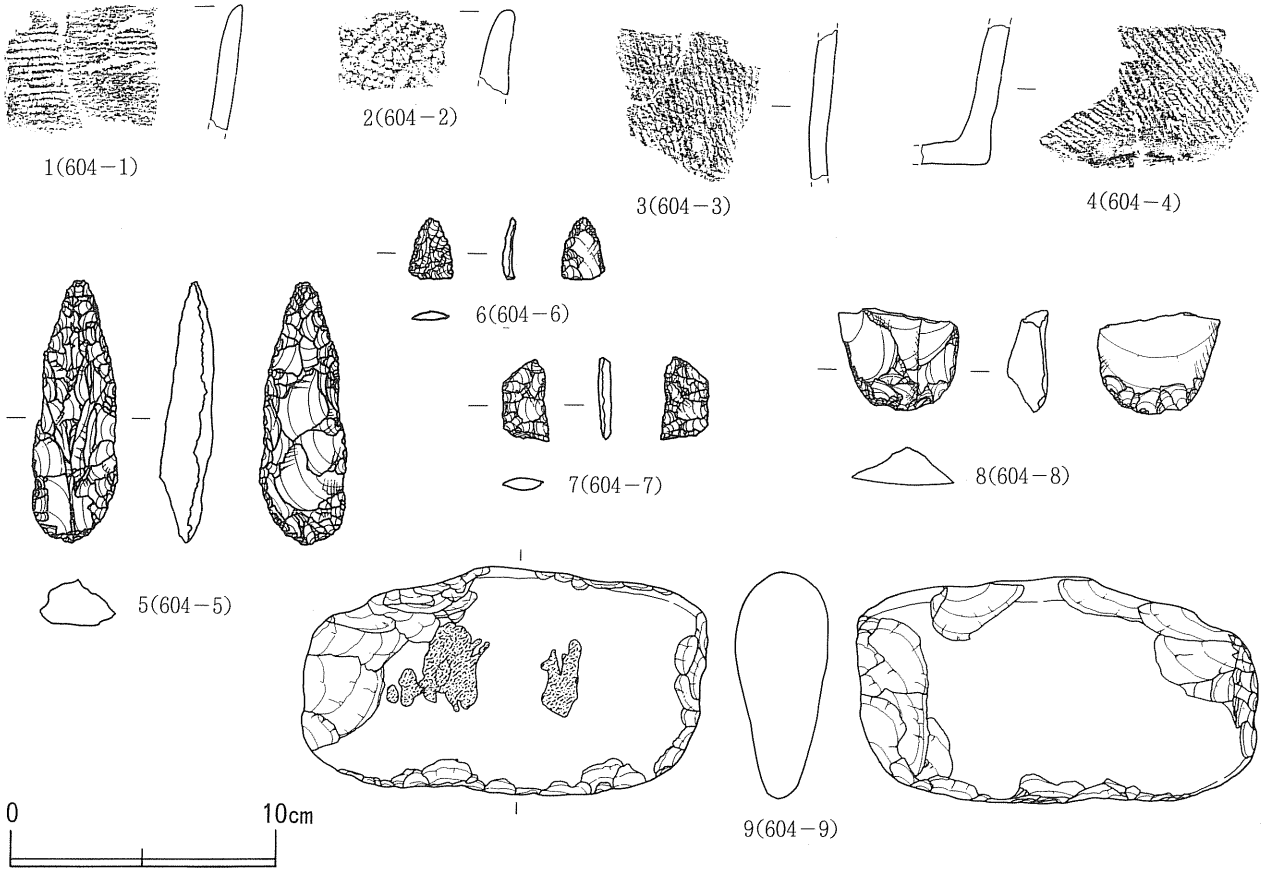


第39図　SI 603 竪穴住居跡出土遺物

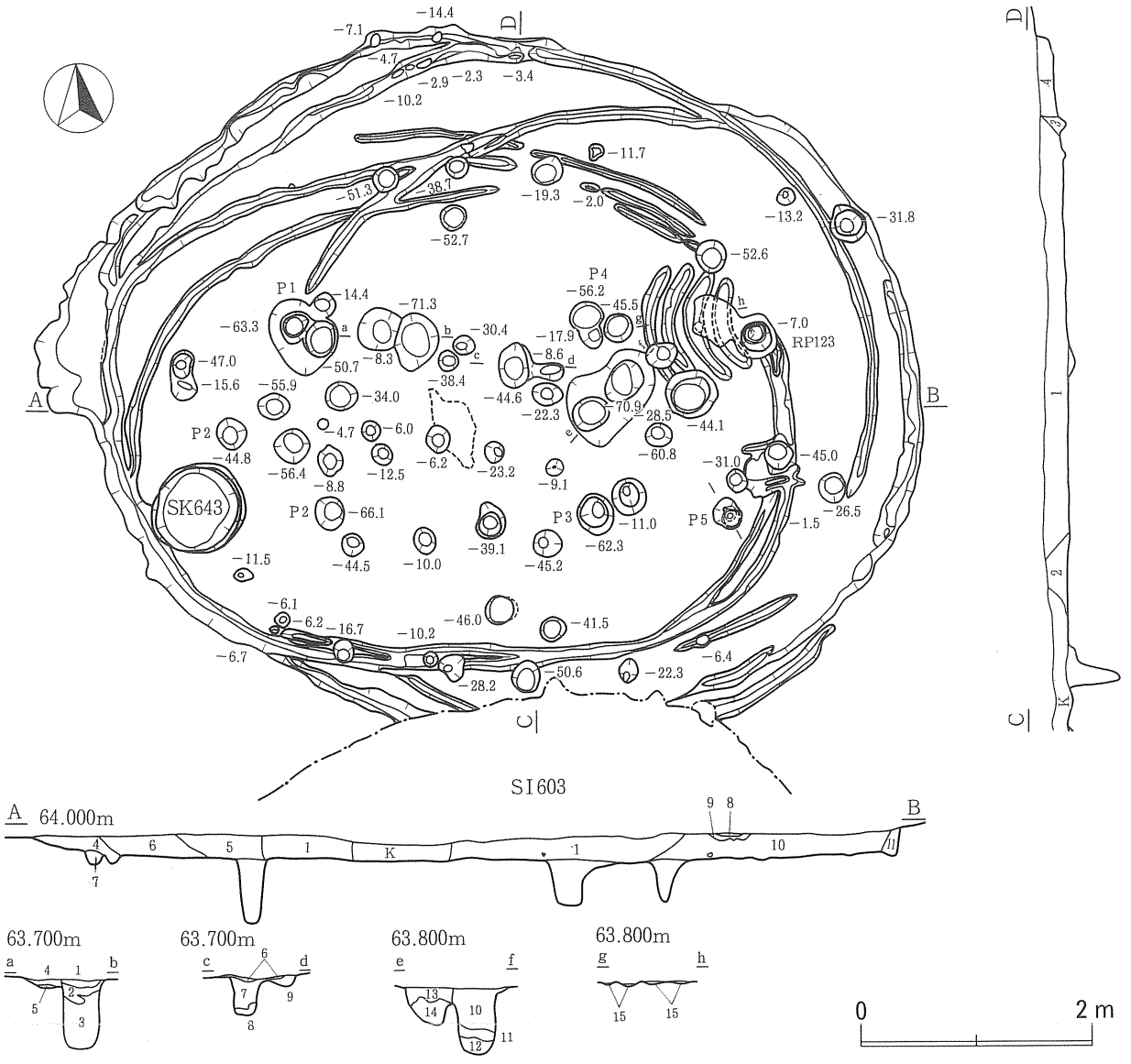


【SI 604】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／3)　シルト。地山粒、地山塊(小)多く混入。炭、焼土混入。しまり有り。粘性あまりなし。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒混入。しまり粘性有り。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒。炭化物混入。しまり有り。粘性やや弱い。

0　2ｍ



第40図　SI 604 竪穴住居跡とその出土遺物

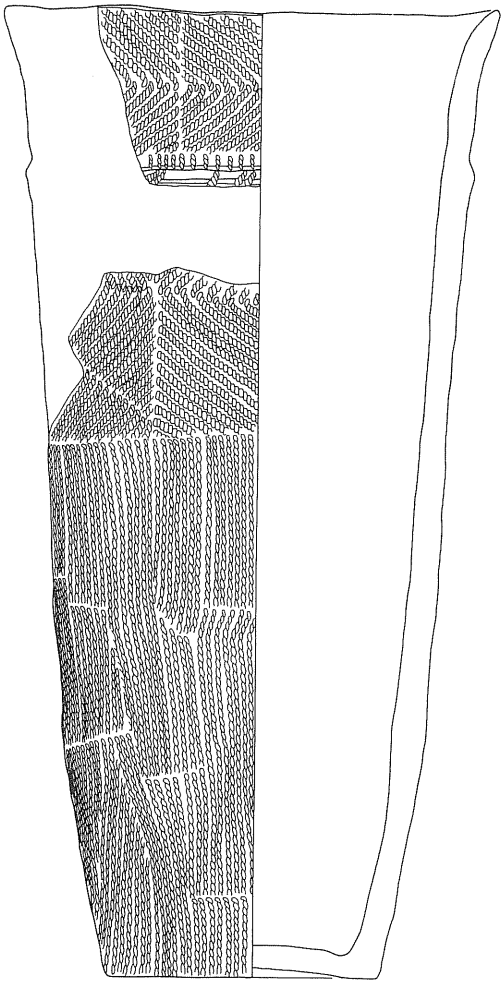


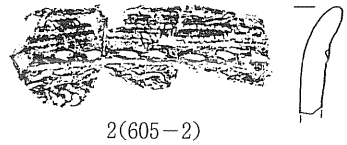
【SI 605】
1 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山塊(小)多量、炭・焼土粒混入。しまり、粘性有り。
2 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒少量混入。しまりやや弱く、粘性有り。
3 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒少量混入。しまり強く、粘性有り。
4 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。
5 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒・地山塊・炭少量混入。しまり、粘性共有り。
6 黒褐色土(10YR2/3) シルト。11より地山粒・地山塊やや多く、炭・焼土粒は少ない。しまり、粘性共有り。
7 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・焼土粒混入。しまり、粘性共有り。
8 黒色土(10YR1.7/1) シルト。炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。
9 橙色土(5YR7/8) シルト。焼土層。しまり有り。
10 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒・地山塊(小)多量、地山粒やや多く、炭混入。しまり、粘性共有り。
11 黒色土(10YR2/1) 地山粒・炭・焼土粒混入。しまり、粘性共有り。
K 撹乱

【SI 605・炉】
1 黒色土(10YR2/1) シルト。地粒少、硬質。粘性少しあり。
2 黒色土(10YR2/1) シルト。地粒の混入1層より多い。硬質。粘性あり。
3 明黄褐色土(10YR6/6) 粘土。しまり、粘性あり。
4 黒色土(10YR2/1) シルト。地粒やや多い。粘性強。
5 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地粒少し。しまり、粘性あり。
6 黄橙色土(10YR8/6) 粘土。硬質、粘性あり。
7 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地粒、炭やや多い。しまり、粘性あり。
8 黄橙色土(10YR8/6) 粘土。硬質、粘性なし。
9 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地粒少し、しまりあり。粘性あまりなし。
10 黒色土(10YR2/1) シルト。地粒多い。地山小塊やや多い。炭、焼土混入。しまり、粘性あり。
11 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘土～シルト。地粒多い。しまり、粘性あり。
12 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒、地山塊混入。しまりやや悪い。粘性あまりなし。
13 黒色土(10YR2/1) シルト。10層より各混入物多い。しまり、粘性あり。
14 褐色土(10YR4/4) シルト～粘土。地山粒、地山小塊混入。しまり、粘性あり。
15 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒少量。しまり、粘性あり。

【SI 605・RP123（埋設土器）】
1 黄橙色土(7.5YR7/8) 粘土。硬質。粘性有り。被熱の痕跡有り。(貼り床の一部)
2 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒少量、炭混入。硬質。粘性有り。(貼り床の一部)
3 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・地山塊(小)やや多く、炭混入。しまり、粘性共有り。
4 黒色土(10YR2/1) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭・焼土粒少量混入。しまり有り。粘性あまりなし。

第41図　SI 605 竪穴住居跡

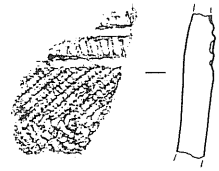

1(605－1)

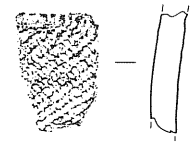

2(605－2)

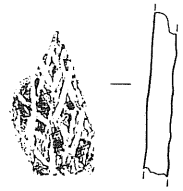
3(605－3)

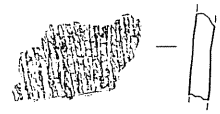
4(605－4)

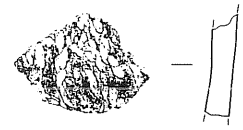
5(605－5)

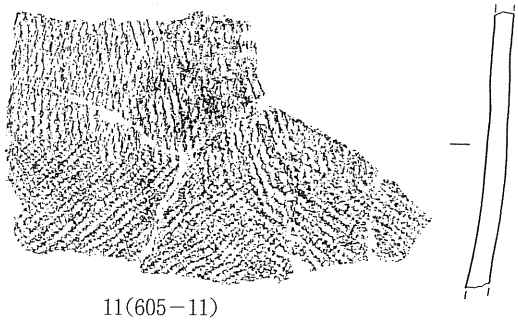

6(605－6)

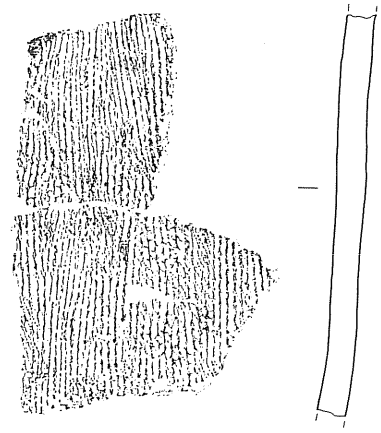

7(605－7)

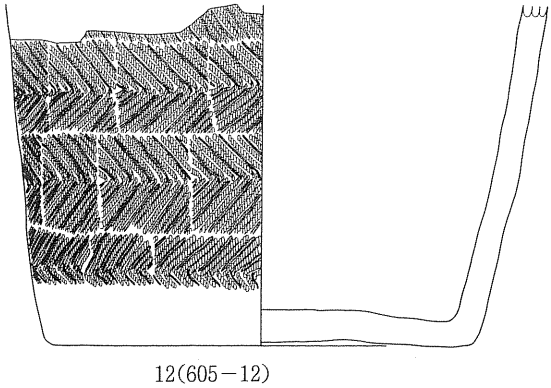

8(605－8)

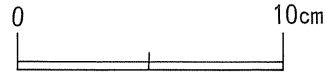

9(605－9)


10(605－10)

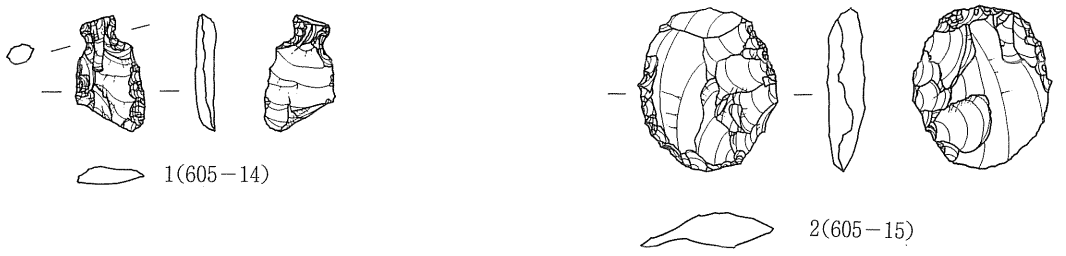

11(605－11)

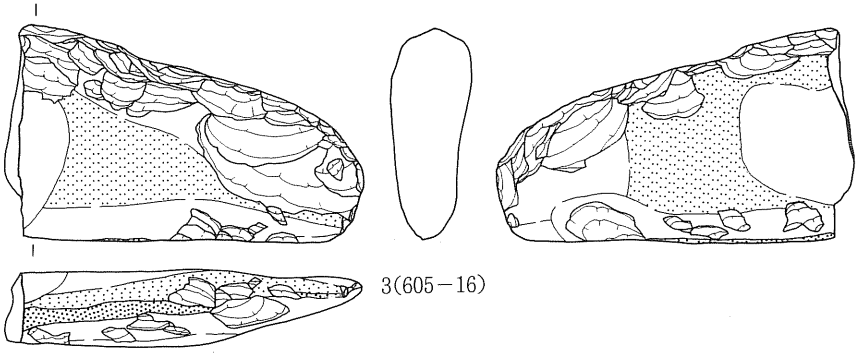

13(605－13)

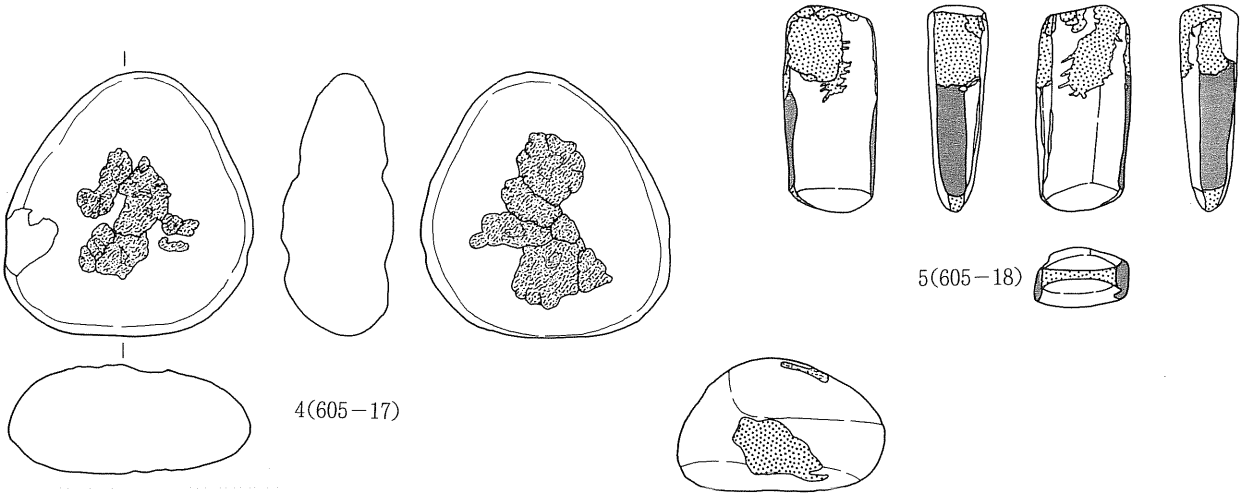

12(605－12)

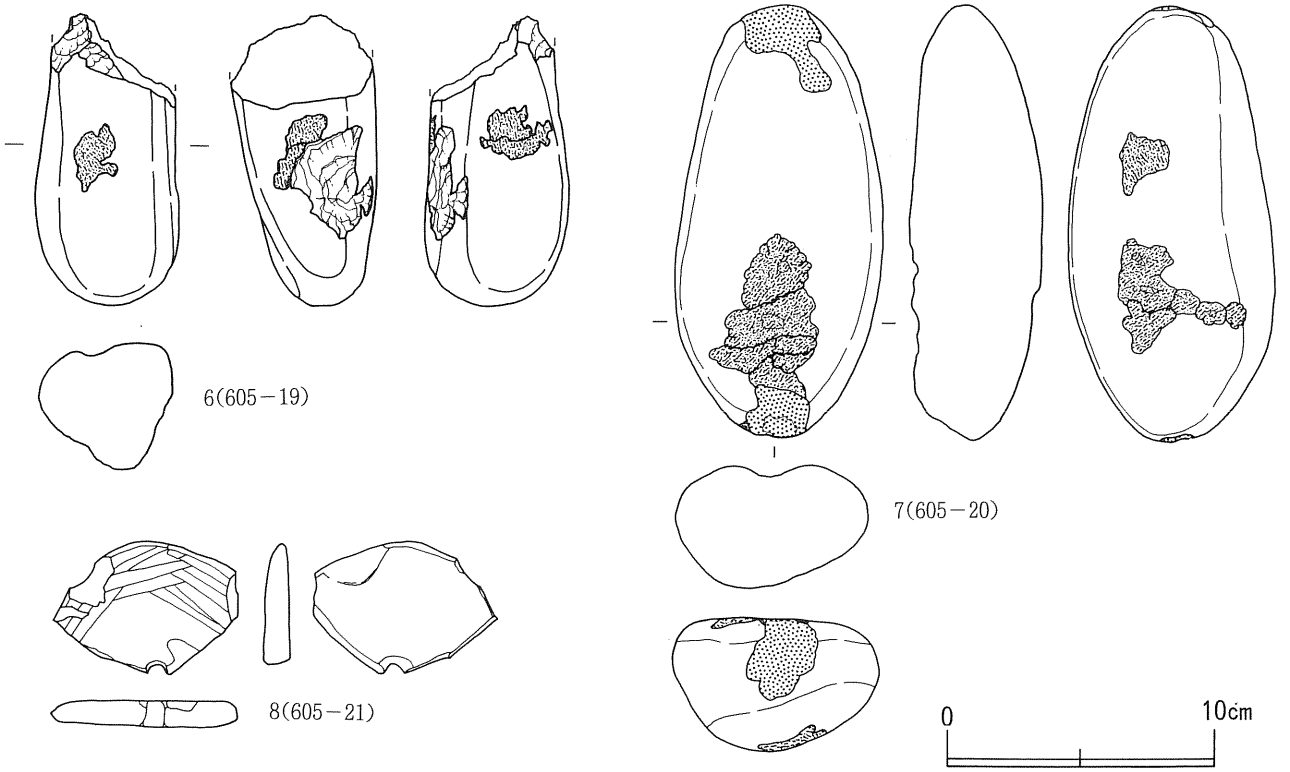


第42図　SI 605 竪穴住居跡出土遺物（１）







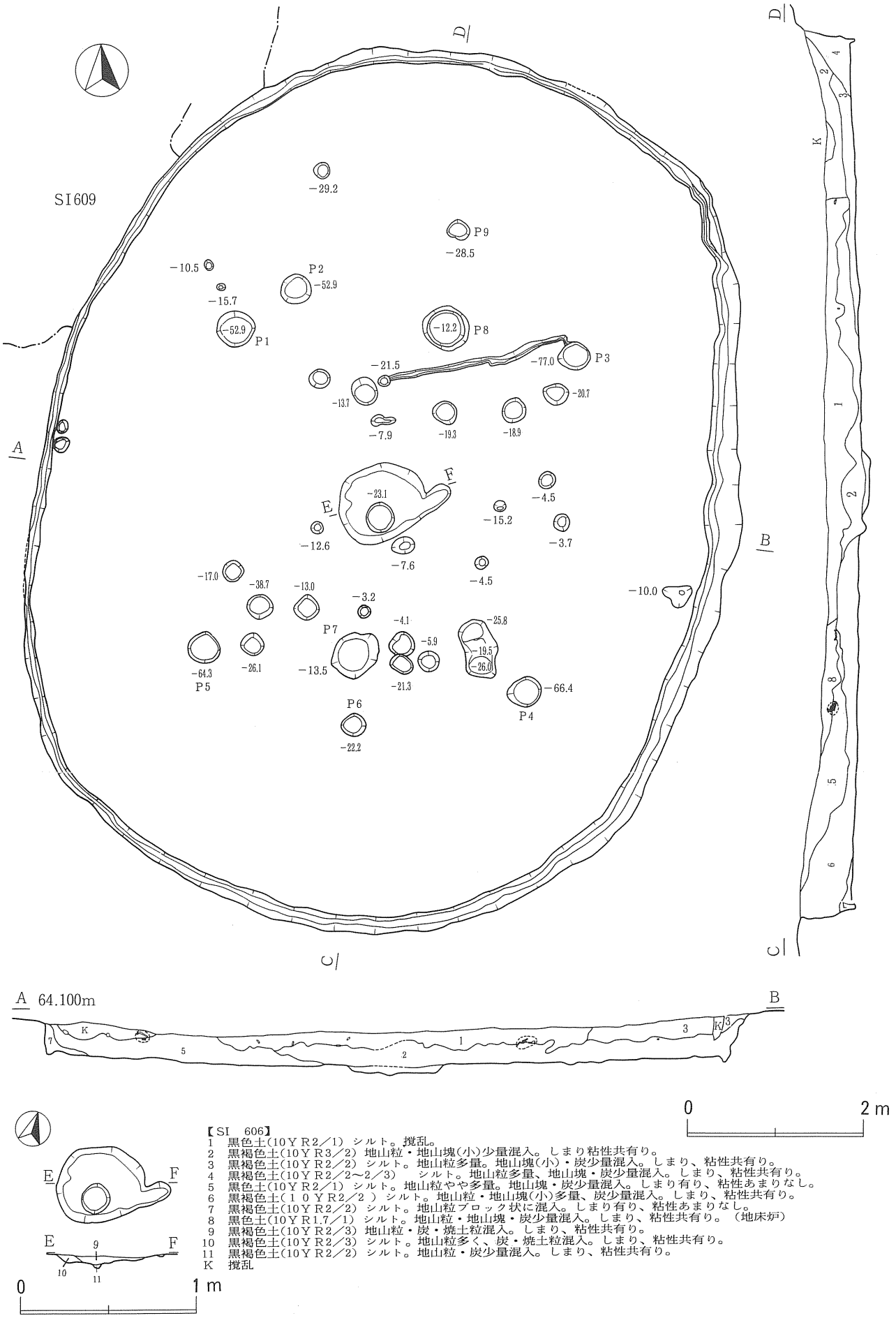


第43図　SI 605 竪穴住居跡出土遺物（２）

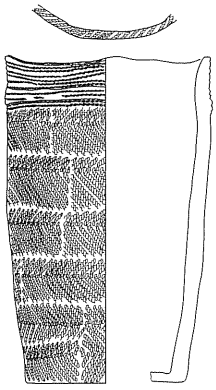
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。東側には壁溝に並行して波板状のピット群が設けられている。
《　炉　》　埋設土器が１基、および地床炉が１基検出されている。
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と思われる。Ｐ５からは埋設土器が検出した。
《壁　　溝》　６条検出した。内側から２番目のプランが最も新しい時期のものである。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～６）、および石匙（14）・削器（15）・半円状偏平打製石器（16）・凹石（17・19・20）・磨製石斧（18）・有孔円盤状石製品（21）が出土した。
《改　　築》　壁溝が６条巡っていることから５回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

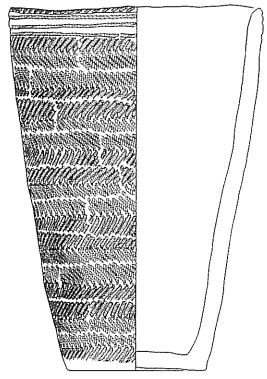
ＳＩ　606　竪穴住居跡（第44図～第47図、図版33～図版36・図版38）
《位　　置》　ＭＧ51•52•53、ＭＨ51•52•53、ＭＩ51•52•53、ＭＪ51•52•53グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ609竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　長径10.15ｍ×短径7.88ｍ、深さ50㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで50㎝で、外傾しながら立ち上がる。重複のため、一部削平されている。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　中央に地床炉が１基確認した。
《柱　　穴》　床面に36カ所検出し、Ｐ１～Ｐ５が主柱穴である。Ｐ７～Ｐ９は棟持柱の穴と考えられる。
《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１～32）、および石鏃（33～37）・石槍（34～40）・石匙（41～44）・削器（45～48・51）・掻器（53）・加工痕のある剥片（49・52）・磨製石斧（54）・半円状偏平打製石器（55・56）・凹石（57～59）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

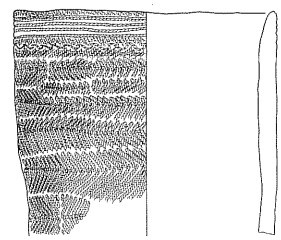
ＳＩ　607　竪穴住居跡（第48図・第49図、図版37・図版38）
《位　　置》　ＭＧ54•55、ＭＨ53•54•55、ＭＩ53•54•55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ608・609竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　長径8.35ｍ×短径6.37ｍ、深さ30㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　最も深いところで30㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　鍋底状の掘り込みに炭化物が堆積している。

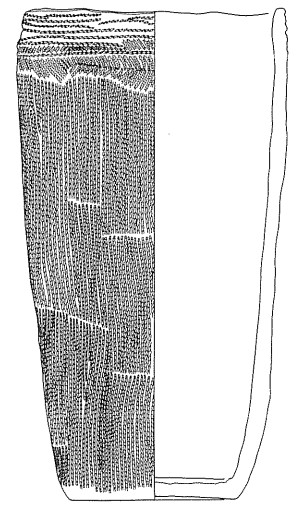


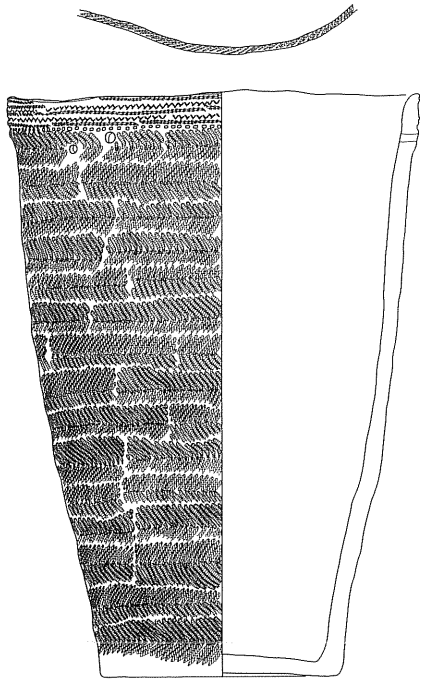
第44図　SI 606 竪穴住居跡

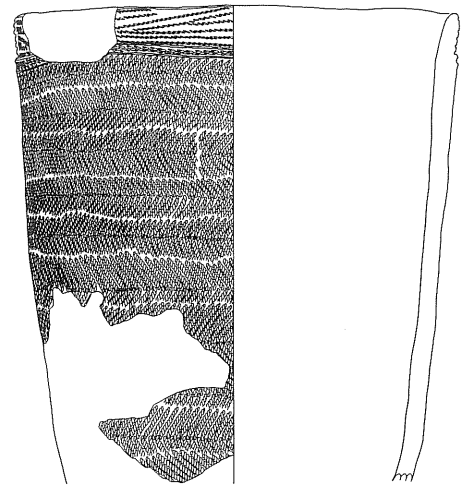

1(606－1)

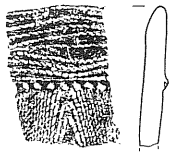

2(606－2)


3(606－3)

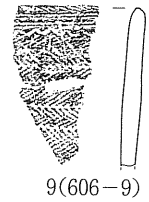

4(606－4)


5(606－5)

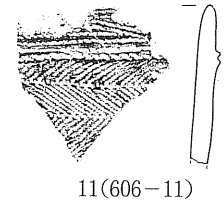

6(606－6)


7(606－7)

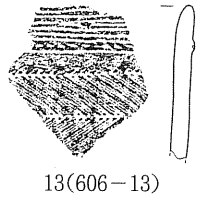
8(606－8)

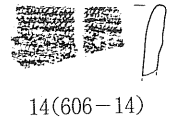

9(606－9)

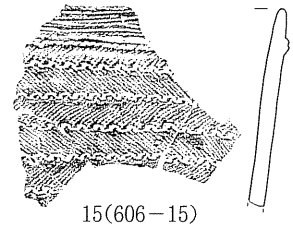
10(606－10)

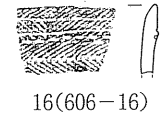

11(606－11)

12(606－12)

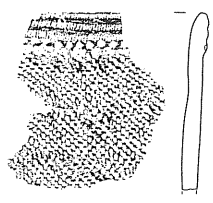

13(606－13)

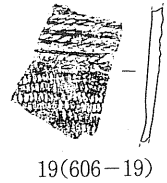

14(606－14)

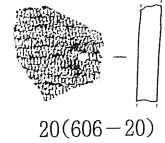

15(606－15)

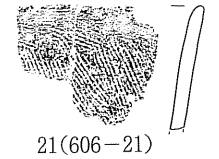

16(606－16)

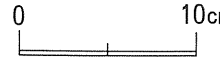
17(606－17)


18(606－18)

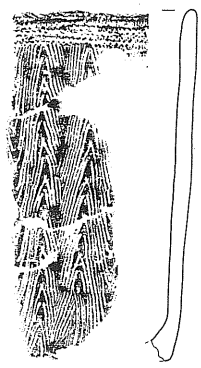

19(606－19)


20(606－20)

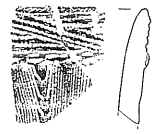

21(606－21)

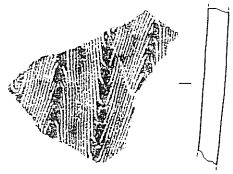


第45図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（１）

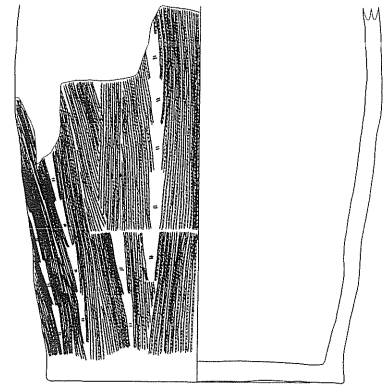

1(606－22)

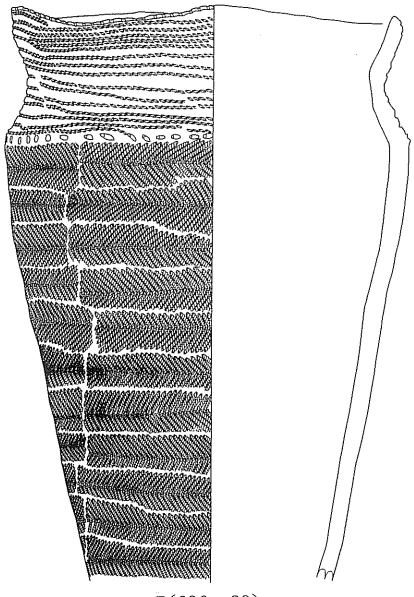
2(606－23)

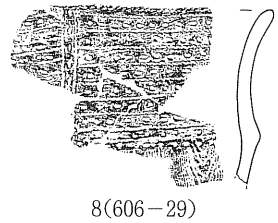

3(606－24)

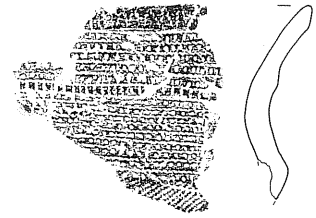

4(606－25)

5(606－26)

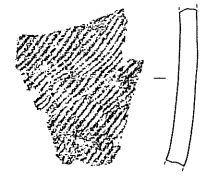

6(606－27)

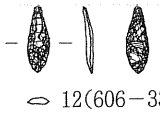

7(606－28)


8(606－29)

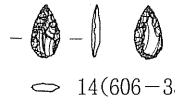

9(606－30)

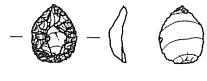
10(606－31)


11(606－32)

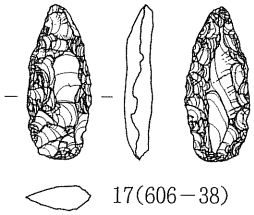

12(606－33)

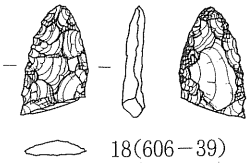
13(606－34)

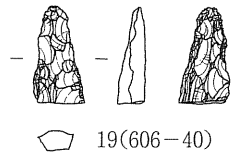

14(606－35)

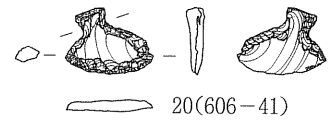

15(606－36)

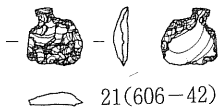
16(606－37)

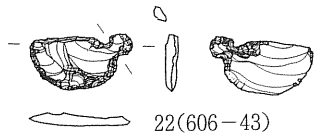

17(606－38)

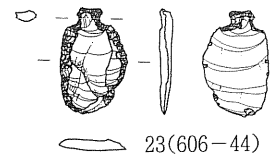

18(606－39)


19(606－40)

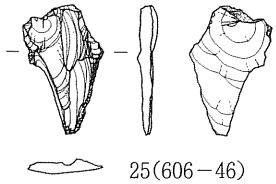

20(606－41)

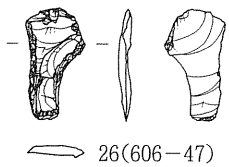

21(606－42)

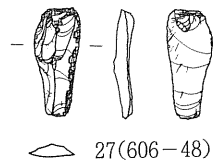

22(606－43)

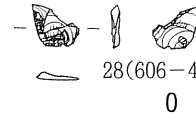

23(606－44)

24(606－45)


25(606－46)

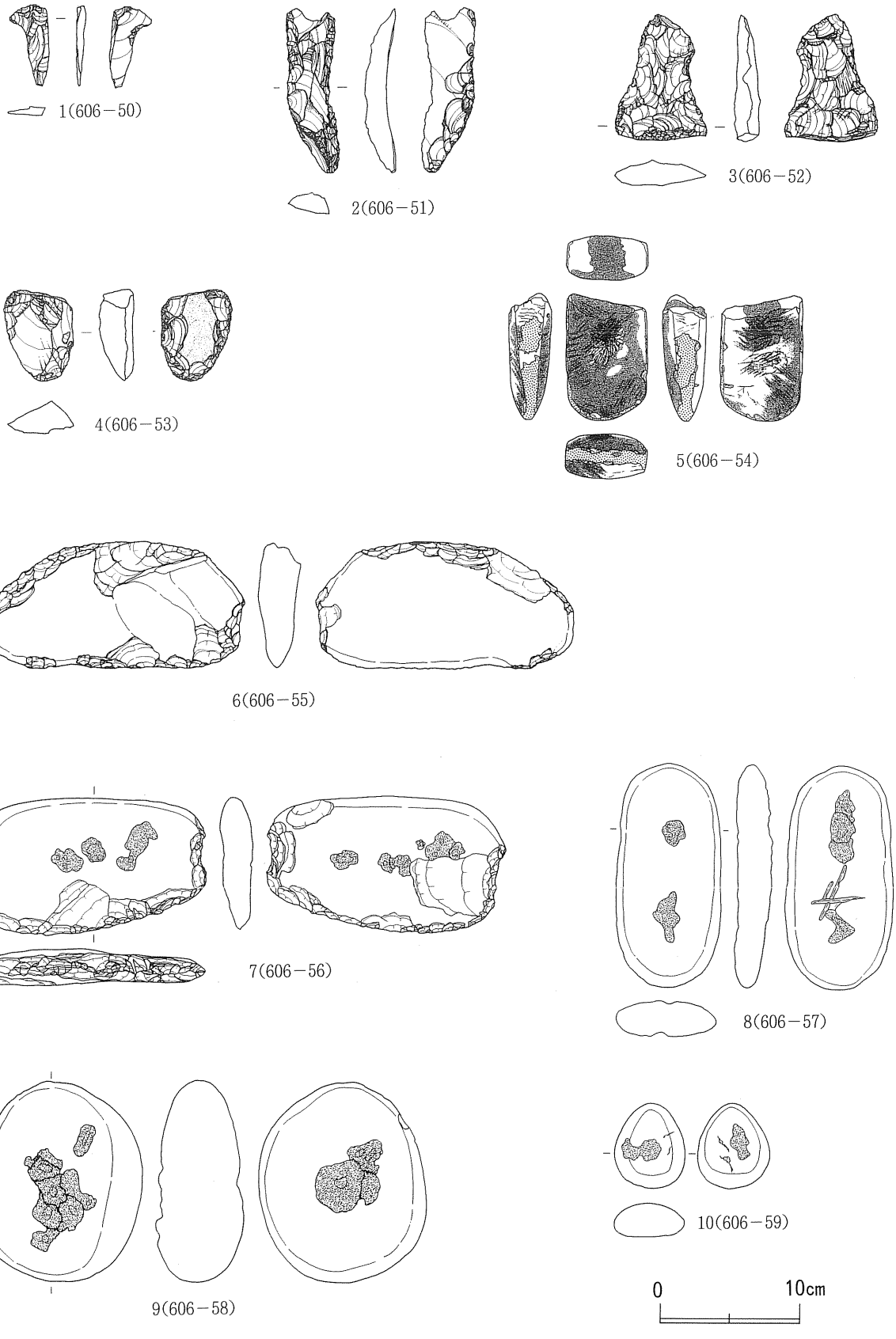

26(606－47)


27(606－48)


28(606－49)

0　10cm

第46図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（２）

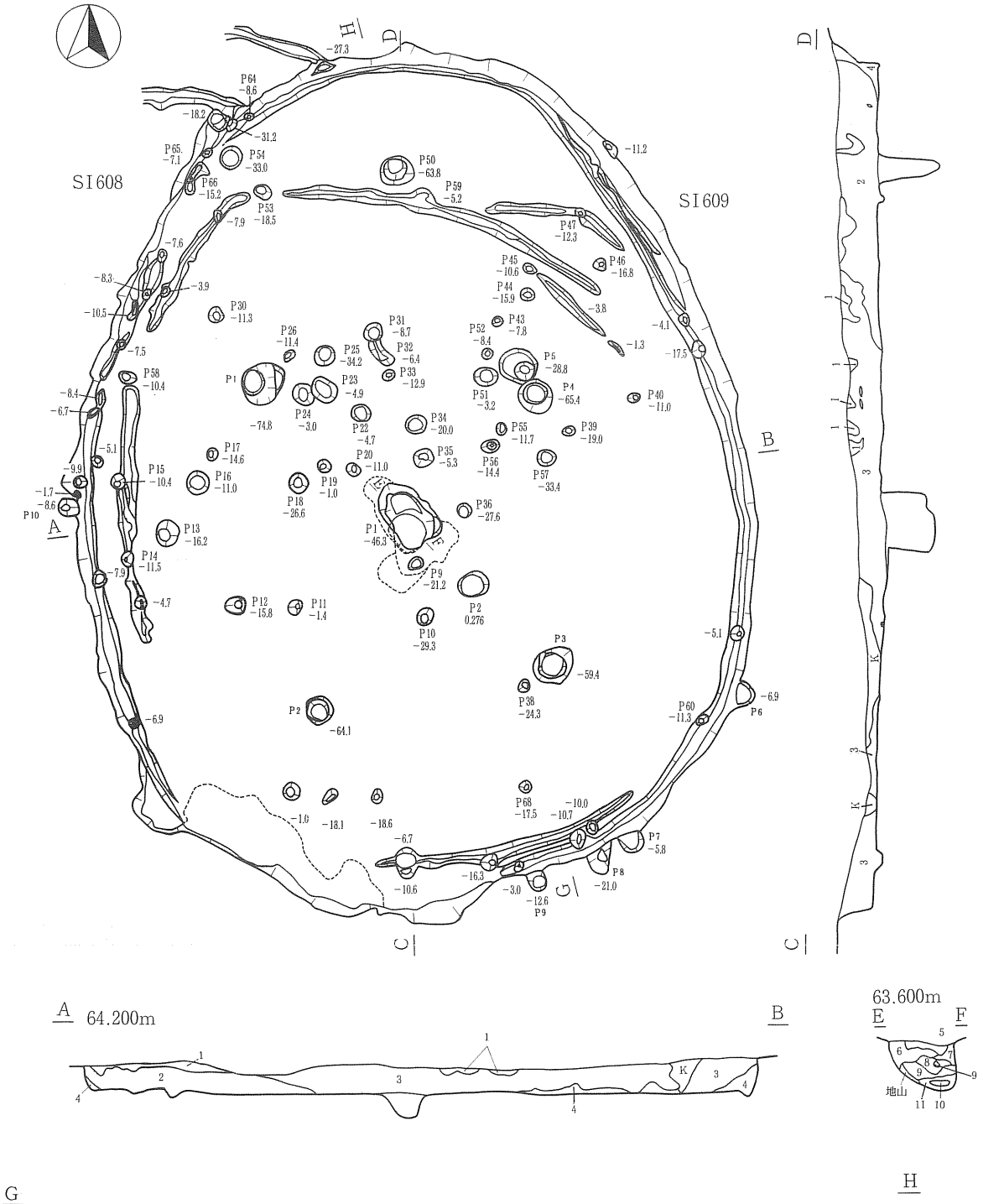


第47図　SI 606 竪穴住居跡出土遺物（３）

《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１～Ｐ５が主柱穴である。南辺の周縁に沿って掘られている柱穴（Ｐ６～Ｐ10）は、垂木尻を据えた穴と考えられる。

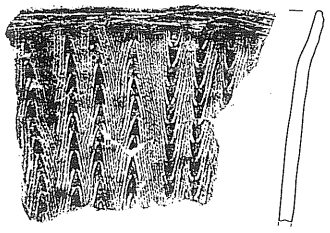
《壁　　溝》　４条検出した。一番外側のプランが、最も新しい時期のものである。

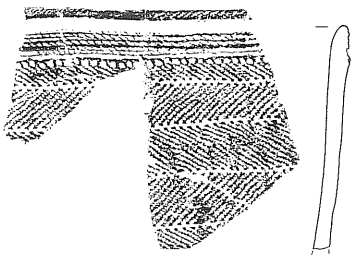
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１～４）、削器（13）・加工痕のある剥

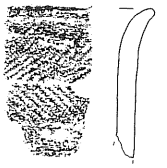


【SI 607】
1　黒褐色土(10Ｙ R2／2) 地山粒・地山塊・炭化物少量混入。しまりやや強く、弾性有り。
2　黒褐色土(10Ｙ R2／3) 地山粒・地山塊・炭化物やや多く混入。1より硬くしまっている。
3　黒褐色土(10Ｙ R2／3) 2より地山塊の混入少ない。埋土。
4　黒褐色土(10Ｙ R2／3) 地山粒微量混入。
5　黒褐色土(10Ｙ R2／3) 地山粒・地山塊・炭化物少量混入。しまりばらつき多い。
6　黒褐色土(10Ｙ R3／2) 地山粒・地山塊・炭化物混入・しまりやや弱い。粘性ない。
7　にぶい黄褐色土(10Ｙ R4／3) 地山粒、炭化物多く混入。地山塊少ない。しまりやや弱く。粘性ない。
8　灰黄褐色土(10Ｙ R4／2) 地山粒、地山塊、炭化物更に多く混入。しまり弱く、粘性あり。
9　明黄褐色土(10Ｙ R7／6) ほとんど、地山粒と地山塊でなる層。灰の塊含む。しまりボロボロ。
10　黒色土(10Ｙ R2／1) 地山粒、地山塊多量混入。しまりやや有り。
11　明黄褐色土(10Ｙ R6／8) ほとんど、大きい地山塊で形成される。しまりあまりなし。
K　撹乱

第48図　SI 607 竪穴住居跡

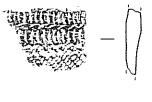

1(607－1)

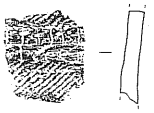

2(607－2)


3(607－3)

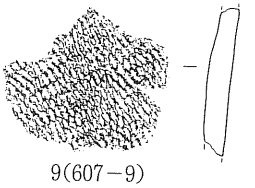
4(607－4)

5(607－5)

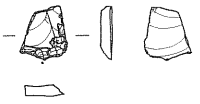

6(607－6)

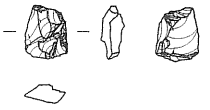

7(607－7)

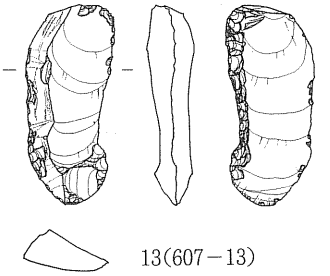
8(607－8)

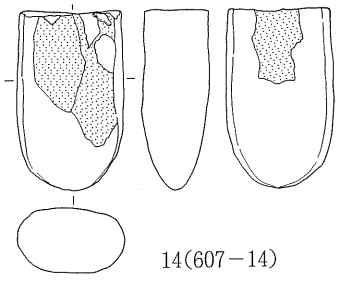

9(607－9)

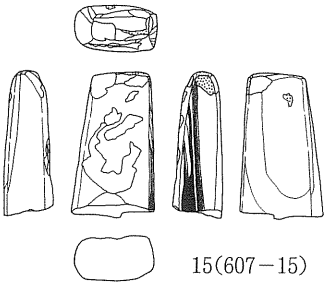
10(607－10)

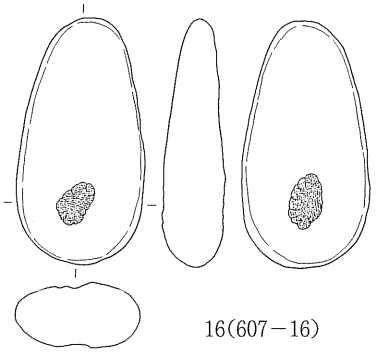

11(607－11)

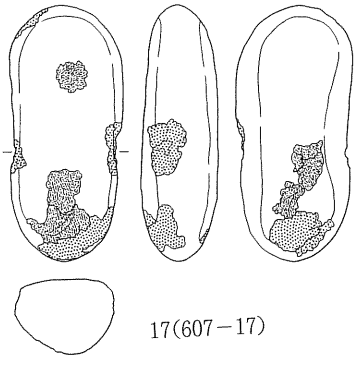

12(607－12)

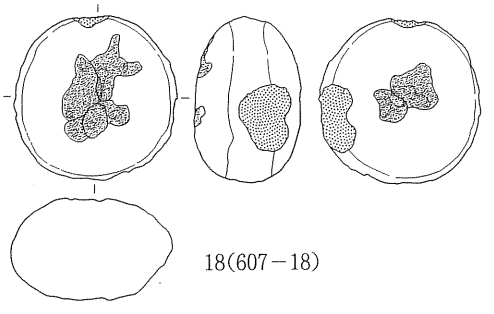

13(607－13)

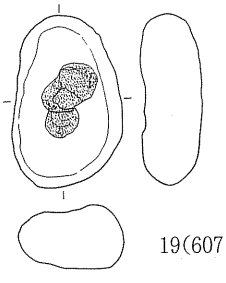

14(607－14)

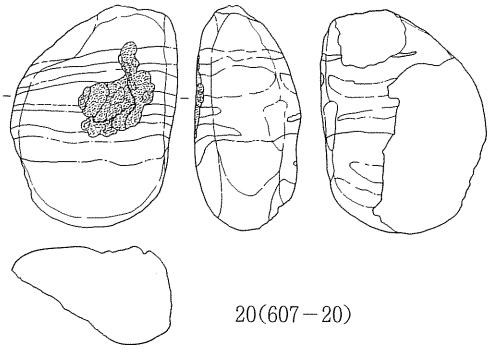

15(607－15)

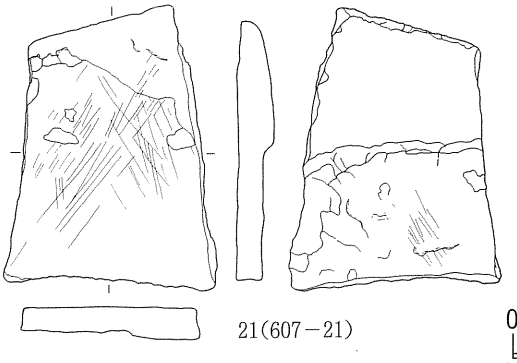

16(607－16)

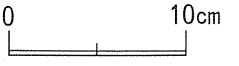

17(607－17)


18(607－18)


19(607－19)


20(607－20)


21(607－21)



第49図　SI 607 竪穴住居跡出土遺物

片（10～12）・磨製石斧（14・15）・凹石（16～20）・砥石（21）が出土した。

《改　　築》　壁溝が４条巡っていることから３回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＩ　608　竪穴住居跡（第50図）

《位　　置》　ＭＩ54･55グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ607竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。

《規　　模》　確認長で長径4.59ｍ×短径1.81ｍ。

《平 面 形》　重複しているため不明である。

《埋　　土》　壁溝しか残存しておらず、埋土は確認できなかった。

《　壁　》　詳細は不明である。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　なし。

《壁　　溝》　部分的に、２条検出した。

《遺　　物》　埋土中から加工痕のある剥片（１）、凹石（２）が出土した。

《改　　築》　壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定されるが、詳細は不明である。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　609　竪穴住居跡（第51図～第54図、図版38～図版42・図版44）

《位　　置》　ＭＩ53･54、ＭＪ52･53･54、ＭＫ52･53･54グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ606・607竪穴住居跡・ＳＫＴ1016Ｔ－Ｐｉｔと重複している。竪穴住居跡との新旧関係は不明であるが、本竪穴住居跡がＳＫＴ1016Ｔ－Ｐｉｔより古い。

《規　　模》　最も新しいプランで長径6.80ｍ×短径6.10ｍ、深さ15㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　６層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで15㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。南東・南西部は重複のため、削平されている。

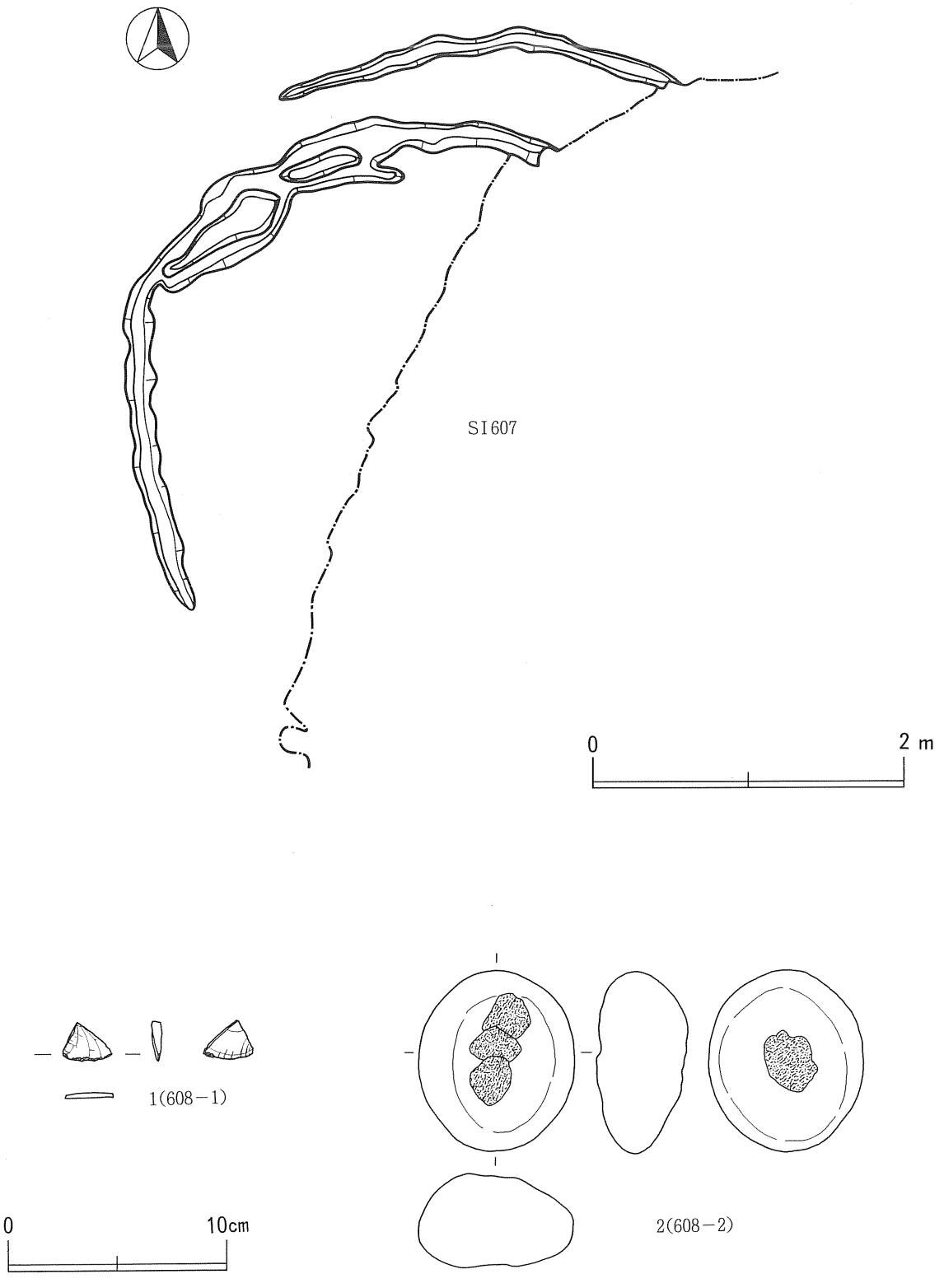
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　中央西側に地床炉が検出した。

《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７～Ｐ９・Ｐ13・Ｐ17・Ｐ44・Ｐ46が最も新しい時期の主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　部分的ながら５条検出した。外側から２番目のプランが、最も新しい時期のものである。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（19）・後葉の土器（１～11・15～18）、および石槍（23～25）・石匙（26・27）・掻器（28）・削器（29～32）・加工痕のある剥片（33・34）・凹石（36～42）・岩偶（35）が出土した。



第50図　SI 608 竪穴住居跡とその出土遺物

《改　　築》　壁溝が５条巡っていることから４回の改築が想定される。

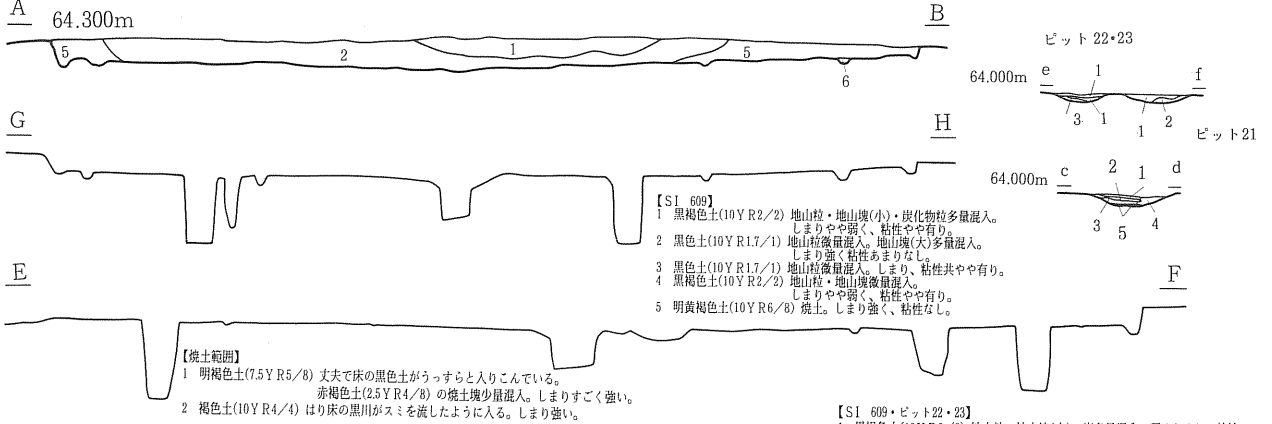
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　611　竪穴住居跡（第55図、図版43）

《位　　置》　ＭＪ55･56、ＭＫ55･56グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

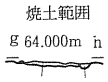
【SI 609】
1 黒褐色土(10Y R2/2) シルト。地山粒 地山塊(小)多量、炭・焼土混入。しまり、粘性共有り。
2 黒色土(10Y R2/1) シルト。地山粒やや多量、地山塊(小)・炭・焼土粒少量混入。しまり有り。粘性あまりなし。
3 黒色土(10Y R2/1) シルト。地山粒やや多量、地山塊・炭多量混入。しまり、粘性共有り。
4 黒色土(10Y R1.7/1) シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
5 黒褐色土(10Y R2/2) シルト。地山塊少量混入。しまり、粘性共有り。
6 黒褐色土(10Y R2/2) シルト。地山塊少量混入。しまり、粘性共有り。(旧SI壁溝)



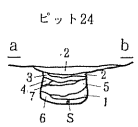
【SI 609】
1 黒褐色土(10Y R2/2) 地山粒・地山塊(小)・炭化物粒多量混入。しまりやや弱く、粘性やや有り。
2 黒色土(10Y R1.7/1) 地山粒微量混入。地山塊(大)多量混入。しまり強く粘性あまりなし。
3 黒色土(10Y R1.7/1) 地山粒微量混入。しまり、粘性共やや有り。
4 黒褐色土(10Y R2/2) 地山粒・地山塊微量混入。しまりやや弱く、粘性やや有り。
5 明黄褐色土(10Y R6/8) 焼土。しまり強く、粘性なし。

【焼土範囲】
1 明褐色土(7.5Y R5/8) 丈夫で床の黒色土がうっすらと入りこんでいる。赤褐色土(2.5Y R4/8) の焼土塊少量混入。しまりすごく強い。
2 褐色土(10Y R4/4) はり床の黒川がスミを流したように入る。しまり強い。

焼土範囲



ピット24

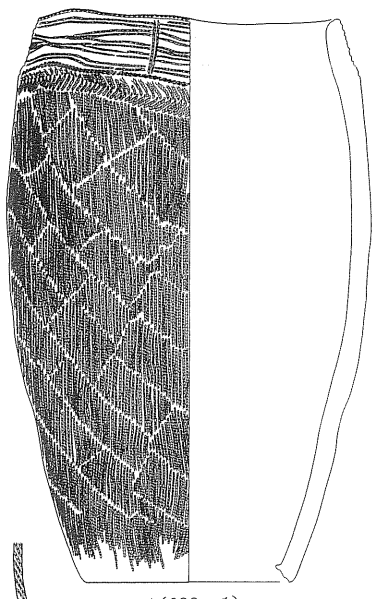


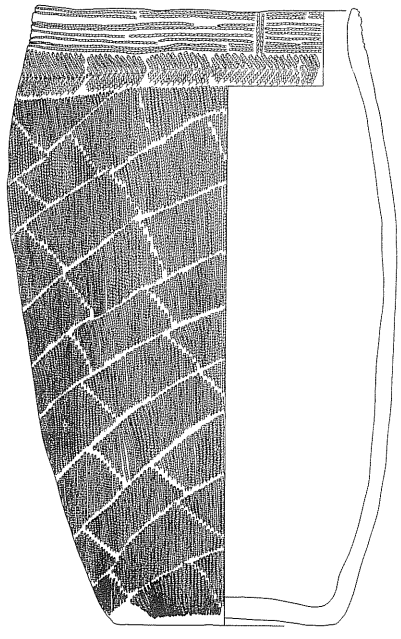
【SI 609・ピット24】
1 黒褐色土(10Y R2/3) 地山粒・地山塊(小)・炭多量混入。しまりやや有り。粘性なし。
2 黒褐色土(10Y R2/2) 地山塊(中)混入。しまり強く、粘性やや有り。
3 黒色(土10Y R2/1) 地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり強く、粘性なし。
4 黒色土(10Y R2/1) 地山粒・地山塊(小)・焼土粒少量混入。しまりやや弱く、粘性ややあり。
5 黒色土(10Y R2/1) 地山塊(中)・焼土粒・炭多量混入。しまり強く、粘性なし。
6 黒褐色土(10Y R2/3) 地山塊(中)・地山粒多量混入。しまりやや有り、粘性なし。
7 黒褐色土(10Y R2/2) 地山塊(小)・地山粒微量混入。しまり弱く、粘性やや有り。

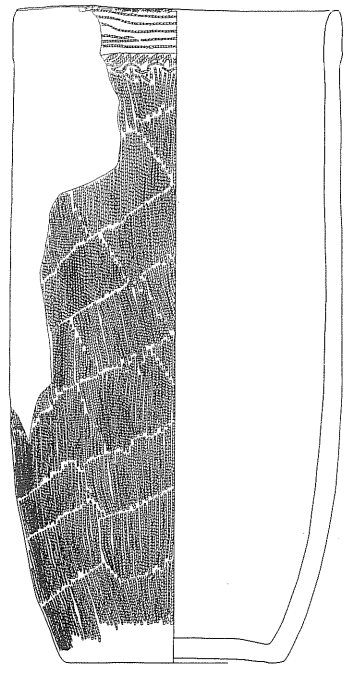
【SI 609・ピット22・23】
1 黒褐色土(10Y R2/2) 地山粒・地山塊(小)・炭多量混入。硬くしまり、粘性あまりなし。
2 黒褐色土(10Y R3/2) 地山粒混入。地山塊・焼土塊(小)微量混入。しまり強く、粘性やや有り。
3 黒褐色土(10Y R2/2) 地山粒微量混入。しまりやや強く、粘性やや有り。

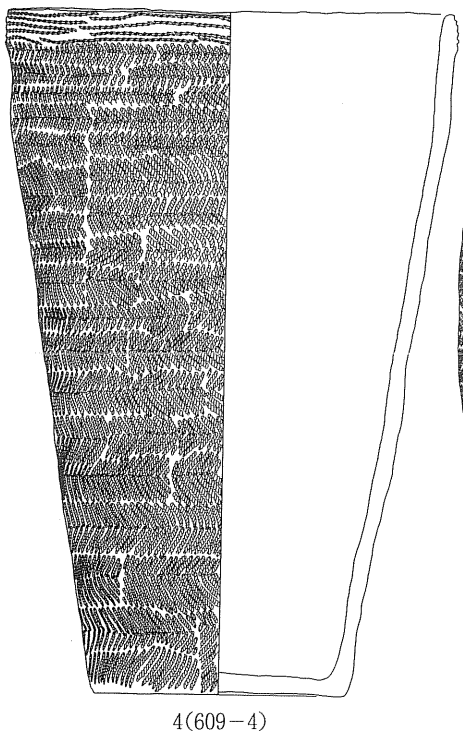
0　2m

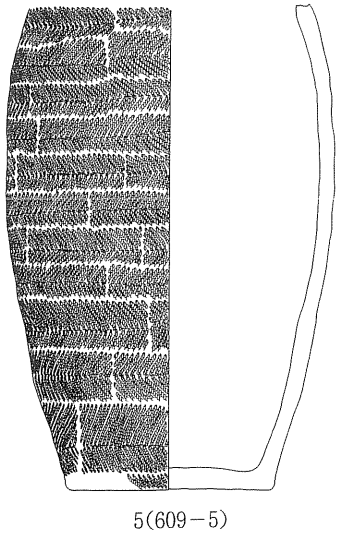
第51図　SI 609 竪穴住居跡

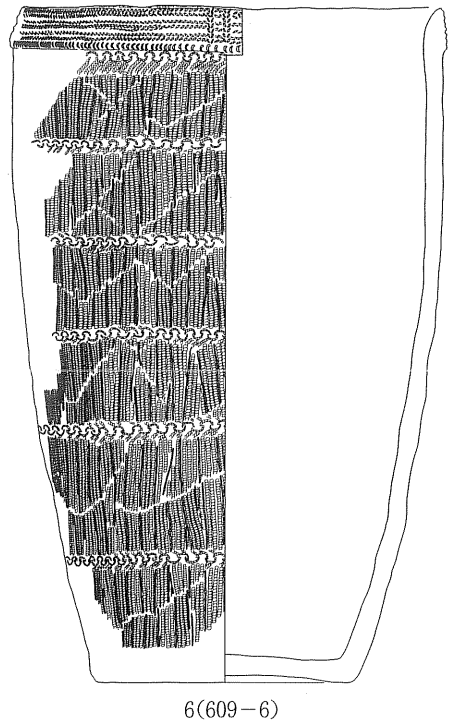

1(609－1)

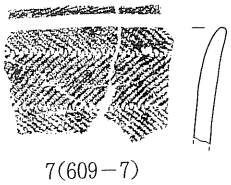

2(609－2)

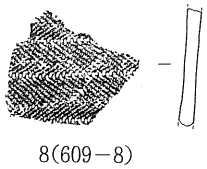

3(609－3)

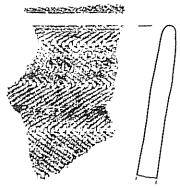

4(609－4)

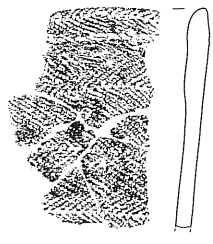

5(609－5)

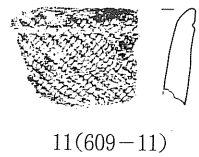

6(609－6)

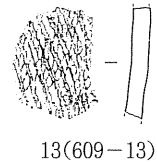

7(609－7)

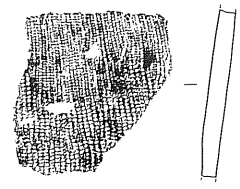

8(609－8)

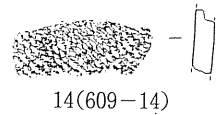

9(609－9)


10(609－10)


11(609－11)

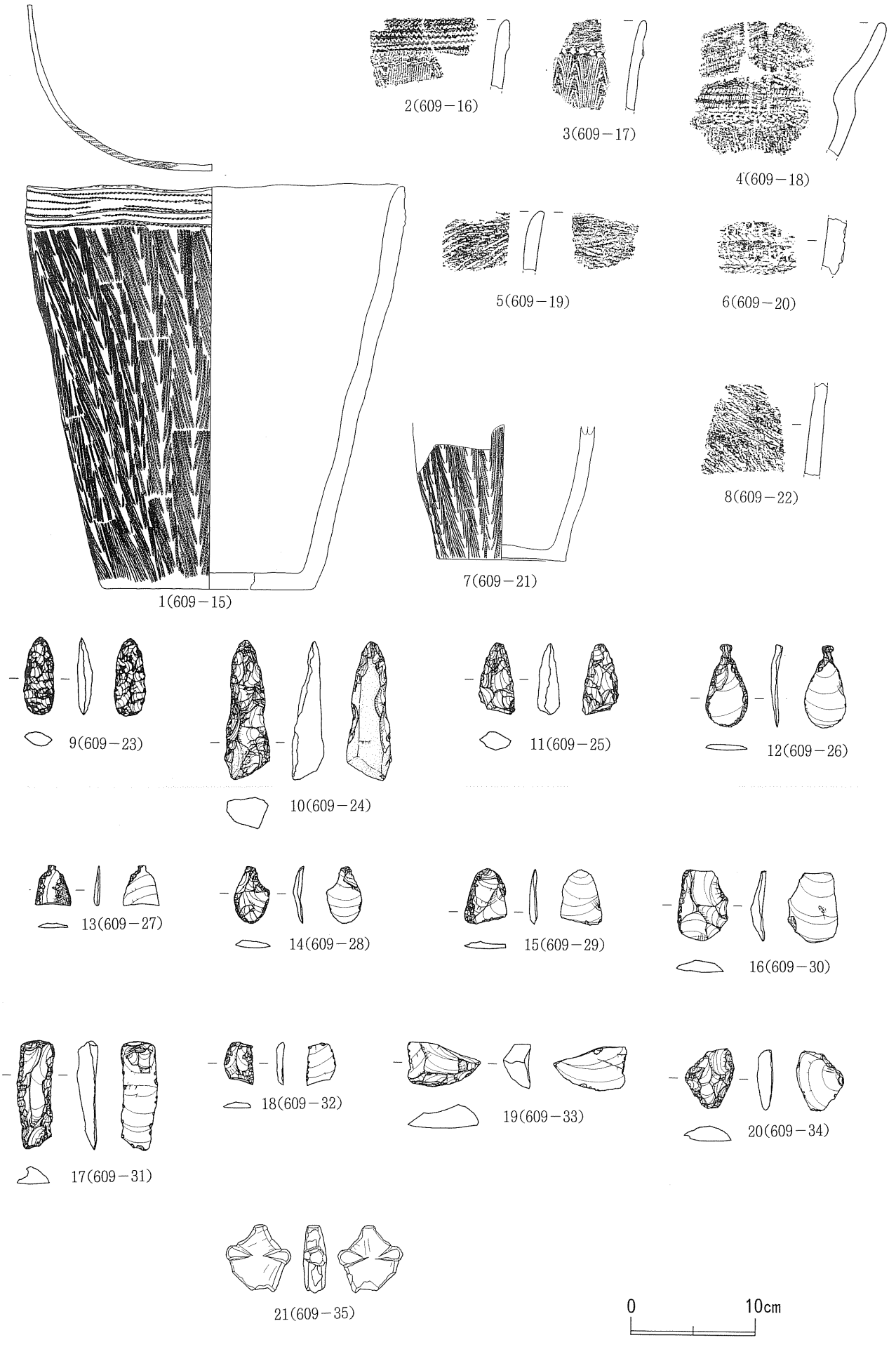

13(609－13)


12(609－12)

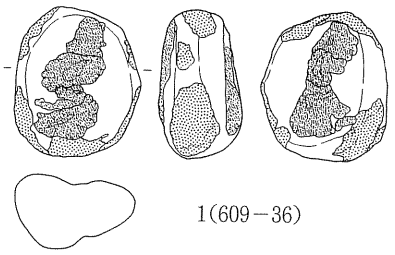

14(609－14)

0　10cm

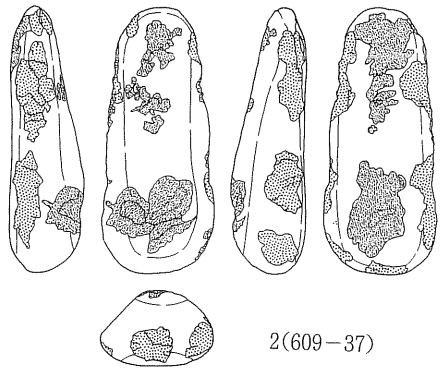
第52図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（１）



第53図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（２）

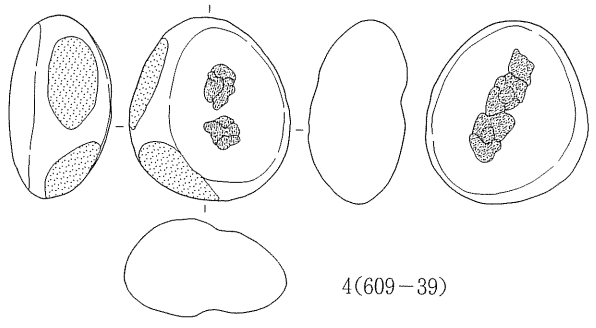


1(609－36)

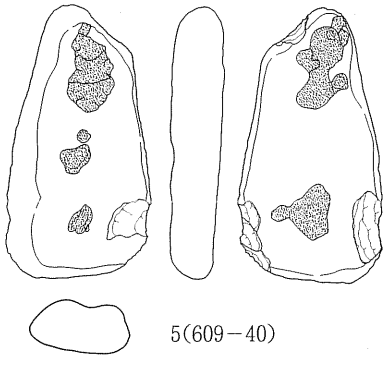


2(609－37)

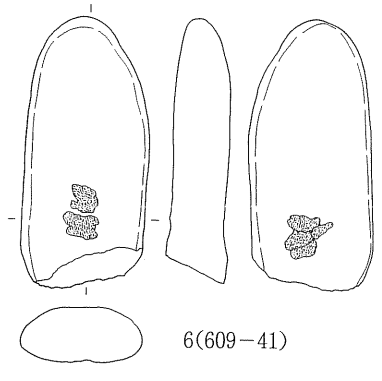
3(609－38)



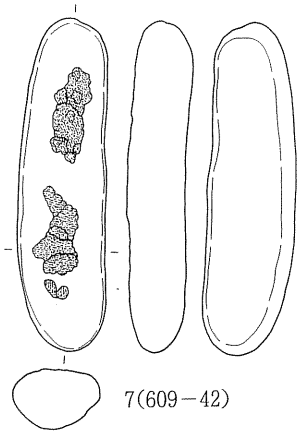
4(609－39)



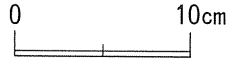
5(609－40)



6(609－41)



7(609－42)

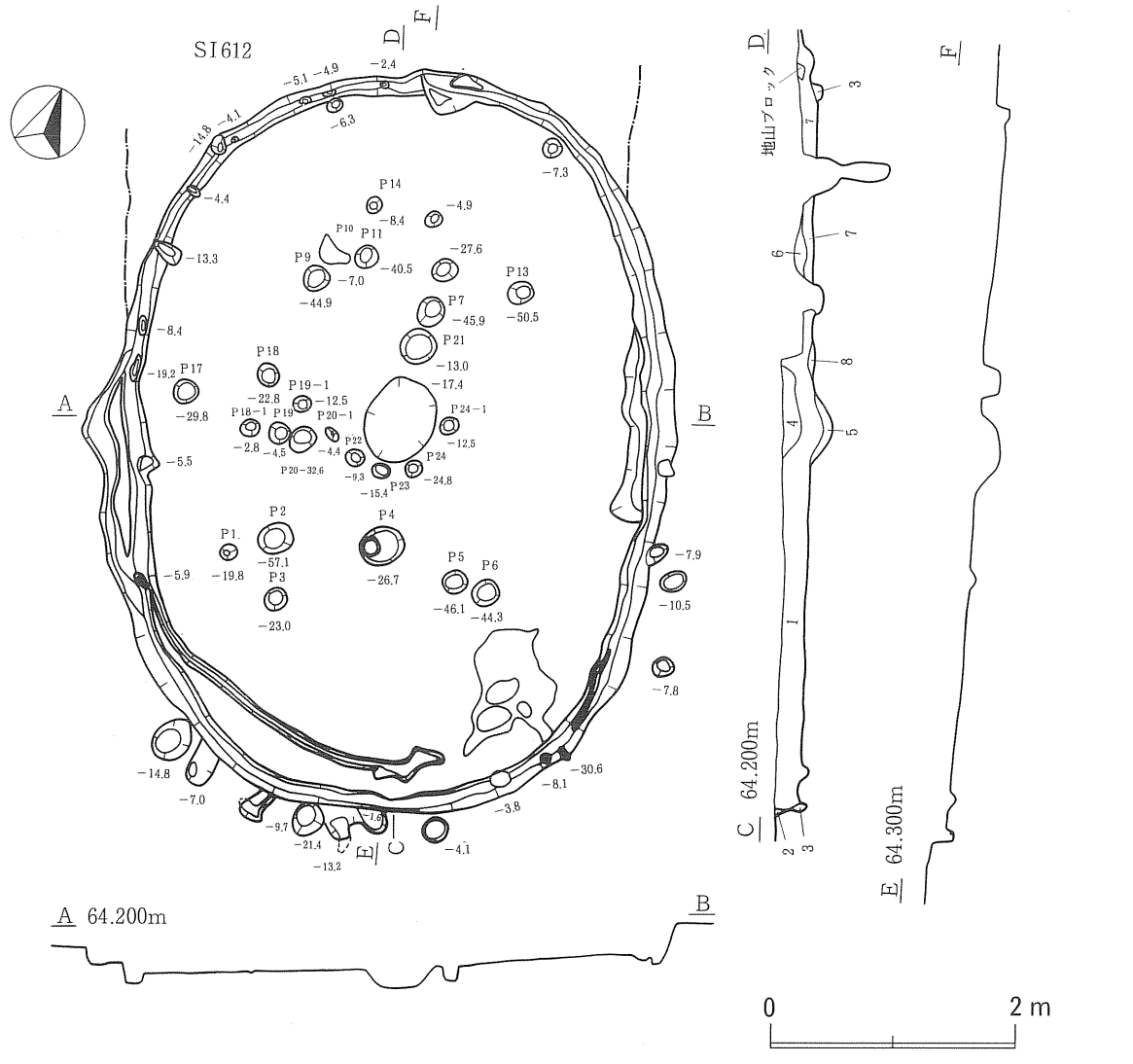


第54図　SI 609 竪穴住居跡出土遺物（３）

《重　　複》　ＳＩ612竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。
《規　　模》　長径6.05ｍ×短径4.85ｍ、深さ15㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　12層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで15㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。
《柱　　穴》　床面に27カ所検出したが、Ｐ２・Ｐ５・Ｐ11・Ｐ13が旧期の、Ｐ３・Ｐ６・Ｐ９・Ｐ13が新期の主柱穴と思われる。南辺の周縁に並ぶ柱穴は、垂木尻を据えた穴と考えられる。
《壁　　溝》　２条検出した。外側のプランが新しい時期のものである。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１）、石槍（５）・削器（６・７）が出土した。
《改　　築》　壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

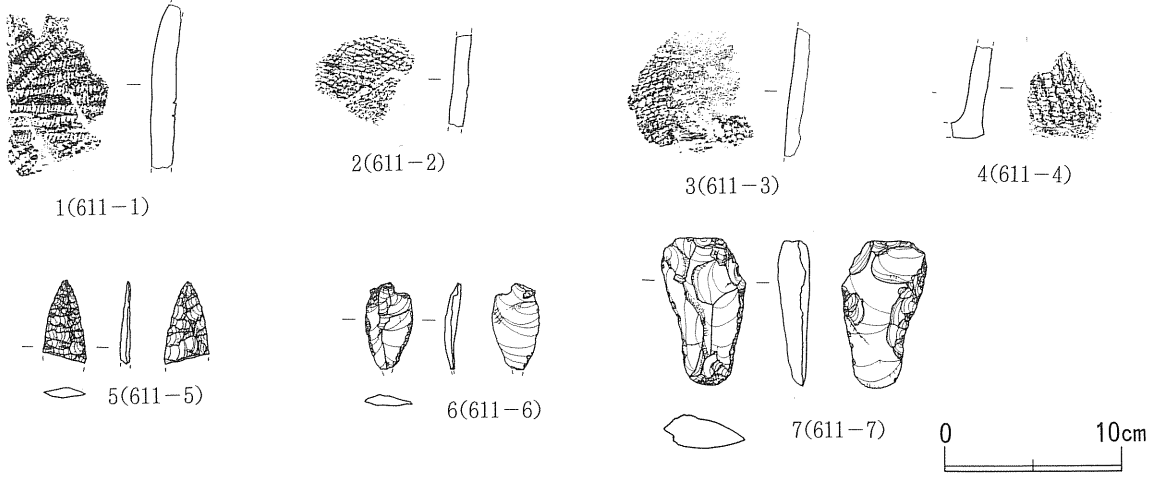
ＳＩ　613　竪穴住居跡（第56図、図版43・図版44）
《位　　置》　ＭＬ53･54･55、ＭＭ53･54グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ615竪穴住居跡・ＳＫＦ626フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。
《規　　模》　長径6.20ｍ×短径5.10ｍ、深さ18㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　７層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで18㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。
《柱　　穴》　床面に26カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　２条検出した。外側のプランが新しい時期のものである。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～３）、石鏃（７）・加工痕のある剥片（８・９）が出土した。
《改　　築》　溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　614　竪穴住居跡（第57図、図版44）
《位　　置》　ＭＬ55･56、ＭＭ55･56グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ615竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。
《規　　模》　長径4.20ｍ×短径3.75ｍ、深さ15㎝。



【SI 611】

1　黒褐色土(10Y R2／3) 地山(小・中粒)5%混入。
2　黒褐色土(10Y R2／3) 地山(小・大粒)20%混入
3　黒色土(10Y R3／2) 地山(大粒)10%混入。
4　黒色土(10Y R2／1)
5　黒色土(10Y R3／2) 地山(小・中粒)10%混入。ややしまりあり。
6　褐色土(10Y R4／4) シルト。焼土が主体で地山、暗褐色土混入。
7　黒褐色土(10Y R2／1) 地山(小～極大粒)20%混入。しまりあり。
8　黒褐色土(10Y R2／2) 地山(小粒)10%混入。
9　黒褐色土(10Y R2／2) 地山(大粒)30%混入。
10　黒褐色土(10Y R2／2) 地山(大粒)の混土層。しまりややあり。
11　黒褐色土(10Y R2／2) 地山に10%混入。大変しまりあり。
12　10と似てるがボソボソして軟らかい。

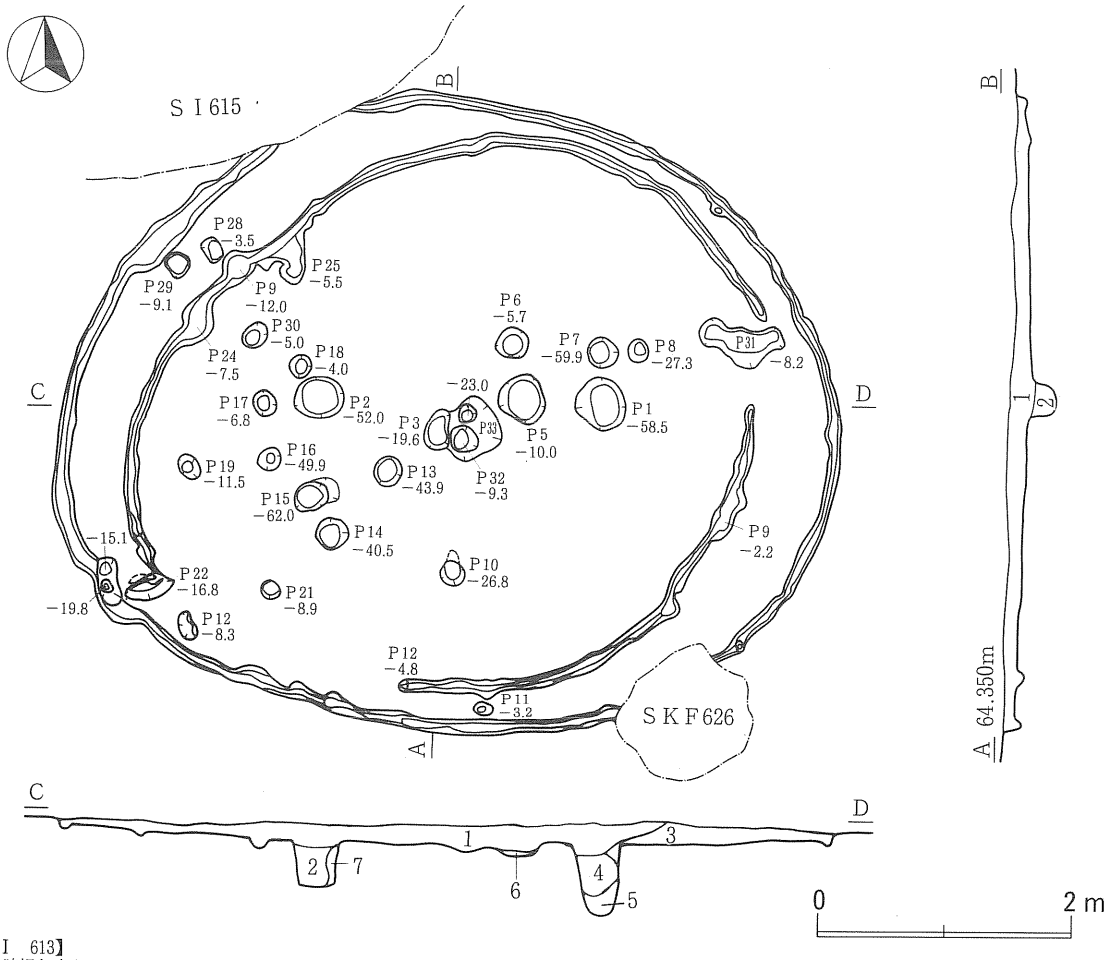


第55図　SI 611 竪穴住居跡とその出土遺物

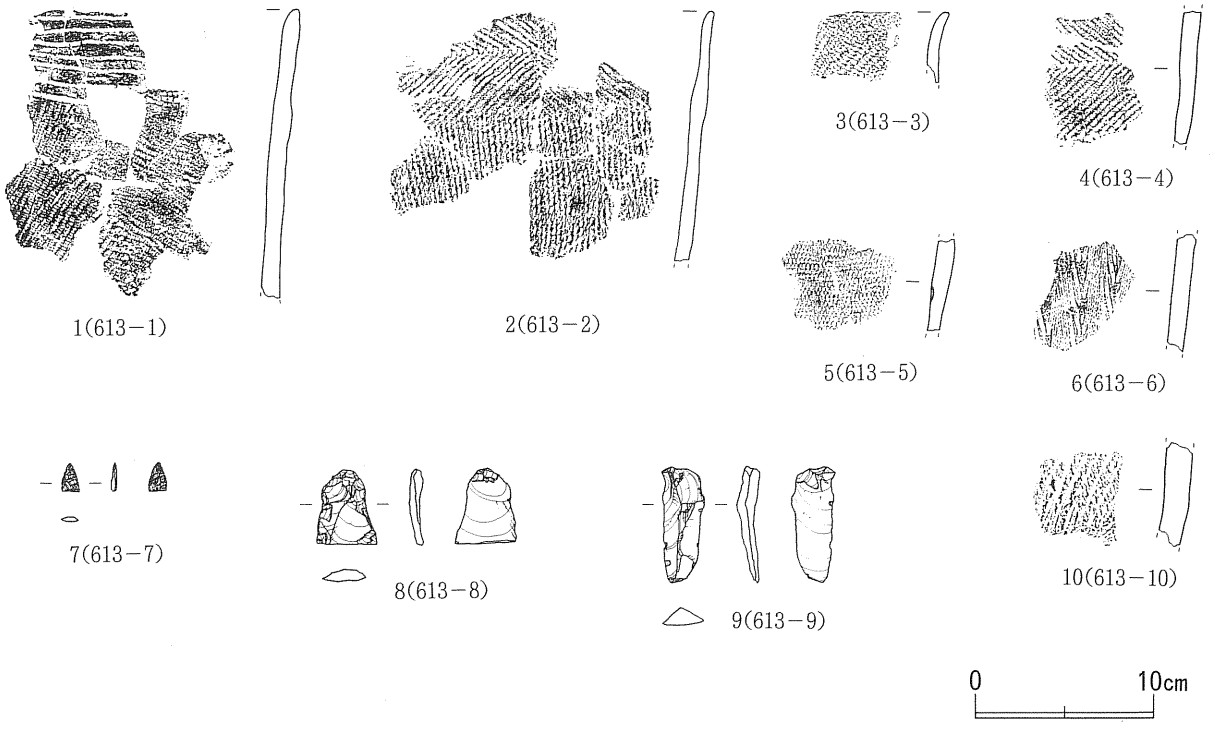
《平 面 形》　壁溝の平面形から惰円形であると思われる。
《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで15㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　２条検出したが、部分的な外側のプランが新しい時期と思われる。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期の土器（１～４）、石鏃（５）・石匙（６）・削器（８）・加工痕のある剥片（７）・擦り石（10）・凹石（11・12）・有孔石製品（９）が出土した。
《改　　築》　壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　615　竪穴住居跡（第58図～第61図、図版45～図版48）
《位　　置》　ＭＭ54･55、ＭＮ54･55･56、ＭＤ54･55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ613・616・627竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しい。
《規　　模》　長径9.20ｍ×短径7.20ｍ、深さ40㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　７層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで40㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　中央に地床炉を2基検出した。
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１・Ｐ４・P14・Ｐ12・Ｐ13・Ｐ15が最も新しい時期の主柱穴と思われる。
《壁　　溝》　５条検出した。一番外側のプランが最も新しい時期のものである。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～７・16～18）・前期後葉の土器（10～15）、および石鏃（31～35）・石匙（36・38～44・石錐（37）・削器（45～49）・掻器（50～52）・石槍（53～55）・加工痕のある剥片（56・57）・磨製石斧（58～60）・有孔石製品（61・62）・半円状偏平打製石器（63～66）・石錘（67・68）・凹石（69～72）・石皿（73）が出土した。
《改　　築》　壁溝が５条巡っていることから４回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

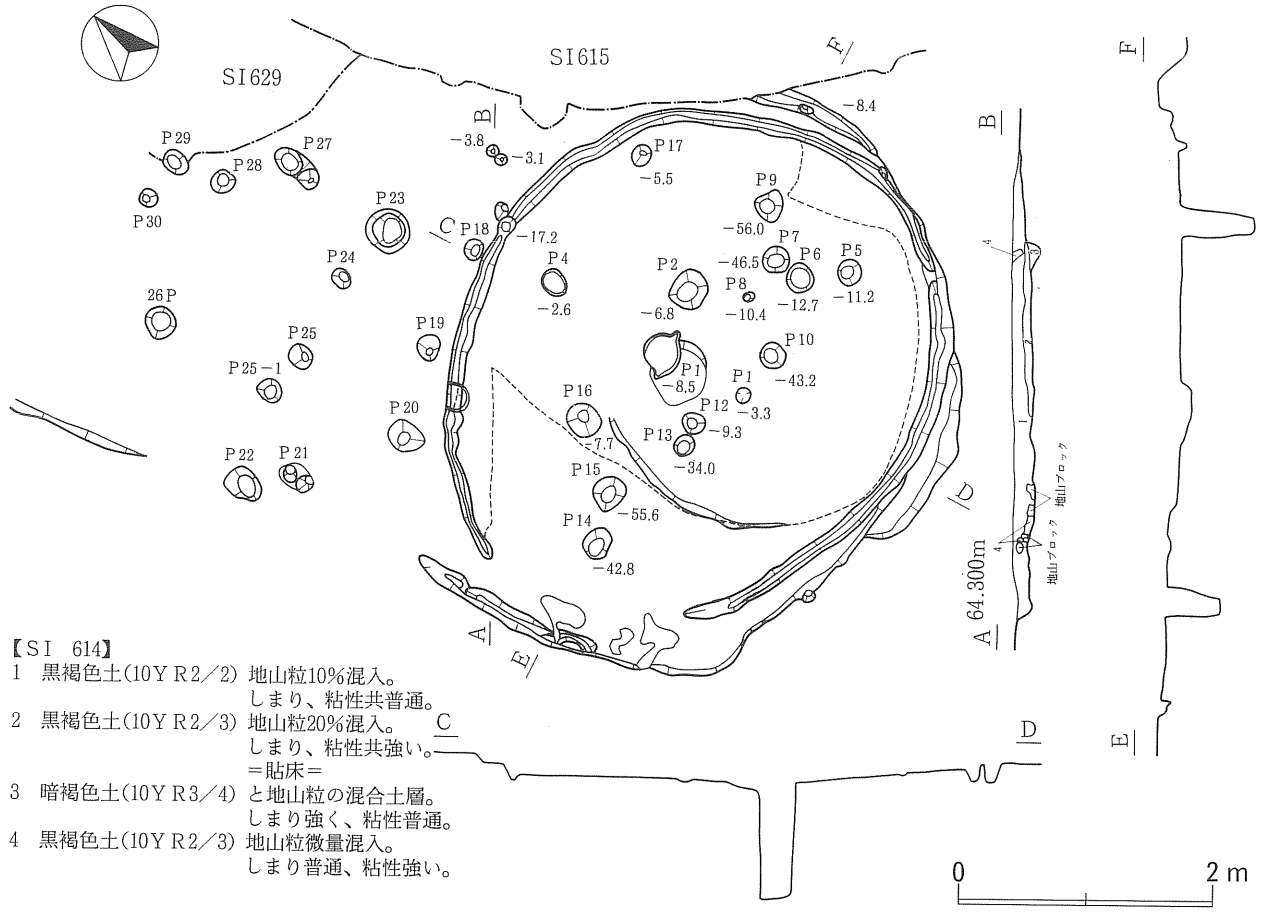
ＳＩ　616　竪穴住居跡（第62図）
《位　　置》　ＭＮ54･ＭＯ54グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ615・619竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。
《規　　模》　確認長で長径3.41ｍ×短径2.90ｍ、深さ28㎝。
《平 面 形》　重複しているが、楕円形であると思われる。

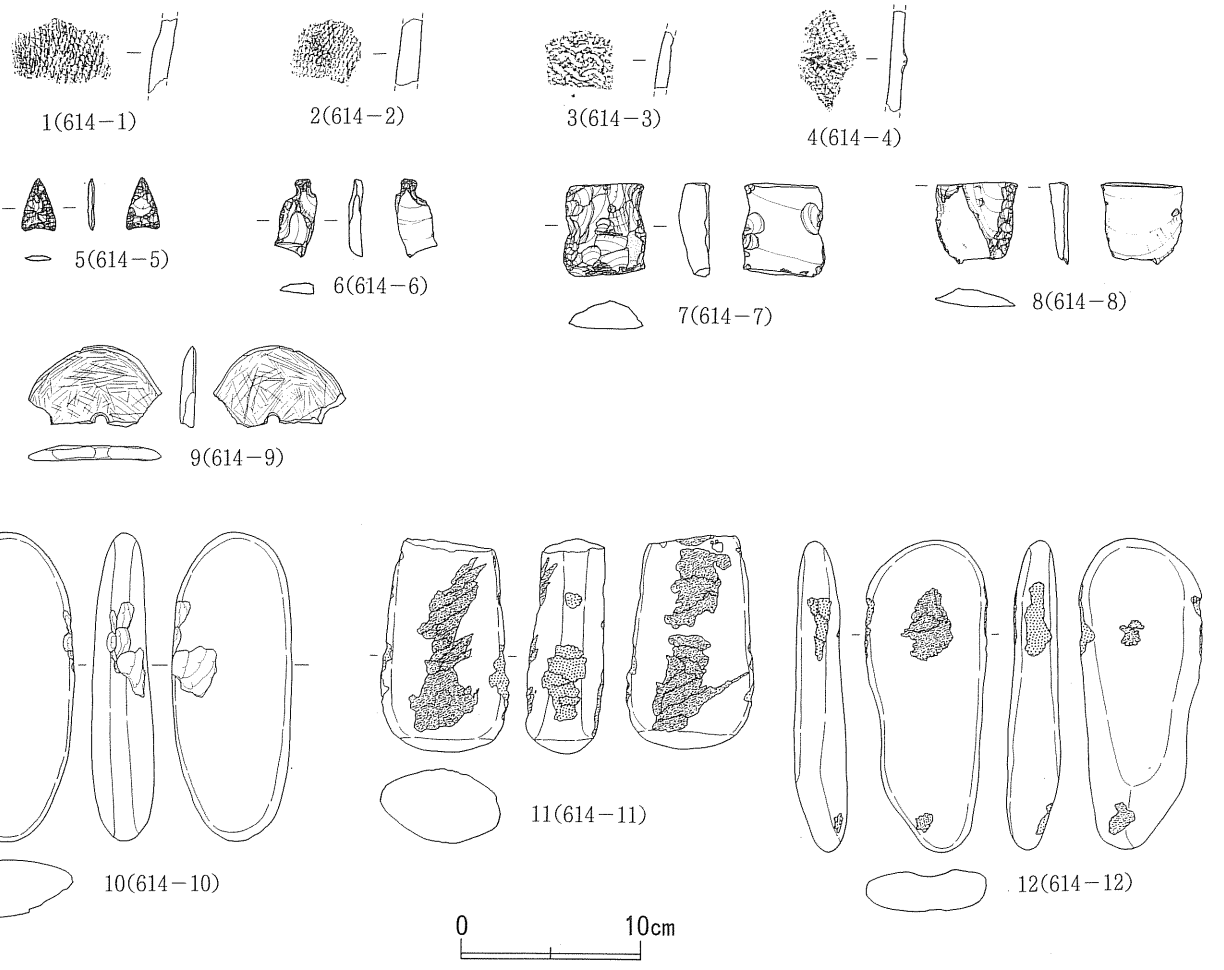


【SI　613】
1　暗褐色土(10ＹＲ3／3) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭・焼土粒混入。しまり有り、粘性なし。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山塊多量混入。しまり、粘性共有り。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／3) シルト。地山粒多量、炭・焼土粒混入。しまり、粘性共有り。
4　黒色土(10ＹＲ2／1) シルト。地山塊(小)多量、炭少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
5　黒褐色土(10ＹＲ2／2〜2／3) シルト。地山塊混入。しまりやや悪く、粘性有り。
6　黒色土(10ＹＲ1.7／1) シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
7　黒褐色土(10ＹＲ2／2〜2／3) シルト。地山粒・地山塊(小) 少量混入。しまりやや弱く、粘性若干有り。

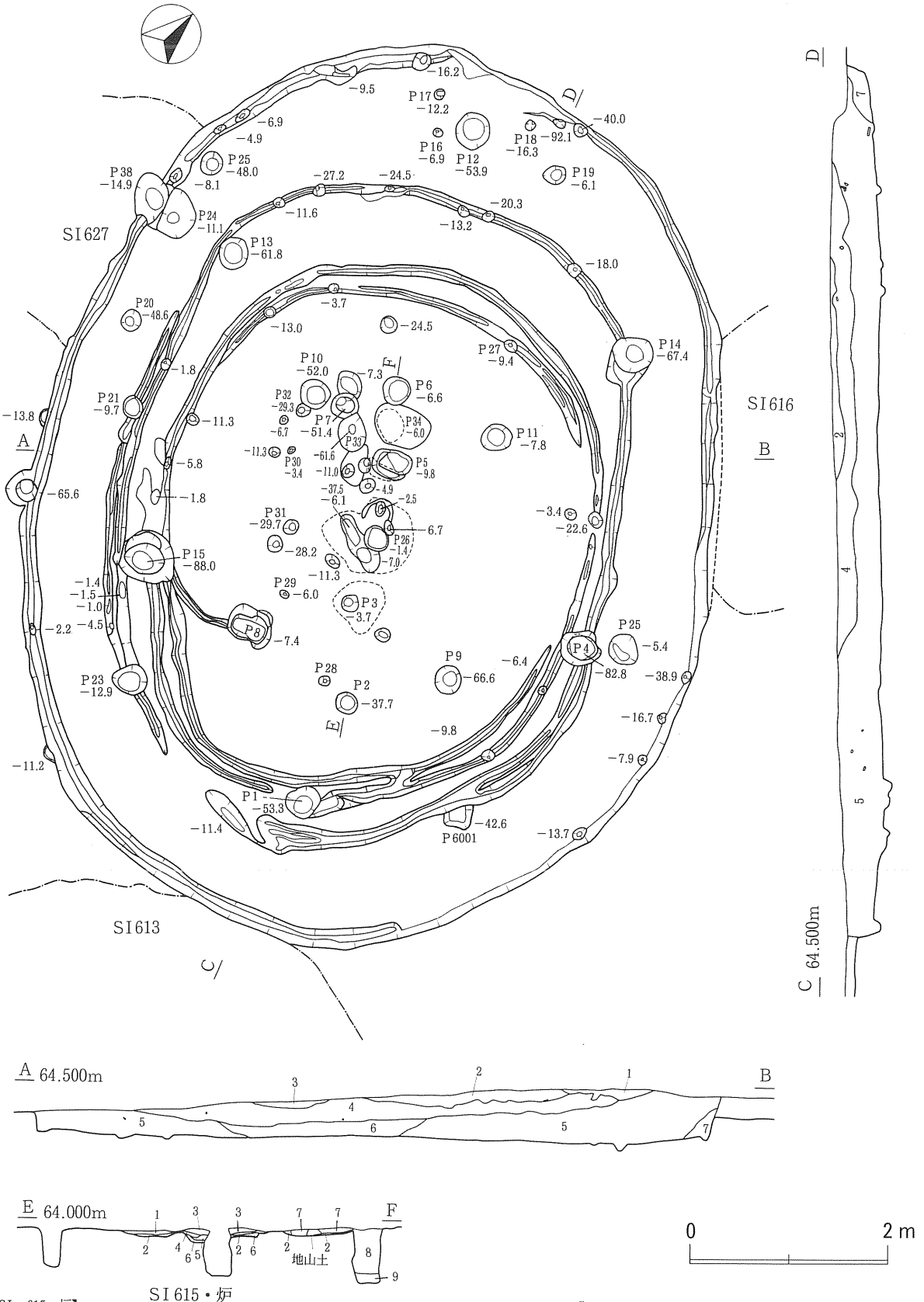


第56図　SI 613 竪穴住居跡とその出土遺物





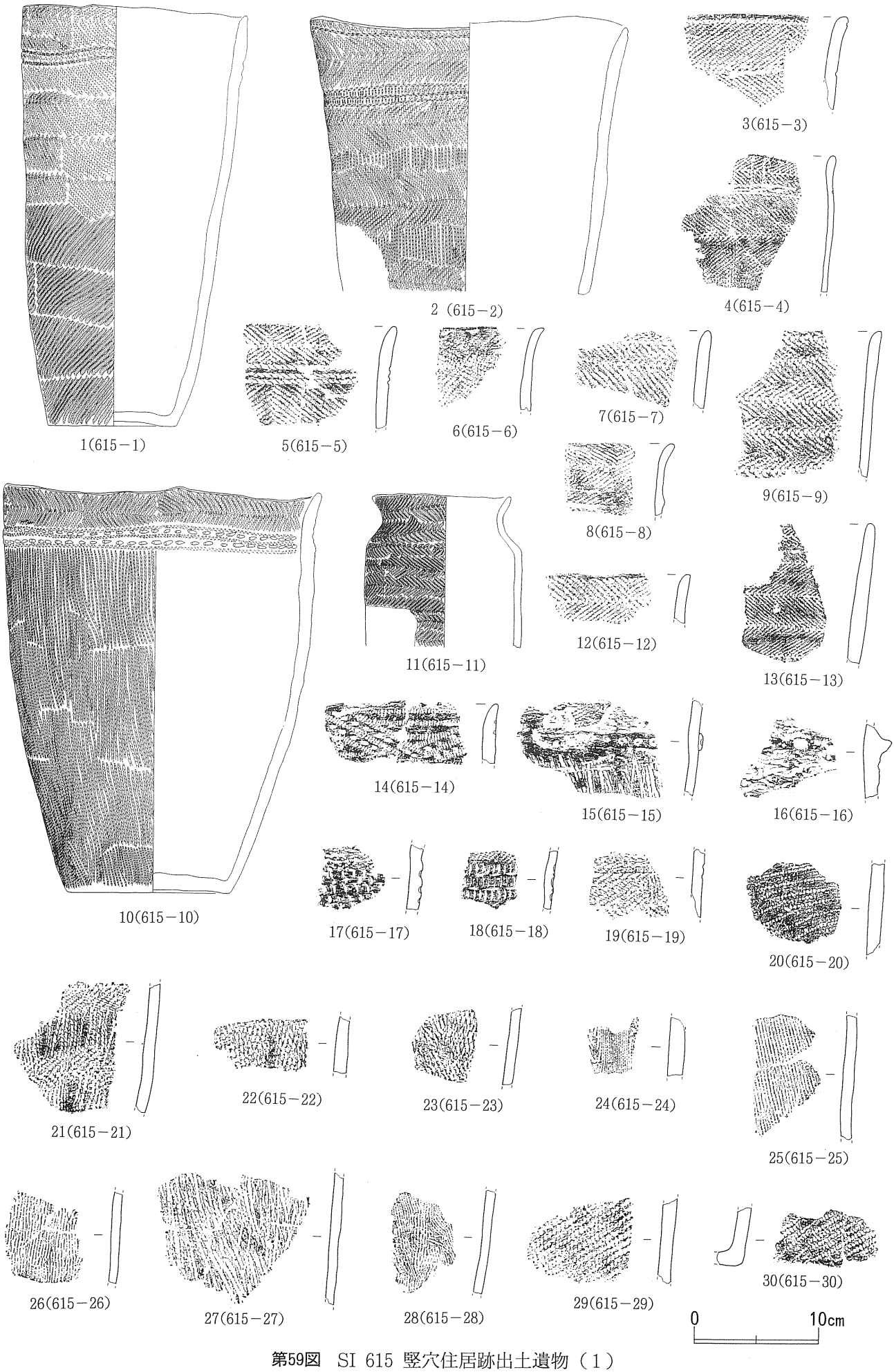
第57図　SI 614 竪穴住居跡とその出土遺物



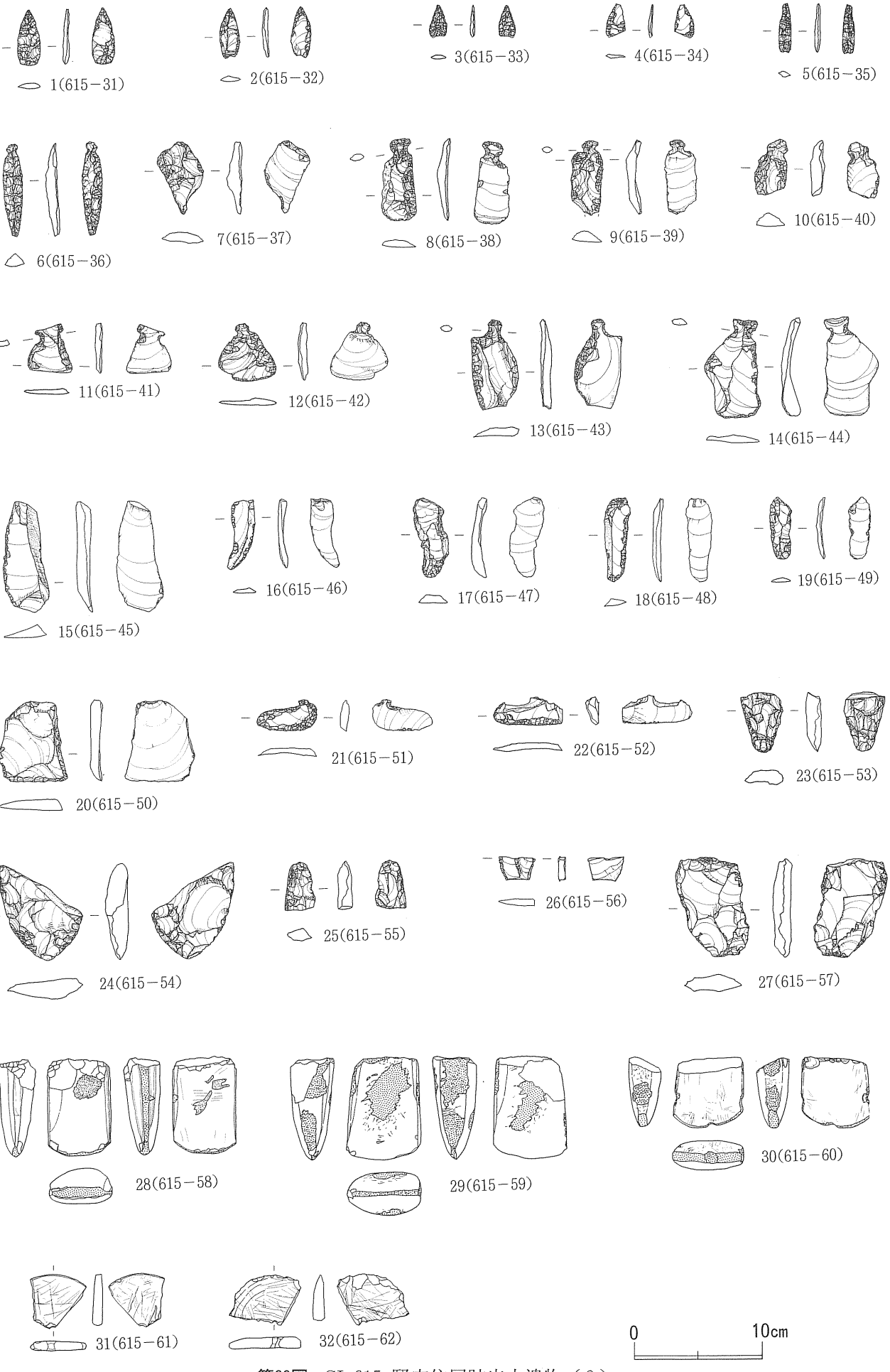
【SI　615・炉】
1　明黄褐色土(10ＹＲ7／6)　地山粒多量混入。
2　黒色土(10ＹＲ2／1)　地(小～中粒)10%混入。炭化物(粉)層。
3　貼床、明黄褐色土(10ＹＲ7／6)　地山粒多量混入。
4　褐色土(10ＹＲ4／4)　粘土の地山主体。硬く暗褐色土(10ＹＲ3／2)30%混入。
5　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　硬く、地山(小～中粒)10%混入。
6　褐色土(10ＹＲ4／4)　粘土の地山主体。硬い。
7　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　硬い。地山(中粒)20%混入。
8　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　とても軟らかい。地山(小～中粒)20%混入。
9　暗褐色土(10ＹＲ3／3)　とても軟らかい。地山(小～中粒)10%混入。

【SI　613／SI　615】
1　黄色土(5Y8／6)　粘土。硬質。ブロックを含む。粘性なし。
2　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
3　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒・地山塊・炭混入。撹乱層。
4　黒褐色土(10ＹＲ2／3)　シルト。地山塊(小)を全体に含む。しまり、粘性有り。
5　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山粒・地山塊多量混入。炭少量混入。しまり、粘性有り。
6　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。5より地山粒・地山塊の混入少ない。しまり、粘性有り。
7　黒褐色土(10ＹＲ2／2)　シルト。地山塊(小)・炭少量混入・しまり、粘性有り。

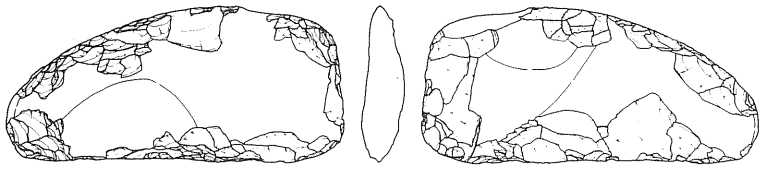
第58図　SI 615 竪穴住居跡



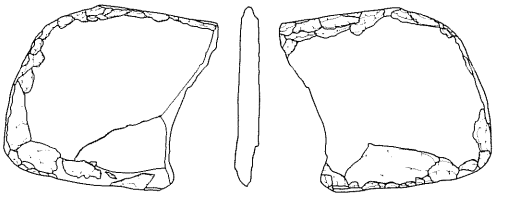
第59図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（1）



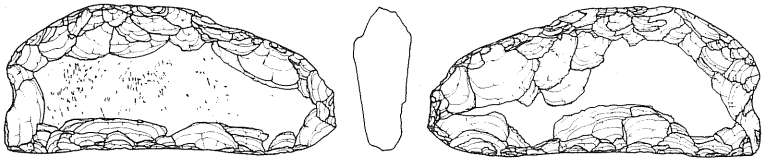
第60図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（２）



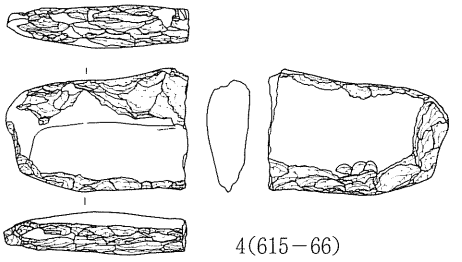
1(615－63)



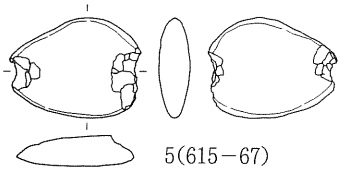
2(615－64)



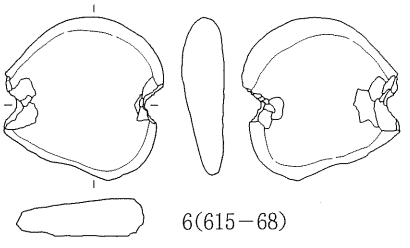
3(615－65)



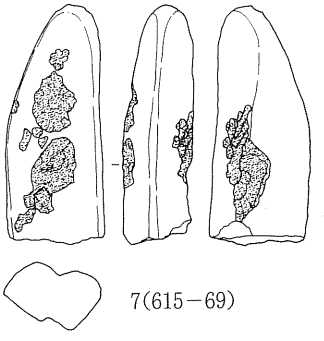
4(615－66)



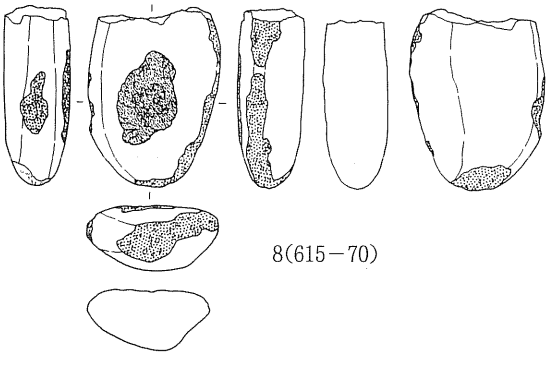
5(615－67)



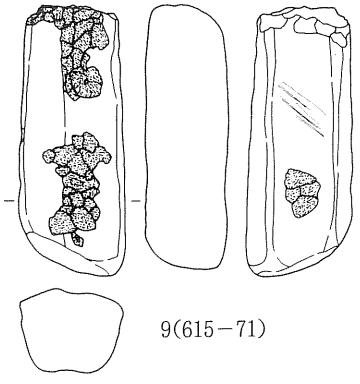
6(615－68)



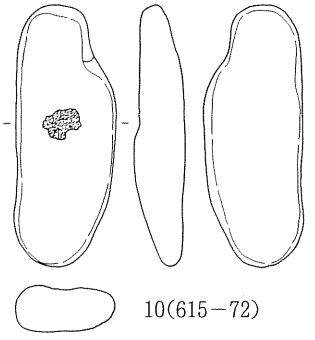
7(615－69)



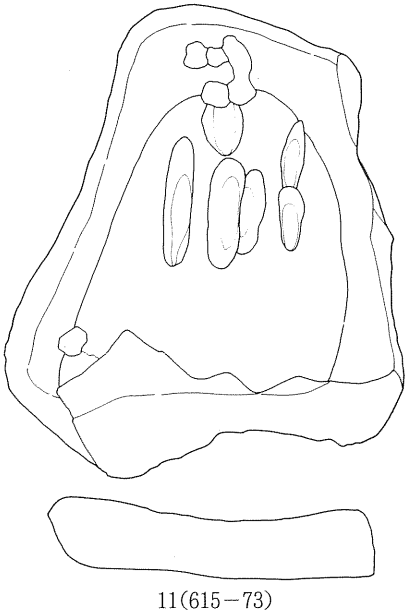
8(615－70)



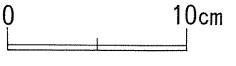
9(615－71)



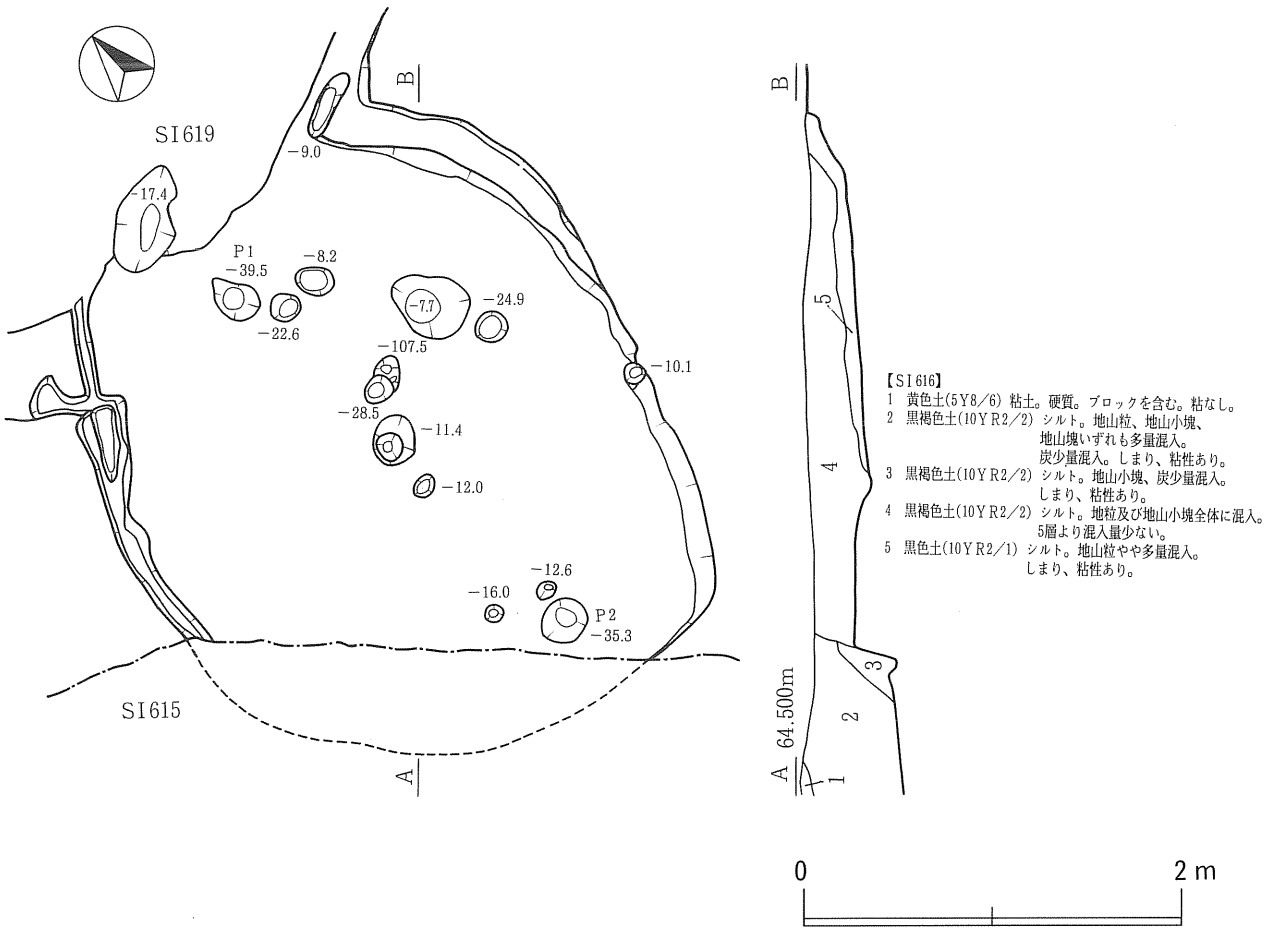
10(615－72)

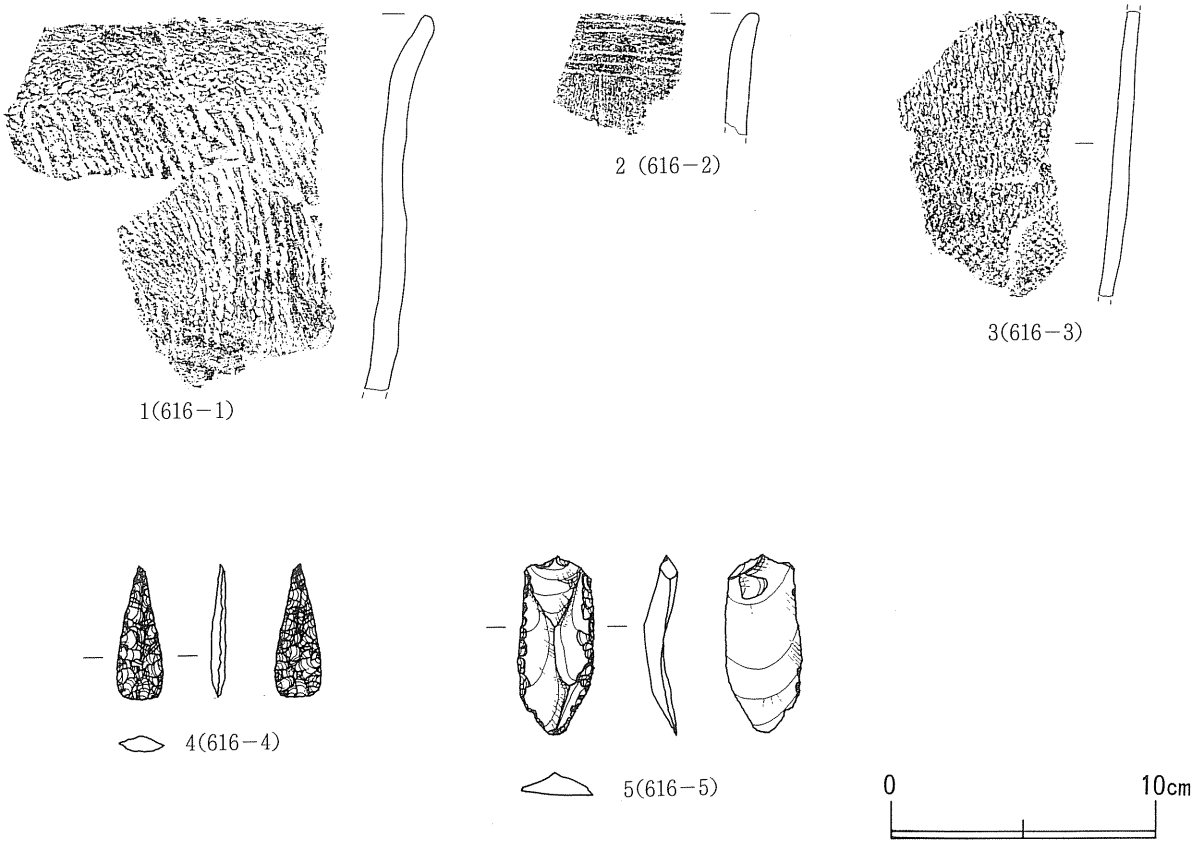


11(615－73)



第61図　SI 615 竪穴住居跡出土遺物（３）





第62図　SI 616 竪穴住居跡と出土遺物

《埋　　土》　５層に分層したが、１～３層はＳＩ615竪穴住居跡の埋土である。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで28cmで、緩やかに外傾しながら立ち上がる。重複のため、一部は削平されている。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に13カ所検出したが、主柱穴はＰ１・Ｐ２と思われる。

《壁　　溝》　西壁に沿って部分的に１条検出した。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１・２）、石鏃（４）・削器（５）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　617　竪穴住居跡（第63図、図版48・図版49）

《位　　置》　ＭＮ53、ＭＯ53グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径3.30ｍ×短径2.57ｍ、深さ5cm。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　５層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで５cmで、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　中央南東側に埋設土器を検出した。

《柱　　穴》　床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～３）、石槍（８～10）・加工痕のある剥片（11）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　618　竪穴住居跡（第64図）

《位　　置》　ＭＭ56･57、ＭＮ56･57グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

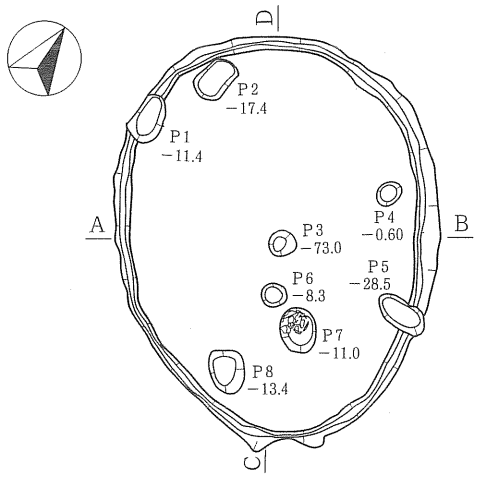
《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径3.50ｍ×短径3.01ｍ、深さ８cm。

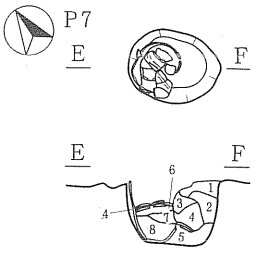
《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　削平によりほとんど埋土が残存しておらず、２層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで８cmであるが、削平されているため不明確である。



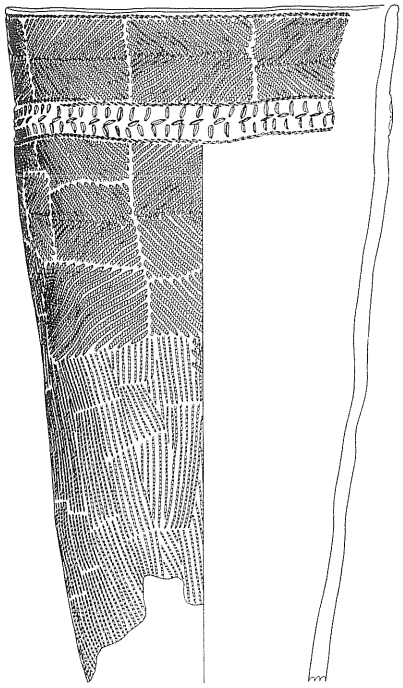
0　2 m



0　1 m

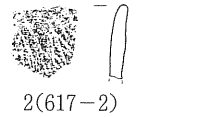
【SI 617・炉】
1　褐色土(10YR4/4)　地山粒がほとんど。地山ブロック(極小)多い。
　　しまり強い。
2　黄褐色土(10YR5/6)　地山粒・地山ブロック層しまりやや強い。
3　にぶい黄褐色土(10YR4/3)　地山粒多く、地山ブロック(中)が
　　多くなる。しまりやや強い。
4　黒褐色土(10YR3/1)　地山粒多く、ブロック(中)少ない。
　　しまりやや弱く、焼土多く含む。
5　暗褐色土(10YR3/3)　地山粒部分的に多い。
　　地山ブロック(小〜中)を含む。
　　しまりやや強い。
6　黒褐色土(10YR3/1)　地山粒多く、しまり弱い。
7　黄褐色土(10YR5/6)　地山粒がほとんど。しまり弱い。
8　黒褐色土(10YR3/1)　地山粒・炭多い。しまりやや弱い。

【SI 617】
1　黒褐色土(10YR2/2)　シルト。地山粒少量、地山塊(小)多量、
　　焼土粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
2　黒色土(10YR2/1)　シルト。地山粒・地山塊(小)焼土粒・炭少量混入。
　　しまり、粘性有り。
3　黒色土(10YR2/1)　シルト。地山塊多量混入。しまり、粘性有り。
4　黒色土(10YR2/1)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性有り。
5　黒色土(10YR1.7/1〜2/1)　シルト。地山粒・焼土粒・炭少量混入。
　　硬質。粘性有り。

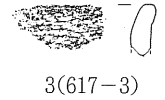


1(617−1)

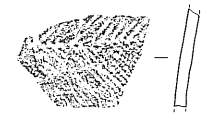
0　10cm



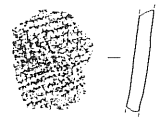
2(617−2)



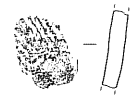
3(617−3)



4(617−4)



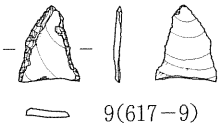
5(617−5)



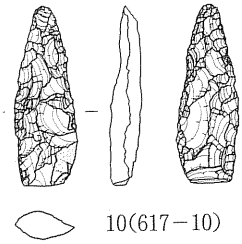
6(617−6)

7(617−7)

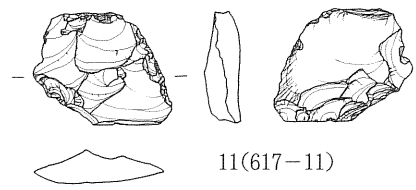
8(617−8)



9(617−9)

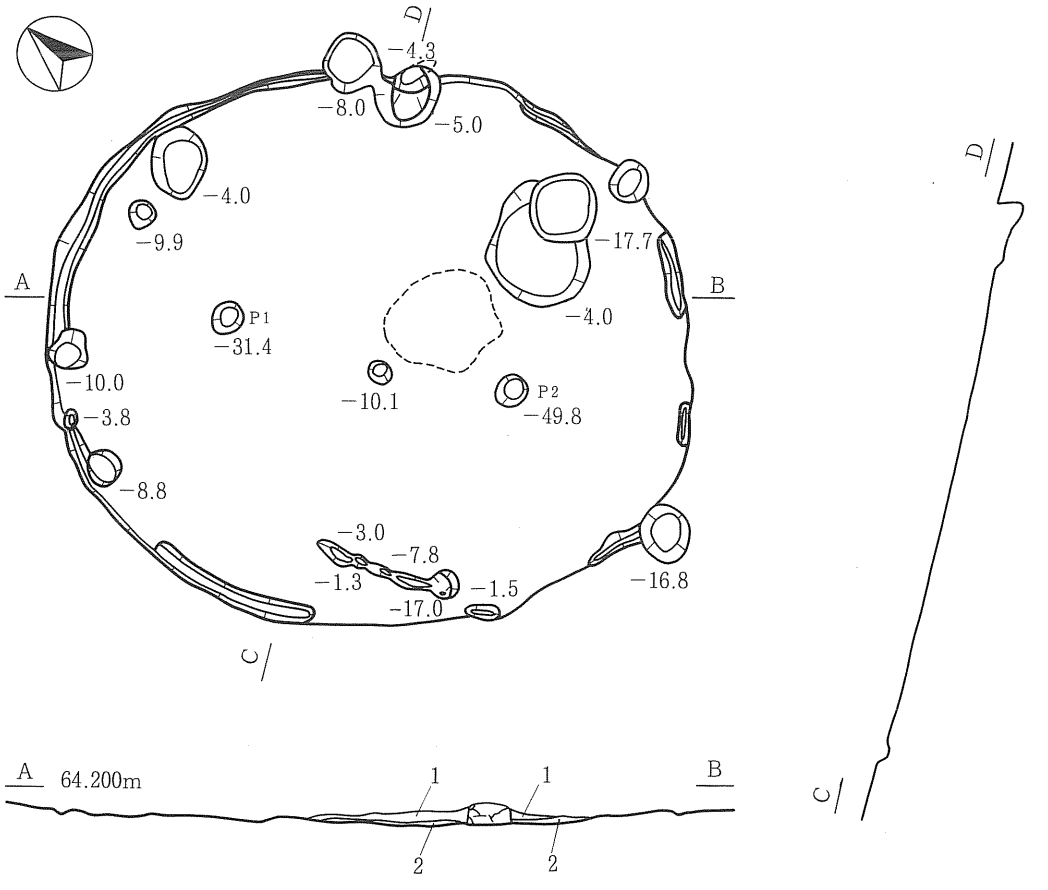


10(617−10)



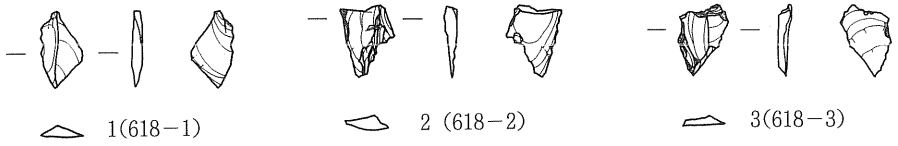
11(617−11)

第63図　SI 617 竪穴住居跡とその出土遺物

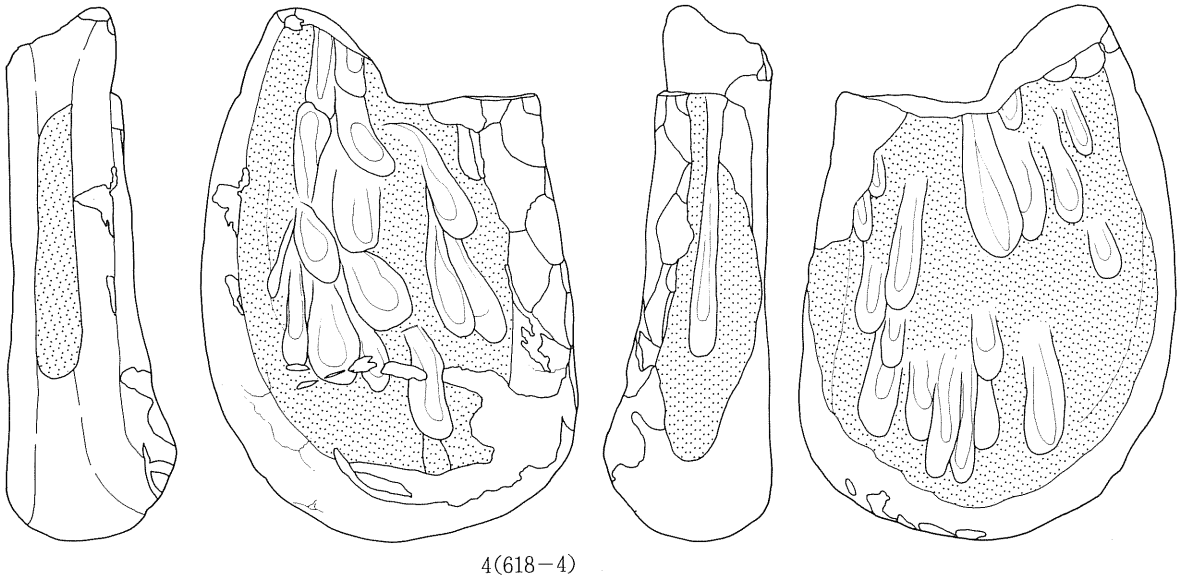


【SI 618】
1　黒褐色土(10YR2／3)　地山塊多く、炭・焼土粒微量混入。しまり強く、粘性なし。
2　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒少量混入。しまり1より強く、粘性なし。

0　2m



1(618−1)　2(618−2)　3(618−3)



4(618−4)

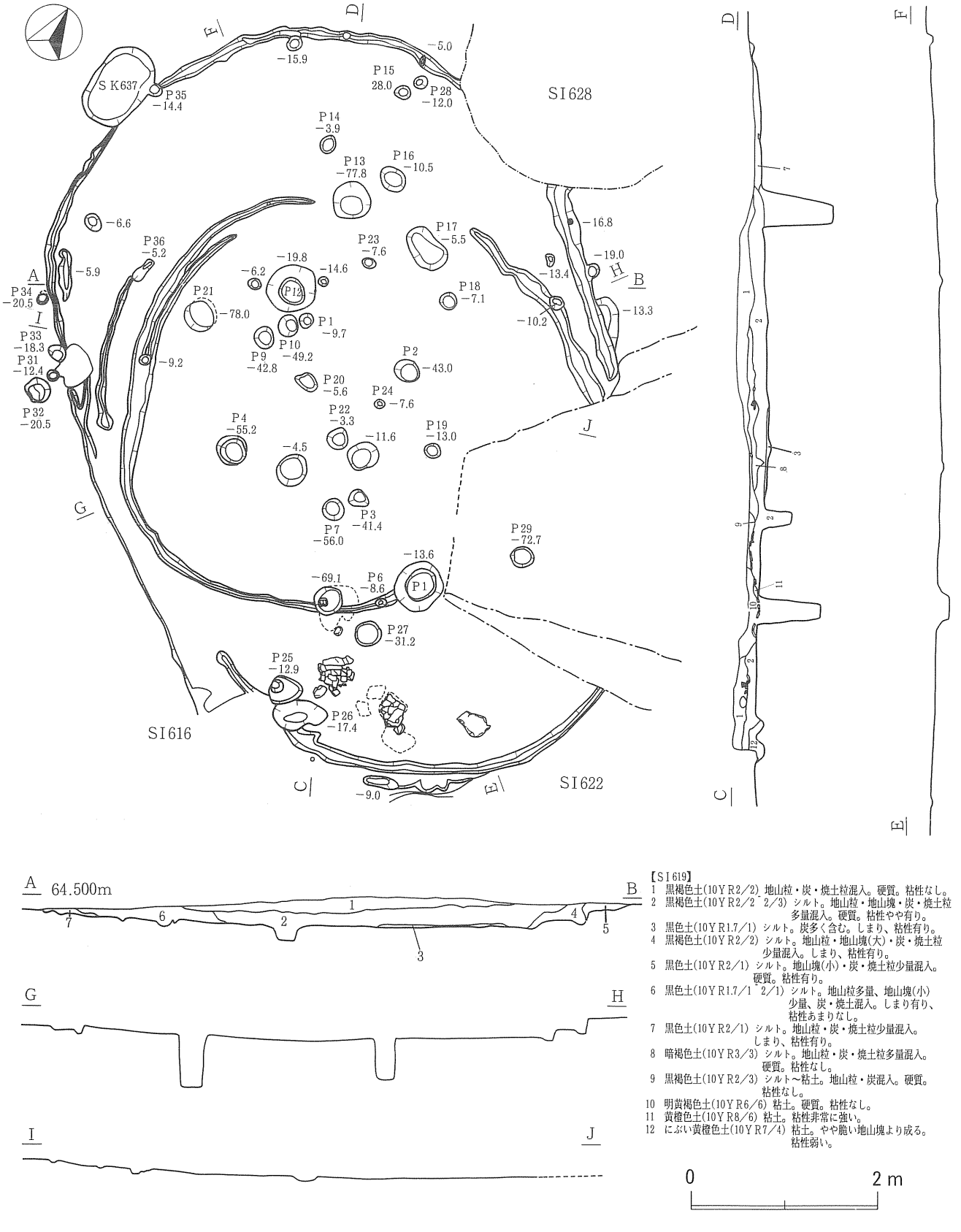
0　10cm

第64図　SI 618 竪穴住居跡とその出土遺物

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　中央に地床炉が検出した。
《柱　　穴》　床面に11カ所検出したが、主柱穴はＰ１・Ｐ２と思われる。
《壁　　溝》　部分的に滅失しているが、壁に沿って１条検出した。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。剥片（１～３）・石皿（４）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　619　竪穴住居跡（第65図～第67図、図版50～図版53）
《位　　置》　ＭＯ53･54･55、ＭＰ53･54･55、ＭＱ54･55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ616・622・628竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　最も新しいプランで長径8.35ｍ×短径5.65ｍ、深さ20㎝。
《平 面 形》　重複しているが、壁溝の平面形から楕円形であると思われる。
《埋　　土》　12層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで20㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ2～Ｐ4・Ｐ9・Ｐ10が最も新しいプランの主柱穴と思われる。
《壁　　溝》　重複により部分的に途切れるが、４条巡る。一番内側のプランが最も新しい時期のものである。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（８～18)・前期後葉の土器（１～７・19)、および石槍（30・31)・石匙（32～34)・削器（35～38)・加工痕のある剥片（39～42)・半円状偏平打製石器（43・44)・敲石（45）が出土した。
《改　　築》　壁溝が４条巡っていることから３回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　622　竪穴住居跡（第68図、図版53）
《位　　置》　ＭＯ53グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ619竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。
《規　　模》　確認長で長径2.82ｍ×短径2.43ｍ、深さ23㎝。
《平 面 形》　円形である。
《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで23㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に13カ所検出したが、主柱穴は不明である。



【SI619】
1　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒・炭・焼土粒混入。硬質。粘性なし。
2　黒褐色土(10YR2/2・2/3) シルト。地山粒・地山塊・炭・焼土粒多量混入。硬質。粘性やや有り。
3　黒色土(10YR1.7/1) シルト。炭多く含む。しまり、粘性有り。
4　黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・地山塊(大)・炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性有り。
5　黒色土(10YR2/1) シルト。地山塊(小)・炭・焼土粒少量混入。硬質。粘性有り。
6　黒色土(10YR1.7/1・2/1) シルト。地山粒多量、地山塊(小)少量、炭・焼土混入。しまり有り、粘性あまりなし。
7　黒色土(10YR2/1) シルト。地山粒・炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性有り。
8　暗褐色土(10YR3/3) シルト。地山粒・炭・焼土粒多量混入。硬質。粘性なし。
9　黒褐色土(10YR2/3) シルト～粘土。地山粒・炭混入。硬質。粘性なし。
10　明黄褐色土(10YR6/6) 粘土。硬質。粘性なし。
11　黄橙色土(10YR8/6) 粘土。粘性非常に強い。
12　にぶい黄橙色土(10YR7/4) 粘土。やや脆い地山塊より成る。粘性弱い。

第65図　SI 619 竪穴住居跡

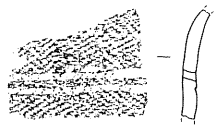
《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　遺物は出土しなかった。

《改　　築》　なし。

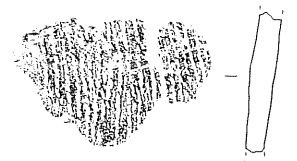
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

第66図　SI 619 竪穴住居跡出土遺物（1）

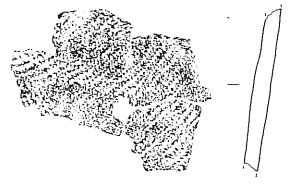

1(619－20)

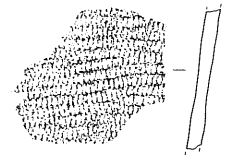
2(619－21)

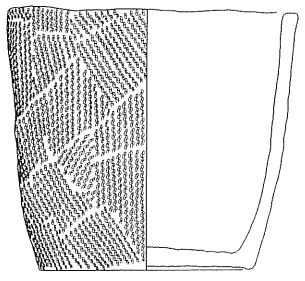
3(619－22)

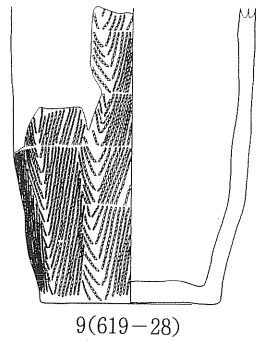

4(619－23)

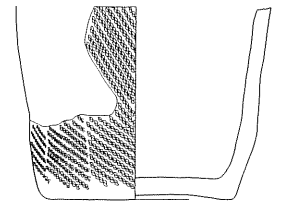
5(619－24)


6(619－25)

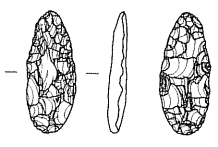

7(619－26)

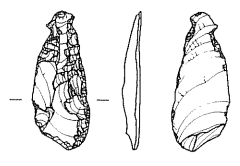

8(619－27)

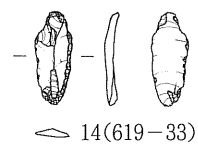

9(619－28)


10(619－29)

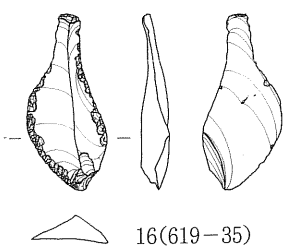
11(619－30)

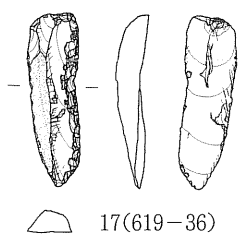

12(619－31)

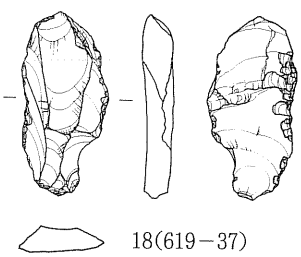

13(619－32)

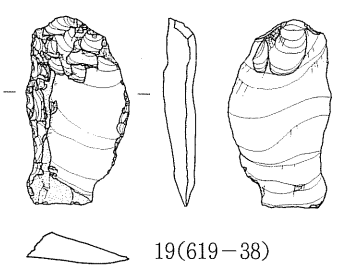

14(619－33)

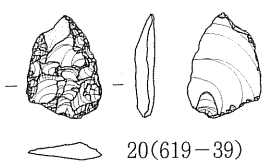
15(619－34)

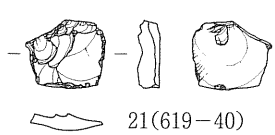

16(619－35)

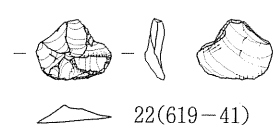

17(619－36)

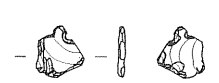

18(619－37)

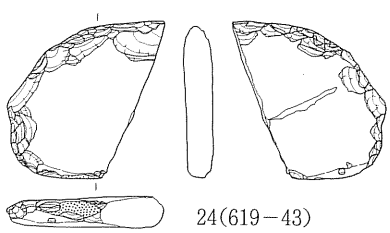

19(619－38)

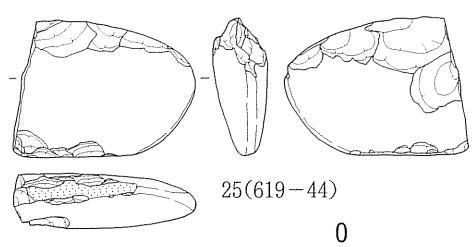

20(619－39)

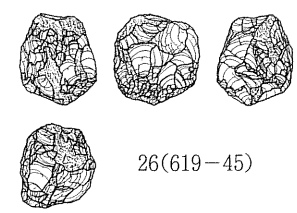

21(619－40)


22(619－41)


23(619－42)

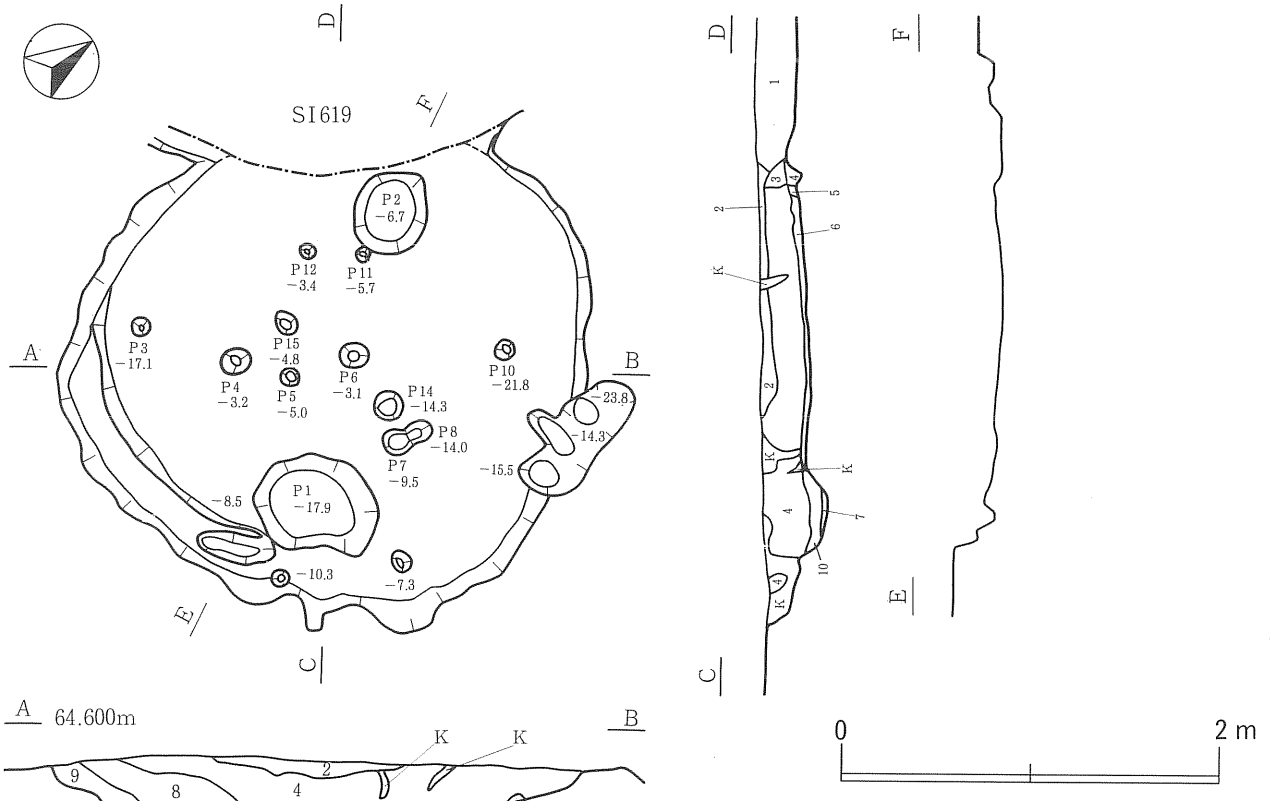

24(619－43)


25(619－44)


26(619－45)

0　10cm

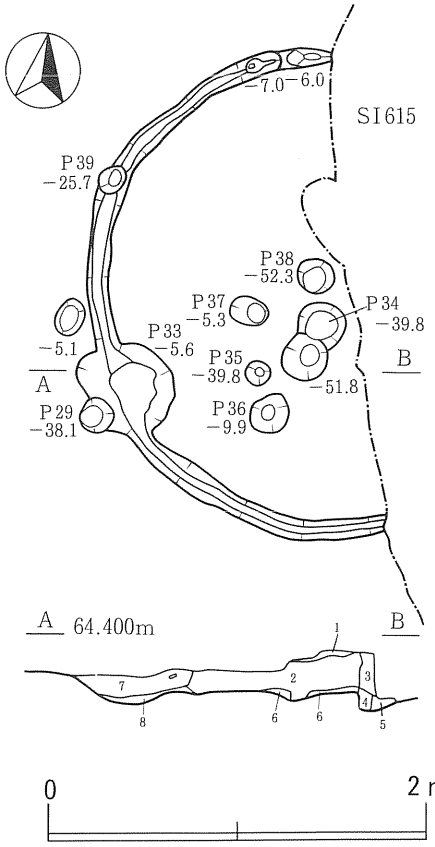
第67図　SI 619 竪穴住居跡出土遺物（２）



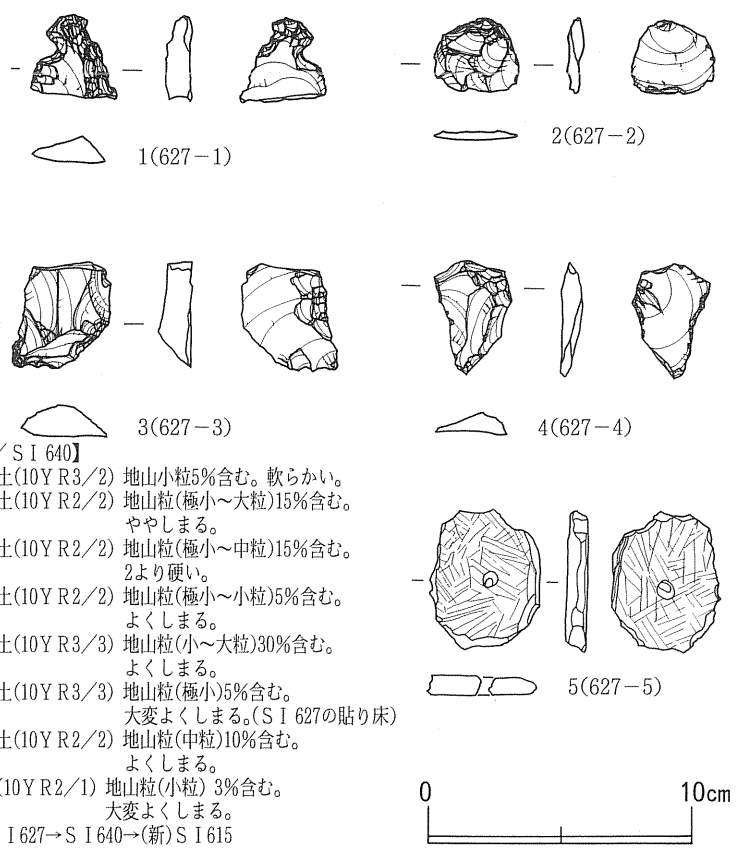
【SI 622】
1　暗褐色土(10YR3/3) 地山粒・地山塊（極小～中)多量、炭わずかに混入。しまりやや弱く、粘性あり。
2　黒褐色土(10YR3/2) 地山粒多く、地山塊(極小)わずかに混入。炭塊1より多く混入。しまりやや有り。
3　黒褐色土(10YR2/3) 地山塊(極小)・同大の炭塊疎らに混入。しまりやや有り。
4　黒褐色土(10YR2/3) 地山粒・地山塊(極小～中)多量、炭少量混入。しまりやや有り。
5　暗褐色土(10YR3/4) 地山粒多量、地山塊(小)少量混入。炭(極小)少量混入。しまりやや弱く、粘性やや有り。
6　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒・炭・地山塊(極小)多く混入。しまりやや弱く、粘性やや有り。
7　黒褐色土(10YR2/3) 地山粒多く、炭化物粒少量、焼土粒微量混入。しまり、粘性共やや有り。
8　黒褐色土(10YR2/3) 地山塊(極小～中)多く、地山粒やや多く混入。炭微量混入。しまり、粘性共やや有り。
9　黒褐色土(10YR2/3) 地山塊(極小)微量、地山粒・炭少量混入。しまり弱く、粘性やや有り。
10　黒色土(10YR2/1) 地山粒・地山塊(極小)多く混入。炭化物少量混入。しまり、粘性共やや有り。

SI622

SI627



【SI 627／SI 640】
1　黒褐色土(10YR3/2) 地山小粒5%含む。軟らかい。
2　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(極小～大粒)15%含む。ややしまる。
3　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(極小～中粒)15%含む。2より硬い。
4　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(極小～小粒)5%含む。よくしまる。
5　暗褐色土(10YR3/3) 地山粒(小～大粒)30%含む。よくしまる。
6　暗褐色土(10YR3/3) 地山粒(極小)5%含む。大変よくしまる。(SI 627の貼り床)
7　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(中粒)10%含む。よくしまる。
8　黒色土(10YR2/1) 地山粒(小粒) 3%含む。大変よくしまる。
(旧)SI 627→SI 640→(新)SI 615



第68図　SI 622・SI 627 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　627　竪穴住居跡（第68図）

《位　　置》　ＭＭ55•56、ＭＮ55•56グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ615竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。

《規　　模》　確認長で長径2.57ｍ×短径1.33ｍ、深さ９㎝。

《平 面 形》　重複する部分が大きく、不明である。

《埋　　土》　８層に分層したが、３～５層はＳＩ615竪穴住居跡の埋土である。

《　壁　》　最も深いところで９㎝で、削平のため詳細は不明であるが、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。石匙（１）・加工痕のある剥片（２～４）・有孔円盤状石製品（５）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　628　竪穴住居跡（第69図・第70図、図版54～図版57）

《位　　置》　ＭＱ54グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ619竪穴住居跡・ＳＫＦ647フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も新しい。

《規　　模》　長径2.70ｍ×短径2.60ｍ、深さ55㎝。

《平 面 形》　円形である。

《埋　　土》　25層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで55㎝で、ほぼ直立する。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床している部分もみられる。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

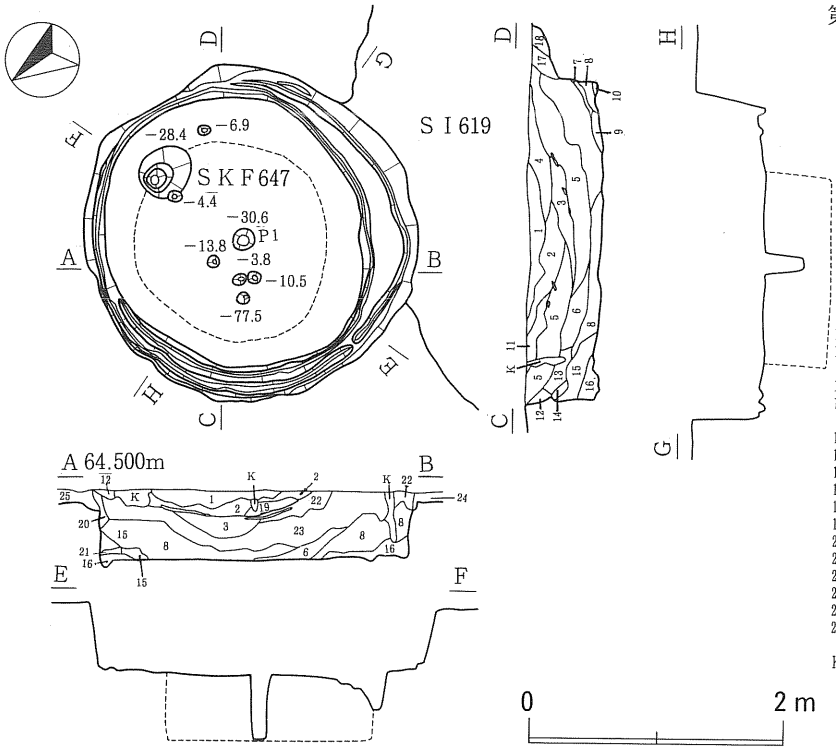
《柱　　穴》　床面に８カ所検出したが、Ｐ１が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　２条検出した。

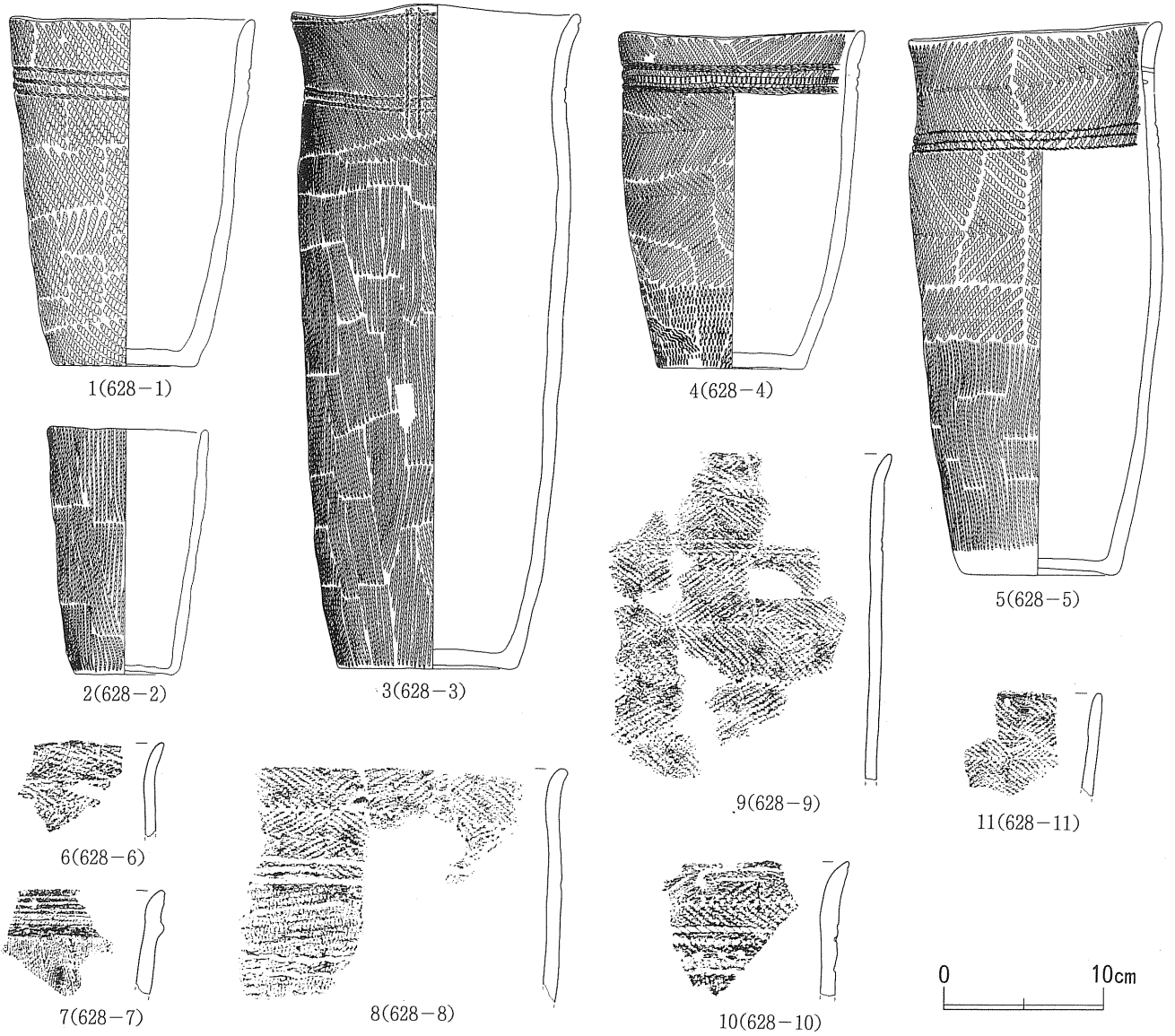
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～13）・前期後葉の土器（15・18）、および石鏃（21）・石匙（22～24）・掻器（25～27）・石槍（32）・加工痕のある剥片（28～30）・剥片（31）・磨製石斧（33）が出土した。

《改　　築》　壁溝が２条巡っていることから１回の改築が想定される。

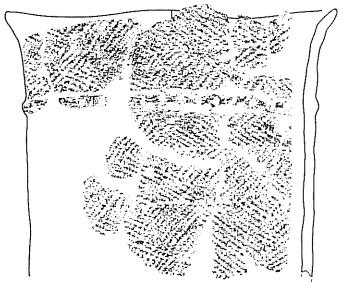
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。



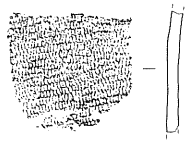
【SI 628】
1 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒やや多く、焼土粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
2 黒色土(10YR2/1) シルト。地山粒・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
3 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・地山塊(小)・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
4 黒褐色土(10YR3/2) シルト。地山粒多量、地山塊(小)・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
5 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山塊(小)多量、焼き土・炭少量混入。しまり、粘性有り。
6 黒褐色土(10YR2/3) シルト～粘土。地山塊(小)5より多く、焼土粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
7 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山塊(小)少量混入。しまりやや弱く、粘性有り。
8 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山塊・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
9 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
10 黒褐色土(10YR3/2) シルト～粘土。地山粒多量混入。しまり、粘性有り。
11 黒褐色土(10YR2/2～2/3) シルト。地山粒やや多く、地山塊(小)・炭少量混入。しまり、粘性有り。
12 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒少量混入。しまり弱く、粘性有り。
13 黒褐色土(10YR2/3) 地山粒多量、地山塊・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
14 黒褐色土(10YR2/2) シルト。12に同じ。
15 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山粒多量、地山塊少量混入。しまり、粘性有り。
16 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒少量混入。しまりやや弱く、粘性有り。
17 黒褐色土(10YR3/1) シルト。地山粒・白色粘土少量混入。しまり、粘性有り。
18 灰白色土(10YR8/2) 粘土。しまり、粘性有り。
19 褐色(10YR4/4) シルト～粘土。地山粒多量、焼土粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
20 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒・焼土粒・炭、各少量混入。しまり、粘性有り。
21 明黄褐色土(10YR6/8) 粘土。しまり有り、粘性弱い。
22 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
23 黒色土(10YR2/1) シルト。地山塊(小)多量、焼土粒・炭少量混入。
24 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山塊(小)・炭多量混入。しまり、粘性有り。
25 黒色土(10YR2/1) シルト。地山粒多量、焼土粒・炭・地山塊(少)、各少量混入。しまり、粘性有り。(ST396埋土)
K 撹乱

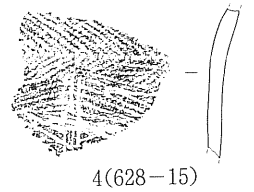


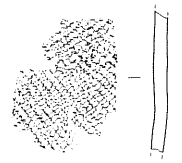
第69図　SI 628 竪穴住居跡とその出土遺物（１）

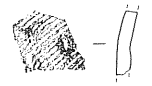

1(628－12)

2(628－13)


3(628－14)

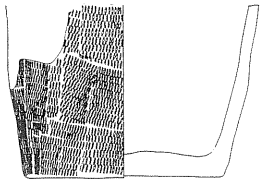

4(628－15)

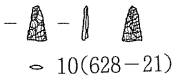

5(628－16)

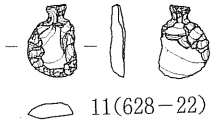

6(628－17)

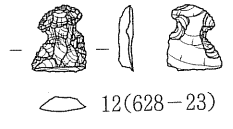
7(628－18)

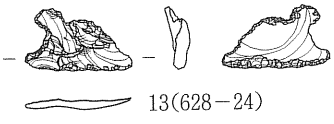
8(628－19)

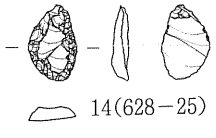

9(628－20)

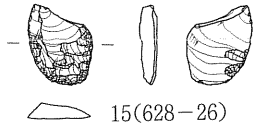

10(628－21)

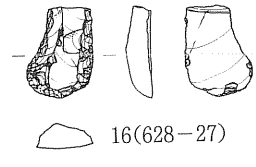

11(628－22)

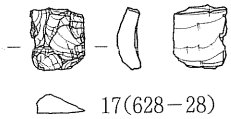

12(628－23)

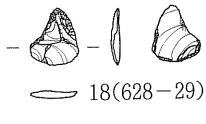

13(628－24)

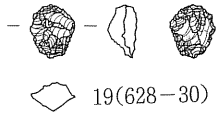

14(628－25)

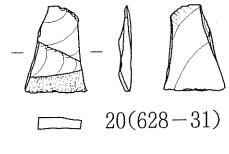

15(628－26)

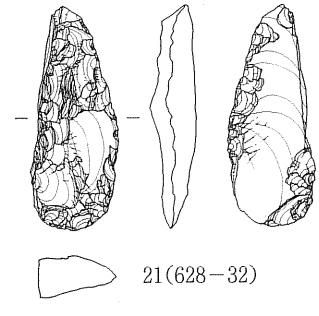

16(628－27)

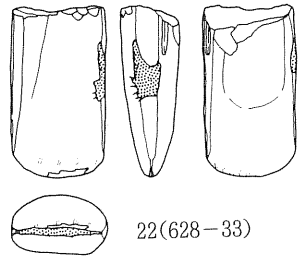

17(628－28)

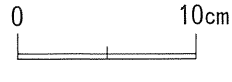

18(628－29)


19(628－30)


20(628－31)


21(628－32)


22(628－33)



第70図　SI 628 竪穴住居跡出土遺物（2）

ＳＩ　632　竪穴住居跡（第71図、図版57）

《位　　置》　ＭＰ56•57、ＭＱ56•57グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.49ｍ×短径1.83ｍ、深さ4㎝。

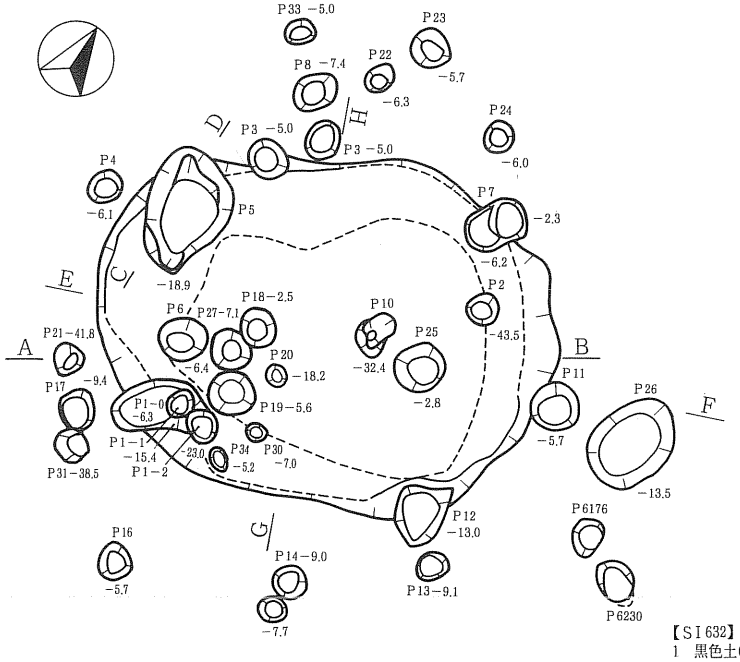
《平 面 形》　楕円形である。

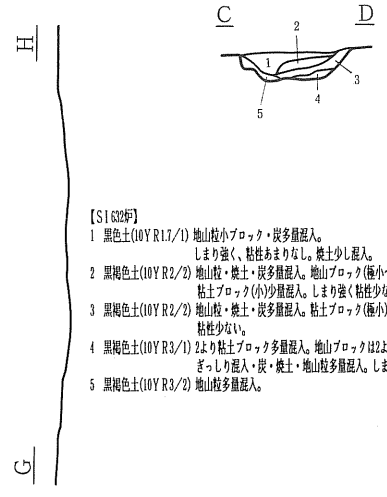
《埋　　土》　畑耕作による削平のため埋土は大変薄く、２層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

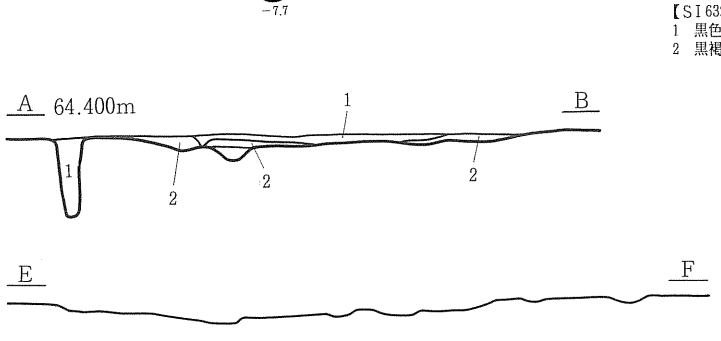
《　壁　》　最も深いところで４㎝で、詳細は不明である。

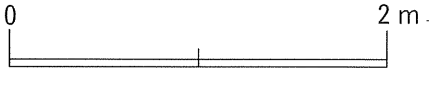
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

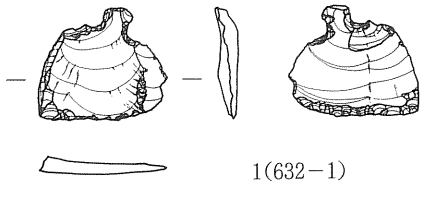
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

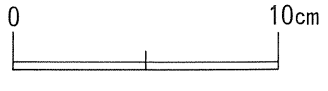












第71図　SI 632 竪穴住居跡とその出土遺物

《柱　　穴》　床面および周辺に多数検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から石匙（１）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　638　竪穴住居跡（第72図～第76図、図版58～図版61）

《位　　置》　ＭＣ56～58、ＭＤ56～58、ＭＥ56～58グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ751竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　長径9.53ｍ×短径8.69ｍ、深さ43㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで43㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。北西部で壁溝に並行する波板状のピット群が設けられている。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ26・Ｐ40・Ｐ41・Ｐ53・Ｐ59・Ｐ68が一番外側のプランの主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　部分的に途切れながらも５条検出した。一番外側のプランが最も新しい時期のものである。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（31～37）・後葉の土器（１～14・17～23・27～30）、および石鏃（38）・石匙（39・40）・欠損した石槍（41・42）・箆状石器（43）・側面に敲打痕のある両面加工石器（44）・掻器（45）・加工痕のある剥片（46・47）・欠損した磨製石斧（48）・半円状偏平打製石器（49～55）・敲石（56）・凹石（57・58）が出土した。

《改　　築》　壁溝が５条巡っていることから４回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　658　竪穴住居跡（第77図、図版62）

《位　　置》　ＭＭ59、ＭＮ57･58･59グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫ659土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　確認長で長径7.35ｍ×短径2.70ｍ、深さ25㎝。

《平 面 形》　斜面へ崩落しているため、全容は不明である。

《埋　　土》　４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで25㎝で、外傾しながら立ち上がる。半分ほどは斜面に崩落している。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に12カ所検出したが、主柱穴は不明である。

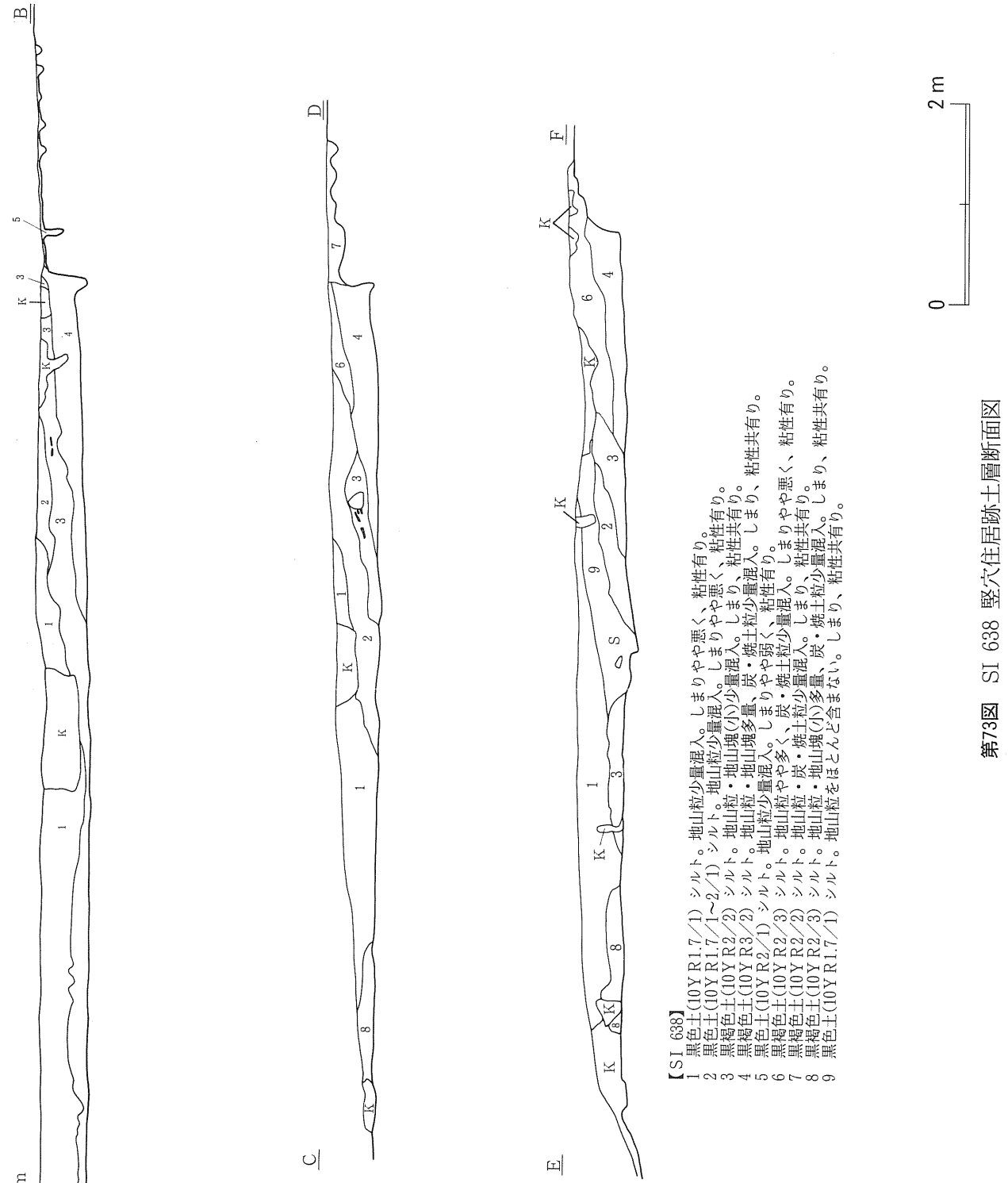
第72図　SI 638 竪穴住居跡

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から加工痕のある剥片（１）・半円状偏平打製石器（２）・擦り石（３）が出土した。

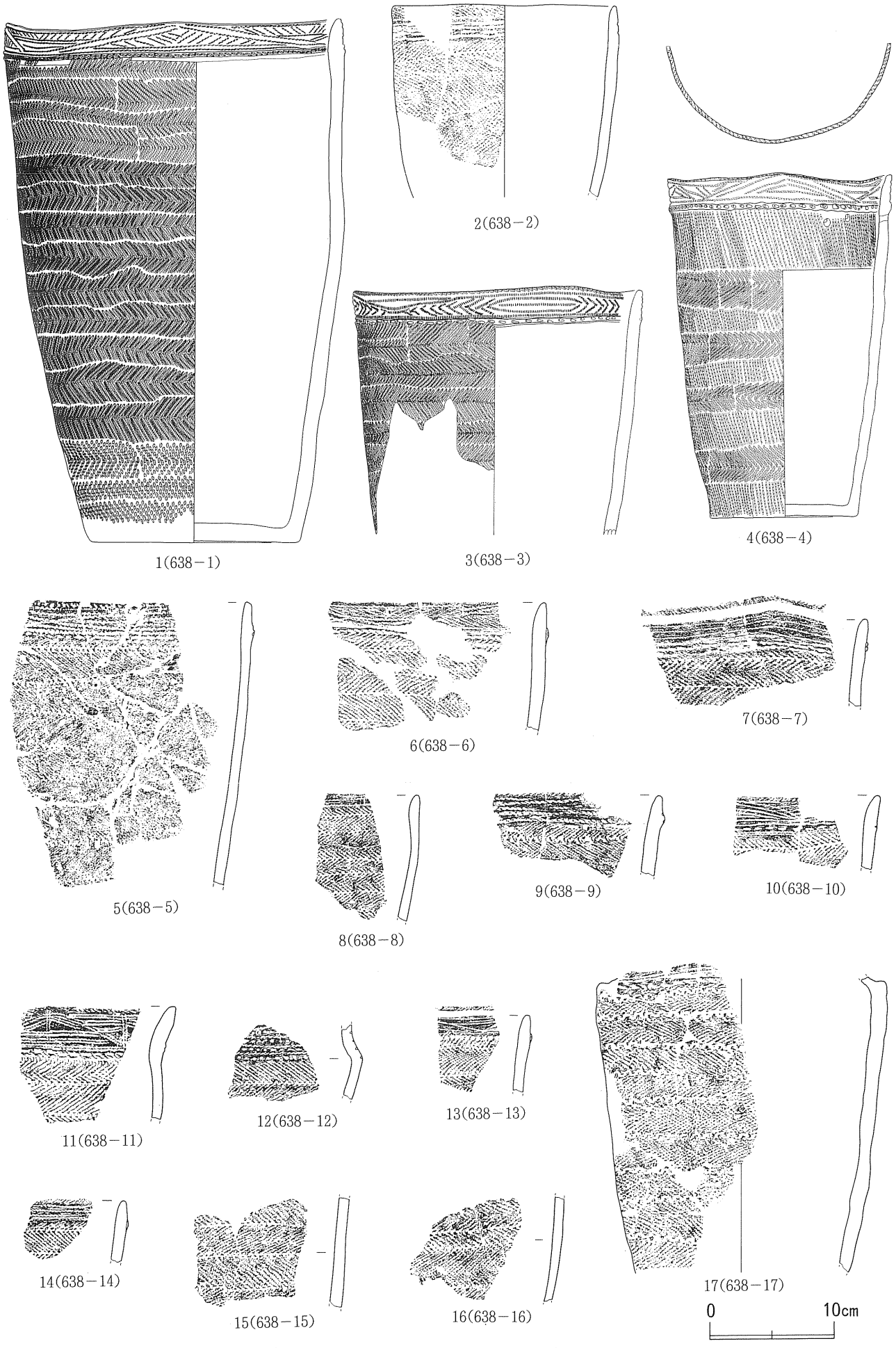
《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土していない。

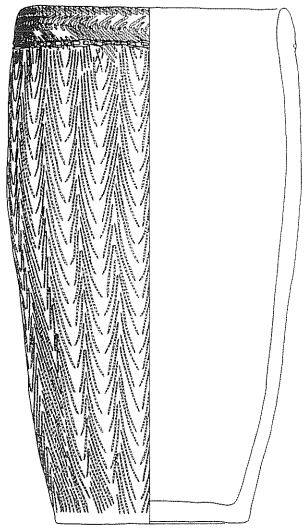


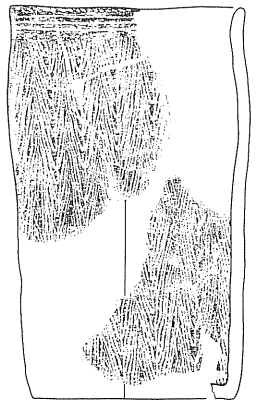
【SI 638】
1 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
2 黒色土(10YR1.7/1~2/1) シルト。地山粒少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
3 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり、粘性共有り。
4 黒褐色土(10YR3/2) シルト。地山粒・地山塊多量、炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。
5 黒色土(10YR2/1) シルト。地山粒少量混入。しまりや弱く、粘性有り。
6 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒やや多く、炭・焼土粒少量混入。しまりやや悪く、粘性有り。
7 黒褐色土(10YR2/2) シルト。地山粒・炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。
8 黒褐色土(10YR2/3) シルト。地山粒・地山塊(小)多量、炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。
9 黒色土(10YR1.7/1) シルト。地山粒をほとんど含まない。しまり、粘性共有り。

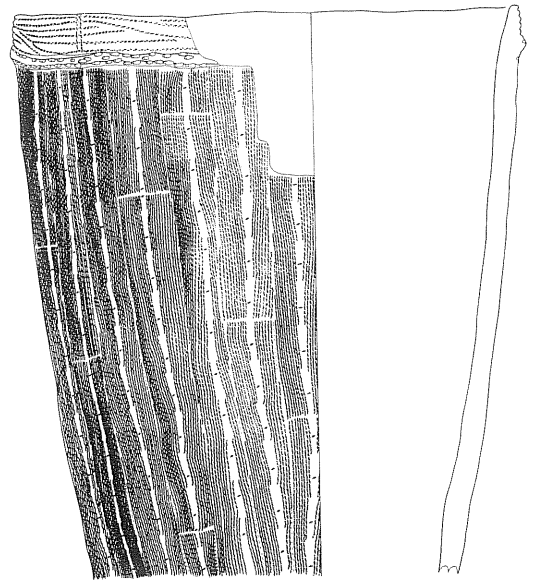
第73図　SI 638 竪穴住居跡土層断面図

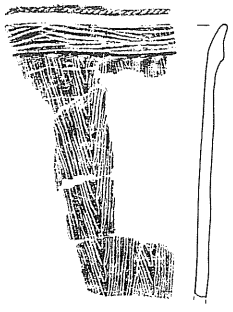


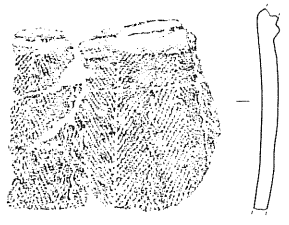
第74図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（１）

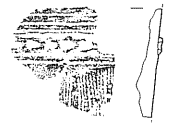

1(638－18)

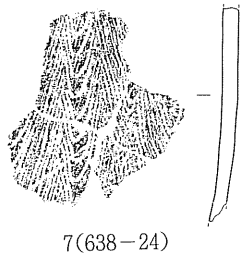

2(638－19)

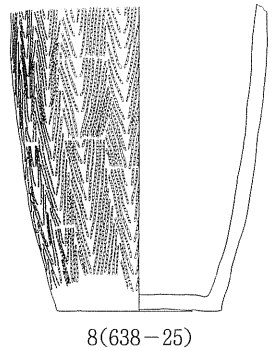

3(638－20)

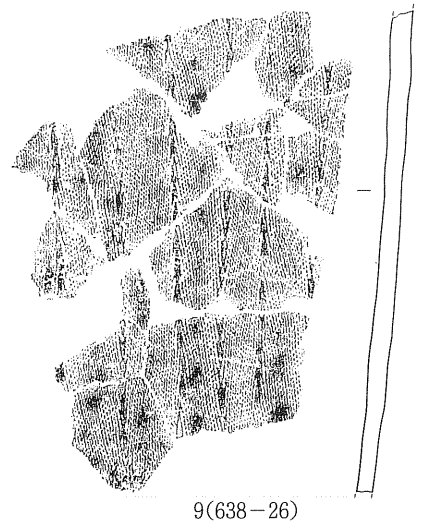

4(638－21)

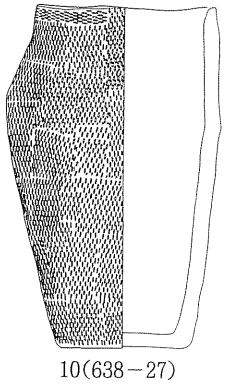

5(638－22)

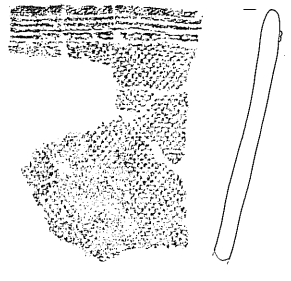

6(638－23)


7(638－24)

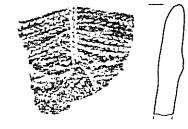

8(638－25)

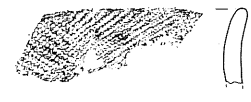

9(638－26)


10(638－27)


11(638－28)

12(638－29)


13(638－30)

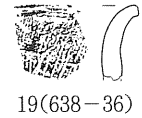

14(638－31)

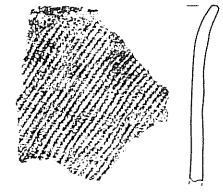
15(638－32)

16(638－33)

17(638－34)

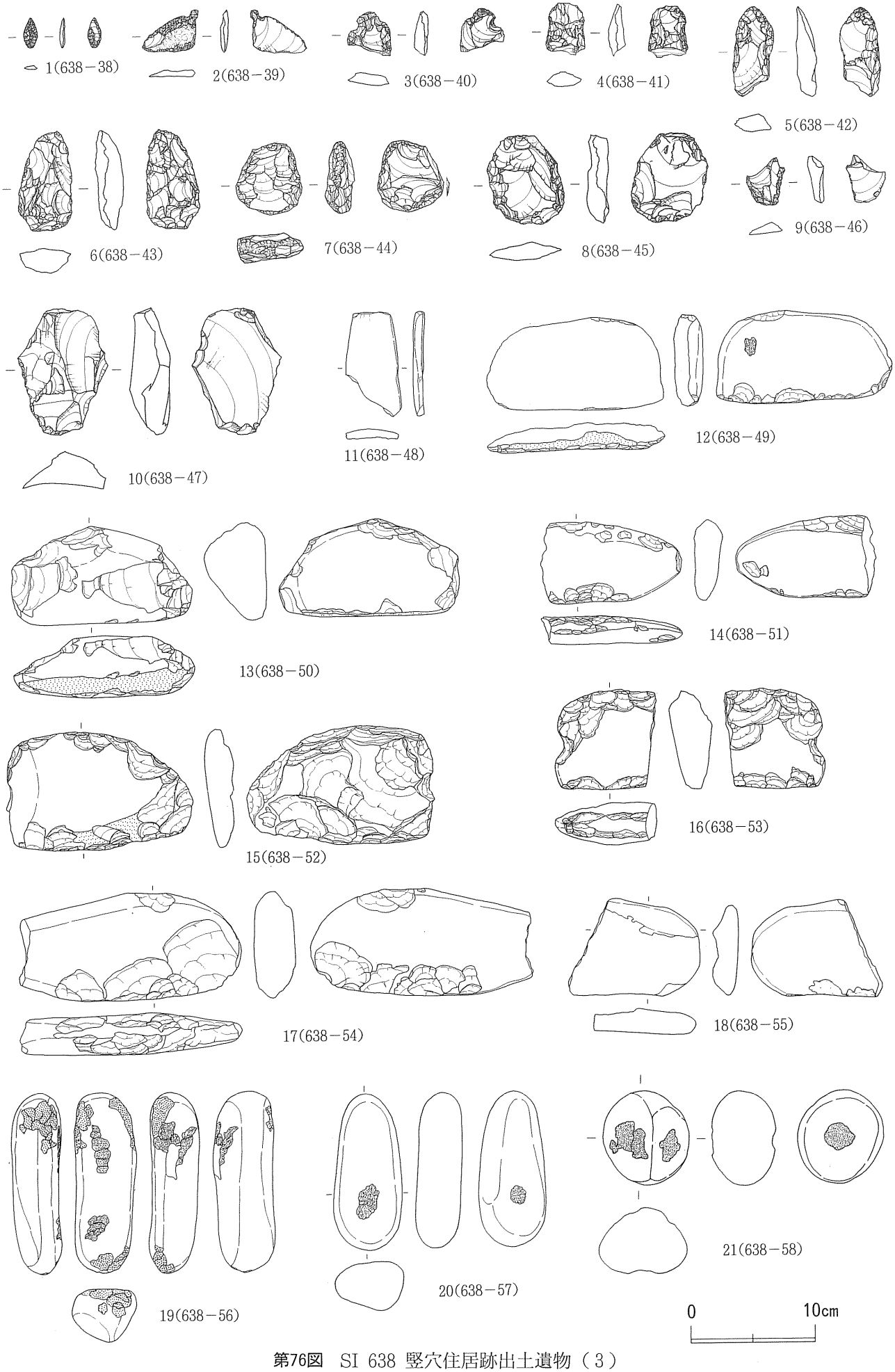
18(638－35)


19(638－36)


20(638－37)

0　10cm

第75図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（２）



第76図　SI 638 竪穴住居跡出土遺物（３）

ＳＩ　660　竪穴住居跡（第78図）

《位　　置》　ＭＢ66•67、ＭＣ66•67グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径3.25ｍ×短径2.65ｍ、深さ12㎝。

《平 面 形》　部分的に崩落しているが、壁溝の平面形から楕円形であると思われる。

《埋　　土》　５層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで12㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　床面に11カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～10）、および石槍（18）•石匙（19）•削器（20•22•23）•掻器（21）•加工痕のある剥片（24）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　661　竪穴住居跡（第79図、図版62）

《位　　置》　ＭＣ68•69グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ667竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。

《規　　模》　確認長で長径3.30ｍ×短径3.24ｍ、深さ42㎝。

《平 面 形》　斜面への崩落、および重複のため、全容は不明である。円形である。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで42㎝で、外傾しながら立ち上がる。崩落および重複のため、一部滅失している。

《床　　面》　中央部が凹む鍋底状の形態である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　壁に沿うように７カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　壁に沿って一部残存するが、ほとんどは滅失している。

《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期後葉の土器（１）、加工痕のある剥片（３）が出土した。

《改　　築》　なし。

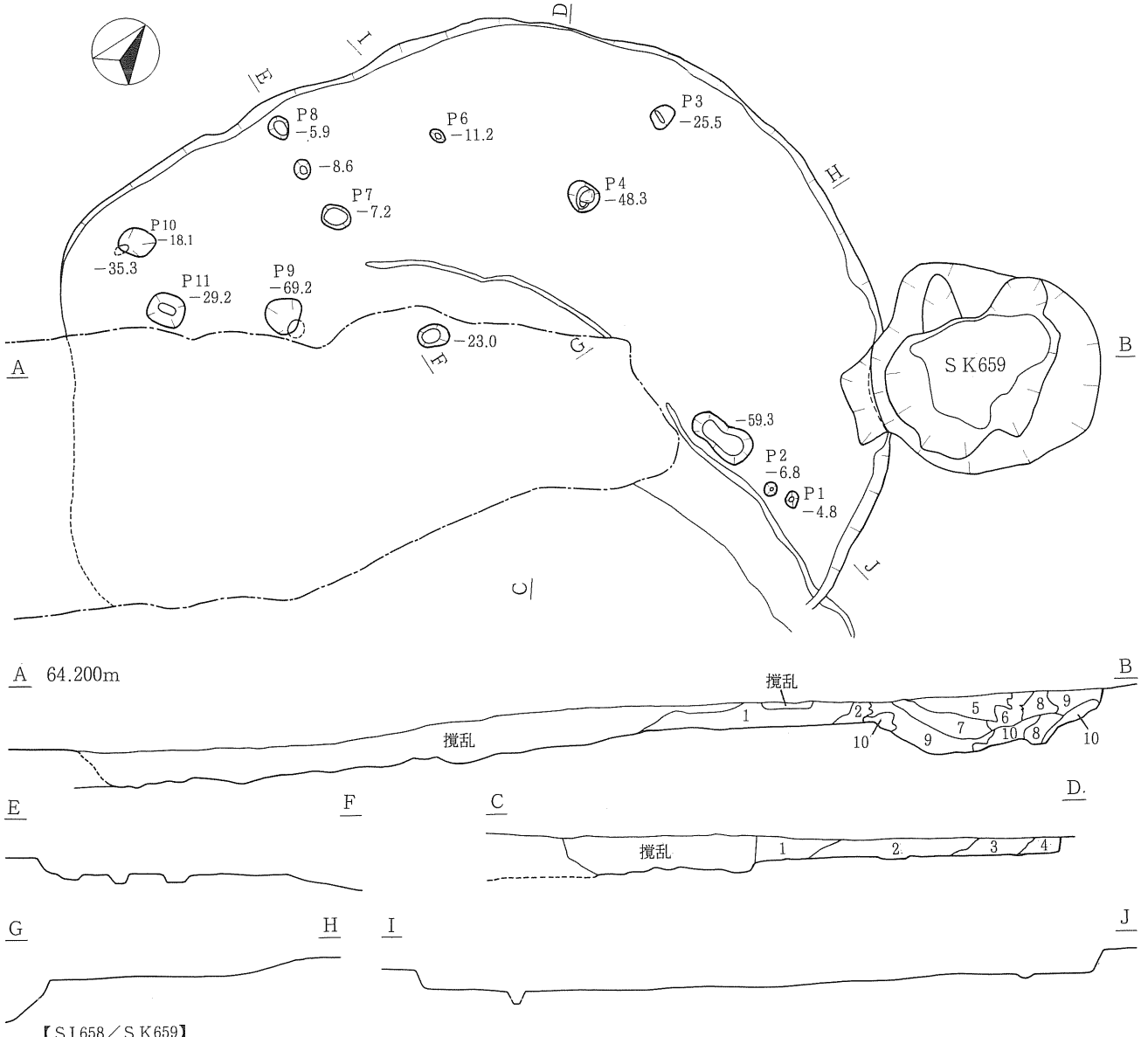
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　663　竪穴住居跡（第80図・第81図）

《位　　置》　ＭＦ74•75、ＭＧ74•75•76、ＭＨ56•57•74グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

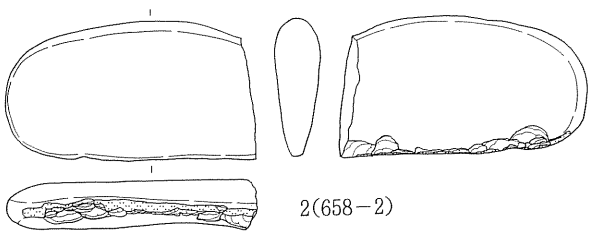
《重　　複》　なし。



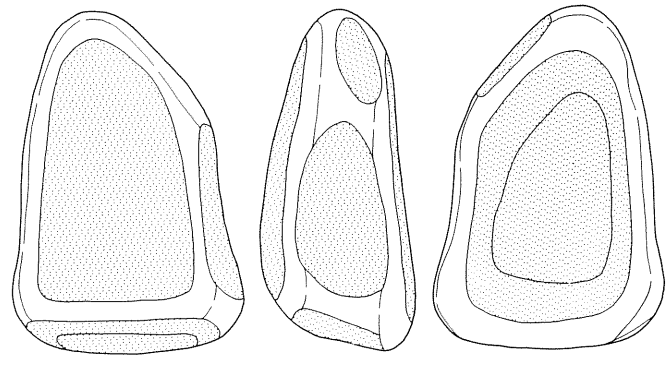
【SI658／SK659】
1　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。地山粒多量、地山塊(小)・炭・焼土粒少量混入。硬質。粘性有り。
2　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山塊(小)多量混入。しまりやや弱く、粘性有り。
3　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山塊(小)・焼土粒やや多量混入。炭小量混入。しまり、粘性有り。
4　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。地山粒多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
5　黄橙色土(10YR8／8)　粘土。
6　にぶい黄橙色(10YR6／3)　シルト～粘土。
7　黄橙色土(10YR8／8)　粘土。黒色土含む。
8　灰黄褐色土(10YR4／2)　シルト。
9　黒色土(10YR1.7／1)　シルト。
10　黄橙色土(10YR8／8)　粘土。地山塊多量混入。
【SK659】

0　2 m

1(658−1)



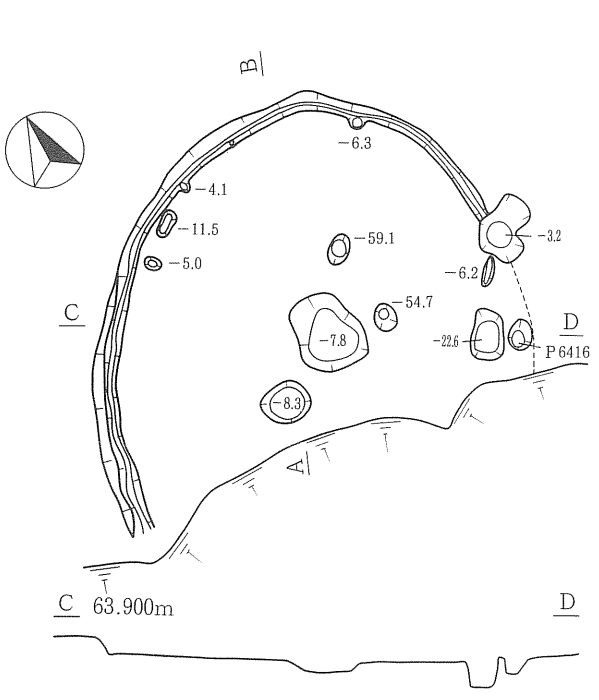
2(658−2)

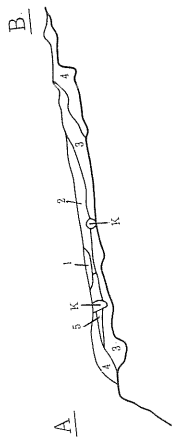


3(658−3)

0　10cm

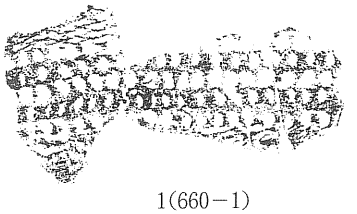
第77図　SI 658 竪穴住居跡とその出土遺物

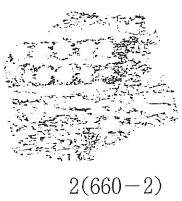


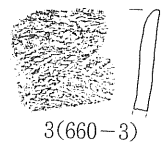


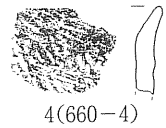
【SI 660】
1　黒褐色土(10YR3／1) 軟らかい。
2　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒若干混入。
3　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒を4より多く混入する。よくしまっている。
4　黒褐色土(10YR2／3) 地山粒少量混入。軟らかい。
5　黒褐色土(10YR2／2) よくしまっている。
K　撹乱

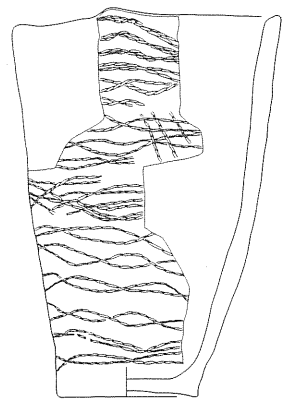
0　2 m

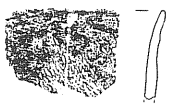

1(660−1)

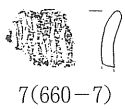

2(660−2)

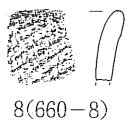

3(660−3)

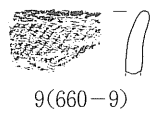

4(660−4)


5(660−5)


6(660−6)


7(660−7)

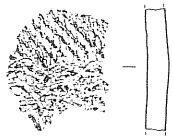

8(660−8)

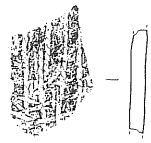

9(660−9)

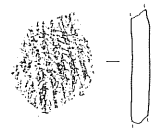
10(660−10)

11(660−11)

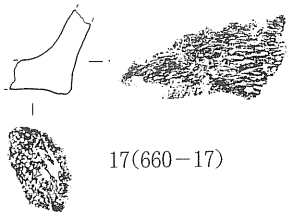
12(660−12)

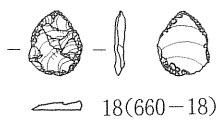

13(660−13)

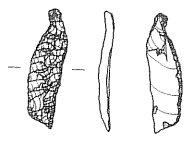

14(660−14)

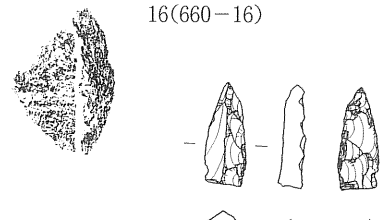

15(660−15)

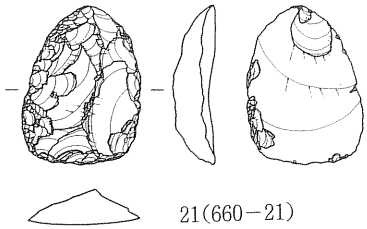
16(660−16)

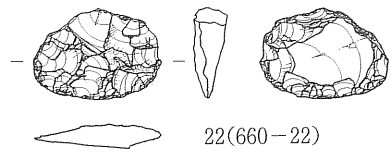

17(660−17)

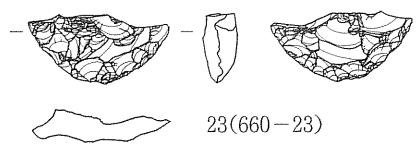

18(660−18)

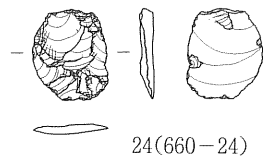

19(660−19)


20(660−20)


21(660−21)

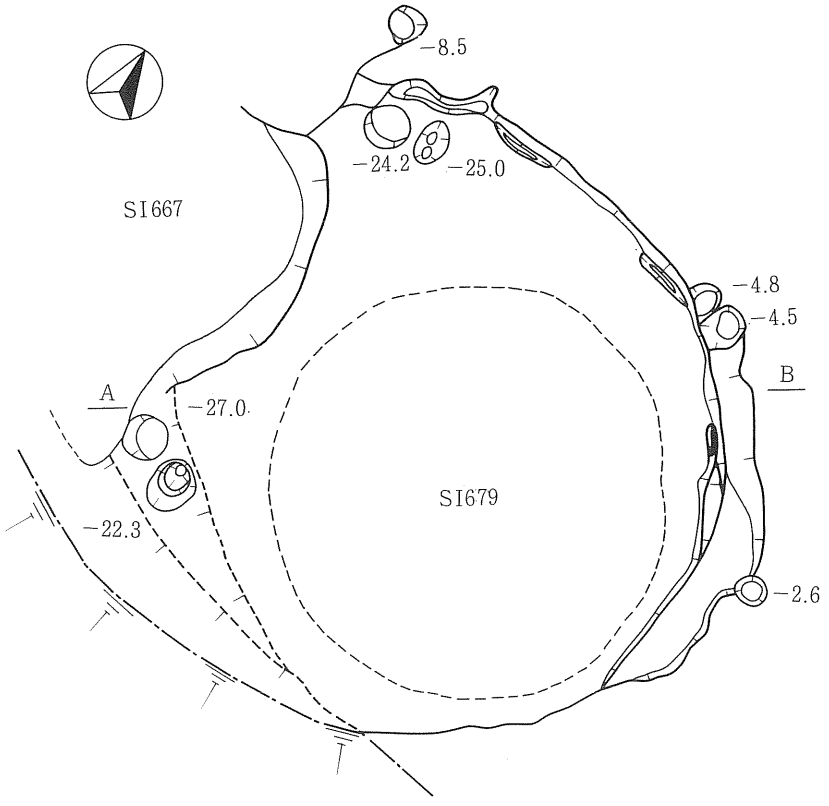

22(660−22)

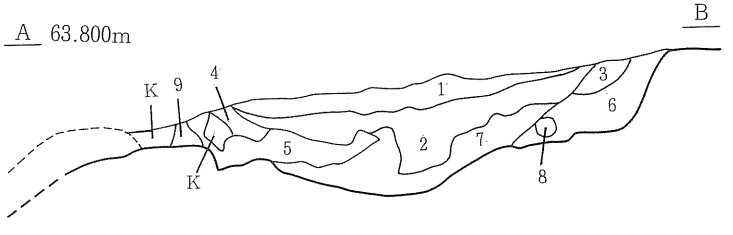

23(660−23)


24(660−24)

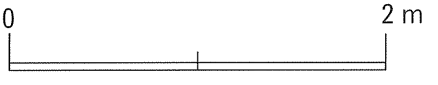
0　10cm

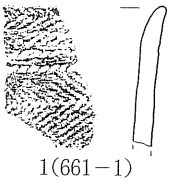
第78図　SI 660 竪穴住居跡とその出土遺物

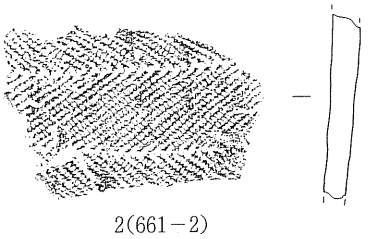


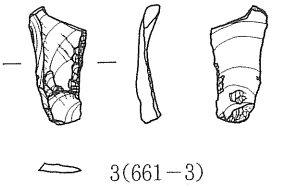


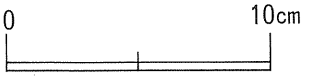
【SI 661】
1　黒褐色土(10Y R3／1) 粘性あり。
2　黒褐色土(10Y R2／2) 地山粒多量混入。
　　固くしまっている。
3　黒褐色土(10Y R3／2) 地山粒少量混入。軟らかい。
4　褐色土(10Y R4／4) 軟らかい。
5　にぶい黄褐色(10Y R4／3) 地山粒・塊多量混入。
6　褐色土(10Y R4／4) 地山粒多量混入。
7　黒褐色土(10Y R3／2) 地山粒・塊多量混入。
8　黄橙色土(10Y R7／8) 地山ブロック。
9　褐色土(10Y R4／6) 軟質。
K　撹乱




1(661−1)


2(661−2)


3(661−3)



第79図　SI 661 竪穴住居跡とその出土遺物

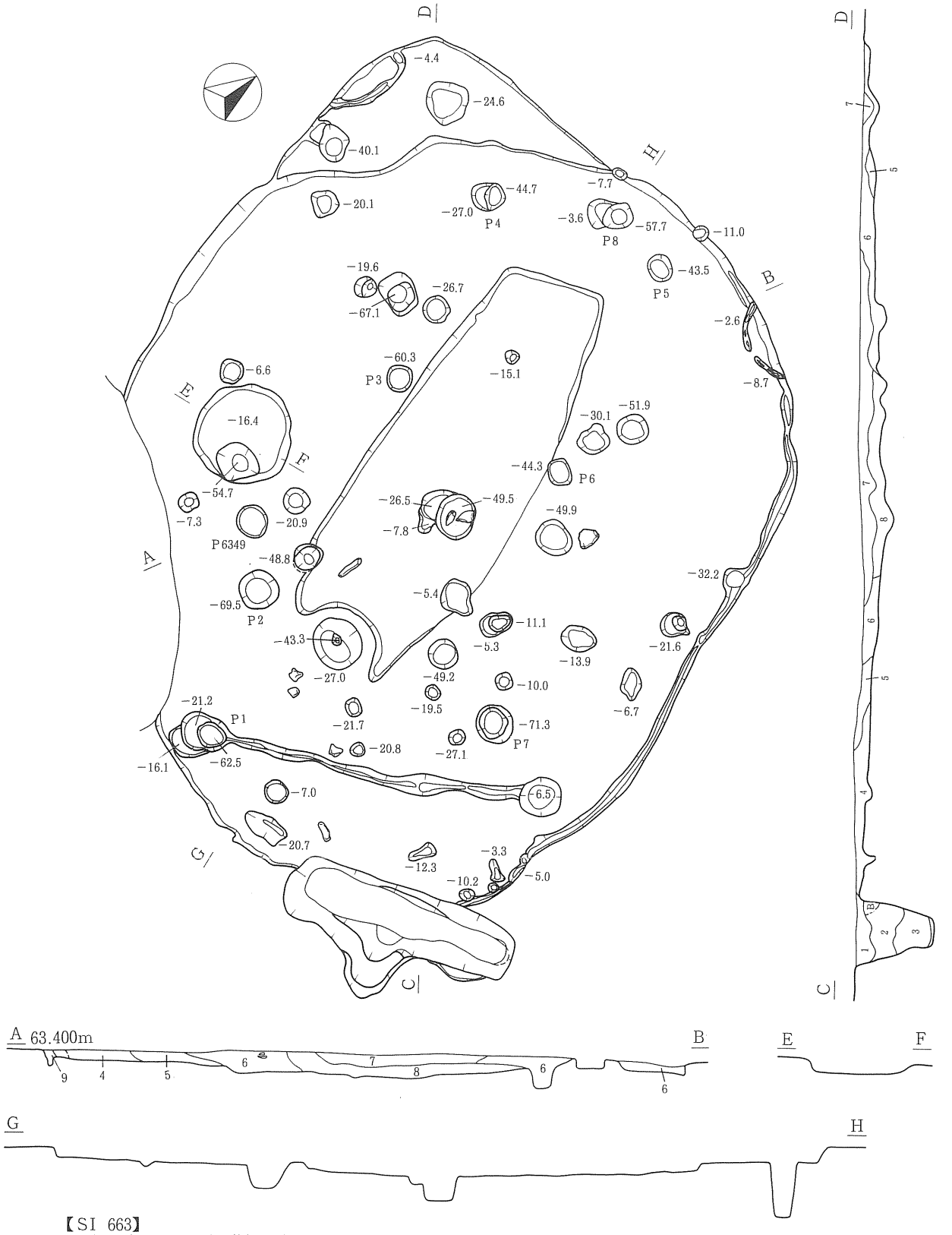
《規　　模》　長径7.90ｍ×短径6.57ｍ、深さ30㎝。

《平 面 形》　一部斜面に崩落しているが、楕円形である。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで30㎝で、外傾しながら立ち上がる。

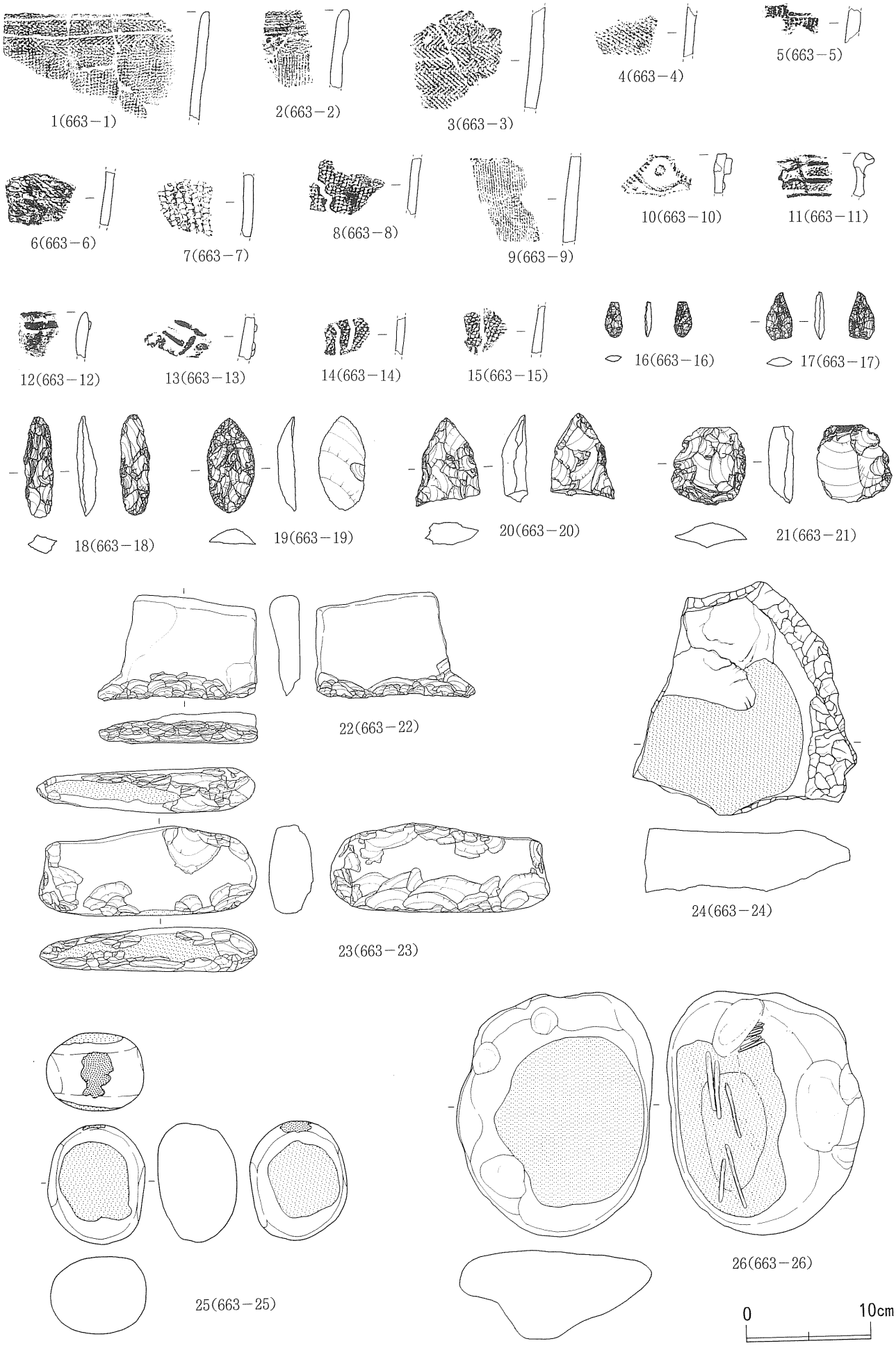
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。中央を長方形に掘り窪めた形態の床面である。



【SI 663】
1　撹乱土。シラス(灰黄褐色土(10Y R6／2)) 混入。軟らかい。
2　撹乱土。シラスブロック(灰黄褐色土(10Y R6／2)) 混入。軟らかい。
3　撹乱土。黒褐色土(10Y R3／2) 軟らかい。
4　にぶい黄褐色(10Y R5／4) 炭化物少量混入。軟らかい。
5　にぶい黄褐色(10Y R4／3) 炭化物少量混入。ややしまりあり。
6　黒褐色(10Y R2／2) 地山粒・炭化物少量混入。ややしまりあり。
7　黒褐色(10Y R3／1) 地山粒・少量混入。軟らかい。
8　暗褐色(10Y R3／3) 地山粒少量混入。軟らかい。
9　褐色(10Y R4／4) 軟らかい。
B　地山ブロック(黄褐色土(10Y R5／6)

0　2 m

第80図　SI 663 竪穴住居跡



第81図　SI 663 竪穴住居跡出土遺物

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１～Ｐ７が主柱穴と思われる。

《壁　溝》　部分的ではあるが２条検出した。

《遺　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１・２）・中期中葉の土器（10～13）、および石鏃（16・17）・石槍（18・19）・掻器（21）・加工痕のある剥片（20）・半円状偏平打製石器（22・23）・石皿（24）・擦り石（25・26）が出土した。

《改　築》　壁溝は２条あるが、南東部の直線状に伸びる溝は改築ではなく、別の施設に伴なう可能性が想定される。したがって改築の可能性は低い。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＩ　667　竪穴住居跡（第82図）

《位　置》　ＭＣ69グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　ＳＩ661竪穴住居跡・ＳＫＦ668フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が最も古い。

《規　模》　確認長で長径2.38ｍ×短径2.06ｍ、深さ35㎝。

《平面形》　一部が斜面に崩落しており、不明である。

《埋　土》　４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで35㎝で、外傾しながら立ち上がる。斜面に崩落している。

《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　穴》　床面に１カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　溝》　なし。

《遺　物》　埋土中から縄文時代前期の土器が出土した。

《改　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　669　竪穴住居跡（第83図）

《位　置》　ＭＣ67、ＭＤ67グリッドに位置する。

《確　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　複》　なし。

《規　模》　確認長で長径2.54ｍ×短径2.17ｍ、深さ８㎝。

《平面形》　攪乱を受けており、詳細は不明である。

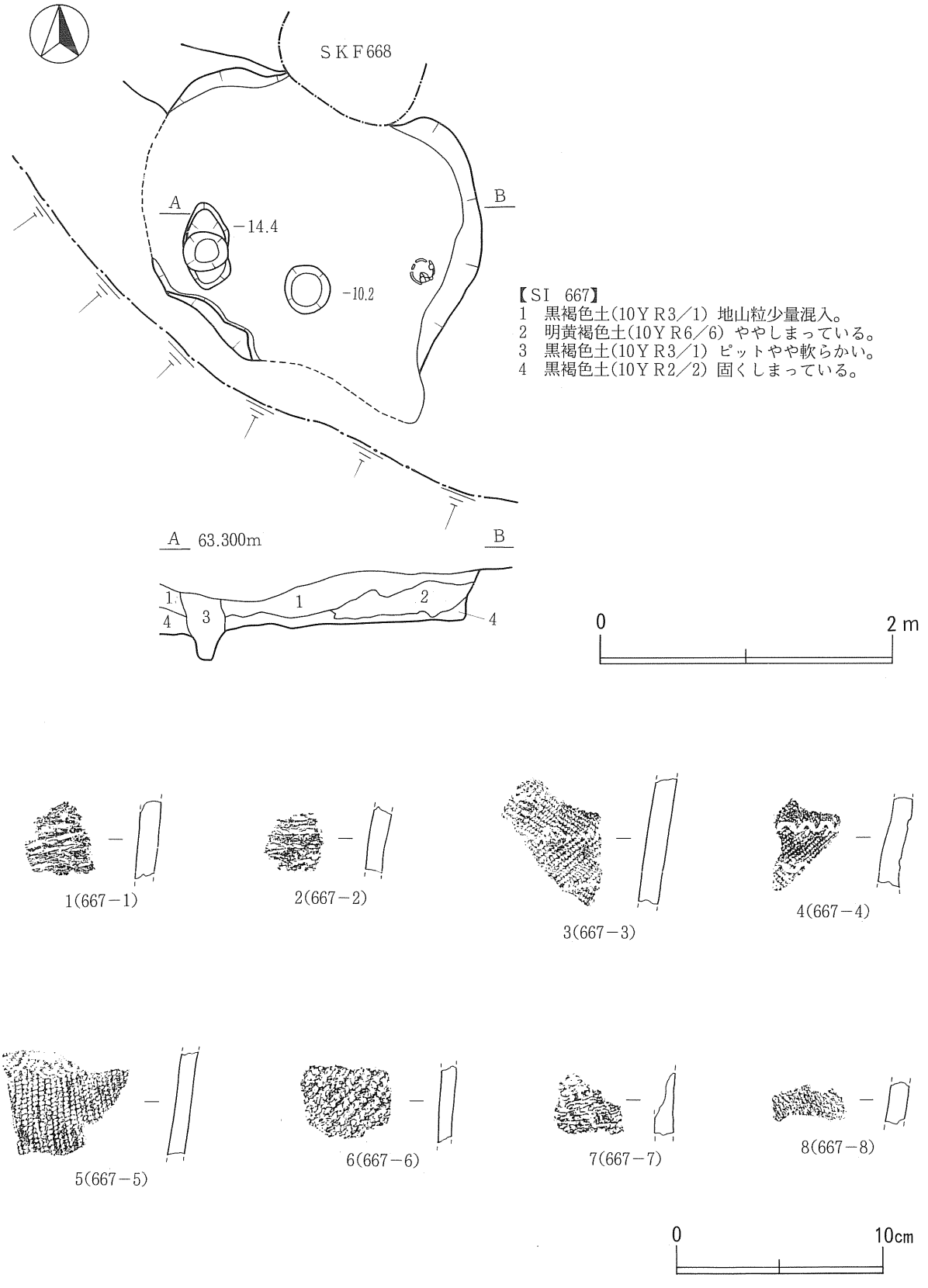
《埋　土》　８層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで８㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　穴》　床面に多数検出したが、攪乱が大きく、主柱穴は不明である。



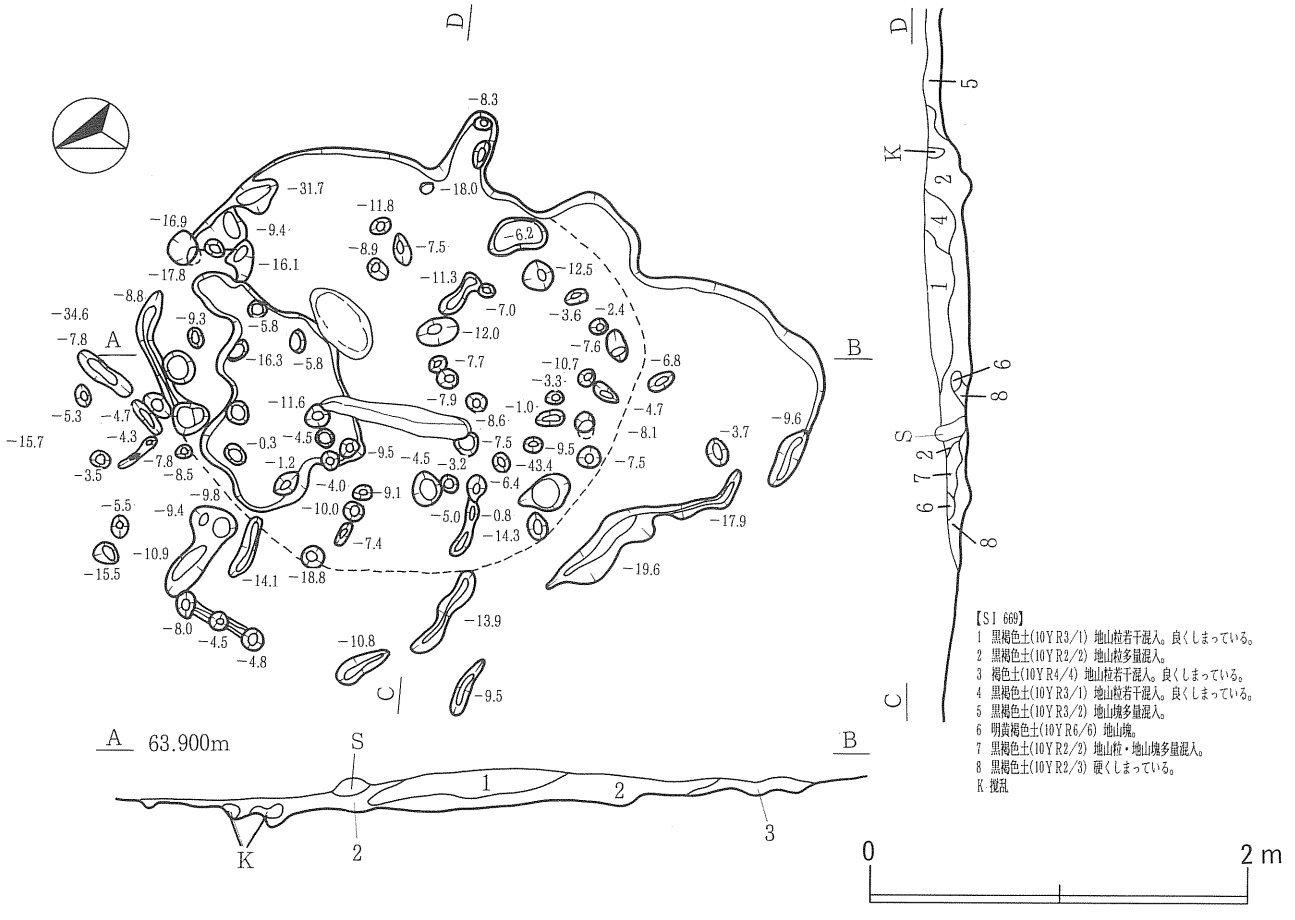
第82図　SI 667 竪穴住居跡とその出土遺物

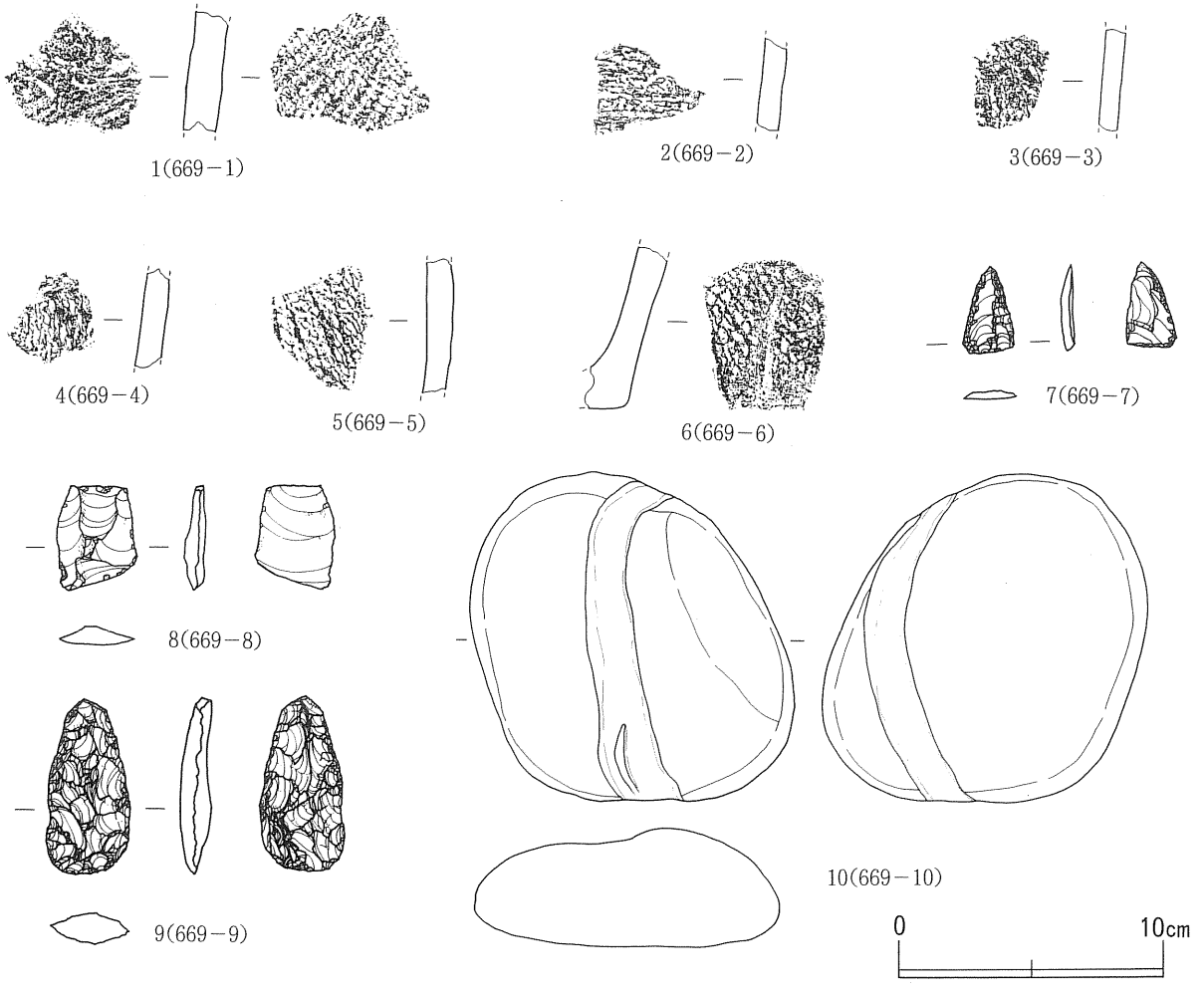
《壁　　溝》　部分的に１条検出した。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文前期の土器（１～６）、石鏃（７）・箆状石器（９）・剥片（８）が出土した。

《改　　築》　不明である。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。





第83図　SI 669 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　670　竪穴住居跡（第84図、図版63）

《位　　置》　ＭＤ67グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。ＳＩ680竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。

《規　　模》　長径2.07ｍ×短径2.02ｍ、深さ13㎝。

《平 面 形》　惰円形である。

《埋　　土》　８層に分層した。人為的堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで13㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に17カ所検出したが、中央のＰ１が主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（３）・前期後葉の土器（１・２・６）、半円状偏平打製石器（８）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　673　竪穴住居跡（第85図）

《位　　置》　ＭＤ66・67グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.35ｍ×短径2.12ｍ、深さ８㎝。

《平 面 形》　斜面に対し一部崩落しており、不明である。

《埋　　土》　埋土はほとんど検出できなかった。

《　壁　》　最も深いところで８㎝で、外傾しながら立ち上がる。東側は斜面に崩落している。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。中央東側の部分に土坑状の施設を検出した。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、前記の掘り込みは炉の可能性がある。

《柱　　穴》　床面に13カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　遺物は出土しなかった。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかった。

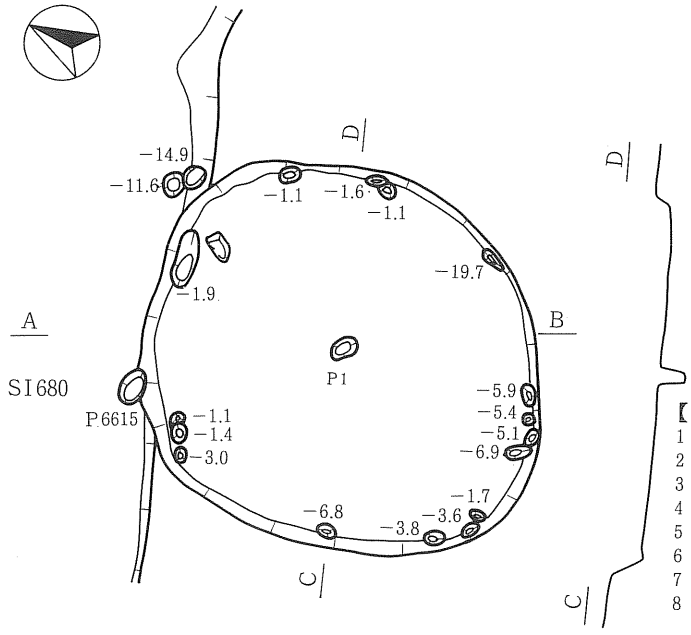
ＳＩ　674　竪穴住居跡（第85図、図版63）

《位　　置》　ＭＤ68･69、ＭＥ68･69グリッドに位置する。

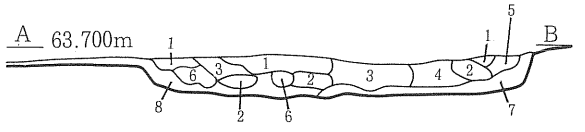
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

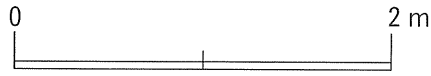
《重　　複》　ＳＩ744竪穴住居跡・ＳＫＦ732・733フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は不明である。

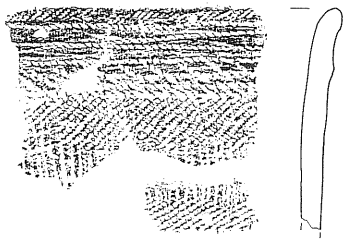
《規　　模》　長径3.45ｍ×短径2.85ｍ、深さ30㎝。



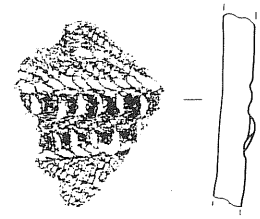
【SI 670】
1　黒褐色土(10YR3／1) 地山粘質土粒若干混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4／3) 明黄褐色地山粒を多量に混入。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒・地山ブロック混入。
4　黒褐色土(10YR3／2) 軟質。地山粒少量混入。
5　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒・地山ブロック混入。
6　明黄褐色土(10YR6／6) 地山ブロック。
7　黒褐色土(10YR2／3) やや粘質。
8　暗褐色土(10YR3／3) 軟質。(SI744・SI675の4番と同じ)

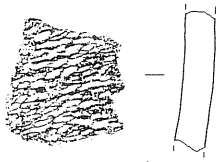


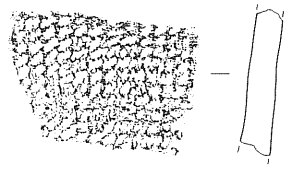



1(670−1)

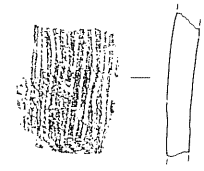
2(670−2)

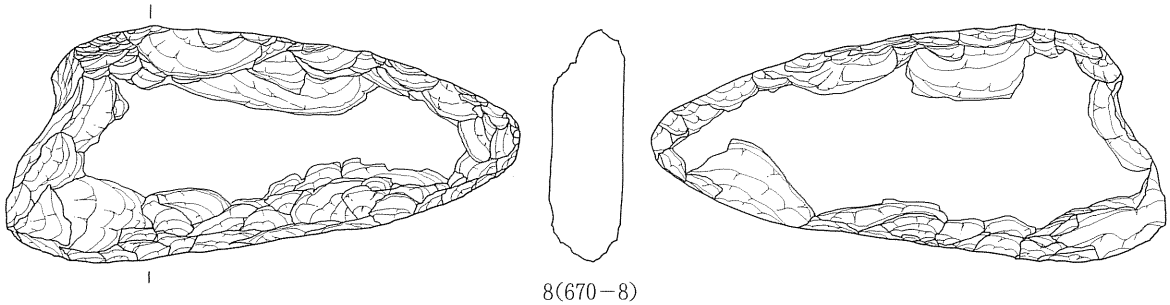

3(670−3)

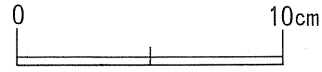

4(670−4)


5(670−5)

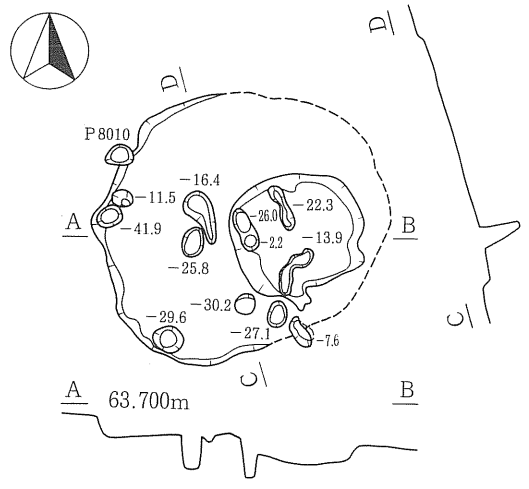
6(670−6)


7(670−7)

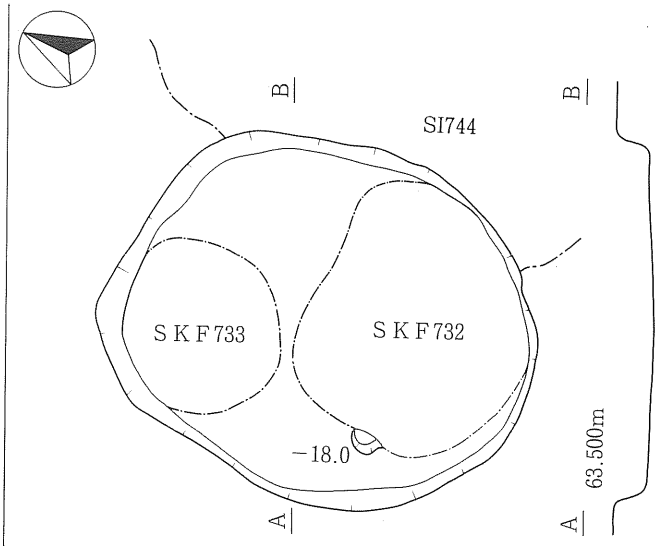

8(670−8)



第84図　SI 670 竪穴住居跡とその出土遺物

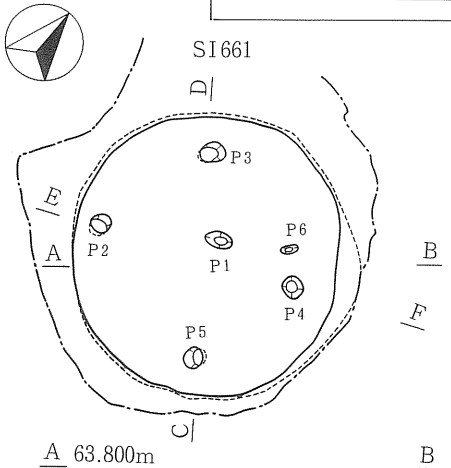


SI673

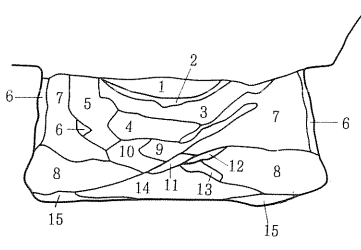


SI674

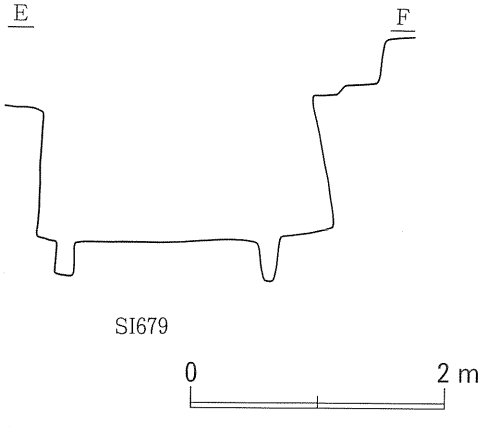
0　2m



SI679

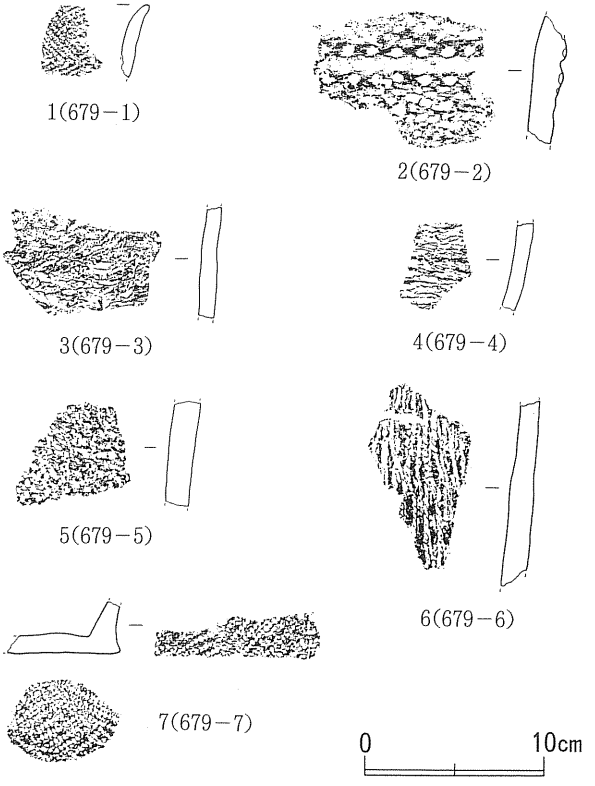


【SI 679】
1　暗褐色土(10YR4/4) 地山シラス混入。良くしまっている。
2　黒色土(10YR1.7/1) と黄褐色地山(10YR5/6) の細かい互層。非常に硬くしまっている。(SI661の貼床)
3　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒・地山塊多量混入。炭化物若干混入。
4　褐色土(10YR4/6) 地山粒・地山塊多量混入。
5　褐色土シラス(10YR4/4) シラス塊多量混入。
6　にぶい黄橙色土(10YR7/4) 非常に軟らかい。シラス。
7　にぶい黄橙色土(10YR7/4) やや硬くしまっている。シラス。
8　にぶい黄橙色土(10YR6/3) 非常に硬くしまっている。シラス。
9　4に同じ。やや軟らかい。
10　明黄褐色土(10YR5/4) やや軟らかい。シラス。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3) 軟らかい。シラス。
12　褐色土(10YR4/4) 非常に軟らかい。シラス。
13　褐色土(10YR4/4) 7と14が細かい互層となっている。シラス。
14　暗褐色土(10YR3/3) 炭化物若干混入。やや軟らかい。シラス。
15　掘りすぎ



SI679

0　2m



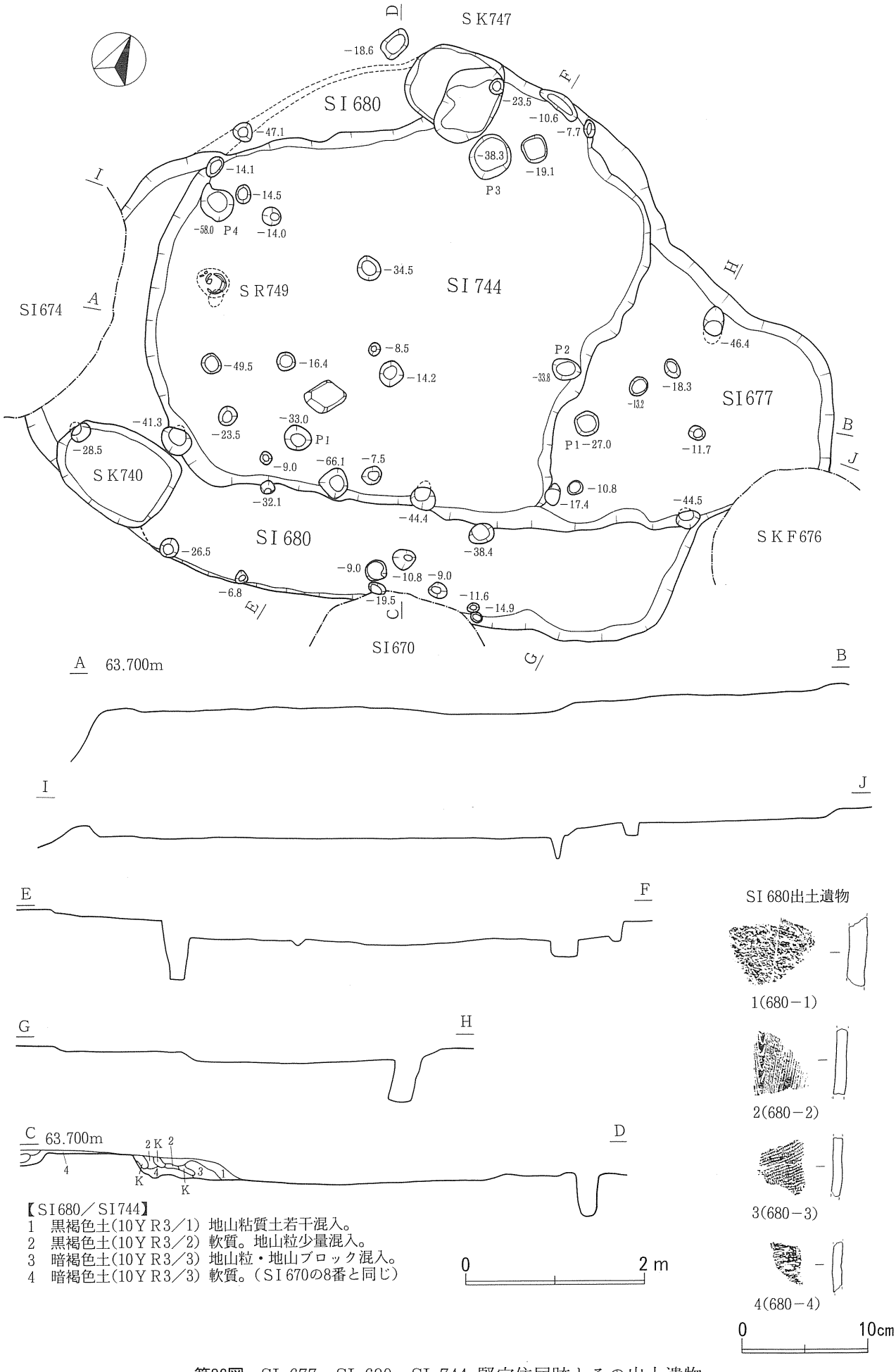
0　10cm

第85図　SI 673・SI 674・SI 679 竪穴住居跡とその出土遺物

《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　表土除去の際に掘りすぎたため、埋土の確認は不可能であった。
《　壁　》　最も深いところで30㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床部分もみられる。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　なし。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　677　竪穴住居跡（第86図）
《位　　置》　ＭＥ66･67グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ680・740竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　確認長で長径2.80ｍ×短径2.80ｍ、深さ12㎝。
《平 面 形》　重複のため、不明である。
《埋　　土》　削平および重複のため、埋土はほとんど確認できなかった。
《　壁　》　最も深いところで12㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　全容は不明であるが、やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　不明である。
《柱　　穴》　床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　679　竪穴住居跡（第85図）
《位　　置》　ＭＣ68グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ661竪穴住居跡と重複する。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。
《規　　模》　長径2.15ｍ×短径2.05ｍ、深さ115㎝。
《平 面 形》　略円形である。
《埋　　土》　14層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで115㎝で、内傾しながら立ち上がる。重複のため、上部は削平されている。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に６カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ５が主柱穴と思われる。



第86図　SI 677・SI 680・SI 744 竪穴住居跡とその出土遺物

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１・２）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＩ　680　竪穴住居跡（第86図）

《位　　置》　ＭＤ67･68、ＭＥ67･68･69、ＭＦ67･68グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ674・677竪穴住居跡・ＳＫ740土坑と重複している。新旧関係は不明である。

《規　　模》　確認長で長径7.20ｍ×短径4.00ｍ、深さ８㎝。

《平 面 形》　重複しているため不明。

《埋　　土》　削平のため、埋土は確認できなかった。

《　壁　》　最も深いところで８㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　全容は不明であるが、やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　不明である。

《柱　　穴》　床面に12カ所検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期の土器（１～４）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　690　竪穴住居跡（第87図・第88図）

《位　　置》　ＭＨ75･76、ＭＩ75･76グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径6.40ｍ×短径4.45ｍ、深さ25㎝。

《平 面 形》　斜面に一部崩落しているため、不明である。

《埋　　土》　８層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで25㎝で、ほぼ直立する。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。東辺に入口様の施設が検出した。

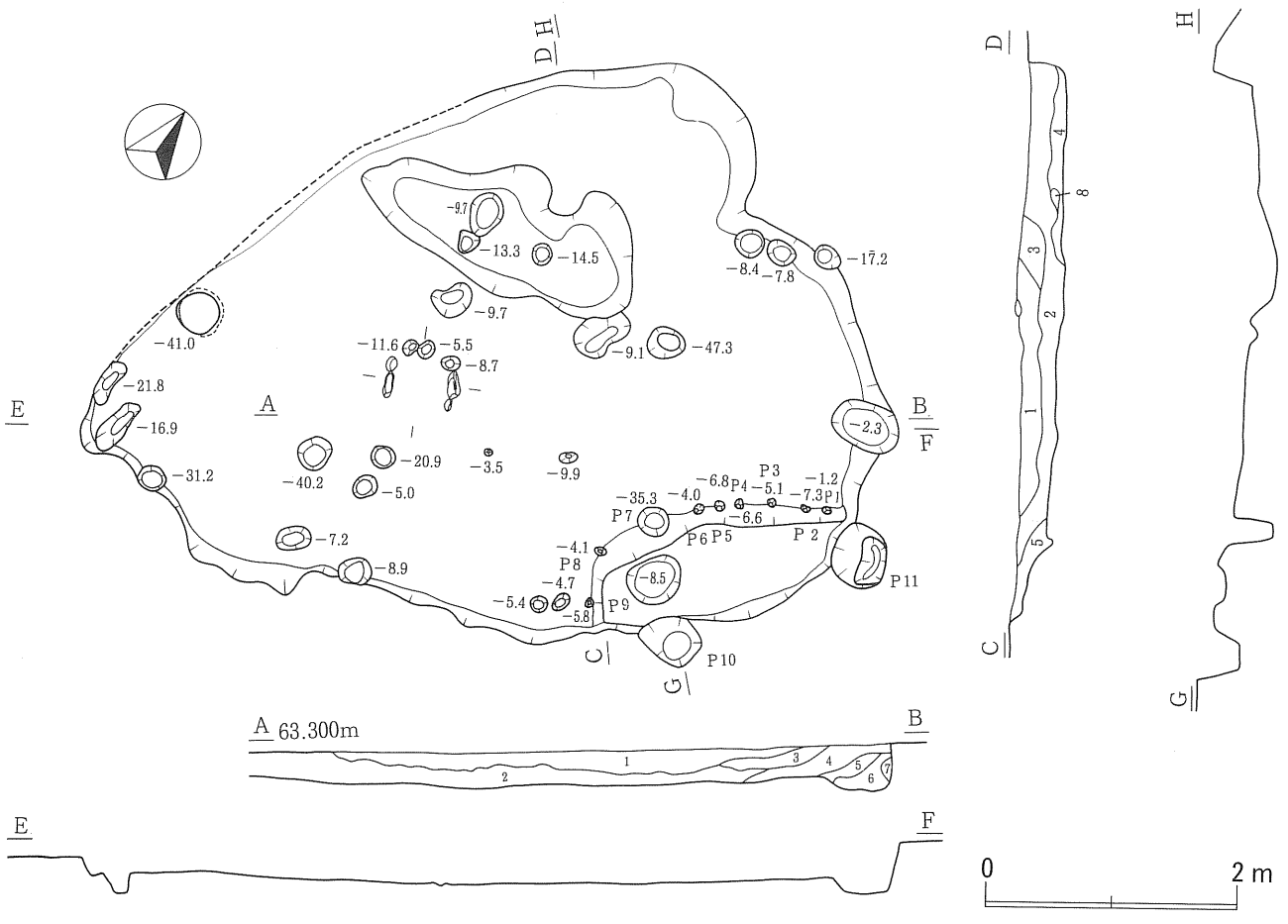
《　炉　》　中央南側で石囲炉を検出した。部分的に礫が抜き取られている。

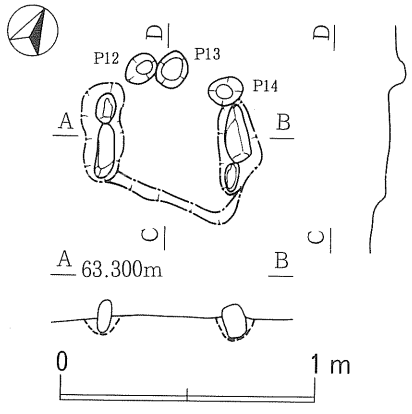
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ１～Ｐ11は入口様の施設に関連するピット、Ｐ12～Ｐ14は石囲炉の炉石の抜き取り痕と考えられる。

《壁　　溝》　なし。

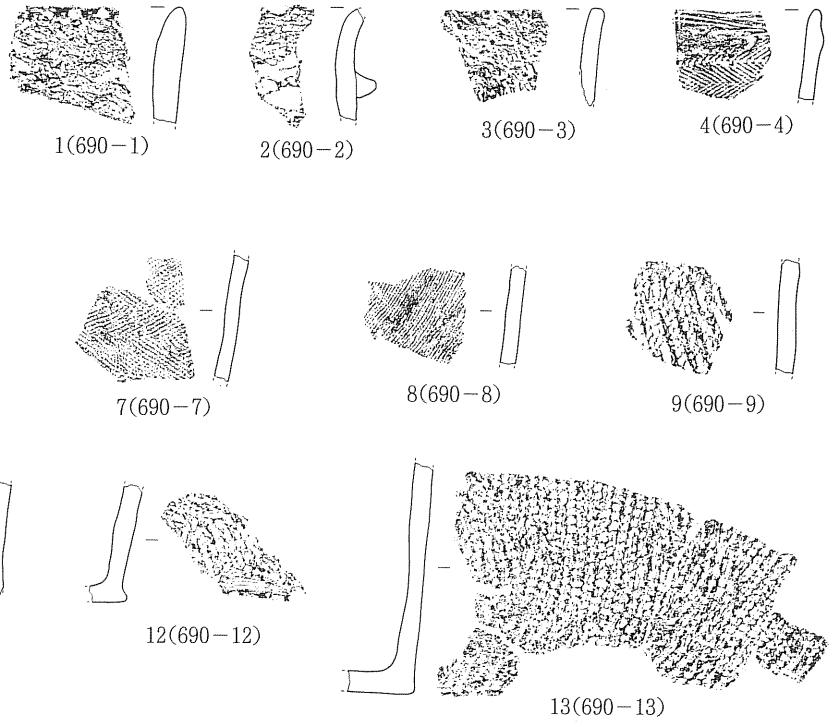
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１～３）・前期後葉の土器（４・５）、および石槍（14）・石錘（15・16）・削器（17）・加工痕のある剥片（18～26）・剥片（27）・欠損した棒状石製品（28）が出土している。

《改　　築》　なし。

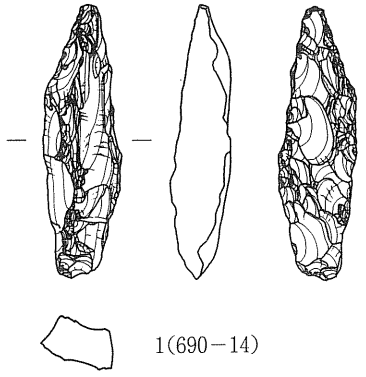


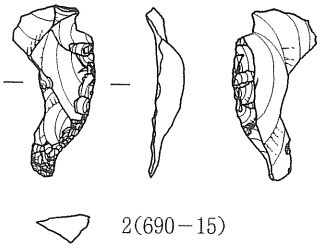


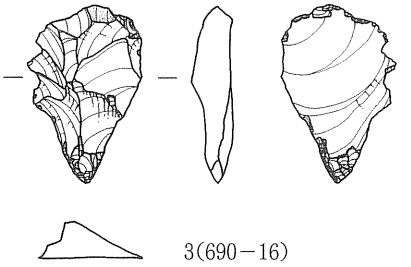
【SI 690】
1　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 地山粒少量混入。
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 地山粒・地山塊多量混入。硬くしまっている。
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒・炭化物粒少量混入。
4　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／2) 暗褐色(10Ｙ Ｒ3／4) 地山粒・焼土粒多量混入。
5　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／3) 地山粒少量混入。
6　黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6) 地山粒・地山塊多量混入。
7　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 軟らかく、しまりなし。
8　黄褐色土(10Ｙ Ｒ5／6) 地山塊。

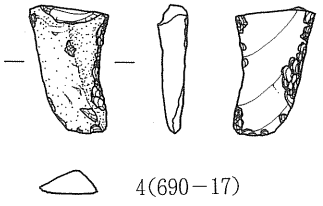


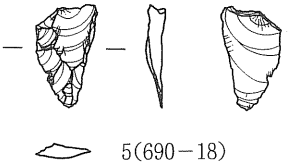
第87図　SI 690 竪穴住居跡とその出土遺物（１）

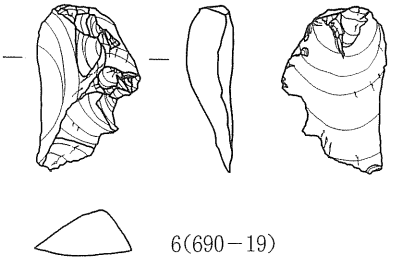

1(690－14)

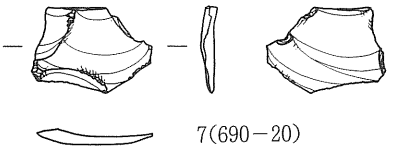

2(690－15)

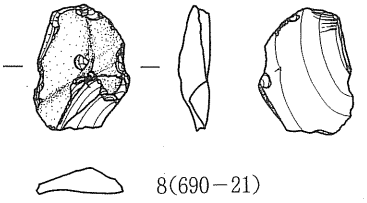

3(690－16)

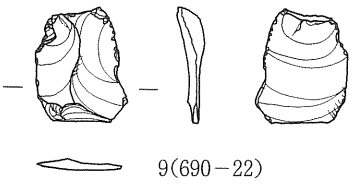

4(690－17)

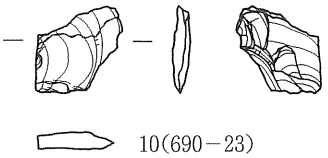

5(690－18)

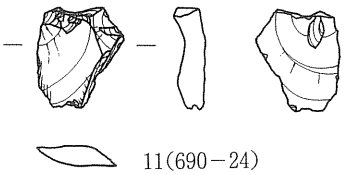

6(690－19)

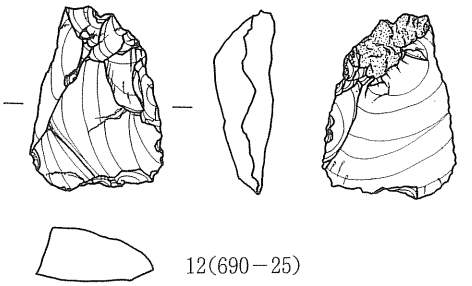

7(690－20)

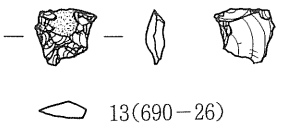

8(690－21)

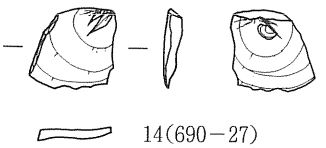

9(690－22)

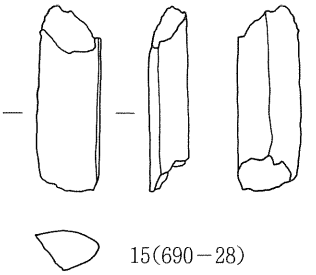

10(690－23)

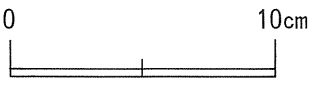

11(690－24)


12(690－25)


13(690－26)


14(690－27)


15(690－28)



第88図　SI 690 竪穴住居跡出土遺物（２）

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　719　竪穴住居跡（第89図）

《位　　置》　ＭＴ64･65、ＮＡ64･65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＩ720竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。

《規　　模》　長径3.99ｍ×短径3.25ｍ、深さ50㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　８層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで50㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。重複のため、一部削平されている。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　なし。

《壁　　溝》　壁より内側に１条巡る。壁溝の伴なわない外側のプランが新しい時期のものである。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１）、半円状偏平打製石器（９）が出土した。

《改　　築》　内側に１条巡っていることから１回の改築が想定される。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＩ　728　竪穴住居跡（第89図）

《位　　置》　ＭＩ75、ＭＪ75グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　確認長で長径4.20ｍ×短径2.10ｍ、深さ65㎝。

《平 面 形》　斜面に崩落しているため、不明である。

《埋　　土》　８層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで65㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　北側の斜面に向かい、緩やかに傾斜している。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に多数検出したが、主柱穴は不明である。

《壁　　溝》　なし。

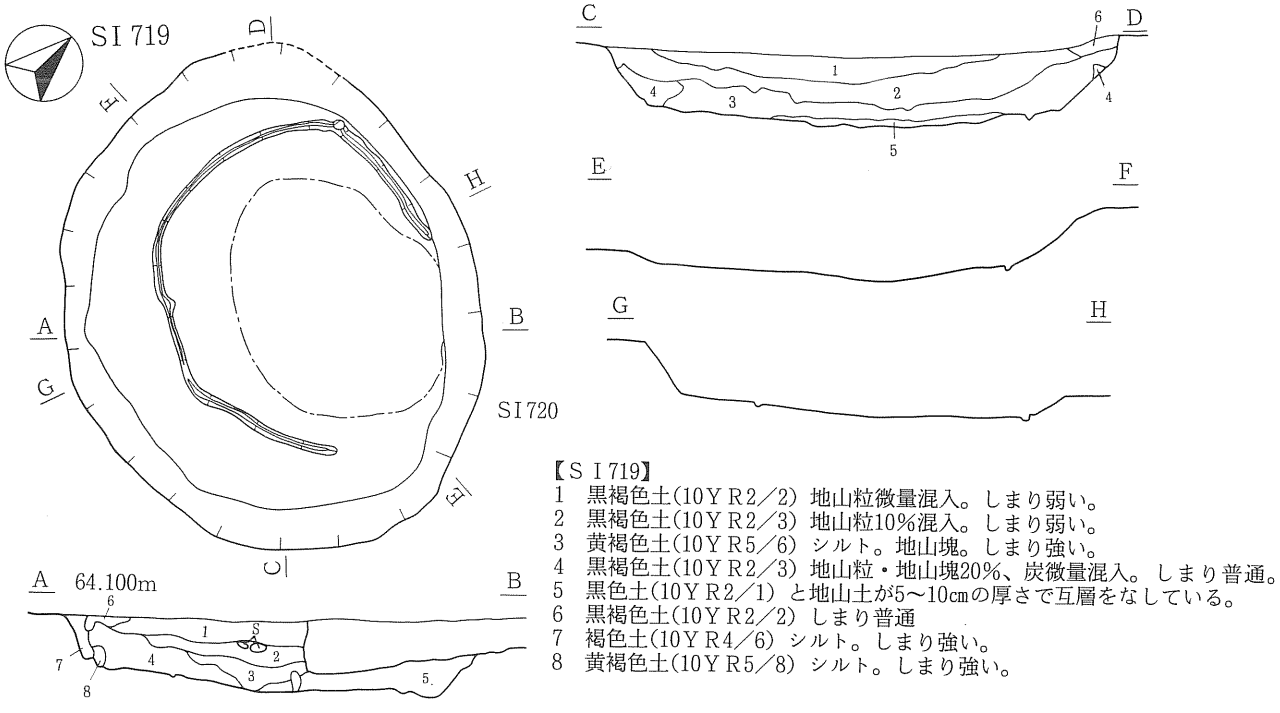
《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期中葉の土器（１）が出土した。

《改　　築》　なし。

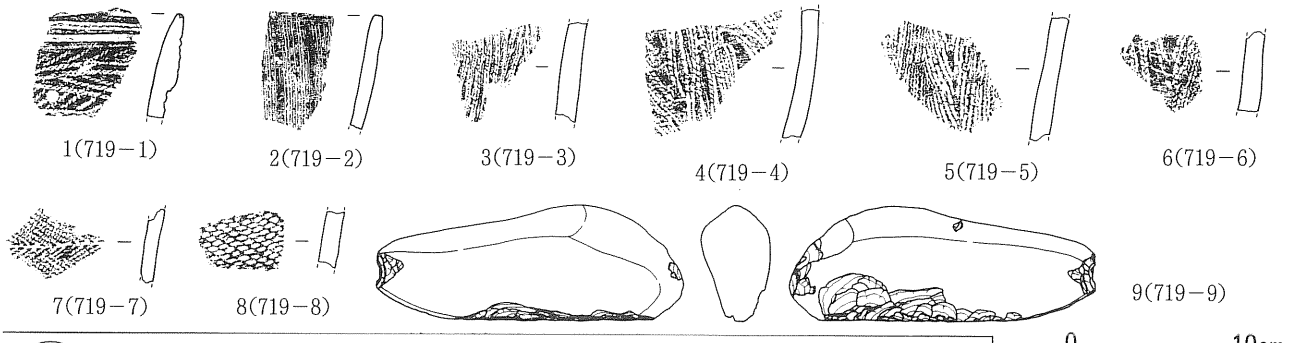
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

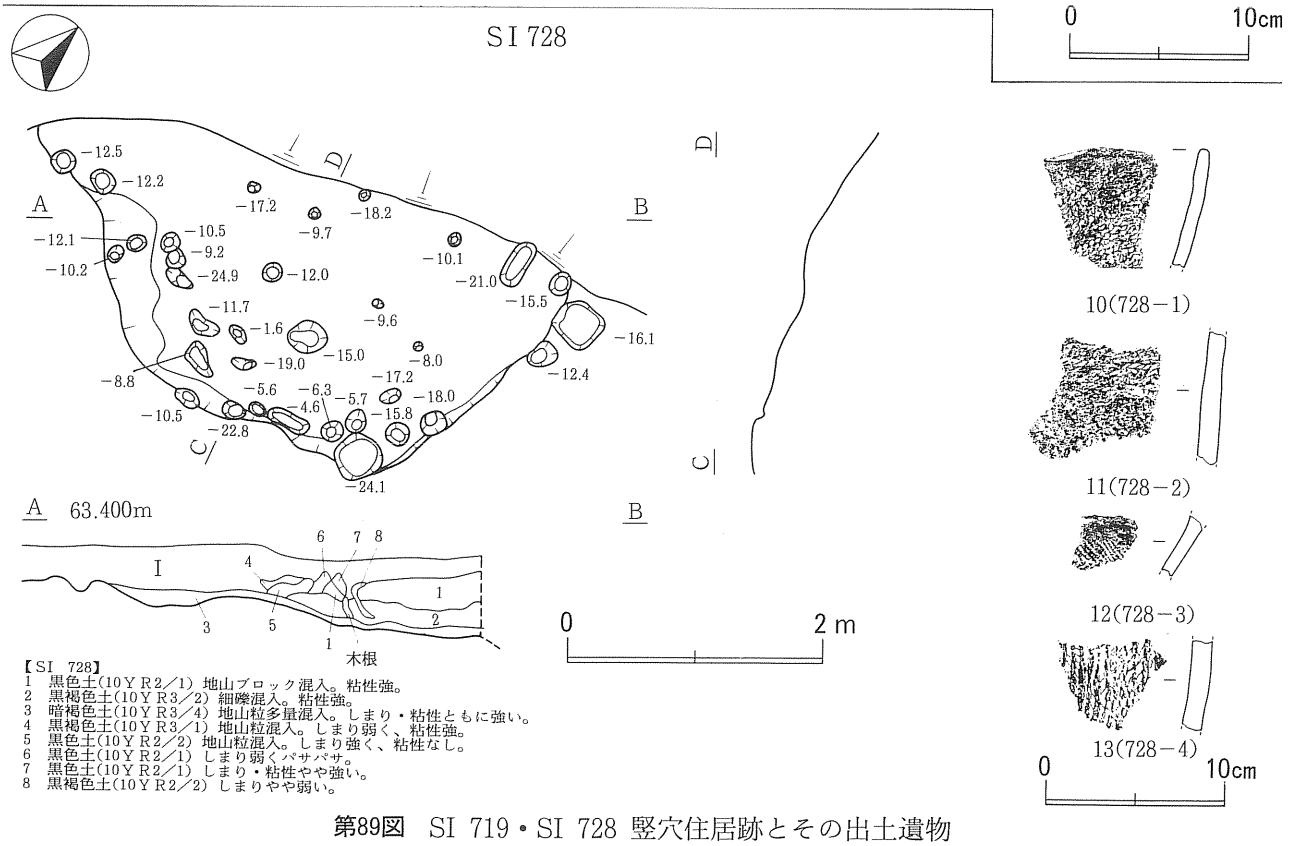
ＳＩ　729　竪穴住居跡（第90図）

《位　　置》　ＭＪ74･75グリッドに位置する。



【S I719】
1　黒褐色土(10Y R2／2) 地山粒微量混入。しまり弱い。
2　黒褐色土(10Y R2／3) 地山粒10%混入。しまり弱い。
3　黄褐色土(10Y R5／6) シルト。地山塊。しまり強い。
4　黒褐色土(10Y R2／3) 地山粒・地山塊20%、炭微量混入。しまり普通。
5　黒色土(10Y R2／1) と地山土が5～10cmの厚さで互層をなしている。
6　黒褐色土(10Y R2／2) しまり普通
7　褐色土(10Y R4／6) シルト。しまり強い。
8　黄褐色土(10Y R5／8) シルト。しまり強い。





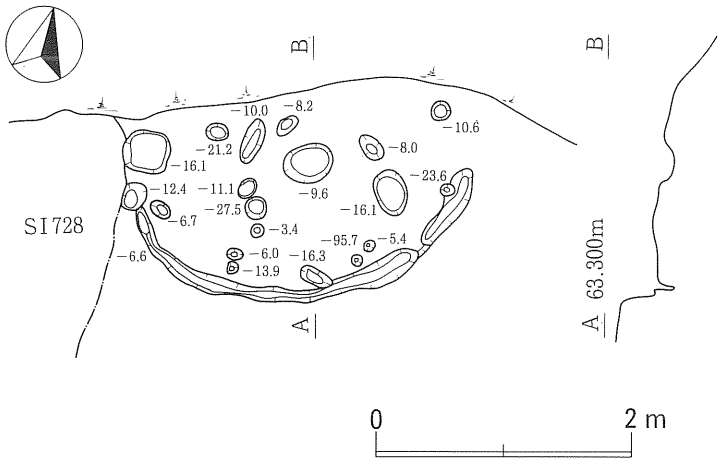
【SI 728】
1　黒色土(10Y R2／1) 地山ブロック混入。粘性強。
2　黒褐色土(10Y R3／2) 細礫混入。粘性強。
3　暗褐色土(10Y R3／4) 地山粒多量混入。しまり・粘性ともに強い。
4　黒褐色土(10Y R3／1) 地山粒混入。しまり弱く、粘性強。
5　黒色土(10Y R2／2) 地山粒混入。しまり強く、粘性なし。
6　黒色土(10Y R2／1) しまり弱くパサパサ。
7　黒色土(10Y R2／1) しまり・粘性やや強い。
8　黒褐色土(10Y R2／2) しまりやや弱い。

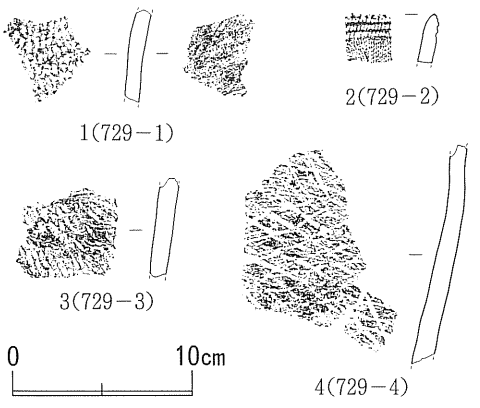
第89図　SI 719・SI 728 竪穴住居跡とその出土遺物

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　確認長で長径2.70ｍ×短径1.65ｍ、深さ30㎝。
《平 面 形》　斜面に一部崩落しているため、不明である。
《埋　　土》　斜面に崩落していたため、埋土はほとんど確認できなかった。
《　壁　》　最も深いところで30㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。
《柱　　穴》　床面に18カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　壁に沿って、部分的だが１条巡る。
《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期中葉の土器（１）・前期後葉の土器（２）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　730　竪穴住居跡（第90図）
《位　　置》　ＭＪ72、ＭＫ72グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ731竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　長径4.10ｍ×短径3.50ｍ、深さ40㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　10層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで40㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　なし。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期の土器（５～７）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

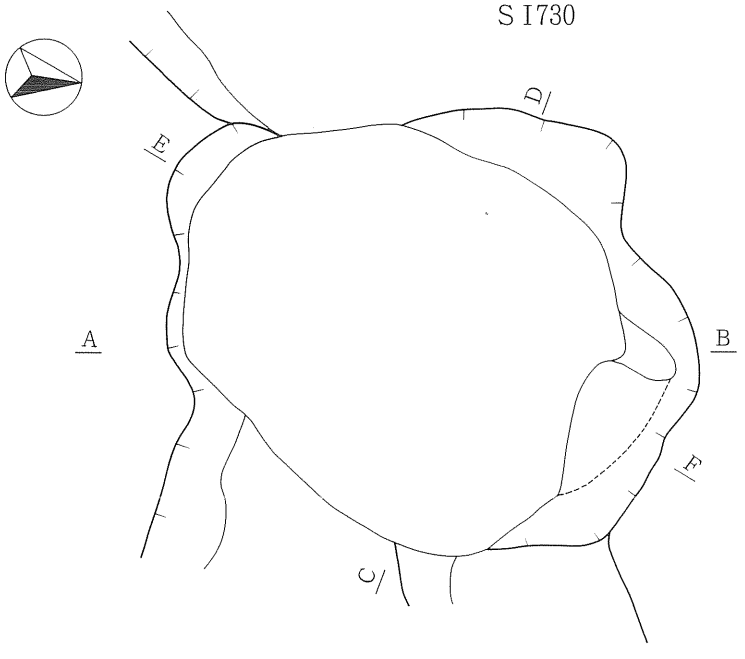
ＳＩ　731　竪穴住居跡（第91図）
《位　　置》　ＭＪ71・72、ＭＫ71・72、ＭＬ71グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ730竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　確認長で長径5.50ｍ×短径5.20ｍ、深さ25㎝。
《平 面 形》　木根により著しい攪乱を受けており、不整形である。
《埋　　土》　13層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　最も深いところで25㎝で、緩やかに外傾しながら立ち上がるが、重複のため、削平されている。

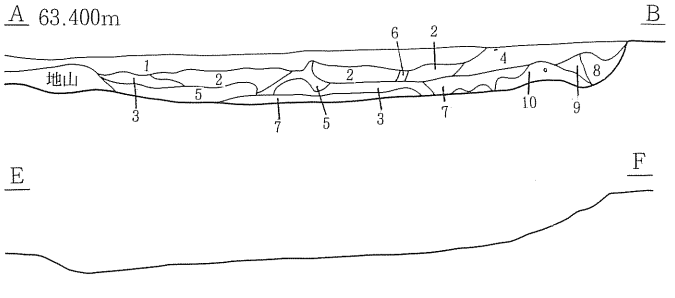




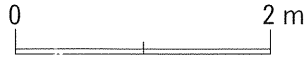
SI729

SI730





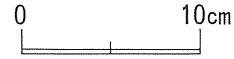
【SI 730】
1　黒色土(10YR2/1) 細礫混入。しまりやや弱く、粘性強い。
2　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒混入。3よりはしまり弱く、粘性強い。
3　黒褐色土(10YR2/3) 地山粒混入。しまり・粘性共強い。
4　暗褐色土(10YR3/3) 地山粒多量混入。
5　褐色土(10YR4/6) 地山粒多量混入。しまり弱い。
6・黒褐色土(10YR3/2) 地山粒混入。しまり強い。
7　にぶい黄褐色土(10YR5/4) しまりやや強く、粘性なし。
8　黄褐色土(10YR5/6) 地山粒多量混入。しまりやや強い。
9　褐色土(10YR4/4) 炭化物微量混入。しまりやや弱い。
10　にぶい黄褐色土(10YR5/4) 炭化物微量混入。しまりやや強い。



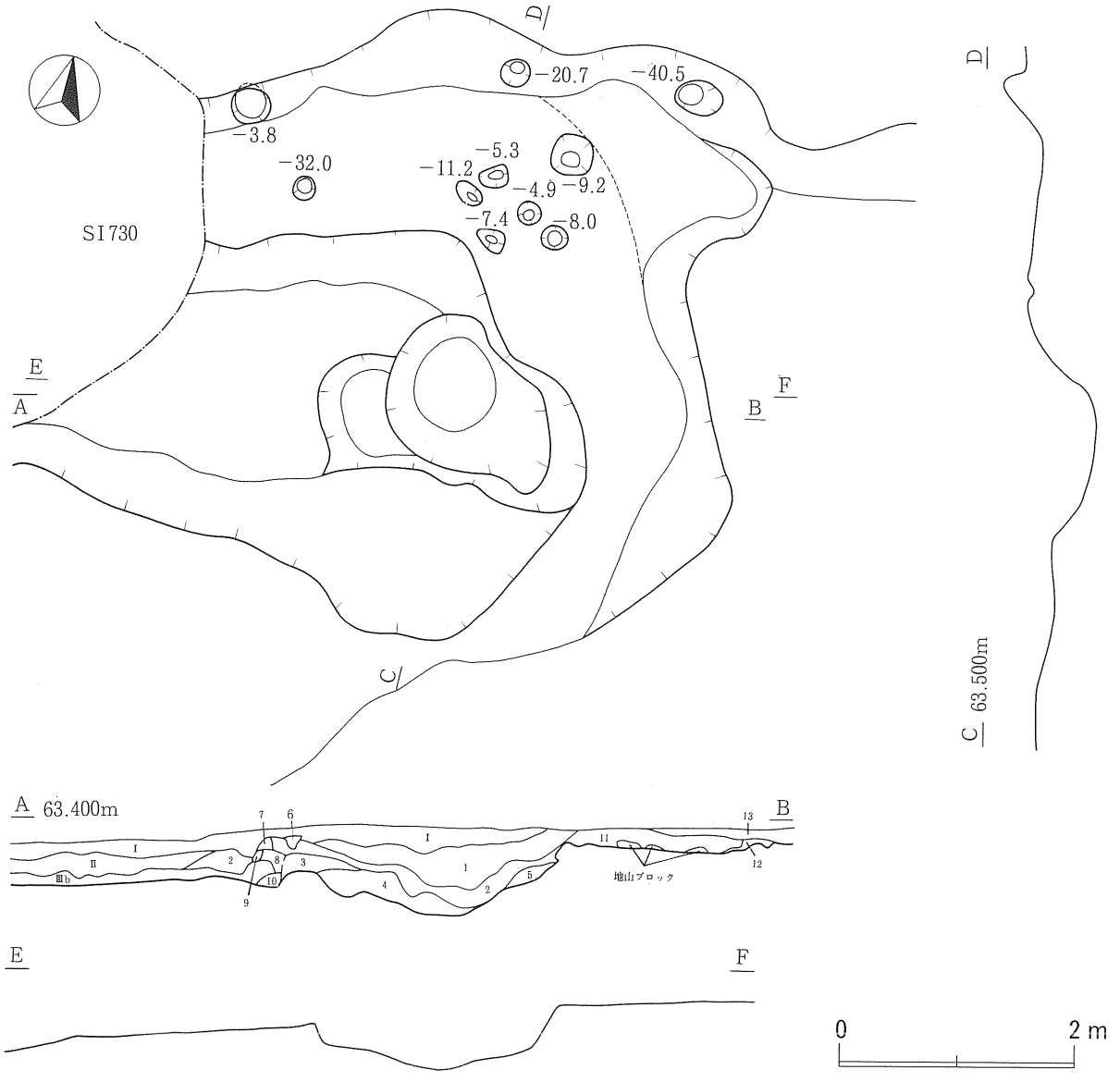
5(730−1)

6(730−2)

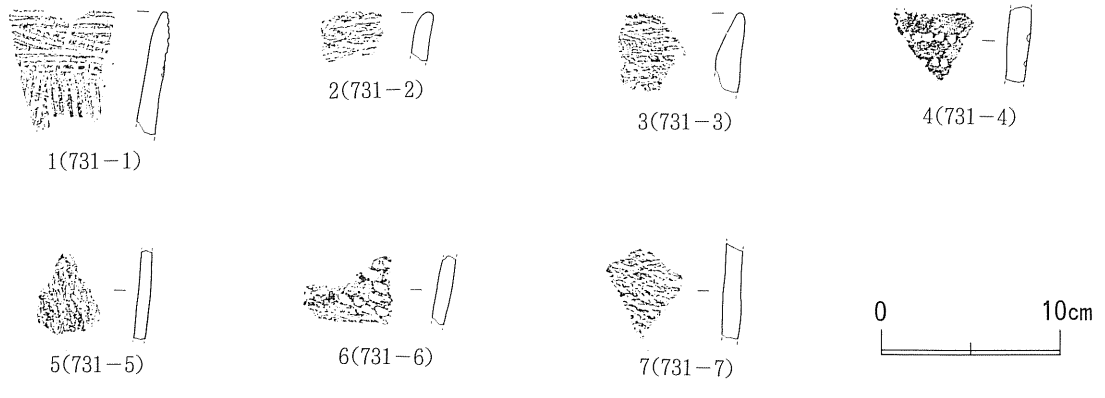
7(730−3)



第90図　SI 729・SI 730 竪穴住居跡とその出土遺物



【SI 731】
1　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 地山粒混入。しまりやや強く、粘性強い。
2　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山粒多量混入。
3　にぶい黄褐色土(10ＹＲ5／4) しまりやや強く、粘性有り。
4　明黄褐色土(10ＹＲ6／8) 細砂・炭化物混入。
5　にぶい黄褐色土(10ＹＲ6／4) 炭化物混入。しまり弱く、粘性なし。
6　黒褐色土(10ＹＲ3／1) 地山粒混入。しまり悪く、パサパサ。
7　6に同じ
8　黒褐色土(10ＹＲ2／2) 炭化物微量混入。粘性やや有り。
9　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山粒多量混入。しまり弱く、粘性やや有り。
10　褐色土(10ＹＲ4／4) 地山粒多量混入。しまり非常にゆるい。
11　暗褐色土(10ＹＲ3／4) 地山ブロック多量混入。しまり強く、粘性なし。
12　暗褐色土(10ＹＲ3／3) 地山ブロック・炭化物微量混入。しまりやや強い。
13　暗褐色土(10ＹＲ3／1) 地山粒混入。しまり非常にゆるい。

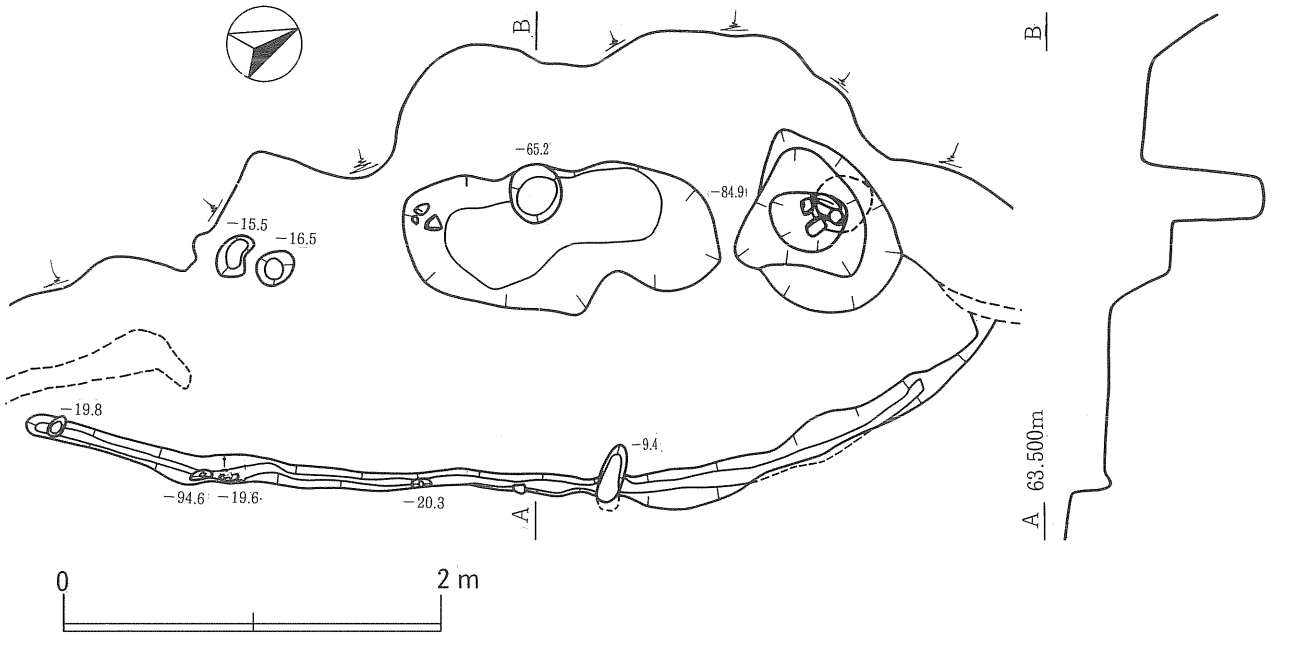


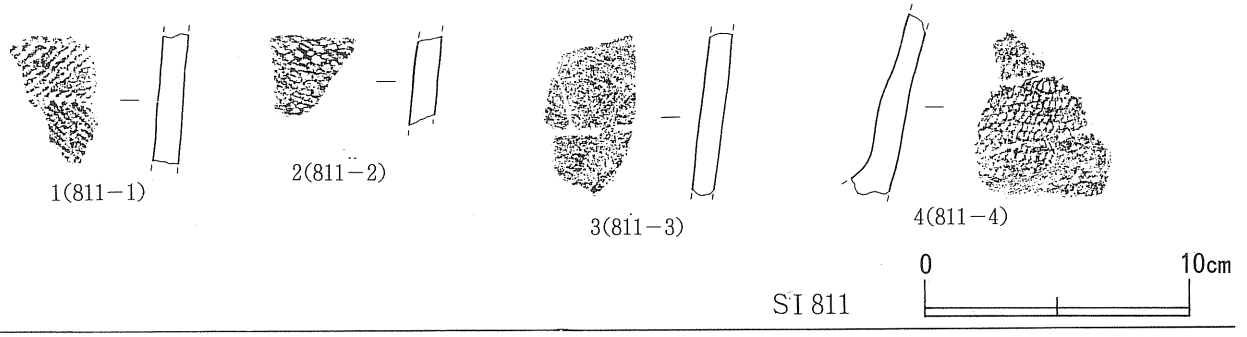
第91図　SI 731 竪穴住居跡とその出土遺物

《床　　面》　凹凸している。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に７カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（３・４）・前期後葉の土器（１・２）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　744　竪穴住居跡（第86図）
《位　　置》　ＭＥ67･68、ＭＦ67･68グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ677・680竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　確認長で長径5.90ｍ×短径4.80ｍ、深さ30㎝。
《平 面 形》　重複しているため、不明である。
《埋　　土》　埋土は残りが悪く、４層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　最も深いところで30㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に18カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ４が主柱穴と思われる。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

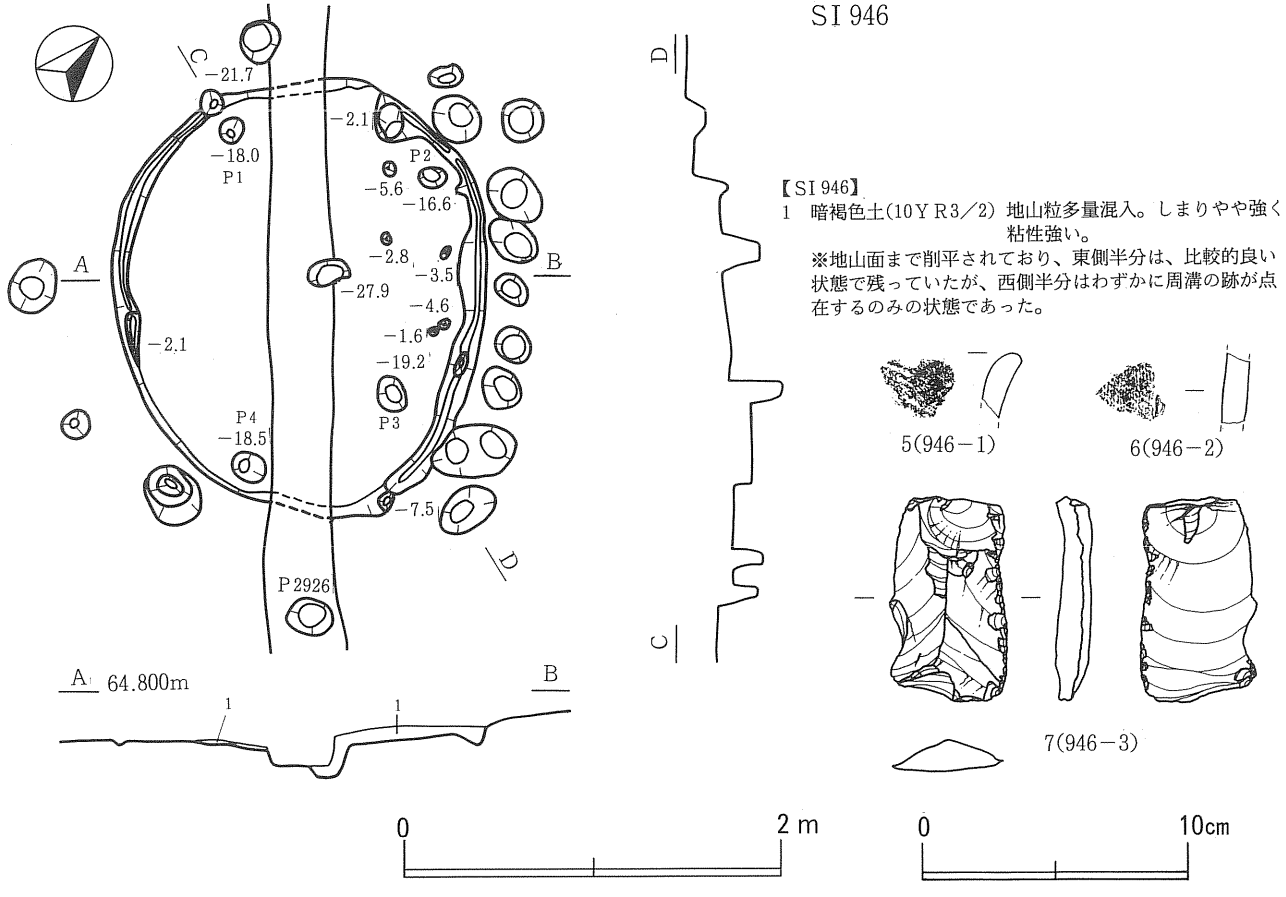
ＳＩ　811　竪穴住居跡（第92図）
《位　　置》　ＭＪ60、ＭＫ60グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　確認長で長径5.16ｍ×短径2.50ｍ、深さ22㎝。
《平 面 形》　斜面に大半が崩落しているため、不明である。
《埋　　土》　崩落のため、埋土はほとんど残存していなかった。
《　壁　》　最も深いところで22㎝で、ほぼ直立する。
《床　　面》　全容は不明であるが、やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。中央東側に土坑様のピットを検出している。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に４カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　壁に沿って１条検出した。





SI 811

SI 946



【SI 946】
1　暗褐色土(10YR3／2)　地山粒多量混入。しまりやや強く、粘性強い。
※地山面まで削平されており、東側半分は、比較的良い状態で残っていたが、西側半分はわずかに周溝の跡が点在するのみの状態であった。

第92図　SI 811・SI 946 竪穴住居跡とその出土遺物

《遺　　物》　埋土中から縄文時代前期の土器（１～４）を出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　946　竪穴住居跡（第92図、図版64）

《位　　置》　ＮＨ52・ＮＩ51・52グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径2.30ｍ×短径1.98ｍ、深さ16㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《埋　　土》　削平により、埋土は１層のみ確認できた。

《　壁　》　最も深いところで16㎝で、外傾しながら立ち上がる。西半はほとんど残存していない。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

《柱　　穴》　床面に10カ所検出したが、Ｐ１～Ｐ４主柱穴と思われる。

《壁　　溝》　壁に沿って１条巡る。

《遺　　物》　埋土中から縄文前期の土器（５・６）、削器（７）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　958　竪穴住居跡（第93図・第94図、図版64・図版65）

《位　　置》　ＭＴ48・49、ＮＡ48・49グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＳ1005土壙墓と重複している。新旧関係は不明である。

《規　　模》　長径4.65ｍ×短径3.56ｍ、深さ28㎝。

《平 面 形》　不整形である。南東辺に接して入口様の施設が設けられている。

《埋　　土》　13層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで28㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　風倒木根により、著しく凹凸している。貼床部分もみられる。

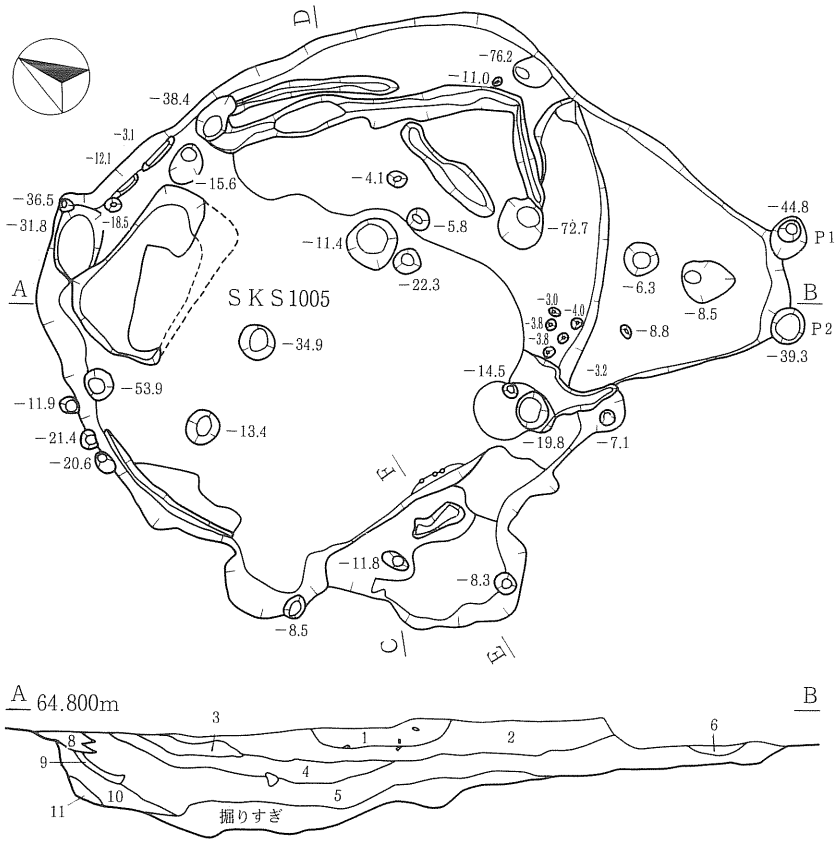
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。

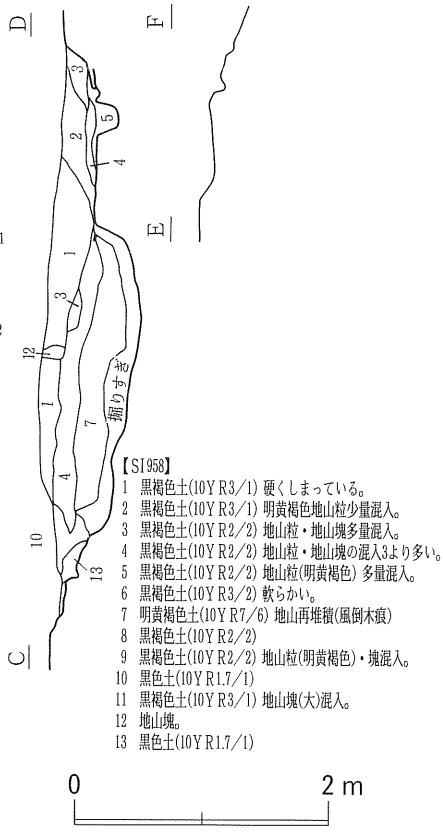
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、主柱穴は不明である。入口様の張り出し部分にＰ１・Ｐ２があり、この施設に伴なうものと考えられる。

《壁　　溝》　壁の内側に部分的に走る溝が検出したが、貼床を施されており、本竪穴住居跡に関連するかどうかは不明である。

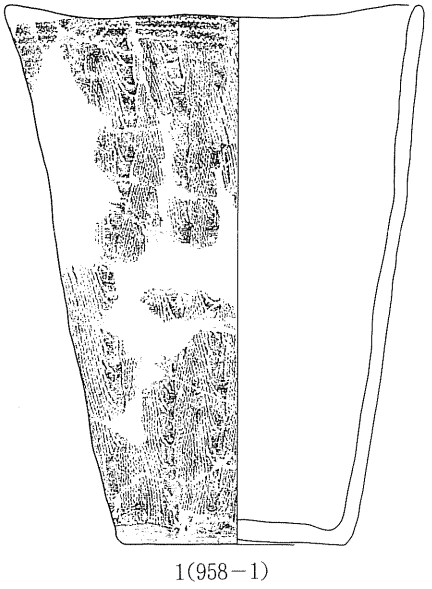
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（11～14・17・28）・前期後葉の土器（１～10）、および削器（31～36）・篦状石器（37）・加工痕のある剥片（30）・半円状偏平打製石器（38）が出土した。

《改　　築》　検出した溝が改築に関連する可能性は低いと思われる。



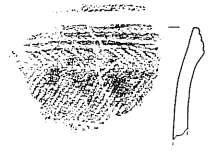


【SI958】
1　黒褐色土(10YR3/1) 硬くしまっている。
2　黒褐色土(10YR3/1) 明黄褐色地山粒少量混入。
3　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒・地山塊多量混入。
4　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒・地山塊の混入3より多い。
5　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(明黄褐色) 多量混入。
6　黒褐色土(10YR3/2) 軟らかい。
7　明黄褐色土(10YR7/6) 地山再堆積(風倒木痕)
8　黒褐色土(10YR2/2)
9　黒褐色土(10YR2/2) 地山粒(明黄褐色)・塊混入。
10　黒色土(10YR1.7/1)
11　黒褐色土(10YR3/1) 地山塊(大)混入。
12　地山塊。
13　黒色土(10YR1.7/1)

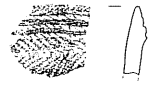

1(958－1)

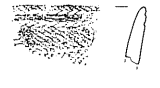
2(958－2)

3(958－3)


4(958－4)

5(958－5)


6(958－6)

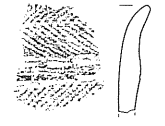

7(958－7)

8(958－8)

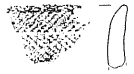
9(958－9)

10(958－10)

11(958－11)


12(958－12)

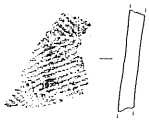
13(958－13)


14(958－14)

15(958－15)

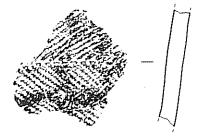
16(958－16)

17(958－17)


18(958－18)

19(958－19)

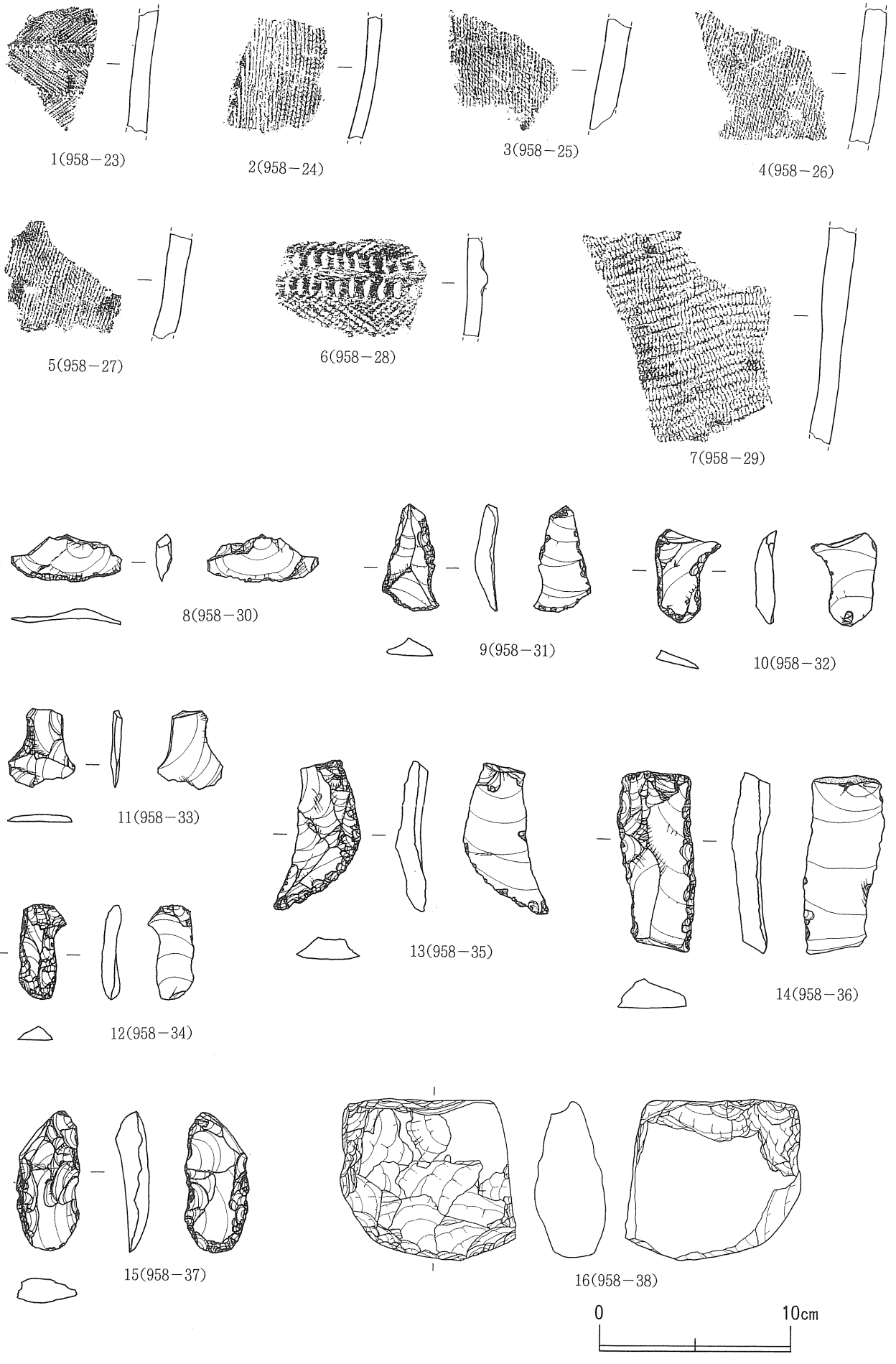
20(958－20)


21(958－21)

22(958－22)

0　10cm

第93図　SI 958 竪穴住居跡とその出土遺物（１）



第94図　SI 958 竪穴住居跡出土遺物（２）

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　959　竪穴住居跡（第95図、図版65）

《位　　置》　ＭＴ50、ＮＡ49・50グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径4.65ｍ×短径3.50ｍ、深さ36㎝。

《平 面 形》　楕円形であるが、東辺に接して一段低く掘られている部分がある。

《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われる。

《　壁　》　最も深いところで36㎝で、外傾しながら立ち上がる。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。しかし壁溝よりも幾分深く掘り下げられている。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

《柱　　穴》　床面に多数検出したが、Ｐ２・Ｐ13が主柱穴と思われる。また壁溝中にも多数のピットが並び、壁板様の施設に関連すると考えられる。

《壁　　溝》　部分的に途切れるが、壁に沿って１条検出した。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期中葉の土器（１・２）・前期後葉の土器（３・４）、および掻器（13）・加工痕のある剥片（11・12・14）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

ＳＩ　961　竪穴住居跡（第96図、図版66）

《位　　置》　ＭＳ45・46グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径3.75ｍ×短径2.70ｍ、深さ26㎝。

《平 面 形》　風倒木根による攪乱を受けているが、壁溝の平面形から円形であると思われる。

《埋　　土》　６層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。

《　壁　》　最も深いところで26㎝で、外傾しながら立ち上がる。攪乱のため、一部削平されている。

《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《　炉　》　明確な焼土や灰の堆積はないが、鍋底状の掘り込みがあり炉と推定した。

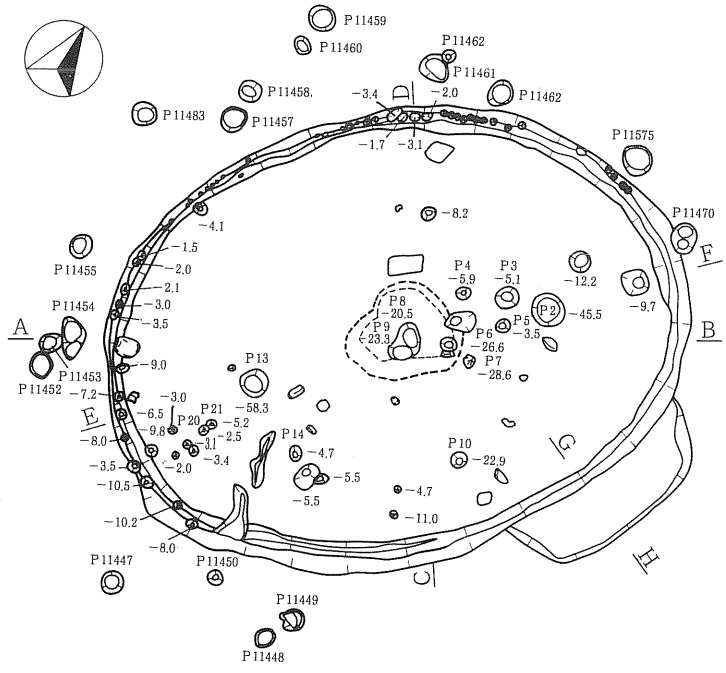
《柱　　穴》　床面に３カ所検出したが、主柱穴は不明である。周縁に並ぶ柱穴跡は、垂木尻を据えた穴と考えられる。

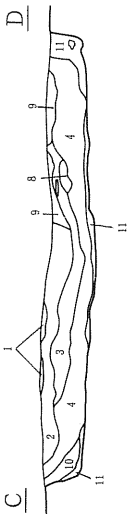
《壁　　溝》　壁に沿って１条巡るが、北辺部で幅広になっている。

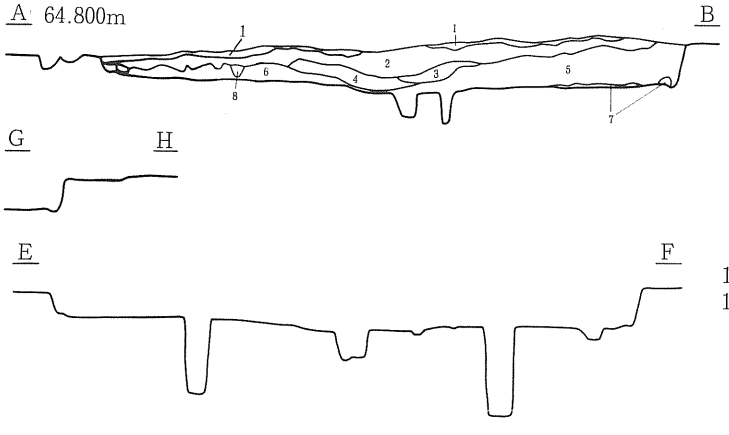
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（１）、石匙（５）・加工痕のある剥片（６）が出土した。

《改　　築》　なし。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。



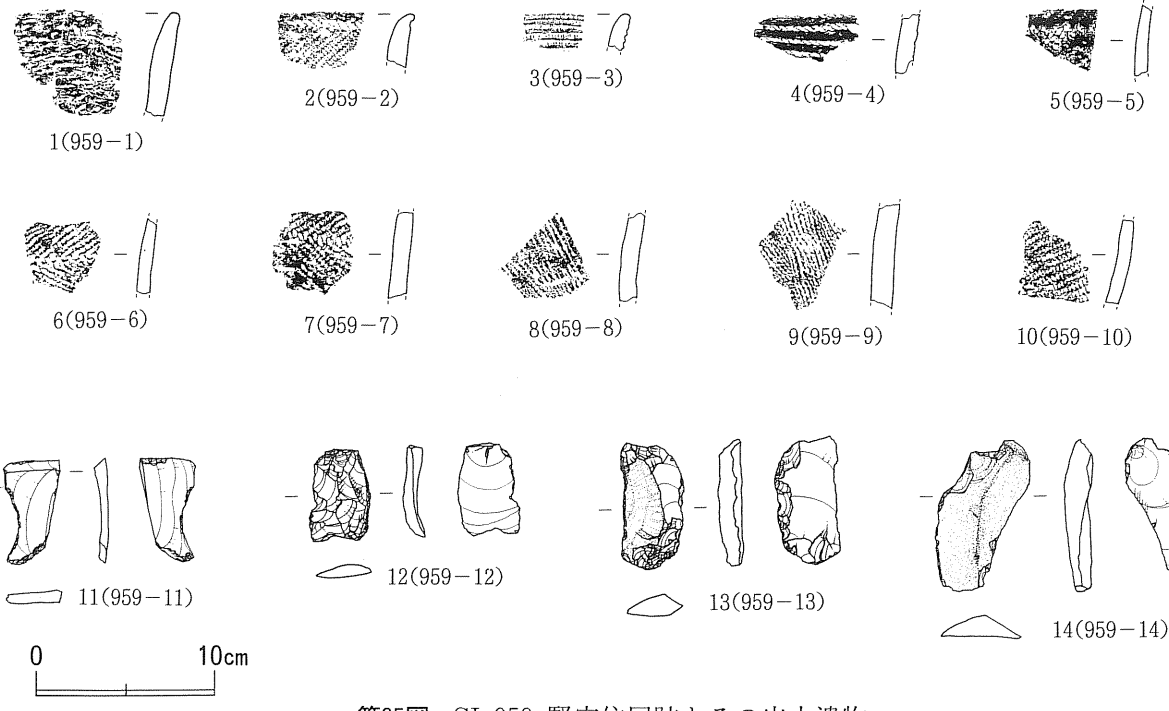




【SI 959】

1　黒褐色土(10Y R3／1)
2　黒褐色土(10Y R3／2)　地山粒・炭化物(少量)混入。
3　黒褐色土(10Y R2／2)　地山粒少量混入。硬くしまっている。
4　黒褐色土(10Y R2／2)　地山粒・地山塊多量混入。
　　硬くしまっている。
5　黒色土(10Y R1.7／1)　硬くしまっている。
6　黒褐色土(10Y R2／3)　地山粒少量混入。
7　黒褐色土(10Y R3／2)　地山粒微量混入。軟らかい。
8　明黄褐色土(10Y R6／8)　地山塊。
9　黒褐色土(10Y R3／2)　地山粒微量混入。しまっている。
10　黒褐色土(10Y R3／2)　地山粒・地山塊少量混入。
11　黒褐色土(10Y R3／1)　よくしまっている。

0　2 m



第95図　SI 959 竪穴住居跡とその出土遺物

ＳＩ　962　竪穴住居跡（第96図、図版67）

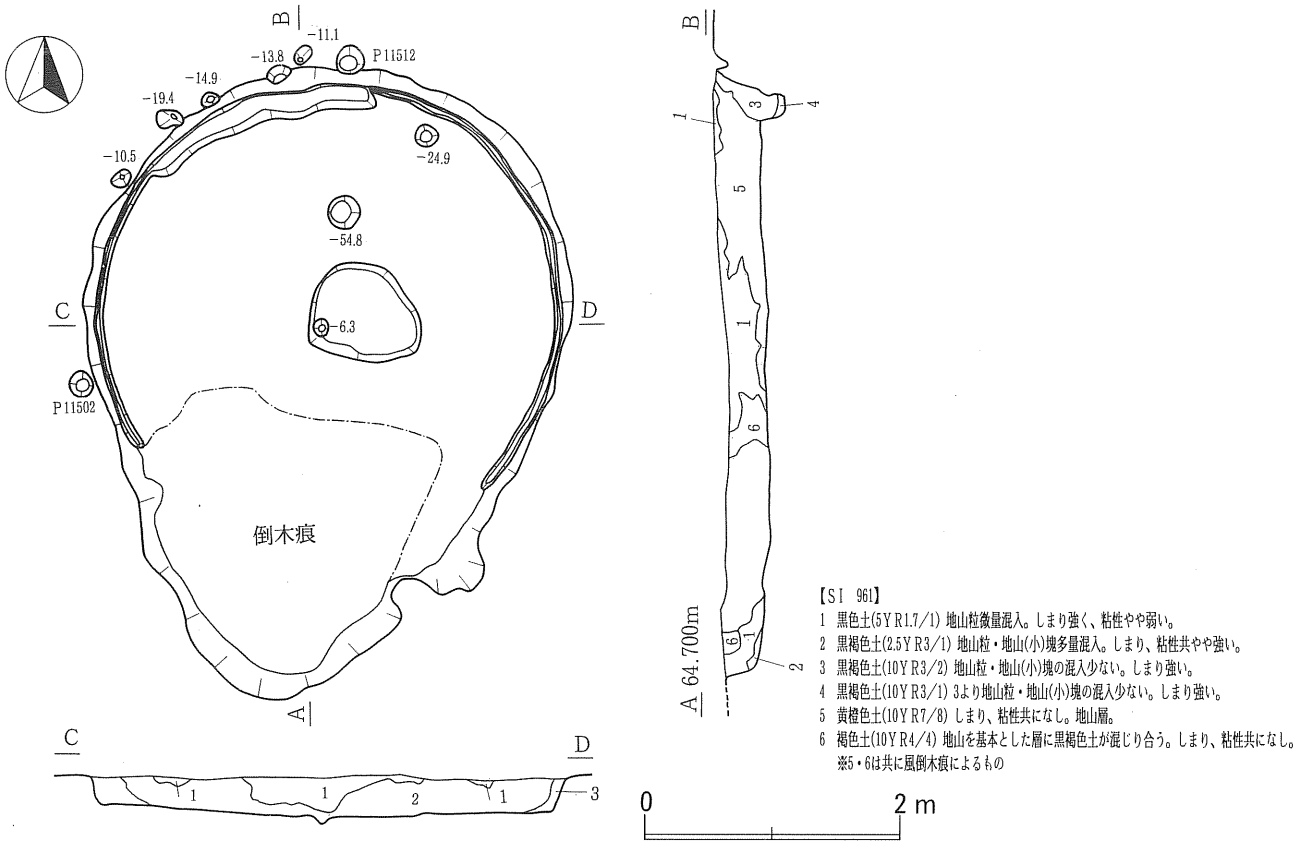
《位　　置》　ＭＴ44・45グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径1.88ｍ×短径1.65ｍ、深さ11㎝。
《平 面 形》　略円形である。
《埋　　土》　３層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで11㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に６カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　部分的に途切れるが、１条巡る。
《遺　　物》　遺物は出土しなかった。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

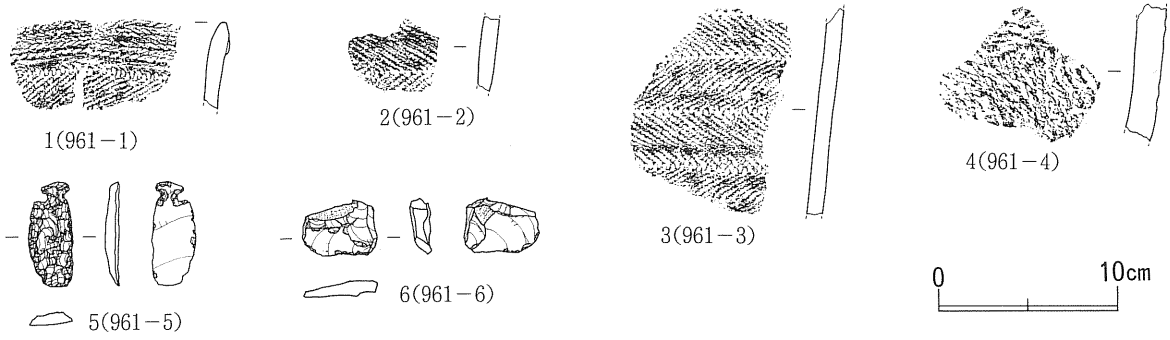
ＳＩ　967　竪穴住居跡（第97図、図版68）

《位　　置》　ＭＴ48・49、ＮＡ48・49グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ1002竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が古い。
《規　　模》　長径2.70ｍ×短径2.45ｍ、深さ33㎝。
《平 面 形》　略円形である。
《埋　　土》　７層に分層した。自然堆積か人為的堆積かは不明。
《　壁　》　最も深いところで33㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　壁に沿って１条検出した。
《遺　　物》　埋土中から掻器（１）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　時期を特定できる遺物は出土しなかったので不明。

ＳＩ　970　竪穴住居跡（第98図、図版67）

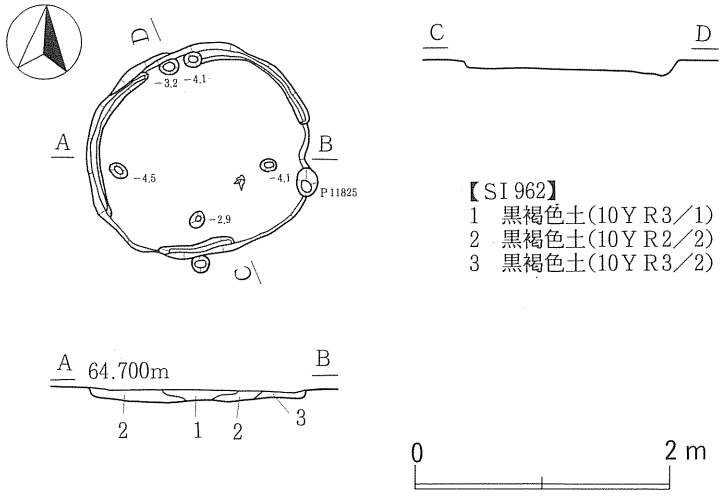
《位　　置》　ＮＡ43・44、ＮＢ43・44グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長径3.00ｍ×短径2.64ｍ、深さ44㎝。
《平 面 形》　楕円形である。





SI 961

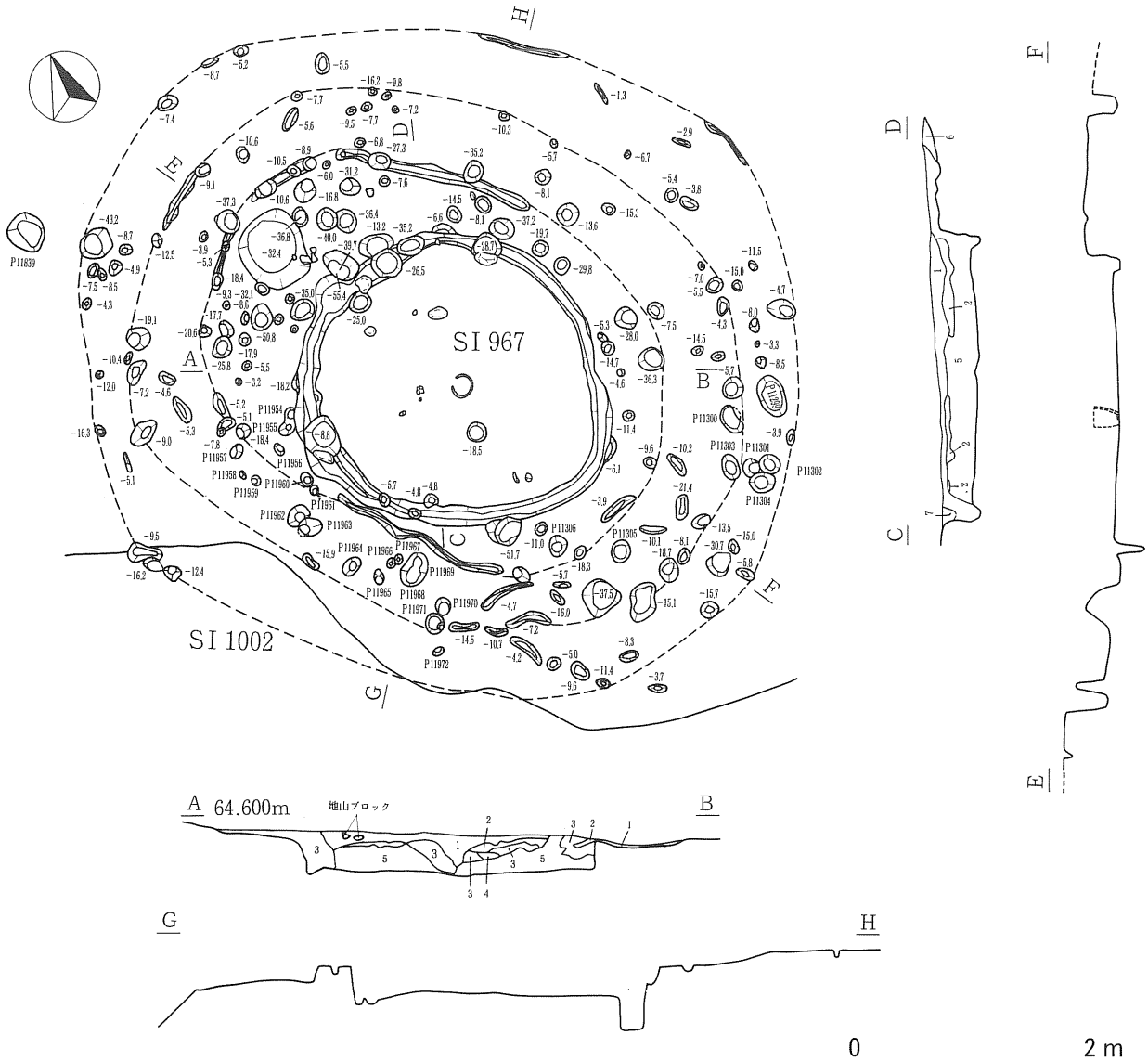
SI 962



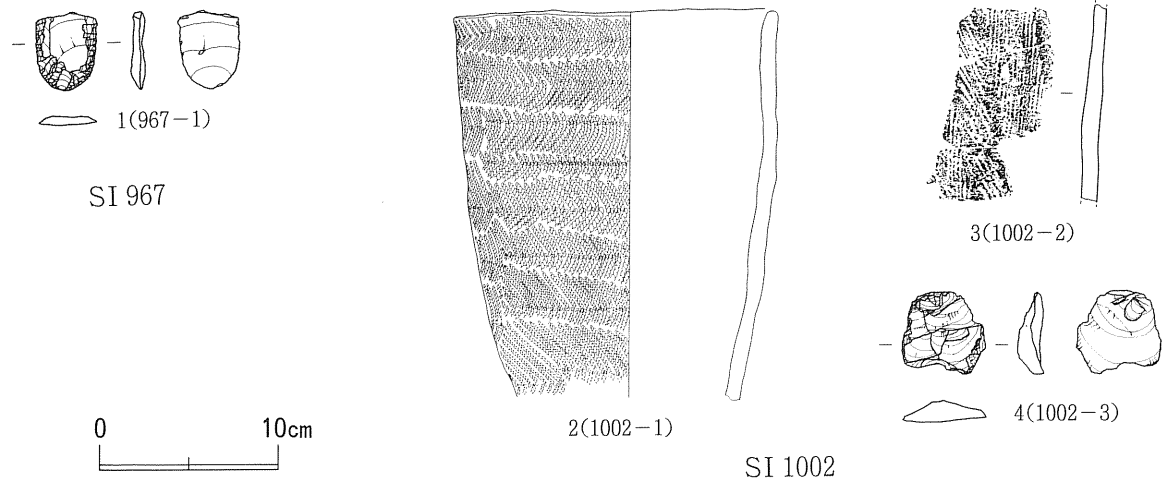
第96図　SI 961・SI 962 竪穴住居跡とその出土遺物

《埋　　土》　３層に分層した。自然堆積と思われる。
《　壁　》　最も深いところで44㎝で、外傾しながら立ち上がる。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《　炉　》　焼土や灰の堆積、掘り込みは確認できなかった。
《柱　　穴》　床面に１カ所検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　なし。
《遺　　物》　埋土中から縄文前期の土器（１・２）、半円状偏平打製石器（３）が出土した。
《改　　築》　なし。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期と思われる。

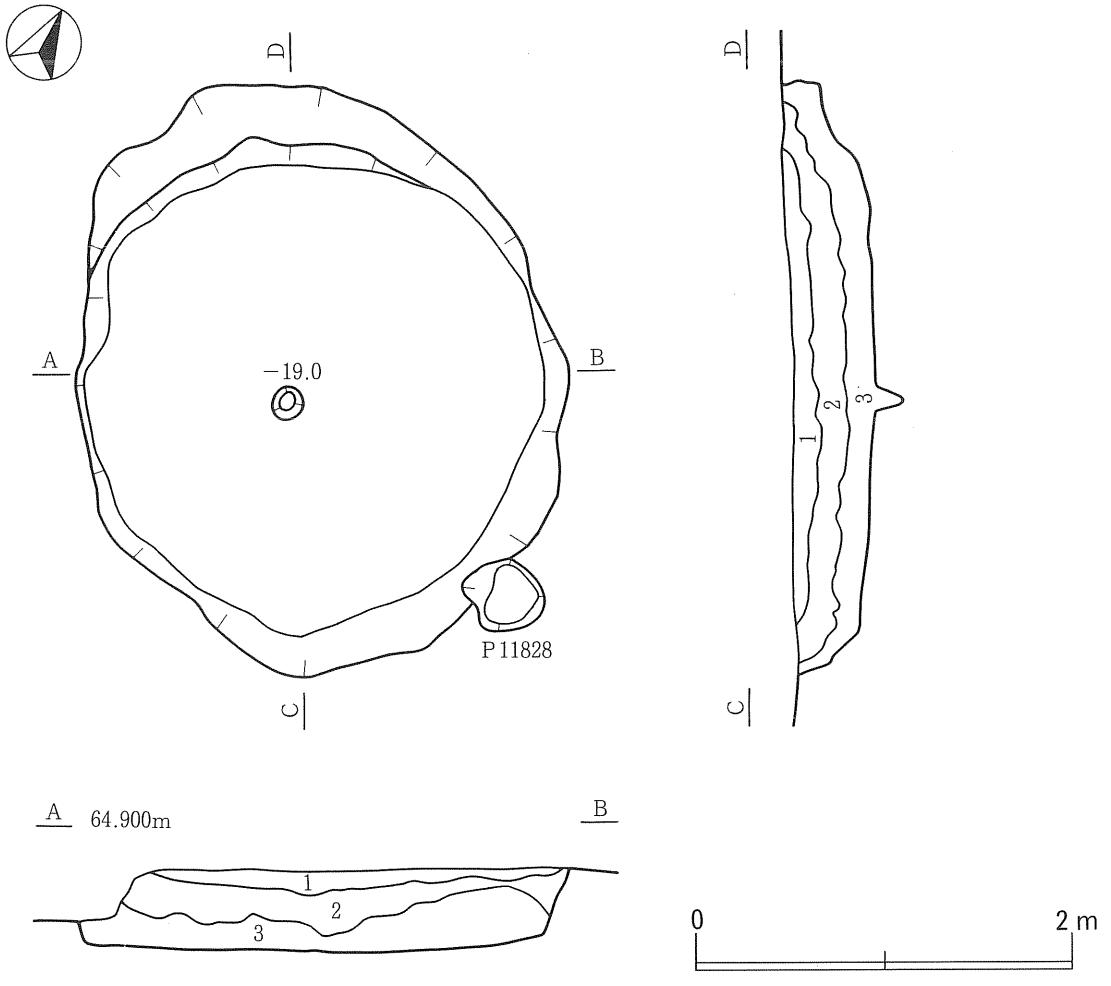
ＳＩ　1002　竪穴住居跡（第97図、図版67・図版68）
《位　　置》　ＮＡ37・38、ＮＢ37・38グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ967竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本竪穴住居跡が新しい。
《規　　模》　長径6.22ｍ×短径5.40ｍ。
《平 面 形》　楕円形である。
《埋　　土》　畑耕作に伴なう削平により、壁溝のみしか検出できなかった。中央に重複するＳＩ967竪穴住居跡に貼床を施している。
《　壁　》　削平されている。
《床　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。貼床部分もみられる。
《　炉　》　中央の貼床部分に埋設土器（２）を検出した。
《柱　　穴》　床面に多数検出したが、主柱穴は不明である。
《壁　　溝》　部分的に３条巡る。
《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。縄文時代前期後葉の土器（２）、加工痕のある剥片（４）が出土した。
《改　　築》　壁溝が３条巡っていることから２回の改築が想定される。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。



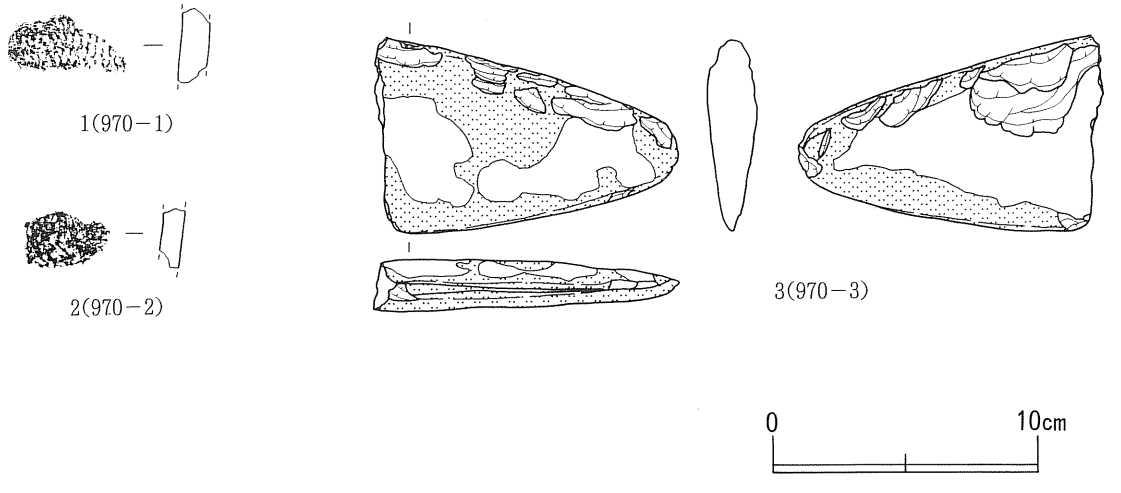
【ＳＩ967・ＳＩ1002】
1　黒色土(10Ｙ Ｒ2／1) 地山粒少量混入。しまり、粘性共にやや強い。
2　明黄褐色土(10Ｙ Ｒ6／8) 貼床。厚さ4～5cm。
3　黒褐色土(10Ｙ Ｒ3／1) 地山粒(砂粒大)多量混入。しまり弱く、粘性やや強い。
4　黒色土(2.5Ｙ 2／1) 地山粒(小石大)少量混入。しまりやや強く、粘性強い。
5　黒褐色(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒(砂粒大)多量混入。
6　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒(小石大2～3cm) 多量混入。
7　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒(砂粒大～小石大) の地山粒を少量混入。



第97図　SI 967・SI 1002 竪穴住居跡とその出土遺物



【ＳＩ 970】
1　赤黒色土(2.5Ｙ Ｒ1.7／1) 地山粒微量混入。しまり、粘性共に強い。
2　黒褐色土(10Ｙ Ｒ2／2) 地山粒少量混入。しまり強く、粘性弱い。
3　暗褐色土(10Ｙ Ｒ3／3) 地山粒(小豆大～小石大) 多量混入。しまり強く、粘性やや強い。



第98図　SI 970 竪穴住居跡とその出土遺物

土　壙　墓

土壙墓は、台地北西側の縁辺から最小４ｍ、最大15ｍ隔てて、北西－南東方向６～15ｍの範囲で北東－南西方向72ｍにわたって35基が、ＳＴ396･504谷の両側に９基（西側に７基、東側に２基）が、台地東側の谷の東側斜面に１基の45基検出した。台地北西側の縁辺に平行するように分布する35基の土壙墓は、長軸方向を北東－南西方向にもつものが多いが、北西－南東方向にもつものもある。北東－南西方向にもつ土壙墓には、副葬されたと思われる遺物が多く出土した。

ＳＴ396･504谷の西側の７基は、３基と４基のグループに細分できるが、北－南方向に長軸をもつという共通性がある。東側の２基は長軸方向が異なっている。

土壙墓の造られた時期は、台地東側の谷の東側斜面の１基（後期）を除き、縄文時代前期と思われる。

ＳＫＳ　13　土壙墓（第99図）

《位　　置》　ＮＤ62･63グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色～暗褐色土の楕円形プランとして確認した。

《重　　複》　南西側で柱穴様ピットと重複するが、本土壙が新しい。

《規　　模》　長軸1.62ｍ×短軸1.22ｍ、深さ72㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《断 面 形》　底面から内傾して立ち上がり、さらに一回り大きく内傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　13層に分層した。少量の炭化物が混入する土層が厚く堆積していた。

《底　　面》　やや凹凸があり、壁際に上幅８～15㎝、下幅５～10㎝、深さ４～10㎝で一巡する溝がある。

《遺　　物》　土器片４点（１～４）と、剥離痕のある石器剥片６点（５～10）、篦状石器１点（11）、礫２点（12･13）が埋土中から出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　19　土壙墓（第100図、図版69）

《位　　置》　ＮＥ64、ＮＦ64グリッドに位置する。

《確　　認》　褐色土の不整な楕円形プランとして確認した。

《重　　複》　現代のＳＫ20土坑(肥え溜め)と重複していた。

《規　　模》　長軸2.18ｍ×短軸1.76ｍ、深さ28㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　土圧により南東側がオーバーハングしているが、壁は緩やかに外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　ＳＫ20土坑が西側上部を削平し、かつプラン確認が遅れたため、埋土は１層のみであった。

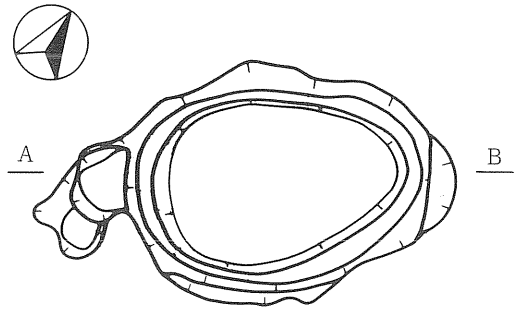
《底　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土中から土器片４点と礫片１点が出土した。

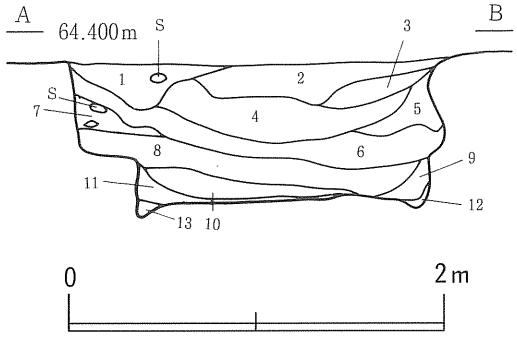
《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

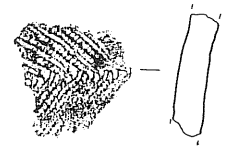
ＳＫＳ　71　土壙墓（第100図、図版69）

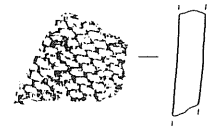
《位　　置》　ＮＤ62グリッドに位置する。

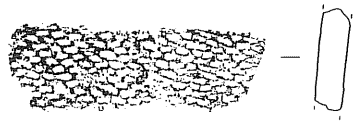


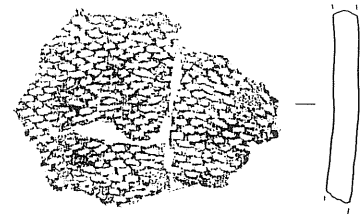
【SKS　13】
1　黒褐色土(10YR3／2)　地山(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
2　暗褐色土(10YR3／3)　地山(中粒)中量・炭(中粒)少量混入。
　　地山(大粒)ごく少量混入。しまり有り。
3　暗褐色土(10YR3／4)　地山(中粒)やや多量混入。しまり強い。
4　黒褐色土(10YR2／3)　地山塊(小)中量、炭(小粒)少量混入。
　　しまり強く、弾性有り。
5　褐色土(10YR4／4)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
6　黒褐色土(7.5YR3／2)　地山(大粒)・炭(中粒)少量混入。しまり有り。
7　暗褐色土(10YR3／4)　地山(中粒)中量、地山(大粒)ごく少量、炭(小粒)
　　少量混入。しまり、弾性有り。
8　黒褐色土(10YR3／2)　地山塊(小)中量、炭(中粒)少量混入。しまり、
　　弾性有り。
9　暗褐色土(10YR3／4)　地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
10　黒褐色土(10YR2／3)　地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
11　暗褐色土(10YR3／3)　地山(小粒)ごく少量混入。しまり、弾性有り。
12　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　ややしまり有り。
13　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　ややしまり有り。

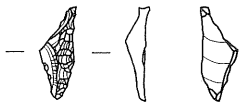


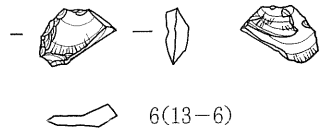

1(13－1)

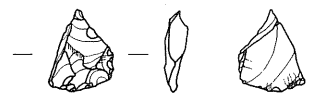

2(13－2)

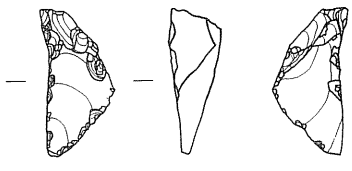

3(13－3)

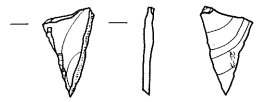

4(13－4)

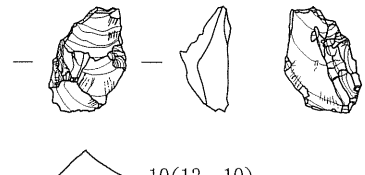

5(13－5)

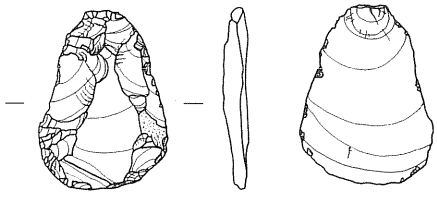

6(13－6)

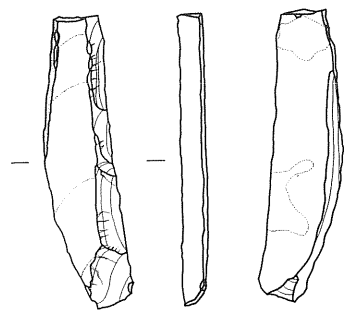

7(13－7)

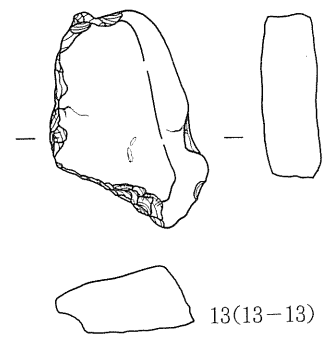

8(13－8)

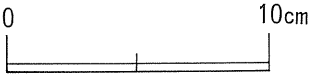

9(13－9)


10(13－10)


11(13－11)


12(13－12)


13(13－13)



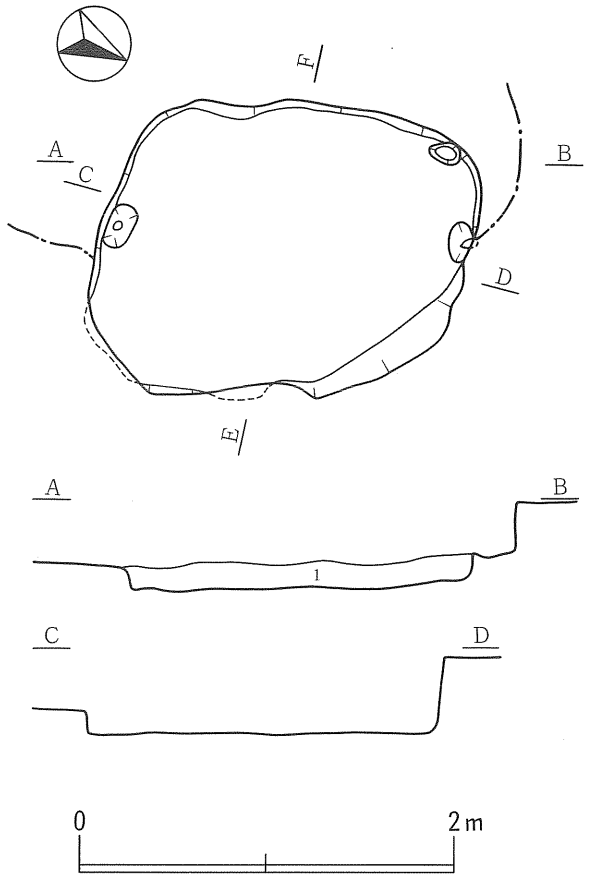
第99図　SKS 13 土壙墓とその出土遺物

《確　　認》　暗褐色土の楕円形プランとして確認した。
《重　　複》　ＳＫ72土坑と重複している。新旧関係は本土壙が新しい。
《規　　模》　長軸0.9ｍ×短軸0.7ｍ、深さ58㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　土圧のためオーバーハングしており、袋状を呈する。
《埋　　土》　４層に分層された。いづれの土層にも炭化物が混入する。
《底　　面》　やや凹凸がある。壁際がわずかに溝状に窪んでいたが、明確ではなかった。
《遺　　物》　埋土中から土器片が２点出土した。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　174　土壙墓（第101図）
《位　　置》　ＮＡ66･67グリッドに位置する。
《確　　認》　暗褐色土の楕円形プランとして確認した。
《重　　複》　北西側で柱穴様ピットと重複していた。柱穴様ピットが新しい。
《規　　模》　長軸1.66ｍ×短軸1.30ｍ、深さ34㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　土圧のためオーバーハングしており、袋状を呈する。
《埋　　土》　８層に分層した。炭化物が混入する。
《底　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。東側で途切れるが、壁際に上幅10～15㎝、下幅４～５㎝、深さ４～６㎝でほぼ一巡する溝がある。
《遺　　物》　埋土中から土器片５点（１～５）、石匙１点（６）、剥離痕のある石器剥片（７）、石錘２点（８･９）が出土した。
《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

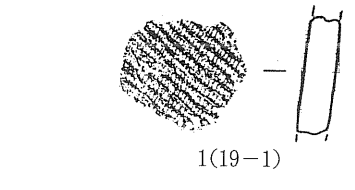
ＳＫＳ　194　土壙墓（第102図）
《位　　置》　ＭＲ67･68、ＭＳ68グリッドに位置する。
《確　　認》　褐色～黒褐色土の不整な円形プランとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規模　　》　長軸1.80ｍ×短軸1.66ｍ、深さ28㎝。
《平 面 形》　不整な楕円形である。
《断 面 形》　土圧のためわずかにオーバーハングしているが、壁は緩やかに外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　８層に分層した。
《底　　面》　木根による撹乱のため、やや凹凸がある。
《遺　　物》　底面から擦切磨製石斧が１点出土した。
《埋葬時期》　出土した石斧の製作技法から縄文時代前期と思われる。

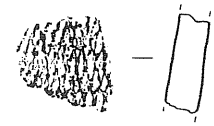
ＳＫＳ　208　土壙墓（第103図～第105図、図版70～図版72）
《位　　置》　ＭＭ72･ＭＮ72グリッドに位置する。

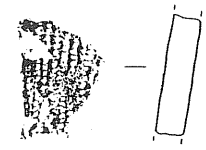


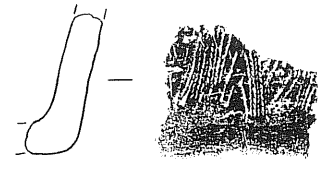
SKS19

【SKS　19】
1　オリーブ褐色土(2.5Y4／3)　地山(中粒)やや多量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。


1(19－1)

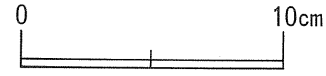

2(19－2)

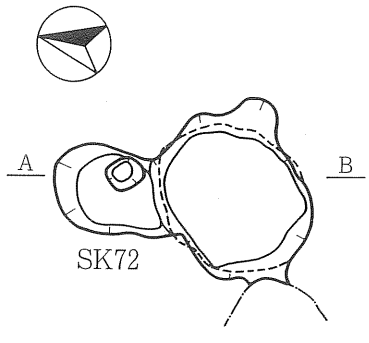

3(19－3)


4(19－4)

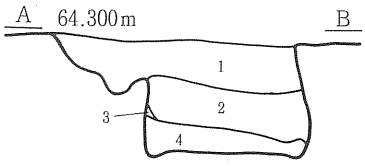
5(19－5)

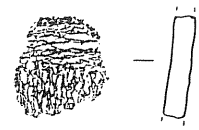
SKS71

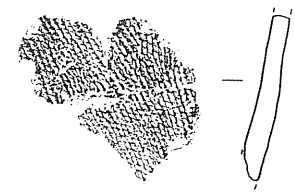




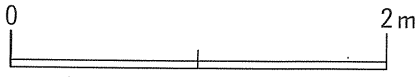
【SKS　71】
1　暗褐色土(10YR3／4)　地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。しまり、弾性有り。
2　オリーブ褐色土(2.5Y4／6)　地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。しまり強い。
3　暗褐色土(10YR3／4)　地山(小粒)ごく少量、炭(大粒)少量混入。しまり有り。
4　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。しまり強い。

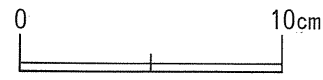



6(71－1)

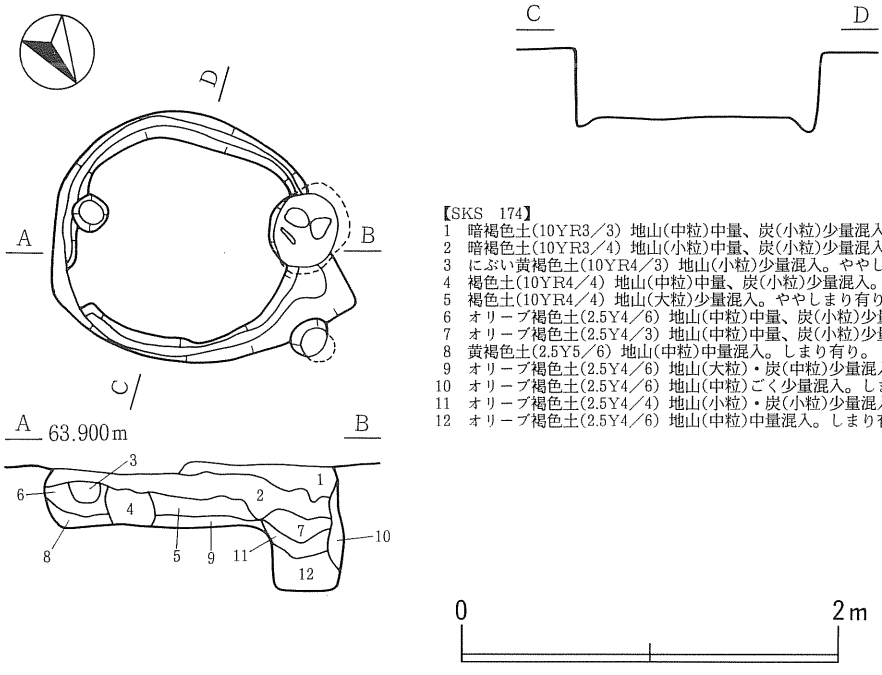

7(71－2)

SKS71

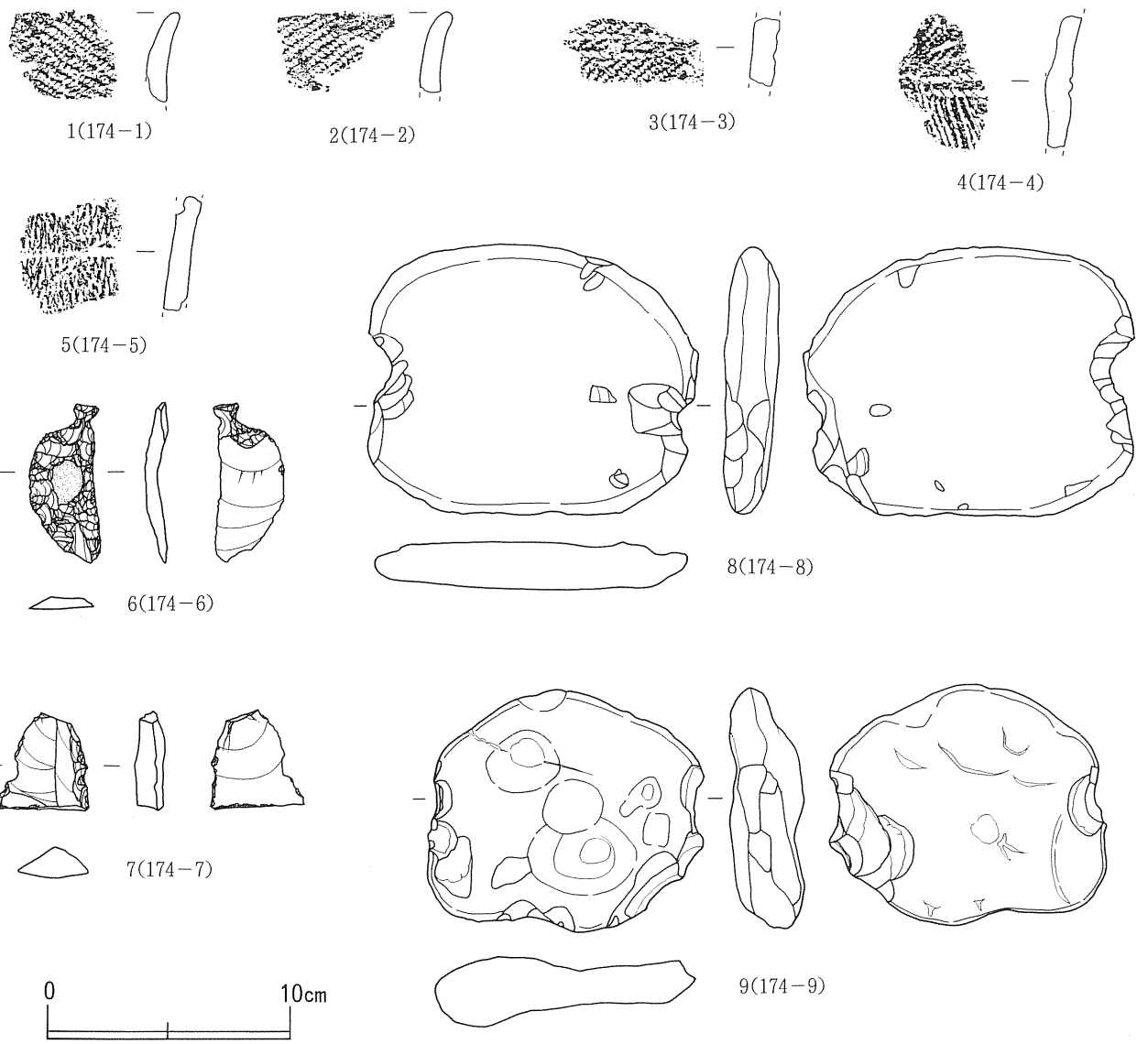




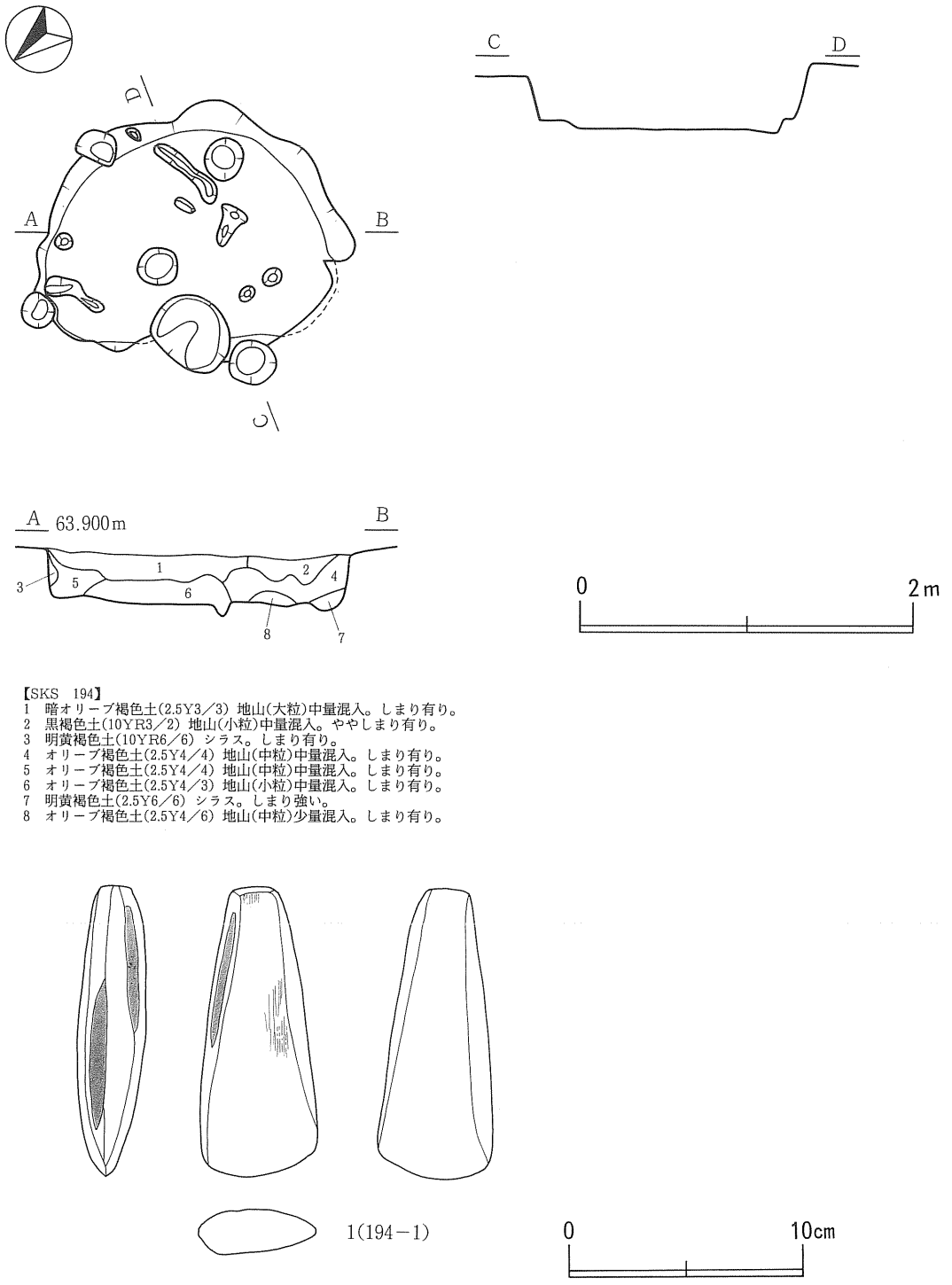
第100図　SKS 19・SKS 71 土壙墓とその出土遺物



【SKS　174】
1　暗褐色土(10YR3／3)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
2　暗褐色土(10YR3／4)　地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
3　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
4　褐色土(10YR4／4)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
5　褐色土(10YR4／4)　地山(大粒)少量混入。ややしまり有り。
6　オリーブ褐色土(2.5Y4／6)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
7　オリーブ褐色土(2.5Y4／3)　地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
8　黄褐色土(2.5Y5／6)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。
9　オリーブ褐色土(2.5Y4／6)　地山(大粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
10　オリーブ褐色土(2.5Y4／6)　地山(中粒)ごく少量混入。しまり有り。
11　オリーブ褐色土(2.5Y4／4)　地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
12　オリーブ褐色土(2.5Y4／6)　地山(中粒)中量混入。しまり有り。



第101図　SKS 174 土壙墓とその出土遺物



第102図　SKS 194 土壙墓とその出土遺物

《確　　認》　黒色～黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

《重　　複》　底面中央からやや南側で柱穴様ピットと重複していた。柱穴様ピットが新しい。

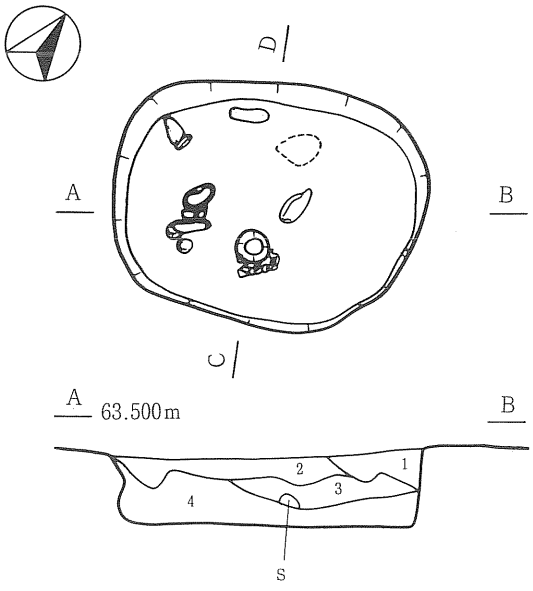
《規　　模》　長軸1.66ｍ×短軸1.28ｍ、深さ36㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

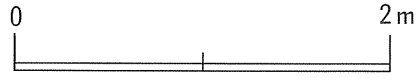
《断 面 形》　土圧のためわずかにオーバーハングしているが、壁は外傾して立ち上がっていた。

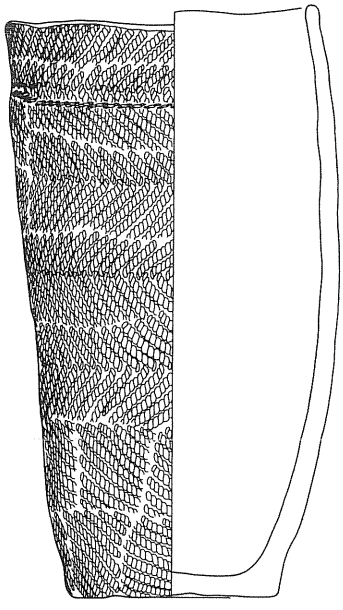
《埋　　土》　４層に分層した。１層を除き炭化物が混入する。

《底　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。

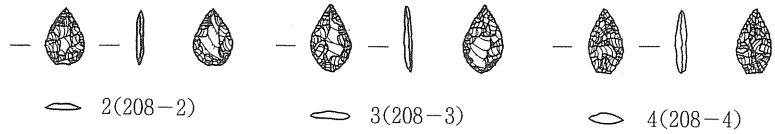


【SKS　208】
1　黒色土(7.5YR2／1)　地山(小粒)少量混入。しまり有り。
2　黒褐色土(2.5Y3／2)　地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
3　にぶい黄褐色土(10YR5／4)　地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
4　明黄褐色土(10YR6／6)　地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり強い。

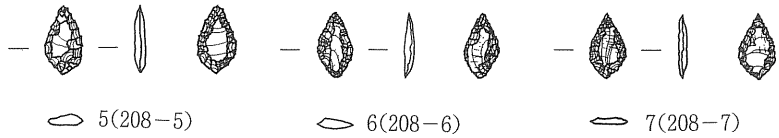




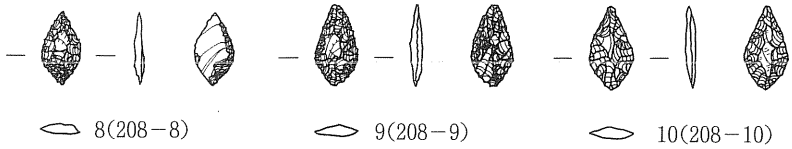
1(208－1)



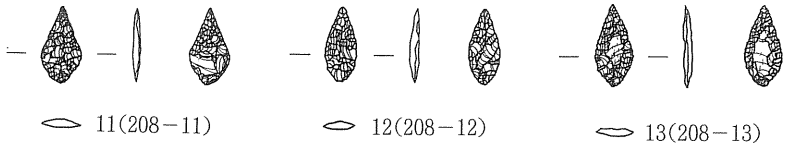
2(208－2)　3(208－3)　4(208－4)



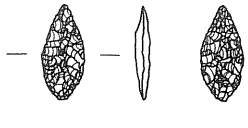
5(208－5)　6(208－6)　7(208－7)



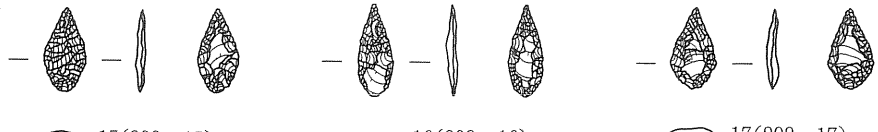
8(208－8)　9(208－9)　10(208－10)



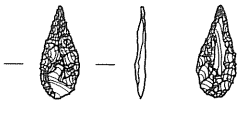
11(208－11)　12(208－12)　13(208－13)



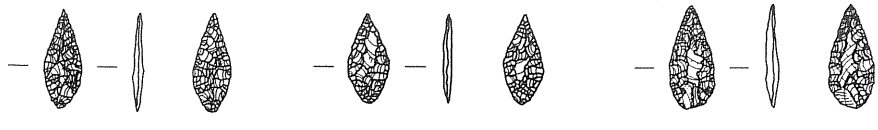
14(208－14)



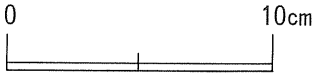
15(208－15)　16(208－16)　17(208－17)



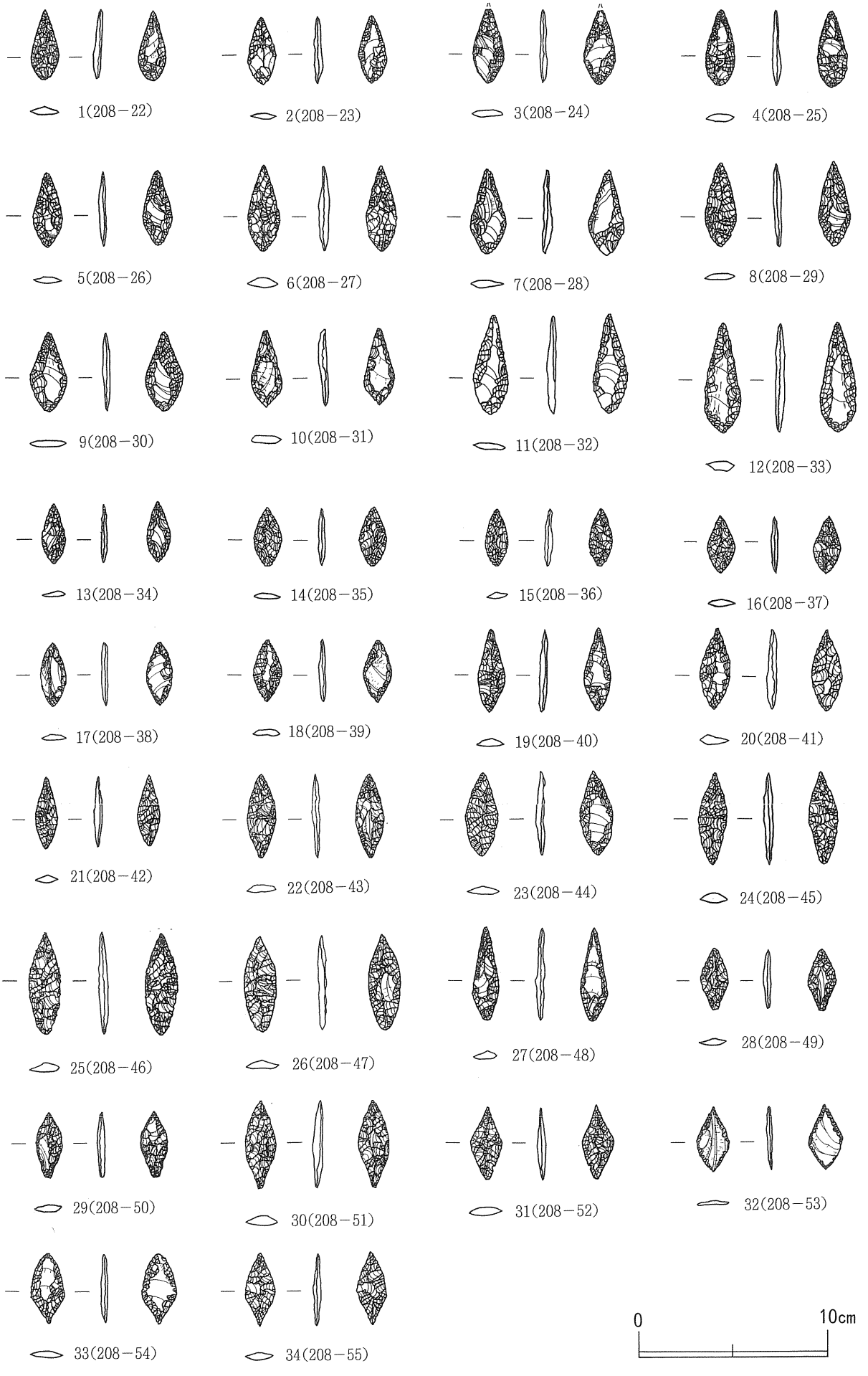
18(208－18)



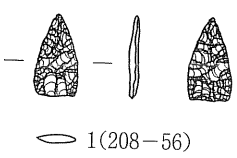
19(208－19)　20(208－20)　21(208－21)



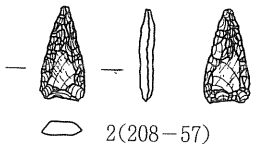
第103図　SKS 208 土壙墓とその出土遺物（１）



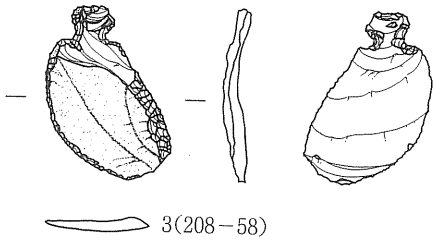
第104図　SKS 208 土壙墓出土遺物（２）



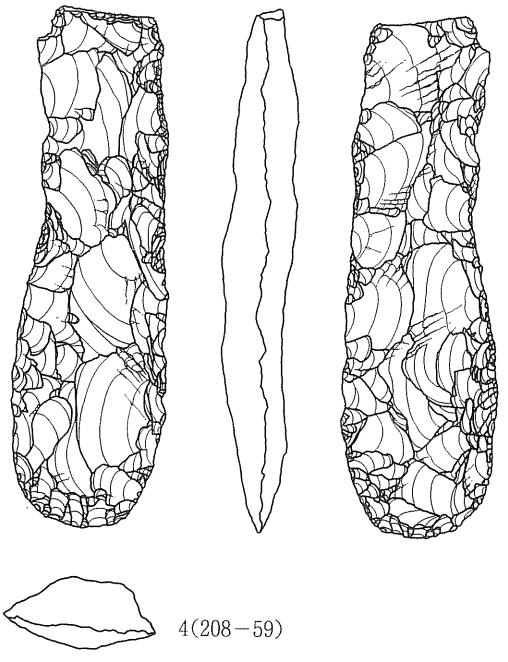
1(208－56)



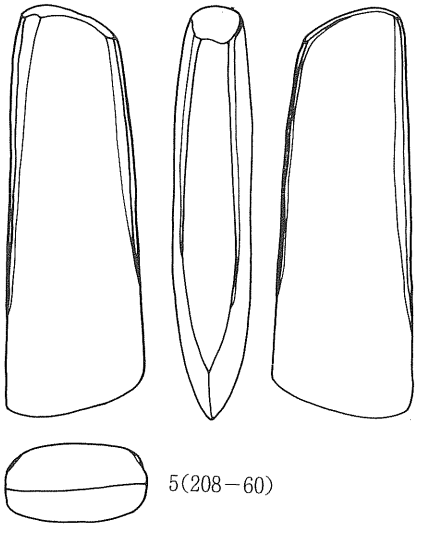
2(208－57)



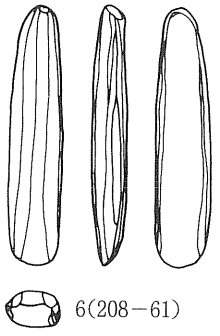
3(208－58)



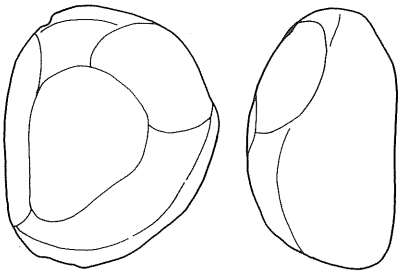
4(208－59)



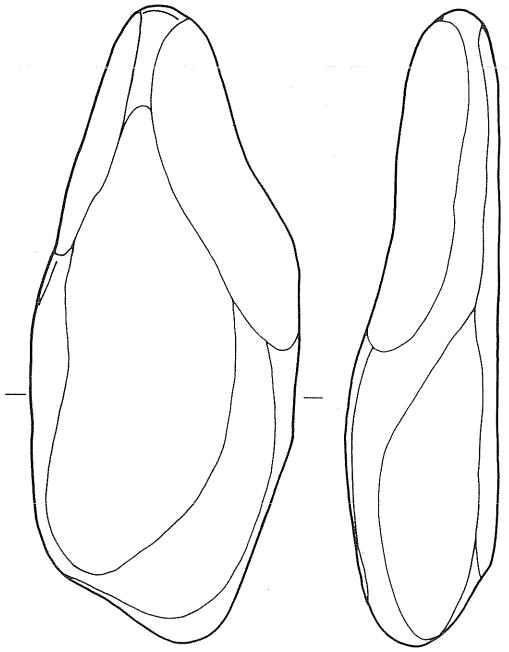
5(208－60)



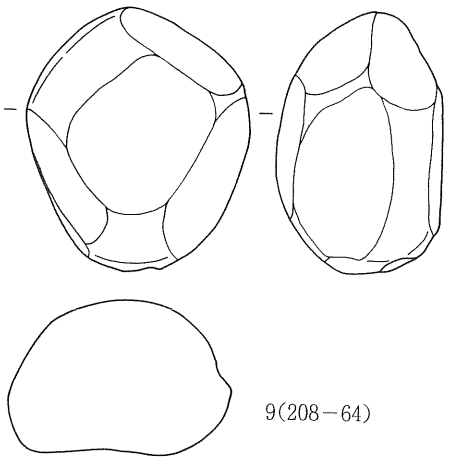
6(208－61)



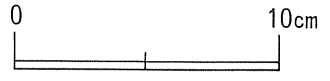
7(208－62)



8(208－63)



9(208－64)



第105図　SKS 208 土壙墓出土遺物（3）

《遺　　物》　底面から２～３㎝上の埋土中（第４層）と第３層から出土した。第４層からは横倒して深鉢が１点（１。柱穴ピットにより破損）、石鏃56点（２～57。点線内にまとまっていた）、石匙１点（58）、土掘り具１点（59）、磨製石斧２点（60･61）、擦石1点（62）、礫１点（64）が、第３層からは礫が１点出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　377　土壙墓（第106図、図版77）

《位　　置》　台地斜面中位のＮＥ26グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の楕円形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.52ｍ×短軸1.44ｍ、深さ14㎝。

《平 面 形》　楕円形である。

《断 面 形》　西側の壁面はオーバーハングし、袋状を呈する。

《埋　　土》　３層に分層した。地山粒･塊を混入する。

《底　　面》　やや凹凸があり、南西側の底面に窪みがある。

《遺　　物》　南西側の窪みから、深鉢土器破片が１個体分出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代後期と思われる。

ＳＫＳ　379　土壙墓（第106図、図版74･図版75）

《位　　置》　ＮＤ59グリッドに位置する。

《確　　認》　褐色～暗褐色土の隅丸長方形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.44ｍ×短軸0.84ｍ、深さ46㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　土圧のためにオーバーハングしている箇所もあるが、壁はほぼ垂直に立ち上がっていた。

《埋　　土》　７層に分層した。

《底　　面》　ほぼ平坦である。壁際に上幅７～10㎝、下幅３～５㎝、深さ２～５㎝で一巡する溝がある。

《遺　　物》　埋土中から深鉢土器破片が出土し、ＳＫＳ　386 土壙墓出土の土器と接合した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　386　土壙墓（第107図、図版75･図版76）

《位　　置》　ＮＡ60、ＮＢ60グリッドに位置する。

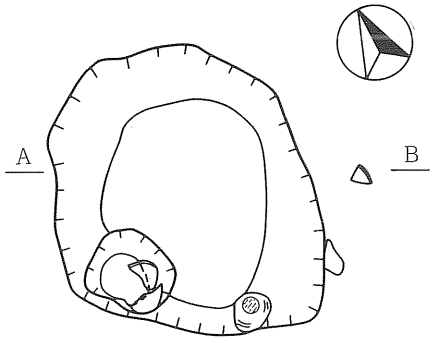
《確　　認》　黒色～黒褐色土の不整なＬ字形の落ち込みとして確認した。

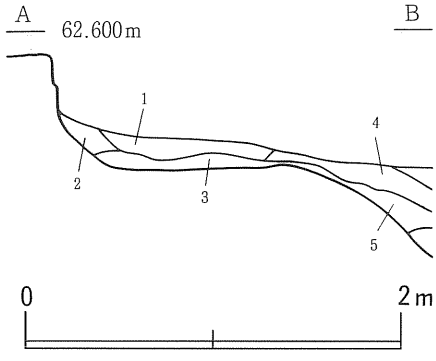
《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.32ｍ×短軸1.12ｍ、深さ54㎝。

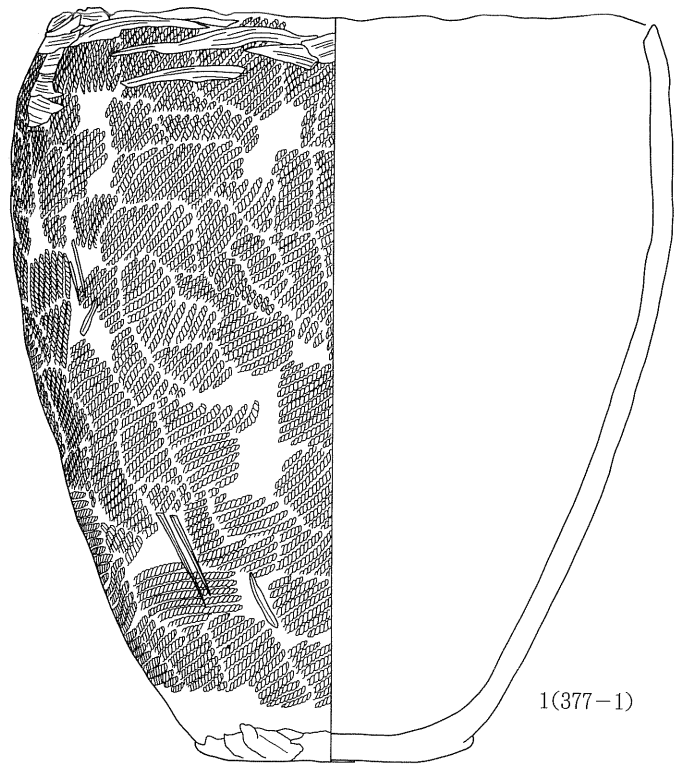
《平 面 形》　楕円形である。

《断 面 形》　土圧のために北側の壁がオーバーハングしていたが、その他の壁は外傾して立ち上がっていた。南側の壁上部は広く掘り窪められていた。





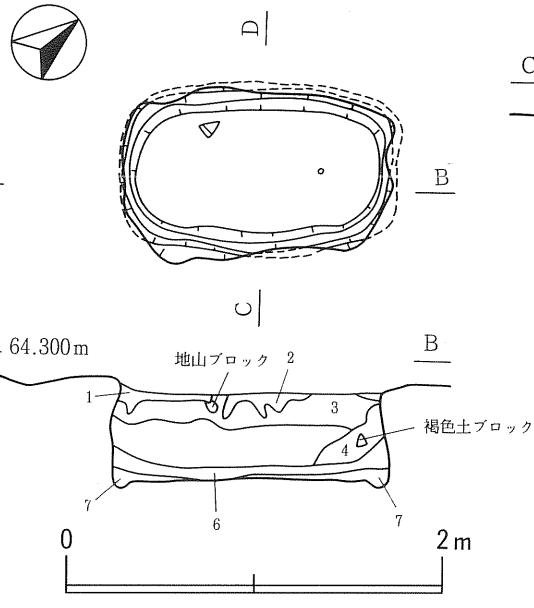
【SKS　377】
1　黒褐色土(10YR3／2)　地山粒・塊(中)粗に混入。
2　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒・塊(中)多量混入。
3　暗褐色土(10YR3／3)　地山粒・塊(大)密に混入。
4　黒褐色(10YR3／1)　地山粒・塊(小)粗に混入。
5　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒・塊(中)を若干混入。



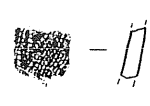
1(377－1)

SKS377

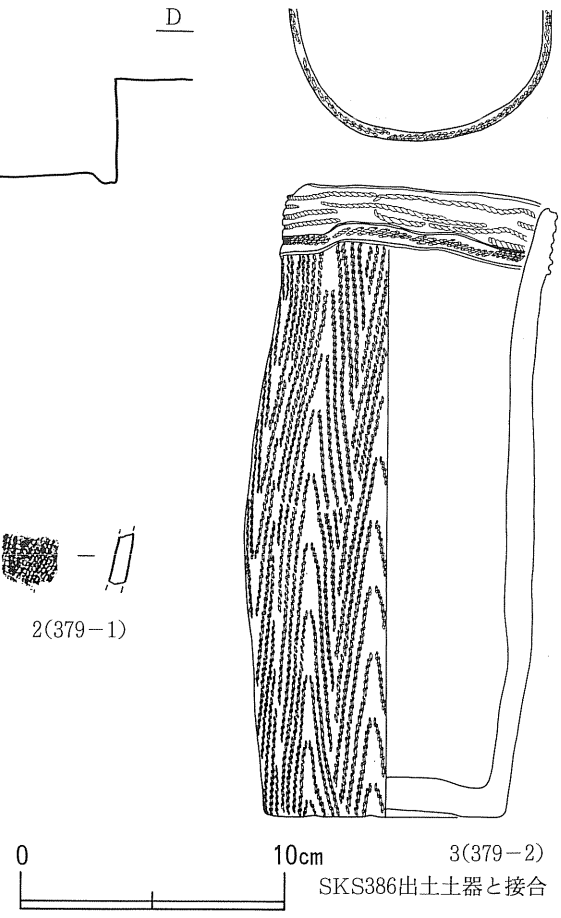
SKS379



【SKS　379】
1　暗褐色土(10YR3／4)　地山粒(極小)５％混入。
2　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒(極小)10％混入。
3　褐色土(10YR4／4)　地山粒(小)20％混入。
4　黄橙色土(10YR7／8)　しまりあり。地山とほとんど同じだが、褐色土(10YR4／6)ブロックが１個混入。
5　黄橙色土(10YR7／8)　しまりあり。地山とほとんど同じだが、褐色土(10YR4／4)　粒子(小)2～3％混入。
6　黄褐色土(10YR5／8)　しまりあり。地山とほとんど同じだが、褐色土(10YR4／4)細粒１％未満混入。4層、5層よりやや暗い。
7　明黄褐色土(10YR6／8)　しまり有り。

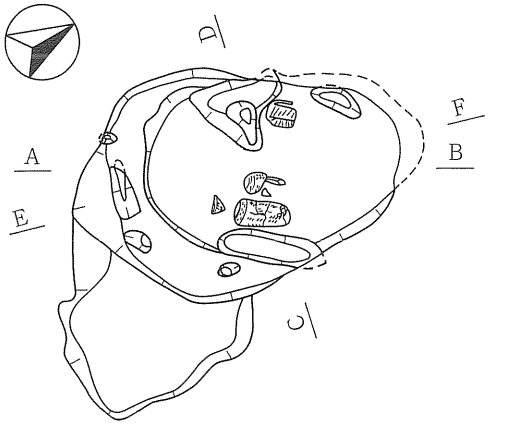


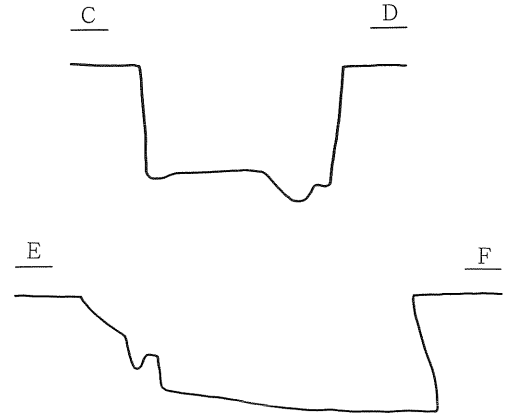
2(379－1)

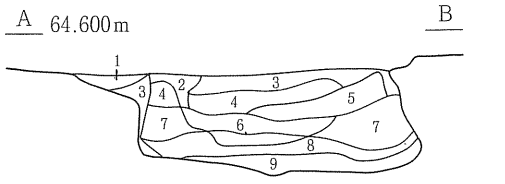


3(379－2)
SKS386出土土器と接合

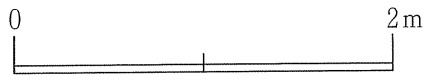
第106図　SKS 377・SKS 379 土壙墓とその出土遺物

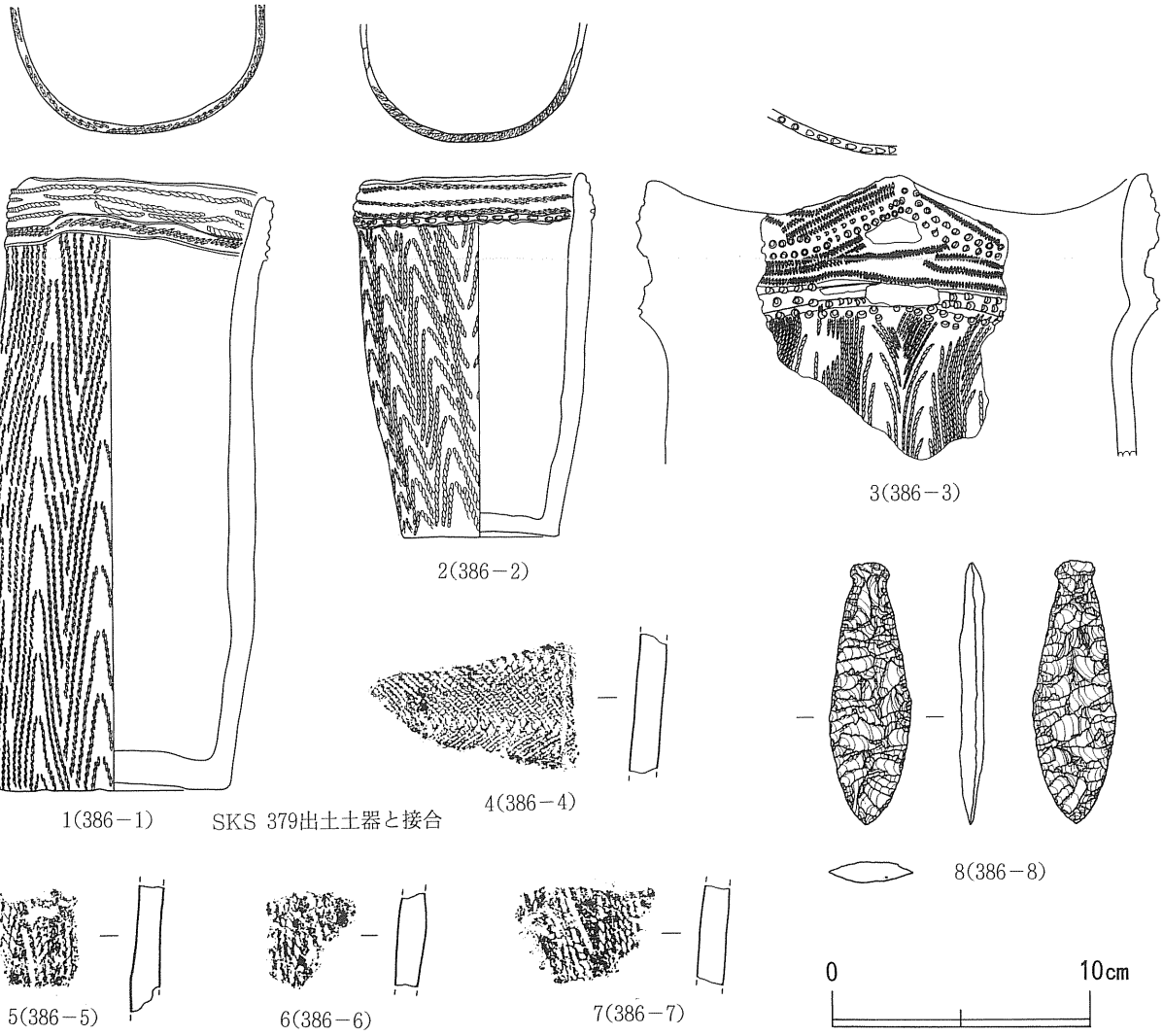






【SKS 386】
1　黒褐色土(10YR3／2) 地山塊混入。
2　黒色土(10YR2／1) 地山粒・塊混入。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒少量混入。
4　にぶい黄褐色土(10YR5／4) 地山粒若干混入。
5　明黄褐色土(10YR6／6) 地山軽石粒混入。
6　にぶい黄褐色土(10YR5／4) 炭化物少量混入。
7　明黄褐色土(10YR6／6) 地山の再堆積。
8　にぶい黄橙色土(10YR6／4) 地山再堆積。
9　掘りすぎ





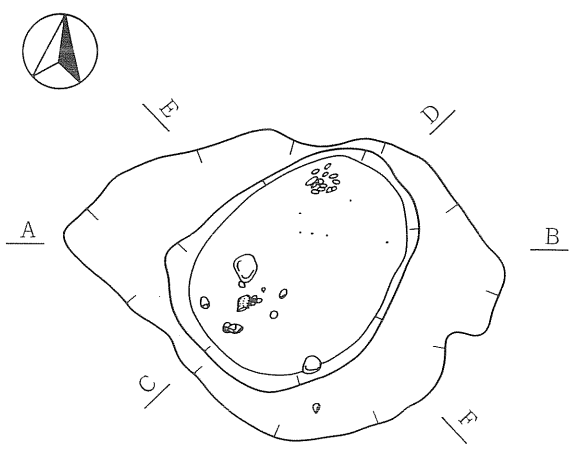
第107図　SKS 386 土壙墓とその出土遺物

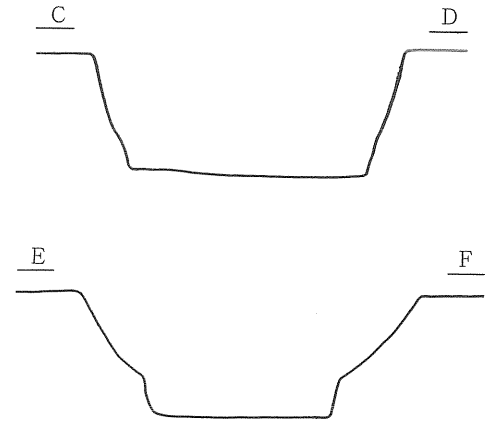
《埋　　土》　８層に分層した。埋土中位に炭化物を混入する層があるが、地山粒・塊の混入する層が多い。
《底　　面》　やや凹凸がある。壁際の３カ所に細長い窪みがある。
《遺　　物》　埋土中から深鉢土器２個体（１・２）と、深鉢土器破片４点（３～７）、つまみ付きナイフ（石匙）１点（８）が出土した。深鉢土器（１）はＳＫＳ　379 土壙墓出土土器と接合した。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

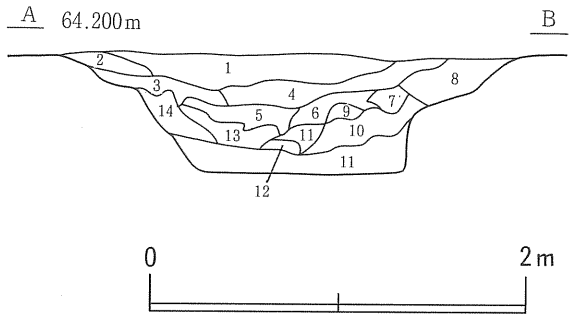
ＳＫＳ　387　土壙墓（第108図、図版77）
《位　　置》　ＭＴ60・61、ＮＡ60・61グリッドに位置する。
《確　　認》　不整な暗褐色～黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.40ｍ×短軸1.00ｍ、深さ62㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　周囲を広く斜めに掘り込んだあと楕円形に掘り窪めており、壁は外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　14層に分層した。
《底　　面》　ほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中からの出土である。中央西側と南側から礫５点と土器片９点（１～９）、北側壁近くで石鏃が13点（10～22）出土した。
《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　389　土壙墓（第109図）
《位　　置》　ＮＡ61グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の不整な円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.40ｍ×短軸0.82ｍ、深さ42㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　８層に分層した。地山粒・塊の混入が多い。
《底　　面》　やや凹凸があり、東側に窪みが多い。
《遺　　物》　埋土中から微細な土器片１点と礫１点が出土した。
《埋葬時期》　出土した土器片が微細で時期の特定はできないが、周囲の同形態の土壙墓から推測し縄文時代前期後葉と思われる。

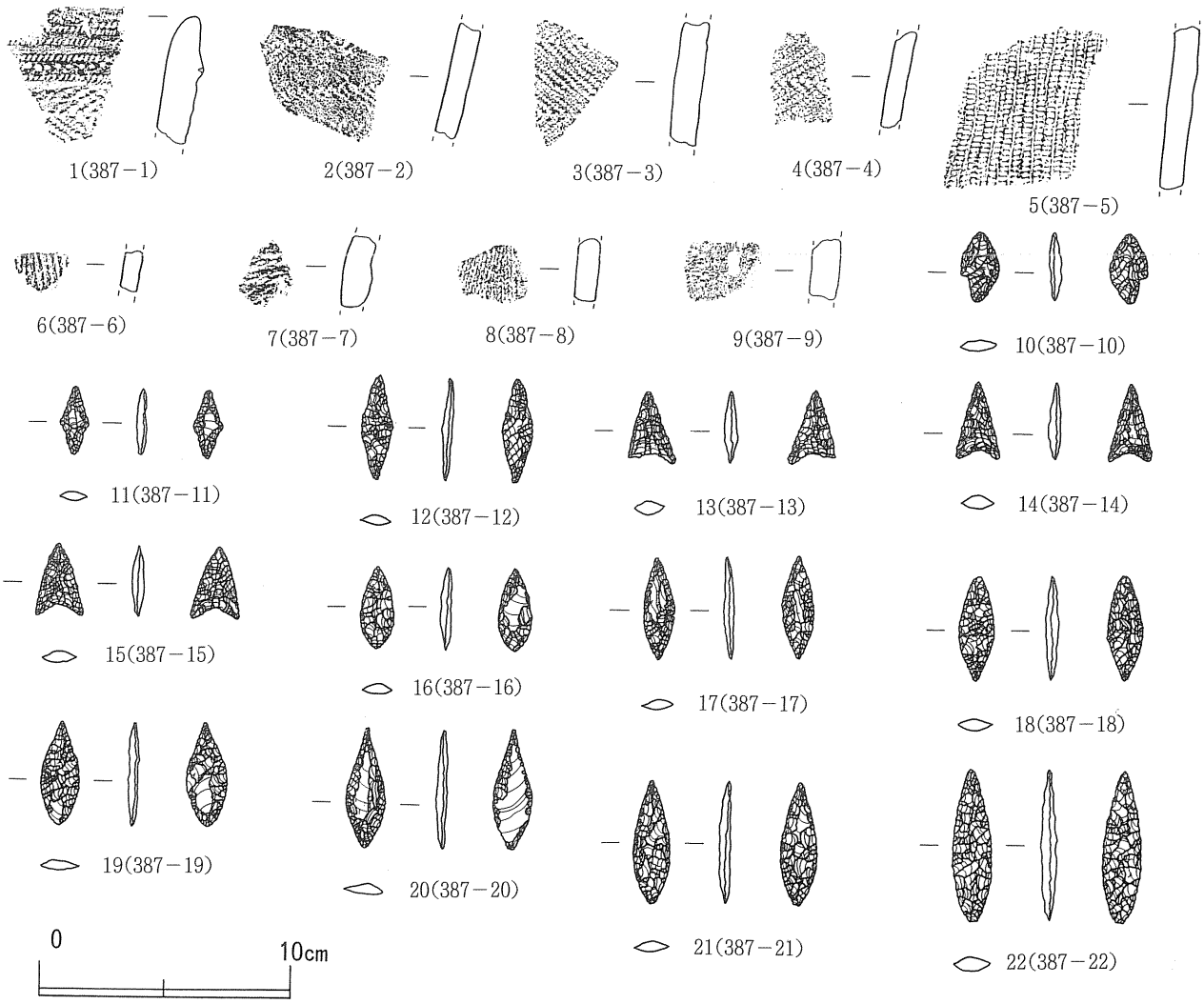
ＳＫＳ　391　土壙墓（第109図、図版78）
《位　　置》　ＮＣ60グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.40ｍ×短軸0.82ｍ、深さ56㎝。
《平 面 形》　楕円形である。







【SKS　387】
1　黒褐色土(10YR3／1)　地山塊(大)粗に混入。
2　黒褐色土(10YR3／2)　地山塊(巨大)粗に混入。
3　暗褐色土(10YR3／3)　地山塊(中)多量混入。
4　黒褐色土(10YR3／2)　地山塊(小)粗に混入。
5　黒褐色土(10YR2／3)　地山塊(小)少量混入。
6　黒褐色土(10YR2／3)　地山粒多量混入。
7　6に同じ。
8　黒褐色土(10YR3／2)　地山塊・粒多量に混入。
9　8に同じ。
10　黄橙色土(10YR8／6)
11　8に同じ。
12　10に同じ。
13　8に同じ。
14　明黄褐色土(10YR6／8)



第108図　SKS 387 土壙墓とその出土遺物

《断 面 形》　東側壁上部を広く斜めに掘り込んだあと楕円形に掘り窪めており、壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　12層に分層した。

《底　　面》　やや凹凸がある。

《遺　　物》　なし。

《埋葬時期》　遺物の出土がないため時期の特定はできないが、周囲の同形態の土壙墓から推測し縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　392　土壙墓（第110図、図版79）

《位　　置》　ＮＤ59グリッドに位置する。

《確　　認》　黄橙色～褐色土の不整な楕円形プランとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.78ｍ×短軸1.08ｍ、深さ30㎝。

《平 面 形》　不整な楕円形である。

《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　10層に分層した。黒褐色土の混入が多い。

《底　　面》　凹凸が激しい。

《遺　　物》　底面から深鉢土器１個体と石鏃１点が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　394　土壙墓（第111図、図版80・図版81）

《位　　置》　ＮＤ60グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.28ｍ×短軸1.06ｍ、深さ22㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形を呈する。

《断 面 形》　土圧のために壁の一部がオーバーハングしていたが、その他の壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　６層に分層された。

《底　　面》　ほぼ平坦である。

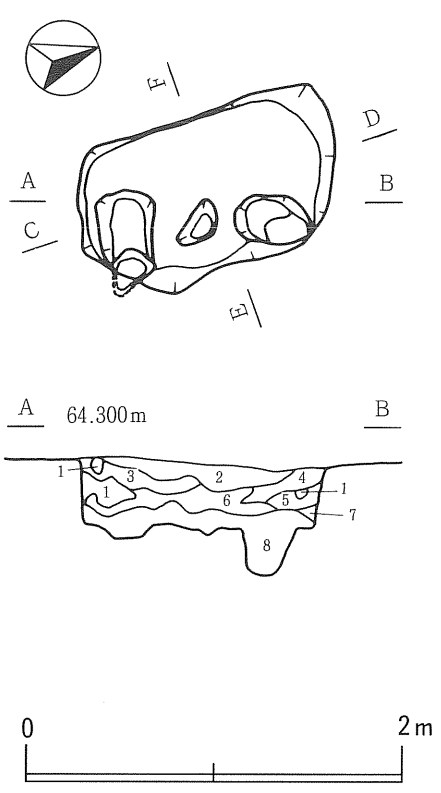
《遺　　物》　すべて埋土中からの出土である。深鉢土器２個体は中央南側から、石鏃10点のうち４点は北側壁際、１点は北東側壁際、残る５点は中央部から土器周辺、石匙１点は中央部から、擦切磨製石斧１点は中央西側から出土した。

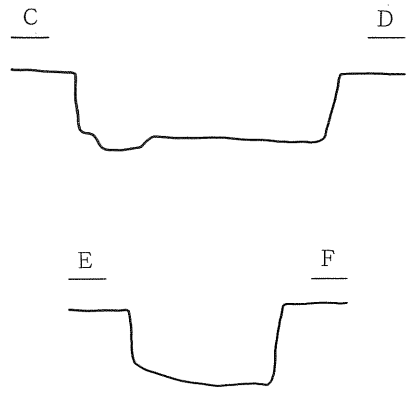
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　401　土壙墓（第112図）

《位　　置》　ＮＡ55グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土のヒョウタン型の落ち込みとして確認した。

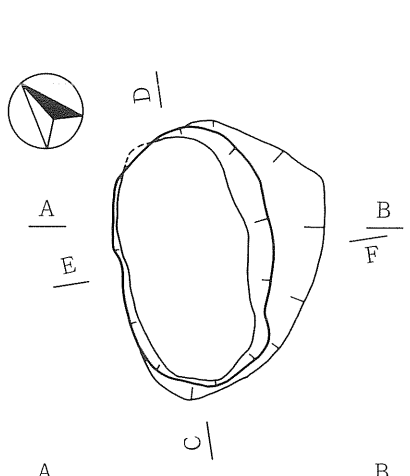


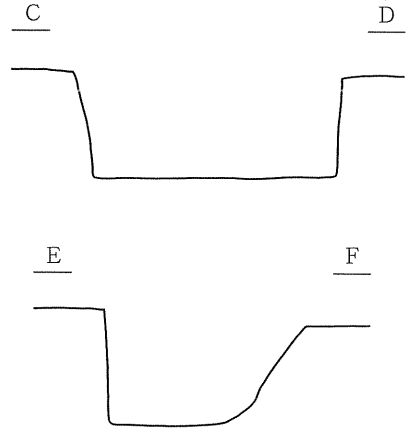


【SKS 389】
1 攪乱
2 黒褐色土(10YR3／2) 地山小塊多量混入。
3 黒褐色土(10YR2／2) 地山中粒塊多量混入。
4 黒褐色土(10YR2／2) 地山粒・塊多量混入。
5 黒褐色土(10YR3／2) 地山粒多量混入。
6 にぶい黄褐色(10YR4／3) 軟質。
7 黒褐色土(10YR2／2)
8 にぶい黄褐色土(10YR4／3) 地山粒多量混入。

SKF389

SKF391





【SKS 391】
1 黒褐色土(10YR2／3) 地山粒(小) 5 %混入。
2 黒褐色土(10YR2／2) 地山粒(極小)2～3%混入。
3 黄褐色土(10YR5／8) 地山主体で黒褐色土(10YR2／3) 5 %混入。ややしまり有り。
4 黒褐色土(10YR2／3) 地山粒(小～大)20%混入。
5 褐色土(10YR4／6) 地山小粒、暗褐色土(10YR3／4)大塊20%混入。ややしまり有り。
6 黒褐色土(10YR3／2) 地山粒(極小～小)10%混入。
7 褐色土(10YR4／6) 5層と似るが地山粒(小)混入度が 5 %と低い。
8 褐色土(10YR4／6) 地山粒(小)2～3%混入。
9 黄橙色土(10YR7／8) 地山に、暗褐色土(10YR3／4)の大塊2～3%混入。
10 黄橙色土(10YR7／8) 地山に、暗褐色土(10YR3／4)の極小粒2～3%混入。
11 黄橙色土(10YR7／8) ブロック。
12 黄橙色土(10YR6／8) 地山に、暗褐色土(10YR3／4)の極小粒 1 %混入。

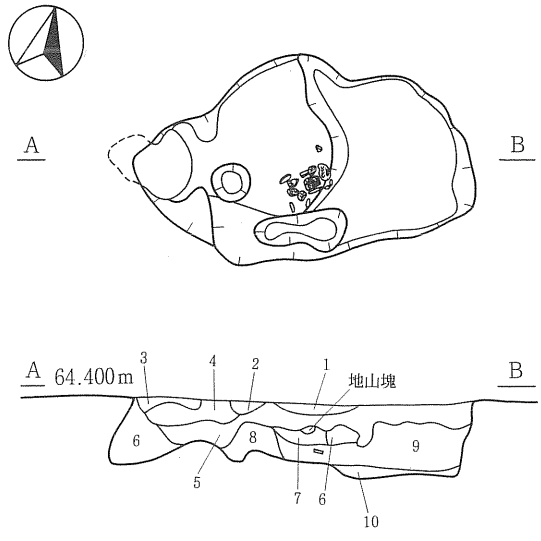
第109図　SKS 389・SKS 391 土壙墓

《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸0.82ｍ×短軸0.54ｍ、深さ52㎝。
《平 面 形》　ヒョウタン型である。
《断 面 形》　土圧のために壁がオーバーハングしており、袋状を呈する。
《埋　　土》　６層に分層した。炭化物の混入が見られた。
《底　　面》　ほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中から土器片が６点出土したが、同一個体の可能性が高い。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

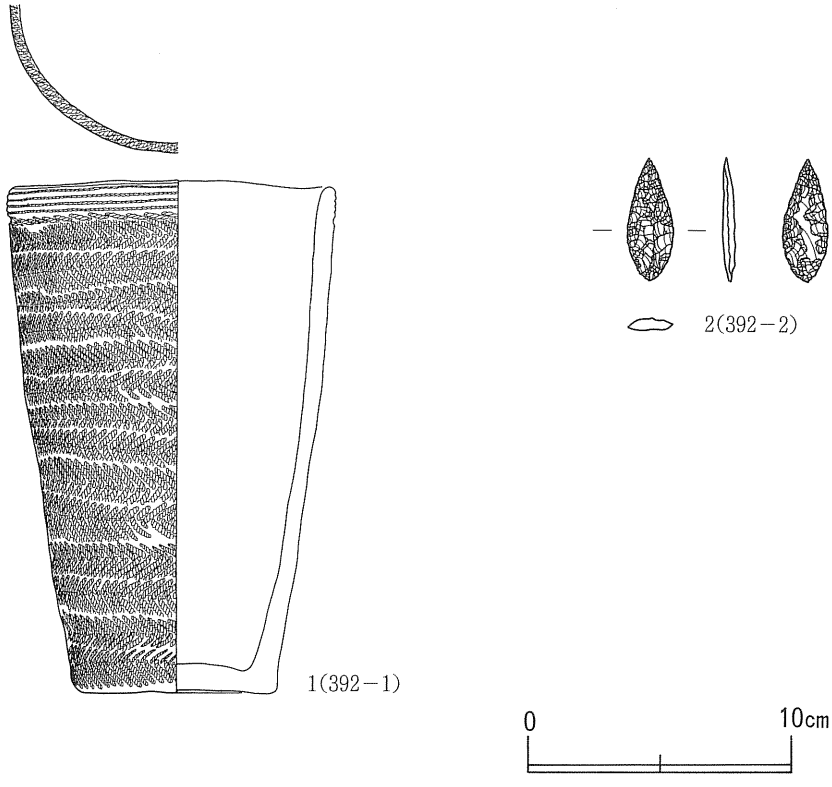
ＳＫＳ　404　土壙墓（第112図）
《位　　置》　ＮＣ53、ＮＤ53グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸2.00ｍ×短軸1.02ｍ、深さ18㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　壁は緩やかに外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　８層に分層した。炭化物と地山粒の混入が多い。
《底　　面》　凹凸が激しい。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物がなく不明であるが、周囲の同形態の土壙墓から推測し縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　408　土壙墓（第113図、図版82・図版83）
《位　　置》　ＮＣ59グリッドに位置する。
《確　　認》　黄褐色土の不整な落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.26ｍ×短軸1.18ｍ、深さ18㎝。
《平 面 形》　不整な方形である。
《断 面 形》　壁は緩やかに外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　７層に分層された。
《底　　面》　やや凹凸がある。
《遺　　物》　埋土中から出土した。石鏃14点のうち13点は北東壁際にまとまり、１点が少し離れた壁際で、つまみ付きナイフ（石匙）１点が中央からやや南西側に出土した。土器片も１点出土したが極めて微小で時期を特定できない。
《埋葬時期》　出土した土器からは時期の特定は困難であるが、周囲の同形態の土壙墓から推測し縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　409　土壙墓（第114図）
《位　　置》　ＮＣ59グリッドに位置する。
《確　　認》　暗褐色土の不整な落ち込みとして確認した。



【SKS 392】
1　黒色土(10YR2／1) 地山粒(極小～大) 5％混入。
2　褐色土(10YR4／6) 地山主体＋黒色土(10YR2／1)
3　黄橙色土(10YR7／8) 地山に黒色土(10YR2／1)が20%混入。
4　黄褐色土(10YR7／8) 地山に黒褐色土(10YR10YR2／3)が15%混入。
5　黒色土(10YR2／1) 地山粒(極小～大) 30%混入。
6　黄橙色土(10YR7／8) に黒褐色土(10YR2／3)が15%混入。
7　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒(極小～大)30%混入。
8　黄橙色土(10YR7／8) 地山に、黒褐色土(10YR2／3)が１%混入。
9　黄橙色土(10YR7／8) 地山に、黒褐色土(10YR2／3)の中粒１%、
　　ブロック大１%混入。
10　黄橙色土(10YR7／8) 地山に、黒褐色土(10YR2／3)の小～中粒１%混入。



第110図　SKS 392 土壙墓とその出土遺物

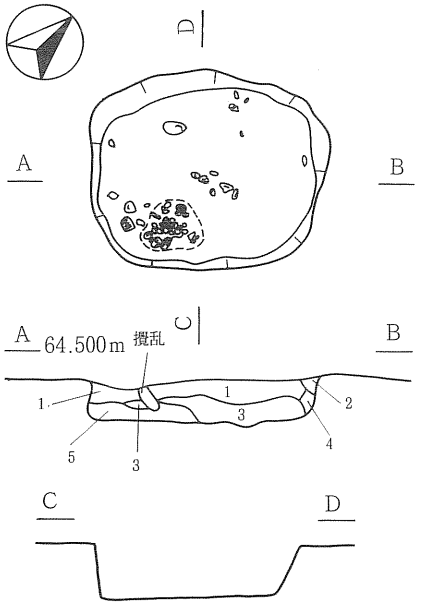
《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.54ｍ×短軸1.00ｍ、深さ8㎝。

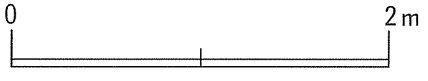
《平 面 形》　不整な楕円形である。

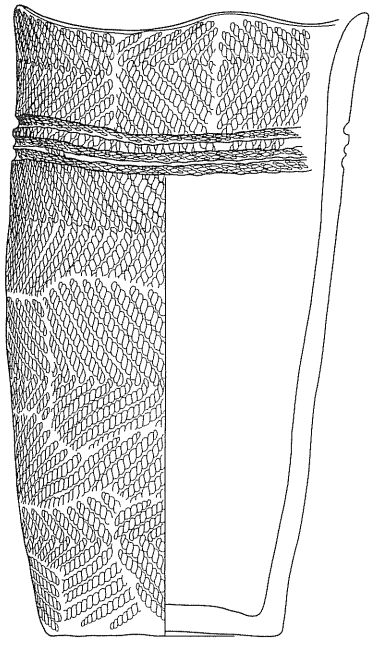
《断 面 形》　壁は大きく外傾して立ち上がっていた。

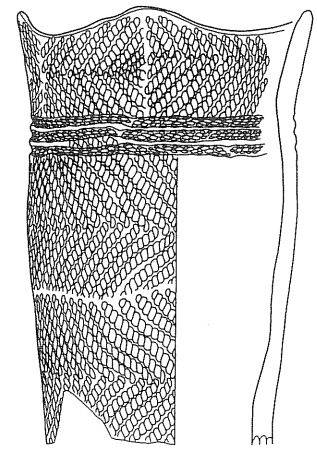
《埋　　土》　11層に分層したが、土層の注記をする前に土層観察用ベルトを撤去してしまい、土色・土性等は不明である。

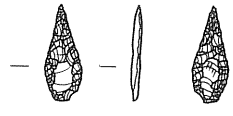


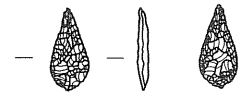
【SKS　394】
1　黒褐色土(10YR3／1)　地山粒・塊混入。軟らかい。
2　にぶい黄褐色(10YR4／3)　地山ブロック(巨)混入。
3　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒・塊多量混入。
4　明黄褐色土(10YR6／6)　地山粒・塊多量混入。
5　黒褐色土(10YR2／2)　地山粒を若干混入。軟らかい。
6　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　地山粒・炭化粒少量混入。

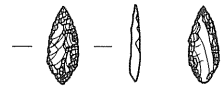


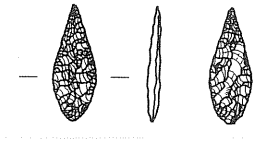

1(394－1)

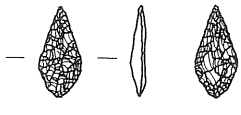

2(394－2)

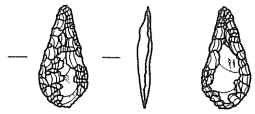

3(394－3)

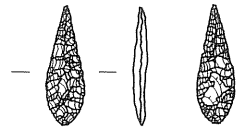

4(394－4)

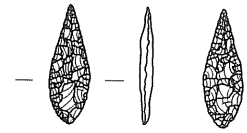

5(394－5)

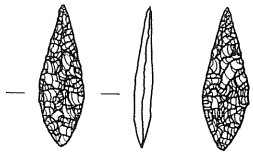

6(394－6)

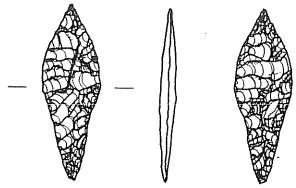

7(394－7)

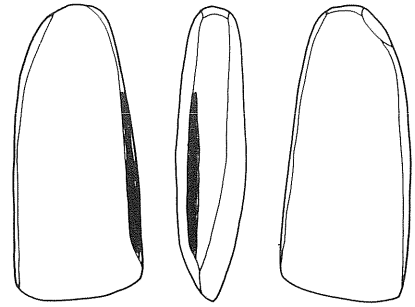

8(394－8)

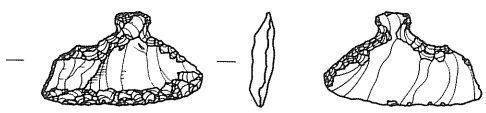

9(394－9)

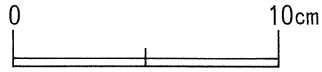

10(394－10)


11(394－11)

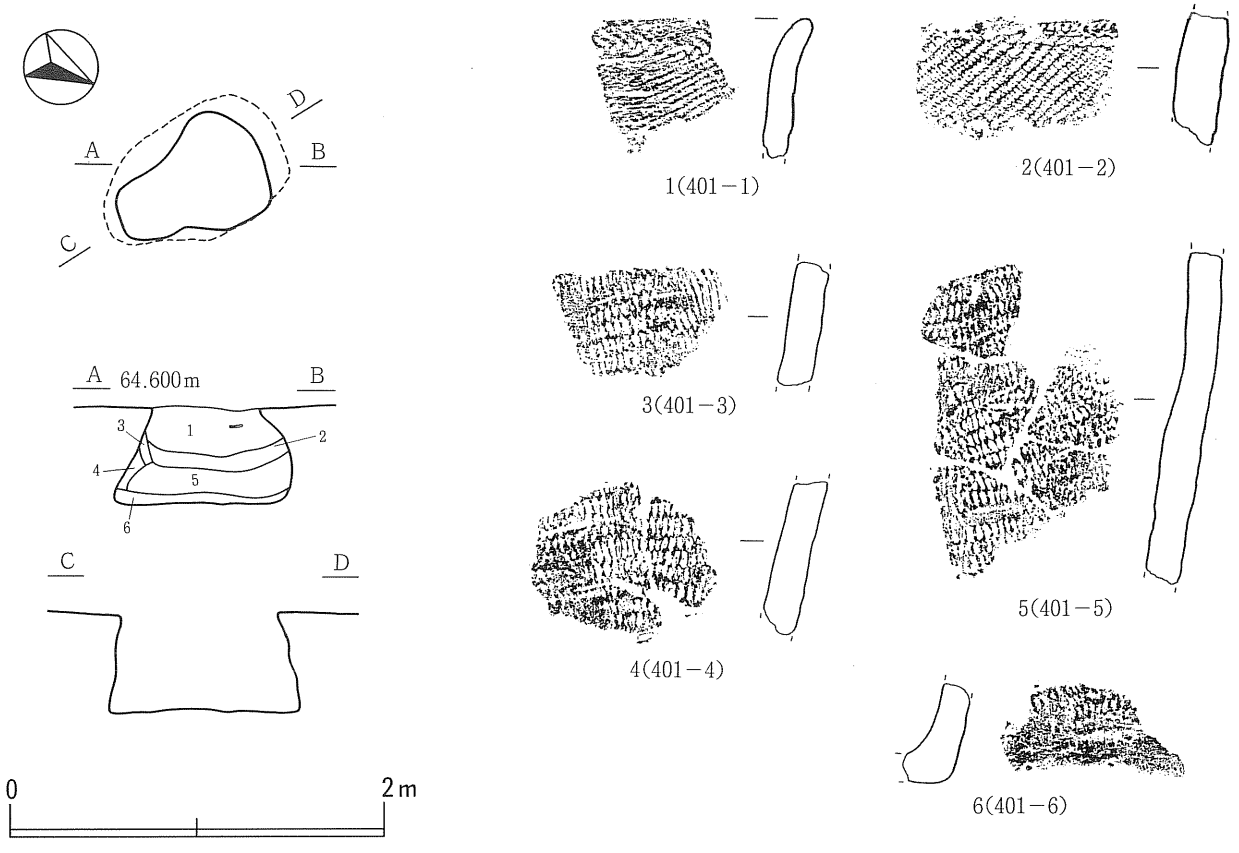

12(394－12)


14(394－14)


13(394－13)



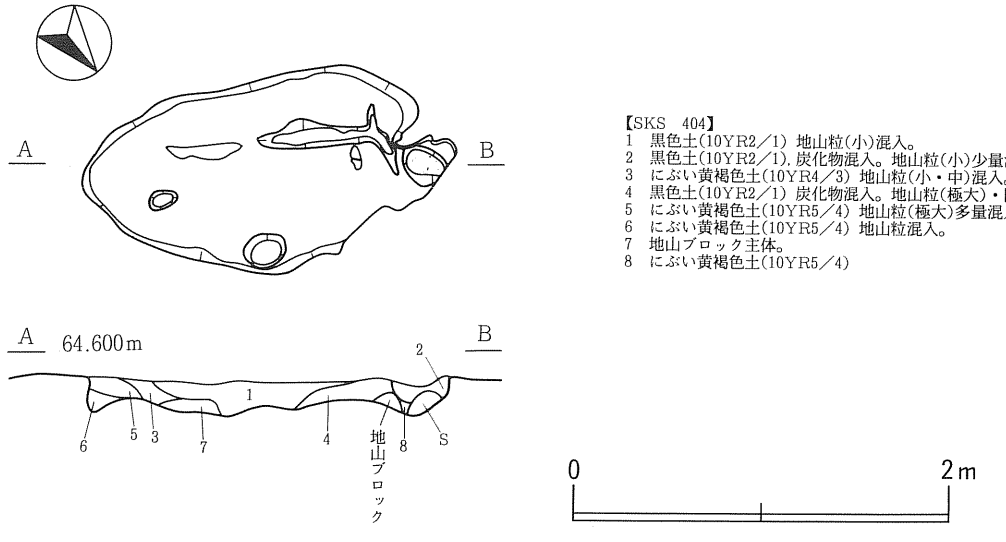
第111図　SKS 394 土壙墓とその出土遺物



【SKS　401】
1　黒褐色土(10YR3／1) 炭化物、地山粒粗に混入。
2　黒色土(10YR1.7／1) 強粘性。
3　黒褐色土(10YR3／2) 地山粒粗に混入。
4　黒褐色土(10YR2／2) サラサラ。地山粒混入。
5　暗褐色土(10YR3／4) 炭化物少量、地山粒多量混入。
6　灰黄褐色土(10YR4／2) 強粘性。地山塊少量混入。

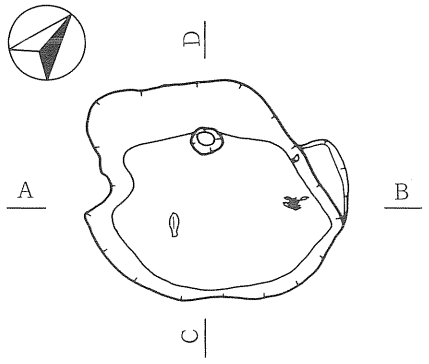
SKS401

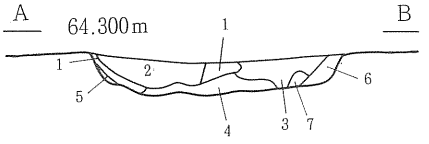
SKS404

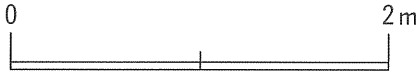


【SKS　404】
1　黒色土(10YR2／1) 地山粒(小)混入。
2　黒色土(10YR2／1), 炭化物混入。地山粒(小)少量混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR4／3) 地山粒(小・中)混入。
4　黒色土(10YR2／1) 炭化物混入。地山粒(極大)・同ブロック多量混入。
5　にぶい黄褐色土(10YR5／4) 地山粒(極大)多量混入。
6　にぶい黄褐色土(10YR5／4) 地山粒混入。
7　地山ブロック主体。
8　にぶい黄褐色土(10YR5／4)

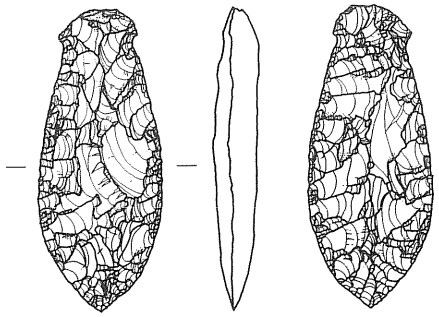
第112図　SKS 401・SKS 404 土壙墓とその出土遺物



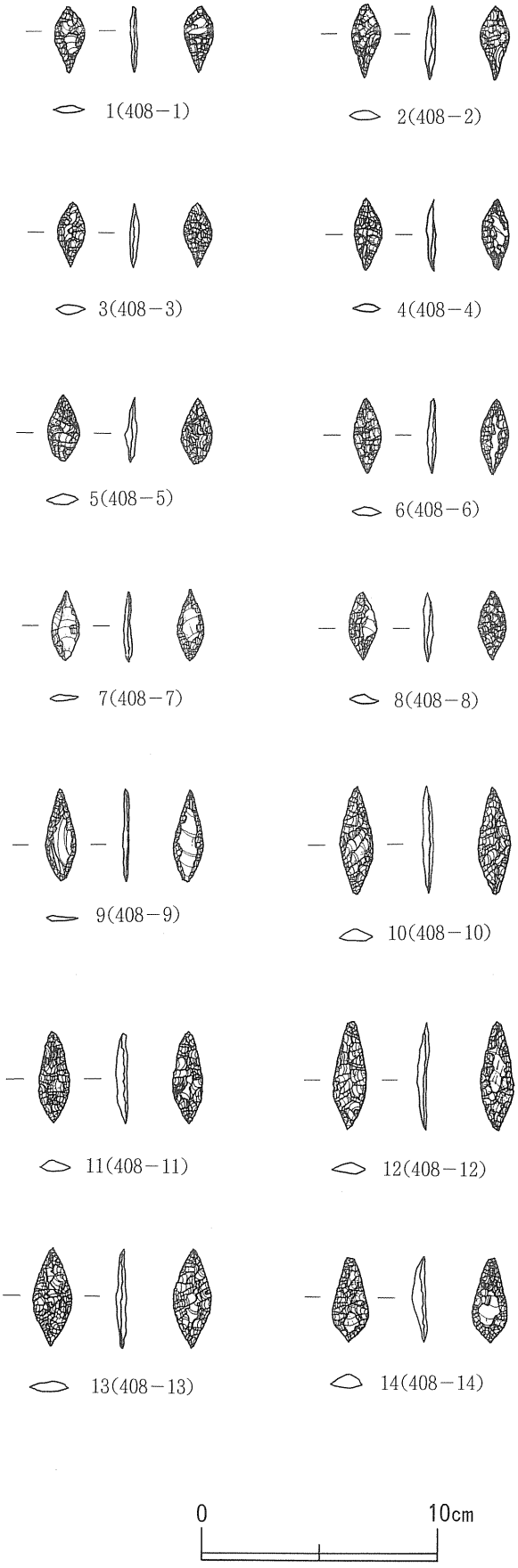




【SKS　408】
1　にぶい黄褐色土(10YR4／3)　地山粒少量混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR5／4)　地山粒・塊多量混入。
3　明黄褐色土(10YR6／6)　地山粒・塊多量混入。
4　明黄褐色土(10YR7／6)　地山粒・塊多量混入。
5　にぶい黄橙色土(10YR6／4)　地山粒・塊多量混入。
6　4に同じ。
7　黒褐色土(10YR2／2)　軟質。



15(408－15)



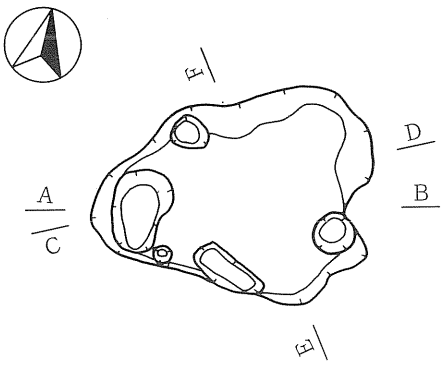
第113図　SKS 408 土壙墓とその出土遺物

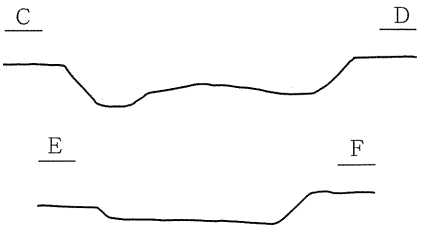
《底　　面》　凹凸がある。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物の出土はないが、周囲の同形態の土壙墓と同じく縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　412　土壙墓（第114図、図版84）
《位　　置》　ＭＴ62･63、ＮＡ62･63グリッドに位置する。
《確　　認》　黄褐色土の隅丸長方形プランとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.88ｍ×短軸1.42ｍ、深さ18㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《断 面 形》　中央部がやや窪んでおり、壁はやや外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　５層に分層した。地山粒･塊の混入が多い。
《底　　面》　中央部がやや窪み、壁際に凹凸がある。
《遺　　物》　底面からわずか（１～２㎝）に離れた状態で埋土中から出土した。南東側で石匙が１点と小礫１点、北側壁寄りで擦切磨製石斧が１点、中央やや北西で石槍が１点出土した。
《埋葬時期》　土器の出土はないが、周囲の同形態の土壙墓と同じく縄文時代前期後葉と思われる。

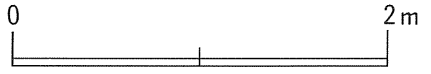
ＳＫＳ　414　土壙墓（第115図、図版85）
《位　　置》　ＮＡ62グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.20ｍ×短軸0.78ｍ、深さ52㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　周囲を浅く掘り窪めてから楕円形に掘り下げていた。壁はやや外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　６層に分層した。地山土の再堆積（埋め戻し）と考える。
《底　　面》　やや凹凸がある。
《遺　　物》　底面からわずかに離れた埋土中からの出土が多い。深鉢土器１点は中央からやや南東側に横倒して出土した。くぼみ石１点は西側から、礫３点は北側に１点、南側に２点の出土である。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　415　土壙墓（第115図）
《位　　置》　ＮＡ62グリッドに位置する。
《確　　認》　不整なにぶい黄褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.24ｍ×短軸0.96ｍ、深さ12㎝。
《平 面 形》　不整な楕円形である。
《断 面 形》　壁は部分的に袋状を呈していた。
《埋　　土》　10層に分層した。



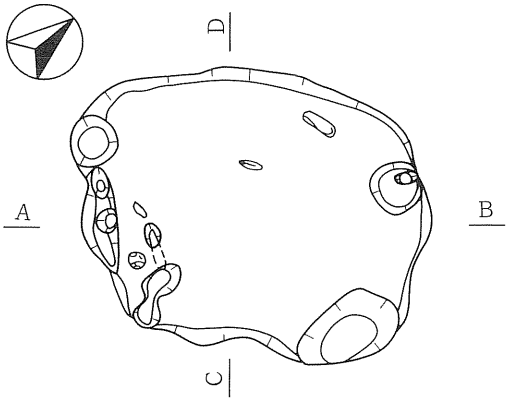


【SKS 409】
1　暗褐色土(7.5YR3／3) 地山粒・炭多く混入。しまり強く、粘性なし。
2　黒褐色土(7.5YR3／2) 地山粒・炭多く混入。しまりやや弱く、粘性若干有り。
3　にぶい黄褐色土(10YR4／3) 地山粒多く、炭少量混入。しまり強く、粘性なし。
4　褐色土(7.5YR4／4) 地山塊(小)やや多く、炭少量混入。しまり強い。
K　撹乱

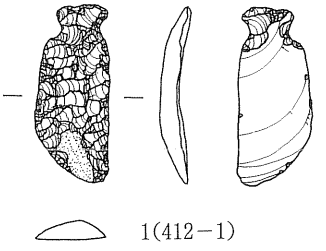


SKS409

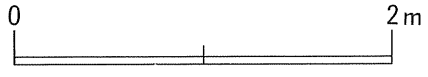
SKS412

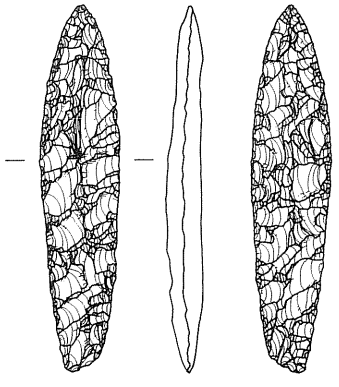


【SKS 412】
1　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒混入。
2　にぶい黄橙色土(10YR6／4) 地山粒多量。
3　にぶい黄褐色土(10YR5／3) 地山粒・塊多量混入。
4　黒褐色土(10YR3／2) 地山塊少量混入。
5　黒褐色土(10YR2／2) 堅緻。

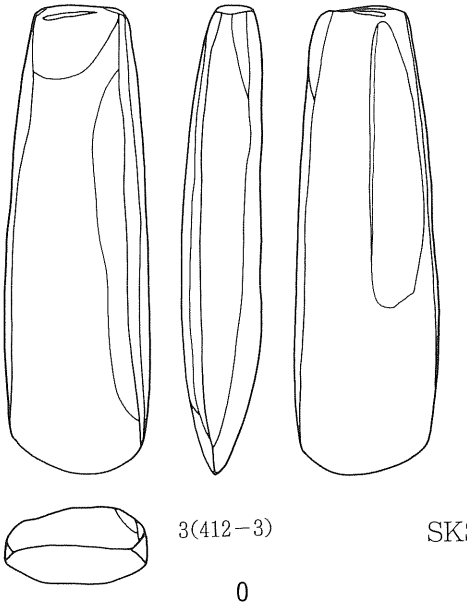


1(412－1)



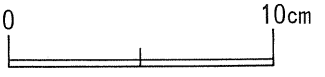


2(412－2)

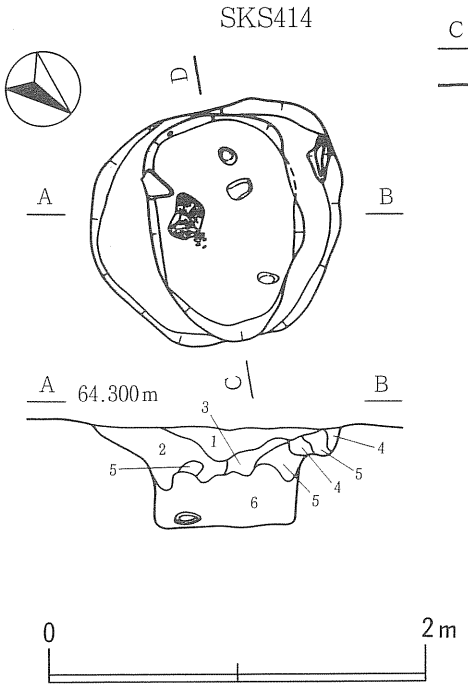


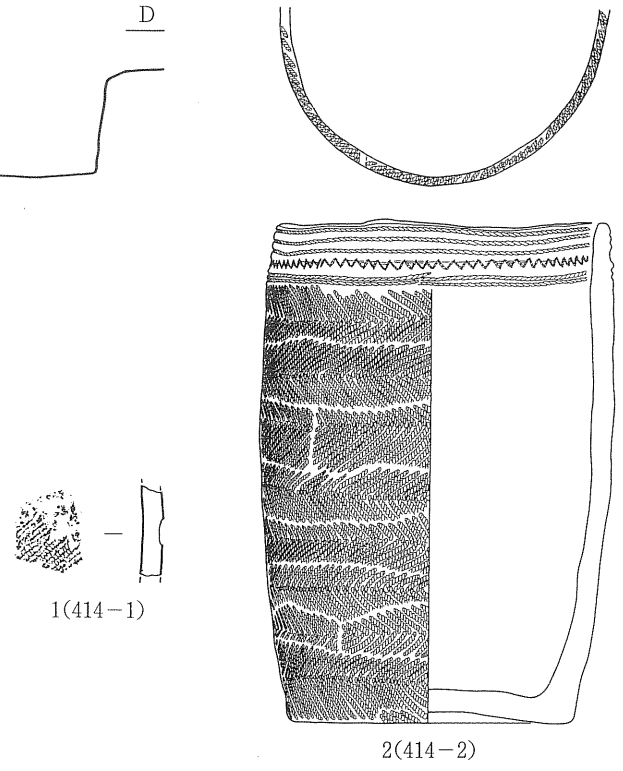
3(412－3)

SKS412

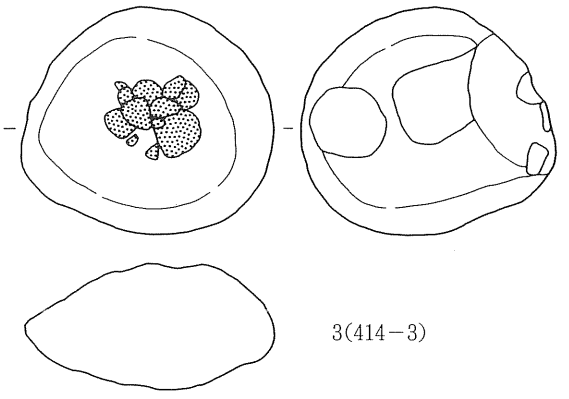


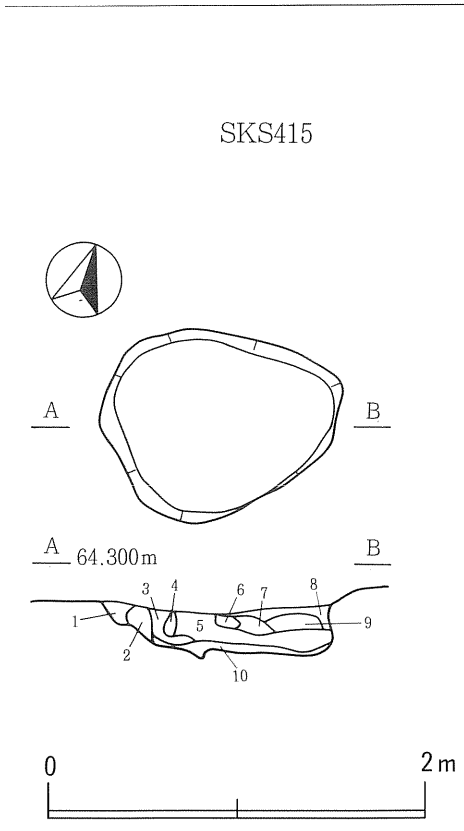
第114図　SKS 409・SKS 412 土壙墓とその出土遺物





【SKS　414】
1　黒褐色土(10YR3／2) 地山少量混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR6／4)
3　にぶい黄橙色土(10YR6／4)
4　にぶい黄褐色土(10YR5／3) サラサラ。
5　黄橙色土(10YR8／6)
6　にぶい黄橙色土(10YR7／4)





【SKS　415】
1　にぶい黄褐色土(10YR4／3) サラサラ。
2　浅黄橙色土(10YR8／4) シラス。
3　にぶい黄褐色土(10YR5／3)
4　明黄褐色土(10YR7／6)
5　明黄褐色土(10YR7／6) 地山粒・塊、軽石塊混入。
6　黒褐色土(10YR3／2)
7　明黄褐色土(10YR6／6) 軽石粒多量混入。
8　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒・塊混入。
9　明黄褐色土(10YR6／8) 地山粒・塊多量混入。
10　にぶい黄橙色土(10YR7／4) 軟質。

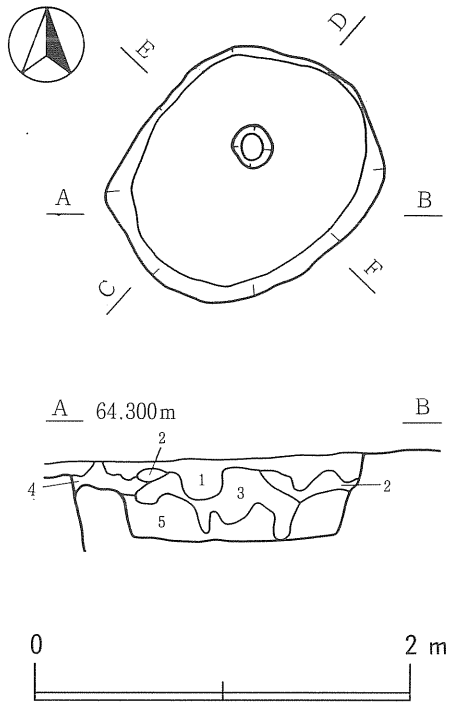
第115図　SKS 414・SKS 415 土壙墓とその出土遺物

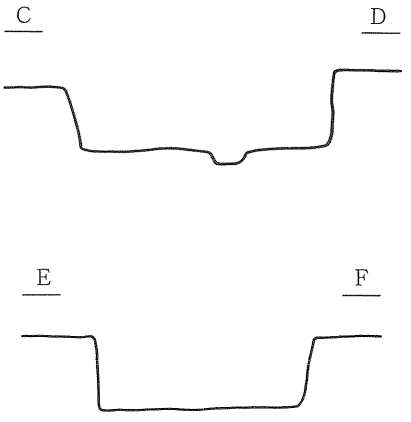
《底　　面》　やや凹凸がある。
《遺　　物》　埋土中から極めて微小な土器片２点と、礫１点が出土した。
《埋葬時期》　土器からは時期の特定は困難であるが、周囲の同形態の土壙墓と同じく縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　416　土壙墓（第116図）
《位　　置》　ＮＡ63グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＫＦ 417 フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は本土壙墓が古い。
《規　　模》　長軸1.46ｍ×短軸1.18ｍ、深さ42㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　壁はやや外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　５層に分層した。
《底　　面》　ほぼ平坦である。中央やや北寄りに柱穴様ピットが１カ所ある。
《遺　　物》　礫が１点出土した。
《埋葬時期》　周囲の同形態の土壙墓と同じく縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　424　土壙墓（第116図）
《位　　置》　ＮＢ61グリッドに位置する。
《確　　認》　平安時代のＳＩ 395竪穴住居跡の床面で黒色～暗褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　平安時代のＳＩ 395竪穴住居跡と重複している。
《規　　模》　長軸1.06ｍ×短軸0.84ｍ、深さ10㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《断 面 形》　壁はやや外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　４層に分層した。
《底　　面》　やや凹凸がある。
《遺　　物》　底面から土器片１点と礫１点が出土した。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　427　土壙墓（第117図、図版86）
《位　　置》　ＮＢ59、ＮＣ59グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色～暗褐色土の不整な楕円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.56ｍ×短軸0.92ｍ、深さ30㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《断 面 形》　壁はやや外傾して立ち上がっていた。
《埋　　土》　４層に分層した。
《底　　面》　凹凸がある。
《遺　　物》　埋土中から深鉢土器１個体と礫１点が出土した。

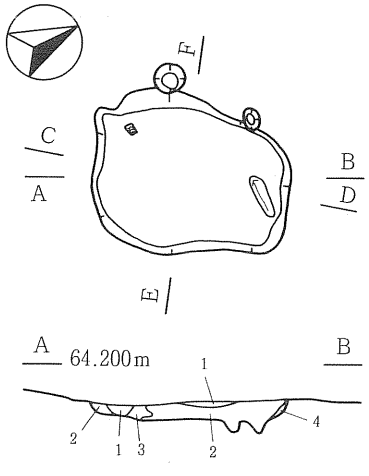


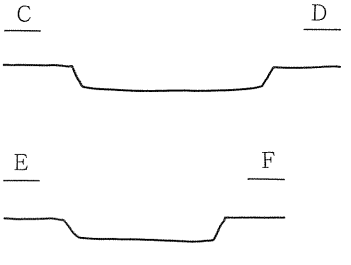


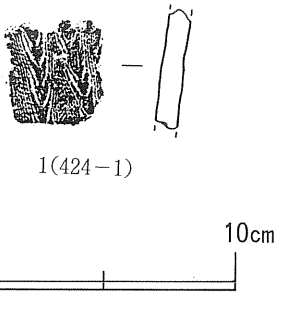
【SKS 416】
1　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒混入。
2　にぶい黄褐色土(10YR4／3) 地山粒混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR6／3) 地山塊多く混入。
4　黒褐色土(10YR2／2) パサパサ。
5　明黄褐色土(10YR6／6) かたい。底面にピットあり。

SKS416

SKS424







【SKS 424】
1　黒褐色土(10YR3／1) 地山粒多量混入。
2　暗褐色土(10YR3／4) 地山粒多量混入。
3　にぶい黄褐色土(10YR5／3) 地山ブロック。
4　にぶい黄橙色土(10YR7／3) 軟らかい。

第116図　SKS 416・SKS 424 土壙墓とその出土遺物

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期中葉と思われる。

ＳＫＳ　429　土壙墓（第117図、図版87）

《位　　置》　ＮＤ58グリッドに位置する。

《確　　認》　上部を削平され黒色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.94ｍ×短軸1.10ｍ、深さ10㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　黒色土のみ。

《底　　面》　凹凸が激しい。

《遺　　物》　埋土中から土器片１点と擦切磨製石斧１点が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　430　土壙墓（第119図、図版88）

《位　　置》　ＮＢ60･61、ＮＣ60･61グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.70ｍ×短軸1.24ｍ、深さ52㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　７層に分層した。炭化物の混入する土層が多い。壁際に堆積した第７層は締まりがなく、木質物の腐朽したようにパサパサしていた。

《底　　面》　ほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多く、大きな礫は埋土上位に出土し、石器類は底面に近い下位に出土した。石鏃10点（１～10）は北側壁際に４点、北側壁近くに４点、中央部に２点が出土した。石錘２点（11･13）は中央部と南西壁際に、擦り石３点（12･14･15）は南西壁際と中央西寄りに、石皿破片（16）は南西壁際に出土した。

《埋葬時期》　遺物は出土しなかったが、周囲の土壙墓の状況から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　431　土壙墓（第119図･第120図、図版89･図版90）

《位　　置》　ＭＴ61、ＮＡ61グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の落ち込みとして確認した。

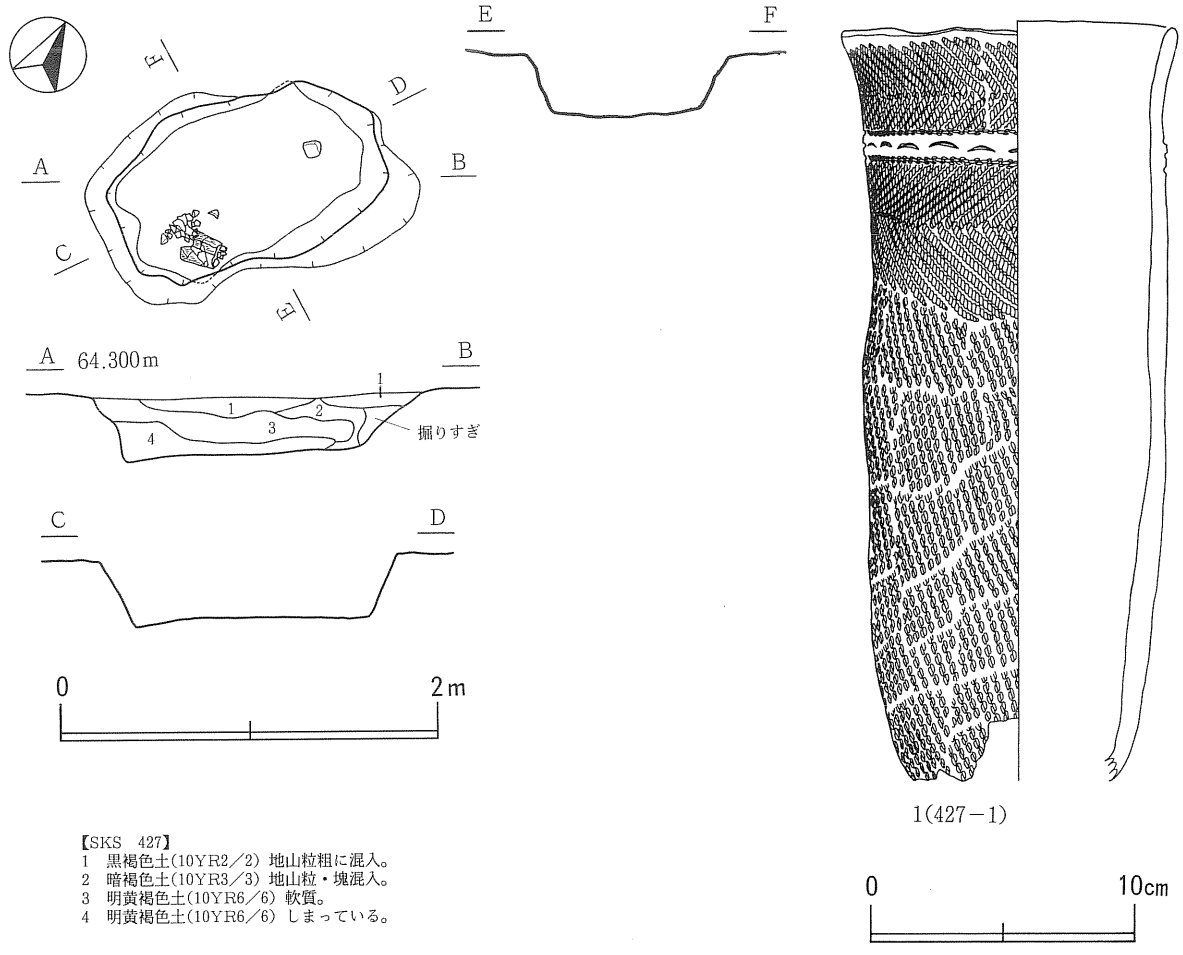
《重　　複》　平安時代のＳＩ 423 竪穴住居跡と重複している。

《規　　模》　長軸1.44ｍ×短軸1.14ｍ、深さ24㎝。

《平 面 形》　竪穴住居跡に南西側壁を破壊されているが、不整な隅丸長方形を呈する。

《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

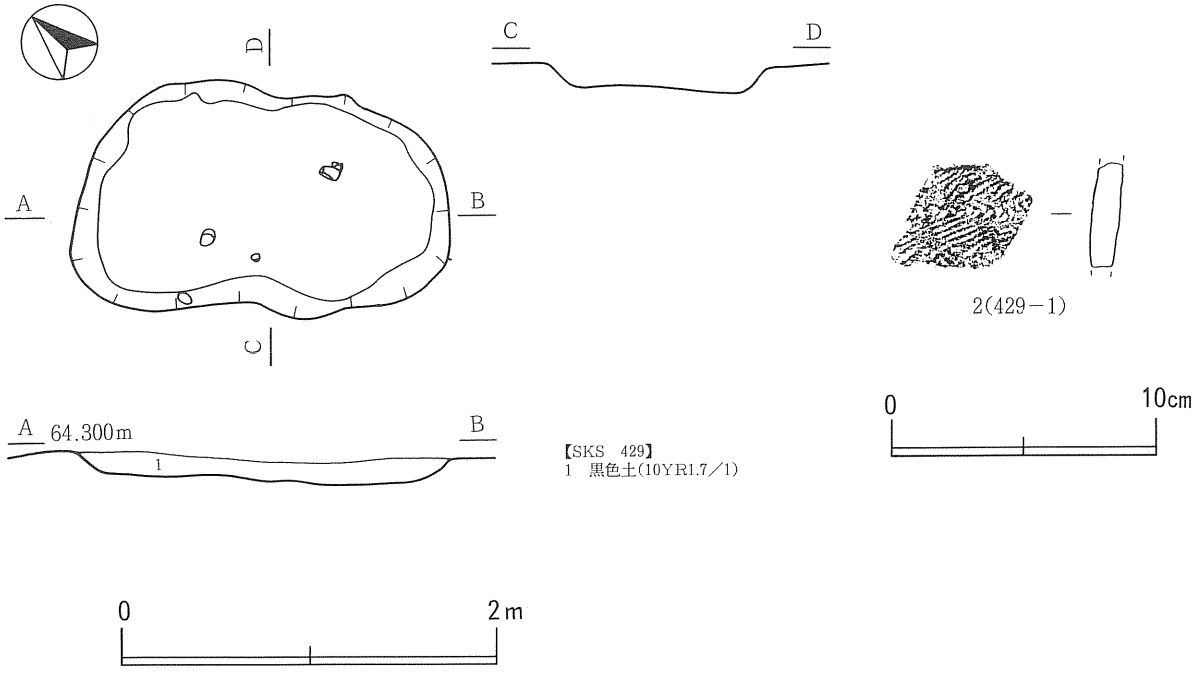
《埋　　土》　２層に分層した。上位の土層には地山粒の混入が多い。下位の土層は地山土の再堆積である。



【SKS　427】
1　黒褐色土(10YR2／2) 地山粒粗に混入。
2　暗褐色土(10YR3／3) 地山粒・塊混入。
3　明黄褐色土(10YR6／6) 軟質。
4　明黄褐色土(10YR6／6) しまっている。

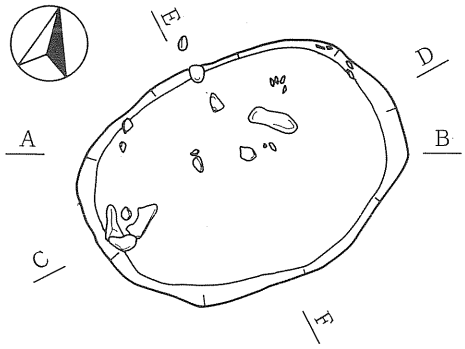
SKS427

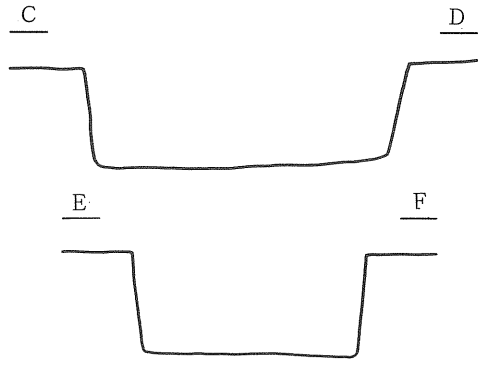
SKS429

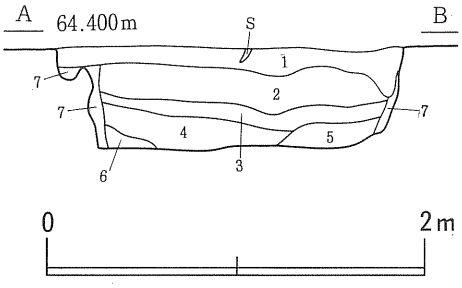


【SKS　429】
1　黒色土(10YR1.7／1)

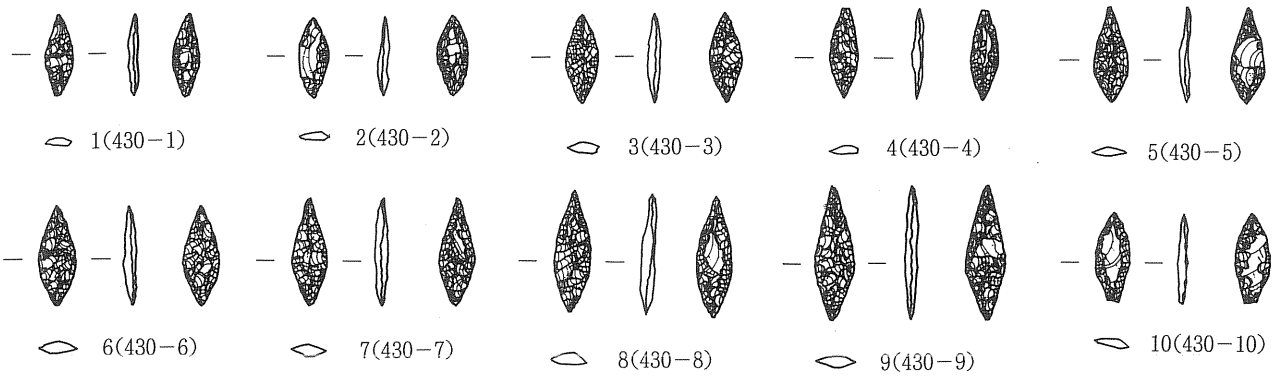
第117図　SKS 427・SKS 429 土壙墓とその出土遺物

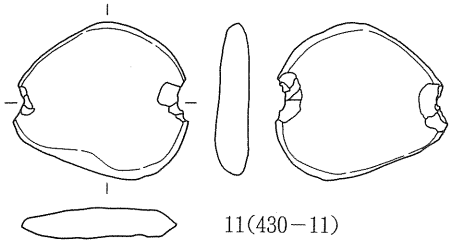


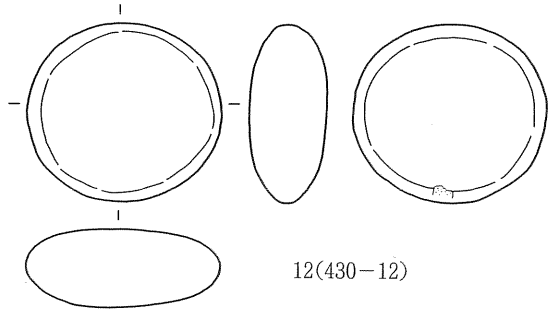


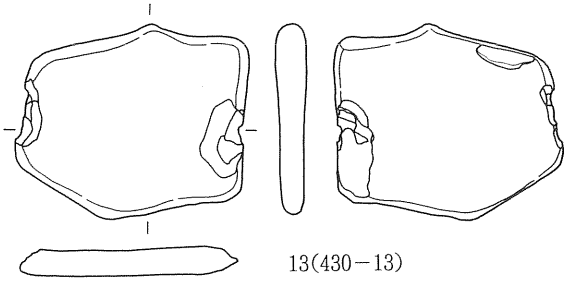


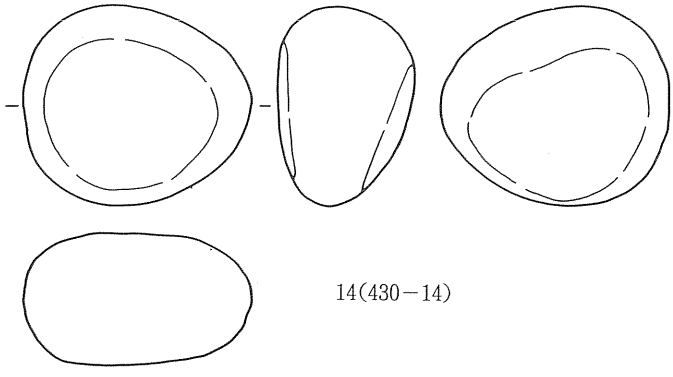
【SKS　430】
1　黒褐色土(10YR3／1) 炭化粒・地山粒少量混入。
2　明黄褐色土(10YR6／6) 炭化粒・地山粒少量混入。
3　明黄褐色土(10YR6／8) 炭化粒微量混入。地山塊多量混入。
4　にぶい黄褐色土(10YR5／4) 地山粒・塊(中)多量混入。
5　黄褐色土(10YR5／6) 地山塊(大)多量混入。
6　黄褐色土(10YR5／8) 地山塊多量混入。
7　褐色土(10YR4／4) パサパサ。

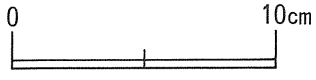




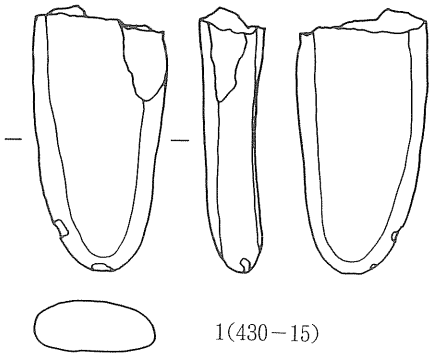




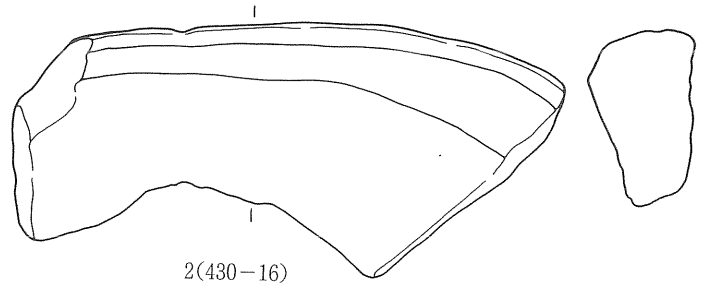




第118図　SKS 430 土壙墓とその出土遺物



1(430－15)

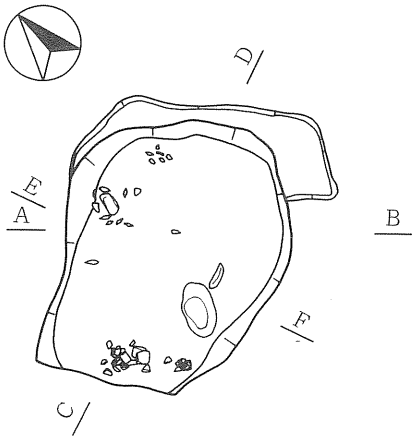


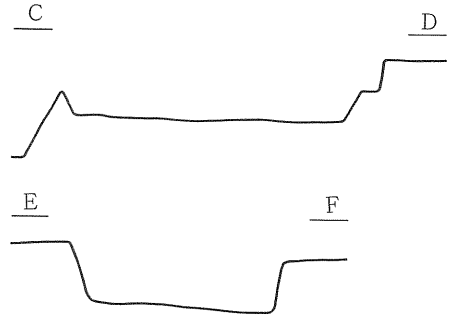
2(430－16)

0　10cm

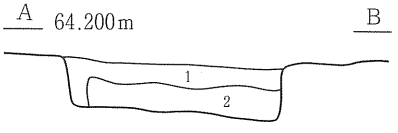
SKS430 出土遺物

SKS431

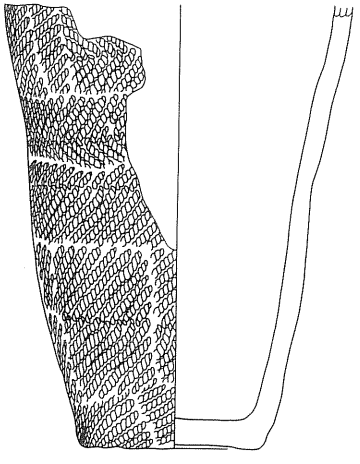




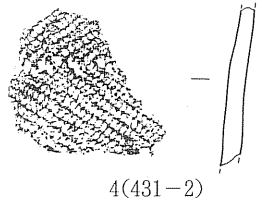
【SKS　431】
1　黒褐色土(10YR3／1)　地山粒多量混入。
2　明黄褐色土(10YR6／6)　しまり有り。



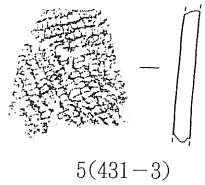
0　2m



3(431－1)

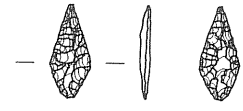


4(431－2)



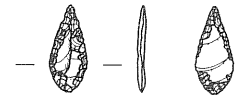
5(431－3)

6(431－4)

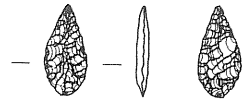


7(431－5)

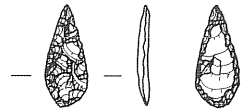
8(431－6)



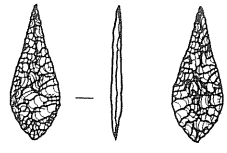
9(431－7)



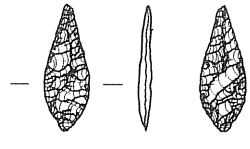
10(431－8)



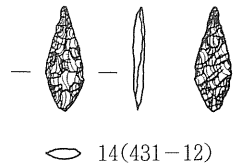
11(431－9)



12(431－10)



13(431－11)



14(431－12)

0　10cm

第119図　SKS 430・SKS 431 土壙墓とその出土遺物

《底　　面》　やや凹凸がある。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。南西側に深鉢土器（１）と破片２点（２・３）、石匙２点（17・18）拳大と偏平な礫、南東側に石槍１点（15）が、北側と北東側に石鏃11点（４～14）と磨製石斧１点（16）、偏平な礫が出土し、北西側にも偏平な礫が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　432　土壙墓（第120図）

《位　　置》　ＭＴ61グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の不整な長方形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.22ｍ×短軸0.92ｍ、深さ30㎝。

《平 面 形》　不整長方形である。

《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　４層に分層した。地山粒の混入が多い。

《底　　面》　底面が２段になっていた。各面はほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土中からの出土が多い。同一個体と思われる深鉢土器片５点と拳大の礫１点が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　435　土壙墓（第121図）

《位　　置》　ＮＢ61グリッドに位置する。

《確　　認》　平安時代の竪穴住居跡の床面に黄褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　平安時代のＳＩ　395　竪穴住居跡に上部を削平されていた。

《規　　模》　長軸1.54ｍ×短軸0.98ｍ、深さ14㎝。

《平 面 形》　不整な隅丸長方形である。

《断 面 形》　壁は大きく外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　地山粒の混入が多い。

《底　　面》　底面に柱穴様ピットと窪みがあり、凹凸が激しい。

《遺　　物》　なし。

《埋葬時期》　遺物は出土しなかったが、周囲の同形態の土壙墓の状況から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　630　土壙墓（第121図、図版91）

《位　　置》　ＭＥ54グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の不整な楕円形の落ち込みとして確認した。

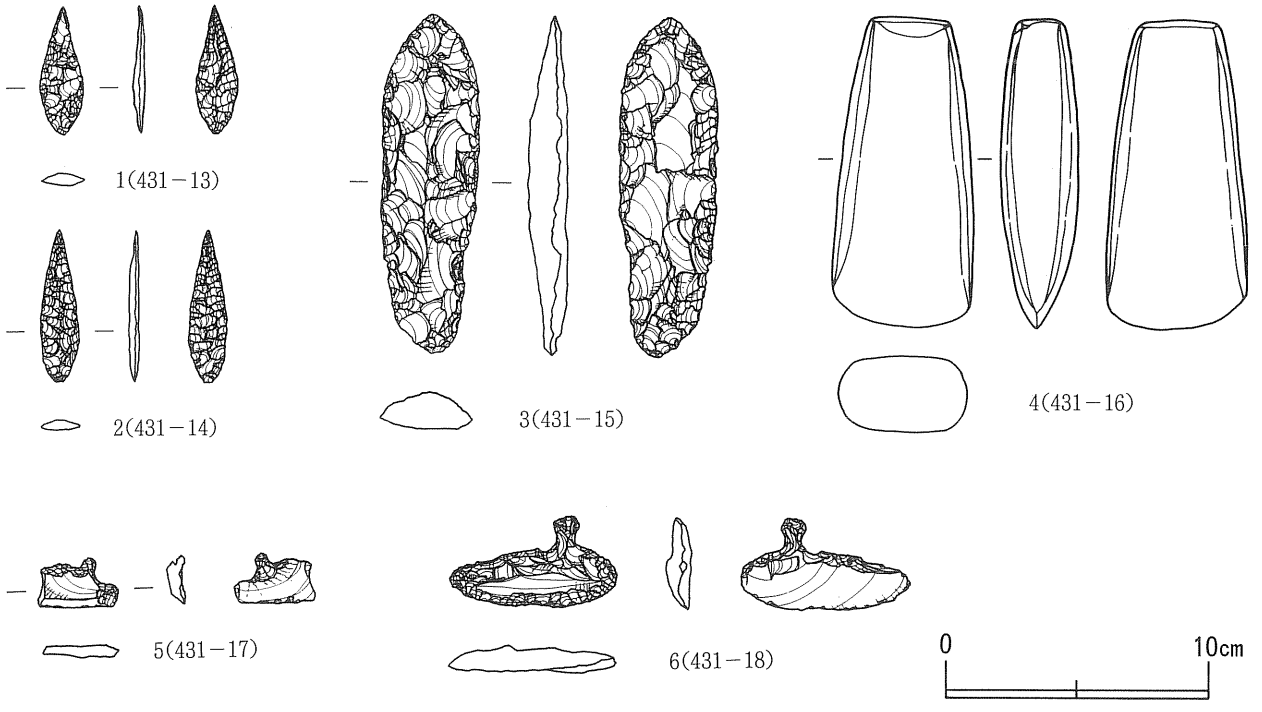
《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.34ｍ×短軸0.82ｍ、深さ24㎝。

《平 面 形》　不整な隅丸長方形である。

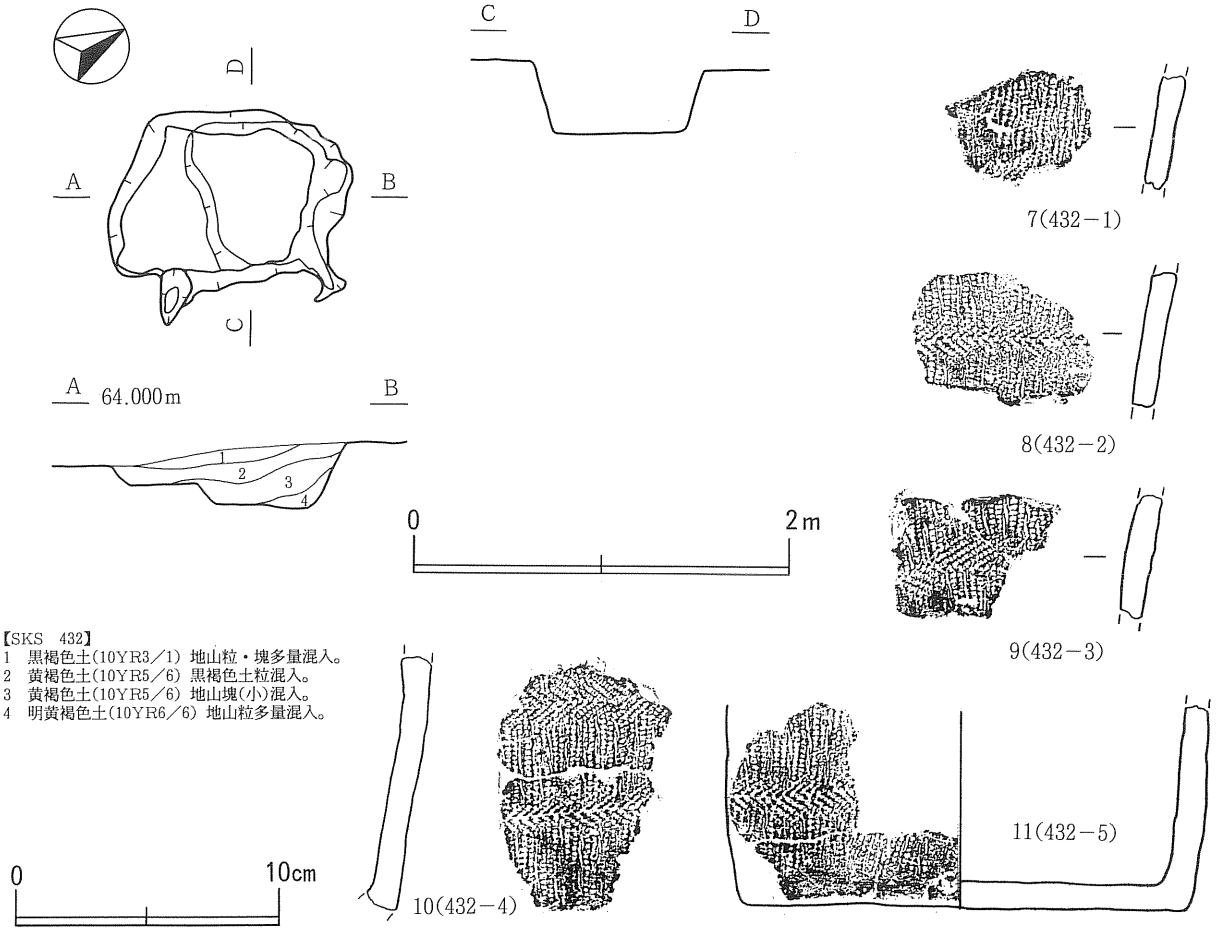
《断 面 形》　壁は外傾して立ち上がっていた。

《埋　　土》　４層に分層した。底面上に厚く堆積する第３層に地山粒・塊、焼土、炭化物が混入している。



SKS431 出土遺物

SKS432



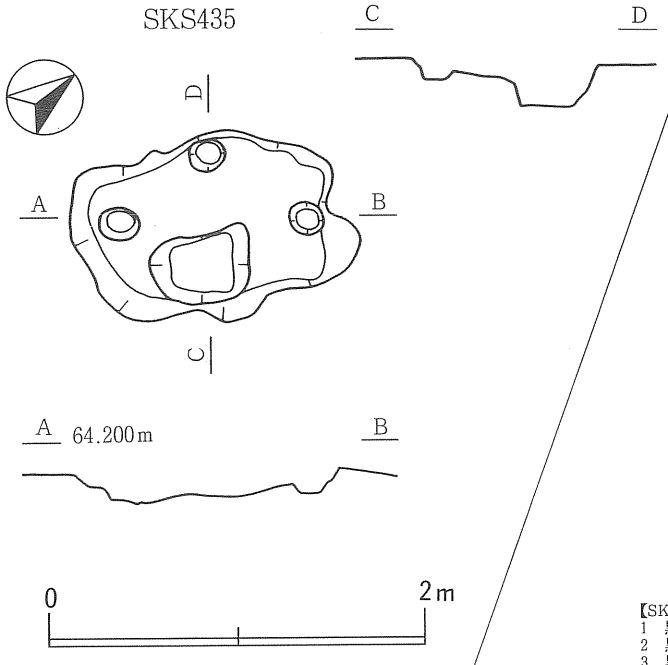
第120図　SKS 431・SKS 432 土壙墓とその出土遺物

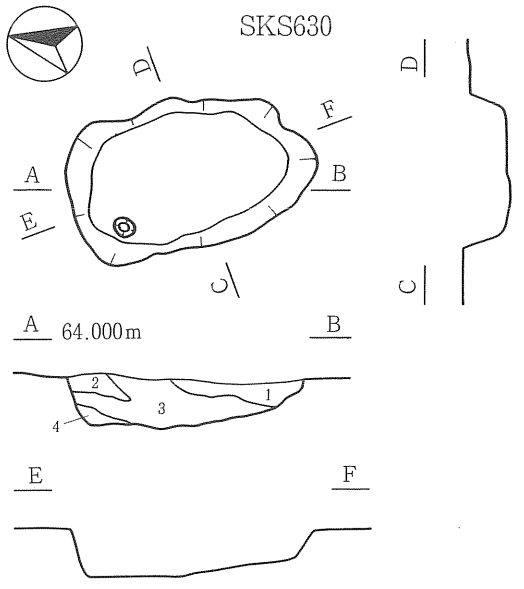
《底　　面》　北東側の底面が低くなっていた。また、柱穴様ピットも北東側に１カ所検出した。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しなかったが、同形態の土壙墓の状況から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　633　土壙墓（第121図、図版91）
《位　　置》　ＭＦ54･55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒色～黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.12ｍ×短軸0.74ｍ、深さ28㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形である。
《断 面 形》　壁はほぼ垂直に立ち上がっていた。
《埋　　土》　５層に分層した。地山粒の混入が多い。
《底　　面》　ほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中から土器片１点が出土した。
《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

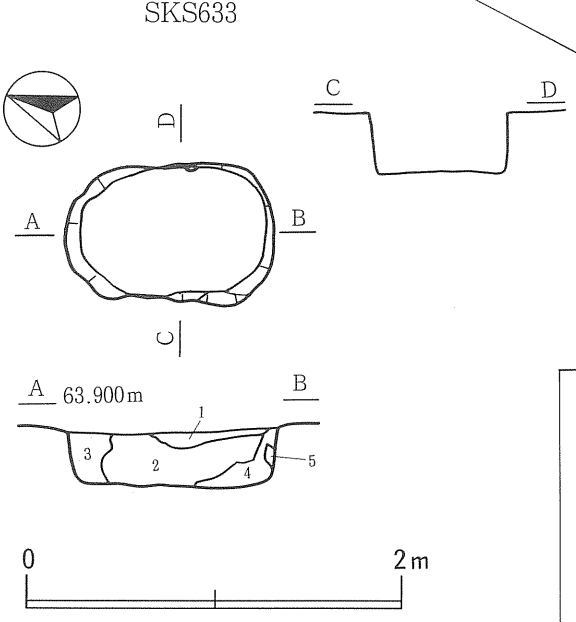
ＳＫＳ　635　土壙墓（第121図、図版92）
《位　　置》　ＭＧ55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.36ｍ×短軸0.78ｍ、深さ52㎝。
《平 面 形》　不整な隅丸長方形である。
《断 面 形》　壁面は土圧のためかオーバーハングし、袋状を呈する。
《埋　　土》　８層に分層した。地山粒の混入が多く、粘性が強い。
《底　　面》　ほぼ平坦である。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しなかったが、同形態の土壙墓の状況から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　646　土壙墓（第122図、図版92）
《位　　置》　ＭＰ55グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＩ 619 竪穴住居跡と重複している。新旧関係は本土壙墓が古い。
《規　　模》　長軸0.92ｍ×短軸0.58ｍ、深さ32㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。
《埋　　土》　６層に分層した。炭化物、焼土の混入が多い。
《底　　面》　ほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中から土器片が４点出土した。

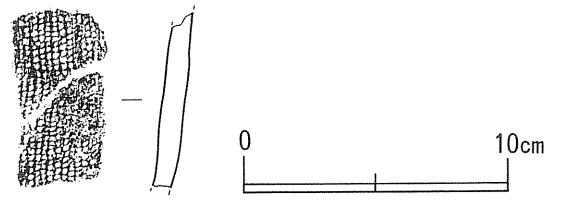




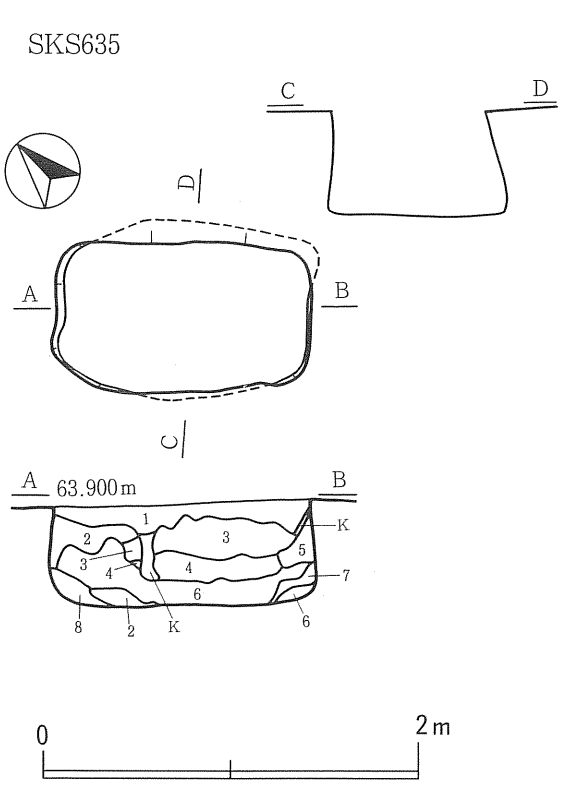
【SKS　630】
1　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
2　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性有り。
3　黒褐色土(10YR3／1)　シルト。地山粒・地山塊(小)多量、焼土粒・炭少量混入。しまり、粘性有り。
4　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性有り。



【SKS　633】
1　黒色土(10YR1.7／1～2／1)　シルト。地山粒少量混入。しまり、粘性共有り。
2　黒褐色土(10YR3／2)　シルト。地山粒・地山塊(小)多量混入。しまり、粘性共有り。
3　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山粒多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性共有り。
4　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山粒多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性共有り。
5　黄色土(2.5Y8／6)　粘土。硬質。



1(633－1)



【SKS　635】
1　黒褐色土(10YR2／3)　シルト。地山粒やや多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
2　暗褐色土(10YR3／3)　シルト。地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
3　明黄褐色土(10YR6／6)　シルト～粘土。地山粒・地山塊多量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
4　黄橙色土(10YR8／6)　粘土。硬質。粘性やや有り。
5　黒褐色土(10YR3め1)　シルト。地山粒やや多量、地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。
6　明黄褐色土(10YR7／6)　粘土。しまり、粘性有り。
7　黒色土(10YR2／1)　シルト。地山塊(小)少量混入。硬質。粘性非常に強い。
8　褐色土(10YR4／4)　シルト。地山粒多量、地山塊(小)少量混入。しまりやや弱く、粘性やや有り。

第121図　SKS 435・SKS 630・SKS 633・SKS 635 土壙墓とその出土遺物

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　717　土壙墓（第122図、図版93）

《位　　置》　ＭＳ65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長辺1.50ｍ×短辺1.02ｍ、深さ14㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

《埋　　土》　２層に分層した。炭化物と焼土が混入する。

《底　　面》　ほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土上位から土器の底部破片が１点出土した。底外面には木葉痕がある。

《埋葬時期》　出土した甕形土師器の底部破片は撹乱により混入したもので、土壙墓は縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　718　土壙墓（第122図、図版93）

《位　　置》　ＭＳ64･65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒色土の不整な円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ 830 フラスコ状土坑と重複している。新旧関係は不明である。

《規　　模》　長軸1.50ｍ×短軸1.18ｍ、深さ38㎝。

《平 面 形》　丸みの強い楕円形である。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

《埋　　土》　３層に分層した。炭化物、地山粒が混入する。

《底　　面》　わずかな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土中から土器片３点と石鏃１点、円礫１点が、底面から細長い礫１点が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　809　土壙墓（第123図）

《位　　置》　ＭＨ55･56グリッドに位置する。

《確　　認》　黄褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　平安時代のＳＩ 610 竪穴住居跡と重複している。

《規　　模》　長軸1.20ｍ×短軸0.56ｍ、深さ26㎝。

《平 面 形》　北西側が竪穴住居跡との重複のため破壊されているが楕円形と思われる。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

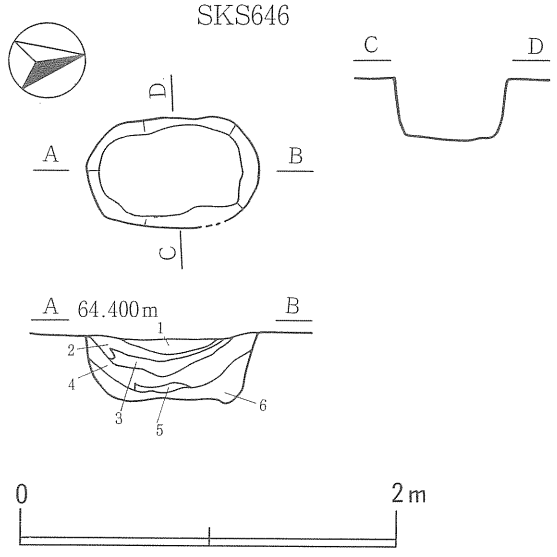
《埋　　土》　７層に分層した。地山粒･塊の混入が多いが、埋土の上位層に炭化物が混入する。

《底　　面》　やや凹凸があるが、平坦である。

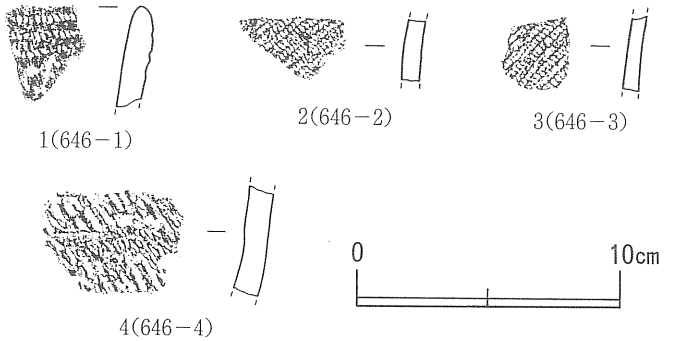
《遺　　物》　埋土中から土器片が１点出土した。

《埋葬時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

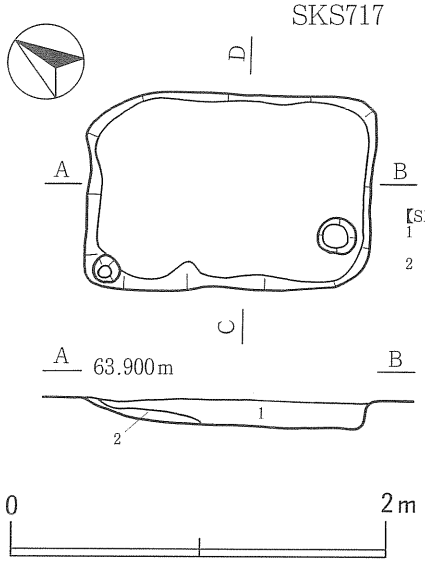
SKS646



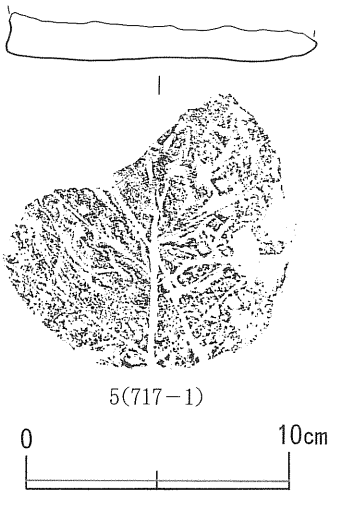
【SKS 646】
1 黒褐色土(10YR2／3) 地山粒・地山塊(小)・炭多量混入。焼土微量混入。しまり強く、粘性なし。
2 黒色土(19YR2／1) 地山粒・地山塊少し少なくなり、炭・焼土多い。しまり 1より強く、粘性少し有り。
3 黒褐色土(10YR2／3) 地山塊・炭 1より少なく、焼土粒やや多い。しまりやや強く、粘性若干有り。
4 暗褐色土(10YR3／2) 地山粒・地山塊(小)多量、焼土粒・炭やや多く混入。しまりやや弱く、粘性若干有り。
5 暗褐色土(10YR3／3) 地山粒多く、炭・焼土粒微量混入。しまりやや強く、粘性若干有り。
6 黒色土(10YR2／1) 地山粒多く、地山塊(小)・焼土粒微量混入。



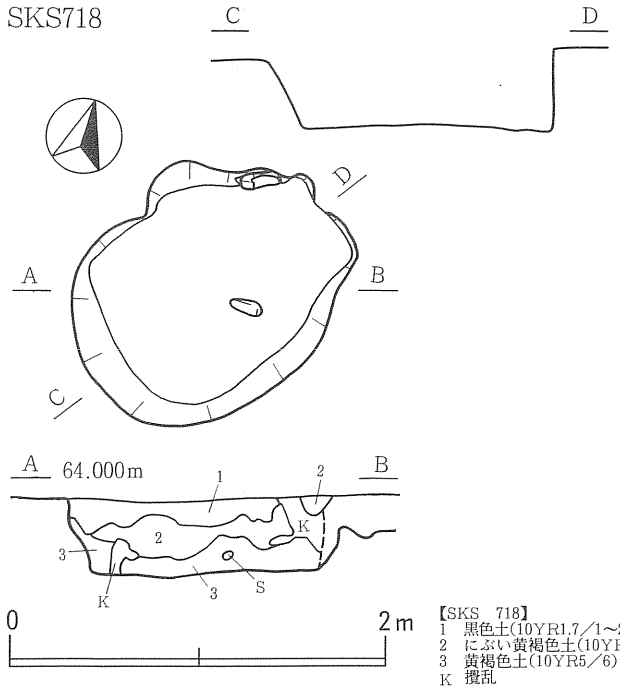
SKS717

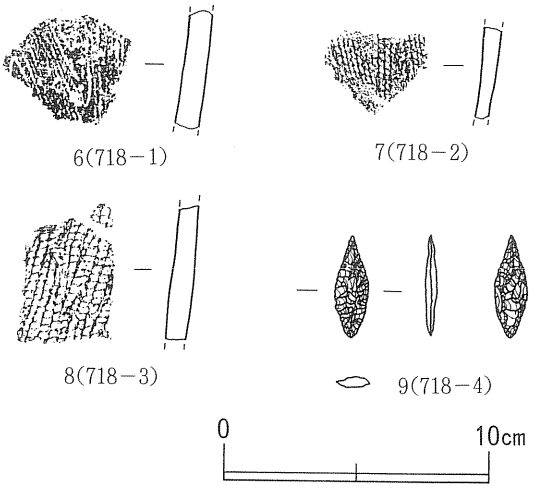


【SKS 717】
1 黒色土(10YR1.7／1) シルト。地山粒・地山塊(小)・炭少量混入。しまり有り、粘性あまりなし。
2 黒色土(10YR2／1) シルト。地山粒・地山塊(小) 1より多く混入。炭・焼土粒少量混入。しまり、粘性共有り。



SKS718





【SKS 718】
1 黒色土(10YR1.7／1～2／1) シルト。地山粒・地山塊(小)少量混入。しまり、粘性有り。(撹乱)
2 にぶい黄褐色土(10YR4／3) シルト。地山粒多量、炭少量混入。しまり、粘性有り。
3 黄褐色土(10YR5／6) シルト～粘土。地山粒多量、炭少量混入。硬質。粘性あまりなし。
K 撹乱

第122図　SKS 646・SKS 717・SKS 718 土壙墓とその出土遺物

ＳＫＳ　817　土壙墓（第123図、図版94）

《位　　置》　ＭＲ65グリッドに位置する。

《確　　認》　褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　長径1.10ｍ×短径0.96ｍ、深さ34㎝。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

《埋　　土》　３層に分層した。

《底　　面》　わずかに凹凸があるが、ほぼ平坦である。

《遺　　物》　埋土中から土器片４点、石鏃３点、半円状偏平打製石器破片１点が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　819　土壙墓（第124図、図版94･図版95）

《位　　置》　ＭＴ63･64グリッドに位置する。

《確　　認》　黄褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　平安時代のＳＩ 720 竪穴住居跡のかまど煙道と重複している。

《規　　模》　長軸1.48ｍ×短軸0.98ｍ、深さ48㎝。

《平 面 形》　隅丸長方形である。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

《埋　　土》　９層に分層した。乱雑な堆積である。

《底　　面》　やや凹凸がある。

《遺　　物》　埋土中から深鉢土器１個体と、両端に抉りのある半円状偏平打製石器１点が、南西壁際の底面から人頭大の礫が出土した。

《埋葬時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＳ　822　土壙墓（第124図、図版95）

《位　　置》　ＭＲ66グリッドに位置する。

《確　　認》　撹乱が多く褐色土の不整な落ち込みとして確認した。

《重　　複》　平安時代のＳＩ 713 竪穴住居跡と重複している。

《規　　模》　長軸1.48ｍ×短軸1.00ｍ、深さ42㎝。

《平 面 形》　不整な楕円形である。

《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっていた。

《埋　　土》　２層に分層した。炭化物が混入する。

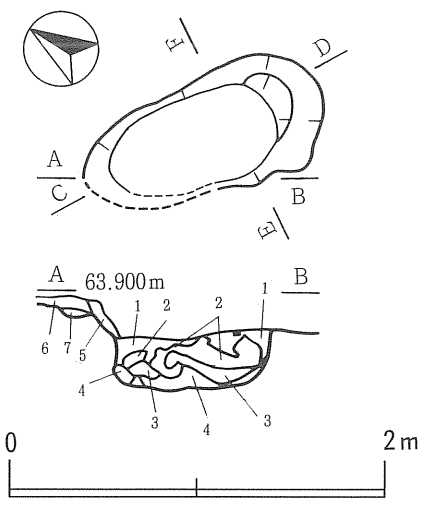
《底　　面》　ほぼ平坦である。

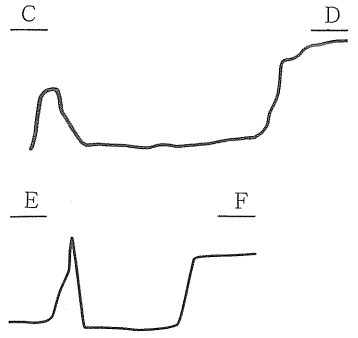
《遺　　物》　南東壁際の底面に近い埋土中から石鏃３点が出土した。

《埋葬時期》　土器は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期後葉と思われる。

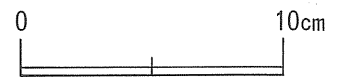
ＳＫＳ　824　土壙墓（第125図、図版96）

《位　　置》　ＭＲ67グリッドに位置する。





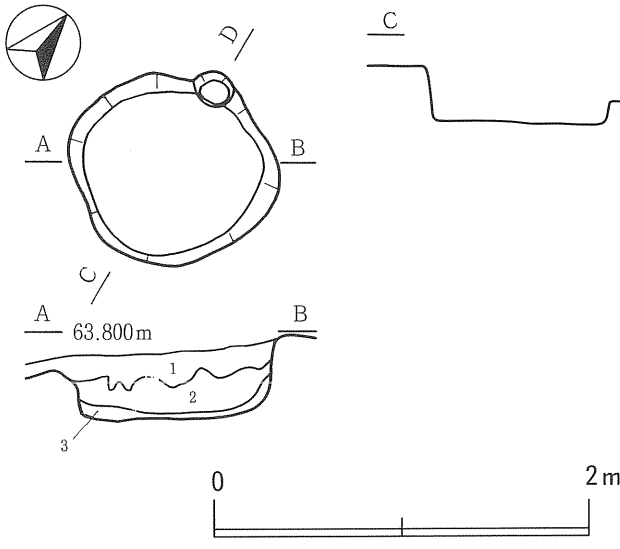
1(809－1)

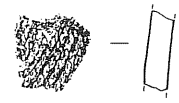


【SKS　809】
1　黄褐色土(10YR5／6) 地山粒・地山塊多量混入。炭少量混入。しまり強く、粘性なし。
2　明黄褐色土(10YR6／6) 地山粒・炭少量、地山塊多量混入。しまり強く、粘性なし。
3　黄褐色土(10YR5／8) 地山粒少量、地山塊(小)多量、炭微量混入。しまりやや強く、粘性なし。
4　黄褐色土(10YR5／6) 地山粒多量混入。しまりやや弱く、粘性なし。
5　暗褐色土(10YR3／2) 地山粒・地山塊(極小)少量混入。しまりあまりなし。
6　明褐色土(7.5YR5／8) 地山塊(大)混入。しまり強い。
7　黄褐色土(10YR5／8) 地山粒多量、炭少量混入。しまり弱い。

SKS809

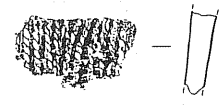
SKS817



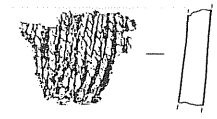


2(817－1)

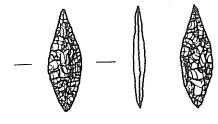
3(817－2)



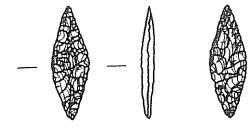
4(817－3)



5(817－4)

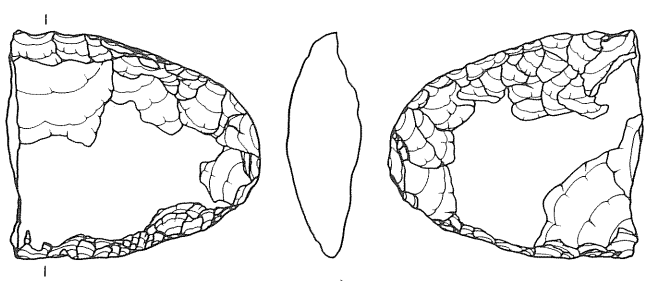


6(817－5)

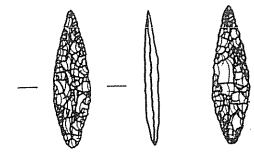


7(817－6)

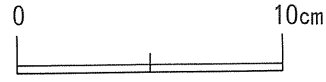
【SKS　817】
1　褐色土(10YR4／4) シルト。地山粒多量、炭少量混入。しまり、粘性共あまりなし。
2　黄橙色土(10YR7／8) 粘土。しまり有り。粘性なし。
3　明黄褐色土(10YR6／8) 粘土。硬質。粘性なし。



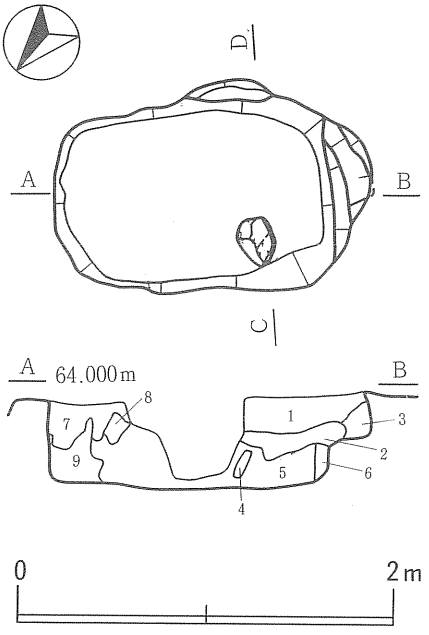
8(817－7)



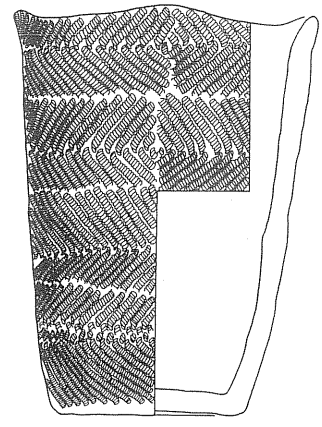
9(817－8)



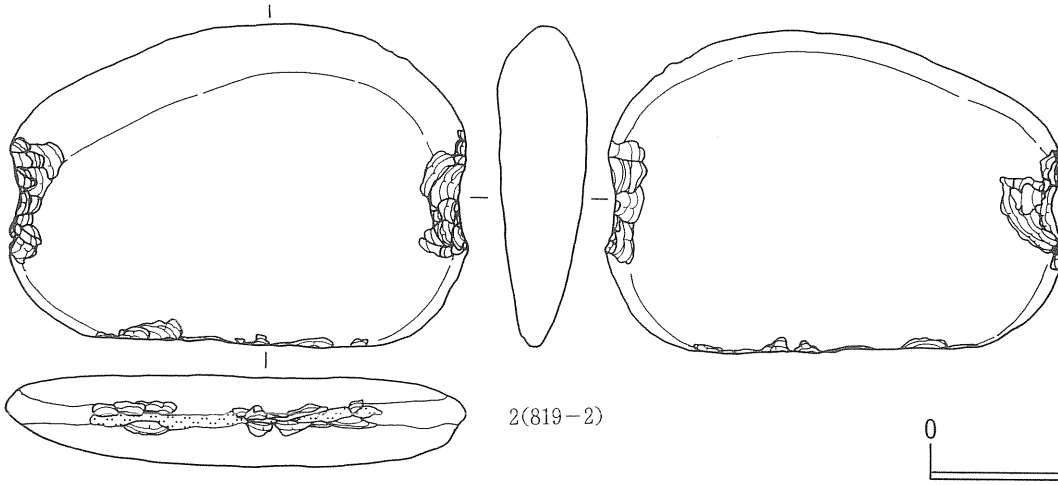
第123図　SKS 809・SKS 817 土壙墓とその出土遺物



【SKS　819】
1　黄褐色土(10YR5／6)　シルト。地山土と暗褐色土の混合。しまり普通。
2　明黄褐色土(10YR6／6)　シルト。しまり普通。
3　褐色土(19YR4／6)　しまり弱い。
4　3に同じ。
5　明黄褐色土(10YR7／6)　シルト。褐色土微量混入。しまり強い。
6　褐色土(10YR4／6)　シルト。地山粒・炭微量混入。しまり弱い。
7　1に同じ(1よりやや地山塊の混入多い)。
8　5に同じ(5より軟らかく、褐色土の混入多い)。
9　明黄褐色土(10YR6／6)　シルト。褐色土10%混入。しまり強い。



1(819－1)

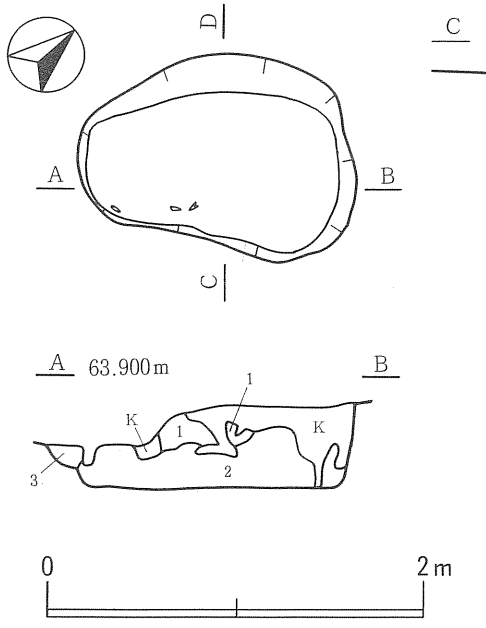


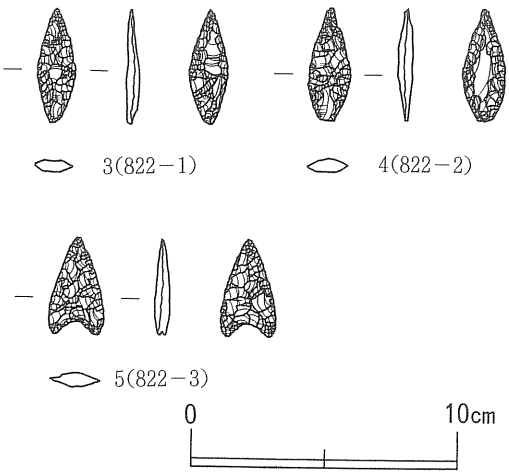
2(819－2)

0　10cm

SKS819

SKS822





SKS822

【SKS　822】
1　褐色土(10YR4／4)　粘土～シルト。地山粒多量。炭少量混入。しまり有り、粘性なし。
2　黄橙色土(10YR7／8)　粘土。炭微量混入。硬質。粘性やや有り。
3　黒褐色土(10YR2／2)　シルト。地山塊多量混入。(SI713貼り床)
K　撹乱

第124図　SKS 819・SKS 822 土壙墓とその出土遺物

《確　　認》　ＳＩ 713 竪穴住居跡の床面に黄褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　平安時代のＳＩ 713 竪穴住居跡と重複している。
《規　　模》　長軸1.22ｍ×短軸0.9ｍ、深さ24㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形を呈する。
《断 面 形》　壁は緩やかに立ち上がっているが若干オーバーハングしている部分もある。
《埋　　土》　４層に分層した。炭化物が微量混入する。
《底　　面》　わずかに凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《遺　　物》　底面に近い埋土中から石槍が１点出土した。
《埋葬時期》　土器は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

ＳＫＳ　825　土壙墓（第125図、図版97）
《位　　置》　ＭＱ67グリッドに位置する。
《確　　認》　撹乱の多い明黄褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.08ｍ×短軸0.82ｍ、深さ10㎝。
《平 面 形》　楕円形である。
《断 面 形》　壁は緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。
《埋　　土》　木根による撹乱が多い。
《底　　面》　撹乱による凹凸がある。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

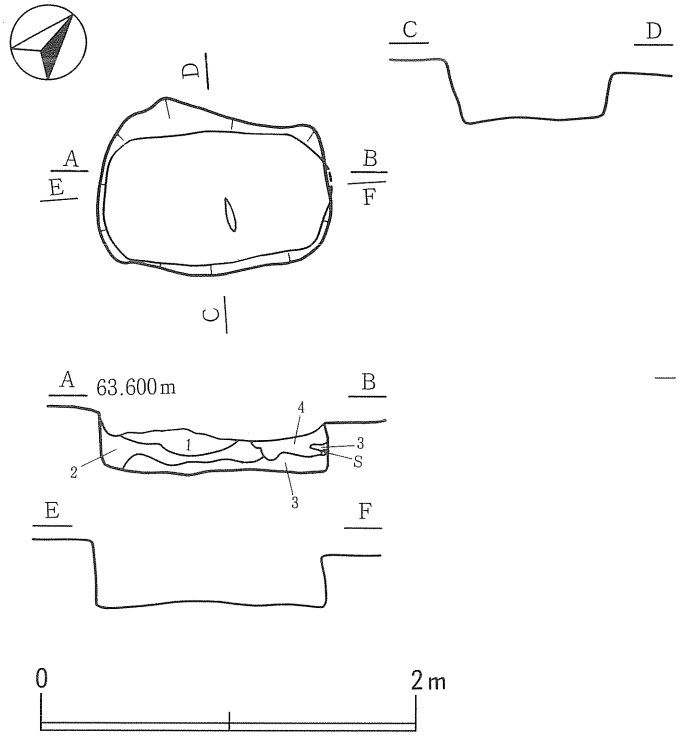
ＳＫＳ　826　土壙墓（第126図）
《位　　置》　ＭＯ70グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長軸1.18ｍ×短軸0.74ｍ、深さ40㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形を呈する。
《断 面 形》　壁は緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。
《埋　　土》　４層に分層した。炭化物が混入する。
《底　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

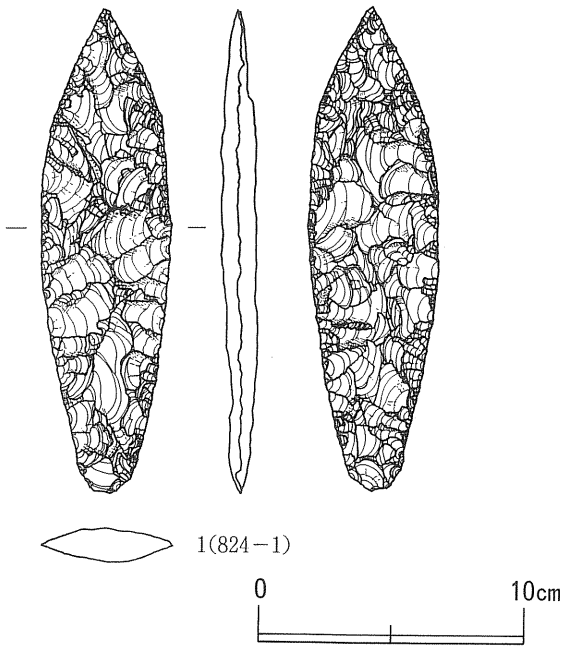
ＳＫＳ　827　土壙墓（第126図、図版97）
《位　　置》　ＭＮ70･71、ＭＯ70･71グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。

《規　　模》　長軸1.22ｍ×短軸0.80ｍ、深さ36㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形を呈する。
《断 面 形》　壁は土圧のためかオーバーハングしていた。袋状を呈する。
《埋　　土》　４層に分層した。炭化物が混入する。
《底　　面》　大きく緩やかな凹凸がある。北側と東側の壁際に上幅８～10㎝、下幅２～５㎝、深さ３～５㎝の溝状の窪みがある。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

ＳＫＳ　994　土壙墓（第126図）
《位　　置》　ＭＴ49･50グリッドに位置する。
《確　　認》　黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　長辺1.04ｍ×短辺0.86ｍ、深さ12㎝。
《平 面 形》　隅丸長方形を呈する。
《断 面 形》　壁は緩やかに外傾しながら立ち上がっていた。
《埋　　土》　３層に分層した。
《底　　面》　やや凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《遺　　物》　なし。
《埋葬時期》　遺物は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

ＳＫＳ　1005　土壙墓（第126図）
《位　　置》　ＮＡ49グリッドに位置する。
《確　　認》　ＳＩ 958 竪穴住居跡の北西側を破壊した風倒木痕の下から検出した。
《重　　複》　縄文時代前期のＳＩ 958 竪穴住居跡と重複している。新旧関係は不明である。
《規　　模》　長軸1.36ｍ×短軸0.92ｍ、深さ0.56㎝。
《平 面 形》　南～南西側を欠損するが隅丸長方形と思われる。
《断 面 形》　不明確であるが、わずかに外傾しながら立ち上がると思われる。
《埋　　土》　褐色土がわずかに残るのみであった。
《底　　面》　わずかに残る底面はほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中から石匙が１点出土した。
《埋葬時期》　土器は出土しないが、同形態の土壙墓と同じ縄文時代前期と思われる。

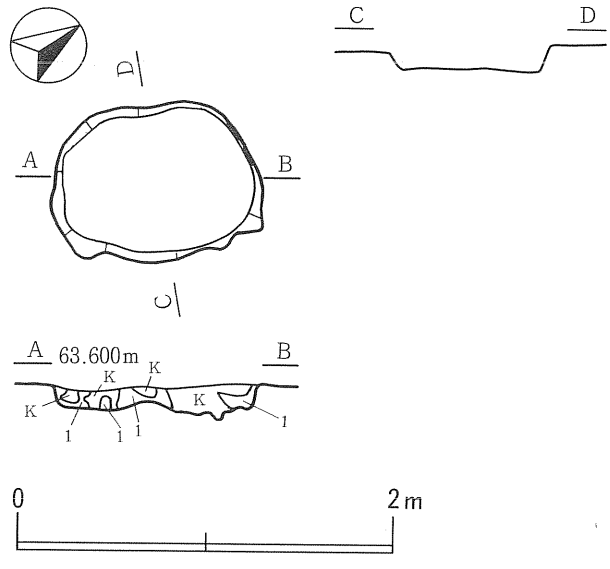




【SKS　824】
1　黄橙色土(10YR7／8) 粘土。硬質。粘性なし。
2　明黄褐色土(10YR6／8) 粘土。炭微量混入。硬質。粘性若干有り。
3　黄褐色土(10YR5／6) 粘土。硬質。粘性なし。
4　にぶい黄褐色土(10YR5／6) シルト～粘土。炭微量混入。硬質。粘性なし。

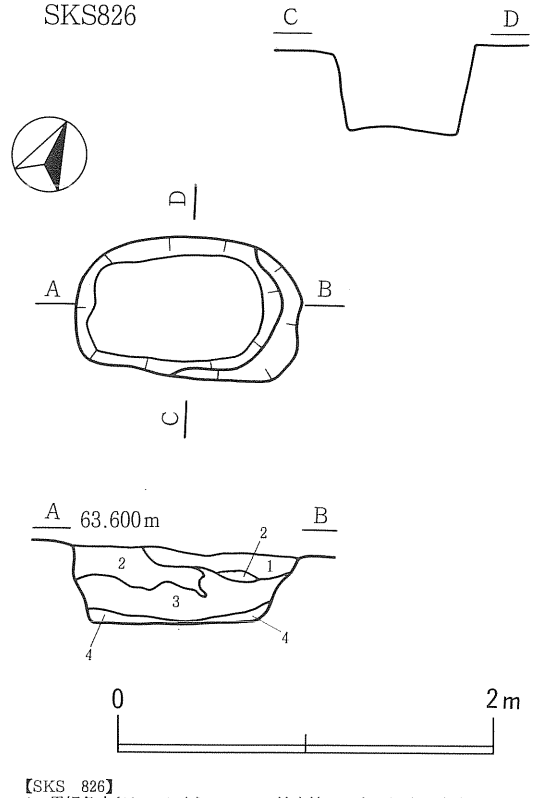
SKS824

SKS825



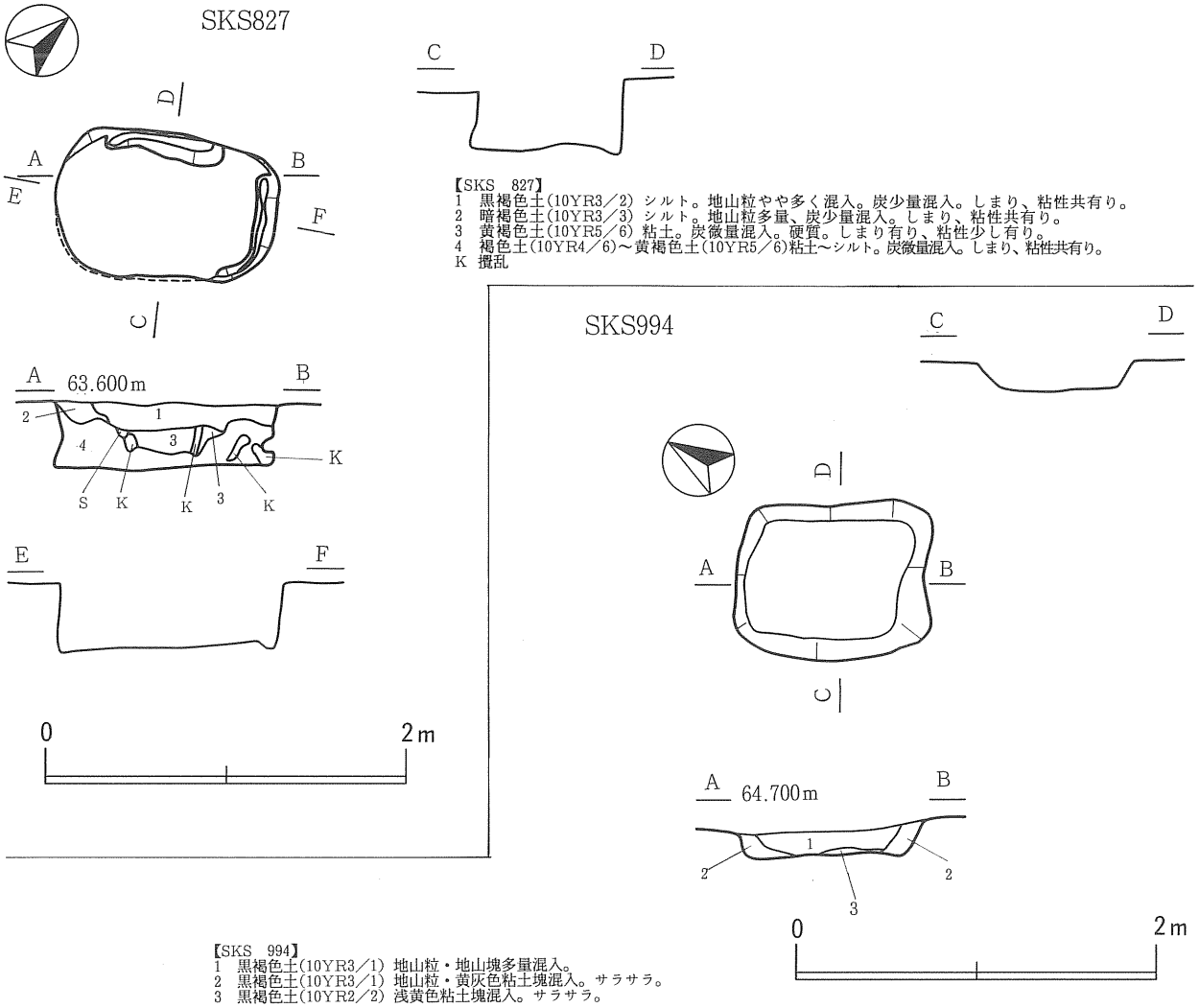
【SKS　825】
1　明黄褐色土(10YR6／8) 粘土。硬質。粘性ほとんどなし。
K　攪乱

SKS826



【SKS　826】
1　黒褐色土(10YR2／2) シルト。地山粒やや多く混入。炭少量混入。しまり強く、粘性やや有り。部分的に木根による攪乱有り。
2　黒褐色土(10YR3／2) シルト。地山粒やや多く、地山塊(小)・炭少量混入。しまり、粘性有り。部分的に木根による攪乱有り。
3　明黄褐色土(10YR7／6) 粘土。炭混入。硬質。粘性なし。
4　黄褐色土(10YR5／6) シルト～粘土。炭混入。しまり、粘性あり。

第125図　SKS 824・SKS 825・SKS 826 土壙墓とその出土遺物



第126図　SKS 827・SKS 994・SKS 1005 土壙墓とその出土遺物

フラスコ状土坑

フラスコ状土坑は、171基を検出した。

その分布状況は、①台地の西側縁辺部、②ＳＴ156谷とＳＴ642谷に挟まれた区域、③ＳＴ642谷とＳＴ639谷に挟まれた区域、④ＳＴ639谷東側縁辺部、⑤ＳＴ529谷と東側の低湿地に挟まれた舌状台地の縁辺とその東側斜面、⑥台地東側、となっていた。

中でもフラスコ状土坑の大部分は西側縁辺部に集中しており、重複も激しかった。それとは対照的に台地の中央部と北側では検出できなかった。

また、フラスコ状土坑の底面に柱穴様ピットが穿たれていたものがあった。

ほとんどのフラスコ状土坑からは遺物が出土した。土器は円筒下層式土器様式が主体であるが、大木式土器様式の土器もみられる。

池内遺跡では大木式土器様式の土器の出土量は僅少であるが、フラスコ状土坑からの出土比率が高く、円筒下層式土器様式との共伴出土も見られた。

ＳＫＦ　１　フラスコ状土坑（第127図、図版98）

《位　　置》　ＮＤ64•65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の不整な落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径1.64ｍ×短径1.08ｍ、坑底部長径2.10ｍ×短径2.16ｍ、深さ1.20ｍ。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　32層に分層した。自然堆積と思われるが、炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　平坦な底面の中央部に深さ22cmの柱穴様ピットが１カ所ある。

《遺　　物》　埋土中から深鉢土器片５点、掻器２点（６•７）、微小剥離痕のある石器剥片１点（８）、石錘１点（９）、くぼみ石１点（12）、半円状偏平打製石器３点（10•11•13）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　２　フラスコ状土坑（第128図、図版98）

《位　　置》　ＮＤ64•65、ＮＥ64•65グリッドに位置する。

《確　　認》　褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ３フラスコ状土坑と底部近くで重複していたが、新旧関係は不明である。

《規　　模》　開口部長径1.68ｍ×短径1.54ｍ、坑底部長径2.26ｍ×短径2.26ｍ、深さ0.84ｍ。

《平 面 形》　円形である。

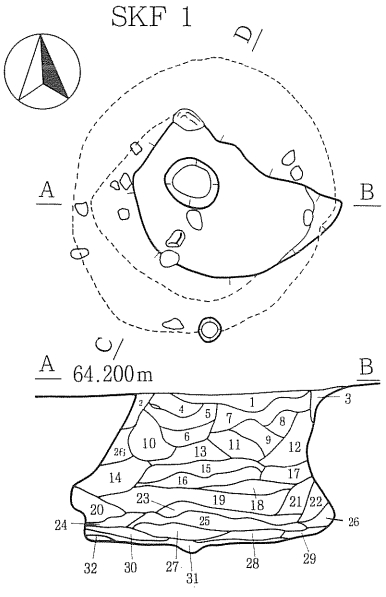
《断 面 形》　袋状である。

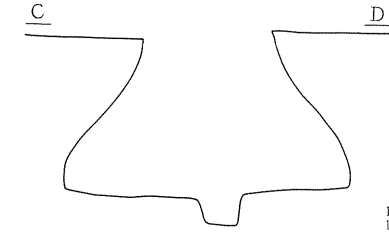
《埋　　土》　14層に分層した。自然堆積と思われるが、炭化物の混入する層が多い。

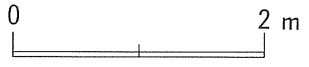
《底　　面》　平坦な底面の中央部に深さ20cmの柱穴状のピットが１カ所ある。

《遺　　物》　埋土中から土器片６点と、抉り入り半円状偏平打製石器１点（８）などが出土した。

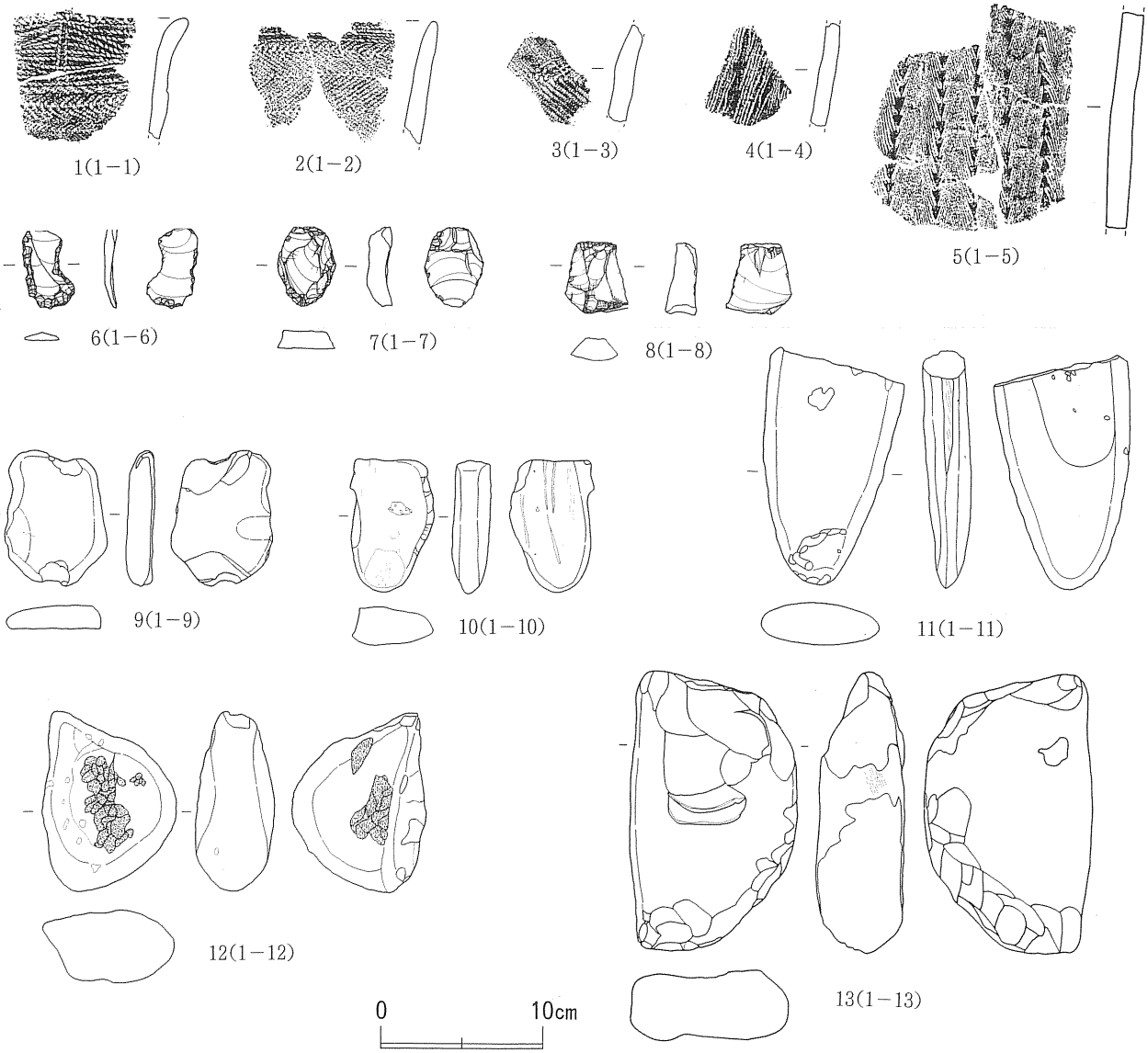
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。



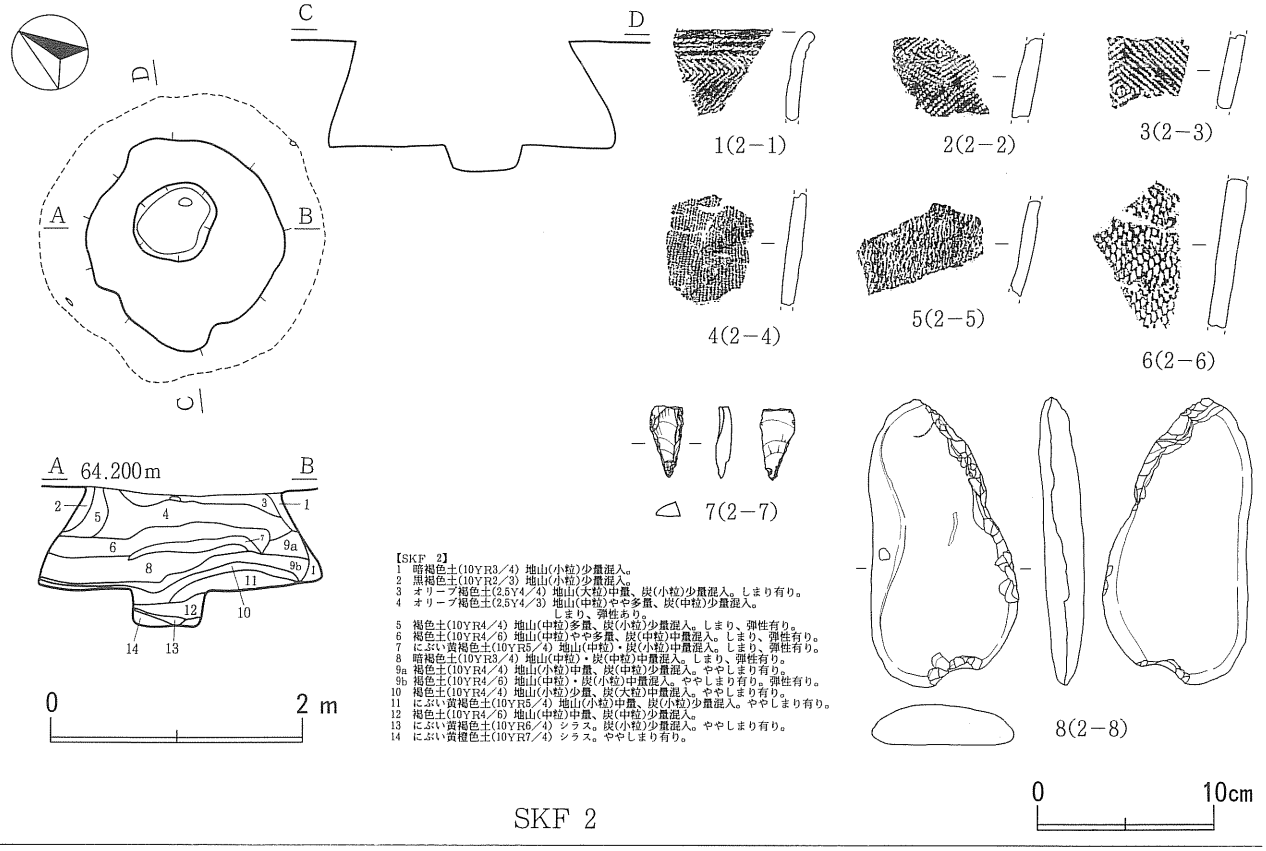




【SKF　1】
1　黒褐色土(10YR2/2) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
2a 褐色土(10YR4/4) 地山(大粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
2b 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)中量、炭(大粒)少量混入。ややしまり有り。
3　黒褐色土(10YR3/2) 地山(小粒)中量混入。
4　黒褐色土(10YR3/2) 地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
5　暗褐色土(10YR3/3) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
6　褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり有り。
7　暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり有り。
8　黒褐色土(2.5Y3/2) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
9　オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 地山塊(小)・炭(中粒)中量混入。しまり有り。
10　暗褐色土(10YR3/4) 地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
11　にぶい黄褐色土(10YR4/3) 地山(中粒)・炭(中粒)多量混入。ややしまり有り。
12　褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)多量、炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
13　暗褐色土(10YR3/3) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)少量混入。しまり、弾性有り。
14　褐色土(10YR4/6) 地山(中粒)・炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
15　暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
16　褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)・炭(小粒)中量、地山(大粒)混入。しまり有り。
17　黒褐色土(10YR3/2) 地山(小粒)多量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
18　暗褐色土(10YR3/3) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。
19　暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(大粒)少量混入。地山塊(大)混入。
　　ややしまり有り。
20　褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)中量混入。
21　褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
22　オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 地山(小粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
23　暗褐色土(10YR3/3) 地山(小粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
24　褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)中量混入。ややしまり有り。
25　暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
26　褐色土(10YR4/6) 地山(小粒)少量混入。
27　褐色土(10YR4/6) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。
28　明黄褐色土(10YR6/6) シラス。地山(中粒)中量混入。しまり有り。
29　にぶい黄橙色土(10YR7/4) シラス。
30　明黄褐色土(10YR7/6) 地山(小粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。
　　ややボソボソしている。
31　褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)ごく少量混入。
32　明黄褐色土(10YR6/6) シラス。酸化鉄混入。ややボソボソしている。



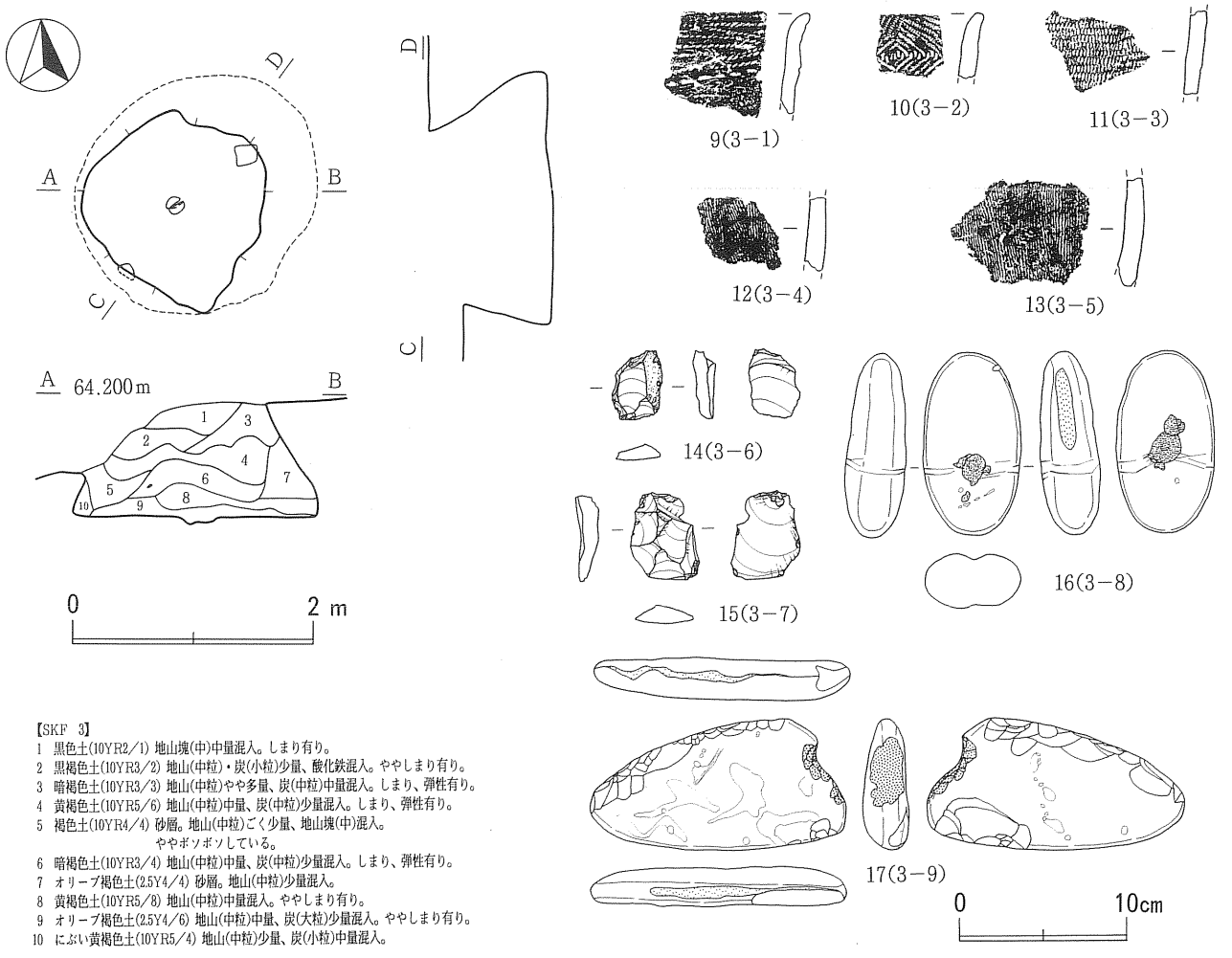
第127図　SKF 1 フラスコ状土坑とその出土遺物



【SKF 2】
1 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)少量混入。
2 黒褐色土(10YR2/3) 地山(小粒)少量混入。
3 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
4 オリーブ褐色土(2.5Y4/3) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)少量混入。しまり、弾性あり。
5 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)多量、炭(小粒)少量混入。しまり、弾性有り。
6 褐色土(10YR4/6) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
7 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。しまり、弾性有り。
8 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
9a 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
9b 褐色土(10YR4/6) 地山(中粒)・炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。弾性有り。
10 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)少量、炭(大粒)中量混入。ややしまり有り。
11 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
12 褐色土(10YR4/6) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。
13 にぶい黄褐色土(10YR6/4) シラス。炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。
14 にぶい黄橙色土(10YR7/4) シラス。ややしまり有り。

SKF 2

SKF 3



【SKF 3】
1 黒色土(10YR2/1) 地山塊(中)中量混入。しまり有り。
2 黒褐色土(10YR3/2) 地山(中粒)・炭(小粒)少量、酸化鉄混入。ややしまり有り。
3 暗褐色土(10YR3/3) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。しまり、弾性有り。
4 黄褐色土(10YR5/6) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり、弾性有り。
5 褐色土(10YR4/4) 砂層。地山(中粒)ごく少量、地山塊(中)混入。ややボソボソしている。
6 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり、弾性有り。
7 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 砂層。地山(中粒)少量混入。
8 黄褐色土(10YR5/8) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
9 オリーブ褐色土(2.5Y4/6) 地山(中粒)中量、炭(大粒)少量混入。ややしまり有り。
10 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 地山(中粒)少量、炭(小粒)中量混入。

第128図　SKF 2・SKF 3 フラスコ状土坑とその出土遺物

ＳＫＦ　３　フラスコ状土坑（第128図、図版99）

《位　　置》　ＮＥ65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒色土の不整な円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ２・ＳＫＦ４フラスコ状土坑と重複していたが、新旧関係は不明である。

《規　　模》　開口部長径1.58ｍ×短径1.52ｍ、坑底部長径2.02ｍ×短径1.98ｍ、深さ0.96ｍ。

《平 面 形》　ほぼ円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　10層に分層した。炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　断面図では平坦な底面の中央部に深さ５㎝の柱穴様ピットを１カ所確認したが、不用意に掘り過ぎたため、その位置とプランを平面図に記載できなかった。

《遺　　物》　埋土中から土器片５点（１～５）、剥離痕のある石器剥片２点（14・15）、くぼみ・擦り石１点（８）、抉り入り半円状偏平打製石器１点（９）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　４　フラスコ状土坑（第129図、図版100）

《位　　置》　ＮＥ65、ＮＦ65グリッドに位置する。

《確　　認》　台地の縁辺に半円形の黒色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ３・ＳＫＦ10フラスコ状土坑と重複していたが、新旧関係は不明である。

《規　　模》　開口部長径2.68ｍ×短径1.40ｍ、坑底部長径2.68ｍ×短径1.44ｍ、深さ0.52ｍ。

《平 面 形》　西側が台地斜面の崩落により消滅していたが円形であると推定した。

《断 面 形》　袋状である。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われる。

《底　　面》　平坦な底面の中央部に深さ14㎝の柱穴様ピットが１カ所、楕円形のくぼみが２カ所ある。

《遺　　物》　底面から土器片１点と、掻器が１点出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　５　フラスコ状土坑（第129図、図版100）

《位　　置》　ＮＦ65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ９フラスコ状土坑と重複していたが、新旧関係は不明である。

《規　　模》　開口部長径0.72ｍ×短径0.70ｍ、坑底部長径1.76ｍ×短径1.56ｍ、深さ1.04ｍ。

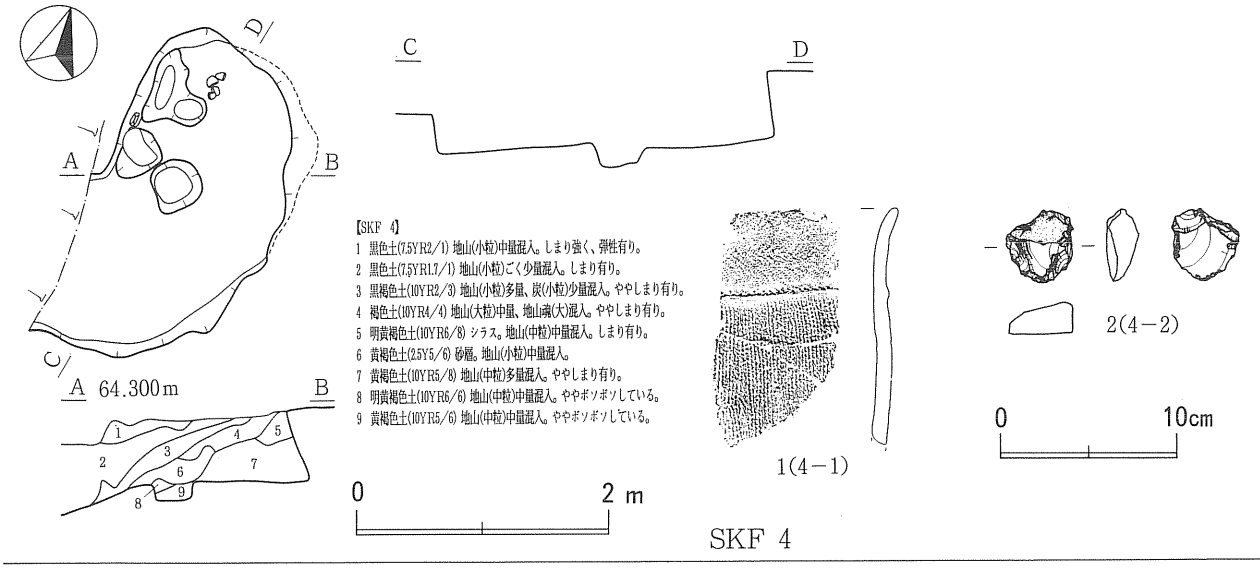
《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　９層に分層した。自然堆積と思われるが、炭化物の混入する層が多い。

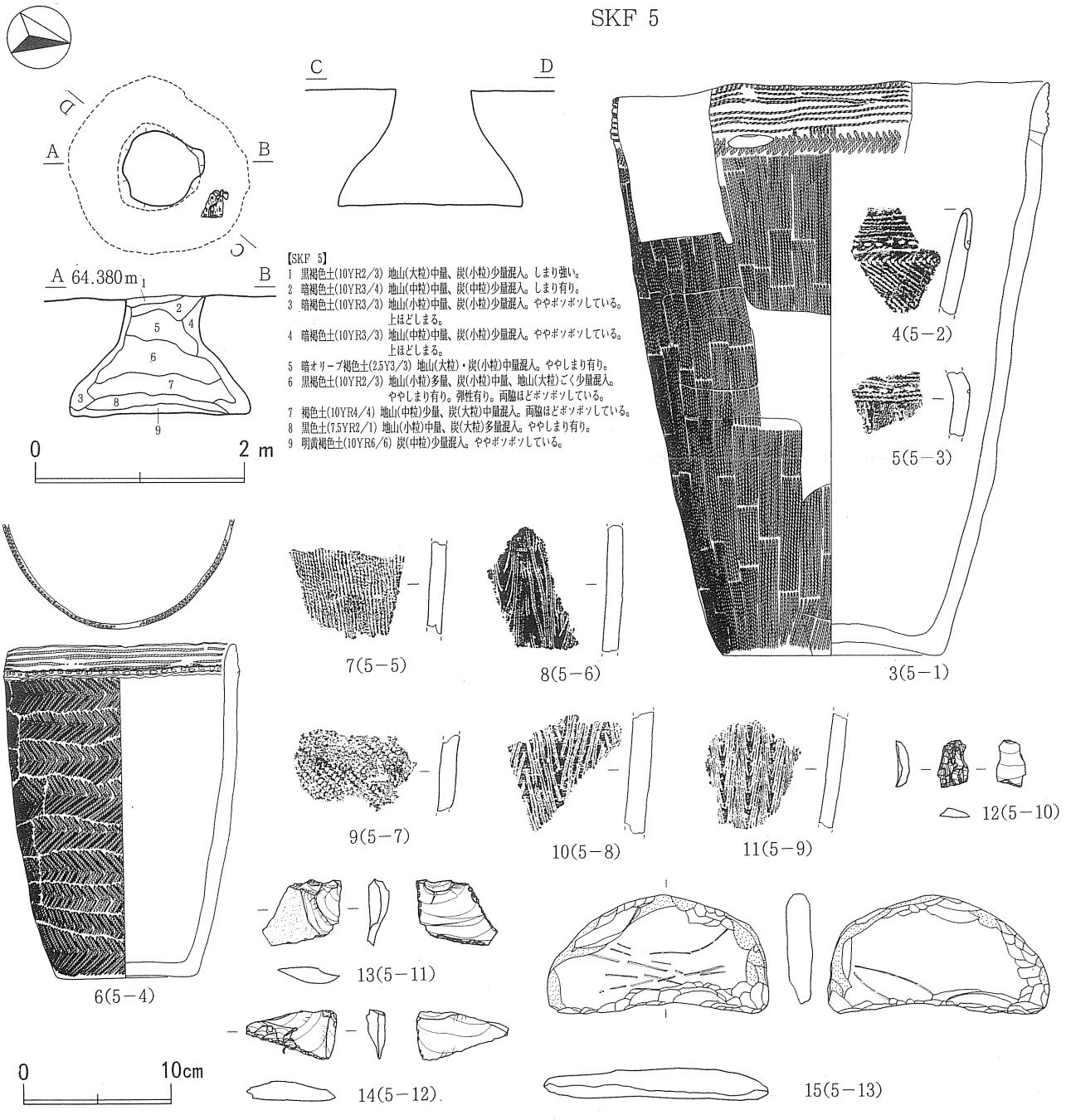
《底　　面》　わずかな凹凸がある。

《遺　　物》　埋土中と底面から深鉢土器片７点（１～７）、横倒した深鉢土器が２個体（１・４、いずれも底面から）と剥離痕のある石器剥片２点（11・14）、半円状偏平打製石器１点（９）が出土した。



SKF 4

SKF 5



第129図　SKF 4・SKF 5 フラスコ状土坑とその出土遺物

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　６　フラスコ状土坑（第130図、図版101）

《位　　置》　ＮＧ65•66グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径1.02ｍ×短径0.92ｍ、坑底部長径1.90ｍ×短径1.88ｍ、深さ1.24ｍ。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　袋状である。

《埋　　土》　15層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　平坦な底面の中央部に深さ14㎝の柱穴様ピットが１カ所ある。

《遺　　物》　埋土中と底面から土器片10点（１～10）、石匙の基部破片１点（11）、削器１点（12）、磨製石斧１点（13）、抉り込みのある石器剥片（14）、くぼみ•擦り石１点（15）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　７　フラスコ状土坑（第131図•第132図、図版102～図版105）

《位　　置》　ＮＧ65•66グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径0.88ｍ×短径0.82ｍ、坑底部長径1.96ｍ×短径1.92ｍ、深さ1.20ｍ。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　14層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　やや凹凸のある底面の中央部に深さ10㎝の柱穴様ピットが１カ所ある。

《遺　　物》　埋土の９層と10層中から深鉢形土器が５個体（１•２•12•16•17）と土器片９点（3～11）、石槍１点（13）、篦状石器１点（14）、石器剥片１点（15）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　９　フラスコ状土坑（第132図）

《位　　置》　ＮＦ64•65グリッドに位置する。

《確　　認》　ほぼ円形の暗褐色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ５•ＳＫＦ10フラスコ状土坑と重複していた。新旧関係はＳＫＦ10より新しいが、ＳＫＦ５との関係は不明である。

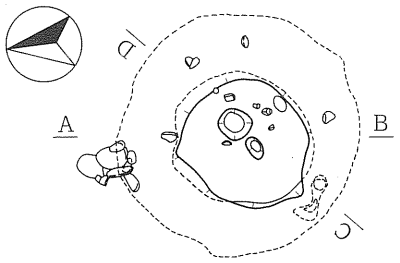
《規　　模》　開口部長径1.36ｍ×短径1.16ｍ、坑底部長径2.20ｍ×短径2.14ｍ、深さ0.96ｍ。

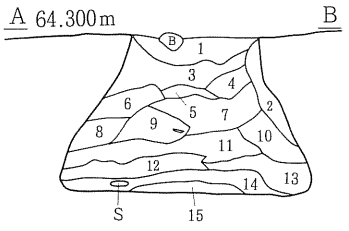
《平 面 形》　円形である。

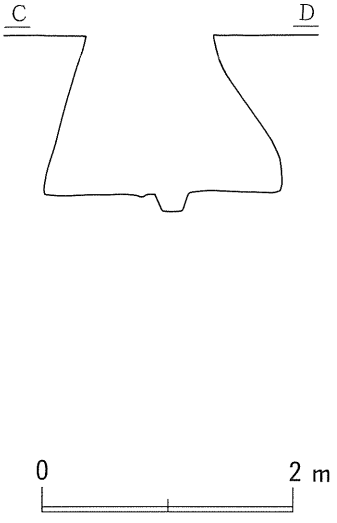
《断 面 形》　袋状である。

《埋　　土》　13層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。

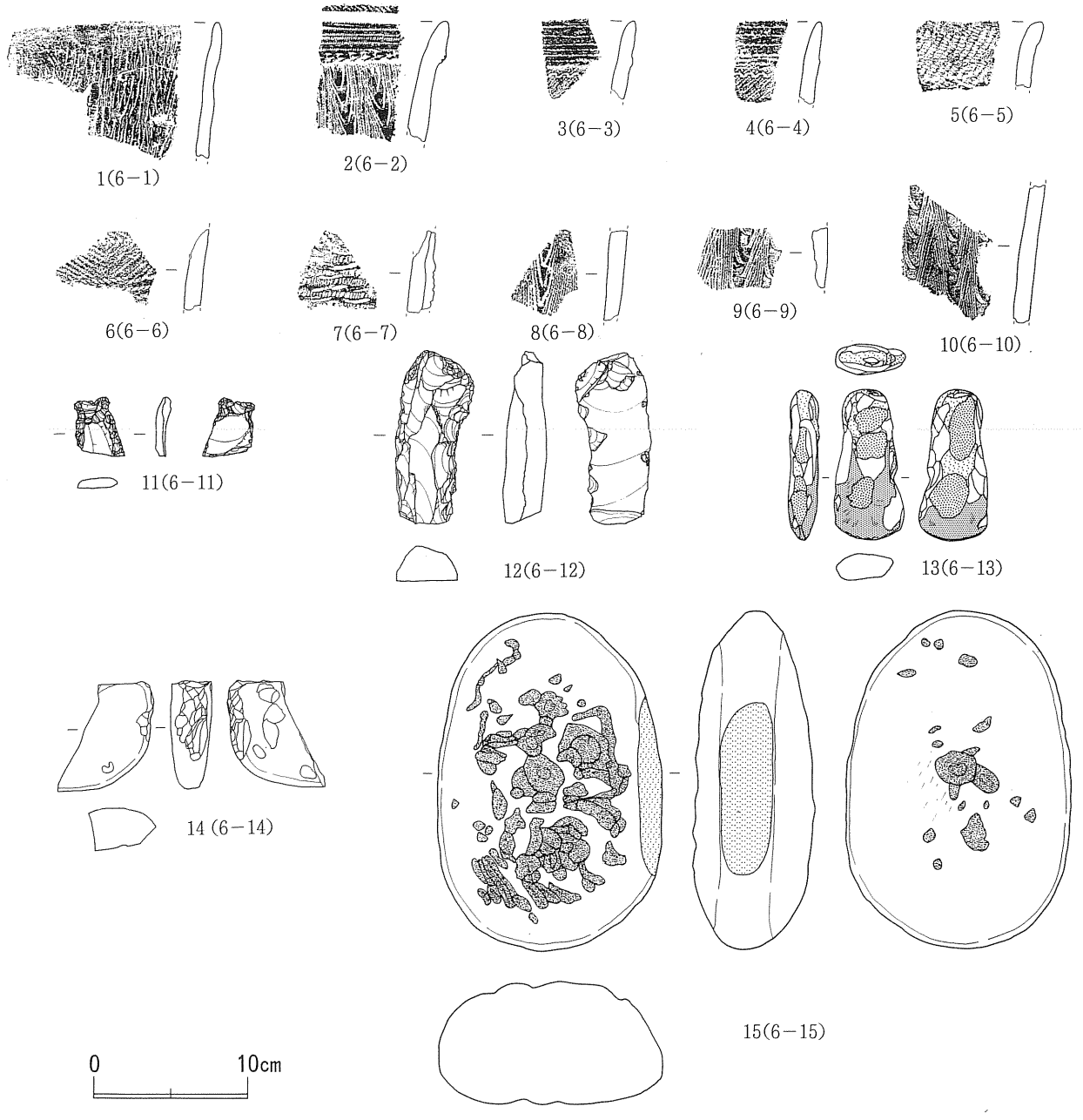
《底　　面》　中央部がわずかにくぼむ底面の中央に深さ23㎝の柱穴様ピットが１カ所ある。



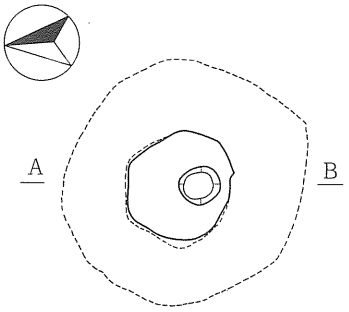


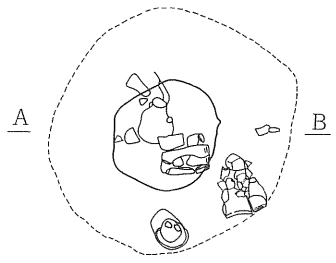


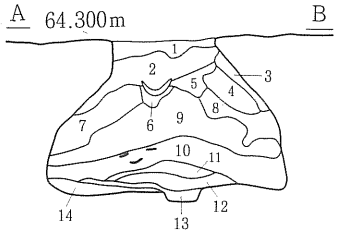
【SKF 6】
1 黒褐色(7.5YR3/2) 地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。
2 暗褐色(7.5YR3/3) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややボソボソしている。
3 黒褐色(10YR2/3) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
4 暗褐色(10YR3/3) 地山(中粒)やや多量、炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
5 黒褐色(10YR2/2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)多量混入。しまり有り。
6 褐色(10YR4/4) 地山(小粒)やや多量、炭(小粒)中量、軽石塊(小)混入。しまり強い。
7 褐色(10YR4/6) 地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。しまり有り。
8 黄褐色(10YR5/6) 地山(中粒)中量混入。ややボソボソしている。
9 黄褐色(10YR5/6) 地山(大粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
10 褐色(10YR4/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
11 明黄褐色(10YR6/6) シラス。地山(中粒)中量混入。しまり有り。
12 黒褐色(7.5YR3/2) 地山(小粒)中量、炭(中粒)多量混入。ややしまり有り。
13 暗褐色(10YR3/4) 地山(小粒)少量、炭(大粒)中量混入。ややしまり有り。
14 黒褐色(10YR2/3) 地山(小粒)中量、炭(大粒)多量混入。地山塊(中)混入。
15 暗褐色(10YR3/3) 地山(小粒)・炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。

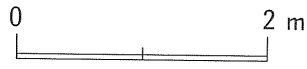


第130図　SKF 6 フラスコ状土坑とその出土遺物

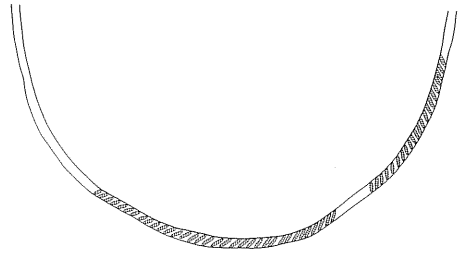


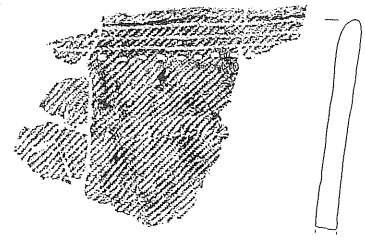


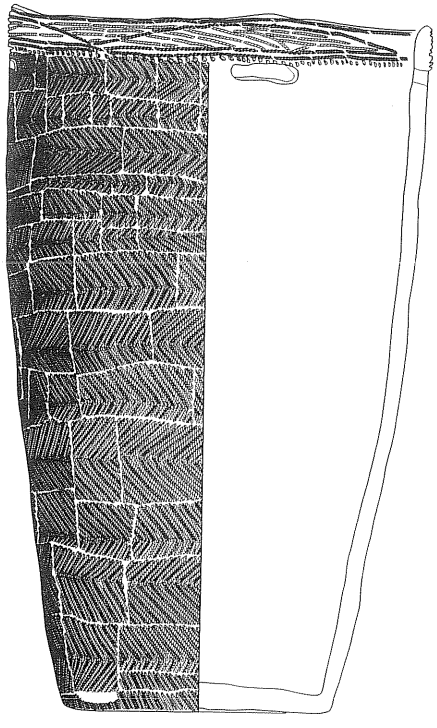


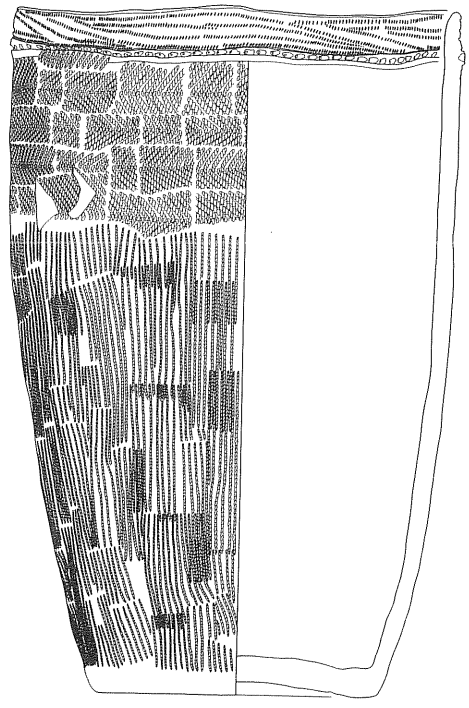


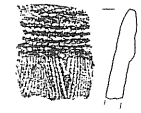
【SKF 7】
1 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(小粒)・炭(中粒)中量混入。
2 暗褐色土(10YR3/4) 地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
3 黒褐色土(10YR2/3) 地山(小粒)ごく少量混入。ややボソボソしている。
4 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
5 暗褐色土(10YR3/3) 地山(大粒)少量、炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
6 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)少量、炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
7 褐色土(10YR4/4) 地山(大粒)・炭(大粒)中量混入。ややしまり有り。
8 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)・炭(大粒)中量混入。
9 明黄褐色土(10YR6/6) シラス。地山(大粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
10 黒褐色土(10YR2/2) 地山(小粒)中量、炭(大粒)多量混入。ややしまり有り。
11 黒褐色土(10YR3/2) 地山(小粒)少量、炭(大粒)中量混入。ややしまり有り。
12 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 地山(小粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。
13 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)少量混入。
14 黒褐色土(10YR3/2) 地山(小粒)中量、炭(大粒)少量混入。

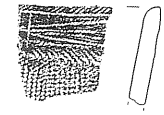


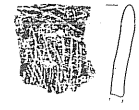

3(7－3)

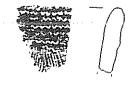

1(7－1)


2(7－2)


4(7－4)

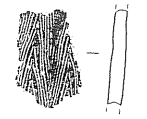

5(7－5)

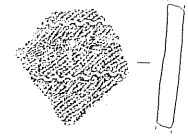

6(7－6)

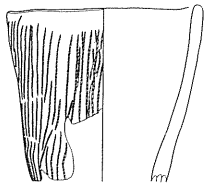

7(7－7)

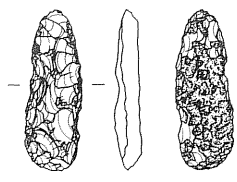
8(7－8)

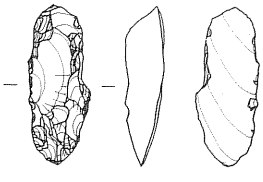
9(7－9)

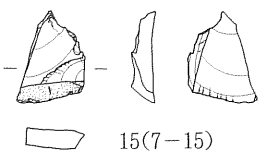

10(7－10)

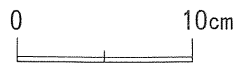

11(7－11)


12(7－12)

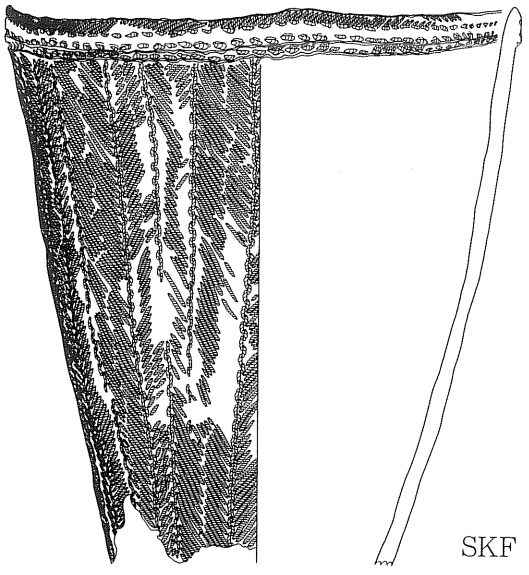

13(7－13)


14(7－14)


15(7－15)

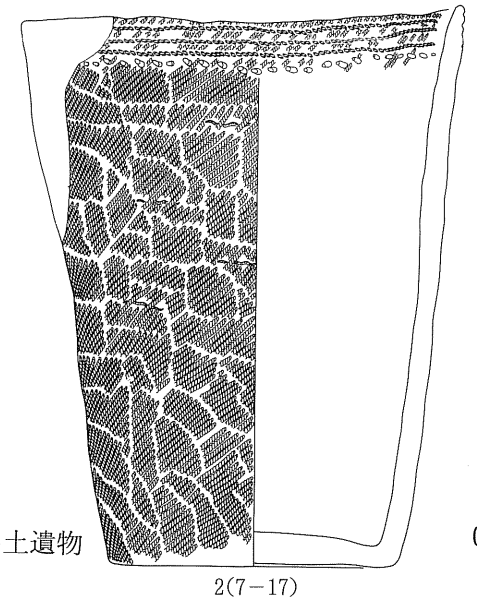


第131図　SKF 7 フラスコ状土坑とその出土遺物



1(7－16)

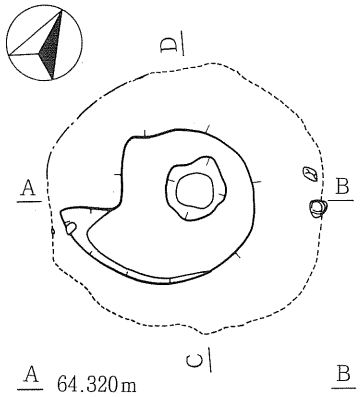
SKF 7出土遺物



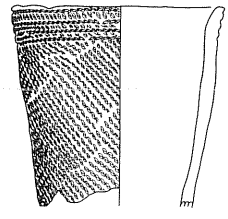
2(7－17)

0　10cm

SKF 9



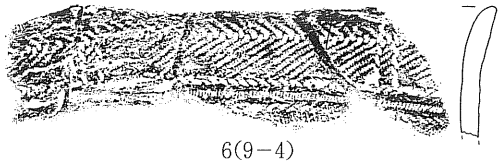
【SKF 9】
1 暗褐色土(7.5YR3/4) 地山(中粒)中量混入。しまり有り。
2 暗褐色土(7.5YR3/3) 地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり強い。
3 黄褐色土(10YR5/6) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり強い。
4 黄褐色土(10YR5/8) 地山(小粒)ごく少量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
5 黄褐色土(2.5Y5/6) 地山(中粒)少量混入。しまり有り。
6 褐色土(7.5YR4/6) シラス。地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり強い。
7 褐色土(10YR4/4) 地山(大粒)ごく少量、炭(小粒)少量混入。ややボソボソしている。
8 暗褐色土(7.5YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。上ほどしまる。
9 黄褐色土(10YR5/6) 地山(中粒)中量混入。ややしまり有り。
10 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。
11 褐色土(7.5YR4/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
12 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 地山(大粒)・炭(中粒)中量混入。しまり有り。
13 黄色褐色土(10YR5/6) 地山(中粒)少量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。



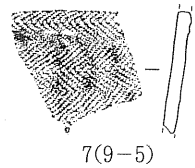
3(9－1)

4(9－2)

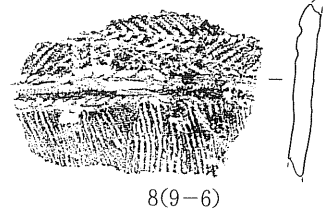
5(9－3)



6(9－4)

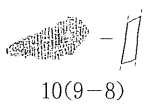


7(9－5)



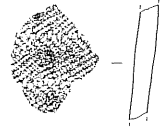
8(9－6)

9(9－7)

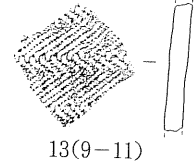


10(9－8)

11(9－9)

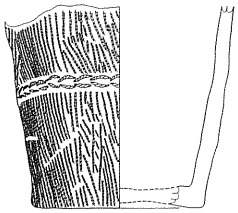


12(9－10)

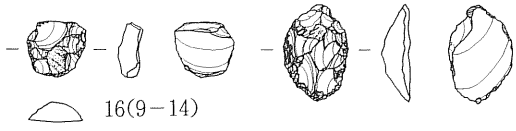


13(9－11)

14(9－12)

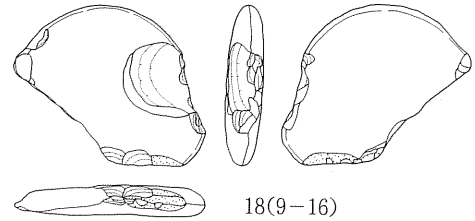


15(9－13)



16(9－14)

17(9－15)



18(9－16)

第132図　SKF 7・SKF 9 フラスコ状土坑とその出土遺物

《遺　　物》　埋土中から深鉢土器の破片（１～13）と掻器２点（14･15）、抉り入り半円状偏平打製石器破片１点（16）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　10 フラスコ状土坑（第133図、図版106）

《位　　置》　ＮＦ64･65グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　ＳＫＦ９フラスコ状土坑と重複していたが、本土坑が古い。

《規　　模》　開口部長径0.78ｍ×短径0.70ｍ、坑底部長径1.86ｍ×短径1.68ｍ、深さ1.13ｍ。

《平 面 形》　楕円形である。

《断 面 形》　袋状である。

《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　やや凹凸があり、緩やかな中華鍋底状を呈する。

《遺　　物》　埋土中から大木式土器様式系の深鉢土器１個体と土器片３点、微小剥離痕のある石器剥片１点、その他礫などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　11 フラスコ状土坑（第133図、図版106～図版107）

《位　　置》　ＮＥ64グリッドに位置する。

《確　　認》　黒褐色土の隅丸長方形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径1.58ｍ×短径1.26ｍ、坑底部長径2.12ｍ×短径2.02ｍ、深さ0.98ｍ。

《平 面 形》　楕円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　11層に分層した。自然堆積したものを再度掘り返し、埋め戻したと思われる。

《底　　面》　平坦な底面の中央やや東寄りに深さ12㎝の柱穴様ピットが１カ所ある。

《遺　　物》　自然堆積とおもわれる埋土下位の層中からの出土が多い。深鉢土器胴部下半１個体と土器片６点、円形掻器１点（７）、掻器１点（８）、半円状偏平打製石器破片１点（９）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　12 フラスコ状土坑（第134図･第135図、図版107～図版108）

《位　　置》　ＮＤ63･64、ＮＥ63･64グリッドに位置する。

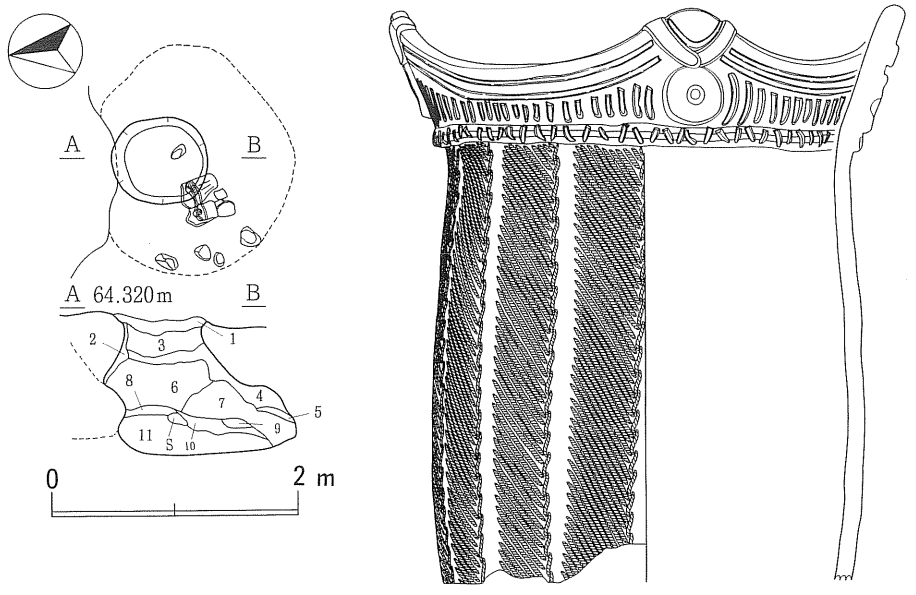
《確　　認》　円形の黒色土の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径1.28ｍ×短径1.22ｍ、坑底部長径1.56ｍ×短径1.42ｍ、深さ1.28ｍ。

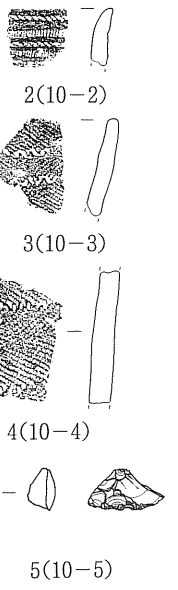
《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　袋状である。

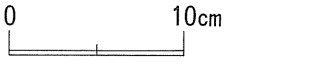


【SKF 10】
1 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
2 黒褐色土(10YR2/3) 地山(小粒)少量混入。ややボソボソしている。
3 黒褐色土(10YR3/2) 地山(大粒)中量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。
4 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。
5 明黄褐色土(10YR6/6) 地山塊。しまり有り。
6 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 地山(大粒)中量、炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。
7 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量混入。
8 暗褐色土(10YR3/3) 地山(小粒)・炭(大粒)少量混入。しまり有り。
9 暗褐色土(7.5YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。
10 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。
11 にぶい黄褐色土(10YR5/4) 炭(中粒)少量混入。ややしまり有り。

1(10－1)

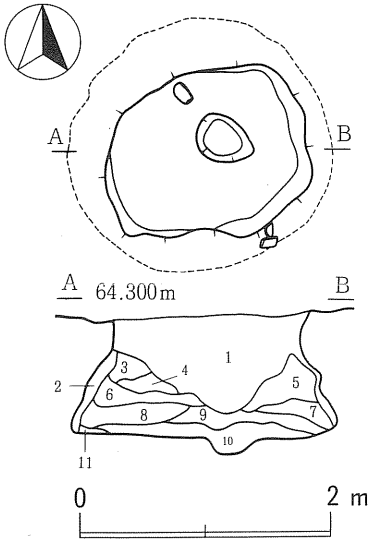


2(10－2)
3(10－3)
4(10－4)
5(10－5)

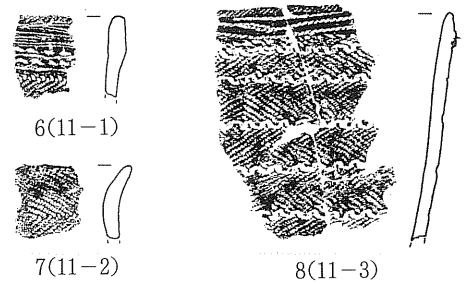


SKF10

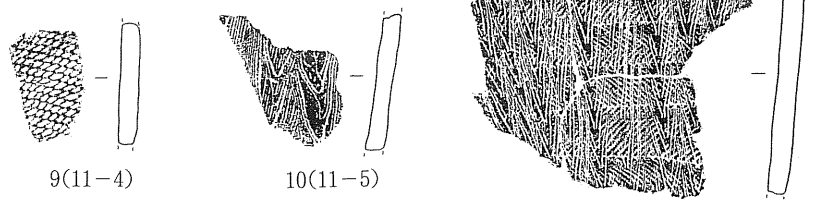
SKF11



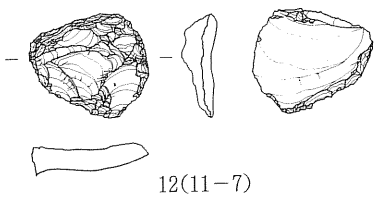
【SKF 11】
1 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(大粒)・地山塊(大)多量混入。ややしまり有り。
2 黒褐色土(10YR2/3) 地山(小粒)多量混入。ややボソボソしている。上ほどしまる。
3 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)多量混入。ややしまり有り。
4 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。
5 褐色土(10YR4/4) 地山(大粒)少量混入。弾性有り。
6 黒褐色土(10YR2/2) 地山(大粒)ごく少量混入。弾性有り。
7 黒褐色土(10YR3/2) 地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
8 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)中量、炭(大粒)少量混入。ややしまり有り。
9 黒褐色土(10YR2/3) 地山(中粒)ごく少量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
10 黒褐色土(10YR3/2) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
11 明黄褐色土(10YR6/8) シラス状。ボソボソしている。



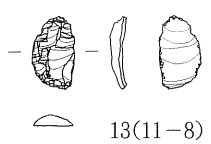
6(11－1)
7(11－2)
8(11－3)



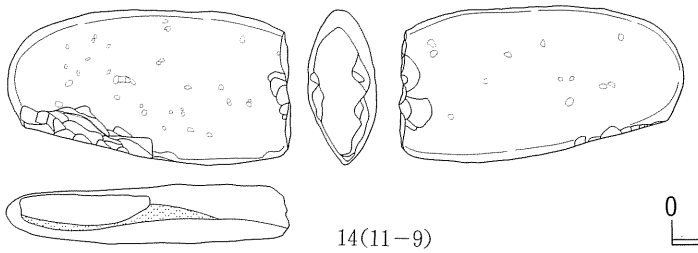
9(11－4)
10(11－5)
11(11－6)



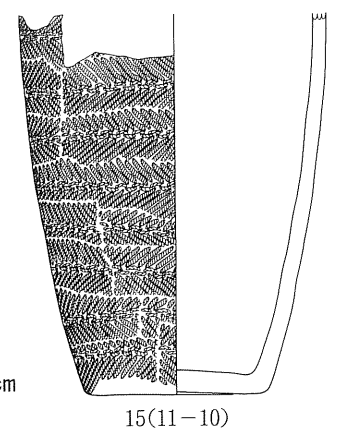
12(11－7)



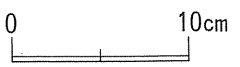
13(11－8)



14(11－9)



15(11－10)



第133図　SKF 10・SKF 11 フラスコ状土坑とその出土遺物

《埋　　土》　19層に分層した。自然堆積と思われるが下位層に炭化物の混入が多い。

《底　　面》　ほぼ平坦である。

《遺　　物》　底面から深鉢形土器が５個体（７・８・13・21・22）、土器片16点、石鏃１点（23）、石槍１点（25）、篦状石器１点（26）、掻器１点（27）、微小剥離痕のある石器剥片２点（24・28）、両面剥離調整のある石器１点（29）、石錘２点（30・31）、くぼみ石１点（32）、半円状偏平打製石器破片１点（33）、磨製石斧（くぼみ石兼用）１点（35）、石皿破片１点（34）などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　15 フラスコ状土坑（第135図）

《位　　置》　ＮＥ63グリッドに位置する。

《確　　認》　暗褐色土の楕円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径0.80ｍ×短径0.70ｍ、坑底部長径1.56ｍ×短径1.54ｍ、深さ0.70ｍ。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　袋状である。

《埋　　土》　10層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。

《底　　面》　緩やかな中華鍋底状を呈する。

《遺　　物》　埋土中から土器片７点、石槍１点（８）、削器１点（９）、半円状偏平打製石器破片１点（10）が出土した。

《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　16 フラスコ状土坑（第136図・第137図、図版109）

《位　　置》　ＮＥ63・64、ＮＦ63・64グリッドに位置する。

《確　　認》　暗褐色土の不整な楕円形の落ち込みとして確認した。

《重　　複》　なし。

《規　　模》　開口部長径1.42ｍ×短径1.36ｍ、坑底部長径2.49ｍ×短径2.38ｍ、深さ1.24ｍ。

《平 面 形》　円形である。

《断 面 形》　三角フラスコ形である。

《埋　　土》　12層に分層した。自然堆積と思われる。

《底　　面》　やや凹凸がある底面の中央北寄りに連結する柱穴様ピットを検出した。

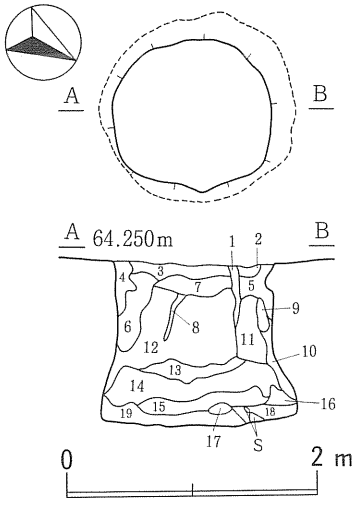
《遺　　物》　埋土中から深鉢土器２個体と土器片12点、石槍１点（15）、石匙１点（16）、削器３点（17～19）、叩き石１点（20）、半円状偏平打製石器１点（21）、円盤状石製品２点（22・24）、石皿破片２点（23・25）、礫などが出土した。

《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

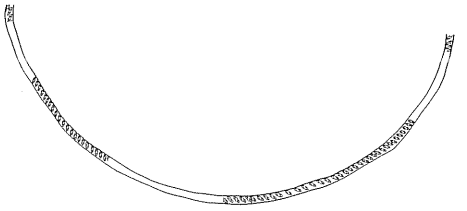
ＳＫＦ　17 フラスコ状土坑（第137図、図版110）

《位　　置》　ＮＦ63グリッドに位置する。

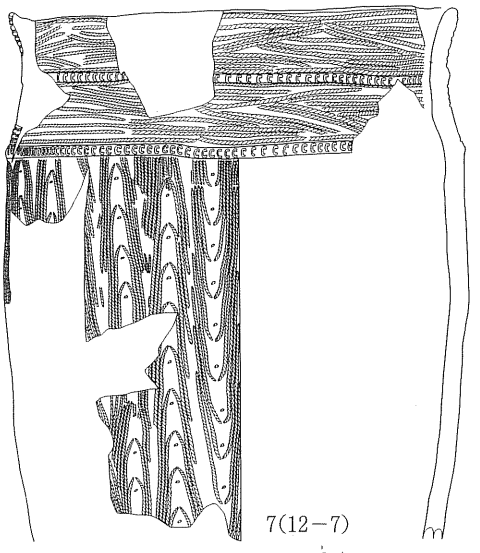
《確　　認》　黒色土の円形の落ち込みとして確認した。



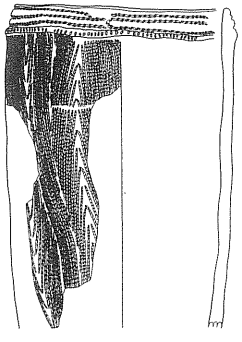
【SKF 12】
1 黒色土(10YR2/1) 地山(小粒)少量混入。しまり有り。
2 黒色土(7.5YR2/1) 地山(小粒)中量混入。しまり有り。
3 2に同じ。
4 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山塊(大)多量混入。しまり有り。
5 黒褐色土(10YR3/2) 地山(中粒)多量混入。しまり有り。
6 暗褐色土(10YR3/4) 地山塊(中)中量混入。しまり有り。
7 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(小粒)中量混入。ややしまり有り。弾性有り。
8 黒褐色土(10YR2/2) 地山(小粒)少量混入。ややしまり有り。弾性有り。上ほどしまる。
9 黄褐色土(10YR5/6) 塊。しまり強い。
10 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)多量混入。ややボソボソしている。
11 暗褐色土(7.5YR3/3) 地山(中粒)多量、炭(小粒)少量混入。しまり、弾性有り。
12 黒褐色土(10YR2/3) 地山(大粒)多量、炭(中粒)中量混入。しまり有り。
13 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(小粒)中量、炭(中粒)少量混入。しまり有り。
14 明黄褐色土(10YR6/6) シラス。炭(中粒)中量混入。ややしまり有り。
15 黒褐色土(7.5YR3/2) 地山(小粒)ごく少量、炭(大粒)中量混入。
16 暗褐色土(7.5YR3/4) 地山(小粒)ごく少量、炭(小粒)少量混入。
ややボソボソしている。
17 黄褐色土(10YR5/6) 塊。しまり強い。
18 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)・炭(大粒)中量混入。ややボソボソしている。
19 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)ごく少量、炭(小粒)少量混入。ややしまり有り。

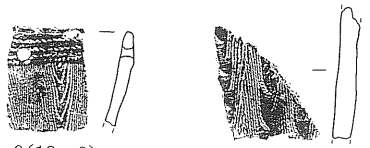


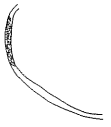
1(12－1)　2(12－2)

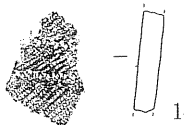

7(12－7)

3(12－3)　4(12－4)　5(12－5)　6(12－6)

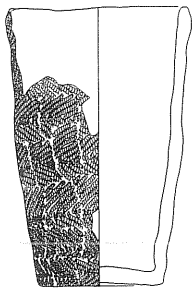

8(12－8)


9(12－9)　10(12－10)



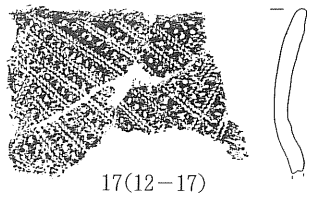

14(12－14)

11(12－11)　12(12－12)

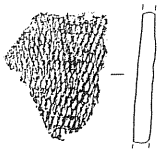

13(12－13)

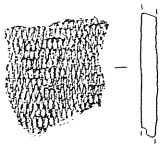
15(12－15)

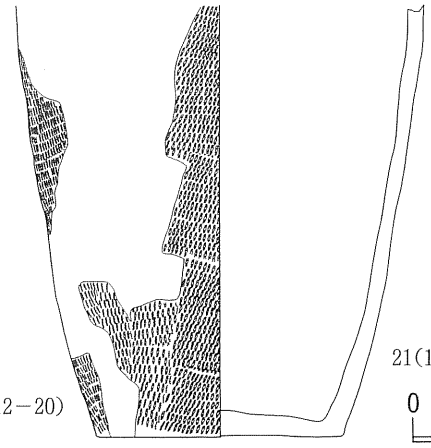
16(12－16)

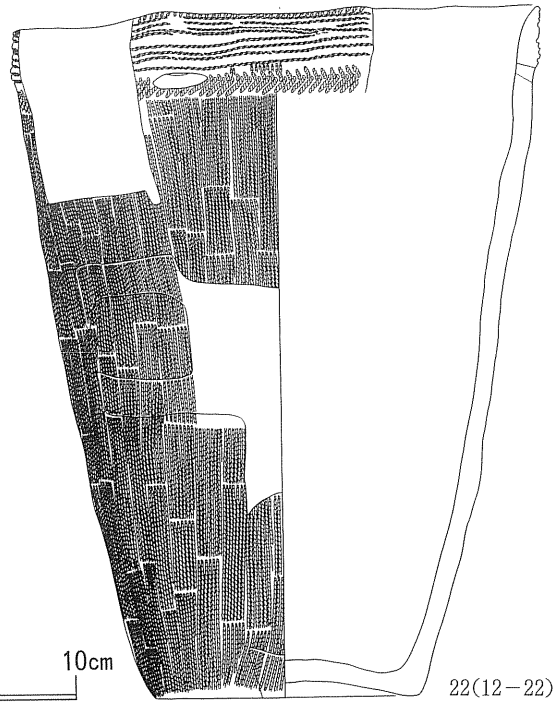

17(12－17)

18(12－18)


19(12－19)

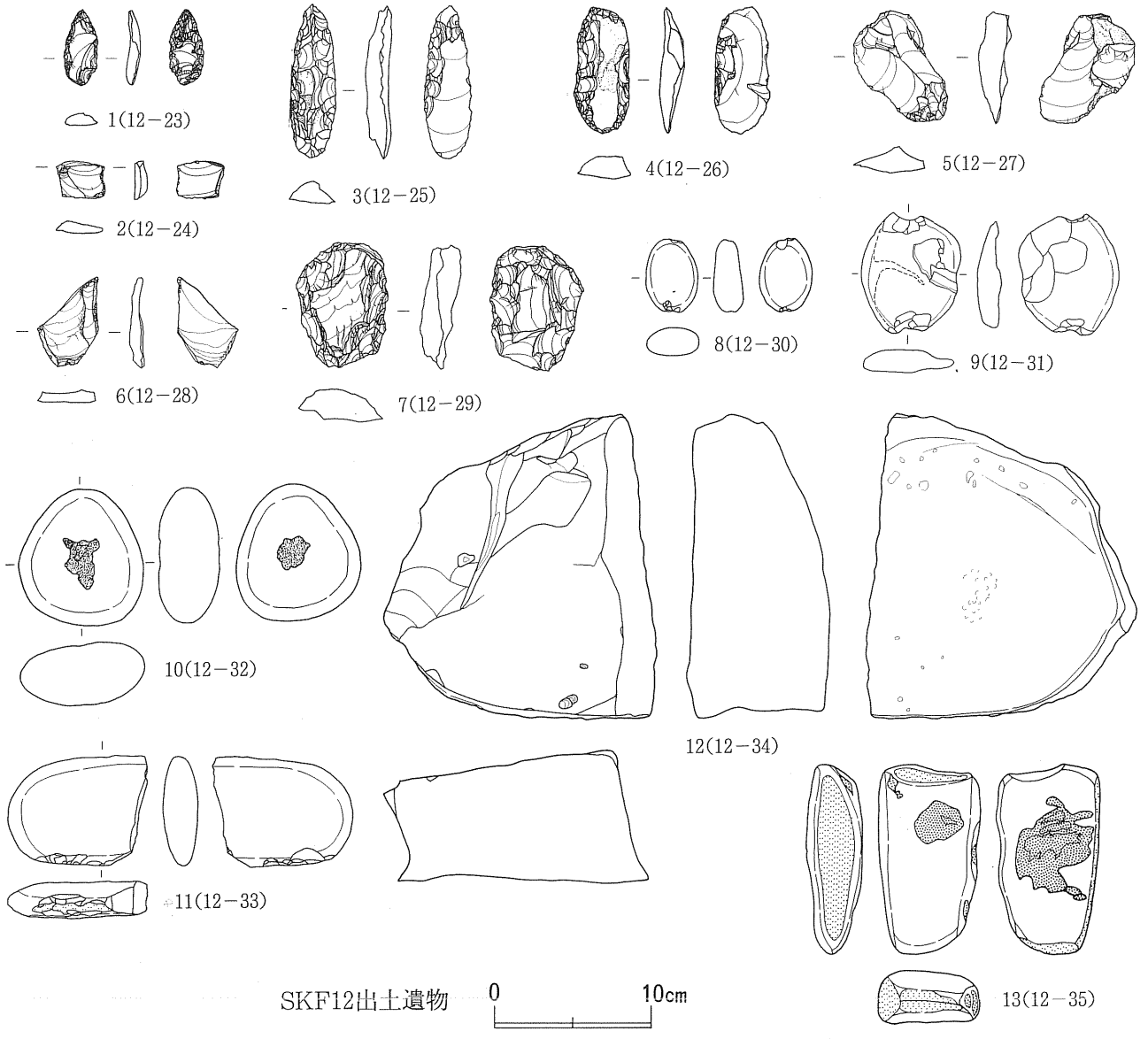

20(12－20)

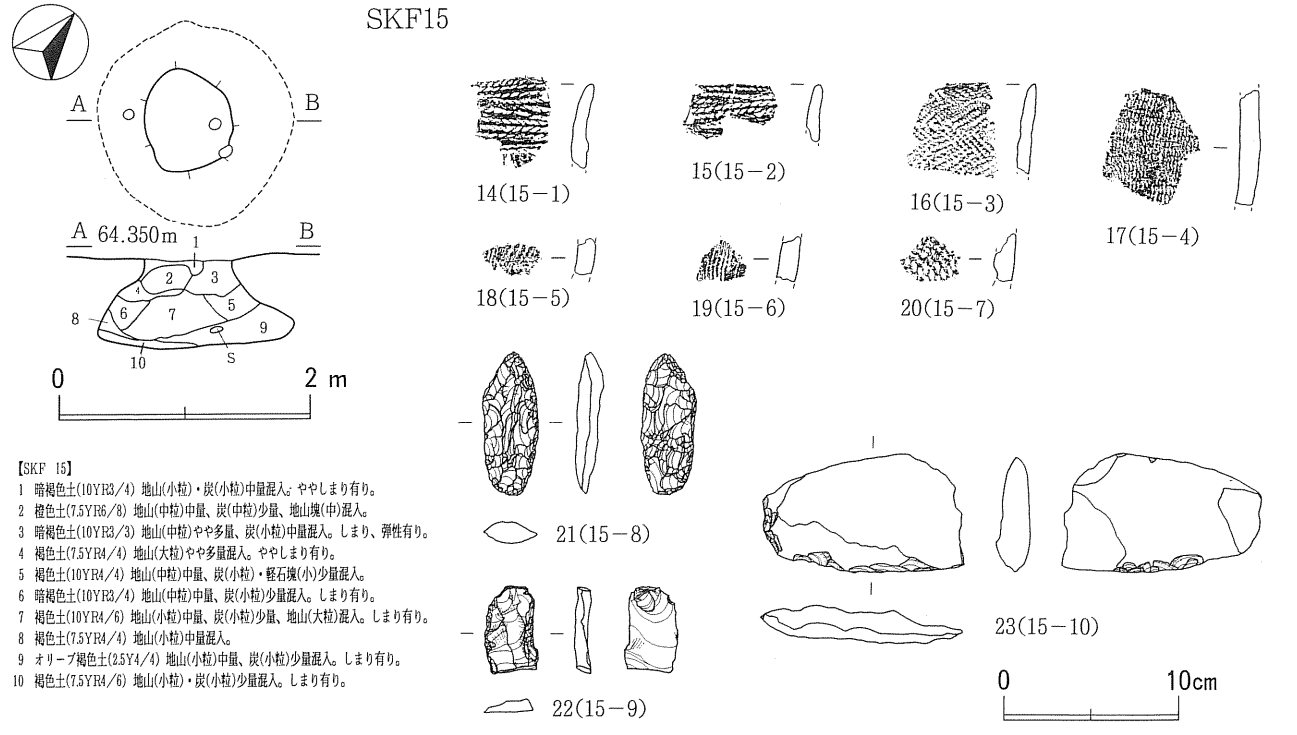

21(12－21)


22(12－22)

0　10cm

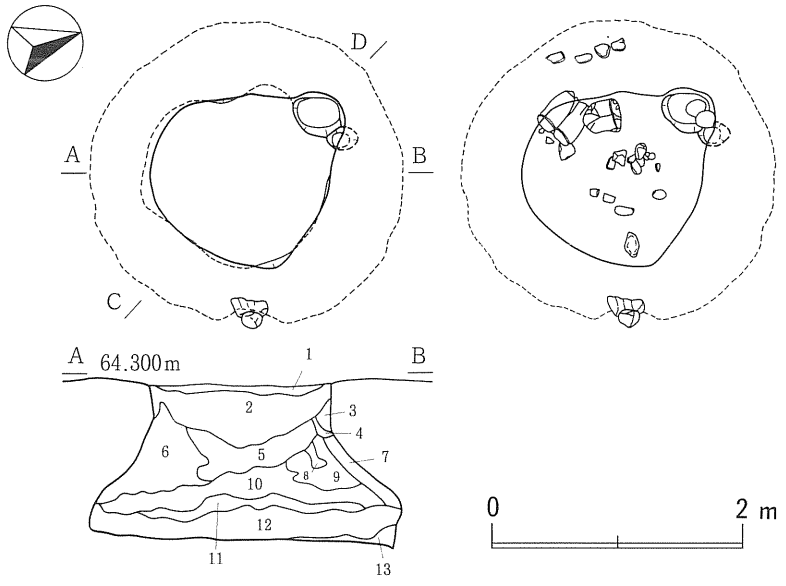
第134図　SKF 12 フラスコ状土坑とその出土遺物

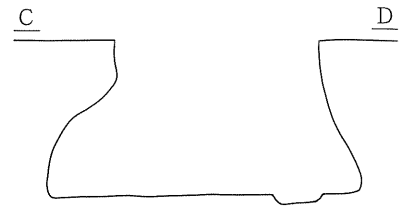




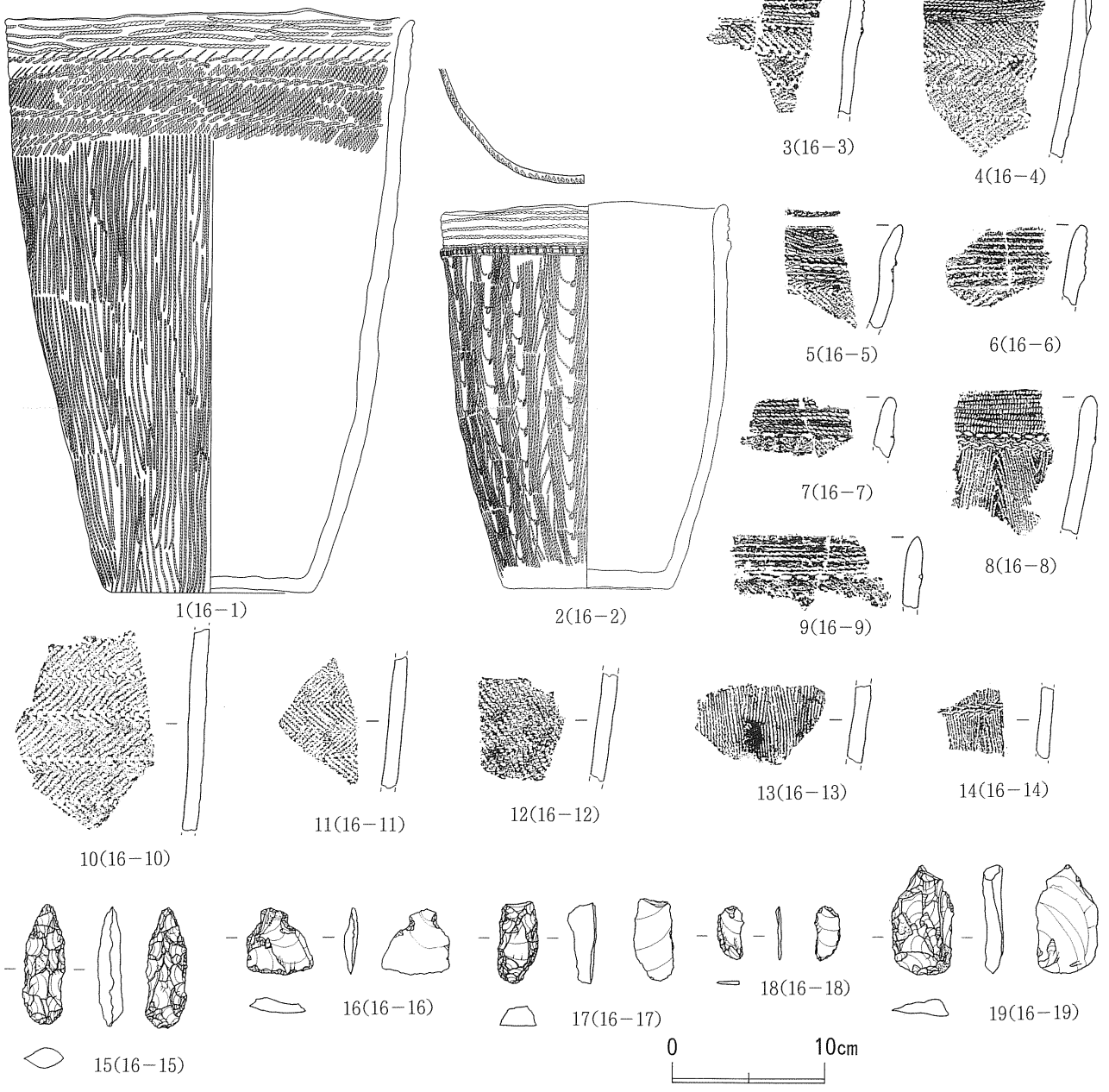
【SKF 15】
1 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)・炭(小粒)中量混入。ややしまり有り。
2 橙色土(7.5YR6/8) 地山(中粒)中量、炭(中粒)少量、地山塊(中)混入。
3 暗褐色土(10YR3/3) 地山(中粒)やや多量、炭(小粒)中量混入。しまり、弾性有り。
4 褐色土(7.5YR4/4) 地山(大粒)やや多量混入。ややしまり有り。
5 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)・軽石塊(小)少量混入。
6 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
7 褐色土(10YR4/6) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量、地山(大粒)混入。しまり有り。
8 褐色土(7.5YR4/4) 地山(小粒)中量混入。
9 オリーブ褐色土(2.5Y4/4) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
10 褐色土(7.5YR4/6) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。しまり有り。

第135図　SKF 12・SKF 15 フラスコ状土坑とその出土遺物





【SKF 16】
1 暗褐色土(10YR3/4) 地山(小粒)少量、炭(小粒)中量混入。しまり有り。
2 暗オリーブ褐色土(2.5Y3/3) 地山(中粒)・炭(中粒)中量混入。しまり強い。
3 褐色土(10YR4/4) 地山(小粒)ごく少量混入。ややしまり有り。
4 暗褐色土(10YR3/3) 地山(小粒)ごく少量混入。
5 黒褐色土(10YR2/2) 地山(大粒)・炭(小粒)中量混入。しまり有り。
6 黄褐色土(10YR5/8) シラス状。地山(中粒)多量、炭(小粒)少量混入。しまり強い。
7 暗褐色土(10YR3/3) 地山(小粒)・炭(小粒)少量混入。
8 暗褐色土(10YR3/4) 地山(中粒)少量混入。ややしまり有り。
9 黄褐色土(10YR5/8) 地山(小粒)中量、炭(小粒)少量混入。しまり有り。
10 黒褐色土(10YR3/2) 地山(中粒)中量、炭(中粒)多量混入。しまり有り。
11 黒色土(7.5YR2/1) 地山(小粒)少量、炭(大粒)多量混入。ややしまり有り。
12 褐色土(10YR4/4) 地山(中粒)中量、炭(小粒)多量混入。ややしまり有り。
13 地山



第136図　SKF 16 フラスコ状土坑とその出土遺物

《重　　複》　なし。
《規　　模》　開口部長径1.71ｍ×短径1.68ｍ、坑底部長径2.00ｍ×短径2.00ｍ、深さ1.44ｍ。
《平 面 形》　円形である。
《断 面 形》　三角フラスコ形である。
《埋　　土》　23層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。
《底　　面》　平坦な底面の中央部に深さ12㎝の柱穴様ピットが１カ所ある。
《遺　　物》　埋土中から土器片が３点とくぼみ石１点、礫５点が出土した。
《構築時期》　出土した土器片から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　18 フラスコ状土坑（第138図、図版110・図版111）
《位　　置》　ＮＥ63グリッドに位置する。
《確　　認》　円形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　ＳＫＦ67フラスコ状土坑と重複していたが、本土坑が新しい。
《規　　模》　開口部長径0.68ｍ×短径0.66ｍ、坑底部長径1.62ｍ×短径1.52ｍ、深さ1.24ｍ。
《平 面 形》　円形である。
《断 面 形》　三角フラスコ形である。
《埋　　土》　17層に分層した。自然堆積と思われるが炭化物の混入する層が多い。
《底　　面》　凹凸があるが、ほぼ平坦である。
《遺　　物》　埋土中から深鉢土器が２個体（８・13）と土器片11点、石匙１点（14）、石槍１点（15）、篦状石器１点（16）、石錐１点（17）、掻器１点（18）、削器１点（19）、抉り入り半円状偏平打製石器破片１点（20）などが出土した。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　21 フラスコ状土坑（第139図、図版111）
《位　　置》　ＮＦ63・64、ＮＧ63・64グリッドに位置する。
《確　　認》　円形の黒色土の落ち込みとして確認した。
《重　　複》　なし。
《規　　模》　開口部長径1.18ｍ×短径1.16ｍ、坑底部長径1.72ｍ×短径1.68ｍ、深さ0.92ｍ。
《平 面 形》　円形である。
《断 面 形》　袋状である。
《埋　　土》　11層に分層した。炭化物の混入する層が多い。下位は人為的に埋めたと思われる。
《底　　面》　ほぼ平坦な底面の中央部に深さ25　の柱穴様ピットが１カ所ある。
《遺　　物》　埋土中から土器片４点と篦状石器基部破片１点（５）と石器剥片１点（６）が出土した。
《構築時期》　出土した土器から縄文時代前期後葉と思われる。

ＳＫＦ　23 フラスコ状土坑（第139図、図版112）
《位　　置》　ＮＧ64グリッドに位置する。
《確　　認》　双円形の黒褐色土の落ち込みとして確認した。